

ISSN1341-9846

語学研究所論集

第18号

2013年

東京外国語大学
語学研究所

語学研究所論集

第18号

2013

論文

- 言語音声の聴知覚研究のためのツール構築佐藤大和, 益子幸江 1
- ガリシア・アストゥリアス語の言語帰属問題を巡って..... 川上茂信 19
- Inversion in Sayula Popoluca and Japanese Sign Language
[サユラ・ポポルカ語と日本手話の反転の対照研究] 箕浦信勝 41

研究ノート

- 朝鮮半島における言語接触 —中国圧への対処としての対抗中国化—
..... 伊藤英人 55

企画1：特集「所有・存在表現」

- まえがき 風間伸次郎 95

研究ノート

- ウルドゥー語の所有・存在表現
—接尾辞 *wala* を用いた表現が表すもの— 萬宮健策 121
- マダガスカル語の所有・存在表現 箕浦信勝 141

データ：「所有・存在表現」

- ドイツ語 藤縄康弘 163
- スペイン語 高垣敏博 181
- フィンランド語 坂田晴奈, 高橋健太郎 201
- ロシア語 阿出川修嘉, アレクサンドル・コスティルキン 213
- モンゴル語 風間伸次郎 237
- ナーナイ語 風間伸次郎 259
- 中国語 三宅登之 277
- 朝鮮語 伊藤英人 290
- インドネシア語 降幡正志 308
- マレーシア語 野元裕樹, ウン・シンティ, ファリダ・モハメッド 332
- アラビア語 松尾 愛 344
- ペルシア語 吉枝聡子 362

企画 2 : 補遺

まえがき 風間伸次郎 379

データ

フィンランド語 坂田晴奈, 高橋健太郎 381

ソロン語 風間伸次郎 409

ナーナイ語 風間伸次郎 426

アラビア語 松尾 愛 436

ウズベク語 日高晋介 467

サハ語 江畑冬生 486

トゥバ語 風間伸次郎, 江畑冬生 513

活動記録

公開講座概要 533

定例研究会要旨 539

LUNCHEON LINGUISTICS 要旨 555

語学研究所活動一覧 563

所員活動報告 569

言語音声の聴知覚研究のためのツール構築

佐藤 大和, 益子 幸江

1. はじめに

言語音声を音声学的に記述するためには、内省に基づく考察ばかりでなく、音声スペクトルや波形の基本周波数など、音声の音響的諸特性を表示するツールによる分析が必要である。しかしながら、精密な音響分析が可能になったとしても、それだけで言葉としての音声の特徴を明らかにすることができる訳ではない。音響的諸特性の言語音声に果たす役割、すなわち音韻や韻律の知覚に及ぼす影響や役割を検討してはじめて言葉と音響特性との関連を明らかにすることができる。

上記のような研究目的のため、音声分析の他に音声を再合成する機能を有するソフトウェア・ツールとして、近年 *praat* が広く利用されるようになった¹。筆者らは、アクセントや声調、イントネーションなど、音声の超分節的特性の研究に資することを目的として、音声の基本周波数パターンを変形して、その音声を再合成できるツールの作成を進めた。このツールは、一般に広く利用されている表計算ソフト：エクセルを援用するなど、知覚実験に使用する音声刺激の作成が、誰にでも簡単にできるよう配慮したものとなっている。このツールを利用すれば、例えば日本語のようなアクセント言語におけるアクセント知覚や、各種声調言語における声調知覚などの聴覚実験に容易に適用することが可能となる。本論は、このようなソフトウェア・ツール（以後、韻律制御エディター(*SpitEditor*)と呼ぶ）に関して、その内容を述べたものである。

2. 韻律制御エディター(*SpitEditor*)の概要

韻律制御エディターは、音声波形の基本周波数（ここではピッチ周波数と呼ぶ）を抽出し、その周波数や時間長情報を変更したデータに基づいて、新たな音声を合成し、言語音声の超分節的特性に及ぼすピッチ周波数や時間情報の役割を検討するためのツールである。その機能と処理の概要は、以下のとおりである。

- (1) 音声波形の表示
- (2) 音声波形のピッチマークの自動設定と手動修正
- (3) 声音部, 無声音部, 無音部等のラベリング

- (4) ピッチ周波数データ等のエクスポート
- (5) エクセル上でのピッチデータ等の編集
- (6) 編集して変更されたピッチデータのインポート
- (7) 編集ピッチデータに基づく音声合成
- (8) 音声合成データの確認と保存

処理の概要を図1に示す。以下、これらの内容と使用方法について詳述する。

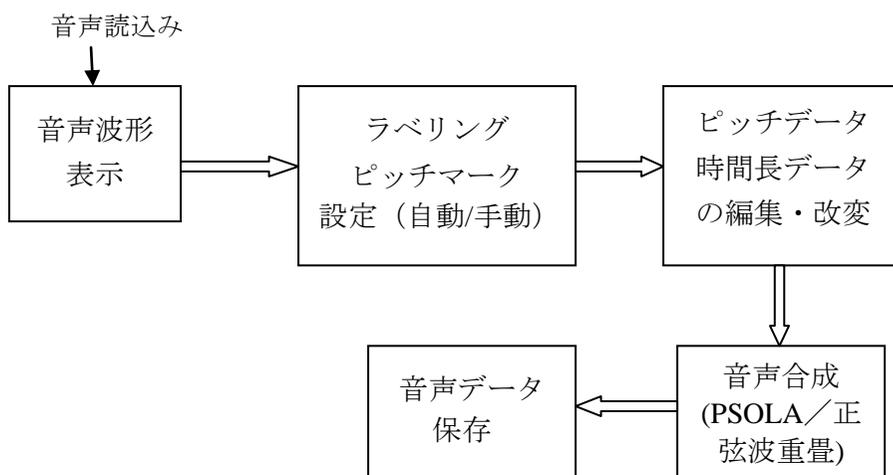


図1 SpitEditor の処理内容の概要

3. 手法の内容

3.1. 音声波形のゼロ交差点の検出と基本周波数

ピッチ周波数の抽出には、(1) 音声波形の周期性を相関関数から求める方法 (自己相関法)、(2) 声道特性の影響を除去した音源波形を用いて相関法によって求める方法 (変形相関法)、(3) 波形のピークなど特定の時点を定めて波形周期を求める方法、などがある²。

本ツールにおいては、(3) の音声波形から直接基本周期を求める手法を採用している。これは、その後の音声合成において、周期を定める時間位置の情報 (以後これをピッチマークと呼ぶ) が必要となるためである。また、ピッチ周波数は厳密な周期性を示

すものではなく、“ゆらぎ”や“欠落”などのため、相関法などの平均処理による求め方はエラーの生じることがしばしばある。聴覚実験に使用するなど厳密性が求められる場合には、声帯の excitation の位置をあらかじめきちんと定めておかななくてはならない。

それでは音声波形のどの部分に着目して周期を求めるのがよいであろうか？波形の大きなピーク位置に着目するのもひとつの方法であるが、そのピーク的位置は高調波成分の影響により微妙にゆらぐ可能性がある。そのため、ここでは波形の零交差位置に着目し、波形の値が負から正に変る時点、あるいは逆に正から負に変る時点を抽出する（default は、負→正への零交差時点としている）。この零交差点の検出により、より精度よくピッチ周期の抽出ができると期待される。音声波形の最初のピッチマークが検出されると、自己相関法により次のピッチマークの位置を予測し、その近傍で零交差点位置を検出する。これを繰り返し実施することにより、連続的にピッチマークが設定される。一定周期（フレーム）毎に平均のピッチ周波数を求めたい場合は、一定の窓幅におけるピッチマーク周期の平均値から求める。

図2に自動抽出されたピッチマークの例を示す。

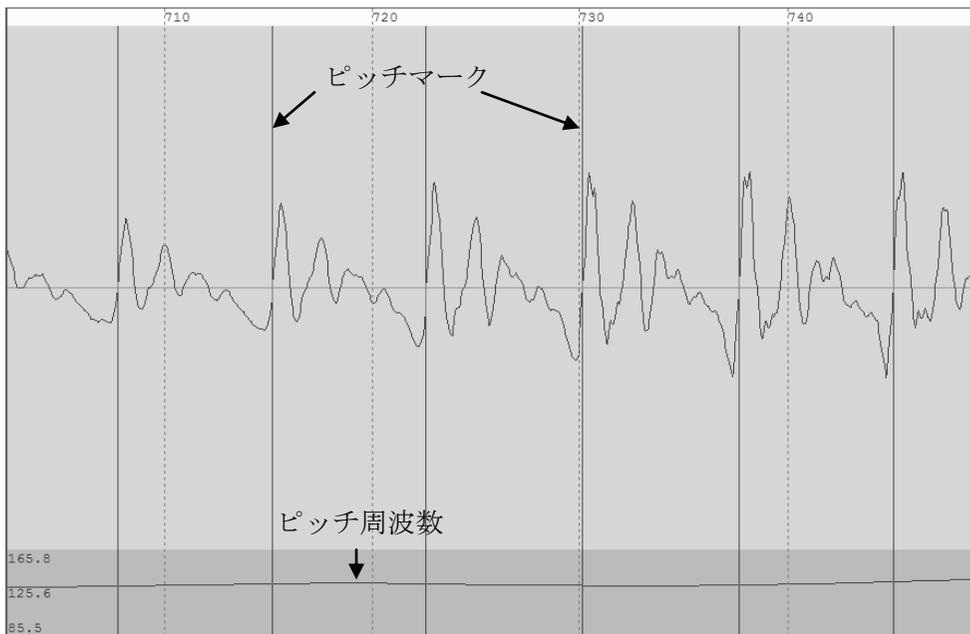


図2 ピッチマーク自動設定の例

3.2. 音声合成の手法

いったん求めたピッチ周波数を変更し（変更の手法は後に述べる）、変更されたピッチ周波数で音声を再合成する方法は、以下の二通りの方法が選択できるようになっている。

3.2.1. PSOLA 方式

PSOLA とは、Pitch Synchronous Overlap and Add（ピッチ同期重畳加算方式）の略である。それまでピッチ周波数を可変にする音声合成は、声帯振動の音源と声道のスペクトル特性を分離した“音源－声道モデル”によってなされてきたが、E. Moulines らによって波形を直接処理することによって合成を可能にした手法である^{3,4}。

PSOLA では、ピッチマークを中心として窓関数 $w(n)$ （2 ピッチ分の時間長（N サンプル））で切り出し、ピッチマーク毎に得られた音声波形要素を、順次新たなピッチ周期に合わせてずらしつつ重畳して音声を再合成する手法である。窓関数としては、以下のハニング窓が使われる。

$$W(n) = 0.5 - 0.5\cos(2\pi n/(N-1)) \quad , \quad (n=0 \sim N-1)$$

ピッチ周波数が原音声と大きく異ならない限り、原音声の音質に近い合成音が得られる。

3.2.2. 正弦波重畳方式

正弦波重畳方式は、原音声の編集波形を正弦波の重ね合わせによって実現する手法である。まず原音声から順次 1 ピッチ波形を切り出し、これらを FFT (Fast Fourier Transform) にて周波数領域に変換するとともに、線形予測分析によってスペクトル包絡を求める。フーリエ変換した音声の基本周波数成分およびその倍音成分を用いて、目的とする新たな基本周波数成分に基づき、標本化周波数の 1/2 までの周波数成分を正弦波として表現し、それらを重畳して目的音声を合成する。波形のピッチ周期の境界では、位相が連続するように接続される。

この方式は、音声の調波構造を再現するためクリアな音声が得られるが、PSOLA と比べて音質は若干異なる。実験目的に応じて両者を使い分けるのが望ましい。以後この方式を SWS (Sinusoidal Wave Superposition)方式と呼ぶことにする。

図 3 に PSOLA 方式と正弦波重畳方式(SWS)の処理の概要を示した。

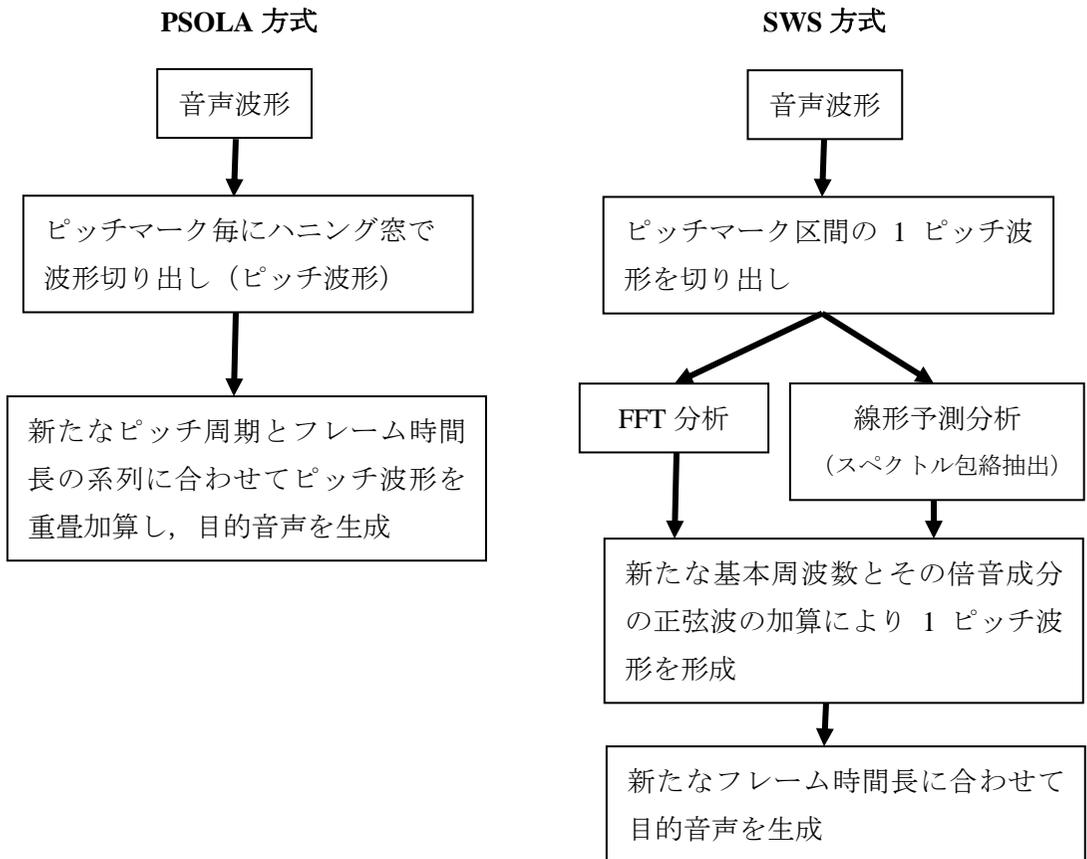


図3 音声合成の2方法 (PSOLA 方式と SWS 方式) の処理の概要

4. SpitEditor の使用方法

4.1. 音声波形の表示

プログラム SpitEditor.exe を起動し, 「ファイル」メニューから「音声ファイルを開く」を選択すると, 図4のような音声波形が表示された画面になる。画面は, (時間表示領域), (音声波形領域), (ピッチ周波数表示部), (ラベリング部1), (同2), および(SWS, PSOLA 両合成のためのピッチ周波数と時間情報) の領域から成っている。

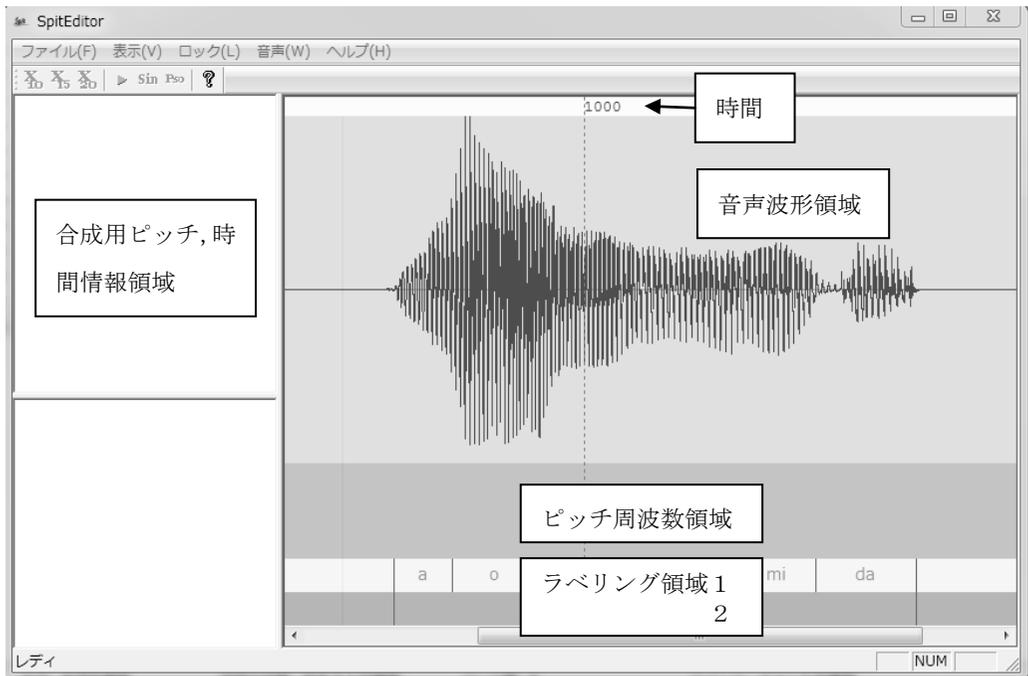


図 4 SpitEditor の最初の画面例

音声波形の水平方向（時間軸）、垂直方向（振幅軸）の拡大・縮小は、シフトキーと矢印キーを使って、以下のように行う。

水平方向（時間軸）拡大：Shift + → ， 縮小：Shift + ←

垂直方向（振幅） 拡大：Shift + ↑ ， 縮小：Shift + ↓

4.2. ピッチマークの自動設定

波形上にピッチマークを自動設定するために、まず自動設定する音声範囲を定める。音声波形の始端部に合わせてマウスを左クリックし、そのまま右にドラッグすると黄色い領域として音声範囲が定まる（長い音声の場合、あるいは波形先頭を精密に定めたい場合などは、時間軸を伸長（拡大）して波形の始端を定めて先頭部分を選択したあと、逆に時間軸を縮小して音声全体を表示する。先頭部の選択された黄色い区分の右端をマウスの左ボタンでドラッグして音声区間の終わりまで含めると、音声区間全体範囲を定

めることができる。)

次に、音声波形全体を選択した状態で、「音声」メニューから「ピッチマークの自動設定」を選択すると、ゼロ交差位置にピッチマークが表示される。ゼロ交差位置は、波形の（負→正）に変わるゼロ交差を default とするが、「音声」メニューの「ゼロクロス設定」で、（正→負）、あるいはその（両方）のゼロクロス位置を選択することが可能である。

ピッチマークの自動設定では、その探索のため男声や女声などによってピッチ探索の範囲をあらかじめ定めておくと抽出精度がよくなる。「音声」メニューの中の「F0 推定範囲設定」を選択すると、図5のような条件設定ウインドウが表示され、これを使ってピッチ周波数の上限値と下限値を設定する。



図5 ピッチ周波数推定範囲設定のウインドウ

ピッチマークの自動設定を行うと、「音声波形領域」に縦棒（赤）でピッチマークが表示される。また、このピッチマークに基づいて、「ピッチ周波数領域」にピッチ周波数パターンが表示される。

また、ピッチマークの設定に伴い、画面の左部分の「合成用ピッチ，時間情報領域」にも自動的に情報が書き込まれる。「合成用ピッチ，時間情報領域」は上下二つに区分されており、上部は SWS，下部は PSOLA の合成に関わる合成時間長とそのピッチ周波数が示されている。この情報によって、そのとき表示されているピッチマークに基づいた合成による音声を聞くことができる。画面上部にある3つのボタン(▶), (Sin), (Pso)

をクリックすると、(▶) は原音声、(Sin) は SWS 方式合成音、(Pso) は PSOLA 方式合成音が再生される。二つの合成音は、「音声」メニューの「音声合成」で合成再生することも可能である。

図 6 にピッチマークの表示された SpiteEditor の画面例を示す。音声波形と重ねて表示されている縦棒の列がピッチマークである。その下にピッチ周波数パターンが表示されている。

4.3. ピッチマークの修正

ピッチマークの自動設定は、必ずしもいつも正しい位置に設定されるとは限らない。ミスピッチ抽出が生ずることはしばしばある。そのため、いったん抽出されたピッチマークの位置を修正したり、追加／削除することが可能となっている。

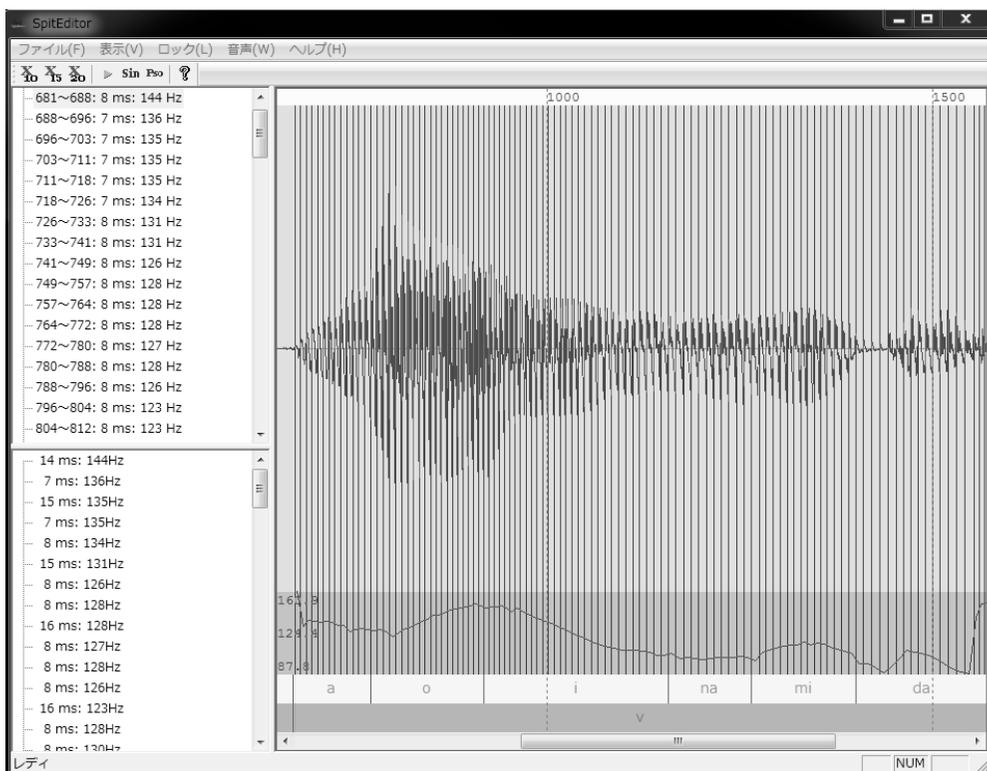


図 6 ピッチマークの表示された SpiteEditor の画面例

ピッチマークの修正等は、以下のようにして行う。

(1) ピッチマークの修正

マウスの左ボタンでピッチマークを選択し、ドラッグで動かすことができる。但し、隣接するピッチマークを超えて動かすことはできない。ドラッグして隣のピッチマークと重ねると、そのピッチマークは削除されることになる。ピッチマークをドラッグするとき、**Shift** キーを押して行くと、波形のゼロ交差位置に合うように位置を移動することができる。

(2) ピッチマークの追加

(**Ctrl** + 左クリック) で新たなピッチマークを追加することができる。このとき、**Shift** キーも同時に押していると、つまり(**Ctrl**+**Shift**+左クリック) のとき、クリックした位置に近いゼロ交差位置にピッチマークを追加できる。

(3) ピッチマークの削除

ピッチマーク上で (**Ctrl** + 右クリック) するとそのピッチマークを削除できる。

(4) ピッチマーク全体の削除

音声波形の範囲を選択した状態で、「音声」メニューから「ピッチマークの削除」を選択すると、範囲内のすべてのピッチマークが削除される。発話末におけるピッチマーク修正の例を図7に示す。

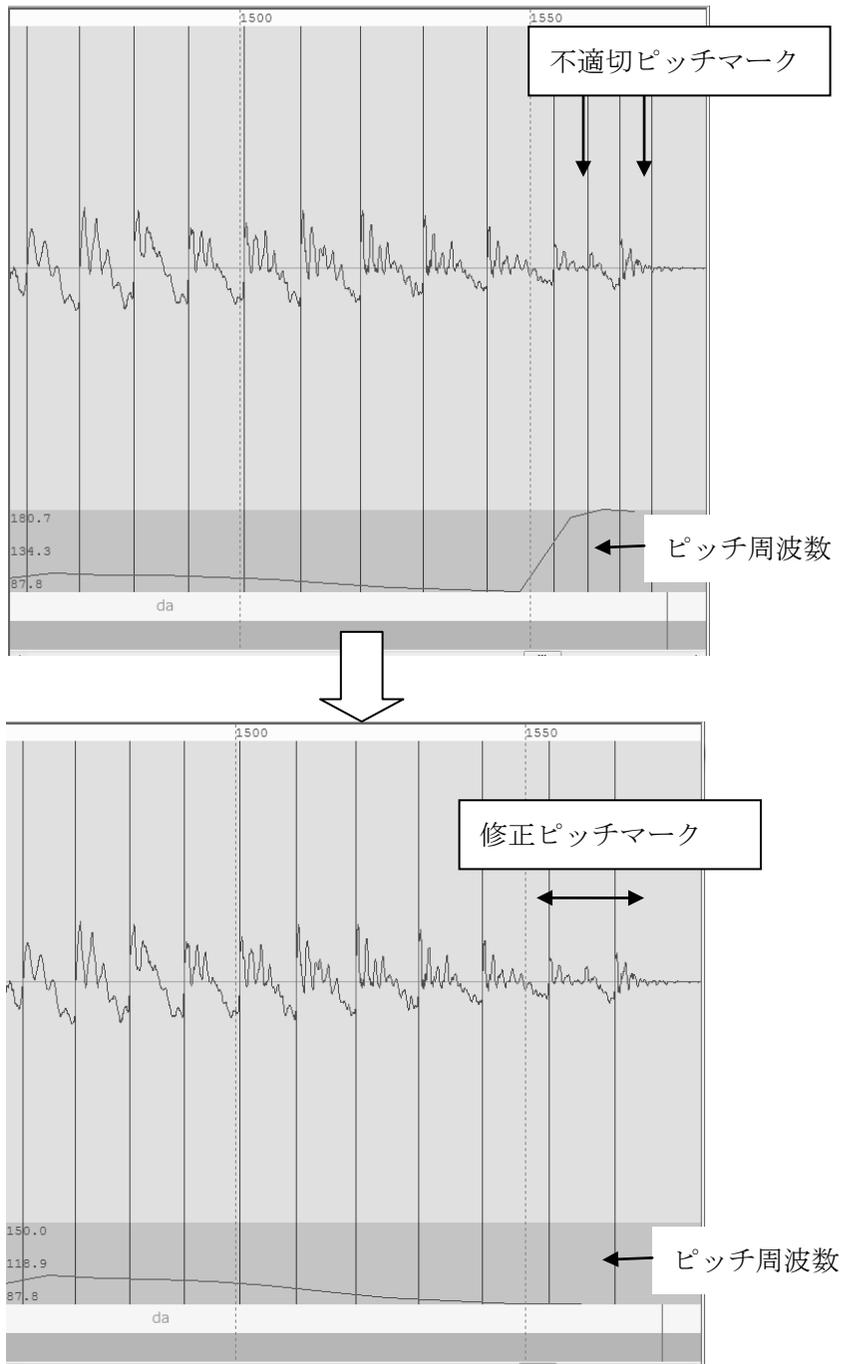


図7 ピッチマーク修正の例

なお、「音声」メニューから「ピッチマークのロック」を選択すると、ピッチマークの変更・追加・削除が行えなくなる。ピッチマークの位置が確定し、誤って変更してしまうことを避ける場合に使用する。その解除も同様にして行う。

4.4. ラベリング

音声情報のラベリング領域はピッチ周波数パタンの表示部の下にあり、(領域1)と(領域2)の2層のラベリング層からなっている。

(1) ラベリング境界線の設定

各層とも、ラベリングの区分(領域)を定めるラベリング境界線は、ピッチマークのときと同じように(Ctrl + 左クリック)で挿入することができる。このとき、Shiftキーを同時に押してドラッグする(Ctrl+Shift+左クリック)の場合は、波形のゼロ交差点に合うように境界線を設定することができる。

(Ctrl + 右クリック)で境界線は削除される。

(2) ラベリング領域1 (音素等ラベル)

境界線が定まると、境界線に囲まれた区間にラベリングをすることができる。領域1には、音素、音節など任意のラベリングをキーボードから入力できる。

(3) ラベリング境界2 (セグメントラベル)

領域2は、音声セグメントの素性を入力する領域である。次の2素性は必須項目であり、これは必ずその記号でラベリングしなければならない。この2記号は、あとの音声合成の際に利用するからである。

V : Voiced を表す。ピッチマークが付き、音声合成の対象となる区間。

Si : 無音区間を表す。

後で示すように、この2種類の区分の音声は持続時間長を変えることができる。

無声摩擦音などその他のセグメント記号は、UVなど任意で構わないが、上記2記号以外のラベリング区間は、合成に際して原音声の波形がそのまま使用されることになる。

ラベリングの例を図8に示す。

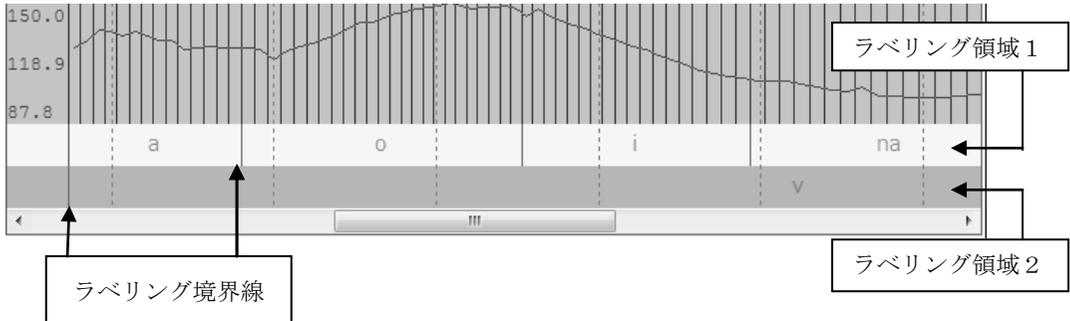


図8 ラベリング境界とラベリングの例（音声「あいな」）

4.5. 韻律データ編集と音声合成

ピッチマークの設定された音声データに基づき、そのピッチ周波数パターンや音声セグメントの持続時間を変更して合成音を作成することができる。エクセル表を用いた変更の手順を以下に示す。

ピッチ周波数や持続時間の韻律データの変更は、一定時間長のフレーム周期毎に音声を区分化したデータに基づいてなされる。画面の左上部にある (X10), (X15), (X20) の3つのボタンのひとつをクリックすると、それぞれ 10 ms, 15 ms, 20 ms の3種類のフレーム周期に相当する音声データの系列がエクセル表として表示される。フレーム周期 10 ms の場合の例を、図9に示した。



図9 エクセル表による音声パラメータの表示と変更

(上記は、「ファイル」メニューから、「エクセルでピッチ情報を編集 (10ms)」「同 (15ms)」「同 (20ms)」を選択することでも可能である.)

表中、A列は(フレーム単位の時間)、B列は(そのフレームのパワー)、C、D列はそれぞれ(音声情報の始点と終点のサンプル点)、EとF列は(ラベリング情報)を表

す。また G と H 列，および J と K 列は，それぞれその（フレームの合成時の時間長と平均ピッチ周波数）を表すが，前 2 列は合成用データとして編集可能であるが，後 2 列は原音声のオリジナルな時間とピッチ周波数であって変更できない。最初にエクセル表を開いたときには，編集部分とオリジナル部分は全く同じデータが入っている。図 9 では，編集部分のピッチ周波数のセルの値を，オリジナル部の値の 1.3 倍とし，高い値に設定した値が示されている。

このエクセル表を閉じて保存すると，画面の合成ボタンによって，PSOLA と SWS の 2 種類の合成音を聞くことができる。また，編集されたエクセルデータは，エクスポートして保存し，必要に応じてインポートして使用することができる。

SWS 合成では，FFT と線形予測（LPC）分析のときのパラメータを，「音声」メニューの「合成パラメータの設定」で変更することができる。音声の帯域，標準化周波数などに合わせて調整する（図 10）。

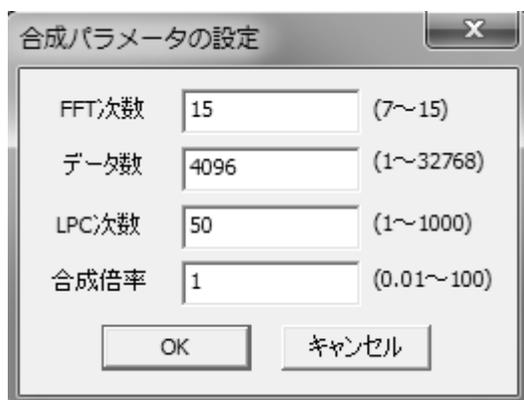


図 10 SWS 合成における FFT と LPC 分析のパラメータ設定

また，PSOLA 合成において，ピッチマークの位置はゼロ交差位置に通常は設定されるが，この合成を「波形のピークの位置」にピッチマークを合わせて合成したい場合には，4.3.で述べたピッチマーク位置の修正手法によってピッチマーク位置を変えることによって同様に合成することができる。

上記の方法で合成した音声の波形例を図 11 に示す。(A) は原音声波形（「青い波だ」の冒頭部）である。この原音声のピッチ周波数を 0.8 倍にして低い音声として合成した

ものが (B) と (C) であり, 前者は PSOLA 合成音, 後者は SWS 合成音である.

合成された音声は, 順次 WAV ファイルとして保存し, 聴知覚実験に利用することができる.

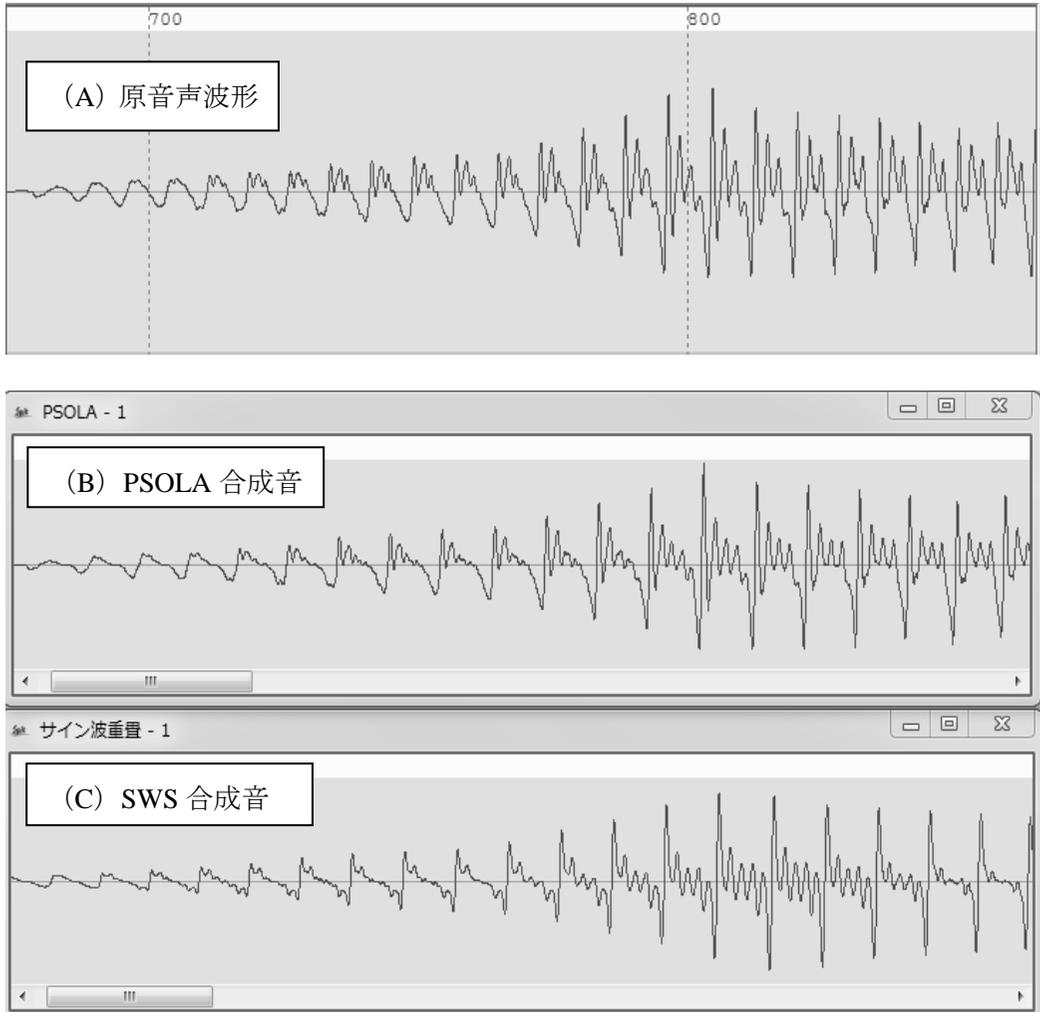


図 1.1 原音声と合成音音声波形 (音声「青い波だ」の冒頭部分)
(合成音は, いずれもピッチ周波数が原音声の 0.8 倍になっている)

5. まとめ

言語音声のピッチ周波数パターンや音韻持続時間の特性など, 超分節的特性を種々に変

形した合成音を作成する実験ツールについて報告した。合成音の作成では、1 ピッチ波形の編集に基づく PSOLA 方式と、音声の調和構造を実現する正弦波重畳 (SWS) 方式の 2 つの方法による合成が可能である。いずれも自動もしくは手動編集によって設定されたピッチマークに基づいて合成がなされる。ピッチ周波数や持続時間の変更は、広く利用されて馴染みのある表計算ソフト：エクセルを使用した。

本ソフトウェア・ツールの利用によって、アクセント、声調、イントネーションなどの超分節的特性を様々に変更した音声の合成が可能になる。こうした変更は、表計算ソフト上で直接数値を書き換えたり、内部関数を使ってピッチ周波数特性を生成させたりできるため、聴知覚実験で使用する多くの刺激音声の作成も容易にできるようになるであろう。

6. 今後の課題

今後本ツールは、日本語アクセントや東南アジア諸言語の声調、イントネーションの研究等に実際に利用していく予定である。また、本論で述べた SpitEditor とリンクして、再合成された音声刺激を被験者にランダム提示し、判断結果を集計する受聴実験ツールの作成を進めており、これによって知覚実験用のツールとして利用しやすいものとなるであろう。

なお、本ツールは、今後利用しながら、使いやすいように変更することがあるため、画面表示、「メニュー」の構成など本論の説明とは若干異なってくる可能性がある。最終的な形式はマニュアル等を参照していただきたい。

<謝辞>

本研究とツール作成にあたり、超分節研究プロジェクトの共同研究者としてご討論いただいた本学：峰岸真琴教授（アジア・アフリカ言語文化研究所）、岡野賢二准教授、降幡正志准教授、神田外語大学：春日淳准教授に感謝申し上げます。また本ツール作成に尽力いただいた杉浦功一氏に深謝する。

なお、本研究は、科学研究費（基盤 B）「東アジアと東南アジア言語における超分節特性の比較対照に関する研究」（研究代表者：佐藤大和、課題番号：23300093）の補助金によってなされたものである。

参考文献

1. Boersma, Paul and Weenink, David: praat version: 5.3.41
URL: <http://www.fon.hum.uva.nl/praat/>
2. 板倉文忠, 東倉洋一. 1978. 「音声の特徴抽出と情報圧縮」, 情報処理, 35, pp.644-656, など参照
3. Moulines, Eric and Charpentier, Francis. 1990. "Pitch-synchronous waveform processing techniques for text-to-speech synthesis using diphone," Speech Communication 9, pp.453-467
4. Hirokawa, Tomohisa, Itoh, Kenzo and Sato, Hirokazu. 1992. "High quality speech synthesis based on wavelet compilation of phoneme segments," Proceedings of ICSLP 92, pp.567-570

An experimentation tool for perceptual researches of spoken languages

Hirokazu SATO and Yukie MASUKO

A software tool (SpitEditor) of supra-segmental modification for spoken language perception experiments is proposed. Two speech synthesis methods are available in the system. One is PSOLA (Pitch Synchronous Overlap and Add) method, and the other is SWS (Sinusoidal Wave Superposition) method, which are both based on pitch marks automatically placed at zero-crossing points of the speech wave.

Microsoft Excel, which is an extensively used spreadsheet software, is applied to the system to edit or modify original speech parameters such as pitch frequencies and segmental durations on the spreadsheet.

A number of required speech stimuli for perceptual evaluation tests can be compiled by the software tool. This paper describes how to make the tool work on a computer screen, how to detect zero-crossing points of original speech, how to edit extracted pitch frequencies and segmental durations, how to newly synthesize speech on these modified parameters, and how to save the resynthesized speech.

ガリシア・アストゥリアス語の言語帰属問題を巡って¹

川上 茂信

1. はじめに

本稿の目的は、スペイン北部アストゥリアス自治州西部で話されているガリシア・アストゥリアス語の言語帰属問題を概観し、論点を整理することにある。最初にガリシア・アストゥリアス語について簡単に述べ、次にこれがガリシア語の変種であるという伝統的な見方を概観し、それから連続体の考えに基づいて言語圏 (dominio) 間の境界の存在 (ガリシア・アストゥリアス語がガリシア語圏に含まれること) を疑問視する説と、連続体の概念と境界の概念を両立させ (ガリシア語圏に含ませ) ようとする説を検討する。

2. ガリシア・アストゥリアス語とは

アストゥリアス自治州は、スペイン北部に位置し、北はカンタブリア海に面し、西はガリシア州、東はカンタブリア州、南はカスティーリャ・イ・レオン州と境を接している。自治州レベルでの公用語は存在しないが、1981年制定の自治憲章において「バブレ (bable)」が保護と振興の対象とされた (第4条)。1999年の自治憲章改正に際し、バブレの保護・使用・振興を州法によって規定するという条文が追加された (第4条第2項)。ここで言及されている法律は1998年の「バブレ／アストゥリアス語の使用と振興に関する法律 (LEY 1/1998, de 23 de marzo, de uso y promoción del bable/asturiano)」 (以下「言語法」) である²。ここでは「バブレ／アストゥリアス語 (bable/asturiano)」がアストゥリアスの伝統的な言語 (lengua tradicional) とされ、保護・振興の対象となっている (第1条)³。また、第2条では「ガリシア／アストゥリアス語 (gallego/asturiano)」について、それが固有の言語様態であ

¹ 本稿は東京外国語大学特別研修 (2012年度) による研究成果の一部である。研修期間中サンティアゴ・デ・コンポステーラ大学での研究を可能にしてくれた Tomás Jiménez Juliá, ガリシア語に関する疑問を解決してくれた Xosé Luís Regueira, ガリシア・アストゥリアス語研究に取り組む手助けをしてくれた Xoán Babarro González, そしてナビア・エオの存在を教えてくれた Pilar Lago Mediante の諸氏に感謝したい。Este artículo es un fruto de la investigación que llevé a cabo en Santiago de Compostela desde abril hasta septiembre de 2012, durante el permiso otorgado por la Universidad de Estudios Extranjeros de Tokio. Va aquí mi agradecimiento a Tomás Jiménez Juliá, que me ayudó a realizar mi estudio en la USC; a Xosé Luís Regueira, que resolvió con suma amabilidad mis dudas sobre la lengua gallega; a Xoán Babarro González, que me ayudó moral y científicamente a abordar este espinoso tema; y, sobre todo, a Pilar Lago Mediante, que me invitó a conocer un rincón tan guapo donde se habla gallego-asturiano.

² 解説と日本語訳は萩尾 (2005) を参照。

³ «El bable/asturiano, como lengua tradicional de Asturias, gozará de protección. El Principado de Asturias promoverá su uso, difusión y enseñanza».

る地域において、バブレ／アストゥリアス語と同様に同法の規定が適用されるとしている⁴。「ガリシア／アストゥリアス語」は自治憲章では言及されていないことから、またアストゥリアスの伝統的な言語と見なされていないことから、「バブレ」とは異なる位置づけがされていることが分かる。以下、言語法の「バブレ／アストゥリアス語」はアストゥリアス語 (asturiano) と、「ガリシア／アストゥリアス語」はガリシア・アストゥリアス語 (gallego-asturiano) と呼ぶことにする⁵。

さて、本稿のテーマであるガリシア・アストゥリアス語は、アストゥリアスの西部、ガリシア州との境界に近い地域で話されている言語である。州境と重なる部分の多いエオ川と、この地域の東端に近いナビア川の名をとってナビア・エオ (Navia-Eo あるいはエオ・ナビア Eo-Navia) 地域と呼ぶこともある。この地域の人口は約 40000 人で、州全体の 4 パーセント程度である (Academia de la Llingua Asturiana (ALLA), 2006: 9)。話者自身による言語名称としては *fala* という呼称 (33%) が多く⁶、ガリシア・アストゥリアス語 (24.7%) がそれに続く。アストゥリアス語あるいはバブレ (21.4%) と認識する人も少なくない (Llera Ramo & San Martín Antuña, 2003: 87)。他に新造語の「エオナビア語 (eonaviego)」が使われることもある。また、単に「アストゥリアスのガリシア語 (gallego de Asturias)」と言う人もいる。日本では浅香 (2006) による紹介がある⁷。

3. スペイン文献学におけるガリシア・アストゥリアス語

3.1. Menéndez Pidal

3.1.1. ガリシア語とアストゥリアス語の境界

この問題を論じる際にまず参照されるのは Menéndez Pidal (2006) である⁸。これはレオン方言を扱った論文だが、その地理的広がりを確定するために、西側の境界について次のように述べている。

⁴ «El régimen de protección, respeto, tutela y desarrollo establecido en esta Ley para el bable/asturiano se extenderá, mediante regulación especial al gallego/asturiano en las zonas en las que tiene carácter de modalidad lingüística propia».

⁵ なお、言語法でこれら 2 言語の名称に使われているスラッシュの意味は明瞭ではなく、言語帰属に関して複数の解釈を許す。

⁶ *Fala* は、単に「話すこと」、そこから特定の「土地の言葉」、「方言」を意味する。つまり本来はガリシア・アストゥリアス語を他の言語から差異化した言語名とは言い難い。なお、*fala* はポルトガル語、ガリシア語、アストゥリアス語に共通した語形で、カスティーリャ語の *habla* に対応する。

⁷ ただし、言語帰属問題に関する立場を「ガリシア語のブロックの一つ」「ガリシア語領域の一部」「アストゥリアス語」「東部ガリシア語」に 4 分する記述は要領を得ない (浅香 2006: 194–5)

⁸ オリジナルは 1906 年。

Por el Occidente, el límite del leonés no coincide con el del antiguo reino de León, ya que éste abarcó también á Galicia y Portugal; tampoco coincide, ni mucho menos, con los límites de las provincias gallegas y del reino de Portugal. A pesar de que la frontera del dialecto leonés con el gallego-portugués es bien precisa (á diferencia de la frontera oriental), está poco estudiada y mal conocida; es preciso ir marcando una línea que pase por entre pueblos vecinos, de los cuales los de Occidente no diptonguen la *õ* y *ẽ* latinas, diciendo: *corpo terra* y los de Oriente las diptonguen, diciendo: *cuerpo tierra*, (130 / 30)⁹

ここで確認されていることは、まずレオン方言の境界が、ポルトガルやガリシアを含んでいたかつてのレオン王国の境界と一致しないこと、またアストゥリアスとガリシアの境とも一致しないことである¹⁰。興味深いのは、レオン方言とガリシア・ポルトガル語との境界は明確であるという言明だ。ただし研究が進んでいないので、よく分かっていないというのだが、これは、Menéndez Pidal がこの2言語（あるいは方言）の境界をラテン語の短い *õ* と *ẽ* が二重母音化したか否かで判断しているためで、二重母音化していれば (*cuerpo, tierra*) レオン方言、していなければ (*corpo, terra*) ガリシア語という形で境界ははっきりしているが、調査が行き届いていないので、現実の境界線がどこを通過しているか不明なところがあるということだ。

その上で、当時判明しているデータから次のように述べている。

En Asturias, junto al mar, el dialecto leonés no empieza sino á la derecha del río Navia; á la izquierda del río se habla hoy una variedad del gallego de Lugo, y aun en algunos pueblos inmediatos á la orilla derecha (130 / 30).

ナビア川より西ではルーゴのガリシア語の変種が話されており、さらには、川の東側約8キロまでガリシア語が広がっているとしている (131 / 31)。

さて、この地域のガリシア語について Menéndez Pidal は注において次の指摘もしている。まず「ガリシア語的要素」としてラテン語母音間の *-n-* の消失がある。例として *chao* (カスティージャ語 *llano*)¹¹ などを挙げている。また、ガリシア語よりも消失の度合いが大き

⁹ ページの参照は (オリジナル / 2006 年版) の形で行う。

¹⁰ Menéndez Pidal を始め、スペイン文献学の伝統で「レオン方言 (dialecto leonés)」と呼ばれている言語は、現在では「アストゥル・レオン語 (*lengua astur-leonesa*)」などと呼ばれることが多い。なお、アストゥル・レオン語の領域は現在のアストゥリアス、カスティージャ・イ・レオン、エストレマドゥーラ各自治州とポルトガルのミランダ地方にまたがっているが、アストゥリアスに限定してアストゥリアス語という名称も使われる。

¹¹ Chao < PLANU. 現代の標準ガリシア語では *chan* だが、これはガリシア西部の形で、*chao* はガリシア中央部以東、アストゥリアスにまで広がっている (Instituto da Lingua Galega (ILGa), 1995: mapa 35). ラテン語 *-ANU* の結果については ILGa (1999: mapa 218) および

い («va más allá») 例として *vecin* (sic) の複数形 *vecíos* (カスティーリャ語 *vecino* / *vecinos*, ガリシア語 *veciño* / *veciños*)¹² を挙げている。しかし、レオン方言的な特徴もあると言い¹³, 語頭の *l-* と語中の *-ll-* の口蓋化に言及している (ただし全域ではなく, 口蓋化しない場所として *Pesoz*¹⁴ を挙げている)。例に *yeite* (カスティーリャ語 *leche*)¹⁵ などがある。

3.1.2. アストゥリアス語西部方言

Menéndez Pidal はナビア・エオ地域のガリシア語にレオン方言 (アストゥリアス語) 的要素があることを指摘したが, 逆にその東にあるアストゥリアス語の西部方言にガリシア・ポルトガル語的な特徴を見ている。それが *Menéndez Pidal* が「ガリシア・ポルトガル語的二重母音 (diptongos gallego-portugueses)」と呼ぶ下降二重母音で, 中央方言の *cosa*, *poco* が西部では *cousa*, *pouco* になる (147/47)¹⁶。

このように, *Menéndez Pidal* にとっては, ガリシア語とアストゥリアス語 (レオン方言) の境はラテン語の短い *ō, ē* の二重母音化の有無で決まるものだが, 境界線を超えて広がる特徴がそれぞれ存在することも認めているのだ。下に *Menéndez Pidal* による方言区分の図 (138/38) を掲げる (フォーマットは変えてある)。

gallego	gallego oriental	leonés occidental	leonés oriental	castellano
forno			horno	
lobo	llobo			lobo
ela	ella	eṭṣa		ella
ano		año		
raa	mau	rana		malo
terra	corpo	tierra		cuerpo
caldeiro outro			caldero otro	
chave			llave	

Fernández Rei (1991: 59) を参照。

¹² *Vecín* < VICĪNU. ただし, 現代の標準ガリシア語では *veciño* / *veciños* で, ガリシアの大部分で使われている。 *Vecín* はルーゴ県東部とアストゥリアス, レオン県のビエルソの形 (*Fernández Rei*, 1991: 64)。語形の分布については *ILGa* (1995: mapa 92) および *ILGa* (1999: mapa 249)。 *Viciño* は *veciño* とともに 19 世紀後半から 20 世紀前半までの辞書に現れる (*Santamarina*, 2011)。なお *vecín* はアストゥリアス語の語形と一致している。

¹³ «este gallego limítrofe con el asturiano ofrece también rasgos leoneses (130 / 30, fn. 2)»

¹⁴ *Pesoz* はカスティーリャ語の形。ガリシア・アストゥリアス語では *Pezós*。

¹⁵ *Yeite* < LACTE. 標準ガリシア語では *leite*。標準アストゥリアス語では *lleche*。

¹⁶ 現代標準アストゥリアス語, カスティーリャ語で *cosa*, *poco*, ガリシア語で *cousa*, *pouco*。

3.2. Dámaso Alonso

3.2.1. ガリシア・アストゥリアス語の位置付け

Dámaso Alonso は主に 1940 年代から 50 年代にかけてガリシア・アストゥリアス語について一連の研究を残しており、当時、現地調査を通じてこの言語の実態を最も良く知る研究者のひとりであった。ガリシア・アストゥリアス語 (gallego-asturiano) という名称は、D. Alonso が使ったことで広まったと考えられる。以下の引用から明らかなように、アストゥリアスにおけるガリシア語の方言という意味合いで使っている。

... zonas del gallego que llamo exterior, dialectos gallegos hablados fuera de los límites políticos de Galicia, a saber: en el Occidente de Asturias (gallego-asturiano); y en el Bierzo, provincia de León (berciano o gallego-leonés). (Alonso, 1972b: 32)

これによれば、レオンにおけるガリシア語方言がガリシア・レオン語 (gallego-leonés) ということになるが、これについてはガリシア・アストゥリアス語を含む使い方をしているところもある。

Llamamos gallego exterior o gallego-leonés al hablado fuera de Galicia, en tierras limítrofes con ella. El gallego exterior o gallego-leonés comprende una serie de hablas que son básicamente gallegas, con rasgos que, aunque a veces varían respecto al gallego considerado como normal en Galicia, están dentro del sistema lingüístico galaico, si lo miramos en una perspectiva sincrónico-diacrónica; pero junto a estos rasgos esencialmente galaicos, presentan siempre las hablas del gallego exterior unos pocos que son propios del dialecto leonés. Una rama del gallego-leonés es el hablado en el extremo occidental de Asturias, que muchas veces, por rapidez, llamamos gallego-asturiano; otra es el gallego-leonés hablado en el NO. y parte del O. de la provincia de León [...]; otra rama es el gallego-zamorano, hablado en el extremo NO. de la provincia de Zamora (Alonso & García Yebra, 1972: 315–6).

つまり、若干のレオン方言的特徴を含むという性格づけに対応する gallego-leonés の下位変種として、行政区域であるレオン県に対応する gallego-leonés やアストゥリアスに対応する gallego-asturiano があることになる。いずれにせよ、D. Alonso によるガリシア・アストゥリアス語の位置づけは、Menéndez Pidal 同様、ガリシア語の変種であり、レオン方言的な特徴も含むということになる。

3.2.2. ガリシア・ポルトガル語的特徴

D. Alonso は、ポルトガル語とカスティーリャ語の母音体系を扱った論考の中で次のように述べ、ガリシア・アストゥリアス語を含めたガリシア・ポルトガル語圏に特徴的な現象を 4 つ特定している。

Hay que colocar en primera línea el hecho de la metafonía verbal en la segunda y la tercera conjugación, junto a otros fenómenos que se suelen considerar característicos del dominio gallego-portugués: la conservación normal de *õ* y *ẽ* como *o* y *e*, la caída de *-n-* y el infinitivo conjugado (Alonso, 1972b: 33).

そのうち2つは既に Menéndez Pidal が挙げているもので、ラテン語の *õ, ẽ* が二重母音化せずに広い *o, e* となったというものと、母音間の *-n-* の消失がそれである。ここで新たに、人称不定詞の存在と第2第3活用動詞における母音変異が付け加わっている¹⁷。

3.2.3. 人称不定詞

人称不定詞 (あるいは活用不定詞) は、ポルトガル語における存在が良く知られているが、ガリシア語にもある¹⁸。ガリシア・アストゥリアス語については Babarro González (2003: 430–1) が人称不定詞の記述をしているが、西部 (つまりガリシア寄り) の方が活力があるという。また、西部の Vegadeo¹⁹ を記述した Fernández Vior (1997: 274) には人称不定詞への言及があるのに対して、東部にある El Valledor の言語を対象とした Muñiz (1978) には記述がない。ILGa (1990: mapas 28–31) ではガリシア・アストゥリアス語地域について北部の Calvario de Salave, 北東部の Coaña, Boal を除いて存在が確認できる²⁰。これらの記述から、アストゥリアス語との境界近くでは人称不定詞が使われていない可能性があるものの、D. Alonso の観察は基本的に当を得ているといえる。

3.2.4. 母音変異

第2第3活用動詞における母音変異は、次のような現象を指す。まず第2活用の例を標準ガリシア語の例で示す。

	comer		beber	
	直説法	接続法	直説法	接続法
1sg.	como [o]	coma [o]	bebo [e]	beba [e]
2sg.	comes [ɔ]	comas [o]	bebes [ɛ]	bebas [e]

¹⁷ 「母音変異」は *metafonía* の訳として使う。

¹⁸ ガリシア語の人称不定詞を扱ったモノグラフィとしては Gondar (1978) がある。標準化以降の記述としては Álvarez & Xove (2002: 307-8) を参照。

¹⁹ Vegadeo はカスティーリャ語形。ガリシア・アストゥリアス語では A Veiga である。

²⁰ ILGa の言語地図 (ALGa) にはナビア川以東のデータはなく、伝統的に考えられているガリシア語とアストゥリアス語の境界に達していない。したがって、データの無い地点で人称不定詞を持たない場所は、さらに多いと推測される。

3sg.	come [ɔ]	coma [o]	bebe [ɛ]	beba [e]
1pl.	comemos	comamos	bebemos	bebamos
2pl.	comedes	comades	bebedes	bebades
3pl.	comen [ɔ]	coman [o]	beben [ɛ]	beban [e]
命令法 2sg.		come [o]		bebe [e]

語根の o, e にアクセントがある場合、直説法現在の 2 人称単数, 3 人称単数・複数においては広い ɔ, ɛ となり、直説法現在の 1 人称単数と接続法現在 1 人称単数, 2 人称単数, 3 人称単数・複数, 命令法 2 人称単数では狭い o, e となる²¹。例に挙げた beber (< BĪBĒRE) から分かるように、通常の音変化から ɔ, ɛ が期待されるものとは限らない (Fernández Vior, 1997: 281)。したがって、完遂しなかったとはいえ第 2 変化 (-er) の動詞に体系的に働いた類推作用が想定される。

第 3 活用 (-ir) の動詞については、事情がより複雑である。まず、問題となる現象の例を標準ガリシア語の語形で示す。

	dormir		seguir	
	直説法	接続法	直説法	接続法
1sg.	durmo [u]	durma [u]	sigo [i]	sigá [i]
2sg.	dormes [ɔ]	durmas [u]	segues [ɛ]	sigas [i]
3sg.	dorme [ɔ]	durma [u]	segue [ɛ]	sigá [i]
1pl.	durmimos	durmamos	seguimos	sigamos
2pl.	durmides	durmades	seguides	sigades
3pl.	dormen [ɔ]	durman [u]	seguen [ɛ]	sigan [i]
命令法 2sg.		durme [u]		sigue [i]

²¹ ただし、語根に o, e を持つ全ての動詞がこの変化をするわけではない。アクセントがあるときに常に ɔ, ɛ になるもの (poder, querer) もあり (Real Academia Galega (RAG) 2012: 123, Muñiz 1978: 294, Fernández Vior 1997: 281), 常に閉じた o, e になるもの (deber, -cer) もある (RAG 2012: 123, Fernández Vior 1997: 277, 343)。ポルトガル語においても, poder, querer が強勢位置で常に ɔ, ɛ である点はガリシア語と変わらない (posso, podes...; quero, queres) が, その他は基本的に交替が起こるようだ。交替がない動詞は音韻体系上の理由がある。語根母音が鼻母音のもの (romper, encher) は母音の開閉の対立がないので交替がない。さらに, ブラジルにおいては母音に鼻子音が続く場合 (comer, temer) も母音の開閉の対立がないので, やはり交替しない (Cunha & Cintra, 1987: 416)。なお, ポルトガル語ではガリシア語と異なり, 命令法 2 人称単数も広い ɔ, ɛ になる。

最初の例 *dormir* では語根母音が無強勢では *u* で、アクセントがあると *u, o* が交替する。このタイプの動詞は多くない (RAG 2012: 127)。ガリシア・アストゥリアス語においては不定詞に無強勢の *o* を持つ *dormir* も *durmir* と並んで報告されている (Muñiz 1978: 300, 331, Fernández Vior 1997: 279, 282)²²。無強勢の *o* については、古いガリシア語で *o...ir* であった動詞が *u...ir* に移行し、現在ではその変化はほぼ完了しているという (RAG 2012: 128)。だとすれば、ガリシア語における *dormir* は古形の残存だと考えることができる²³。なお、ポルトガル語では書記上は *dormir, dormimos, dormis* で *o* が使われているが、ポルトガルにおける発音は [u] で、ブラジルでは [o] と [u] の間で揺れがある (Cunha & Cintra, 1987: 417)。

さて、現代ガリシア語ではこのタイプの動詞の語根母音を *u* に固定して規則動詞化する傾向がある (RAG 2012: 128)²⁴。ガリシア・アストゥリアス語については、Babarro González (2003: 389) は母音交替と規則化の両者が併存していると報告している。Muñiz (1978: 300) は *dormes, dorme, dormen* と *durmes, durme, durmen* の両方を記載している。Fernández Vior (1997: 279, 282) は *dormir* については母音交替のある形のみを挙げているが、このタイプの動詞は Vegadeo において「ガリシア語におけるほどは多くない (no es tan abundante como en gallego)」として、実際 *dormir* と *tusir* だけに限られると述べている (279)。なお、Fernández Vior (1998: *durmir*) は «Durme el neno mèntrès frègo nos cacharros» という例を挙げている。この *durme* は他動詞用法の命令法 2 人称単数形とも解釈できるが、*el neno* を主語とする自動詞と考えることもできるので、母音交替の例とも規則動詞化の例とも断言できない。

さて、*seguir* のタイプでは語根母音がアクセントのある位置で *i, e* の交替を示す。D. Alonso は、第 3 活用動詞が示す状況は第 2 活用と比べて揺れがあるとし、«en Oscos se oye *sirbo, serbes* o *sirbes, serbe* o *sirbe* (Alonso, 1972b: 33)»²⁵ と述べ、ガリシアについても、すでに 1868 年に Saco Arce (1868: 81) による記述があることに言及している²⁶。RAG (2012: 125) も、このタイプはアクセントのある母音が *i* に固定して *sigues, sigue, siguen* となる傾向が

²² Fernández Vior (1998) は *durmir* のみを収録している。発音表記は /dURmíR/ で、無強勢母音は /o/ と /u/ の対立が中和しているかのような印象を与えるが、記号の価値についての説明はない。一方 Fernández Vior (1997: 59) は強勢前では *o* と *u* の対立があるとしていて、記述に不整合があるように見える。

²³ ILGa (2005: mapas 264, 265) で *dormir* の語形を確認することができる。

²⁴ ALGa のデータによれば *durmir* は母音交替が優勢だが、*subir* は母音交替と規則化が拮抗している (ILGa, 1990: mapas 192, 193)。

²⁵ ガリシア・アストゥリアス語では /b/ と /v/ の対立がないので、D. Alonso は *v* を表記に使っていない。

²⁶ Saco Arce が挙げている形は «*Sirvir servir ... sirvo, serves ó sirves* (81)». 引用中の *servir* は *sirvir* に対するカスティーリャ語訳と解釈されるので、不定詞の母音は *i* のみである。

強いとしているが、ガリシア言語語地図 (ALGa) 中には、このタイプの動詞の例を見つけることができなかった。Babarro González (2003: 390) は他の研究を参照して母音交替の存在を指摘しているが、自分が採集した実例は挙げていない。Muñiz (1978: 301) は *reñir* (riñir) について *reñes, reñe, reñen* と *riñes, riñe, riñen* の両方を記載しているが、*reñemos, reñedes* の形も (まれではあるが) あるとし、第 2 活用と第 3 活用の両方の変化形を持つ «doble conjugación (según la 3a. y la 2a.)» の可能性として扱っているようだ。Fernández Vior (1997: 279) は強勢位置における *i, ε* の交替については述べておらず、無強勢の *e* と強勢のある *i* が交替するタイプのみ言及している。しかも、このタイプの無強勢位置で語根母音が *i* になって規則動詞化する傾向を指摘している。なお、Fernández Vior (1998) は *pedir* と *pidir* を収録しているが、*seguir, servir* は *e* を含む形のみを挙げている²⁷。同様に Muñiz (1978: 303) も *pedir / pidir* を例に無強勢位置における *e* と *i* のゆれを報告している。

一方、語根母音を *i* で固定する規則動詞化はアストゥリアス語にも見られる。

El fonema /i/ en sílaba átona presenta, en munches ocasiones, realizaciones fonéticas que van dende la [i] más zarrada a la [e] más aberta. Sicasí, ha representase na escritura cola lletra «i». Exemplos: *midir*, non **medir* [...] // Les formes débiles d'un verbu escríbense con «i» átona si les formes fuertes de la mesma conxugación lleven *i* tónica. Exemplos: *midir* (yo *mido*), *pidir* (tu *pides*), *dicir* (él *diz*), *rindise* (ellos *ríndense*), *siguir* (yo *sigo*), *servir* (tu *sirves*), *tiñir* (él *tiñe*), *vístise* (ellos *vístense*), *ximir* (yo *ximo*), *ciñir* (tu *ciñes*), *firir* (yo *firo*), etc. (ALLA, 2001: 26)

無強勢母音の音色に揺れが観察されるが、規範的には *i* で表記するという説明だ。実際には *e* と *i* の交替を示す動詞もあるが、数は少ないとして *correxir* と *repetir* を挙げている (ALLA, 2001: 197)。ただし無強勢位置ですべて *e* というわけではなく *corrixendo, repitió, repitiendo* のように *i* が出る環境がある (ibid.)。カスティーリャ語の *corregir, repetir* と同様の母音交替があるように見える²⁸。

ちなみに、上に挙げられた動詞に対応する標準ガリシア語の形を見てみると、*medir, pedir, vestir(se)* が強勢位置で *i* になるタイプ、*seguir, servir, ferir* が強勢位置で *i, ε* の交替のあるタイプ、*render(se), xemer* は第 2 活用に属し、*tinguir (tinxir), cinguir, (cinxir)* は *i* で固定した規則動詞、*dicir* は不規則動詞だが語根母音は *i* で不変である。また *midir, pidir, vistir*;

²⁷発音表記は *pedir, pidir* とともに /pIdiR/. *Seguir* は /sIgiR/, *servir* は /sIRbiR/ で、*dormir* における /u/ と /o/ の場合と同様、無強勢位置での /i/ と /e/ の中和を思わせる表記になっていて、Fernández Vior (1997: 59) の記述と不整合があるように見える。

²⁸ なお、対応するカスティーリャ語の動詞のうち *medir, pedir, render(se), seguir, servir, teñir, vestir(se), gemir, ceñir* は語根母音が強勢位置では *i* になる。*Decir* は不規則だが、強勢位置の語根母音は *i* である。また *herir* の語根母音は強勢位置で *ie* になる。

siguir, servir, firir, ximir, tíñir の語形が Santamarina (2011) で確認できる²⁹。つまり、ガリシアにおいても語根母音の無強勢位置での揺れがあり、i で揃える規則動詞化の傾向があることが分かる。なお、Muñiz (1978: 301) が reñir と同タイプの動詞として teñir を挙げているのは注目に値する。つまり、非標準形でかつ母音交替の可能性を持つということで、ガリシア・アストゥリアス語がこの活用タイプと決して無縁ではないことを示す。

さて、標準ポルトガル語では vestir(se), seguir, servir, ferir が i, ε の交替を示す。また medir, pedir は不規則動詞で、強勢のある語根母音は ε で固定である³⁰。Render(se), gemer, tingir, cingir, dizer については、標準ガリシア語と同様のことが言える。ポルトガル語にも語根母音が強勢位置で i のみを示すタイプはある (agredir) が、ガリシア語と比べると少ない³¹。ただし、14 世紀末以降のポルトガル語で segues / sigues (seguir) のような揺れが見られ、現在の北部方言では強勢位置で i に固定されているという (RAG, 2012: 125)。

いずれにせよ、標準ポルトガル語・標準ガリシア語で i, ε が交替する動詞が、ガリシア・アストゥリアス語を含むガリシア語の一般的傾向では強勢位置で i のみになる。さらには無強勢位置も含めて i で統一した規則動詞化の傾向がガリシア語とアストゥリアス語に見られる。その点で, sêgues, sêgue をガリシア語, sigues, sigue をアストゥリアス語に割り振って対比させている Frías Conde (2001: 63) の表は過度な単純化を行っていると言える。また、語根母音が強勢位置で i になるタイプの動詞はカスティーリャ語にもあり、特にガリシア・ポルトガル語的特徴であるとは言えない。したがって、第2活用における母音変異と比べて、ガリシア・アストゥリアス語のガリシア語性を示す力は弱い。しかし、pidir のような i による規則動詞化はガリシアにも見られることから、アストゥリアス語的特徴と見なすこともできない。

3.3. Babarro González

ガリシア・アストゥリアス語をガリシア語の変種と見なす伝統的な立場として Menéndez Pidal と D. Alonso の説を紹介したが、現在も多く研究者がこの立場を前提にしていると言ってよい。たとえば、ガリシア言語語地図 (ALGa; ILGa 1990-) は、対象地域をガリシア自治州に限っておらず、ガリシア・アストゥリアス語についても、この地域全体をカバーしてはいないものの、この変種をガリシア語に含めて記述している。

Menéndez Pidal はラテン語の短い ð, ě の二重母音化の有無によってガリシア語とレオ

²⁹ Saco Arce (1868: 72) は pidir のパラダイムを掲載している。

³⁰ Medir の形を挙げておく: meço, medes, mede; medem, meça, meças, meça, meçam (Cunha & Cintra, 1987: 416)

³¹ 「agredir 型の動詞は degenerir, prevenir, progredir, regredir, transgredir しか (池上, 1987: 216)」 ということ。

ン方言 (アストゥル・レオン語) の境界を決めていた³²。現在ではより多くの特徴を考慮するのが普通である。その中で、現時点での到達点を示していると思われる Babarro González (2003) に触れておく。Babarro González は、ガリシア語とアストゥリアス語西部方言を分つ特徴として 14 の変項を挙げている (87–153)³³。また、ガリシア語とアストゥリアス語西部方言に共通で、アストゥリアス語中央方言と対立する特徴を 11 挙げている (154–166)。すべての等語線が一致するわけではないので、ガリシア語的特徴とアストゥリアス語的特徴をそれぞれ無視できない割合で持つ地域がある。Babarro González は、そういう特徴を持つ 3 地域 (Navia 東部の一部, Villayón³⁴ 東部の一部, Ibias の一部) について、前 2 者はガリシア語圏に含めるべきだとする «deberían incluírse dentro do dominio galego (185)» が、最後の tixileiro と呼ばれる変種は «móstrasenos como unha fala híbrida galego-asturiana (185)» として、ガリシア語とアストゥリアス語のどちらに含めるべきか明言していない。興味深いことに、Babarro González (1994) は «Estas comarcas débense agrupar dentro da xeografía dialectal do galego (138)» と述べており、より断定的にこれらの地域をガリシア語に含めていた (débense と deberían の違いも注意を引く)。つまり、2003 年の段階では以前より慎重になっているのである。これには、次節で扱う連続体を巡る議論が影響しているのかもしれない。

4. 連続体

4.1. García Arias

4.1.1. García Arias (1997)

García Arias (1992: 681) はアストゥリアス語とガリシア語との境界について «Por el occidente resulta difícil establecer límites precisos con el gallego puesto que las isoglosas se entrecruzan muy complejamente entre los ríos Navia y Eo» と述べて、Menéndez Pidal の断定的

³² Menéndez Pidal がガリシア語とレオン方言の境界画定のために *ø, ɛ* の非二重母音化とともに母音間の *-n-* の消失を考慮したという意見もある: «os criterios para marcar estes límites, atendendo sobre todo a dous elementos fundamentais (M. Pidal; 1961:16-18): primeiro, o tratamento de /ɛ/ e /ɔ/ tónicos latinovulgares, que ditongan en asturleonés mais non o fan en galego-portugués; e segundo, o tratamento de /n/ intervocálico, que se conserva en asturleonés mais cae en galego (Frías Conde, 2001: 53)». しかし、母音間の *-n-* の消失は注で «otro rasgo gallego (Menéndez Pidal, 2006: 130, 30, fn. 2)» として触れられるにとどまっているので、非二重母音化と同等に扱っていないのは明らかである。

³³ 節の分け方としては 13 だが、Babarro González (1994) で 2 つにカウントしている項目が 1 つの節の下位区分になっている。具体的にはラテン語の *ø, ɛ* の結果が、音節末に鼻音がある場合とない場合で異なる等語線を示す。

³⁴ Villayón は ALLA の規範による表記。ガリシア語的な綴りは Villaión だが、Babarro は Villallón としている。

な態度とは正反対の見解を示している。それを具体化したのが García Arias (1997) で、具体的な現象を挙げて «El gallego-asturiano, dau'l so calter de llingua de transición, allínease unes vegaes col dominiu más occidental y otre col asturiano (45)» であると主張している。

まず、ガリシア語とアストゥリアス語が異なる解決を示す特徴として次のものを挙げている。

	ガリシア語圏	アストゥリアス語圏
a)	非二重母音化 (terra, corpo)	二重母音化 (tierra, cuerpu)
b)	l- の保持 (lobo)	口蓋化 (llobu)
c)	-ll- の単子音化 (ela)	口蓋化 (ella)
d)	-l- の消失 (pao)	保持 (palu)
e)	-n- の消失 (lúa)	保持 (lluna)
f)	lj, c'l, g'l > ʎ ³⁵ (muller)	口蓋化 j ³⁶ (muyer)
g)	bl-, gl- > l (liria)	口蓋化 ʎ (lliria)
h)	非軟口蓋化 (cóbodo)	軟口蓋化 (coldu)

ガリシア・アストゥリアス語は、このうち a(非二重母音化) と e(-n- の消失) をガリシア語と共有している。他の特徴については、地域内で一様ではないが、l-, -ll- を口蓋化した(つまり b と c においてアストゥリアス語的特徴を示す) 地域では b, c, d, f, g, h においてアストゥリアス語と特徴を共有しているという (45)。

García Arias は触れていないが、このうち d については、ガリシア・アストゥリアス語全域で -l- の保持というアストゥリアス語的特徴を示す (ILGa 1999: mapas 272–280)。つまり、-ll- を口蓋化しない地域では -ll- と -l- の結果が -l- として合流することになる。Martinet (1974) は «Hallamos distinción entre el resultado de -l- y el de -ll- en toda la Península Ibérica (§11.25, 392)» と述べている。消失と単子音化 (ガリシア語) にせよ、保持と口蓋化 (アストゥリアス語) にせよ、ラテン語の -l- と -ll- の対立が維持されるというのだが、ガリシア・アストゥリアス語の一部地域はこれに対する反例となっているわけだ。

latín	galego	galego-asturiano (西)	galego-asturiano (東)
SOLUM	só	solo	solo
ILLAM	ela	ela	ella

³⁵ García Arias はスペイン式の ʎ を使っている。

³⁶ García Arias はスペイン式の y を使っている。スペイン式の y を機械的に IPA の j で置き換えることには問題があると思われるが、一応このままにしておく。

Martinet はさらに «En toda la Península Ibérica [...] se ha mantenido una distinción entre lo que originariamente fueron *-n-* y *-nn-* (§11.24, 391)» と述べている。García Arias (1997) は *e* として *-n-* の結果を挙げているが、*-nn-* の結果には触れていない。しかし、ガリシア語の単子音化 (*ano*) とアストゥリアス語の口蓋化 (*añu*) を付け加えるべきだろう。García Arias 自身、ラテン語の *n-*, *-nn-*, *-n-* と *l-*, *-ll-*, *-l-* の構造的扱いをガリシア語とアストゥリアス語の共通点のひとつとして挙げている (44) のだから、この扱いは不可解にも見える。しかし、*-nn-* の単子音化がアストゥリアス語西部方言にまで広がっていることが分かれば、不可解さは減少する。現代の標準アストゥリアス語では *-nn-* は口蓋化した形が取り入れられているが、単子音化の地域はかなり広い (Babarro González 1994: 116)。おそらく、García Arias は、この現象をガリシア語とアストゥリアス語で扱いが異なる現象と見なさなかったのだろう。もちろん、その場合、彼の言う *n-*, *-nn-*, *-n-* の構造的扱いがどのようなものなのか、理解が難しくなる。実際、アストゥリアス語西部方言で *-nn-* を単子音化した地域では *-n-* は消えずに保たれており、Martinet の観察に対する反例を構成する。Babarro González (1994: 115) が挙げている例から今の議論に関係するものを引くと、以下のようになる³⁷。

latín	galego	bable occidental (B, C, D)	bable occidental (A)
LUNAM	lúa, llúa	šuna	lluna
CAPANNA	cabana	cabana	cabaña

このように、*-l-* の保持というアストゥリアス語的特徴がガリシア・アストゥリアス語にあり、*-nn-* の単子音化というガリシア語的特徴がアストゥリアス語西部方言の広い地域に見られることは、ガリシア語とアストゥリアス語の境界画定 (およびガリシア・アストゥリアス語の言語帰属) 問題にとって興味深い事実である。また、Martinet (1974) の断定に対する反例が、伝統的にガリシア語と見なされている地域とアストゥリアス語とされる地域の両方に見いだされることも、同様に興味深い。しかし、García Arias の論は、ガリシア語とアストゥリアス語の境界について、伝統的に考えられている *ó, ě* の二重母音化による線を西に向かって曖昧化しようとしているように読め、境界が東に移動する可能性は最初から排除されているように見える。

³⁷ Bable occidental は Babarro González (1994) の用語による。A–D はアストゥリアス語西部方言の下位区分で、A が北東部、B が南東部、C が北西部、D が南西部。

4.1.2. García Arias (1985)

García Arias (1985) は、ラテン語の *pl-*, *cl-*, *fl-* がガリシア語で [ʎ], ポルトガル語で [j], カスティーリャ語で [ʎ] になるのに対して、アストゥリアス語では [ʎ, j, te, ʝ]³⁸ といったバリエーションが観察され、ガリシア・アストゥリアス語地域では、ガリシア語と同様の [ʎ] になっているとした上で、主に地名の分析から、この地域のみならずガリシアの一部にも [ʎ] の例があると述べている。このことは、一般に言われているよりもアストゥリアス語的要素がかつては広い範囲に広がっていたことを示す (1985: 28)。また、ある言語圏 (*dominio*) 内部で変化が一様だったという考えは「幼児的 (*infantil*) (27)」であるという。さらに、「*Nin siquiera los dominios llingüísticos que llograron un estándar fonon a tapecer delles de les variantes surdies daquela (=variación consonántica: Kawakami). Nos dominios onde l'estándar nun s'algamó los nicios fónicos de la variación son munchos más (28)*」とも述べており、ここから、カスティーリャ語、ガリシア・ポルトガル語といった言語圏がそれぞれの地域内部で一様な変化をしたように見える原因のひとつは、標準化による均質化であるという考えも読み取れる。

ここでの García Arias の主張はもともとと言えるが、ガリシア・アストゥリアス語がガリシア語の変種であることを否定するに足る材料を提供しているわけではないし、そこまで明確に主張しているようには読めない。ガリシア語にせよ、アストゥリアス語にせよ、標準語の形成はかなり新しい。従って内部に多様性を抱えていても特に不思議ではない。また、García Arias が検討しているような地名に残る音変化の結果は、かつて存在したバリエーションを示すと同時に、それが一般的でないということも示す。つまり、問題の言語圏の内部では淘汰されたバリエーションだということだ。García Arias の意図とは独立に、[ʎ] が定着しなかったという点で、ガリシア・アストゥリアス語がガリシア語の圏内に含まれると考えることは可能だろう。

より興味深い論点は、これも García Arias (1985) 自身が展開しているわけではないが、言語圏と標準化との関連である。アストゥリアス語西部方言にはガリシア語と共通の特徴が見いだされるが、中部方言を土台にした標準語を拒否して独自の規範を持つとういう動きは見られない。ところが、ガリシア・アストゥリアス語においては、標準ガリシア語をそのまま使おうという方向性も、標準ガリシア語の正書法をベースにガリシア・アストゥリアス語的特徴を取り入れるという方向性 (*Asociación Abertal del Eo-Navia*, 2010) も、広く支持されて定着しているとは言いがたい。むしろ、標準ガリシア語とは一線を画した規範化を進める動きの方が活発で、アストゥリアス語アカデミーとアストゥリアス自治政府が採用した規範 (ALLA, 2007) は、これに沿ったものである。後者の規範は、結果的にアストゥリアス語的特徴を多く採り入れたような印象を与えるものになっている。この状況が

³⁸ García Arias はスペイン式の [j, y, ð, ç] を使っている。

自治州という行政上の単位が作り出す境界に影響を受けていることは確かだが、言語的な根拠が全くないというわけでもない。つまり、ガリシア語圏の内部的多様性に注目して既存の標準語とは異なる規範が志向されたということだ。このことは、ガリシア・アストゥリアス語がガリシア語圏の外にあることを意味するわけではないが、この地域においてはガリシア語圏性が不安定であるとは言えるかもしれない。

4.2. 連続体と言語境界

Penny (2000) は、イベリア半島のロマンス語をガリシア・ポルトガル語、カステリーヤ語、カタルーニャ語に3分する見方を、次のように述べて批判している。

... in order to justify a classification which places Galician-Portuguese on a branch separate from that of the central Peninsular varieties, very few features are available, and maximum attention is given to the non-diphthongization of Latin Ē and Ō (by contrast with their diphthongization in the centre). If such attention is not to be regarded as arbitrary, then some objective justification for the prominence of this feature must be found. However, there seems to be none (26-27).

これはラテン語 ě, ō の扱いを特権化する Menéndez Pidal 以来の考え方に対する批判で、ガリシア語圏がはっきりした境界を持つというこの見方は事実の歪曲であると言う。

... the division of this continuum into three branches, or into any number of branches, falsifies our picture and leads to such false concepts as the following: ‘Galician is spoken in the extreme west of Asturias’ or ‘Catalan is spoken in the eastern fringe of Huesca’, when all that can be meant is that the isogloss separating diphthongization from non-diphthongization of Latin Ē and Ō passes down a little to the east of the political boundary between Galicia and Asturias, or a little west of the boundary between Huesca and Lleida/Lérida (Penny, 2000: 27).

また、Penny (2009) は22項目について等語線を検討し「hay pocas coincidencias entre las isoglosas (57)」と述べ、ガリシア語とアストゥリアス語の境界線は存在しないと結論づけている。

A lo sumo, se puede considerar que la acumulación de isoglosas es mayor en la parte oriental de la zona estudiada que en otras partes, y que, por consiguiente, la transición dialectal es allí algo más rápida que la que se observa más al oeste. Pero en ninguna parte se observa una transición abrupta, y por eso no existe ninguna configuración de las isoglosas que pudiera justificar el empleo del término “frontera dialectal”, ni nada que justifique la opinión de que se hable “gallego” en una parte del territorio y “asturiano” en otra (57).

同様に Dubert García (2011) は «no caso que nos ocupa, as falas do noroeste da Península Ibérica, o que encontramos é unha gradual modificación (434)» と述べ、 «Potenciar un trazo sería cometer o mesmo erro (si, creo que foi un erro) de Menéndez Pidal de sobrevalorar a ditongación de ð, ... / ... as fronteiras que trazan os dominios son ilusións creadas polo propio método de agrupamento (437)» としている。言語圏という概念は抽象の結果得られるものであり、語圏の境界も「幻想」に過ぎないというわけだ。

それに対して Andrés Díaz (2011a) は «1. Tesis glotológica de la transición o contínuum / 2. Tesis glotológica de la adscripción gallego-portuguesa (128)» という 2 つの観点について次のように述べている³⁹。

Interesa destacar que la tesis (2) no impugna la tesis (1), sino que es compatible con ella, dado que las hablas del Eo-Navia parecen mostrar una gradualidad creciente de rasgos «orientales» según se avanza hacia el Este, y por tanto podemos decir que es un gallego-portugués de transición al asturleonés: es un contínuum fronterizo. La tesis (1) es, por tanto, perfectamente admisible, pero quizá no tanto la manera en que es presentada en algunos trabajos recientes. En ellos, por un lado, se le atribuye un poder impugnador o excluyente de la tesis (2), planteando que la noción de contínuum lingüístico bloquea cualquier tipo de adscripción geotipológica: no es ni gallego ni asturiano, sino *sola y exclusivamente* una transición (129).

Andrés Díaz にとって、連続体の事実は、ガリシア・アストゥリアス語がガリシア・ポルトガル語圏に属することと矛盾しない。したがって、連続体であることを言語圏への帰属を否定する根拠として利用する最近の説は受け入れられないという。Andrés Díaz は、そういう説のひとつとして、上で検討した García Arias (1997) も挙げているが、より明確にこの立場を表明しているものとして ALLA (2006) からの一節を引用している⁴⁰。

Dende un punto de vista llingüístico, el estudio pormenorizado da fala del Navia-Eo brinda a imaxe d'un territorio onde s'entremezclan trazas llingüísticas gallegas y asturianas, ademáis de características propias da zona. É entoncias arbitrario científicamente, y é un exercicio de voluntarismo político, incluír esta variedade llingüística dentro del ámbito da lingua gallega (39).

この言明から容易に推測できることは、ガリシア・アストゥリアス語の言語帰属問題には、

³⁹ Andrés Díaz は «3. Tesis glotológica de la adscripción asturleonés» は、アストゥル・レオン語圏に属すと見なすに足る数のアストゥリアス語的特徴はなさそうだとし、 «4. Tesis glotológica del nuevo dominio lingüístico gallego-asturiano» は、独立した語圏を形成すると見なすに足る数の独自の特徴がなさそうだとし、それぞれ却下している (128)。

⁴⁰ Andrés Díaz は ALLA (2006) のカスティージャ語版から引用しているが、ここではガリシア・アストゥリアス語版による。

純粹に言語学的な連続体と境界の問題とは異なるレベルの、政治的問題が関わっているということである。これ自体は言語帰属問題に対して興味深い論点を提供するが、今検討の対象にしているのは言語学的な論拠である。Andrés Díaz にとって、連続体を認めたくえで言語圏の境界を語ることは可能だが、それは両者の抽象度が異なり、後者は前者を前提とするからである (2011a: 126)。したがって、境界は Penny (2009) が考えているものとはかなり異なるものであり得る⁴¹。

Las fronteras pueden ser más o menos nítidas, o más o menos difusas. Las fronteras difusas, en forma de zonas de transición o contínuums, son también fronteras. No hay incompatibilidad entre frontera y contínuum; sencillamente, existen contínuums fronterizos (Andrés Díaz 2011a: 146).

この理論的基盤の上に、ガリシア・ポルトガル語圏とアストゥル・レオン語圏の境界の状況を明らかにしようとしたのが ETLEN プロジェクトである。このプロジェクトでは 532 に上る変項を対象にガリシア・アストゥリアス語地域 (と隣接地域) の計量的な言語地理学的研究を行っている。上述の論文に掲載された中間報告的な地図が示すクラスター分析 (Álvarez-Balbuena García et al, 2011: 132)⁴² を見る限りでは、伝統的な言語圏境界が大きく動くことはなさそうな印象を受けるが、ガリシア・アストゥリアス語地域東部にはかなり「東部的 (アストゥリアス語と共通の)」特徴の割合が大きい部分があることも分かる (Andrés Díaz et al, 2012: 19)⁴³。最終的な結果が待たれるが、ETLEN には 1 本の明確な境界線を提供する意図はないので、最終的には Dubert García (2011) が言うように «como os datos non sempre conducen a unha soa interpretación compartida, tamén pode ser que quedemos como estamos agora (discutindo se hai ou non fronteiras), aínda que cunha base de datos contemporáneos, útil e ben organizada (429)» となる可能性もある。

5. まとめ

スペイン・アストゥリアス自治州の西端で話されているガリシア・アストゥリアス語は、伝統的にガリシア語の変種と見なされている。Menéndez Pidal はラテン語の *ě, ō* の結果が短母音 *e, o* であればガリシア語、二重母音 *ie, ue* であればレオン方言 (アストゥル・レオン語) として、単一の特徴に頼って言語圏の境界を考えた。その後、より多くの特徴を考慮に入れて記述が精密化されてきた。例として D. Alonso の説を検討した。現在、この方向性における到達点を示す研究は Babarro González (2003) で、ガリシア語とアストゥリア

⁴¹ Penny (2009) も、先に引用したように、等語線の集まりが他より密な場所があることは認めている。ただし、それを境界と見なしていないのだ。

⁴² 53 項目を使った結果に過ぎないという注記がある。

⁴³ 44 項目を使った結果に過ぎないという注記がある。

ス語の境界について最も具体的な提案をしている。

しかし、特に 1990 年代以降、連続体という概念に基づいて、ガリシア・アストゥリアス語のガリシア語性を疑う説が現れた。現在、ガリシア・アストゥリアス語の規範化は、この立場に大きく影響を受けている。しかし、これらの説は伝統的な見方を覆すだけの根拠を示し得ていない。一方、連続体概念を認めた上で、言語圏の境界を考える立場がある。ETLEN プロジェクトはこれまでにない多数の変項を使って連続体上の境界を明らかにしようとしており、最終的にどのような結果を提示するか注目される。また、この野心的なプロジェクトは境界概念自体を再定義しようとしている側面があり、理論面での議論にも注目する必要がある。

本稿は、ガリシア・アストゥリアス語の言語帰属問題を巡って論点を整理するもので、新たな説の提示は試みなかったが、Martinet の説に対する反例がガリシア・アストゥリアス語にもアストゥリアス語西部方言にも見られることの指摘と、地名の例はその言語圏で淘汰されたバリエーションであるという点は、ガリシア・アストゥリアス語をガリシア語に含める従来の見方を補強する論点と言えるだろう。

参考文献

- Academia de la Llingua Asturiana 2001. *Gramática de la llingua asturiana*. 3.^a ed. Academia de la Llingua Asturiana.
url: http://www.academiadelalingua.com/diccionariu/gramatica%5C_llingua.pdf.
- 2006. *Informe sobre a fala ou gallego-asturiano: úa perspectiva hestórica, social y llingüística*. Academia de la Llingua Asturiana.
url: http://www.academiadelalingua.com/pdf/Informe_sobre_a_fala_ou_gallego_asturiano.pdf.
- 2007. *Normas ortográficas del gallego-asturiano*. Academia de la Llingua Asturiana.
url: http://www.academiadelalingua.com/pdf/normas%5C_gallego.pdf.
- ALLA = Academia de la Llingua Asturiana.
- Alonso, Dámaso 1972a. *Obras completas I: Estudios lingüísticos peninsulares*. Gredos.
- 1972b. «Sobre el vocalismo portugués y castellano (con motivo de una teoría)». Alonso 1972a, pp. 17-39. (original: 1959).
- Alonso, Dámaso & Valentín García Yebra 1972. «El gallego-leonés de Ancares y su interés para la dialectología portuguesa». Alonso 1972a, pp. 315-357. (original: 1959).
- Álvarez, Rosario & Xosé Xove 2002. *Gramática da lingua galega*. Galaxia.
- Álvarez-Balbuena García, Fernando et al. 2011. «La “horiometría” o dialectometría de frontera». Antonio Moreno Sandoval (ed.) *Actas del IX Congreso de Lingüística General*, pp. 107-134.
- Andrés Díaz, Ramón de 2011a. «Fronteras lingüísticas y geotipos, con atención a la zona Eo-Navia (Asturias)». Andrés Díaz 2011b, pp. 121-151.

- (coord.) 2011b. *Lengua, ciencia y fronteras*. Trabe.
- Andrés Díaz, Ramón de et al. 2012. «Frontières linguistiques et horiométrie: La transition linguistique de l'interfluve Eo-Navia (Asturies) et le projet ETLEN». Xosé Afonso Álvarez Pérez et al. (eds.), *Proceedings of the International Symposium on Limits and Areas in Dialectology (LimiAr)*. Lisbon 2011. pp. 1-21. url: <http://limiar.clul.ul.pt/>.
- 浅香武和 2006. 「エオ・ナビア語の地理的多様性」. 『神奈川大学言語研究』28, pp. 193-206. url: <http://klibredb.lib.kanagawa-u.ac.jp/dspace/bitstream/10487/3845/1/kana-12-18-0012.pdf>.
- Asociación Abertal del Eo-Navia 2010. «Orientaciois prá escrita da nosa lingua». Xosé-Henrique Costas González (dir.) *A xente que soña desperta: Recolla de achegas á lingua e literatura galegas de Asturias*. Universidade de Vigo. url: <http://anl.uvigo.es/UserFiles/File/A%20xente/ORIENTACIOIS.pdf>.
- Babarro González, X. 1994. «A fronteira lingüística do galego co asturiano: Delimitación e caracterización das falas de transición dos concellos de Navia, Villallón, Allande e Ibias». Francisco Fernández Rei (ed.) *Lingua e cultura galega de Asturias: Actas das I^{as} Xornadas da Lingua e da Cultura Galega de Asturias*. Xerais, pp. 81-148.
- Babarro González, Xoán 2003. *Galego de Asturias: Delimitación, caracterización e situación sociolingüística*. Fundación Pedro Barrié de la Maza.
- Cunha, Celso & Luís F. Lindley Cintra 1987. *Nova Gramática do Português Contemporâneo*. 4.^a ed. Edições João Sá da Costa.
- Dubert García, Francisco 2011. «Sobre linguas e fronteiras no noroeste da Península». Andrés Díaz 2011b, pp. 427-441.
- ETLEN = Estudiu de la Transición Llingüística na Zona Eo-Navia, Asturias. url: <http://www.unioviedo.es/etlen/proyecu.html>
- Fernández Rei, Francisco 1991. *Dialectoloxía da lingua galega*. 2.^a ed. Xerais.
- Fernández Vior, José Antonio 1997. *El Habla de Vegadeo : (A Veiga y su concejo)*. Academia de la Llingua Asturiana.
- 1998. *Vocabulario da Veiga*. Academia de la Llingua Asturiana.
- Frías Conde, Xavier 2001. «Os límites entre galego e asturleonés en Asturias». *Revista de Filología Románica* 18, pp. 51-71. url: http://www.romaniaminor.net/ianua/Ianua05/ianua05_07.pdf.
- García Arias, Xosé Lluis 1985. «PI-, Cl-, Fl-, ente'l Navia y Eo». *Lletres asturianas* 17, pp. 25-29. url: <http://www.academiadelalingua.com/lletresasturianas/>.
- 1992. «Asturianisch: Externe Sprachgeschichte. Evolución lingüística externa». Günter Holtus, Michael Metzeltin & Christian Schmitt (eds.) *Lexikon der Romanistischen Linguistik. VI, 1: Aragonesisch/Navarresisch, Spanisch, Asturianisch/Leonesisch*. Max Niemeyer, pp. 681-693.
- García Arias, Xosé Lluis 1997. «El continuum llingüísticu ente'l gallegu y l'asturianu». *Lletres*

- asturianos* 62, pp. 43-50. url: <http://www.academiadelalingua.com/lletresasturianos/>.
- Gondar, Francisco G. 1978. *O infinitivo conxugado en galego*. Verba anexo 13. Universidad de Santiago de Compostela.
- 萩尾生 2005. 「バブレ語／アストゥリアス語関係法」. 渋谷謙次郎 (編) 『欧州諸国の言語法』. 三元社, pp. 222-230.
- 池上岑男 1987. 『ポルトガル語文法の諸相』. 大学書林.
- ILGa = Instituto da Lingua Galega.
- Instituto da Lingua Galega 1990. *Atlas lingüístico galego: Volume I, 1. Morfoloxía verbal*. Fundación Pedro Barrié de la Maza.
- 1995. *Atlas lingüístico galego: Volume II. Morfoloxía non verbal*. Fundación Pedro Barrié de la Maza.
- 1999. *Atlas lingüístico galego: Volume III. Fonética*. Fundación Pedro Barrié de la Maza.
- 2005. *Atlas lingüístico galego: Volume IV. Léxico. O ser humano (1)*. Fundación Pedro Barrié de la Maza.
- Llera Ramo, Francisco José & Pablo San Martín Antuña 2003. *II estudio sociolingüístico de Asturias, 2002*. Academia de la Llingua Asturiana.
- Martinet, André 1974. *Economía de los cambios fonéticos*. Gredos. (Versión española de Alfredo de la Fuente Arranz. Título original: *Économie des changements phonétiques*, 1964, 2.^a ed.)
- Menéndez Pidal, Ramón 2006. *El dialecto leonés. edición conmemorativa 1906–2006*. El Búho Viajero. (Artículo original publicado en 1906, en *Revista de archivos, bibliotecas y museos*, 2-3, pp. 128-172; 4-5, pp. 294-311).
- Muñiz, Celso 1978. *El habla del Valledor: Estudio descriptivo del gallego asturiano de Allande (Asturias - España)*. Academische Pers.
- Penny, Ralph 2000. *Variation and change in Spanish*. Cambridge University Press.
- 2009. «¿Existe una “frontera” entre “gallego” y “asturiano”?». *Revista de historia de la lengua española* 4, pp. 47-61.
- RAG = Real Academia Galega.
- Real Academia Galega 2012. *Normas ortográficas e morfolóxicas do idioma galego*. 23.^a ed. (1.^a ed. 1982).
- Saco Arce, Juan A. 1868. *Gramática gallega*. Imprenta de Soto Freire.
- Santamarina, Antón, (coord.) 2011. *Dicionario de dicionarios da lingua galega*. url: <http://sli.uvigo.es/ddd/>.

Sobre la adscripción lingüística del gallego-asturiano

Shigenobu KAWAKAMI

En este trabajo pretendemos mostrar una visión general sobre el problema de la adscripción lingüística del gallego-asturiano.

El gallego-asturiano se habla en el extremo oeste de Asturias, zona lindante con Galicia, y se le considera tradicionalmente una variedad del gallego. Fue Menéndez Pidal quien señaló como el rasgo determinante que separa el gallego del leonés (asturleonés) la no diptongación de las vocales *ẽ* y *õ* latinas (*ɛ*, *ɔ*) frente a la diptongación (*ie*, *ue*). Consideró asimismo como rasgo gallego la pérdida de la *-n-* intervocálica. Tampoco se le escapaba el hecho de que hay rasgos asturianos en zonas lingüísticamente gallegas y viceversa. Dámaso Alonso, por su parte, aportó dos rasgos más que refuerzan la tesis de la adscripción gallega del gallego-asturiano: la existencia del infinitivo conjugado y la metafonía verbal. Actualmente se puede considerar que la investigación de Babarro González es la más elaborada dentro de esta línea.

Frente a esta tradición han surgido una serie de estudios que, basados en el concepto de *continuum*, cuestionan la galleguidad lingüística del gallego-asturiano. García Arias, por ejemplo, hace notar que en la zona gallego-asturiana se observan más fenómenos comunes con el asturiano de lo que se suele pensar, aunque no presenta, a nuestro juicio, suficientes pruebas como para poder refutar la opinión más ampliamente aceptada.

Por otra parte, hay quien niega tajantemente, como Penny, la existencia de frontera entre el gallego y el asturiano. Para Andrés Díaz, sin embargo, el concepto de *continuum* es compatible con el de frontera porque ambos pertenecen a distintos grados de abstracción. El proyecto ETLEN, basado en esta teoría, pretende trazar la frontera entre los dos dominios lingüísticos en cuestión; y, viendo los datos provisionales que se han publicado, parece que la visión tradicional no va a tener que ser modificada en gran medida, aunque hay que esperar los resultados finales para poder sacar conclusiones relevantes. Por otro lado, se puede decir que, de algún modo, este proyecto plantea una redefinición del concepto de frontera lingüística, lo que invita a hacer reflexiones teóricas en este sentido.

Inversion in Sayula Popoluca and Japanese Sign Language

Nobukatsu MINOURA

0. Introduction

1. Inversion in Sayula Popoluca
2. Inversion in Japanese Sign Language
3. Reexamination of person marking and inversion in Japanese Sign Language
4. Conclusion

0. Introduction

In this paper, I will try to contrast Japanese Sign Language (hereafter JSL¹) and a spoken language, namely Sayula Popoluca (Mixe-Zoquean family) concerning inversion. What gave me the seminal idea of this paper was Tatsumi (2010). Tatsumi (ibid.) argued that Sayula Popoluca (and Algonquian) inversion has configurations with a great division between the SAP (speech act participants; namely the first person and the second person) and the third person. Right after reading her thesis, I thought that the situation is different from that in JSL. JSL seems to have a great division between the first person and the non-first person (namely the second person and the third person). I will try to demonstrate the contrast below in this paper.

1. Inversion in Sayula Popoluca

According to Tatsumi (2010: 48), inversion shows up in the morphosyntax of Sayula Popoluca. The description of inversion in Sayula Popoluca needs distinction of four separate configurations as follows:

¹ The abbreviations used in this paper are: A (actor), ASL (American Sign Language), COMP (completive aspect), DEF (definite), DIR (direct), EXCL (exclusive), HI (dominant hand), INCL (inclusive), INC (incompletive aspect), IND (independent clause), INT (intensified), INV (inverse), IRR (irrealis), IX (index(ing)), JSL (Japanese Sign Language), NEG (negative), O (nonactor), OBV (obviative), PI (pragmatic inversion), PL (plural), PROX (proximate), PSR (possessor), SAP (speech act participant), SI (semantic inversion), SG (singular), TOP (topic), TTM (Malagasy Sign Language, Tenin'ny Tanana Malagasy), V (verb).

(1)		Actor		Nonactor ²
	a. direct configuration	SAP	:	3
	b. inverse configuration	3	:	SAP
	c. local configuration	SAP	:	SAP
	d. 3:3 configuration	3	:	3

Actor equals to notional subject and nonactor equals to notional object (Tatsumi 2010: 49). When the actor is a SAP (speech act participant) and the nonactor is a third person, only direct marking is manifested (1a). When the actor is a third person and the nonactor is a SAP, only inverse marking is manifested (1b). When both the actor and the nonactor are SAPs, neither direct nor inverse marking is involved (1c). When the actor and nonactor are both third persons, either direct or inverse marking is chosen and this involves obviation.

Tatsumi (2010: 49) shows person and inversion markers in Tables 1 & 2:

<Table 1> Person and inversion markers in independent clauses

1EXCL: 2	tü=	2: 1EXCL	ix=
1EXCL: 3	tü=	3: 1EXCL	tü=x-
1INCL: 3	na=	3: 1INCL	na=x-
2: 3	in=	3: 2	i=x-
3PROX: 3OBV	i=	3OBV: 3PROX	igi=

² For the discussion of JSL, I will not use the terms actor and nonactor but stick to the more traditional terms transitive subject and primary object. (The term primary object may not be traditional. It is used in typological literatures meaning the object of a monotransitive verb and the recipient (as opposed to the theme) of a ditransitive verb. Traditional direct object includes the object of a monotransitive verb and the theme of a ditransitive verb. Traditional indirect object equals the recipient. Cf. Haspelmath (2011).) But actor and transitive subject probably overlap quite extensively and nonactor and primary object also overlap quite extensively but to a lesser extent.

<Table 2> Person and inversion markers in dependent clauses

1EXCL: 2	tü=	2: 1EXCL	ix=
1EXCL: 3	tü=x-	3: 1EXCL	tü=x-
1INCL: 3	na=x-	3: 1INCL	na=x-
2: 3	i=x	3: 2	i=x-
3PROX: 3OBV	igi-	3OBV: 3PROX	igi=

In main clauses, the inverse marker is *x-* except for the 3: 3 configuration where the inverse marker is *igi-* (Tatsumi 2010: 82). In subordinate clauses, the inverse marker *x-* loses its distinctive function as can be seen in the table 2 but the inversion is manifested in aspect marking etc. (Tatsumi 2010: 48). In the 3: 3 configuration, *i-* is the direct marker and the *igi-* is the inverse marker (Tatsumi 2010: 82).

Sayula Popoluca involves two hierarchies as shown below (Tatsumi 2010: 49):

(2) Argument hierarchy:
Actor > Nonactor

Saliency hierarchy:

1EXCL > 2
> 3PROX > 3OBV
1INCL

The saliency hierarchy manifests itself in the person and inversion markings and in the plural and aspect markings (Tatsumi 2010: 50). In the direct configuration (SAP: 3) and in the inverse configuration (3: SAP) only the SAP, which is higher in saliency than the third person, shows up in the morphosyntactic marking.

The person marker thus showing up is also marked for the actor/nonactor distinction (Tatsumi 2010: 51):

<Table 3> Person markers in direct/inverse configurations in the independent clauses:

	Actor (A)	Nonactor (O)
1EXCL	tün=	tü=
1INCL	na=	na=
2	in=	i=

Let us look at some examples (Tatsumi 2010: 52-53):

- (3) 1EXCL: 3 (direct)
tütünjatp ayüüpa yamayajw
üü tün=jat-p ayüüpa yamay ajw
I A1EXCL³=know-INC.IND this popoluca
'we know the Popoluca language'

In (3), the actor (A) set first person exclusive marker *tün=* appears.

- (4) 3: 1EXCL (inverse)
tüxche'jtaajkapama'
tü=x-che'k-taak-ka-p=ama'
O1EXCL⁴=INV-scold-INT-PL-INC.IND=DEF
'(they) scold me'

In (4), the nonactor (O) set first person exclusive marker *tü=* appears along with the inverse marker *x-*.

- (5) 1INCL: 3 (direct)
nagajawigap
na=ka-jawi-ka-p
A1INCL=NEG-know-PL-INC.IND
'(we) do not know (it)'

In (5), the actor (A) set first person inclusive marker *na=* appears.

- (6) 3: 1INCL (inverse)
je naxwangap
je na=x-wan-ka-p
she OINCL=INV-want-PL-INC.IND
'she loves (us)'

In (6), the nonactor (O) set first person inclusive marker *na=* appears along with the inverse marker *x-*.

³ A in A1EXCL means transitive agent and/or actor.

⁴ O in O1EXCL means transitive object and/or nonactor.

- (7) 2: 3 (direct)
 inpükaj mo'x
 in=pük-aj mo'x
 A2=grap-IRR.IND corn
 '(you SG) will grab a corn'

In (7), the actor (A) the second person marker *in=* appears.

- (8) 3: 2 (inverse)
 ixkayaj
 i=x-kay-aj
 O2=INV-eat-IRR.IND
 '(he) will eat you (SG)'

In (8), the nonactor (O) the second person marker *i=* appears along with the inverse marker *x-*.

Let us look at a couple of examples of 3: 3 configuration (Tatsumi 2010: 83):

- (9) 3:3 direct
 ikayp müjy
 i=kay-p müjy
 3PROX:3OBV=eat-INC.IND grass
 '(the rabbit) eats hay'

In (9), the third person proximate actor (A) and the third person obviative nonactor (O) and the directness are marked by *i=*.

- (10) 3:3 inverse
 tu'k tünkumparna'jat igita'nkot ayüü tu'k trumpuna' ita'niik
 tu'k tün=kumpar-na'-jat
 one PSR1EXCL=classmate-DEF-PL
 igi=ta'n-kot-0 ayüü tu'k
 3OBV:3PROX=foot-stick-COMP.IND this one
 trumpu-na'
 top-DEF
 'a top stuck on our classmate's feet'

In (10), the third person obviative actor (A) and the third person proximate nonactor

(O) and the inverseness are marked by *igi=*. In other words, *igi=* is the inverse marker in the 3:3 configuration.

Tatsumi (2010: 24) argues, citing Gildea (1994)⁵, that Sayula Popoluca has semantic inversion and pragmatic inversion. The semantic inversion is for direct configuration (SAP: 3) and inverse configuration (3: SAP) where the either direct marking or inverse marking is unanimously chosen according to the person hierarchy of the core arguments (actor and nonactor). The pragmatic inversion is for 3:3 configuration where either the direct marking or inverse marking is chosen according to pragmatic reasons.

2. Inversion in Japanese Sign Language

Inversion in JSL was first reported by Minoura (1998), but it covered the phenomenon only partially. Ichida (1999) gave a fuller picture of the phenomenon. The argument continued and the inversion in JSL was contrasted with the inversion in spoken languages in Minoura (2002). Before these arguments, our inversion used to be treated as passive (Yonekawa 1984: 214-216).

JSL, like other signed languages, has plain verbs, agreement verbs, and spatial verbs. Agreement verbs inflect for the transitive subject and the primary object (meaning the object of monotransitive verbs and the recipient of the ditransitive verbs)⁶. Spatial verbs inflect by incorporating the loci and the path of the movement. Plain verbs inflect neither for persons nor for loci/path.

Ichida (1999) and Minoura (2002) argued that JSL has the fourth person. But this fourth person is different from the obviative third person as seen in Algonquian languages and Sayula Popoluca. This fourth person is rather a marked third person pertaining to a higher locus in the signing space of the dominant hand (H1). The fourth person was argued to have higher agency, higher animacy, higher social status, and/or higher physical locus than the (non-fourth) third person. But at present I am rather skeptical of the concrete status of the so-argued fourth person⁷. Therefore I will put the fourth person aside for the moment and

⁵ Gildea, Spike. 1994. Semantic and pragmatic inverse: “inverse alignment” and “inverse voice” in Carib of Surinam. In: T. Givón. (ed) Voice and inversion. Amsterdam: John Benjamins Publishing Co.: pp. 187-230.

⁶ Direct/inverse analyses of agreement verbs in signed languages are not widespread at all among signed language linguists. Ichida’s and my arguments have gone unnoticed. When signed language linguists talk about agreement verbs, they talk about ${}_1V_2, {}_1V_3, {}_3V_1, {}_2V_1$, etc., but do not talk about directness and/or inversion. There is no argument of directness/inversion in signed language literature except for Ichida’s and mine.

⁷ The third person marking in this paper is a merger of the third person and the “fourth person” in Ichida (1999: 37, Minoura 2002: 49). Ichida (1999: 37, Minoura 2002: 49) actually has the examples in the “fourth person” and the (non-fourth) third person. The difference contributes to semantic differences e.g. of the verb SCOLD. With the “(non-fourth) third person” primary object SCOLD(DIR)₃ with an eye gaze toward the (non-fourth) third person, it means ‘scold.’

merge it with the third person in this paper. I will take a table from Minoura (2002: 46, Table 6):

<Table 4> JSL agreement verb paradigm

subject \ object	1	2	3
1	-	V(DIR) ₂	V(DIR) ₃
2	₂ V(INV)	-	V(DIR) ₃ ₂ V(INV)
3	₃ V(INV)	V(DIR) ₂ ₃ V(INV)	V(DIR) ₃ ₃ V(INV)

You can notice that there are only four forms in the table. Let me explain person areas in the signing space first. The first person area is the space right in front of the signer. The second person area is right in front of the interlocutor. The third person area is the areas to the right and to the left of the signer excluding first person area and the second person area. As for the movements of the agreement verbs, V(DIR)₂ starts from the first person area and ends in the second person area or for verbs with little such path movement, the sign is somehow directed from the direction of the first person area toward the direction of the second person area; V(DIR)₃ starts from the first person area and ends in the third person area or for verbs with little such path movement, the sign is somehow directed from the direction of the first person area toward the direction of the third person area; ₂V(INV) starts from the second person area and ends in the first person area or for verbs with little such path movement, the sign is somehow directed from the direction of the second person area toward the direction of the first person area; ₃V(INV) starts from the third person area and ends in the first person area or for verbs with little such path movement, the sign is somehow directed from the direction of the third person area toward the direction of the first person area. The starting point in the first person area of the direct verbs do not necessarily mean that the transitive subject is first person but rather it means that it is a direct verb. The ending point in the first person area of the inverse verbs do not necessarily mean that the primary object is first person but rather it means that it is an inverse verb. The table excludes verbs neither starting from nor ending at the first person area, i.e. ₂V₃, ₃V₂, ₃V₃. They are possible for some agreement verbs and are actually

With the fourth person primary object SCOLD(DIR)₄ with an eye gaze toward the fourth person, it means ‘complain.’ The argument of semantic differences instantiated by the choice of persons in Ichida (1999, Minoura 2002) is very interesting, but it does not fit in any ways in this paper, therefore it has been omitted. Please refer to these papers if you are interested in this argument. Ichida (1999) is in Japanese; Minoura (2002) is in English.

used. But they are physically unpronounceable and/or awkward for some agreement verbs, therefore they have been considered sporadic and have been excluded from the table.

Moreover, the direct verbs can appear with two core arguments (namely transitive subject and primary object), but the inverse verb cannot have an overt primary object in the same clause as the verb⁸. The primary object needs to be highly topicalized and needs to be understood from the context (Ichida 1999, Minoura 2002).

An example with two overt arguments for a direct verb is given in Ichida (1999: 34):

- (11) TANAKA IX₂ EXPLAIN(DIR)₂
 ‘Mr. Tanaka talks to you’
 (12) TANAKA SUZUKI EXPLAIN(DIR)₃
 ‘Mr. Tanaka talks to Mrs. Suzuki’

In the above examples of direct verbs (11, 12), you can notice that the predicate verbs do **not** inflect **both** for the subject and the primary object (= recipient) like *₃EXPLAIN(DIR)₂ and *₃EXPLAIN(DIR)₃, but the agreement for the subjects do not take place⁹. The forms EXPLAIN(DIR)₂ and EXPLAIN(DIR)₃ formally looks like ₁EXPLAIN₂ and ₁EXPLAIN₃, but the seemingly formal agreement with the first person does not codify agreement with the first person subject but rather it codifies that the verbs are in the direct forms¹⁰.

Examples with one topicalized and overt transitive subject and one covert primary object (understood from the context) for an inverse verb is given in Ichida (1999: 35):

- (12) TANAKA ₃EXPLAIN(INV), SUZUKI UNDERSTAND
 ‘(Mr. Suzuki) received Mr. Tanaka’s explanation and he understood’
 (13) IX₂, SUZUKI ₃EXPLAIN(INV)=IX₂
 ‘you, you got talked to by Mr. Suzuki didn’t you?’

⁸ It is not the topic of this paper, but Malagasy Sign Language (hereafter TTM, Tenin’ny Tanana Malagasy) allows overt primary object for inverse verbs. An example is YESTERDAY(TOP) HUSBAND(TOP) ABA ₃VISIT(INV) (As for my husband, ABA visited him yesterday). In this sentence, the inversion means that the object, HUSBAND, is more topical than the agent, ABA. But if you analyze this sentence by left dislocation of the topics, perhaps you can say that the main clause does not contain the object. Further investigation is needed to justify such argument for TTM

⁹ It is not the topic of this paper, but TTM has a verb form ₃V(DIR)₂, e.g. in a sentence PERSON ₃GIVE.MONEY(DIR)₂ EXIST? (is there a person who gives you guys money?). Ichida (1999) excludes such forms from his argument about JSL.

¹⁰ The direct forms are also used when the transitive subject is actually the first person.

In the example (12), the primary object SUZUKI does not appear in the position between the subject TANAKA and the predicate verb ${}_3\text{EXPLAIN}(\text{INV})$, which is the ordinary position of the primary object in the SOV-language, JSL, but manifests itself in the following clause as the subject of a different predicate verb UNDERSTAND. In the example (13) the primary object IX₂ does not appear in the position between the subject SUZUKI and the predicate verb ${}_3\text{EXPLAIN}(\text{INV})$, which is the ordinary position of the primary object in the SOV-language, JSL, but manifests itself in the sentence initial topic position and also as an encliticized indexing/pointing¹¹.

The form ${}_3\text{EXPLAIN}(\text{INV})$ formally looks as if it agrees with the third person subject and the first person primary object: ${}_3\text{EXPLAIN}_1$, but the seemingly formal agreement with the first person does not codify agreement with the first person primary object but rather it codifies that the verbs are in the inverse forms¹².

The translations may suggest that the predicate verbs are in the passive forms, but it does not mean that the JSL inverse forms are actually passive. Passive voice as such does not exist in JSL. But partial properties of passive voice can be expressed by other means. Topicalization of the patient can be achieved in JSL by sentence-initial placement, inversion, role shift (or referential shift), and/or pointing (= indexing) following the verb.

3. Reexamination of person marking and inversion in Japanese Sign Language

Ichida (1999) divided our third person into the third person and the fourth person. He, for some time, further divided our third person into eight “positions” (Ichida 2005: 94). His eight positions, according to him, can be dichotomically classified by [\pm uncontrollable], [\pm psychologically proximate], and [\pm socially authoritative]. His bipartite and octopartite descriptions of the third person seem to explain some semantic differentiation of verbs. But I am not too convinced that his two positions and his eight positions of our third person are “emically” concrete. In my humble opinion, they seem to be more of “etic” and somewhat fluid entities. So I treat the third person as one grammatical entity which can be formally and etically instantiated at numerous loci excluding the first person and the second person areas.

This argument of mine partially goes in line with Meier’s (1990) argument that there is even neither linguistic nor formal distinction between the second and the third persons in American Sign Language (hereafter ASL), but they form a single category of the non-first person.

¹¹ The pointing (= indexing) following the verb in JSL is sometimes called auxiliary (AUX). It conveys no lexical meaning but only the grammatical information of the person relationship of the verb (Minoura 2002: 48 fn. 8).

¹² The inverse forms are also used when the primary object is actually the first person.

<Table 5>ASL system of person categories (Meier 1990: 189):

1 st singular	1 st plural
Non-1st	

Whether JSL also has no distinction between the second and the third persons needs to be carefully examined following Meier's (ibid.) argument for ASL.

For the moment, I will stick to the traditional distinction of the second and the third persons, but I will not adopt Ichida's bipartite and octopartite treatment of our third person.

In JSL, only the direct forms are used for agreement verbs when the subject is the first person and only the inverse forms are used for agreement verbs when the primary object is the first person. When both the subject and the primary object of an agreement verb are the non-first person (i.e. the second and/or the third persons), either the direct or the inverse form is chosen according to the topicality of the persons involved.

To put it differently, JSL, like Sayula Popoluca, has semantic inversion and pragmatic inversion. Semantic inversion is for the cases where the first person is involved either as the transitive subject or the primary object and only either the direct marking or the inverse marking can be used exclusively. Pragmatic inversion is where both the transitive subject and the primary object are the non-first person. In the latter cases, either the direct marking or the inverse marking is chosen according to pragmatic reasons.

4. Conclusion

According to Tatsumi (2010), inversion configurations are divided into four parts in Sayula Popoluca. When both the actor and the nonactor are speech act participants (SAP, i.e. the first person and the second person), local configuration is used. When the actor is a SAP and the nonactor is a third person, direct configuration is used. When the actor is a third person and the nonactor is a SAP, inverse configuration is used. When both the actor and the nonactor are the third persons, the direct or the inverse form is chosen according to the topicality of the persons involved. Table 6 below is a tabulation of the example (1):

<Table 6> Inversion Configurations in Sayula Popoluca¹³

local configuration SAP: SAP	direct configuration (SI) SAP: 3
inverse configuration (SI) 3: SAP	3:3 configuration (PI) 3: 3

On the other hand in JSL, inversion configuration of agreement verbs are divided into three parts. When the transitional subject is first person, direct configuration is used. When the primary object is first person, inverse configuration is used. When both the transitional subject and the primary object are the non-first person (i.e. the second person and/or the third person), the direct or the inverse form is chosen according to the topicality of the persons involved¹⁴. Table 7 below is a product of reformatting Table 4:

¹³ What comes before the colon is actor and what comes after the colon is nonactor.

¹⁴ After I received comments from anonymous reviewers, I had little time to conduct a survey in JSL for I shortly went to Madagascar to conduct a survey in TTM. I have a good example from TTM that I obtained in August 2013 although TTM is not the language which is talked about in this paper. But I think it is relevant with TTM coming from the same group of languages as JSL, namely the signed languages. The TTM example that I obtained is like this: GANGSTER SHOOT(DIR)₃ OR ₃SHOOT(INV) (gangsters shoot or get shot). In this sentence the GANGSTER is the topic. When it is the topical agent, the verb takes the direct form and when it is the topical patient, the verb takes the inverse form. In SHOOT(DIR)₃ the index and middle fingers are pointed outward while in ₃SHOOT(INV) the index and middle fingers are pointed inward. These are not the cases of active and passive forms because the first person cannot induce a direct form when the first person is the primary object nor an inverse form when the first person is the transitive subject. When the first person is the primary object, the direct form V(DIR)₃ of the direct configuration is chosen. When the first person is the transitive subject, the inverse form ₃V(INV) of the inverse configuration is chosen.

<Table 7> Inversion Configurations in JSL¹⁵

-	direct configuration (SI) 1: non-1
inverse configuration (SI) non-1: 1	non-1:non-1 configuration (PI) non-1: non-1

To sum it up, the great division within the inversion configurations of Sayula Popoluca is between the SAP and the third person. In Sayula Popoluca, semantic inversion takes place when both the SAP and the third person are involved and pragmatic inversion takes place when only the third persons are involved. On the other hand, the great division within the inversion configurations of JSL is between first and the non-first persons. In JSL, semantic inversion takes place when first person is involved and pragmatic inversion¹⁶ takes place when only the second and/or the third persons are involved¹⁷. I suppose that the situation in JSL is conditioned by the visual-gestural modality of JSL (probably along with other signed languages). In JSL, the second person and the third person forms a natural class as opposed to the first person¹⁸. I am not sure what the motivation is for the great division between the SAP

¹⁵ What comes before the colon is transitive subject and what comes after the colon is primary object.

¹⁶ Klaiman (2005) categorized inversion in Algonquian together with Philippines-type voice system as pragmatic voice. Sayula Popoluca inversion is very similar to Algonquian inversion in many points, so it should be safe to categorize Sayula Popoluca inversion as pragmatic voice. By simply extending this, I dare call JSL (and other signed languages') inversion pragmatic voice.

¹⁷ No discussion on this direct/inverse analysis has been done on any other signed languages by any other signed language linguists than on JSL by Ichida and me. Therefore non-existence of the discussion has lead to no contrastive study of inversion between spoken and signed languages as far as I have noticed.

¹⁸ In signed languages including JSL and ASL, the second person and the third person form a natural class as opposed to the first person. Meier (1990) goes on further to conclude that there is neither linguistic nor formal distinction between the second person and the first person in ASL. I am not as radical as Meier is to conclude JSL and all the other languages lack any kind of linguistic or formal distinction, but the natural class that the seeming the second person and the seeming third person forms form is real. The first person is formally realized usually as pointing to the signer's chest (in JSL, it can be pointing to the signer's nose). The second person and the third person are realized by pointing to the non-first person areas. TTM is of no exception. When role shift takes place, the second person is realized not by pointing at the interlocutor, but somewhere else other than the first person area and the second person area. It resembles rakugo tellers (Japanese sit-down comedians) face right or left when talking to the

and the third person for Sayula Popoluca (and probably some other spoken “inversion” languages), with the first person and the second person forming a natural class. In any case, the great division for the inversion configuration is placed at different places in Sayula Popoluca, a spoken language, and JSL, a signed language.

Reference

- Haspelmath, Martin. 2011. “On S, A, P, T, and R as comparative concepts for allignment typology”, *Linguistic Typology, Volume 15, Issue 3*, de Gruyter, pp. 535-568.
- Ichida, Yasuhiro. 1999. “Nihon Shuwa itchi dôshi paradaimu no saikentô – junkô/hanten, 4-ninshô no dônyû kara miete kuru mono (Reexamination of the JSL agreement verb paradigms – what you can see after the introduction of the notions of direct/inverse and 4th person)”, *Preprints of Papers of the 25th Conference of Japan Association of Sign Linguistics*, pp. 34-37.
- . 2005. “Shuwa no Gengogaku, Dai-6-kai, Kûkan no Bumpô, Nihon Shuwa no Bumpô (2) ‘Daimêshi to Dôshi no Itchi’ (Agreement of Pronouns and Verbs, Japanese Sign Language Grammar (2), Grammar of Space, Grammar of Sign Language, No. 6)”, *Gekkan Gengo 34-kan 6-gô (Monthly Language, Vol. 34, No. 6)*, Taishûkan Shoten, pp. 90-97.
- Klaiman, M. H. 2005. *Grammatical Voice*, Cambridge University Press.
- Meier, Richard P. 1990. “Person Deixis in American Sign Language”, Susan D. Fischer and Patricia Siple, *Theoretical Issues in Sign Language Research, Volume 1, Linguistics*, The University of Chicago Press, pp. 175-190.
- Minoura, Nobukatsu. 1998. “Nihon Shuwa jishsi no junkô/hanten nitsuite (On direct/inverse of JSL predicates)”, *Preprints of Papers of the 24th Conference of Japan Association of Sign Linguistics*, pp. 46-49.
- . 2002. “Inversion in Japanese Sign Language”, *Area and Culture Studies 63*, Tokyo University of Foreign Studies, pp. 39-54.
- Tatsumi, Tomoko. 2010. Sayura Poporukago ni okeru Hanten to Soka (Inversion and Obviation in Sayula Popoluca), unpublished master’s thesis submitted to the Tokyo University of Foreign Studies.
- Yonekawa, Akihiko. 1984. *Shuwa Gengo no Kijutsuteki Kenkyû* (A Descriptive Study of (J)SL), Meiji Shoin.

second person in a story but not actually to the audience. Then the distinction between the second person and the third person is really lost in TTM. In this way, signed languages have a natural class formed by the second and the third persons opposing the first person. Therefore the division between the first person and the non-first person is deep-rooted in the structure and the type not only of JSL but also of all the signed languages.

サユラ・ポポルカ語と日本手話の反転の対照研究

箕浦 信勝

巽 (2010)によると、サユラ・ポポルカ語の反転構成は4つの部分に分かれている。動作者と非動作者の両方が発話行動参加者(SAP)の場合ローカル構成を採る。動作者がSAPで非動作者が3人称の場合、順向構成を採る。(意味論的反転。)動作者が3人称で非動作者がSAPの場合、逆向構成を採る。(意味論的反転。)動作者と非動作者の両方が3人称の場合、両者の主題性に依って順向構成あるいは逆向構成が選ばれる。(語用論的反転。)

他方、日本手話では、反転構成は3つの部分に分かれている。他動詞主語が1人称の場合、順向構成を採る。一次的(primary)目的語(単他動詞の目的語あるいは、複他動詞の受領者)が1人称の場合、逆向構成を採る。(以上、意味論的反転。)他動詞主語と一次的目的語の両方が非1人称の場合、両者の主題性に依って順向構成あるいは逆向構成が選ばれる。(語用論的反転。)纏めると、反転構成における大きな境界線は、サユラ・ポポルカ語ではSAPと3人称の間にあり、日本手話では、1人称と非1人称の間にある。

日本手話のこのような状況は、この言語の視覚・身振りモダリティーに条件付けられているものだと考えられ、恐らくは他の手話諸言語にも見られるものと思われる。日本手話では、2人称と3人称が自然類を形成し、1人称と対立する。

サユラ・ポポルカ語の反転構成における大きな境界線が、SAPと3人称の間にあることの動機付けは、上記の日本手話の状況と同様には自明でない。サユラ・ポポルカ語では、1人称と2人称が自然類を形成し、3人称と対立する。このように、反転構成における大きな境界線の置かれる場所は、音声言語、サユラ・ポポルカ語と手話言語、日本手話で異なっている。

朝鮮半島における言語接触 —中国圧への対処としての対抗中国化—

伊藤 英人

1. 本稿の目的

筆者は伊藤英人(1995ab, 1997ab, 2002, 2004abc, 2005, 2007ab, 2008ab, 2009, 2010, 2011), ITO(2004)等において、韓漢両言語間の言語接触の問題に関する考察を試みてきた。本稿では古代漢四郡以前から朝鮮時代に亙る韓漢言語接触を概観するため、研究ノートの形でこの問題を俯瞰することを試みたい。古代から朝鮮時代という長期間に亙る問題であるため、専論の形では当該問題の俯瞰をなし得ないが、中国化(sinicisation)と対抗中国化(counter-sinicisation)の観点から朝鮮半島の漢字文化受容の傾向を大きく見ること、問題の所在を明らかにしたい。

2. 漢語との接触

2.1. 漢人の朝鮮半島への到達¹

漢人の視野に朝鮮半島が入ったのは、周代のことである。『詩経』「商頌・長發」：「相土烈烈海外有截」の「海外」は朝鮮半島北西部と看做すのが通説である。紀年の確実な「朝鮮」の記載は『史記』(BC91頃成書)「蘇秦列伝」のBC334年の以下の記録である。

(蘇秦) 去遊燕 歳余而得見 說燕文侯曰 燕東有朝鮮遼東 北有林胡樓煩²

合従連衡で張儀と共に知られる蘇秦が燕の文侯に「あなたの国は東に朝鮮、遼東を持っている」と説いている。『後漢書』(五世紀初成書)「東夷列伝」は

漢初大乱 燕齊趙人往避地者数万口 而燕人衛満撃破準 而自王朝鮮

秦末漢初の動乱時に河北、山東、遼東の漢人数万家族が朝鮮に難を逃れたこと、燕王盧綰の部下の燕人衛満が伝説的な箕子朝鮮の末裔箕準を滅ぼし朝鮮王となったことを伝える。同じ内容を成書年代の古い『史記』「朝鮮列伝」は次のように記す。

(衛満) 亡命 聚党千余人 魑結蛮夷服 而東走出塞 渡[水貝]水 居秦故地上下鄣 稍役真番朝鮮蛮夷及燕齊之亡命者王之 都王儉

¹ 漢人の呼称は漢代以降であるが、春秋以来の「華夏」の人々の意味で、通時代的に「漢人」の呼称を用いることにする。

² 以下、便宜上常用漢字体を使用する。句読点はこれを施さない。和訳がある場合は全て筆者による。

以上は紀元前 195 年の出来事の記述である。盧縮が漢に叛乱を起こしたことで身の危険を感じた衛満は朝鮮風の服装をして鴨緑江を渡り、箕子朝鮮の 40 代王とされる箕準に取り入れた後、秦末漢初の動乱時に燕、齊、趙から亡命していた漢人を引き入れ箕子朝鮮国を乗っ取り平壤に首都をおいた。武田幸男(1997)はこうして成立した「衛氏朝鮮」の主要メンバーに「王」、「韓」の 2 つの姓が見え、また姓を持たない現地の首長と思しき者があるところから「衛氏朝鮮」の実体を在地の属国を含んだ連合国家と看做している。

箕子朝鮮は『漢書』(一世紀成書)「地理志」に

殷道衰 箕子去之朝鮮 教其民以礼儀田蚕織作

とあるように殷最後の王、紂のおじとしてその暴政を諫め、周の武王に迎えられ朝鮮に封ぜられた箕子によって開国されたとされる王朝である。武田幸男(1997)は「朝鮮は(中略)遅くとも紀元前四～三世紀には実在していた」(ibid. 264)としつつ「紀元前十世紀のころから後、山東地方の齊に根拠をもつ「箕」族集団が、殷周の権威のもとで燕に服属しながら、朝鮮の西部に接する遼寧地方で活動」しており(ibid. 264)、中でも箕子を先祖とする伝承を持つ「韓」姓の東来と朝鮮半島北西部への定着に言及している。「箕」族集団が漢語話者であったと見る必然性はない。というより、春秋戦国期の「諸族」分布状況から見て、非漢語集団の一つが東来し、その後の漢語化の中で「箕子」を先祖と奉じつつ漢化したものと見る方が自然である。

以上は言語資料ではなく、歴史資料から分かる朝鮮半島の紀元前後までの状況である。秦末漢初までの時期に数多くの漢人が朝鮮半島に到来し、現在の平壤を中心とした地域に漢人を中心とするコロニーを形成していたことが見て取れる。

2.2. 漢の直轄地化

前漢の全盛期を迎えた武帝の治世下、衛氏朝鮮国は滅ぼされ朝鮮半島北部は漢帝国の直轄地となる。『史記』「孝武本紀」前 109 年条にある「伐朝鮮」がそれで、翌前 108 年に楽浪、真番、臨屯の三郡を置き、さらに翌年の前 107 年に玄菟郡が設置される。いわゆる「漢四郡」時代の始まりである。ここに朝鮮半島北西部の漢化はかなりの程度進行することになる。特に平壤を中心とした楽浪郡はその後 400 年間中国「内地」として政治的、経済的、文化的中心地となる。中央から派遣された官僚、駐屯軍人、商人、在地漢人、「漢人」化した現地人が城壁で囲まれた城内に居住し、言語、風俗、法令その他全て中国内地の風が行われた。武田幸男(1997: 275)は楽浪古墳群の一つ「楽浪太守掾王光」墓について「郡庁の下役人にすぎなかったかれの墓の豪華さに、息をのむばかりである」としている。また楽浪の王氏が後世の中国でも名の通った名族であったことにも言及している。

以下では漢代の朝鮮半島の言語についての資料を見てみることにする。

2.3. 『方言』の「朝鮮方言」

西暦紀元前後に世界初の方言学書『輶軒使者絶代語积別国方言』(略称:『方言』)が漢の揚雄(BC53~AD18)によって著された(晋の郭璞276~324注)。漢帝国を約14の地域に分ち東は朝鮮、南は南楚(湖南省)に及ぶ。各地方言の類義語669項目に言及している。「朝鮮」の挙例は27次に及び、諸方言の中でも多く言及されている。揚雄は地方に出かけるのではなく首都に住まいしつ、公務その他で上京する各地の人々からその母方言を27年にわたって聞き取り『方言』を著したとされる。いわば漢帝国の同時代の各地の方言の記録であり、こうした方言の専論書は例えばローマ帝国では著されなかった。「朝鮮」は「北燕」、「洌水」(大同江)の地名と共に多出する。以下の如くである(上古音再構形は鄭張尚芳2003による)。

鍏**pug* 北燕朝鮮洌水之間或謂之鍏**thuun*?卷五

營**qreej* 陳魏宋楚之間曰[兪瓦]或曰[朱瓦]燕之東北朝鮮洌水之間謂之甄**dajs* 卷五

紀元前後の朝鮮半島の言語の単語の実際の姿を示す同時代資料は『方言』所載の漢代漢語二十数語のみである。劉君恵(1992)は同書の詳細な検討を通して漢代の方言分区を試み、「朝鮮方言」を「北燕朝鮮方言」という大方言の下位方言と看做している。そして北燕朝鮮方言は燕、齊一帯の方言と歴史的に密接な関係を持ちつつも前漢時代にはすでに比較的孤立した方言になっていたとする。またこの方言の最古層は殷代の畿内方言と類似しつつも、一方でこの地域の原住民の語彙を含んでいる可能性についても触れている(ibid. 224)。しかしながら、『方言』の朝鮮方言の例を朝鮮語史の観点から検討した研究は管見の限り存在しない。

一方、上古漢語と朝鮮語の間に関連のある語(対応詞)を見出そうとする試みは近年活発さを増しつつある。侯玲文(2009)は単行本としてこの問題を扱った研究書の嚆矢であり、宋兆祥(2011)は後述する借字表記法の字音の問題までも扱った単行本として侯玲文(2009)に続く達成をなしている。

2.4. 三世紀の朝鮮半島の言語分布

三世紀の東北ユーラシアから日本列島にかけて存在した諸民族、諸言語の最も信頼し得る資料は『三国志』(西晋・陳寿233-297年撰)魏書卷三十「烏丸鮮卑東夷伝」である。俗称「魏志倭人伝」もこの中の「倭人」条のことを指す。河野六郎(1993)はこれについて「通行本」(殿版・百衲本・中華書局本)と『太平御覧』との校勘を行った後、歴史言語学的観点から考察を加えた研究である。これによれば次の諸民族が確認し得る。

① 漢人, ② 東胡(鮮卑と同系, 中国東北部), ③ 貊族(夫餘・高句麗・沃沮・濊の4つの下位グループに分かれる, 中国東北部から朝鮮半島, 濊は朝鮮半島東海岸), ④ 韓族(朝鮮半島南部), ⑤ 倭人(日本列島, および朝鮮半島最南部?), ⑥ 州胡(濟州島, 言語は韓と異なる), ⑦ 挹婁(沿海州からシベリア, 言語は夫餘, 句麗と異なる)

朝鮮半島と日本列島の諸言語に係るのは, ①, ③, ④, ⑤, ⑥である. これらのうち, 具体的な語形について言及があるものは①, ③, ④, ⑤の4言語である.

2.4.1. 漢語

同書「韓」条に次の記述がある.

辰韓在馬韓之東 其耆老伝世 自言古之亡人避秦役来適韓国 馬韓割其東界之地与之 有城柵 其言語不与馬韓同 名国為邦 弓為弧 賊為寇 行酒為行觴 相呼為徒 有似秦人 非但燕齊名物也

これらは当時の漢人から見て辰韓の漢語が秦代以前の古い漢語であると看做されたことを記述している. 森博通(2011)は「名国爲邦(「国」を「邦」と言う)」が決定的であるとし, 漢代以降は漢の高祖劉邦の諱(いみな)を憚って「邦」を「国」と言い換えたため, それ以前の漢語と判断されたとする. ここで思い出されるのが, 箕子朝鮮, 衛氏朝鮮滅亡後に南に逃げた, 「韓」氏をはじめとする漢人たちである. 朝鮮半島南部の馬韓東部に, 馬韓人(原住民)である「辰王」の支配下に, 城郭都市を形成して(一方, 馬韓自体は「無城郭」と記述されている)定住していた漢人都市が三世紀にも存在しており, そこでは古風な漢語が話されていたという事実である. 後述するが, こうした漢人都市が, 新しい渡来漢人を吸収しつつ, 半島から列島にかけて七世紀まで存続し続けた事実が厳然と存在する.

2.4.2. 夫餘系言語(高句麗語)

夫餘系の言語を代表する高句麗語は, 後に朝鮮半島北半部に高句麗を建国した民族の言語の一つである. また馬韓五十余国のうちの一国「伯斉国」は後に百済を建国するが, 百済の支配階級の言語も夫餘系であり, 被支配民族の言語は後述する馬韓語という韓系言語であったことは広く知られている(河野六郎 1987 参照). 夫餘・高句麗・沃沮・濊を含め, 『三国志』が証言する夫餘系言語の語例は次の高句麗語の2例のみである. なお「夫餘系言語」が果たして同一語族に属する言語であったか, 多部族・多民族の連合体であった「高句麗」語とされる諸単語が同一言語の語であるのか否かも今日では判然としない.

- a. 溝漚者句麗名城也 高句麗語で「城」を「溝漚**koo-g'roo*」という。
b. 句麗呼相似爲位 高句麗語で「似ていること」を「位**G^wruubs*」という。

河野六郎(1993)は上例中 a を唯一例とするが、Beckwith(2007)は上記2例に言及している。「城」の高句麗語は後代資料では「忽」と記される。河野六郎(1993)は「溝漚」>「忽」に対して、**koro* ~ **kolo* > **kor* を、Beckwith(2007)は **kuru*(Archaic Koguryo) > **kuər*(Old Koguryo)を再構している。これらは後代の朝鮮語に比定し得る反照形を持たない。後者の「位」について Beckwith(2007)は Archaic Koguryo の語として **wi*: “to resemble”, look like’ No Japanese cognate has yet been identified. としている。河野六郎(1993)は後代の高句麗語を含め、夫餘系高句麗語を「系統不明」とする。Beckwith(2007)は「日-高句麗同系」論者であり、**kuru* を日本語「蔵」*kura* 等と同源とする。

2.4.3. 韓語

韓族は朝鮮半島南部に数多くの「国」を形成していた。上述のように馬韓五十余国中「伯斉国」が後に半島南西部に夫餘系征服王朝を建て、辰韓十二国中の「斯盧**se-g'roo*」が後の新羅を立てる。河野六郎(1993)が挙げる韓語の例は「○○卑離国」の形で多出する、「集落」を表すと解される「卑離」である。

**piri* (三世紀韓語) > **puuri* 夫里 (百濟民衆語・馬韓語) > **puur* 伐 (新羅語)

新羅語で *apocope* が生じる例は多く、この語もその一つと看做しうる。上述「斯盧」は後に漢語の音韻変化に伴って「斯羅」と書かれるが、**sira* に **puur* が付いた形が **sirapur* であり、新羅語で *breaking of *i* を起こしたものが *syərapuur* (徐羅伐)となり、新羅(慶州)を指す。*syərapuur* (徐羅伐)はまた略されて *syəapur* (徐伐)となり、*syəapur* > *syəəvuur* (十五世紀朝鮮語) > *səur* (現代朝鮮語、ソウル、首都)になることは広く知られている。河野六郎(1993)は夫餘系の百濟王族語の「集落・城」を意味する *ki* (己)が **puur* の代わりに **sira* に付いた **siraki* が、日本語の「シラキ_乙」であるとする(ibid. 20)。「城 キ_乙」が一般語彙として上代日本語に借用され、「*miduki* 水城」、「*kiduku* 築く cf. *tuka* 塚」などに名残を留めている事実は周知の如くである。図示すれば以下の如くである。

「城邑」を意味する語

三世紀韓語 > 韓系百濟民衆語 > 新羅語
卑離 *piri* > 夫里 *puuri* > 伐 *puur*

夫餘系百濟王族語 倭語

己 ki ki

倭語における複合語 水城 midu= ki, 築く ki=duku < ki+tuku cf. tuka(塚)

「新羅」を意味する語

夫餘系百濟王族語 倭語

*siraki siraki > siragi

韓系百濟民衆語 > 新羅語 > 新羅語 >

*sirapuuri > syərapuur > syəapuuri
breaking of *i syncope
acocope
徐羅伐 徐伐

>十五世紀朝鮮語 現代朝鮮語

> syə:vuur > səur (ソウル, 首都)

Ersatzdehnung

ここでは朝鮮半島南部に「韓」と呼ばれた民族が居住し、その言語は現代の朝鮮語に繋がるという事実を確認しておきたい。

なお、この民族名「韓」は漢語であり、先述のように楽浪「韓」氏の冒称である。『魏略』の「冒姓韓」の文言は朝鮮半島では歴史を通して認識されており、十九世紀初に刊行された権文海による百科事典『大東韻府群玉』の「韓」条にも「冒姓韓」が引用されている。「韓」を「偉大な」を意味する韓語形態素とするのは近代国民国家観の過去の歴史への投影による牽強附会である。そもそも漢人は周辺民族に好字を用いることはない(「狄 ケダモノ」, 「貊 ムジナの仲間」, 「蛮 昆虫や蛇の仲間」参照)。吏読における「大舎>韓舎」の表記では確かに南豊鉉(2013)の説くように「大=韓」であるが、「韓舎」ははるか後代の日本資料である。一方、民族自称としての「韓」は漢四郡期に遡り、かつ朝鮮時代でも「冒」りな呼称と認識されていた事実は否定できない。

2.4.4. 倭語

「倭人」条所載の「卑奴母離 *pe-naa-mu?-rels」, 「卑狗 *pe-koo」などが, 上代日本語の Finamori <*pinamori (鄙守り), Fiko <*piko (彦)に繋がることは古くから説かれており, 三世紀の日本列島で後代の日本語に繋がる言語が話されていたことは確実である。ただし, 日本列島における倭語圏の当時の広がりやどこまでであり, どの程度であったかは不明である。

河野六郎(1993)をはじめ多くの論者がこの時期に朝鮮半島南部に倭語を話す集団が存在したことに言及している。弁辰十二国中の「浣盧国」が「倭」と「接界」しており, 弁辰十二国中の「弥烏邪馬国」を*Mi-wa-ya-ma と解している。

本稿では触れないが, 『三国史記』(1145 年成書) 地理志所引の朝鮮半島の古地名を形成する語には日本語と共通する数十の語が存在し, 新村出博士以来, これらは高句麗語, 濊語などと看做されつつ永年に亘って系統論上の問題とされてきた。上述の Beckwith (2007)もそうした流れの中の日-高句麗語同系論である。

『三国志』所載の語彙中, 日本語との関係が問題となるのは「牟盧 *mu-g'roo」である。「咨離牟盧国」, 「牟盧卑離国」などに現れる。兪昌均(1983), 南豊鉉(2009)に述べられるように, これは後代「牟羅」として現れ, 「村落」を意味する一般名詞となる。南豊鉉(2009)によれば, 1988 年発見の「蔚州鳳坪新羅碑」(524 年)の「居伐牟羅」の例, 『梁書』(七世紀成書)「新羅伝」に新羅では「城」を「建牟羅」というとする記載, また「耽牟羅>耽羅」の例から済州島を含む「韓語」の「村」を現す語として三国時代に使用されたとする。

しかし, 上記の諸論が論じていない点が 3 点ある。

- ① 三世紀の「牟盧*mu-g'roo」は倭王権が朝鮮半島南部に影響力を行使するよりも以前の「倭語」地名と看做し得る。地名学(toponymy)や水名学(hydronomy)の教えるところによれば河川名を含む地名は先住民族のそれを襲うことが多い。
- ② 牟盧は *mura と再構されるが, 韓語としては解釈され得ず, 「wosu(統治する): wosa(長)」, 「naFu (絢う) : naFa(縄)」, 「turu(連れる) : tura(列)」, 「tamu(廻める) tama (玉)」のような, 用言語幹末母音の-u~a 交替による「muru(群れる)」の「情態言」と解し得ること。
- ③ しかしながら『類聚名義抄』の村のアクセント(HL)と「牟羅」の古韓音の声調の推定調値(平平: LL)と合わない。

「牟盧>牟羅」については稿を改めて論じたいが, 倭語の話し手が日本列島に行ききってしまう以前に朝鮮半島に残してきた倭語の残滓と看做し得る可能性を考えている。なお, 現代朝鮮語の maur (村)は古代朝鮮語 *mazark に遡及し, 倭語 mura とは一切関係のない語である。なお, 十五世紀朝鮮語には「群れ」を意味する mur (去 H)が存在するが, 派生接辞*{-a}の存在

は朝鮮語史において確認されていない。

2.4.5. 三世紀言語状況のまとめ

以上を要約すれば以下の通りである。

- ① 朝鮮半島西部の楽浪，帯方郡以外にも各地に漢語話者が都市を形成して居住していた。このうち馬韓東部，恐らくは洛東江流域の漢人都市の言語は楽浪郡のそれよりも古風な漢語であった。
- ② 半島中北部，東部には夫餘系諸語が話されていたが，夫餘系諸語が同一語族に属するかも判然とせず，それら諸言語の系統も不明である。
- ③ 半島南部には韓系言語が話されており，これは今日の朝鮮語に繋がる。
- ④ 日本列島には倭語が話されており，これは今日の日本語に繋がる。
- ⑤ 倭語は朝鮮半島南部でも話されていた可能性がある。

2.4.6. 遊牧国家の諸言語との関係

杉山正明(2011)は漢の武帝による朝鮮経営の理由として朝鮮が漢より先に匈奴帝国の影響下にあったこと，匈奴の「左賢王・右賢王」の用語が五世紀の百済でも使用されていた事実に触れている。アルタイ諸語と朝鮮語の比較研究は Ramstedt(1954, 1982)，それを引き継ぐ Poppe(1960)を始めとして汗牛充棟である。しかし，近年の中央アジア史研究でアルタイ諸語の語形に比定された匈奴，東胡，鮮卑，烏丸，柔然，契丹その他の固有名詞，役職名等について，朝鮮語史の観点からも見てみる必要がある。

2.5. 朝鮮半島，日本列島の漢人たち

紀元前 108 年に楽浪・真番，臨屯郡の三郡が，翌 BC107 年に玄菟郡が設置され「漢四郡」の時代が始まる。BC82 年には真番，臨屯の二郡が廃止され，玄菟郡は二度に亘って西方に移される。AD204 年に公孫氏が楽浪郡の南に帯方郡を設置し，238 年魏が公孫氏を倒し，楽浪，帯方の二郡を接收する(卑弥呼の遣使はその翌年である)。この後，高句麗が 313 年，314 年に楽浪，帯方の二郡を滅ぼすまで，朝鮮半島中西部，西北部は中国の直轄地である。

漢人の東渡は，前述の難民としての移住，平時の移住，郡への赴任などさまざまな理由が考え得るが，最大のそれは交易である。郡の外には，夫餘，高句麗，沃沮，濊，倭，州胡などさまざまな漢化していない原住民と亡命漢人が小集団を成して住んでいるが，彼らと郡との関係は交易と政治の両面の要素を持つ。

交易に関して言えば，後漢の許慎の『説文解字』(100-121 年成書)に，多くの魚介加工品が「楽

浪藩国に出づ」として載せられていることを武田幸男(1997)が指摘している。恐らくは濊を介して楽浪に届けられた特産の食品が漢帝国の首都に流通している事実を示唆している。朝鮮半島のみならず、人口の多い倭地域も重要な交易の相手であり、諸族の首長は中国貿易の窓口を独占するために「朝貢」を行う。『後漢書』「倭」条の「使駟通於漢者三十諸国 国皆称王」も漢との交易関係を持つ倭の諸国が三十余りあったということであり、AD57年に光武帝から印綬を賜った奴国もそうした諸国の大なるものである。こうした原住民の諸国にはそれぞれ漢人のアドヴァイザーが複数存在し、郡への取次ぎ、「使駟→使訳」すなわち通訳業務から、プロトコルに合わせた儀仗、文書作成、朝貢のタイミングの見計らい等一切を請け負っていたと考えるほかない。

政治的側面について言えば、中国の公認を受け、その威信財を下賜されることにより、それら威信財を周辺の諸「国」に再配分することによって周囲への優位を示すことが可能になる。高句麗が古くから「朝服衣幘」を、諸韓、諸倭、濊も衣服を始めとする威信財を下賜された事実が記録に見られる。卑弥呼も「好き物」を多く賜ったことは知られる通りである。郡と韓、倭、濊の関係はいつも平穏とは限らない。漢代にも韓濊の反抗は見え、魏の楽浪、帯方接收以降の三世紀中頃、韓の一国である臣瀆活国が中心となった韓の反乱では帯方太守が戦死するに至っている。しかし紀元一世紀から王莽の新、漢と戦争を含む激烈な国際関係を織り成していた高句麗と比べると、韓、倭、濊と中国王朝の関係は多様ではない。この時期までの対中国通交に、高句麗語、韓語、濊語、倭語の話者であったであろう諸国の王宮の現地首長層が自ら漢語を書いて漢語を用いていたとする、積極的証拠は存在しない。

314年の帯方郡滅亡以後、半島と列島の漢人は政治的に本国から切り離される。しかしこの後も半島から列島に漢語話者集団が存在しつづけ、帯方郡滅亡直後の西晋滅亡、その後の五胡十六国の乱を避けて半島と列島に渡来した新来漢人によって上書きされつつ、さまざまな地域的時代的変種を含む漢語話者集団が少なくとも七世紀まで存在した。

辰韓のアルカイックな漢語についてはすでに触れたので、ここでは『隋書』(七世紀成書)の記載を見よう。

方有十郡 郡有将 其人雜有新羅 高麗 倭等 亦有中国人 「百濟」条
其人雜有華夏 高麗 百濟之属 「新羅」条
又至竹斯国 又東至秦王国 其人同於華夏 「倭国」条

六世紀の半島と列島の諸族の分布が語られている。

- ① 百濟の各郡には新羅人、高麗人、倭人、中国人が雑居している。

② 新羅には中国人，高麗人，百濟人が雑居している。

③ 筑紫の東，難波以前の地に「秦王国」があり，その住民は中国人である。

③は隋使の斐(世)清の見聞であり，七世紀初頭の日本列島の同時代的記録である。

ここで少し漢人のことを離れ，四世紀から七世紀の朝鮮半島と日本列島の漢人以外の住民分布について考えてみよう。日本列島には倭人が，伽耶，百濟，新羅地域には韓人と濊人が住民の主要構成要素であり，百濟の王族は夫餘系言語を話していた。高句麗語と濊語は実体を知り得ない。

しかし，上述 2.6.の①，②から知られるように，百濟地域にも新羅人，高麗人，倭人が雑居し，新羅地域にも高麗人，百濟人が雑居していた。近年発見され，現在十三基確認されている全羅南道栄山江流域の五世紀末～六世紀前半の前方後円墳からも確認し得るように朝鮮半島南西部には倭系豪族が居住していた。

一方，田中史生(2005)，吉村武彦(2010)が考古学の成果を引きつつ明確に述べるように，五世紀初頭以後，伽耶地域から近畿地方への技術者の大量の渡来が認められ，日本列島内に多くの韓系住民が存在したことも確実である。累次にわたるいわゆる「渡来人」についてはここであらためて触れることをしないが，伽耶，百濟，新羅の韓人の他，殊に六世紀以降の百濟からの仏教導入，その後 663 年の白村江敗戦以降の百濟王族・貴族の倭への亡命による夫餘系百濟語話者の流入，同様に高句麗の言語の話者の受け入れなどから見て，七世紀末の日本列島も倭，韓，夫餘系百濟語，「高句麗語」話者集団の混住する地域であったという点で朝鮮半島と同様であった。

白村江敗戦から 100 年を経た八世紀後半にも日本列島が多言語であった証左として 761 年に美濃と武蔵の少年各 20 人に新羅語の学習を命じた事実を挙げ得る(『続日本紀』卷二十三，天平宝字五年正月乙未条)。美濃も武蔵も新羅人の入植地であり，武蔵ではこの直前に「新羅郡」が新設されている(因みにこの時期の武蔵国守高麗福信は武蔵国高麗郷を形成するに至る高句麗王族である)。学ばせられる少年達は当然新羅語を解さなかったであろうが，それでも他の人々に比して新羅語が学びやすいであろうと考えられる程度に新羅語の痕跡があったことの証左ではないかと考えられる。記録には新羅語を教える教師についての言及がないが(812 年の越中国における渤海語学習に関しては教師名の高多仏，帰化後高庭高雄が伝わっている)，大宰府から新羅訳語を派遣するのではなく新羅語を話す郷内の父老から学ばせようとしたものと考えられる。なお，律令政府はこの後も新羅からの移民(帰化)を受け入れ続け，842 年 8 月 15 日に新規の新羅人の帰化を一切認めなくなるまで断続的に新羅語話者のニューカマーが九世紀半ばまで列島に移住して来ていた。

ここで東夷諸国の王宮の言語を見てみよう。

百済の宮廷に関しては、『周書』(七世紀成書)「異域伝百済」条に

王姓夫余氏 号於羅瑕 民呼為韃吉支 夏言並王也 妻号於陸 夏言妃也

『日本書紀』古訓では「王」を「コニキシ」,「オリコケ」「夫人」を「オルク〜オリク」と訓む。万に一つともいうべき偶然によって知り得る日中の記録から百済では

王族語 民衆語

王 於羅瑕・オリコケ 韃吉支・コニキシ

妃 於陸・オルク〜オリク

と称していたことが分かる。民衆語の「韃吉支・コニキシ」は後代の韓語の *k^hin kiicA* (大王)で解し得るが、王を「於羅瑕・オリコケ」、妃を「於陸・オルク〜オリク」と呼んだ「夫餘系」百済王族語は如何なる系統に属する言語であったのか今日では全く知り得ない。

倭の宮廷に関しては、『隋書』

倭王…号阿鞞鷄弥…妻号鷄弥…名太子為利歌弥多弗利

の「阿鞞鷄弥」,「鷄弥」,「利歌弥多弗利」がそれぞれ倭語の「オホキミ」,「キミ」,「ワカミトホリ」に比定し得ることからも倭語を用いていたことが明らかである。新羅王宮についてはここに詳述しないが百済民衆と同じ韓系言語を用いていた。

3. 朝鮮半島における漢語, 漢字の受容

3.1. 漢人から現地人へ

「朝鮮半島における漢語, 漢字の受容」というと,「漢語, 漢字」が朝鮮半島にやって来たように受け取られがちだが, 事実上, 先ず「漢人が来た」のである。

漢人は「読書音」と「書字」の伝統を伝承する。2.6.で述べたように中国諸王朝との外交実務を担当したのは朝鮮半島, 日本列島内に居住する漢人であったと考えられる。武田幸男(1989), 李成市(1998), 田中史生(2005)も, 帯方郡滅亡後に東夷諸国に流入した漢人が晋朝回復志向を持ちつつ外交文書作成に携った可能性について述べている。漢人集団は何度もわたって東来し, 新しい字音, 新しい漢語知識を上書きしていったが, 先秦あるいは漢代, 魏晋代以来朝鮮半島に北回りでもたらされた漢語の古層もまた消し去れることなく残存していたと考えられる。

外交実務のみならず, 各地域の王権の成長とともにそれぞれの地域での威信財の銘文作成にもこれらの漢人が関与するようになる。

日本列島で5世紀半ば以降に作成された千葉県稲荷台出土「王賜」鉄剣銘、稲荷山古墳出土鉄剣銘(471年)、同時期の江田船山古墳出土鉄剣銘もその銘文は漢人によって書かれたであろう(田中史生 2005 参照)。外的証拠は江田船山古墳出土鉄剣銘の「書者張安也」であり、内的証拠は森博通(2003)が明らかにした稲荷山古墳出土鉄剣銘の「古韓音」声調による倭国語アクセントの書き分けである。比埜ヒコ(上上:HH)、足ニスクネ(入平:LLL)、獲居ワケ(入平:LL)、獲加多支齒ワカタケル(入平平上:LLLH)の声調が倭国語のアクセントと完全に一致している。

「古韓音」はある意味で当然のことながらその後の呉音、漢音同様厳密な声調の別をもって使用されていたと考えられるのである。

「古音」、「古韓音」、「推古朝遺文の漢字音」、Archaic Northeastern Middle Chinese(Beckwith2007)と称される漢字音は、中古音を母胎とする呉音、漢音よりも古い時代に朝鮮半島を経て倭国に伝えられた漢字音である。現代日本語に繋がる例を2つだけ記せば次の通りである。

漢字	中古音	呉音	漢音	古韓音	仮名
止	tʃi	シ	シ	tju > tö	とト
乃	nai	ナイ	ダイ	nuui? > nö	のノ

今日の日本語話者の用いる「と、ト」、「の、ノ」の仮名の音は、楽浪、帯方郡以来、北回りで朝鮮半島に伝えられさらに倭国に伝えられた古音の名残であり、六世紀以降百済経由で南朝からもたらされた呉音や、唐代長安から直接日本にもたらされた漢音の系統をひくものではない。

外交文書や威信財銘文作成には漢人の手を借りることは可能であるが、国内行政用に漢字を使用するためには現地人の漢字漢語学習が必要となってくる。高句麗が王族や貴族の子弟教育のための「太学」を設置するのは372年である。556年と推定される「高句麗城壁石刻銘」は後述するように萌芽的な吏読文であり、工事の担当者、監督者の達成の覚書であり、国内用行政文書と看做し得る。現地人の漢字漢語学習における漢字音は、理想的には漢語本来の音に近く発音されることが要請された。漢語本来の音(時代によって理想とされる音は変わる)が学習されるべきであるという姿勢は日本では九世紀まで確認される。伊藤英人(2004a)で述べたように『続日本紀』卷十五承和十二(845)年二月丁酉条の明経道教授善道真貞(よしみちのみちさだ)死亡に言及した箇所彼の漢語の音が

但旧来不学漢音 不弁字之四声 至於教授 忽用世俗踏訛之音耳

で、律令国家で正統とされた漢音でなかったことが特記されている事実からも確認し得る。

しかし実際において、朝鮮半島、日本列島の現地学習者はそれぞれの土地の「世俗踏訛之音」

を用いざるを得なかったこともまた事実である。

比較的近年発掘された飛鳥池遺跡出土の字書木簡(八世紀初)に

熊 [汗吾] 蜚 [皮伊]

のような万葉仮名で日本式の漢字音が記されている例がある。また、開元七(719)年新羅甘山寺阿弥陀仏および弥勒像光背銘の作者が

金志誠 (阿弥陀仏光背銘)

金志全 (弥勒陀仏光背銘)

のような表記のゆれを見せることについて河野六郎(1957/1980)は「誠は syən, 全は jyən で, s と j の混同, n と ng の混同を平気で示している」と指摘している。三国時代の朝鮮半島, 倭国時代の日本列島の漢字音については正確なところははっきりしていないが, 上述のように現地人の漢字漢語使用に伴う不完全な発音と, 古音の残存が確認され, なかんづく後者は三国時代の朝鮮半島経由の字音を今日の仮名にまで保っていることを確認しておきたい。

3.2. 韓習, 倭習の発生

ここからが本稿の中心をなす。漢語と漢字を学習しはじめた高句麗の支配層と官吏は, 国内行政に漢字を用いるようになる。その最初の例が上述の「高句麗城壁石刻銘」である。556年と推定される碑文の冒頭を鮎貝房之進(1934), 南豊鉉(2000)の釈文と共に示せば以下の通りである。

丙戌十二月中 漢城下 後ア小兄文達 自此西北行涉之

丙戌年の十二月中に漢城下の後部出身の小兄である文達が(監督した)。ここから西北の方を受け持った。

「十二月中」の「~月中」は1978年の稲荷山古墳出土鉄剣銘の「七月中」と絡めて漢文の韓国的用法(韓習)ではないかとの議論が盛んに行われたが, 現在では否定されており南豊鉉(2000)もこれを吏読と認めていない。李成市(2002)は「部」の省文「ア」が1995年に発見された「百濟扶余宮南池木簡」(634年~660年)に「西ア(西部)」として見え, 「部=ア」が高句麗から伝えられたことについて述べている。また小林芳規(2005)は日本の島根県松江市大庭町岡田山一号古墳出土環刀太刀銀象嵌銘(六世紀後半)に「各田ア=額田部」に現れることを指摘している。このような高句麗に由来する漢字の省文が倭や百濟に伝えられた事実は近年の出土木簡資料によって確認されつつある。なお「各田ア=額田部」は「訓読み」漢字の日本列島における初出例で

ある。この「ア」は後代、平仮名、片仮名の「へ、へ」の字源となる。

「高句麗城壁石刻銘」に100年先行する(五世紀前半)の高句麗金石文資料が1978年に韓国忠州で発見されている。「中原高句麗碑」である。高句麗の石碑と言えば「広開土王碑」(414年)が有名であるが、それは李成市(2002)の述べるように純然たる漢文で書かれている。これに対して同時期の「中原高句麗碑」は高句麗が支配下に置いた新羅人への通知文であり、純粋漢文からは逸脱した漢字列が認められる。

太位諸位上下 衣服来受教 跪宮之

太位と諸位の上下は衣服を受け取りに來いといわれて宮に跪いた(南豊鉉 2005)

「衣服来受教」の語順は明らかに漢語のそれと異なる。文末の「之」も初期史読で常に問題となる文字である。

李成市(2002, 2007)は高句麗において本来の漢語とは異なる漢字使用が先に開発され、新羅は高句麗の影響下で漢字使用を始めたのであって、中国から直接に漢語、漢字文化を受け入れたのではないことを強調している。高句麗において開発された本来の漢語とは異なる漢字使用が倭国にもたらされたことについても李成市(2002)、田中史生(2005)は572年に百済からの渡来人である王辰爾が既存のフミヒトが解読できなかった高句麗の国書を解読したことについて、それが高句麗式の「俗漢文」で書かれていたため半島からの新規の渡来人である王辰爾には解読できたが、その用法に習熟していないオールドカマーの漢人たちには読めなかった故事に基づくとしている。田中史生(2005)はさらに王仁、王辰爾など倭国に漢字文化を伝えたとされる人々が中国系「王」姓の者であることに注目している。

倭国における倭習の例は法隆寺金銅薬師仏光背銘(607年)が有名である。小谷博泰(2006)の訓み下しと共に冒頭部分を示す。

池辺大宮治天下天皇大御身勞賜時

池辺の大宮に天下治めたまひし天皇(すめらみこと)大御身勞(つか)らし賜ひし時

恐らくは「たまふ」という助動詞を表記したと考えられる「賜」の用法などから「和文」表記の初例とされてきた。中原高句麗碑からは200年近い時間を経ているが、高句麗にその淵源を持つ変則漢文の流れの中で成長してきた「漢字による東夷諸語表記」の後代の例である。5世紀以降の朝鮮半島の「韓習」の例を追うことで、日本語表記の起源を以下で見ていくことにする。

4. 朝鮮半島における漢字による自言語表記

李成市(2002)は「高句麗を經由して漢字文化を受容した新羅では、それらを基本としながらも独自の文字文化を形成するための試行錯誤があったものと推測される」と述べているが、高句麗の金石文、百済の金石文、出土木簡と比べても、新羅の漢字使用は一種異様である。李成市(2002)は「迎日冷水新羅碑」(503年)、「蔚珍鳳坪新羅碑」(524年)、「丹陽赤城新羅碑」(545年+ α)にいずれも高句麗以来の文体が認められるとしている。

1989年に慶尚北道迎日郡冷水里で発見された「迎日冷水新羅碑」(503年)には「王命」を意味する「教」を句末に反復する用法が見られる。1988年に発見された「蔚珍鳳坪里新羅碑」(524年)には

若此省皆罪於天
もしこれを省いたら天に罰せられる

という文が見られる。「此省」は目的語が前置された例であると考えられる(南豊鉉 2000)。1978年発見の「丹陽赤城新羅碑」(545年+ α)には

更赤城烟去
さらに赤城烟に行き

合五人之
全部で五人である

のように漢語の語法を無視した例が見られる。

近年発見された「慶州塚字木簡」の年代は7世紀前半と推定される。

大鳥知郎足下万拜白々／経中入用思白不雖紙一二斤／牒垂賜教在之 後事者命尽／使内
市大樹(2012)の解説によれば

大鳥知郎の足下で常に拜んで、次のようにお問い合わせ申し上げます。経で必要となる紙を、たとえ白紙でなくてもよいので、一二斤買いなさい、という牒を垂れ賜えという命令がありました。後のことは命令の意を十分に察した上で処理して下さい。

「経中入用」の「中」は明らかな吏読の初出と考えられる。「中」は朝鮮時代には *ahwi* と読まれ処格(於～)を表す。「使内」は *palŋi* と読み、「処理する」の意味の吏読として19世紀まで用いられた。

韓習漢文の極限は「壬申誓記石」(552年あるいは612年)である。冒頭部分を李成市(2002)の試訳と共に示す。

壬申年六月一六日二人并誓記天前誓今自／三年以後忠道執持過失无誓若此事失天大罪得誓
壬申年六月一六日に二人并(なら)びて誓い記す。天の前に誓い、今自(よ)り三年以後、忠道
を執持し、過失无(な)きを誓い、若し此の事失えば天に大罪を得んことを誓い

漢字列と日本語訳を比較してみればこの漢字列は日本語と同じ語順で並べられていることが分かる。これから知り得ることは新羅語が現代朝鮮語と同じ語順であったこと、新羅語の語順に合わせて漢字を並べる表記法が新羅で完成していたことである。

ただ、この資料はそれがどのように発音され読まれたかを知る手がかりは全くない。こうした表記法を朝鮮語学で「誓記体」という。

年代が確実な、明らかに新羅語部分をも表記した例は「南山新城碑」(591年)が最初である。河野六郎(1957/1980)の解説と南豊鉉(2000)の積文からその冒頭部分と和訳を示す。下線部が新羅語を表記したと考えられる部分である

辛亥年二月廿六日南山新城作節如法以作後三年崩破者罪教事為聞教令誓事之
辛亥年二月廿六日、南山新城(を)作るとき如法で作る。後三年(以内に)崩破したら罪とする
ことにして奏聞せよとの教令に従って誓う事

「以」は ro(～で)、「者」は in(～は、～ば)と読まれたであろうとすることは河野六郎(1957/1980)と南豊鉉(2000)に共通する。法隆寺金銅薬師物光背銘の「賜」と同様、万葉仮名表記でないため正確な音価は不明だが、法隆寺金銅薬師物光背銘が「和文表記」の嚆矢であるならば、それにやや先立つ南山新城碑は「韓文表記」の嚆矢であると言えよう。

漢字による新羅語表記が全面的に展開するのは676年の新羅による朝鮮半島統一以降(統一新羅)の時代である。

「新羅華嚴經写経造成記」(755年)の一部と和訳を南豊鉉(2000)によって示す。

第二法界一切衆生皆成仏欲為賜以成賜乎

第二に法界の一切衆生がみな成仏したいとなさることで作ったのだ

「成仏欲」の「欲」は-koa-(～しようとする)、「為」は ha-(する)、「賜」は尊敬語幹形成接辞 -sa-(～れる/られる)、「以」は具格 -ro、「成」は ir-(作る)、「乎」は -on(～すること)を表す。

記録されたのは十三世紀末という新しい時代であるが一然著『三国遺事』は八世紀以前の郷歌十三首が記録されている。郷歌は「郷札」という漢字による新羅語表記法によって記録され

ている。統一新羅孝昭王代(692-702)の歌とされる「慕竹旨郎歌」の冒頭部分を金完鎮(1980)の解説と共に示す。

去隱春皆理米

kan pom motorimai

去った春は戻れぬであろゆえ

「去」は動詞語幹 ka-(去る), 「隱」は音仮名 in(～した), 「春」は訓読み, 「皆」は訓読みして moto(みな)と読み, 同音の mot o-(来ることが出来ない)に宛てる。ちょうど日本の万葉仮名で詠嘆の終助詞「かも」に「鴨」を宛てるような用法である。「理米」は音仮名で rimai(～であろゆえ)を表記している。

まさに日本の万葉集と同時代の新羅歌謡(八世紀以前の歌十三首, 九世紀の歌一首)が, その分量において大きな差は存在するものの遺されているのは大きな意味を持つ。

なお, 日本国字と考えられてきたものが実は朝鮮半島で作られたものであることが判明した例として次の資料を挙げ得る。

2008年に全羅南道羅州伏岩里で出土した7世紀初の百濟木簡に

畠一形得六十二石

とあり, 「畠」が日本国字とは言いきれないことが知られるに至った。

5.以下で新羅以降の中国化と対抗中国化について述べるに先立ち, ここまでの流れをまとめておきたい。

- ① 五世紀以降, 高句麗において高句麗語の干渉による変則的な漢字漢文使用が始まった。
- ② それは百濟, 新羅, 倭などの東夷諸国に伝えられ各地で同様の試みがなされた。
- ③ 変則的な漢文を大きく逸脱して自言語表記に漢字列を大胆に用いたのが新羅と倭であった。

660年に百濟は滅亡し, 663年の白村江の戦いで倭は新羅, 唐を敵に回して完敗してしまう。当時の認識としては全世界を敵に回してしまった倭は, 中国大陸, 朝鮮半島とは全く無縁に「国生み」がなされたという建国神話の創出, 「天皇」号の確立と「日本」という新設国家の立ち上げを断行し, 律令による域内の統一を図る。七世紀末まで, ささまざまな漢語諸方言, 百濟王族貴族の大量亡命による夫餘系百濟語, 伽耶, 百濟, 新羅の韓語諸語, 倭語, アイヌ語などの諸言語がモザイク状に並存していた日本列島は急速に倭語化していったものと考えられる(上述の761年の武蔵国少年の新羅語学習が新羅系住民の母語喪失の傍証となろう)。同様に676年の

新羅による朝鮮半島統一以降、朝鮮半島も急速に新羅語化が進行したと考えられる(李基文 1998)。そこでは中国とは異なる「国語」による詩歌集の編纂が領域内統合の手段として採用された。したがって次の一項を加え得る。

④ 統一新羅、律令制日本において漢字による自「国語」表記により詩歌が記録された。

今日では散逸して伝わらないが、888年に郷歌を集成した『三代目』が編纂されている。『三国遺事』の十四首に加えてこの書が伝えられていたならば『万葉集』とのさまざまな比較が可能であったはずである。

以下では統一新羅以降の中国化と対抗中国化について見てみることにする。

5. 統一新羅以降の中国化と対抗中国化

5.1. 統一新羅の中国化

唐が安東都護府と熊津都護府を遼東に移し、新羅の朝鮮半島統一が完了した669年以降、新羅は唐の模範的外藩として自らの中国化を推し進めた。朝鮮半島の中国化はこれ以降二十世紀初に至るまで次第に強度を増しつつ継続する。実際には朝鮮半島が純粹漢民族王朝の朝貢国であった時期は宋朝の963年から1125年、明朝の1393年から1627年を合計しても400年に満たない年月であり、944年から1126年の遼(契丹)、1126年からの金、十三世紀からの元、1627年からの女真(後金、清)、北朝とそれ以前の匈奴を含めれば、朝鮮史の大半はアルタイ系王朝に服属していたと言える。特に大元ulusのkürgen(花婿)として皇女の降嫁を受け、「モンゴル」の扱ひを受けた高麗の王は大都(北京)でモンゴル人の母の元でモンゴル語によって名づけられ(例:忠穆王, 在位1344-1348 モンゴル名 pad ma rdo rje)、モンゴル語、漢語を母語として育ち帰国して高麗王として即位した。王のみならず貴族もモンゴル名をもった。大都にはモンゴル風の髪型と服装をした高麗人が数多く住み、彼らのモンゴル貴族風の生活案内語学書の『朴通事』や1998年に元代版が発見された『老乞大』にも、世界化に巻き込まれた高麗人の朝鮮半島と大陸での活動の様子が伝えられている。高麗の首都開城には色目人が饅頭屋を開き、元在住の高麗人の中にはムスリムになる者まで現れた(アラー・アッディーン、ラマダーン父子)。特に高麗女性は大都にその数が多く、遠くインド等へ嫁する高麗女性もいた。高麗王妃と共に高麗に乗り込んだ従臣にはモンゴル人の印侯、ムスリムの張舜龍、タンゲート人の盧英等がおり、高麗宮廷での公用語もモンゴル語、漢語であったと考えられる。麗末鮮初には、ウイグル王国の財務大臣に祖先を持つ偃氏が帰化し、慶州偃氏として朝鮮時代に至るまで人材を輩出した。高麗王室に伝えられたチベット仏教の影響も見逃しがたい(松広寺にはチベット語文書も伝わっている)。

したがって朝鮮半島を「中国化」一色、まして「中国化＝漢化」の等式のままに認識することは朝鮮半島と大陸の真の関係を見誤らせることにも成り得る。

しかしながら朝鮮半島の知識層の「意識」の中では、アルタイ志向などは微塵もなく、「漢民族」の文化、中華文明のみが希求された。安全保障のため、朝鮮時代には、漢語、モンゴル語、満州語、日本語の通訳養成機関が設置され、十九世紀までこれらの四言語の学習が続けられたが(日本語セクションは琉球語の研究もしている)、朝鮮史を通じて、近代以前の朝鮮半島の知識人が、知的目的からモンゴル語、満州語、日本語や他言語の原書を読もうとすることは一度もなかった。自国語の書ですら読もうとせず、朝鮮半島の知識人は漢文世界のみに棲息した。その中華志向性は時代が下るにつれて強度と先鋭化を強めていく。

新羅の仕えた唐朝の王室が、自らの父母の家系をどのように遡ってもアルタイ系に行き着いてしまうがゆえに、しきりに自らの出自を隠したがったことに加え、アルタイ系王朝のくびきに繋がれる時期が長かった故にこそ朝鮮は自らの中華性を矜持のよりどころにしようとしたのだとの見方も成立し得よう。

新羅は景德王代に国内地名を漢語に置き換えた(757年前後)。日本においても713年に国郡名を「好字二字」に置き換えており、八世紀の新羅と日本で地名の中国化が進められたことは興味深い。日本のそれが訓読みを含む不徹底なものであったのに対して、新羅のそれは全面的な漢語式への転換であった。『三国史記』(1145年成書)三十五巻を中心に記録された改正前と改正後の地名の対比から古代語の語形が復元され得るのである。前述した、日本語とよく似た「高句麗地名」も全てがこの時の改正の記録によるものである。

兎山郡 本高句麗烏斯含達 景德王改名 今因之 (三国史記三十五)

兎山郡はもともと高句麗の「烏斯含達」で景德王の時に兎山郡に改名した。

「兎」を意味する高句麗地名要素「烏斯含」と「山」を意味する高句麗地名要素「達」から Beckwith(2007)は高句麗語形態素 **usiyam*(兎), **tar*(山)を再構している。百済、高句麗の故地を含む朝鮮半島の地名が漢語化されてしまうことにより三国時代以来傳承されてきた古地名は消滅していった。

ほぼ同じ時期に新羅は人名も漢人化する。今日の朝鮮半島の姓のうち「朴」を除く全ての姓が漢民族と共通であるのもこの時期の改正の結果である。姓でなく名の方は、庶民の場合、固有語の名前が十五世紀にはハングル表記され、日本の植民地期まで及ぶが、知識層の姓名は統一新羅時代には全て漢化された。

日本においても姓の漢人化は行われた。源平藤橘の一字姓は漢人化の一例である。³

5.2. 統一新羅の対抗中国化

5.2.1. 漢文訓読法の発明と片仮名の使用

『三国史記』巻四十六の薛聡伝に次の記載がある。

以方言読九經 訓導後生 至今学者宗之

薛聡は新羅華嚴宗の高僧元暎(617-686)の還俗後の子である。「薛聡が方言(新羅語)で儒教の経典を読んで若者を教育した。今に至るまで学者はこれを手本としている」という意味に解される。新羅語で漢文を読むとは、すなわち日本における漢文訓読が新羅に存在したことを示す。

今日、朝鮮半島に漢文訓読は存在しない。漢文は朝鮮漢字音で頭から直読され、間に朝鮮語の助詞を挿んで音読される。例えば次の通りである。

子曰学而時習之 *miən* 不亦説乎 *a* 有朋自遠方来 *miən* 不亦楽乎 *a*

「*miən* ～ならば」, 「*a* ～か」以外の部分は朝鮮漢字音で直読される。日本のように上下転倒していきなり日本古語に和訳して読むという習慣は存在しない。このため 1970 年代中盤まで、漢文訓読は日本独自のものと考えられてきた。

まず、漢文訓読とは何かということを考えてみたい。第一に「漢字の訓読み」と「漢文訓読」は違うということ、そして前者が後者の前提となることを確認しておこう。以下、分かりやすく日本語の例を単純化して考えてみよう。

漢語、漢字、漢文が漢人とともにやって来た時、当然のことながら、外国語として正しい発音で頭から読んでいって理解したはずである。今日の我々が英語や中国語を学ぶのと同じである。正しい中国音による音読は平安中期まで学習された。

一方で倭語＝日本語話者である現地人学習者は、内容理解のために各語(各字)の意味に相当する倭語を宛てて理解しようとする。「山」の字音は *šan*¹ だが「意味」は倭語の「やま」であ

³ 杉山正明(2011)は「源」姓について興味深い指摘をしている。拓跋氏の北魏(王室の漢姓は「元」)がやはり拓跋系の禿髮(＝拓跋氏に「元」と通じる「源」氏を賜姓した故事に言及し、嵯峨天皇が814年に皇子、皇女の臣籍降下に際して「源」氏を賜姓する際、北魏の「源」氏賜姓を知らずに行ったとは考えにくいとしつつ次のように指摘する。「嵯峨源氏の場合、有名な人物では源信(まこと)、源融(とおる)、源挙(こぞる)、源順(したごう)など、一字姓だけでなく一字名である。(中略)率直に言って、漢風の名のりといってさしつかえないだろう。唐朝や新羅・渤海との対応にも、単姓でも十分なうえ、さらに徹底して単名ならば、文句なく「国際人」であろう。(ibid. 266-273) 新羅以降、中国式の姓が定着した朝鮮半島とは異なり、日本列島では中国式の姓は定着することなく(対中国外交時に、足利、徳川が源姓を、豊臣が平姓を名乗るなどを例外として)地名、官職名等さまざまな起源に由来する「名字」という非中国的な名づけが定着する。

ため、左側に遡って「(爲)ムッゝッム」を読み、最後に「故ノ」を読む。すると次のようになる：

亦 自ラ心し 得ふ 清淨ハリ(爲)ムッゝッム故ノ
sto cəi mazaMar sirəkom 清淨 hai(爲)koa həcɔi har taro 故 ho
また自らの心を得て清浄たらしめんとするが故に

この二十年来、口訣研究会を中心に積読口訣の研究は極めて盛んになってきている。積読口訣の基本文献は南豊鉉(1999a, 1999b)である。

2000年7月、韓国で角筆文献が発見された。これ以後、新たに多くの角筆文献が発見されている。中でも「角筆点吐積読口訣」の発見の意義は大きい。「点吐積読口訣」とは日本の「ヲコト点」に相当するもので、点やその他の符号を漢字の四隅や内部に付することによって漢文の訓読法を示したものである。⁵

2002年には新羅時代の角筆口訣資料が発見された。小林芳規(2004)は新羅僧元曉所撰の『判比量論』(大谷大学図書館蔵、八世紀新羅写本)から角筆で記入された次のような例を見出したことを述べている。

- a. 今於此中良 (第九節 26 行)
- b. 不待根「火リ」 (第十節 42 行)

aの「良」は「～に」を表す口訣であり、日本語に例えれば「送り仮名」に相当するものである。bは漢字「根」に振られた「よみ」、すなわち日本語の「振り仮名」に相当するものである。「根」の古代語の訓は *pir* であり、bは同音の訓を持つ「火 *pir*」の草書体で「根」の訓みを表記した「訓仮名」である。この八世紀新羅資料の発見は日本の片仮名の起源の問題に重大な意義を持つ。口訣は基本的には「送り仮名」に相当するが、こうした「振り仮名」の発見は口訣字が表音文字として使用されたことを物語る。後述する「ヲコト点」による訓読と併せ、日本の漢文訓読、片仮名の起源が新羅にある蓋然性が高くなった。小林芳規(2002)は奈良時代の華嚴宗留学僧が新羅に留学し、それらを習い伝えた可能性を示唆している。

『判比量論』の調査は小林芳規、南豊鉉両博士によってその後進められている。南豊鉉(2012)は、2012年6月時点での『判比量論』の研究状況について、現在までに160余字の口訣を判読したと述べている。さらに『判比量論』が日本の訓点資料の初出に半世紀先立つことから「日本の漢文訓読法が新羅の影響下で発展したことを裏付ける」ものとしている。

⁵ 角筆積読口訣資料の一覧は伊藤英人(2008a)参照。

一点重要なことは訓点資料の初出と漢文訓読の開始年限は一致しないということである。上述のように少なくとも七世紀の倭国には漢文訓読が存在したこと、そして同時期の新羅にもそれが行われたこと、日本の訓点の発達には新羅の影響が大きかったと判断されることは確認し得る。「片仮名＝略体口訣」の訓読への使用は新羅の影響下に日本で大きく発達を見せたと考えられる。

5.2.2. 漢文訓読の持つ意味

5.1.1.で見たように、近年の研究により、統一新羅でも奈良平安期日本でも漢文訓読が行われていたことが確認された。もちろん新羅でも日本でも中国原音による音読は維持されていた。新羅の場合、円仁の旅行記からもよく知られるように唐の国内に新羅人が集住し、漢語に通じた者が日本より遙かに多く存在したことが確認でき、また同旅行記からは唐の新羅人が法会の読経に中国音を用いていたことも知られる。

しかし、漢文訓読法の確立は、漢語を活きた言語としては知らない多くの人々、つまり新羅語や日本語のモノリンガルが漢文文献に、漢語学習を介在させずに、アクセスすることを可能にした。これは一種の対抗中国化である。

訓読によってしか漢文にアクセスできない人々は、現在の日本の漢詩漢文読者を見れば分かるように、中国語の発音を知らない。音読みする語が訓読文中に出てきてもそれは日本風に訛った漢字音つまり日本語の音韻体系内の音でしか読むことが出来ない。

一般に、言語接触が起こった場合、二言語併用が行われるが、その際、二つの言語を完全に習得していれば、コードスイッチングが行われる。現代のアメリカンスクールに通う生徒たちのように日本語と英語の二つのコードを行ったり来たりする言語使用を示す。唐の国内に住んでいた新羅人には漢語と新羅語のバイリンガル話者としてコードスイッチングを起こしていた人々がいたものと想像される。

しかし、新羅国内、日本国内で漢文を訓読によって学ぶ多くの学習者—留学する意思もなく、唐人と接触することもなく、ただ官吏として漢字を用いるために千字文や論語、孟子を学ぶほとんどの学習者—は、それぞれ新羅語、日本語で漢籍を読んだことになる。そこでは訓読文中の字音語はコードスイッチングではなく「借用語」として新羅語、日本語の音韻の枠内で発音される。

コードスイッチングは優勢言語への同化をもたらす。一方、いくら借用語が増えても言語の同化が起こらないのは、日本語にいくら英語借用語が増えてもそれが借用語である限り日本語話者の英語話者化は生じないことを思えば明らかである。中国語と日本語のバイリンガルが中

国語コードにスイッチすると中国語部分は「中国人の顔になって」発話するが、借用語ではそうしたことは起こらない。

漢文訓読によって新羅と日本の識字層は、一挙に全ての漢語文献に直接アクセスすることが可能になった。つまり無限の中国化を果たせる立場に立った。一方、漢語文献をいきなり新羅語や日本語で訓読している限り、読者は決して漢人にならない。

漢文訓読はいくら知的世界で中国化しても中国人にならないで済む方法であるという点で、対抗中国化の最たるものであったと看做し得るのである。そしてそれは恐らく朝鮮半島の経験をもとに日本列島にもたらされた方法であったと考えられる。

5.2.3. 対抗中国化としての漢字音の成立

上で述べたように、漢文訓読とともに新羅語風、日本語風に訛った漢字音がそれぞれ朝鮮漢字音、日本漢字音として定着したと考えられる。日本漢字音の漢音は、遣唐使廃止以後、正確な漢音による音読が立ち行かなくなる過程でこれに代わるものとして訓読が採用された時期に定着していったものと考えられている。新羅においても唐末の長安の音を全面的に受け入れて現代に繋がる朝鮮漢字音が成立したことが朝鮮漢字音の研究から知られている。

朝鮮半島ではその後高麗、朝鮮時代を通じて新羅が採用した朝鮮漢字音が伝承されて現在に至る。もちろん朝鮮漢字音の中にも字によっていくつかの時代層を示す字音が確認されるが基本的には新羅時代に成立した朝鮮漢字音を守ってきた。一方で、各時代の中国との関係から時代ごとに中国語音を示した字書、韻書も編纂された。十五世紀以降は朝鮮漢字音の標準音と各時代の中国字音は別々に査定され出版された。後者はあくまでも外国語学習用のものであった。漢字音自体は朝鮮漢字音を用いながらも、各漢字の本来の韻、平仄は朝鮮半島においては正確に学習された。なぜならば高麗以降、士大夫層が形成され中国同様に科挙が行われからである。

日本列島では様相を異にする。まず唐代長安音に基づく漢音のみならず、それ以前に南朝から百済経由で伝わっていた呉音も保全された。天台宗では漢音よりやや新しい時代の音を採用し、後の禅宗は唐音と呼ばれる近世漢語の音を用いた。小松英雄(1995)は日本が複数の漢字音を並存させてきた理由として仏典読誦音の整備と関係付けている。宗派の「アイデンティティーの確認」と「異国的であるほど法会の参会者に神秘性を強く印象づけ」ること、「その宗派が最新の中国仏教に直結していることを印象づける効果」を狙って抑揚を含めた読誦音が伝承されてきたとされている。

一方、士大夫層が形成されなかった日本では、儒学は「博士家の家学」とされ、科挙も行われず、中世以降の武家政権下では「倭化漢文」に基づく漢字による日本語文が行政に用いられたため、公家や仏僧以外は漢文そのものから遠のいてしまった。禅宗の唐音も *chinoiserie* とし

での「見せびらかし」的要素が強く、中国語学習は江戸時代の唐話ブームまでまともになされなかった。

以上で古代における朝鮮半島と日本列島における中国化と対抗中国化の様相を見てきた。新羅が先行する形で平安中期までは両者は似た中国化と対抗中国化の様相を示していた。以下では中世以降朝鮮時代後期に至る時期の朝鮮の中国化と対抗中国化の諸相を「点描」的に見ていくことにする。

6. 点描

6.1. 点描その1「訓民正音」

今まで述べてきたように新羅と律令国家日本は、①仏教を重んじ、②漢文を訓読し、③片仮名(略体口訣)を含む訓点システムを用い、④漢文の他に自国語表記のための漢字文(吏読文)を併用する、など類似した書記文化を持っていた。

918年に建国し、936年には朝鮮半島での覇権を確立した高麗でもその後十三世紀前半まで、自国を「華」とする高麗版中華意識に基づく八閩会を催し、首都を「帝都」とするなど、平安後期の律令政権と並行した国家運営を行ってきた。鎮護国家仏教を奉ずる点も同様である。十二世紀に、日本では武家政権、高麗では武臣政権が確立するところまで両国は似た歩みを見せる。高麗でも漢文訓読、吏読文は盛んに行われていた。なお高麗の北に位置し、高麗の朝貢を受けていたキタイ帝国(遼)でも漢文訓読が行われたのみならず、ハングルに先立つこと500年の920年代には独自の文字である契丹文字を創製し使用していた。したがって十世紀には、北からキタイ、高麗、日本の順に漢文をアルタイ型の語順に訓読する地域が並んでいたことになる。

もちろん高麗は宋、キタイ(遼)、ジュシェン(金)に朝貢し、より中央集権的な国家運営を行い、何よりも十世紀中盤に本格的な科挙を導入するなどの点で平安期日本とは異なる。科挙の実施には地方の地域社会における受験参考書の普及などのインフラ整備が不可欠であるが、平安期の日本はその条件を満たせなかった。

十二世紀以降、モンゴルの世界化が始まってから両国は全く異なった方向へ進みだす。上述のようにモンゴルによるグローバリゼーション(まだ、地「球」化ではないが)に完全に巻き込まれた高麗とは異なり、「颶風」による国難回避により『八幡愚童訓』などの普及を通して「神国」意識を増大させていった日本では「三韓」は征伐される対象に過ぎず、「天竺・震丹・本朝」の三国からなる世界観の中に朝鮮半島は位置づけられなくなっていく。

モンゴル、ジュシェン色の濃厚な元の直轄地出身の李成桂によって十四世紀末に建国された朝鮮王朝は四代の世宗に至って中華の聖君を目指すが如き統治を行う。その治世下の最大の達成が「訓民正音」すなわちハングルの創製である。以下、伊藤英人(2010)からの引用である。

1446年に「訓民正音」が公布されたことはよく知られている。世宗による『訓民正音』御製序を見よう。国之語音異乎中国 与文字不相流通 故愚民有所欲言 而不得伸其情者多矣 予為此憤慨 然 新制二十八字 欲使人人易習 便於日用耳

ここで説かれていることを、字句を補って解釈すれば以下の如くである。

「国」の言語の語形(音形)は中国と異なっているため「漢字」と対応していない。このため、漢字をしらない民は何か申し述べたいことがあっても、(朝鮮は文書主義を採っており漢文の文書を出さねば何も主張できないので)その旨を開陳することが出来ずにいる。私はこのことをかわいそうに思っ、新しく二十八字母からなるアルファベットを作った。人々に簡単に学んでもらって日用に便利に使ってもらいたい。

世宗の考えを要約すると、①まず、王室とその領域に住む人々が言語的に等質であり、それが「国」と観念された、②その言語は中国と異なっている、③漢文によらずアルファベットによって話し言葉を文字化し、尚書院・行政言語にヴァナキュラー(俗語)を用いようとした、ということになる。さらに翌年の1447年には金属活字によって仏典の翻訳が刊行されている。

ベネディクト・アンダーソンの読者であれば、十五世紀朝鮮の早熟性に瞠目するはずである。言語的同質性によって想像された「国」という共同体の民衆のためのヴァナキュラーの文字化、正書法の確定、標準文語の確立が、訓民正音公布後の約十年で成し遂げられた事実のもつ世界史的早熟性は強調されてよい。

しかしながら、世宗のこの壮途はその多くが実現されずに終わった。訓民正音公布後、政府レベルでの正書法の改正は1465年をもって終わりを告げ、あとはいわば野放しにされた。本来であれば十五世紀に確立した標準朝鮮語文章語が後の規範言語として古典語化されるはずであったが、そうしたことは起こらなかった。行政文書はその後も漢文吏読中心に行われた。

上記の如く、「訓民正音」公布の先駆性は世宗の宣言にあるヴァナキュラーの文字化と行政文書の俗語化の意図にあった。ハングルの制字原理が優れていたことを認めるのに吝かではないが、この文字は契丹文字、女真文字、西夏文字、パспа文字という先行文字の最終走者として、特にパспа文字の多大な影響下に創出されたこともまた事実である。朝鮮初期という、パックス・モンゴリカの記憶も生々しい時期にこの文字が作られたことも傍証となる。

「訓民正音」は「諺文 おんもん」と呼ばれた。「諺」は「文」に対する「地方語・俗語」の意味である。伊藤英人(2010)で述べたように1460年代を中心に朝鮮時代の王のうち最も崇仏心の篤い王であった世祖によって設置された刊経都監によって多くの仏典が朝鮮語に翻訳された。これらは「諺解」と呼ばれ漢文テキストの朝鮮語訳のスタイルとして確立された。十六世紀以

降の儒臣層の勢力拡大に伴い、仏典の翻訳刊行は寺刹へと移るが、巻末に翻訳開板の功德を求めた善男善女、とくに多くの女性の名が施主名として刻まれている。諺文はこのように「王室—仏教—女性」と強い親和性をもつ朝鮮語表記文字として定着していった。

伊藤英人(2010)でも述べたように諺文使用のこの流れは十九世紀には新旧キリスト教布教と結びつき近代以降ハングル文字ナショナリズムと結びついて今日のハングル専用に結実する。

一方、男性士大夫層は諺文を女性への手紙、朝鮮の短詩である時調以外には用いることもなく、漢文習得以降は書記活動を漢文に一本化していった。日本のように定家以来整備されていた自言語古典の参照枠が存在せず、仮名遣いに相当する綴字法も検討されることはなかった。時調等に見られる抽象的語彙は漢語であり、これらが朝鮮語で表されることもなかった。諺文の辿った歴史は、決して一部の論者のいう「知の革命」といえるようなものではなかったことは銘記しておきたい。

以下では仏教界における諺文(朝鮮語・ヴァナキュラー)使用の一面を禅仏教における日韓の差という観点から考察し、続いて士大夫層の漢文漢語使用の様相を点描することにする。

6.2. 点描その2「禅寺の風景」

十五世紀中盤以降、朝鮮では廢仏政策が採られた。士大夫のように北京に行くことも叶わず、僧侶は国内山中の寺刹で弁道工夫に励むことになった。高麗時代には盛んな国際交流が行われた朝鮮の仏教界も朝鮮語のモノリソナル世界になっていく。この点で室町期に盛んに明と往来した日本の禅宗とは様相を異にしていく。明末清初にも多数の亡命僧を受け入れ、唐音で読まれる大量の禅語を生み出した日本の禅刹とは違う道を歩んだ。村井章介(1995)は鎌倉五山を始めとする日本の禅刹がバイリンガル空間であったことに言及している。宇治の黄檗宗万福寺で江戸期にも近世中国語が行われたことは「山門を出れば日本ぞ茶摘歌」の一首からも知られるとおりである。しかし築島裕(1995)の述べるように唐音の読経には声調が伴っておらず、実質的なコミュニケーションのためではなく、禅寺での近世中国語使用は、多分に *chinoiserie* 的な要素を含む中国語使用であったと考えられる。

日本の禅宗では今日に至るまで多くの禅ジャーゴンが使用され続けている。以下は全て『無門関』からの例である。

正恁麼時作麼生對 ショウインモのときソモサンかこたえん
惣用不著 ソウにユウフジャク
若向者裏對得著 もしシャリにむかってタイトクジャクせば
者些尾巴子 シャシャのビハス

十五世紀に教宗と禪宗に二分された朝鮮の仏教は日本的な分類からは基本的に全て禪宗であると言ってよい。禪宗である以上、祖師の語録を学び参禅することは日本の禪宗と同じである。しかしながら朝鮮禪においては日本の禪宗のような過度の近世漢語の使用はない。刊経都監から翻訳刊行された禪語録の一つ、『蒙山和尚法語略録諺解』の例を見てみよう。

作麼生 *aste haniŋ* どうなのだい？

曾切著者箇無字否 *arai 無?字 to sakitosonia* まえにこの無の字もといてみたかな？

日本の禪家ならば、それぞれ「ソモサン」、「曾てシャコの無字をセツジャクせるやいなや」と読むところを「どうなのだい?」、「まえにこの無の字もといてみたかな?」という極めて平明な口語朝鮮語に諺解している。

禪の修業、祖師の語録の理解という点からは、朝鮮の禪寺における翻訳（諺解）の方が本来の宗教的目的に叶っている。日本の禪ジャーゴンには宗教的には無意味な *chinoiserie* ないしは *pedantry* である。雰囲気だけは外国的なものを好むという異文化志向性は日本においてはるかに濃厚であったし、今もそうであると言えるかも知れない。

6.3. 点描その3 「正音への志向」

伊藤英人(1995b,2002, 2004b,2005, 2011, 2012)で述べたように、朝鮮王朝時代には「正しい漢字音」が一貫して志向された。「訓民正音」自体がその現れであって、翌年には東国正韻式に落ち着くものの、1446年時点では世宗は「一～十」を **?it, *zi, *sam, *sʌ, *ŋo, *riuk, *cʰit, *pat, *ku(w), *ssip* と表記発音させるような字音体系を構想していた。『東国正韻』序にいう「七音之變」、「清濁之變」、「四声之變」も中国の標準からずれていることへの慙愧の表現である。

伊藤英人(2004b,2005)で述べたように、1447年及び1459年に陀羅尼に付された字音は『洪武正韻訳訓』式の中国字音であった。「正しく読誦」される必要のあった陀羅尼には東国正韻式の「郷音」ではなく、「正しい」中国字音が必要であると観念されたためであると考えられる。

ベトナム、日本、琉球、朝鮮のうち、官撰韻書が編纂されたのは朝鮮のみであった。『奎章全韻』が中国字音への配慮から知組字を章組字に併せて歯音系の字母を用いたことは広く知られている。

1750年成書の申景濬『韻解訓民正音』は、理想的な字音を提示したものだが、伊藤英人(1995b,2011,2012)で指摘したように、「朝鮮の方が中国より字音が正しい場合もある」という言及を行っている。

且今雖不明古有存者 中土雖不行而他国有用處 至於知徹澄孃 我国西北人用之
在京泮村人亦用之 故今依旧法備三十六母焉 (『韻解訓民正音』)

いわゆる舌上音を含む三十六字母に復する理由として「我国」の平安道,ソウル成均館一帯の人々がこれを用いることを挙げている。これは後述する,明清交替後の「自国字音」への正当性の自覚の現われと見るべきであろう。

6.4. 点描その4「中国化の極限へ—朝鮮時代後期」

上に述べたように朝鮮時代の士大夫の書記活動は漢文一辺倒になった。漢文訓読法も滅びその存在すら忘却された。漢文は朝鮮漢字音で直読され、間に朝鮮語のテニヲハを挿むという漢文直読法に一本化された。

十六世紀以降、仏典のみならず、基礎的な経書も諺解された。以下の如くである。

直読文 子 cA 日 oar 学 hAk 而 i 時 si 習 sip 之 ci mian

不 pir 亦 iAk 説 iar 乎 ho a

諺解文 子 cA i kaŋasiati 学 hAk hAia 時 ro 習 hamian sto 説 hoti aniria 論語栗谷諺解

子が言われるには学して時に習すればまた説ではなからうか

直読文に下線を施した部分が間に挿入するテニヲハ(吐)である。重要なことは朝鮮の童蒙が暗記すべきテキストは直読文の方であって諺解文ではないという点である。「訓読の声」は朝鮮には存在しなかったと見ることが出来る。

江戸期の日本人学者で釜山にも滞在し日本における朝鮮語教育の鼻祖になった雨森芳洲(1666-1755)は外国人としてこうした朝鮮の漢文読法を高く評価している。

書莫善於直読 否則字義之精粗 詞路之逆順 何由乎得知 譬如一箇助字 我国人則日記耳 韓人則兼以口誦 直読故也 較之我国人差矣 (雨森芳洲 『橘臆茶話』)

書は直読するに限る。でなければ字義の精粗や詞路の逆順をどうして知り得ようか。例えば一つの助字を日本人は目で記憶するだけである。韓人はその上に口で唱える。直読のおかげである。これに較べれば日本人のは劣っている。

韓人直以国音 我国人国音不可直読 故仮音於唐雜記熟 比之韓 其為雜也甚矣 (雨森芳洲 『橘臆茶話』)

韓人は朝鮮漢字音で直読するが日本人は日本漢字音で直読出来ない。それで唐代の音を借りてごたまぜにして覚える。朝鮮の方法に較べて雑なること甚だしい。

漢文直読は数多くの固有の朝鮮語の単語を滅ぼした。十五世紀にはそれぞれ moih, kaŋam, paŋam と固有朝鮮語で呼ばれていた「山」,「川」,「壁」といった語も「山 san」,「江 kaŋ」,「壁

piak」という漢語に置き換わってしまった。

雨森芳洲はまた朝鮮における漢語志向現象について次のように証言している。

朝鮮人言語 本於文字者爲好 其他俗下所用 不據文字者斥之 爲常言[常言者俚言也] 在官者不敢出口 (雨森芳洲 『橘牕茶話』)

朝鮮人の言語で漢字に基くことばはよいものとされ、その他の下々の用いる漢字に基かないことばは斥けられ、「常言」と言われる[常言とは俚言のことである]。官途にある者は敢えて口にしない。

こうした華言への憧憬はもちろん朝鮮知識人がより強く志向し、かつ実践していた。

『熱河日記』という中国旅行記で知られる朴趾源(1737-1805)は次のように述べている。

我人初見中国孺子隔溪呼母「水深渡不得」大驚以為中国五歳児開口能詩 此殊不然是乃語也 (簡略) 有村媪売酒 問「路僻人稀 有誰沽飲」対曰「花香蝶自来」(簡略)自成韻語 (朱瑞平校点 1997: 277)

中国で幼い子供が川を隔てて母に向かって「水深渡不得！」と叫ぶのを始めて聞いたとき、「中国では数え年五歳の子供も詩を作るのか」とびっくりした。が、よく考えてみたらこれは(中国の)「言葉」なのだった。(中略)村の酒売りの媪に、こんな人里はなれたところで誰が酒を買って飲むのかと尋ねたら「花香蝶自来」と答えた。(中略)立派な詩だ。

朴齐家(1750～?)に至ってはさらに過激に、朝鮮語を廃すべきことを主張する。

漢語文字大本 (簡略) 蓋中国因話生字 不求字而积話也 故外国雖崇文学喜讀書幾於中国 而終不能無間然 以言語一大膜子 莫得而脱他 我国地近中華 音声略同 举国人尽棄本話 無不可之理 夫然後 夷之一字可免(李翼成訳注 1971:343)

漢語は文字の根本である。(中略) けだし中国ではことばが先にあって字が出来たので字を知らなくても意味が分かる。外国人が文字(漢字)を崇めて中国の本ばかりを喜んで読んでいてもどうしても隙間が生じてしまう。言語が膜のようになって逃れられないのだ。わが国は中華に近いのだし、音声もほぼ同じなのだから(伊藤注:漢字音が近似しているのだから)、国中の人がこぞって本来のことばを捨ててしまうことだって決して無理な相談ではないはずだ。そうやって始めて野蛮人と言われなくなるだろう、

注意すべきは、朴齐家は固有の朝鮮語を止めて漢語を用いるべきだとしているのであって、中国語音を採用しようと言っているのではない点である。「朝鮮と中国の漢字音は近い(音声略

同)」のだから例えば「花」を kos と呼ばず朝鮮漢字音で hoa と唱えるべきであるとの主張であると解される。

伊藤英人(2011)で述べたように、明清交替により満州人が中華の主人となった後、十八世紀に入ると「中国(清)よりも中華な朝鮮」という自覚は、朝鮮漢字音の方が今の中国字音よりも「正しい」という認識を産出した。上述のように申景濬が1750年に著した『韻解訓民正音』では中国語音よりも正しい朝鮮漢字音を創出している。

公平を期すために捕捉すれば明清交替後、明の復活が叶わないと思われた時点で、中国よりも中華な自国という認識は江戸期日本でも胚胎されている。しかし現実の中国化、中華志向性の度合いは日本に比べるべくもなく朝鮮において熾烈であった。

言語接触の観点から重要なことは朝鮮にも「転文」が存在したかという点である。転文とは太田辰夫(1954/1988:261)で再導入された概念であり、中国語における口語から文言へのコードスイッチングを意味する。現代朝鮮語における文言由来の故事成句の多く直読で残っていること、科挙のためだけの暗記を経験してきたものがコーパスを共有していたこと、暗記すべきテキストが直読漢文であったことを勘案すれば朝鮮においても朝鮮語と朝鮮漢字音による直読漢文間の口頭におけるスイッチは、限定的であれ存在し得たと考える。⁶

6.5. 点描その5「近代を迎えて」⁷

上述のように諺文は、漢文一辺倒の男性社会ではなく、主に女性の世界で守られてきたが、十九世紀に入り、その位相を変えてゆく。

最初の波はキリスト教の普及である。多くの殉教者を出しながら主にフランス人宣教師らによってキリスト教布教材が純諺文で出され、広まっていった。こうしたキリスト教と諺文の親和性は初の朝鮮人神父金大建による「教友たちよ、見よ」(1845年)、等を経て、新旧教の差はありつつも1896年の徐載弼による純諺文紙「独立新聞」の刊行へと結実する。今日の朝鮮語表記法、標準語制定、辞典編纂に携った朝鮮語学会(今日のハングル学会)も多くのキリスト教徒によって構成され、ハングル普及とキリスト教は二十世紀以降も不可分の関係にあった。

1894年、諺文は初めて「国文」として政府の公用文字として認定されるが、これと前後してさまざまな朝鮮語文の変種が登場する。日本の明治期の文章、表記法の影響を受けたと見られる「国漢文」による著作の代表例としては兪吉濬の『西遊見聞』が挙げられよう。また、1907年「万歳報」に載せられた李人植の小説『血の涙』や翌年の兪吉濬による『労働夜学読本』には、日本語と同様の「訓読みの振り仮名」や「送り仮名」がハングルで振られた試みも登場し

⁶ 転文については伊藤英人(2004c)で論じた。

⁷ 以下6.4.は伊藤英人(2010)の一部を加筆修正したものある。

た。

しかし、開化期初頭の知識人の大半は、兪吉濬のように達意の朝鮮語文を書くことが出来なかった。なぜなら、彼らが訓練を受けてきたのは科挙受験用の漢文(文言)のみであったからである。「国漢文」とは文字通り、漢字・国文(諺文・ハングル)混じり文であるが、明治期の普通文に似たものから漢文懸吐そのままのものまでさまざまな変種が混在する。1905年、皇城新聞社説として掲載された張志淵による「是日也放声大哭」の冒頭と末尾を比べてみよう。

a) 曩日 伊藤侯 ka 韓国 ai 来 halmi…

b) …嗚呼 ra 痛矣 ra 我二千万為人奴隸之同胞 iə 生乎 a? 死乎 a? 四千年國民精神 i 一夜之間 ay 猝然 滅亡而止乎 a? 痛哉 ra 痛哉 ra 同胞 a 同胞 a

冒頭部分 a)は「さきに伊藤侯が韓国に来るに」という朝鮮語の語順であるが、b)末尾は「吐」を取ればほぼそのまま漢文である。斉藤希史(2007)の言う、身体に染み付いたリズム(訓読の声)は、朝鮮の場合、諺解体ではなく、順読懸吐体、すなわち漢字音による直読文であったからである。

開化期から1910年の植民地化に至る時期はさまざまな文体の試みの時期であった。明治期の日本と異なるのは、ハングルのみの新聞、小説、医学や世界史の教科書等々が数多く出されている点である。科挙の廃止と漢文のみを書き言葉としてきた世代の衰退消滅のうちに朝鮮は植民地期そして解放を迎える。

7. 結語

朝鮮半島に漢人が漢語、漢字を齎してから数世紀を経て、高句麗で漢字の変則的使用が始まった。それは新羅と倭に伝えられ漢字を自言語表記に用いる方法(借字表記法)として八世紀には完成の域に達した。統一新羅も日本も借字表記法を用いて自国語の詩歌集を編纂し、「中国とは違う」国家空間を表象した。新羅の影響下に漢文訓読法、訓点、片仮名(略体口訣)が発展し平安後期日本、高麗では漢文訓読が盛行された。また自言語の音韻体系に併せて朝鮮漢字音、日本漢字音が成立し、これにより、朝鮮半島と日本列島の人々は「中国人になることなしに」無限に中国文明にアクセスする方途を所有するに至った。

モンゴルによる世界化に巻き込まれた朝鮮では、その中で接した数々のアルファベットを参照し、1446年には訓民正音を公布する。創製者の世宗の意図は「国」のヴァナキュラーの文字化、国語の確立、ヴァナキュラーの司法、行政への使用にあり、そのことの先駆性には驚くべきものがある。しかし、その後の儒臣の中国化、漢文訓読法の放棄、ことに明清交替以降の小中華意識の増大の中で諺文は顧みられなくなり、諺文は「女性」、「仏教」の世界で主に用いら

れることとなった。十八世紀には朝鮮知識人の中国化は極限に達し、朝鮮語を捨て去ろうという主張さえもが現れる。

十九世紀には諺文はキリスト教との深い関係を持ち、近代以降のハングル普及に多大な役割を果たす。二十世紀初頭に大韓帝国学部は国文研究所を設置し、国語確定の作業に入った。また小説その他の文学、教科書、新聞などが純ハングル文で書かれ始めた。

1910年の日韓併合により、朝鮮語は「国語」の地位を失うが、朝鮮語研究会(のちのハングル学会)により、正書法、標準語が定められ、辞書編纂も行われた。日本の植民地当局の弾圧により辞書編纂は獄死者を出すに至り、1943年には朝鮮語は完全に禁止された言語となった。

1945年の解放以来、北朝鮮ではハングル専用を実施したが、韓国では日本植民地期以来の漢字ハングル混じり文が長く使用された。インターネットの普及後、特に2000年代以降、韓国では漢字ハングル混じり文はほぼ完全に使われなくなり、ハングル専用時代を迎えた。世宗が意図したヴァナキュラーの全面アルファベット化が実現したわけである。

日本では、借字表記法が洗練され、全面的に用いられることになった。「漢字と漢字に由来する音節文字を混用する」借字表記法は、その淵源を新羅に持つと考えられるが、むしろ日本で開花し、今日に至る。朝鮮では漢字音は基本的に一定しており、そのことがハングルだけの表記を可能にする素地となったが(ハングル表記による形態素の同定が可能であるため。北朝鮮では韓国より徹底して一字一音になるように字音を整理した)、日本では常に複数の字音が行われてきた。それはしかしコミュニケーションのためではなく、宗派的アイデンティティーを示すための「飾り」の要素を多大に含んでいる(明治期のキリスト教の「呉音嫌い」も宗派的である点は同様である：例 礼拝らいはい→れいはい)。

八世紀の対抗中国化に端を発した日韓両語の書記史が結果的に「借字表記法の維持発展：話し言葉のアルファベット化」という全く異なった帰結を迎えるに至った最大の要因は、モンゴルによる世界化経験の有無にあるのではないかと思われる。

8. 今後の課題

朝鮮半島の諸言語と漢語の言語接触の問題は、「漢文」がその後の朝鮮半島の正式の書記言語になった経緯を勘案すると、単なる言語接触の問題でなく、cosmopolitan language と vernacular, vernacularisation の問題群として捉える必要があると考える。

アンダーソンの出版資本主義公理に対する違和を、朝鮮を例に挙げて論じたのは Walraven(2004)であり、vernacularisation の一般化に対して、南アジアの例を挙げて反論したのが Pollock(2006)である。

Pollock(2006)において提起された vernacularisation の問題を最初に朝鮮半島のそれと対照させ

て考察を加えたのは King(2006)である。それを引き継いでさらにこの問題を論じたのが Whitman(2010)であり、「諺解」とは何かをこの文脈で考えた論考が Park(2013)である。

時間的に再考してみよう。李成市(2013)は、平壤貞柏洞 364 号墳から初元四(BC45)年楽浪郡県別戸口簿と『論語』竹簡が出土したことに触れ、板槨墓という墓制の特徴から衛満朝鮮以来の現地出身の楽浪郡府属吏を墓主と推定するのが妥当であるとしている。本稿で見た揚雄の紀元前後の同時代記述から、当時の朝鮮には北燕朝鮮方言区という大方言区の下位方言区としての「朝鮮方言」が分化成立するほどに、漢人の層の厚みと歴史がすでに存在したと考えられることから『論語』竹簡の持主も漢語朝鮮方言話者としての在地漢人と考えるのが妥当であろう。この時期にはまだ現地語と漢語は二重言語使用、コードスイッチングなどが見られた段階であったと考えられ、現地語話者が漢語書記を現地語化してアクセスしたと考える何らの積極的根拠も存在しない。

楽浪・帯方郡消滅後、高句麗の文字資料が出現するまでの空白時期にどのような変化・継承があったのかを考える必要がある。「中原高句麗碑」は明らかに確信犯的な漢字列の自家使用であり、しかもそれを「石に刻む」という点でさらに確信的漢語侵犯である。もしこうした現象が、高句麗に始まるのであれば、「対抗中国化による非漢人化」のための装置の発明は高句麗に帰することになる。高句麗語同様にアルタイ型の語順を持っていたであろう「五胡」に先例がないかどうか慎重に調べる必要がある。

借字表記法とハングルの創製は朝鮮半島に *vernacularisation* を齎したろうか。「諺解」は極一部の漢文文献に施されたのみであり、朝鮮時代の士大夫の暗記の対象は懸吐順読漢文であって諺解文ではなかった。科試と無縁な禅刹で口語に近いことばでマニュアルが訳されたのと対照的である。この意味で、借字表記法と諺解は「部分的俗語化」であったに過ぎず、「全面的俗語化」ではなかった。例えば、チベットではサンスクリットからの全面的俗語化以後、重要な宗教的、哲学的著作がチベット語によって著述された。朝鮮において重要な学問的著述が朝鮮語でなされることは決してなかった。この意味でハングルの発明は何らの「知の革命」を齎していない。朝鮮半島の俗語化を通文明的視野から再考する必要がある。

字音と語音の関係もさらに深めて考察する必要がある。漢字音は「字音」であり、語音ではない。中国においても有力諸方言には「全ての漢字をその音系で読める」複数の漢字音が存在する。閩語廈門方言で「ヒト」を *lang* という。しかし『千字文』の「人」は *lin* と読まれる。廈門人にとって *lang* は「国之語音」である。しかしながら日本、朝鮮、ベトナムのように「字音と字訓」がセットになって漢字が教育されることはなかった。漢字の存在するところに「宛字」のないところはなく、中でも閩語では盛んに行われる。台湾語で「人」を *dang*、「肉」を *ba?* と読むのは「宛字」の読みであり、故王育徳氏はこれを「訓読」と称した。しかし中国では

これを「文白異読」という。あくまでも「字」が先にあるのである。

「音借字」, 「訓借字」も漢語方言にその例がある。ラマール(2005)は客家語漢字表記基督教文献において、それぞれ「我々」, 「あなたらの」を現す客家語 *nga¹ teu¹* に *nya¹ teu¹* が, 1883 年には「[口雅] 兜」, 「[口惹] 兜」と宛てられ, 1931 年には「我等」, 「尔」が宛てられている事実を指摘している。前者は「音借字」, 後者は「訓借字」である。

客家人や台湾人には「国語音」を表音文字で表記する恩恵が与えられなかったのだろうか。事実はそうでなく C・ラマール(2005)が述べるように、また台湾における「教会ローマ字」の普及を見ても知り得る通り、宣教師によるローマ字表記が存在した。にもかかわらずこれらの漢語諸方言は今日再び漢語の方言としてあり、「国語音」をもとに言語的独立を果たすことはなかった。漢語諸方言のうち、唯一表音文字化して漢語から独立した言語は、東干語のみである。客家語や台湾語のローマ字は基督教文献へのアクセスは可能にしたが、*sinographic cosmopolis* における普遍的(儒教)コードへのアクセスは漢字によるしかなかった。一方、東干人は全員がムスリムとしてアクセスすべきコーランのアラビア語を *cosmopolitan code* として持ち、小児錦>ローマ字>キリル文字という表音文字の伝統を有していた。

朝鮮におけるハングル化、ベトナムにおけるローマ字化は所属普遍世界の変更を含蓄するとすれば、上述の *cosmopolitan code* と書記体系の係りも視野に入れた考察を朝鮮半島の書記史に持ち込む必要があると考えられる。

最後にラムゼイ(1990)の次の言及を引用しよう。

アジアでかつて使われたすべての書記体系の中で、漢字の体系は最初からそれを使うことを想定していた言語以外のどんな言語を表記するに際しても、確かに最も不適当な代物の一つである。それをを用いるためには、どうしてもまず中国語を勉強して、それからその文字を書かねばならなかった。漢字をアルタイ語のような多音節で語形変化のある言語に適用するのに伴う巨大な困難は、日本人を除くすべての北方民族の限界を越えたものであったと思われる。(下線部筆者)

二十一世紀の今日、確かに「漢字を日常的に使用しつつ、非中国し続けている」地域は日本語圏のみである。しかしこれは「漢字を用いる、まさにそのことによって非中国化する」方法を、現在知り得る限り、五世紀初頭には開発していた高句麗の人々の試みをその濫觴とする、と見るべきである。この奇抜な、ある意味で革命的な試みが、さらに遡り得るのか、またその後の様相が中国内外の類似した現象と如何に異なるか等について、巨細な研究が要請される。

参考文献

アルファベット順。日本語はへボン式。朝鮮語は Yale system, 中国語は拼音による。

青山学院大学文学部日本文学科編・発行(2005)『文字と言葉—古代東アジアの文化交流—』

鮎貝房之進(1934)『雑攷』第六輯上編, 京城

Beckwith, C. (2007) *Koguryo: The Language of Japan's Continental Relatives*, Brill, Leiden

福井玲(2009)「韓国・朝鮮の漢字」大西克也・宮本徹(2009)所収

谷風主編(1993)《辭書集成》一, 團結出版社

弘文閣影印(1984)『論語栗谷諺解』弘文閣

侯玲文(2009)《上古漢語朝鮮語對應詞研究》民族出版社

石井正敏(2003)『東アジア世界と古代の日本』山川出版社

李翼成訳注(1971)『朴齊家 北学議』乙酉文化社

市大樹(2012)『飛鳥の木簡』, 中央公論社

伊藤英人(1995a)「關於中世韓語漢語借詞声調幾箇問題的探討論」『韓国学研究』4, 北京大学韓国学研究中心

伊藤英人(1995b)「申景濬 uy 『韻解訓民正音』 ey tayhaye」『国語学』25, 韓国国語学会

伊藤英人(1997a)「中期朝鮮語正音表記漢字語及び漢語借用語について」『日本語と朝鮮語』下, 国立国語研究所

伊藤英人(1997b)「漢文明の受容」『もっと知りたい韓国』1, 弘文堂

伊藤英人(2001)「關於中世漢語時態与体的範疇」杭州大学韓国学研究所『韓国学研究叢書』

伊藤英人(2002)「高宗代漢学書字音改正について—『華語類抄』の字音を通して—」朝鮮語研究会『朝鮮語研究』1

伊藤英人(2004a)「講經と読經—正音と読誦をめぐって」朝鮮語研究会『朝鮮語研究』2

伊藤英人(2004b)「刊經都監訳経僧の白話解釈と翻訳をめぐって—『蒙山法語』諺解の分析—」『朝鮮学報』193

伊藤英人(2004c)「刊經都監訳経僧の白話解釈と翻訳をめぐって—『蒙山法語』諺解を中心に—」第八回東アジア諸言語研究会発表稿: 2004年6月6日, 於青山学院大学

伊藤英人(2005)「關於十五世紀朝鮮對正音的認識」遠藤光曉他編『韓国的中国語言学資料研究』学古房

ITO, Hideto(2005) *Grammatical Markers of Early Baihua and Late Mediaeval Korean, Corpus-Based Approaches to Sentence Structures*, John Benjamins

伊藤英人(2007a)「『翻譯老乞大』の「了」の朝鮮語訳をめぐって」東京外国語大学語学研究所『語学研究所論集』12

伊藤英人(2007b)「漢字音教育法」『韓国語教育論講座』1, くろしお出版

伊藤英人(2008a)「文献解題: 歴史言語学 古代語および前期中世語」『韓国語教育論講座』4, くろしお出版

- 伊藤英人(2008b)「浅談有關借字表記法研究的幾箇問題」遠藤光暁他編『韓漢語言研究』学古房
- 伊藤英人(2009)「類型論 mich 言語接触 uy 観点 eyse pon 韓国語 wa 日本語」伊藤智ゆき編『朝鮮語史研究』
アジア・アフリカ言語文化研究所
- 伊藤英人(2010)「朝鮮半島の書記史—不可避の自己としての漢語」中村春作他(2010) 所収
- 伊藤英人(2011)「朝鮮時代の近世中国語の「翻訳」について」『東京外国語大学論集』83
- 石見清裕(2009)『唐代の国際関係』山川出版社
- 金完鎮(1980)『郷歌解読法研究』Seoul, 大学校出版部
- 金文京(2010)『漢文と東アジア』岩波書店
- King, Ross(2006) Korean kugyol writing and the problem of vernacularisation in the Sinitic sphere. Paper presented at
the Association for Asian Studies, Boston
- 小林芳規(2002)「韓国における角筆文献の発見とその意義—日本古訓点との関係—」朝鮮学会『朝鮮学報』
182
- 小林芳規(2004)『角筆文献研究導論』上巻 東アジア編, 汲古書院
- 小林芳規(2005)『文字の交流—片仮名の起源—』青山学院大学文学部日本文学科編・発行(2005) 所収
- 小松英雄(1995)『日本漢字音の諸体系』築島裕(1995) 所収
- 河野六郎(1957/1980)「古事記における漢字使用」『古事記大成—言語文字編』平凡社 (河野六郎 1980 所収)
- 河野六郎(1980)『河野六郎著作集』3, 平凡社
- 河野六郎(1987)「百濟語の二重言語性」『中吉先生喜寿記念・朝鮮の古文化論叢』国書刊行会
- 河野六郎(1993)『三国志に記された東アジアの言語および民族に関する基礎的研究』平成2・3・4年度科
学研究費補助金 一般研究 (B) 研究成果報告書, 東洋文庫
- 国立歴史民俗博物館(2002)『文字のある風景』
- 小谷博泰(2006)『木簡・金石文と記紀の研究』和泉書院
- 草川昇(2001)『五本対照類聚名義抄和訓集成』汲古書院
- ラマール・C(2005)「地域語で書くこと—客家語のケース(1860 - 1910)—」村田雄二郎・C・ラマール編『漢
字圏の近代』所収
- Li, Canghuy (2001)『新羅時代 uy 漢字音 声母体系 uy 通時的的研究』慶北大学校博士学位論文
- 李基文(1998)『新訂版国語史概説』太学社
- 李丙燾校訳(1977)『三国史記』乙酉文化社
- 劉君恵(1992)『揚雄方言研究』巴蜀出版社
- デイヴィッド・ルーリー(2013)「世界の文字史と『万葉集』」笠間書院
- 松本克己(2005)「新説・日本語系統論」『月刊言語』34-8, 大修館書店
- 松本克己(2010)『世界言語の人称代名詞とその系譜』三省堂
- Mazur, Ju. N., Koncevič, L. P. (2001) Koreiskij jazyk, *Jazuki rossijskoj federacij i sosednix gosdarstv, Nauka, Moscow*
- 森博通(2003)「稻荷山鉄剣銘とアクセント」小川良祐他(2003)所収
- 森博通(2011)『日本書紀成立の真実—書き換えの主導者は誰か』中央公論社

- 森平雅彦(2011)『モンゴル帝国の覇権と朝鮮半島』山川出版社
- 村井章介(1995)『東アジア往還』朝日新聞社
- 中村春作・市来津由彦・田尻祐一郎・前田勉編(2011)『続「訓読」論』勉誠出版
- 南豊鉉(1999a)『國語史 lul wihan 口訣研究』太学社, Seoul
- 南豊鉉(1999b)『『瑜伽師地論』 釈読口訣 uy 研究』太学社, Seoul
- 南豊鉉(2000)『吏読研究』太学社, Seoul
- 南豊鉉(2005)「韓国の古代吏読文の「之」について」青山学院大学文学部日本文学科編・発行(2005) 所収
- 南豊鉉(2009)『古代韓国語研究』Sikanuy mullay
- 南豊鉉(2007)「韓国 uy 口訣 kwa ku 讀法」2007年3月23日, AAS 発表資料
- 南豊鉉(2012)「新羅時代 uy 写経 kwa wuliyu 文化」『語文研究』175, 韓国語文会
- 南豊鉉(2013)「古代韓国の漢文釈読法と訓借について」Accessing the Cosmopolitan Code in the Sinographic Cosmopolis, 2013年6月17日, 早稲田大学発表資料
- 日本随筆大成編集部(1994)『日本随筆大成』新装版 第二期 7, 吉川弘文館
- 小川良祐・狩野久・吉村武彦編(2003)『ワカタケル大王とその時代』山川出版社
- 沖森卓也(2003)『日本語の誕生 古代の文字と表記』吉川弘文館
- 大西克也・宮本徹(2009)『アジアと漢字文化』放送大学教育振興会
- 太田辰夫(1954)「漢兒言語について」太田(1988)所収
- 太田辰夫(1988)『中国語史通考』白帝社
- Park, Si Nae(2013) De-coding cosmopolitan texts through Onhae texts, in Choson, Accessing the Cosmopolitan Code in the Sinographic Cosmopolis, 2013年6月18日, 早稲田大学発表資料
- Pollock, Sheldon (2006) *The Language of the Gods in the World of Men*, University of California
- Poppe (1960) *Vergleichende Grammatik der altaischen Sprachen*, Otto Harrassowitz, Wiesbaden
- S・R・ラムゼイ, 高田時雄他訳『中国の諸言語』大修館書店(原本刊行 1987)
- Ramstedt, G. J. (1954) *Additional Korean Etymology*, collected by Pentti Aalt, Suomalais-ugrilian seura, Helsinki
- Ramstedt, G. J. (1982) *Paralipomena of Korean Etymology*, collected and edited by Songmo Kho, Suomalais-ugrilian seura, Helsinki
- 李成市(1998)『古代東アジアの民族と国家』岩波書店
- 李成市(2002)『古代朝鮮の漢字文化』国立歴史民俗博物館(2002)所収
- 李成市(2007)「古代朝鮮における漢字文化の受容過程」朝鮮史研究会第44回大会発表資料
- 李成市(2013)「朝鮮半島出土の『論語』竹簡・木簡に関する考察」Accessing the Cosmopolitan Code in the Sinographic Cosmopolis, 2013年6月16日, 早稲田大学発表資料
- 斉藤希史(2007)『漢文脈と近代日本』日本放送出版協会
- 杉山正明(2011)『遊牧民から見た世界史 増補版』日本経済新聞出版社
- 孫宏開, 胡增益, 黄行(2007)《中国的語言》商務印書館
- 宋兆祥(2011)《中上古漢朝語研究》中国社會科學出版社

武田幸男(1989)『高句麗史と東アジア』岩波書店

武田幸男(1995・1996)「三韓社会における辰王と臣智」上・下『朝鮮文化研究』2・3, 東京大学文学部朝鮮文化研究室

武田幸男(1997)「朝鮮の古代から新羅・渤海へ」礪波護・武田幸男(1997)所収

田中史生(2005)『倭国と渡来人』吉川弘文館

礪波護・武田幸男(1997)『隋唐帝国と古代朝鮮』中央公論社

築島裕(1995)『日本漢字音史論輯』汲古書院

Walraven, Boudewijn (2004) Book culture in Korea: meetingpoint of intellectual, social and history, *AKSE Newsletter* 28, Leiden

Whitman, John (2010) The Ubiquity of the Gloss, *Writings and Civilization*, The Hunmin jeongeum Society

吉村武彦(2010)『ヤマト王権』岩波書店

鄭張尚芳(2003)『上古音系』上海教育出版社

朱瑞平校点(1997)『朴趾源 熱河日記』上海古籍出版社

企画 1

特集「所有・存在表現」

[テーマ企画：特集 所有・存在表現]
まえがき

風間 伸次郎

1. 企画に至った経緯

『語学研究所論集』では、これまでの「受動表現」「アスペクト」「モダリティ」「ヴォイス」に続き、今回は「所有・存在表現」という統一テーマを組んで、各言語における所有・存在表現の状況を報告していただくということになった。

まず、日本語による38の例文もしくは句からなるアンケートを作成し、これに答えていただくことによって、各言語のデータを収集することにした。アンケートの構成や意図については、本稿稿末のアンケート本体を参照されたい。

こうして15の言語に関する所有・存在表現のデータが集まった。これは外大にある27専攻語のうちの11言語にナーナイ語、マダガスカル語、フィンランド語を加えたものとなっている。

これらの言語を語族別に見ると、まずスペイン語、ドイツ語、ロシア語、ペルシア語、ウルドゥー語はインド・ヨーロッパ語族の言語である。ナーナイ語はツングース諸語、モンゴル語はモンゴル諸語に属するが、これらは(系統ではなく)構造的な類似などの点からアルタイ諸言語としてまとめられることのある言語群である。なおモンゴル語のデータとしたものは、外モンゴルのハルハ方言と、内モンゴルのホルチン方言、さらにブリヤート語からなっている。フィンランド語はウラル語族、アラビア語はアフロ・アジア語族の言語である。朝鮮語の系統は不明とされている。マレーシア語、インドネシア語、マダガスカル語はオーストロネシア語族、中国語は(異論もあるが)シナ・チベット語族、とされている。ただ、複数の語族のデータからなるものの、アフリカやオーストラリア、ニューギニア、カフカース、新大陸の諸言語のデータを欠いているため、本稿での以下に展開される類型論的考察はきわめて不十分なものであることは否めない。

本稿は次のような構成になっている。

1. 企画に至った経緯
2. 先行研究
3. アンケート結果の検討と分析(その1): 所有・存在文
 - 3.0. 分析の枠組み
 - 3.1. 述語
 - 3.1.1. 「持つ」型言語
 - 3.1.2. 「ある」型言語
 - 3.1.3. 所有接辞(proprieteve)型言語
 - 3.2. 所有者～場所(possessor ~ location)
 - 3.3. 被所有者～存在物(possessum/possessee ~ located object)

- 3.4. その他
- 4. アンケート結果の検討と分析 (その2) : 所有構造
- 5. 今後の課題
- 付録 : アンケート

2. 先行研究

Lyons (1968) では、情報構造の違いによって存在/所有に異なる構文が現れることを諸言語の例により示している。以下の英語の例は Lyons (1968) の例文に筆者の判断で主題 (topic) と評言 (comment) の境界を || によって加えたものである。|| が文頭にある場合は、文全体が評言である。

- a. I || have a book. / || I have a book.
- b. The book || is mine.
- p. On the table || there is a book. / || There is a book on the table.
- q. The book || is on the table.

Heine (1997) は、叙述所有 predicative possession と限定所有 attributive possession ('Peter's car') を分け、叙述所有をさらに have 構文 ('Peter has a car') と belong 構文 ('The car is Peter's.') に分けている。

また、所有のより具体的な起源として、次の8つのスキーマをあげ、叙述所有表現をそれらからの文文化の結果ととらえている (X は所有者, Y は被所有物) : ①X takes Y (Action), ②Y is located at X (Location), ③X is with Y (Companion), ④X's Y exists (Genitive), ⑤Y exists for/to X, ⑥Y exists from X (Source), ⑦As for X, Y exists, ⑧Y is X's property (Equation). 他方、所有の概念 (所有構造の意味内容) としては次のものを上げている : ①物理的所有, ②一時的所有, ③永続的所有, ④分離不可能所有, ⑤抽象的所有 (病気や感覚, 心理状態など), ⑥無生物分離不可能所有 (全体と部分) ⑦無生物分離可能所有。

Stassen (2009) は、所有述語の形態統語的諸形式を次の4つに分類する : ①**Locational**: The possessor nominal usually shows locative marking, and the possessive sentence looks identical in surface form to an existential sentence, ②**With**: The possessee nominal occurs in a phrase with comitative marking, e.g. a *with* adposition, ③**Topic**: The possessor and possessee nominal show no marking; the clause contains an existential verb, presumed intransitive. The possessor assumed to be the topic and the possessee the subject, ④**Have**: The possessor and the possessee nominals show no marking; the clause contains a transitive verb typically descended from an Action verb of taking, seizing, grabbing etc.. ただしここで Stassen (2009) は中国語の有 *yǒu* を自動詞とみて③に属するものとしている。

Lander (2009) は連体的な所有構造について、所有者が話題的 (topical) な場合が典型的であるとし、すなわちそれは、所有者が「具体的で、有生で、定であって、最善なのは代名詞の場合 (concrete, animate, definite, and, in the best case, pronominal)」であるとしている。そしてそうでない場合はしばしば所有構造ではない構造、例えば形容詞などによって表現

されるとしている。そこで Lander (2009) が示している次のグルジア語の例は、典型的なケースではないが属格が用いられている例である：*p'ur-is dana* [bread-GEN knife] 「パン切り用のナイフ」。《所有者が有生であれば属格が使われるが、そうでなければ他の手段による言語》として、シンハラ語、パマ・ニュンガの諸言語、インバブラ・ケチュア語などをあげている。《所有者が定でなければ属格を使わない言語》としてはトルコ語をあげている。逆に《最も独立度の高い名詞のみが属格を使わず、他の名詞は属格を使う言語》もあるとして、バグヴァラル語をあげている。この言語では単数男性の代名詞、複数人間、および若干の地名は被所有者との一致によって所有を表現し、その他が属格によるという。

Lander (2009) は所有構造が取る形式を決定するパラメータを3つ示している：①表示の位置 (locus of marking), ②指標 (index), ③統合／融合の度合い (degree of synthesis), である。①の「表示の位置」は主要部標示か従属部標示かという違いであり、②の「指標」とは名詞クラスなど他のカテゴリーを同時に標示しているか否かという問題である。③の「統合／融合の度合い」は接辞か、接語か、独立語か、といった違いである。

『月刊言語』(vol.32, No.11: 2003 Nov.) には「「もつ」と「ある」の言語学」という特集が組まれていて、日本語における所有表現の歴史を扱った金水 (2003), ラテン語を源とするロマンス諸語の所有動詞の分布を扱った伊藤 (2003), などをはじめとする諸論考が掲載されている。

譲渡可能所有／譲渡不可能所有に関しては, Chappell and McGregor (1995) があり, 身体部位を中心とした世界各地の言語における譲渡可能所有／譲渡不可能所有についての論考がまとめられている。

3. アンケート結果の検討と分析 (その1) : 所有・存在文

3.0. 分析の枠組み

先行研究に見るように, 所有・存在文は, 基本的には次の3つの要素からなっている。日本語を例に示す。

私は	本を	持っている	／	私には	本が	ある
所有者	被所有物	述語	／	場所	存在物	述語

そこで以下では, 「述語」(3.1.), 「所有者～場所」(3.2.), 「被所有者～存在物」(3.3.), の順に考察を加えて行くことにする。この3者で扱いきれなかった問題については「その他」(3.4.) で扱うこととする。

3.1. 述語

今回のデータにおいて, 述語部分には, まず①「持つ」「ある」など, 独立した動詞を用いるものと, ②被所有物から派生した動詞を用いるものと, ③動詞を用いず接置詞と被所有物で表現するもの, ④被所有物に所有接辞を付加して形容詞的に機能する述語を作るもの, の4つが観察された。

①の独立した動詞を使用するものは、大きくは、さらに「持つ」にあたる動詞を多用する言語と、もっぱら「ある」を使用する言語に分けられる。

本特集でデータが得られた 15 言語のうち、「持つ」にあたる動詞を使用する「持つ」型言語は、インドネシア語、スペイン語、ドイツ語、ペルシャ語、中国語、マダガスカル語、である。後で見るように、このうち中国語は所有の形態をより具体的に描写する動詞を多く用いるため、「持つ」の使用はその分少ない。またマダガスカル語は「ある」その他の表現方法を比較的多く用いるためやはり「持つ」の使用は少ない。

これに対し、もっぱら「ある」を使う「ある」型言語は、ウルドゥー語、フィンランド語、ロシア語、アラビア語、モンゴル語、ナーナイ語、朝鮮語、日本語、である。

系統的にみると、同じ印欧語族のインド・イラン語派に属しながら、ペルシャ語は「持つ」型言語であるのに対し、ウルドゥー語が「ある」型言語に分かれている点が注目される。

なお、この他に「する」、「なる」にあたる動詞を部分的に用いる言語がある（「する」はマダガスカル語や日本語、「なる」は朝鮮語に観察される）。「着る」およびその他の動詞については後述する。

②以降は、述語といっても単純な述語動詞によるものではなく、厳密には被所有物に何らかの要素を加えて述語を形成するものである。

まず②の被所有物から派生した動詞を用いるものは、インドネシア語およびマレーシア語に観察される。両言語は基本的には「持つ」型言語であるが、より恒常的な所有にこうした述語が観察される。

次に③の動詞を用いず接置詞と被所有物で表現するものは、アラビア語に観察される。

④被所有物に接辞を付加して述語を作るものは、モンゴル語に多く、ナーナイ語とフィンランド語にも若干観察される。この接辞は「所有接辞」(propriative)と呼ばれる。やはりより恒常的な所有にこうした述語が観察される。

以下では、「持つ」型言語 (3.1.1.) と「ある」型言語 (3.1.2.)、④の所有接辞を使用する言語 (3.1.3.)、に分けて考察してゆく。②③については、「持つ」型言語と「ある」型言語の記述の中で触れる。

3.1.1. 「持つ」型言語

次の表は、「持つ」型言語における「持つ」の使用範囲（網掛け部分）を示したものである。左側の言語ほど「持つ」の使用が多く、上の方の項目ほど「持つ」の使用が多くなるように構成してある。なお(27)「YはXのだ」に関しては別途考察するので、表からは外してある。

「持つ」と「ある」に関しては、表中の各言語の動詞の語頭部分を略号として使用した。cop(ula), adj(ective) とあるものは、コンピュータ (+形容詞) 文、形容詞文などになるものを示す。スペイン語では恒常的コンピュータ ser と一時的コンピュータ estar を分けて示した。その他、

スペイン語の項における l は llevar 「着る」、インドネシア語における b- は「ber-名詞」、clq (<colloquial) は口語での使用、を示す。略号でない語については、各言語の記述を参照されたい。なお、マレーシア語とインドネシア語の状況はあまり変わらないので、以下ではもっぱらインドネシア語のデータによって両言語における状況を代表させることとする。

表 1: 「持つ」型言語における「持つ」の使用

言語名	スペイン	ドイツ	インドネシア	ベルシャ	中国語	マダガスカル
「持つ」	tener	haben	punya, milik	būdan	有 yǒu	manana
「ある」	hay	sein	ada	dāstan	在 zài	mişy
(14) あの人には妻がいる	t/estar	h	p/m/b-/a	d/ast	y	ma
(15) あの人には3人子供がいる	t	h	p/m/b-	d	y	ma
(16) タコには足が8本ある	t	h	p/m/b-/cop	d	y	ma
(19) おまえの所には犬がいるか?	t/hay	h	a/p(clq)	d/飼う	y	ma
私は明日用事があります	t	h	p/ a(clq)	d	y	ma
(1) あの人には青い目をしている	t	h	p/m/b-	d/ast	生じる	ma
(10) あの人には才能がある	t	h	p/m/b-/a(clq)	ast	y	ma
(18) あの人にはお金を持っている	t/ser	h	p/m/ a(clq)	ast	y	ma
(20) おまえは自分のペンを持っているか?	t	h	p/m/ a	d	携帯する	ma/携帯する/使う
(2) あの人 {は/の} 髪が長い	t	h/tragen	p/l/b-	d/ast	蓄える	adj
(3) あの人には髭がある	t	h	p/m/b-/a(clq)	d	蓄える	mi
(4) あの人には(見る) 目がある	t	h	うまい	d	y	adj
あの人には熱がある	t/con	h	cop	d	熱を出す	ma
(12) あの人には青い服を着ている	*l/(t)	h+an	b-/着る (clq)/cop	d/着る	着る	する
(13) あの人にはメガネをかけている	*l/(t)	h+auf	b-/着る	d/かける	かける	する
(32) あなたにお願いがあります	t	h	頼む	d	(y)頼む	mi
(24) その部屋には椅子が3つある	t/hay	h/s mit/stehen	a/見つかる	d/b	y	mi
(5) あの人には22歳だ	t	s	b-	d	cop	cop
(6) あの人には優しい性格だ	(t)/ser	s	b-	ast	adj	ma

(8) あの人は背が190センチもある	t	s	cop	d/ast	y	cop
(21) あの人は(誰か別の人の) ペンを 持っている	t	h	保持	ast(手 に)	携帯す る	ma/携帯 する/使う
(22) あの人は運がいい	t/ser	h	p/m/b-	ast	adj	adj
(9) その石は四角い形をしている	(t)/ser	s	b-/cop	ast	cop	cop
(11) あの人は病気だ	estar	h	cop	ast	y	adj
(17) その飲み物にはアルコールが入っ ている	t/l	含む	b-/含む	ast	含む	mi
(23) ここは石が多い	hay	h/s	a/見つかる/多 い	d/ast	adj	adj
(7) あの人は背が高い	ser	s	cop/b-	ast	adj	adj
(28) 昨日, 学校で火事があった	起きる	起きる/es gibt	起きる	起きる	起きる	ma/mi/燃 える
(25) テーブルの上にスプーンがある	hay	s/liegen	a/見つかる	b	y	mi
(29) この世にお化けなんていない	hay	es gibt	a	存在す る	y	mi
(30) (そこには) 英語を話す人もい るが, 話さない人もいる	hay	es gibt	a	b	y	mi
(31) 私より英語ができる人は(ほかに /もっと) います	hay	話せる	a	b	y	mi
(26) スプーンはテーブルの上にある	estar	s/liegen	a/見つかる	ast	z	cop

表1から読み取れることを以下にまとめておく。

まず諸言語で「持つ」と「ある」の使用を分けている条件は、所有者の有生性ではなく、情報構造が主である。すなわち、被所有物/存在物が不特定で、その存在が新情報である場合(25)には、中国語を除いて「持つ」は使えない。特定の物の存在場所を言う所在文(26)では、もはやどの言語でも「持つ」は使えない。中国語の有 yǒu「持つ」はかなり特異で、実在文や絶対存在文でも用いられる。中国語とスペイン語では、(25)と(26)にみるように、情報構造の違いに応じて動詞も別の動詞を用いなければならない。

着用関連の動詞を使用するかについてみると、これを使用する言語には、スペイン語、ペルシャ語、アラビア語、中国語、朝鮮語がある。ドイツ語の着用動詞は所有動詞からの派生形(anhaben「着ている」、aufhaben「かけている、かぶっている」)であるため、表では「持つ」として扱った。

「持つ」型言語では、「存在」という状態を表わすのに、目的語をとる他動詞、すなわち普通なら動作/行為を示す動詞を使うことになる。したがって動詞によってはアスペクトの調整・表示が必要になると考えられる。このことが最も顕著に現れているのが中国語で、

長「生じる」、留「たくわえる」、穿「着る」、戴「かぶる」、拿「持つ」などの動詞が状態の持続を示すアスペクト助詞 着 zhe をとっているのが観察される。他方、英語の wear やスペイン語の llevar は他動詞でありながらも状態動詞で、アスペクト表現を必要としない。

インドネシア語の「持つ」mempunyai / memiliki / punya は、所有（権利としてその人物に所属していることとでも言うべきか）を含意するので、他の人の所有物を一時的に所持している場合などには別の動詞を使わなければならないという。

中国語では、現在の所有、特に一時的な携帯に、「有」でなく「拿」を用いるという。これは中国がアスペクトに関心の高いことの一つの表われであるかもしれない。

より譲渡不可能的な名詞の所有において、名詞からの動詞派生を用いる言語がある。これが最も強力なのはインドネシア語である（接頭辞 ber- による）。目、髪、髭、足などの身体部位をはじめ、子供、妻など親族、服やメガネなど着用物、さらに背、運、年齢、（優しい）性格などの抽象物の所有にも現れている。所有者が無生物である場合の形や含有物（アルコール）でも使用される。

ドイツ語にもわずかながら Brillen 「めがね」より派生した表現が観察される（Er ist bebrillt. 「彼はメガネをしている」）。

3.1.2. 「ある」型言語

「ある」型言語とした言語のうち、アラビア語は存在動詞「ある」をほとんど用いないようで、もっぱら名詞文によって表現するようである。ロシア語でも存在動詞 est' の使用が任意であるケースは多い。しかし所有者は場所を示す前置詞等によって表現されるので、これらの言語も「ある」型言語として扱う。ロシア語には imet', obladat' などの「持つ」的な意味を持つ動詞も存在するが、これらはもっぱら文語において、しかも抽象名詞の所有に限って用いられているようだ。

以下の表2について、説明しておく。

まず、「ある」の使用（網掛け部分）の多い順に、言語は左から、項目は上から配置した点については、表1と同じである。

表2: 「ある」型言語における「ある」の使用

	ロシア	フィン	ウルドゥー	朝鮮	アラビア	ナーナイ	モンゴル
「ある」	/	on	haiŋ	iss-	/	bi-	baj-
(20)自分のペンを持ってるか	u+est'	on	gen+adv+th	iss-/持つ	with	dat+bi-/prop	baj-/prop
(25)テーブルの上にスプーンがある	on+est'	on	loc+th	iss-	on	dat+bi-	baj-
(19)おまえには犬がいるか?	u+est'	on	gen+場所+th	iss-	at1/養う	dat+bi-/prop	baj-/prop

(16) タコには足が8本ある	u/have	on	gen+h	d.s.iss-	for	N/ <u>prop</u> /dat+(bi-)	<u>prop</u> /baj-
(3) あの人には髭がある	u+est'/we ar	on	gen+h	d.s.iss-	for/ <u>prop</u>	<u>prop</u> /dat+(bi-)	<u>prop</u>
あの人には熱がある	u	on	dat+h	d.s.iss-	at1/at2/a dj	<u>prop</u> /dat+(bi-)	V
(15) あの人3人子供がいる	u/have	on	gen+h	d.s.iss-	for	<u>prop</u> /dat+(bi-)	<u>prop</u>
(24)部屋に椅子が3つある	in+(est')	on	loc+h	d.s.iss-	there/in	dat/ <u>prop</u>	baj-/(<u>prop</u>)
(26)スプーンはテーブルの上にある	V	on	loc+h	iss-	on	dat+bi-	baj-
(31) 私より英語ができる人は (ほかにも/もっと) います	est'	on	h	iss-	there V	bi-	baj-
(32)あなたにお願いがある	u	on	h	iss-	at	V	baj-
私は明日用事があります	u+(est')	on	dat+h	iss-	under	dat+bi-	<u>prop</u>
(10) あの人には才能がある	u/have	on	dat+h	d.s.iss-	at1/at2/a dj	N	<u>prop</u>
(18) あの人はお金を持つてる	u+est'/adj	on	gen+ad v+h	d.s.iss-	adj/(with)	dat+bi-/ <u>prop</u>	<u>prop</u> /adj
(21) 別の人のペンを持つてる	u+est'	on	gen+ad v+h	持つ	with	dat+bi-	V
(30) (そこには) 英語を話す人も いるが, 話さない人もいる	there+est'	some	h	iss-	there V	bi-	baj-
(1) あの人には青い目をしている	u	on	gen+h	d.s.adj	for/ <u>prop</u>	adj/dat	<u>prop</u>
(2) あの人には長い髪がある	u	on	gen+h	d.s.adj/ do	for/ <u>prop</u> / comp	dat/ <u>prop</u> /adj	adj/ <u>prop</u>
(14) あの人には妻がいる	u+est'/adj	cop	gen+h	d.s.iss-	adj	<u>prop</u>	<u>prop</u> /baj-
(28) 昨日, 学校で火事があった	in+est'	on	火つく	出る	起こる	dat+bi-	出る
(29)この世にお化けはいない	V/in+not	on	hootaa	ない	~ない	none	baj-否
(4) あの人には見る目がある	adj	cop	dat+h	d.s.iss-	adj	/	<u>prop</u>
(17) 飲み物にアルコールが入ってる	in+est'/co ntain	on	含む	d.s.入る	含む/N	<u>prop</u>	<u>prop</u> /V
(23) ここは石が多い	N	cop	adj	d.s.adj	there	adj/ <u>prop</u>	adj/baj-/ <u>prop</u>
(6) あの人には優しい性格だ	u	cop	adj	d.s.adj	adj/側	adj	<u>prop</u>
(8) あの人には背が190センチもある	N/u	cop	N	d.s.なる	N	N	N

(9) その石は四角い形をしている	u/have	cop	N	N	adj/comp	prop	prop
(12) あの人は青い服を着ている	prop /on/ 着る	on	着る	着る	着る	V/ prop	prop /V
(13) あの人はメガネをかけている	prop /on/ 着る	on/ 使う	かける	かける	着る	V/ prop	prop /V
(5) あの人は22歳だ	dat	cop	N	N	N	N	prop
(7) あの人は背が高い	adj	cop	adj	d.s.adj	adj/comp	adj	adj
(11) あの人は病気だ	adj/V	cop	N	N	adj	V	prop
(22) あの人は運がいい	dat+V	訪れる /cop	adj	d.s.adj	adj	prop	prop

ロシア語については [u「そば」+ 所有者 gen + (est') + 被所有物] の構造を「ある」型文とみなした。すなわち存在動詞 est' の有無に関わらず u によるものを探った。フィンランド語では場所格（主に接格(adessive)）とともに on がコンピュータではなく存在動詞として使われているものを探った。ウルドゥー語ではやはり hain が存在動詞として使われているものを探った。朝鮮語、ナーナイ語、モンゴル語では、それぞれ存在動詞 iss-, bi-, baj- による文をとった。アラビア語では [前置詞 所有者 被所有物] のような構造の文を探った。その前置詞の種類も分けて示した。

N は名詞文，V は動詞文，adj は形容詞による文である。動詞についてはさらに具体的に英語や日本語で記したものもある。フィンランド語における cop は on がコンピュータで使われているもの，アラビア語における comp は複合語による表現である。

表2から読み取れることを以下にまとめておく。

まず「ある」によって表現されにくい(5), (7), (11), (22)はいずれも主体の状態等を示すもので、もっぱら形容詞文もしくは名詞文で示されることがわかる。「持つ」の表では中位に位置し、「持つ」では表現され得る。被所有物が抽象物なので、「ある」によっては表現されにくいのだと考えられる。

譲渡不可能的な体の部分など、一体感のある所有になって来ると、順位が下がってくるようだ。これらは表2では中位を占めている。

情報構造の変換、すなわち(25)テーブルの上にスプーンがある（存在文）、と(26)スプーンはテーブルの上にある（所在文）の違いが、どのように処理されているかについてみよう。まず、単に語順を転換するのみであるのは、モンゴル語、ナーナイ語である。(26)で「スプーン」に冠詞や指示代名詞を付加すれば、あとは語順を転換するのみでよい、という言語が多い。このような言語には、インドネシア語 itu、ペルシャ語 ān、ウルドゥー語 vō、ドイツ語 die、フィンランド語 se、アラビア語 al、がある（冠詞もしくは指示代名詞を

言語名の次に示した)。朝鮮語および日本語では、主題標示要素(「は」など)の付け替えがあるが、ほぼ同じようなシステムと見てよいだろう。

他方、スペイン語、マダガスカル語、ロシア語、中国語では動詞等も異なった表現となっている。

存在動詞そのものに注目すると、存在動詞「ある」にコピュラと同じものを使う言語と違う言語を使う言語があることがわかる。同じなのはウルドゥー語、フィンランド語で、ペルシア語における *hast* も、通常コピュラとして使用される *būdan* の強調形であるという。他方、別形式なのは朝鮮語、日本語である。ロシア語、モンゴル語、ナーナイ語、インドネシア語ではコピュラを使わない。

スペイン語とドイツ語では、特定の物の所在について言う時にはコピュラと同じものを使うが、存在物や存在が新情報である場合には、別の表現となる。

移動動詞に関しては、その移動の *manner* を重視する言語と *path* を重視する言語などに分ける *Talmy* 以来の類型論があるが、存在に関しても存在の様態に注目する言語があるようだ。今回のデータの中、ドイツ語では *liegen*「横たわっている」、*stehen*「立っている」などの動詞が、ロシア語では *ležat'*「横たわる」のような動詞が使われている点が興味深い。

服やメガネについてはやはり着用動詞を用いる言語が圧倒的であるが、フィンランド語に限っては存在動詞文が用いられている。

「(8) あの人には背が 190 センチもある」に関して朝鮮語で、伸縮可の「量」には「なる」にあたる動詞が使われる、という点も興味深い。

今回データの得られた言語において、譲渡可能／不可能 (*alienability*) に関する明確な区別は、アラビア語とペルシア語、ナーナイ語に観察される。このうちナーナイ語は述語所有 (*predicate possession*) においては特にこの区別が問題にならないようである。アラビア語では、前置詞の使い分けによって譲渡可能／不可能が区別される。身体部位や家族、権利など所有者にとって分離不可能なものについては、前置詞 *li-(for)* が用いられるという。今回のデータでは、髪、髭、(タコの) 足、といった身体部位の他に、子供で前置詞 *li-(for)* が現れている。ペルシア語では、特に二重主語文などにおいて、身体部位など譲渡不可能な名詞が現れる場合に、必ず所有人称接辞を伴わなければならない。

(30)(31)の絶対存在文における「できごとの生起」に「ある」が使えるか否かについて見ると、アラビア語を除く全ての言語での使用が観察された。アラビア語では動詞文が使われている。フィンランド語における(30)は、英語の *some* による表現のようになっており、(31)はドイツ語では動詞文になっている。今回の分類では、中国語のみ「持つ」有 *yǒu* で表現するが、残りの言語は全て「ある」を用いて表現している。ただしドイツ語は非人称の存在文である。

3.1.3. 所有接辞(proprieteve)型言語

このタイプの所有は Stassen (2009) の枠組みでは, With-possessive タイプに分類される。

表 2 に prop として記した所有接辞を多用する言語は, モンゴル語とナーナイ語であるが, モンゴル語での使用が際立っている。表 2 では, 実に 33 項目中の 22 項目で使われている (prop と太字及び下線付きで示してある)。ナーナイ語では 16 項目である。逆に, このように所有接辞の使用が多いために, 両言語では「ある」の使用が少ないとも言える。

その使用は, 恒常的で一体感のある所有, 特に譲渡不可能な体の部分などが典型的であるが, 被所有物が譲渡可能な物や, 抽象的なものでも用いられているし, 所有者が無生物でも問題なく用いられることがわかる。使用が観察されないのは, 典型的な存在文, 実在文, 絶対存在文, 一時的な他人の物の所有, などである。

アルタイ諸言語の所有接辞に関しては, 風間 (1999) があり, 所有接辞に関する通言語的・類型論的考察には江畑 (2012) がある。江畑 (2012) によれば, オーストラリア原住民語, ウラル語族の言語, チベット・ビルマ語族の言語, グルジア語, スライアモン語, エスキモー語などに類似の機能の接辞が観察されるという。

本稿でもわずかながら, フィンランド語 (ウラル語族) の連体修飾の所有表現 *parra-kas mies BEARD-WITH MAN* 「髭のある 男」において所有接辞 *-kas* が 1 例観察された。

ペルシャ語において *with* のような機能を示している前置詞 *bā* は, 目, 髪, 背丈, 才能, 服, 子供, のように, より恒常的で譲渡不可能なもの所有に用いられている。時には *bā-este'dād* 「才能のある」のように一体化・語彙化して形容詞となることもあるという。すなわち, この前置詞は所有接辞に一步近づいたものとなっていると見ることができよう。ペルシャ語にはさらに名詞と *dār* 「～持ちの」による複合語もあるという。

アラビア語の *dū* 「所有者」による句も類似の構造と考えたい。ロシア語では, 前置詞を用いた “*he — in blue cloths*” のような構造もある。

最後に, 「する」という動詞の使用について見ると, まずマダガスカル語では着用等に「する」が使われる。朝鮮語では「長い髪をしている」には *hada* 「する」が使えるが「青い目をしている」には使えない。日本語ではどちらにも使える。総じて「する」は, 所有者によるコントロールが容易な所有物の所有の際に現れるとみてよいのではないだろうか。

3.2. 所有者～場所 (possessor ~ location)

「全体一部分」の関係から見れば, ふつう属格が使われるべきなのは「女の髪」, 「男の髭」のような語順においてであり, 「長い髪の女」, 「髭の男」ではその語順が逆転している。これは「の」による修飾要素が形容詞的に限定修飾しているために成立している表現であるということが出来る。この場合, その修飾部の名詞は「髭」のような非普通所有物や, 「長い髪」などさらに修飾を受けて情報量が多くなっているものでなければならない。したがって, このような位置に属格が使われるのは通言語的にみて珍しいことではないかと考えられる。今回のデータの中では, 唯一ウルドゥー語においてこのようなケースで属格

後置詞 *kā/kē/kī* が使えることがわかった。ただし目と髪の前では良いが、髭の前では使用できないという。中国語でも髪では「的」が使われる(长头发 的 女人)。日本語では朝鮮語よりこのタイプの表現が成立しやすい。ただしどちらの言語でも「高い背の人」は言えない。その理由は、「高い人」で十分な表現となっており、側面語としての「背」が必要でないためであると考えられる。

前節ではアラビア語において、譲渡可能／不可能の区別によって前置詞が使い分けられていることを見た。譲渡可能／不可能による区別ではないが、所有者～場所の名詞句の特性によって前置詞が使い分けられる言語がある。まずウルドゥー語では所有者であれば属格、存在場所であれば処格による構文となる。さらに被所有物が熟、用事、才能などの抽象物である場合には、所有者には与格が用いられている(以上表2参照)。

ドイツ語では通時的に、現在、属格の衰退と与格の使用範囲の拡大が進行しているという。バルカン半島の諸言語では属格と与格の融合が顕著にみられることが思い起こされる。これに伴い、二重表示も発達しているという。究極的には、これは *Head marking* の所有構造へと向かう *drift* であると考えられる(*dem Mann sein Stift the man.DAT his pen.NOM*「その男のペン」)。

次に、「場所」を示す語に注目する。日本語では「前、後ろ、横、…」などの語はかなり完全な名詞的性格を有している。すなわち、属格名詞句で修飾され、それ自体が格をとることができる。

この点に注目すると、まずインドネシア語、ウルドゥー語、フィンランド語、ナーナイ語の「場所」を示す語は日本語同様名詞的である。アラビア語の *jiwār* 「側」も名詞的である。

他方、朝鮮語では格をとるものの、ふつうは前の名詞が属格をとらない点で名詞性が劣る。中国語は孤立語で格標示が無い上に、前の名詞は格的 *de* をとらない。モンゴル語では基本的に格をとらないため後置詞とされているが、「前、外、横、…」など一部の語は前の名詞が属格をとるので若干名詞的な性格も示しているといえよう。

アラビア語、ペルシャ語の前置詞は属格名詞やエザーフエを伴う点でやや名詞的である。今回の調査データに現れたドイツ語、ロシア語の前置詞に属格名詞を伴うものは無かった。スペイン語の「横、前」は *de N* を伴う。

名詞のトコロ性に注目すると、日本語同様、トコロ性のない名詞を場所化しなければならぬ言語として、まず中国語が挙げられる(来 桌子 这边! 「机のところに来て!」)。インドネシア語では、*Datanglah pada meja (come-PTCL at desk)* 「机のところに来て!」のように前置詞を必要とするようである。他の言語ではあまり明確なトコロ性に関する制限は見いだされなかった。朝鮮語は日本語との類似点が多く指摘される言語であり、中国語からの影響を強く受けてもいる言語でもあるが、この点では違っているように見える。しかしこれは、現在の与格助詞 (*eykei, kkey*) が歴史的には場所名詞を含む表現から発達してきたためであり、かつてはトコロ性を持っていたものと考えられることができる。

3.3. 被所有者～存在物(possessum/possessee ~ located object)

まず普通所有物（髪など）と非普通所有物（髭など）との対立に注目する。インドネシア語では、非普通所有物に *memakai/pakai* 「使う」を使うことができるという。

「制御可能／不可能」所有という観点からは、スペイン語で次のような対立が観察される。

un hombre {de/con} gafas (a man {of/with} glasses) 「メガネ {の/をかけた} 男」

*un hombre {de/*con} la barba* (a man {of/with} the beard) 「髭 {の/をつけた} 男」

しかし、次のような例もあるので、制御とも言えないかもしれない。

una persona {con/de} buena suerte (a person {with/of} good luck) 「幸運な人」

他方ドイツ語においては、メガネ、髭、運、才能、などに区別なく *mit* (with) を使用することができるようだ。

3.4. その他

側面語（性格(6)、背(7)(8)、形(9)など）の使用／不使用についてみると、ペルシャ語（背）、マダガスカル語（背、性格）、中国語（性格）においてこうした側面語が現れるのが観察できる。これらの言語のこうした文は二重主語文になる。次の文はペルシア語のものである。

u qadd-aš boland ast.

彼 背-PRON.SUF.3SG 高い COP.IND.PRES.3SG

さらにインドネシア語、朝鮮語、日本語では、身体部位(2)(3)なども二重主語構文で表現する。日本語もそうだが、このような文に与格を用いると「あの人に髭がある」となり、付け髭か何か、別個に存在する物体が存在するように解釈されてしまう。これは英語における *I hit him on the shoulder.* に対する *I hit his shoulder.* の関係に似ている。すなわち、所有の形式を使った方が別個の存在物の所有を示すことになり、むしろ統語的に切り離れたほうが譲渡不可能的な所有で使われるというしくみになっている。なおスペイン語の *un hombre {de/*con} la barba* においては、*con* を用いれば付け髭という解釈になるという。

(4)の「見る目がある」のような比喩表現が言えるか否かに注目すると、スペイン語、ペルシャ語、中国語、朝鮮語にそのような表現が観察される。中国語には「有眼光」、朝鮮語では「眼目がある」のような表現となっている。

(20)「おまえはペンを持っているか？」に関して、発話時点で所有しているか否か、に注目する言語も存在する。ウルドゥー語で *rak^htē* 「置く」を用いて所有を表現した場合には、必ずしも今実際にそれを持っていなくともよい、という (*kyā tum apnā qalam rak^htē hō?* (疑問詞 君 Pron.NOM. 自分の ペン m.sg.NOM. 置く PRES.2.pl. ある Copula.PRES.sg.) 「おまえはペンを持っているか?」)。マダガスカル語でも現在「携帯している」ことを明示する動詞の表現が別個に存在し、使用されるという。

次に実在文(29)「(この世には) お化けなんていない」をとりあげる。まずフィンランド

語ではコンピュータであり存在動詞でもある *olla* を二重に使った文となっている。すなわち一つ目の *olla* が存在動詞で、文末の *olla* がコンピュータである。アラビア語やペルシャ語では「存在する」という意の独自の動詞が用いられている。

恒久的存在(24)「その部屋には椅子が3つある」と一時的存在(25)「テーブルの上にスプーンがある」の違いについてみる。スペイン語およびドイツ語では恒常的存在の方には「持つ」や *with* にあたる語による表現が可能であり、一時的存在の方では不可能である。

最後に Heine (1997) のいう *belong* 構文で使われる形についてみる。日本語でなら「私の、太郎の」にあたる形であるが、これらを総称する便利な用語は見当たらないようだ。英語では *mine* は所有代名詞と呼ばれるが、Taro's の方は属格形(別用法の)ということになってしまう。ここでは「物主形」と呼ぶことにする。

項目(27)をみよう。まずウルドゥー語、スペイン語、フィンランド語、日本語では物主形は属格と同形である。中国語は的 *de* によるので、属格そのものではないものの、やはり同じ形式である。スペイン語、ロシア語、ウルドゥー語、フィンランド語では、代名詞の変化は一般名詞と大きく異なるが、基本的に属格やそれに類する形(スペイン語: *de N*)が用いられる。ドイツ語でも *von N* を用いることができるが、英語の *belong* 型の構文、すなわち所有者項を与格で要求する動詞 *gehören* を用いた表現になる方が一般的であるという。

これらに対し、まずモンゴル語での属格形はあくまでも修飾に用いられる形として機能しているようで、接辞 *-x* を用いて名詞化しなければ物主形として機能することができない。ナーナイ語には独自の物主接辞 *-ngi* がある(Taro-*ngi* 「太郎のもの」)。なおナーナイ語は *head marking* の所有構造を持つため、属格は無く、この物主形と属格との間に形の上での関連は無い。

ペルシャ語やインドネシア語では、「財産、所有物」にあたる名詞を属格もしくは並置で修飾することにより物主句を構成する。朝鮮語では「もの、こと」を広く指し単独では用いることのできない依存名詞によって物主句を形成する。

アラビア語では、「このペンは私のペンです」のように、独自の物主形は別個に存在せず、同じ名詞を繰り返すことによってその意味内容を表現する。

興味深いのはマダガスカル語で、対格が物主形として機能するという。

4. アンケート結果の検討と分析(その2): 所有構造

以下に見る表3は連体修飾句における属格、もしくは最も *default* な所有形式の使用を示したものである。ウルドゥー語、モンゴル語、アラビア語、フィンランド語、ロシア語、ドイツ語、朝鮮語については属格の使用を網掛けで示した(朝鮮語における問題点は後述)。中国語は的 *de* を属格相当として扱った。ペルシャ語はエザーフェ、スペイン語は前置詞 *de*、インドネシア語は後置修飾、マダガスカル語はリンカー、ナーナイ語は所有人称接辞による主要部標示の所有構造を、それぞれもつとも *default* な所有構造として扱い、網掛

けによって示した。

やはり左側の言語ほどその使用が多く、上の方の項目ほど属格の使用が多くなるように構成してある。/ はその項目のデータが得られていないもの、g は属格、adj(ective) は形容詞、adv(erb) は副詞、comp(ound) は複合語、inf(initive) は不定詞、ins(trumental case) は具格、loc(ative case) は処格、N は名詞、para(taxis) は並置、prep(osition) は前置詞、ptcp(participle) は分詞、suf(fix) は接尾辞、vo, ov は動詞-目的語、目的語-動詞、V は動詞を、それぞれ示している。

さらに、モンゴル語における t は -tai/3 [prop.] (3.1.3. 参照)、アラビア語における cncd (concord) は格の一致、インドネシア語の DF (dependent final) は後置による修飾、HM (head marking) は主要部標示 (-nya による)、フィンランド語の ela(tive) は出格、マダガスカル語の L (linker) はリンカー、obl(ique) は斜格、dem-PN (demonstrative pronoun) は指示代名詞、ナーナイ語の p (possessional suffix) は所有人称接辞による主要部標示の所有構造、朝鮮語の cop(ula) はコピュラを、それぞれ示す。

表 3: 連体修飾における属格の使用

		19	15	15	14	12	12	11	10	10	8	8	8	7
		ヘ° ルシ ヤ	ウル ト° カー	モン コ° ル	スヘ°イ ン	アラ ヒ° ア	インドネ シア	フィ ン	中 国	ロシア	ドイツ	マ タ° ガ°	ナー ナイ	朝 鮮
13	バラの花びら	e	g	g	de	g	prep/DF	g	g	g	(g)/com p	L	p	g/ N
12	～の小説	e	g	g	/	g	DF	g	g	g	g	L	p	g
11	Xさんのお母さん	e	g	g	de	g	prep/H M	g	g	g	g	L	/	g/ N
10	犬の鳴き声	e	g	g	de	g	DF	g	g	g/adj	(g)v	par a	V	V
10	火山の爆発	e	g	g	de	adj	DF	g	g	g	(g)v	L	/	N
10	花の匂い	e	g	g	prep/ de	g	DF	g	N	g	g/comp	par a	p	g/ N
9	彼の泳ぎ	e	g	g	n(wa y)	suf	HM	g	g	g	(g)v	g/L	/	(g)
9	机の横に/机の 前に	e	g	g	de	g	DF	g	N	(prep)ins	prep	L	p	N
9	チューリップ の絵	e	g	g	de	g	DF	ela	g	g/(pre p)ins	prep	par a	(p)/ V	N

9	日本語の先生	e	g	g	de	pre p/g	DF	g	N	g	prep/co mp	par a	/	g/ N
9	井戸の水	e	g	g	de	pre p/g	prep/DF	g	N	adj/pr ep	prep/co mp	(L)	/	g/ N
8	冬の雨	e	g	g	de/pr ep	g/p rep	DF/prep	a	g	ins/ad j	prep	obl	p	N
7	車の運転	e	ov(inf)	N	de	g	DF	g	vo	g	(g)v	par a	V	N
6	あの人の次	e	g	g	de	/	AE	ela	g	(prep)ins	prep	par a	p	N
5	果物のナイフ	e	ad v	g	prep	g	prep	co mp	N	prep	prep/co mp	L	(p)/ V	N
4	東京の家	pre p/(e)	loc	g	de/pr ep	pre p	prep	v	g	prep/ adj	prep	de m- PN	V	N
4	雨の日	e	g	t	de	v.p tcp	DF	a/c om p	N	adj	adj	V,r el.c	/	V
3	紙の飛行機	e	g	N	de	adj /pr ep	prep	co mp	N	adj	prep/co mp	V	suf	N
1	英文の手紙	pre p/(e)	ins	N	prep	v	prep	adj	N	adj	prep	obl	V	N
0	妹の花子	par a	par a	N	para	cnc d	para	N	N	para	para	par a	N	V(co p)
0	社長の田中さん	par a	par a	N	para	cnc d	para	N	N	para	para	par a	/	V(co p)

表から読み取れることを以下にまとめておく。

言語に関してみると、まずペルシャ語のエザーフェの使用範囲がきわめて広く、「同格」を除くほとんど全てに使用可能であることがわかる。アラビア語の属格の使用範囲も広く、ひょっとするとこの地域の地域特徴ではないかとも考えられる。ウルドゥー語の属格、スペイン語の *de* の使用範囲も広いが、裏を返せば、これらの言語は名詞間の関係の意味的

な違いにあまり関心がないと言えるだろう。

これに対しこれらと対照的なのはドイツ語やロシア語で、多様な前置詞によりその意味的な関係の違いを明示しようとしている。前置詞が使用できるか否かに関しては、当然その言語の前置詞の性格が関わっている。まず前置詞が動詞と名詞の関係を示すだけでなく、名詞と名詞をも繋げる性格を持っていることが、所有構造での前置詞の使用の前提条件となる。

ドイツ語では複合語の使用も盛んで、6項目に観察される。中国語も語彙化して一語となったものがいくつも観察される。フィンランド語は出格を用いたり、複合語を用いたりしている点でドイツ語に似ており、ウラル語族の言語ではあるもの、ヨーロッパ的な性格を示しているのではないだろうか。

朝鮮語では、明示的な形式 **-uy** のみを属格と認めたので、属格の使用の最も少ない言語であるという分析結果になっている。しかし実際には **N** と記した名詞の並列、および濃音化が機能していることに注意が必要である(朝鮮語のデータを参照されたい)。朝鮮語は名詞志向構造の日本語に対して動詞志向構造を持つ言語であるとされており、動詞による連体修飾で表現されている項目も少なくない。なお朝鮮語の **-uy** は歴史的にみると処格に由来するものであるという。上記のドイツ語における与格の属格化と同じ方向への変化であることが興味深い。

項目について見ると、「全体部分の関係」や、「動作の主体」などに、典型的な所有構造が現れることがわかる。「場所の基準」、「題材」、「取得源」、「時期」、「動作の対象」などになるとその使用は減って来る。「用途」、「場所」、「材質」などになるとさらに減る。ナーナイ語には、材質を示す独自の接尾辞 **-ma** 「～製の」の存在する点が注目される。

「同格」は日本語以外では属格等を使用することができないようである。その表示はほとんどの言語でもっぱら並置に拠っている。ペルシャ語で、同格が使われる(37)「妹の花子／社長の田中さん」においてエザーフェを用いると、「(複数いる) Xのうちの、姉妹方(の家族、親戚)の X」、「複数の Yのうちの、社長をしている Y」のような意味になるという。

最後に、(38)「となりの家の友達のお父さんの車のタイヤ」にみる属格(もしくは他の default の表現)の連続使用の可否について検討する。まずペルシャ語のエザーフェはここでも全く自由にいくつも用いることができ、日本語の「の」との類似性を示している。フィンランド語、マダガスカル語、アラビア語、ウルドゥー語、モンゴル語、ロシア語の属格もかなり自由に重ねて用いることができる。やや制限の有るのは、スペイン語、ドイツ語、中国語、朝鮮語である。さらに制限がきついと思われるのは、インドネシア語、ナーナイ語である。

5. 今後の課題

(1)～(26)にも、連体修飾の所有構造についての質問を設け、そのデータを得たにもかか

ならず、今回十分に分析しきれなかった。たとえばスペイン語ではこのデータにおいて前置詞 de[of]～con[with] の使い分けが観察される。これを含んだ連体修飾の所有構造全体の考察が今後の課題である。

今回の分析結果から、先行研究に対するどのような新しい知見を示すことができるのか、先行研究との十分なつきあわせによってこれを明らかに示すこともできなかった。この点を今後の最大の課題としたい。

最後になるが、アンケートに協力して下さった諸先生方、コンサルタントとなって下さった方々に深くお礼申しあげたい。本稿に示した考察の多くは引用箇所を示さず、本特集の各言語の記述より引用してきている。その点に関してどうか御容赦願いたい。各言語の状況に関して、詳しくは各言語のアンケート結果を合わせて参照されたい。無論、本稿の誤謬等は全て筆者の責に帰するものである。

語研論集特集へのご協力をお願い

語学研究所所長 高垣敏博

語研論集の特集について、このたび以下のような大枠で「所有・存在表現」に関する原稿作成あるいは言語データ提供をお願いすることになりました。

アンケート項目は風間先生に作成していただき、萬宮先生により貴重なアドバイスもいただいております。

特集の趣旨は、自由な（したがって通常は相互に関連のない）投稿原稿ばかりではなく、「語研論集ならではの」というコンテンツを考えてみようということです。特集の個々の寄稿は論文でも研究ノートでも結構です。また、論文・研究ノートを書く余裕がないという場合には、下のようなアンケートに答える形で言語データ提供にご協力いただければと思います。アンケートについては、回答が重複してもいけませんので特集担当者と調整していただくこととなりますが、共通のテーマに関して、さまざまな言語における状況をまずは並べて見てみることから始めたいと考えています。

特集：所有・存在表現

以下の例文に対応する内容は、その言語ではどのように表現されるか？

[] 内は、その例文を訊く狙い等のコメントです。

〈アンケート項目とその意図や説明〉

・全般に「持つ」にあたる動詞（等）を広く用いる言語と、「ある」にあたる動詞（等）を広く用いる言語に分かれるものと思われます。どちらがどの程度用いられるか、両方用いることのできるケースはあるか、などの点に注目しつつ調べていただけるとありがたいです。また一方で、with のような意の側置詞（前置詞／後置詞）を広く用いる言語や、接辞を広く用いる言語もあると思います。いずれにせよ、所有者／存在場所の有生性が大きな要因となっています。

・もちろん、名詞、特に地名や固有名詞の人名などは、その言語やその言語を取り巻く社会・文化的状況においてもっとも適切と思われるものに自由に変えて調べていただいてもかまいません。

(I) あの人は青い目をしている。／青い目の人・目が青い人

【一体的（譲渡不可能的）な、恒常的な所有(I)】[英語であれば、blue-eyed のような形容詞が作られる。他の言語でも「～持ちの」のような意味の接辞が使われることがある（以

下の項目の多くにも). 「目」は角田 (1991) のいう普通所有物なので, 普通何らかの修飾要素が必要.]

(2) あの女 {は/の} 髪が長い・あの女は長い髪をしている. /長い髪の人・髪の長い女
【一体的な, 恒常的な所有(2)】 [上の(1)に比べると恒常性は下がる.]

(3) あの人には髭がある. /髭の人
【非普通所有物】 [非普通所有物なので, 少なくとも日本語では修飾語が無くともこのような表現が成立する.]

(4) あの人には (見る) 目がある. /見る目のある人
【慣用句的表現】 [「目がある人」では, 普通所有物なので, おかしな表現になる. しかし「(見る) 目がある人」のように慣用句的な意味であれば, 成立する. 「足のある人」も「通常より足の速い人」のような意味でなら成立することがある. このような慣用句的表現があるか, どの程度あるか, が, この項目の狙いである. 例えば朝鮮語には「心がある, 頭がある, 精神がある」のような形式の慣用句があるという.]

(5) あ的人是 22 歳だ. /22 歳の人
【側面語のある表現(1)】 [ここからの(5)~(9)は高橋 (1975) のいう「側面語」(「形」, 「性格」など) もしくはそれに類する語を含んだ表現である. 日本語では, いずれも所有表現にも存在表現にもなっていない. 「~持ちの」のような意味の接辞がある言語では, それによって表現できるものが多いと思われる. 単なる形容詞文でしか表現できないという言語も多いだろう.]

(6) あ的人是 優しい性格だ. /優しい性格の人
【側面語のある表現(2)】

(7) あ的人是 背が高い. /背の高い人
【側面語のある表現(3)】

(8) あ的人是 背が 190 センチもある.
【側面語のある表現(4), 属性数量詞構文】 [以上は有生の所有者による項目である.]

(9) その石は四角い形をしている. /四角い (形の) 石
【側面語のある表現(5)】 [無生物が主語でも, 「持つ」にあたる動詞が使える言語があるだろうか? 「その本は値段が高い. /値段の高い本」のような質問項目でも良い.]

(10) あの人には才能がある。／才能のある人

【属性】[角田 (1991) は、身体部分>属性>衣類>親族>愛玩動物>作品>その他の所有物、のような所有傾斜を提案している。これを参考にして、以下には衣類や親族の項目を用意した.]

(11) あの人には病気がだ。／あの人には熱がある。／病気の人

【一時的属性】

(12) あの人には青い服を着ている。／青い服の男

【衣服等(1)】

(13) あの人にはメガネをかけている。／メガネの男

【衣服等(2)】

(14) あの人には妻がいる。／既婚の人・妻のいる人

【親族の所有(1)】[「妻帯である」のような意の形容詞による言語も多いだろう。日本語ではこのように親族関係である場合に「ある」も用いられることが言われている(「あの人には妻がある」).]

(15) あの人には3人子供がいる。／3人の子持ちの人・あの人の子供3人の子供／妊娠している女性

【親族の所有(2)】

(16) タコには足が8本ある。

【普遍的な事実】

(17) その飲み物にはアルコールが入っている。／アルコール入りの飲み物

【ともに無生物, 含有物】

(18) あの人にはお金を持っている。／お金持ちの人

【もっとも一般的な所有, やや恒常的】

(19) おまえのところには犬がいるか?／犬のいる人

【所有, やや恒常的, 所有物は有生・家畜】

- (20) おまえはペンを持っているか？／ペンを持っている人
【一時的携帯物・自分のもの】
- (21) あの人は（誰か別の人の）ペンを持っている。
【一時的携帯物・他人のもの】
- (22) あの人は運がいい。／幸運な人
【抽象的・一時的所有物】[形容詞による言語も多いだろう。「私に良い考えがある。」のような文ではどうだろうか？]
- (23) ここは石が多い。／石の多い土地
【恒常的存在＞状態／性質】[もし可能ならさらに、この文より恒常性の落ちる「ここは雨が多い。／雨の多い土地」などではどうだろうか？]
- (24) その部屋には椅子が3つある／3つ椅子のある部屋／3つの椅子
【非恒常的存在と数量】
- (25) テーブルの上にスプーンがある。／スプーンのあるテーブル
【存在・存在が新情報】
- (26) そのスプーンはテーブルの上にある。／テーブルにあるスプーン
【所在・場所が新情報】[中国語では、情報構造によって使用する存在動詞そのものが語彙的に違うものとなる。他の孤立型の言語ではどうか？]
- (27) そのペンは私のだ。・そのペンは太郎のだ。／私のペン・太郎のペン
【所有物、属格のプロトタイプ】[「～の」のように日本語では所有物を形式名詞で示すが、言語によって、特別な接辞を用いたり、物主代名詞と呼ばれる形式があったり、属格と同形の要素によって示したり、するようだ。]
- (28) 昨日、学校で火事があった。／私は明日用事があります。
【できごとの生起】[日本の方言の中にはこのような場合、「火事がイク」のように別の動詞が用いられることもあるという。諸言語でどのような動詞が現れるかに注目したい。]
- (29) （この世には）お化けなんていない。
【実在文】[ある対象が、実在するか否かを問題にする文である。]

(30) (そこには) 英語を話す人もいるが、話さない人もいる。

【絶対存在文(1)】 [英語などでは **some** が現れる. 全体における部分集合の存在を問題にする文である.]

(31) 私より英語ができる人は (ほかに/もっと) います。

【絶対存在文(2)】

(32) ちょっとあなたにお願いがあります。

【抽象的なことの所有・発話内効力のある文】

*以下は「AのB」のような句の所有構造についての質問項目です。日本語の属格(?) 「の」は、その使用可能な範囲がきわめて広く、名詞と名詞であればたいい繋ぐことができるとも言われています。したがって、逆に言えば他の言語では下記の項目のうちの多くは動詞や形容詞などを用いないと属格などでは表現できない可能性があると思われます。また、(動詞と名詞をつなぐ) 格や側置詞のみを用いて、名詞間の関係を示すことのできる言語もあると思われます(日本語ではあくまでも「の」が必要で「母からの手紙」のようになりますが、英語であれば **the letter from my mother** でよい)。

したがって、このアンケート項目では、他の言語の属格では可能だが、日本語の「の」では不可能な表現については、情報を集めることができません。もしそのような表現の存在にお気づきでしたら、別途報告していただけると幸いです。

属格で表現されることの多いものから、少ないものまで、通言語的に一定の傾向が見出されれば、それは一つの類型論的なハイアラキーの提示につながります。

(33) 冬の雨【時間】 東京の家【場所】

[地名の方は、「AにあるB」のようにしないと表現できない、という言語も多くあると思われる.]

(34) 彼の泳ぎ/犬の鳴き声/火山の爆発【Bが行為を示す名詞である場合の主体】 車の運転【同じく客体/対象】 ~の小説【Aの生産物であるB】

[多くの言語で属格が使用可能なのではないかと考えられる。しかしこれはBの準動詞形の種類や性質、特に名詞化の度合いに大きく左右されると考えられるので、今後むしろ別の観点から深く掘り下げるべきものかもしれない。【生産物】の場合、by のような側置詞による表現が予想される.]

(35) Xさん(固有名詞)のお母さん【親族】 机の横に/机の前に/*机に(来て!)【場所名詞】 あの人の次【時間的關係】

[以上の(33)はBが相対的な性格を持った名詞の場合である。したがってAによる規定がないと具体的な指示対象が決まらない。よりダイクティックな性格の構造ということができる。親族名称の場合、通常の名詞とは異なった所有構造をとったり、所有の要素が必須であったりする言語が多くある。人称代名詞による所有でその傾向は顕著であるようだ。場所名詞に関してはこれを持たない言語も多いだろう。その場合は単に側置詞による表現となろう。日本語では、名詞のトコロ性による問題から、「*机に来て」は言えないが、他の言語ではこのような言い方はできないだろうか？]

(36) バラの花びら【種別】 果物のナイフ【用途】 紙の飛行機【材料・材質】
チューリップの絵【内容】 花の匂い【産出物】 英文の手紙【表現形式(?)】
日本語の先生【職種】 井戸の水【取得源】 [「～の果物」のような産地でも良い]
雨の日【状況】

[以上の(34)は主にBそれ自体の性質に関わるものである。したがって他の言語では形容詞句や関係詞句、側置詞句になるケースが多いと思われる。]

(37) 妹の花子／社長の田中さん 【同格】

[「AであるB」「A B」のようにしか表現できない言語は多いと思われる。]

(38) となりの家の友達のお父さんの車のタイヤ (が昨日突然パンクしたんだって。) 【属格の連続使用】

[日本語の属格はいくつも用いることができるといわれていますが、朝鮮語ではせいぜい2つまでしか使用できないとされている。諸言語での状況はどうだろうか？]

<参考文献>

- 伊藤太吾 (2003) 「ラテン語所有動詞の末裔」『月刊言語』 vol. 32, No. 11. 東京：大修館書店
- 江畑冬生 (2012) 「ユーラシア北東部諸言語の所有を表す接辞の意味と構文論 —導入と総括—」『北方言語研究』 2号, 1-11. 北海道大学大学院文学研究科
- 風間伸次郎 (1999) 「アルタイ諸言語のいくつかにみられる所有／存在を示す一形式について」 *Altai Hakpo*. [アルタイ学報] 9号, 93-124.
- 金水敏 (2003) 「所有表現の歴史的変化」『月刊言語』 vol. 32, No. 11. 東京：大修館書店
- 鈴木康之 (1978~1979) 「ノ格の名詞と名詞のくみあわせ(1)~(4)」『教育国語』 55, 56, 58, 59
- 高橋太郎 (1975) 「文中における所属関係の種々相」『国語学』 103: 1-17 国語学会
- 角田太作 (1991) 『世界の言語と日本語』 くろしお出版

西山佑司 (2003) 『日本語名詞句の意味論と語用論－指示的名詞句と非指示的名詞句－』
ひつじ書房

Chappell, Hilary and William McGregor eds. (1995) *The grammar of inalienability*. Berlin; New
York: Mouton de Gruyter.

Heine, Bernd (1997) *Possession: Cognitive sources, forces, and grammaticalization*, Cambridge:
Cambridge University Press.

Lander, Yury A. (2009) Varieties of genitive. *The Oxford Handbook of Case*. A. Malchukov and A.
Spencer eds. New York: Oxford University Press. 581-592.

Lyons, J. (1968) Introduction to theoretical linguistics. New York: Cambridge University Press.

Stassen, Leon (2009) *Predicate Possession*, Oxford: Oxford University Press.

ウルドゥー語の所有・存在表現 —接尾辞 *wālā* を用いた表現が表すもの—

萬宮 健策

1. はじめに

ウルドゥー語は、インド・ヨーロッパ語族の中の現代インド・アーリヤ諸語の1つに数えられる言語である。ウルドゥー語には、英語の *have* に相当する動詞がなく、誰が、何を所有しているのかによって、代名詞属格を用いたり、与格構文を用いたり、構文が異なる。

本稿では、例文に解説を加えつつ、ウルドゥー語の所有・存在表現の特徴を明らかにしたい。中でも、接尾辞 *wālā* を用いる表現にも焦点を当て、その特徴を考えることとしたい。

2. 先行研究

ウルドゥー語は、言語学的観点からは、ヒンディー語と同一言語であると見なすことができる。実際に日常会話レベルでは、ヒンディー語話者とウルドゥー語話者は相互に相手の言語を意識することなく、意思疎通をすることが可能である。したがって、本稿では特に断らない限り、文法レベルでヒンディー語とウルドゥー語を特に区別しないこととし、言語名は便宜的に「ウルドゥー語」とする。

所有表現に関する先行研究としては、今村(2009, 2010)が挙げられる。どちらも、豊富な例文を挙げつつ、所有表現をカテゴライズし、詳細な分析が加えられている。今村以前の先行研究に関しても今村(2009)が詳述しているので、本稿では省略し、例文の検討を中心に論を進める。

3. 接尾辞 *wālā* の用法

ウルドゥー語には、*wālā* という接尾辞がある。本稿で扱う所有・存在表現にも用いられる場合があるため、ここでまずその用法を確認しておく。語尾の *ā* は、いわゆる形容詞変化¹をする。この語彙には大きく分けて次の3つの用法がある。

- ①名詞の後置格形に付加される場合
- ②形容詞に付加される場合

¹ ウルドゥー語の形容詞のうち、その語尾が *ā* で終わるものについては、その形容詞が修飾する名詞（あるいは名詞相当語）の性・数・格により、*ā* の部分が、*ē*（男性名詞主格複数形、後置格形単数）、*ī*（女性名詞主格、後置格単数）、*iyān*（女性名詞主格複数）、*ōn*（男性名詞後置格複数）と変化する。本稿では、この変化のしかたを、「形容詞変化」と呼ぶ。

③不定詞の後置格形に付加される場合

ここでは、その用法を簡単に振り返っておく。

①の用法では、接尾辞 *wālā* は、名詞後置格形にもなって用いられ、以下の例のとおり、～屋さん、～を所有するものといった意味を付加する。接尾辞 *wālā* は、先述のとおり、形容詞変化をする。

dukān wālā (店+*wālā*=店主, 店員) *p^hal wālā* (果物+*wālā*=くだもの屋) *khirkī wālī sīt*
(窓+*wālī*+席=窓際の席)

次に、用法②では、下記の例が示すとおり、形容詞にもなって用いられ、その形容詞を名詞化する働きをする。指すものの性・数・格により、語尾が *ā* で終わる形容詞と、それに続く *wālā* は、形容詞変化する。

acc^hā wālā (いい+*wālā*=いいもの) *safed wālā* (白い+*wālā*=白いもの) *baṛā wālā* (大きい+*wālā*=大きいもの)

acc^hā wālā を例に、主格のみの例を挙げれば、以下のとおりとなる。

- 1) 指すものが *kāgaz* (紙: 男性名詞単数形) : *acc^hā wālā*
- 2) 指すものが *kaprē* (衣服: 男性名詞複数形) : *acc^hē wālē*
- 3) 指すものが *kursī* (椅子: 女性名詞単数形) : *acc^hī wālī*
- 4) 指すものが *tasvīrēṅ* (絵: 女性名詞複数形) : *acc^hī wāliyān*

③の動詞不定詞後置格形に続く接尾辞 *wālā* の例は以下のとおりである。

ānē wālā (来る+*wālā*) *k^hānē wālā* (食べる+*wālā*) *lik^hnē wālā* (書く+*wālā*)

この用法では、

- 1) ～する人、～するもの(たとえば、「来るもの」、「食べる人」など)を表す(上記3例)。
- 2) *wālā* のあとにはほかの名詞を伴って名詞句を形成する (*ānē wālī gārī* : 来る+*wālā*+列車=到着しようとする(した)列車)。
- 3) コピュラ動詞を付加して近未来を示す(例 : *ham Tokyo pahuncnē wālē haiṅ* (我々は、もうすぐ東京に着きます))。

4. 例文の検討

本章では、与えられた例文を順に検討してゆく。なお、日本語をもとにウルドゥー語文を考えているため、本章でのウルドゥー語文には、非文ではないが実際にはあまり用いられない表現が含まれていることを、あらかじめ指摘しておく²。

² 非文でない点は、ネイティブ・スピーカーに確認済みである。

(1) あの人は青い目をしている。

us ādmī kī nīlī āṅk^hēṅ
 あの Pron.sg.OBL. 人 m.sg.OBL. GEN.pp. 青い Adj.f.NOM. f.pl.NOM.

haiṅ
 ある Copula.PRES.pl.

青い目の人

nīlī āṅk^hōṅ kā / wālā ādmī
 青い Adj.f.OBL. 目 f.pl.OBL. GEN.pp. / 接尾辞 m.sg.NOM. 人 m.sg.NOM.

目が青い人

vō jis kī āṅk^hēṅ nīlī
 あれ Pron.NOM. 関代 GEN.pp. 目 f.pl.OBL. 青い Adj.f.NOM.

haiṅ
 Copula.PRES.pl.

上記の例のうち、「青い目の人」については、属格後置詞の代わりに接尾辞 wālā の使用が可能である。ただし、実際の発話では用いられる環境が限定される。たとえば、複数の人がいて、その中から「あの青い目の人」に言及する場合である。また、wālā が用いられる環境では、「人」の省略も可能となる。

なお、「青い」という形容詞は、男性名詞単数主格形を修飾する場合の語尾が ā で終わるため、後に続く名詞の性、数、格によりその語尾が変化する。そのためグロスにもその旨の記述してある。

(2) あの女 {は／の} 髪が長い・あの女は長い髪をしている

us aurat kē lambē
 あの Pron.sg.OBL. 女 f.sg.OBL. GEN.pp. 長い Adj.m.pl.

bāl haiṅ
 髪 m.pl.NOM. ある Copula.PRES.pl.

長い髪の女

lambē bālōṅ kī / wālī aurat
 長い Adj.m.pl. 髪 m.pl.OBL. GEN.pp. / 接尾辞 f.NOM. 女 f.sg.NOM.

髪の長い女

vō aurat jis kē bāl
 あの Pron.sg.NOM. 女性 f.sg.NOM. 関代 GEN.PP 髪 m.pl.NOM.

lambē haiṅ
 長い Adj.m.pl. Copula.PRES.pl.

(2)の例でも(1)と同様、「長い髪の女」については、接尾辞 wālī を用いる表現も可能である。

(3) あの人には髭がある。

us ādmī kī mūṅc^h hai
 あの Pron.sg.OBL. 人 m.sg.OBL. GEN.pp. ひげ f.sg. ある Copula.PRES.sg.

髭の男

mūṅc^h wālā mard
 ひげ f.sg.NOM. 接尾辞 m.sg.NOM. 人 m.sg.NOM.

(3)では、「髭の男」という表現で、wālā のみが用いられている。「髭」が、人の身体のうち髪や目ほどに分離不可能ではないという点が、属格後置詞を用いるかどうかの基準になっていると考えられる。「髭」は成人男性の一部のみが生やすものであることを考え合わせると、「(たくさんいる人の中の)髭の男」という限定的な表現と指摘することができる。この例でも末尾の「男」という名詞は省略可能である。

(4) あの人には（見る）目がある。／見る目のある人

us ādmī kō acc^hā
 あの Pron.sg.OBL. 人 m.sg.OBL. DAT.pp. よい Adj.m.sg.NOM.

zauq hai.
 鑑賞力 m.sg.NOM. ある Copula.PRES.sg.

vō jisē acchā zauq
 3.sg.NOM. 関代 DAT. よい Adj.m.sg.NOM. 鑑賞力 m.sg.NOM.

hai.
 ある Copula.PRES.sg.

抽象概念の所有には、与格構文が用いられる。

(5) あの人には 22 歳だ。

vō ādmī bāis sāl kā
 あの Pron.sg.NOM. 人 m.sg.NOM. 22 年 m.sg.OBL. GEN.pp.

hai

である Copula.PRES.sg.

22 歳の人

bāīs	sāl	kā / wālā	ādmī
22	年 m.sg.OBL.	接尾辞 / GEN.pp.	人 m.sg.NOM.

この表現においても, wālā を使う場合は, 何らかの限定が加わると考えられる. 具体的には, 「(20 歳でも 25 歳でもなく) その 22 歳の人」という表現が相当する.

(6) あの人は優しい性格だ. / 優しい性格の人

us	ādmī	kī	šaxsiyat
あの Pron.sg.OBL.	人 m.sg.OBL.	GEN.pp.	性格 f.sg.NOM.
mihrbān	hai.		
優しい Adj.	である Copula.PRES.sg.		
mihrbān	šaxsiyat	kā	ādmī
優しい Adj.	性格 f.sg.OBL.	GEN.pp.	人 m.sg.NOM.

上記の「優しい性格の人」という表現は, ほぼ日本語の直訳だが, 日常会話のレベルではこのような名詞句はあまり用いられず, vō mihrbān hai. (彼は優しい) という表現が好まれることを付け加えておく.

(7) あの人は背が高い.

us	ādmī	kā	qad
あの Pron.sg.OBL.	人 m.sg.OBL.	GEN.pp.	背 m.sg.NOM.
lambā	hai		
高い Adj.m.sg.NOM	である Copula.PRES.sg.		

背の高い人

lambē	qad	kā / wālā	ādmī
高い Adj.m.sg.OBL.	背 m.sg.OBL	GEN.pp. / 接尾辞	人 m.sg.NOM.

この表現でも接尾辞 wālā が用いられる環境は, 上記(5)(6)と同様である.

(8) あの人は背が 190 センチもある。

us	ādmī	kā	qad
あの Pron.sg.OBL.	人 m.sg.OBL.	GEN.pp.	背 m.sg.NOM.

ēk sau navvē sēnḡimīṭar	hai.
190 センチ	である Copula.PRES.sg.

ウルドゥー語においては、「あの人の身長は 190 センチである」という表現となる。

(9) その石は四角い形をしている。／四角い（形の）石

vō	patt ^h ar	caukōr	(šakal
その Pron.m.sg.OBL.	石 m.sg.OBL.	四角 Adj.OBL.	(形 f.sg.OBL.
kā)	hai		
の GEN.pp.)	である Copula.PRES.sg.		

四角い（形の）石

caukor	(šakal	kā)	patt ^h ar
四角い Adj.	(形 f.sg.OBL.	GEN.pp.)	石 m.sg.NOM.

どちらの表現も、() で囲まれた部分は省略可能である。

(10) あの人には才能がある。／才能のある人

us	ādmī	kō	salāhiyat
あの Pron.sg.OBL.	人 m.sg.OBL.	DAT.pp.	才能 f.sg.NOM.
hai			
である Copula.PRES.sg.			

vō	jisē	salāhiyat	hai.
3.sg.NOM.	関代 DAT.	才能 f.sg.OBL.	Copula.PRES.sg.

「見る目のある人」と同様に、抽象概念と言える「才能」を所有する場合も与格構文が用いられる。

(11) あの人は病気だ。

vō	ādmī	bīmār	hai.
あの Pron.sg.NOM.	人 m.sg.NOM.	病人 m.sg.NOM.	である Copula.PRES.sg.

あの人は熱がある

us ādmī kō buxār
 あの Pron.sg.OBL. 人 m.sg.OBL. DAT.pp. 熱 m.sg.NOM.

hai.

ある Copula.PRES.sg.

病気の人

bīmār

病人 m.sg.NOM.

熱がある、風邪を引いた、という自らの意志ではどうすることもできない状況も、ウルドゥー語では、与格構文で表される。前出のとおり、時間、確信といった抽象的概念のほか喜怒哀楽の感情が、この構文で表現される。なお、「病気の人」はウルドゥー語では通常「病人」という1語で表される。

(12) あの人は青い服を着ている。／青い服の男

vō ādmī nīlē rang kē
 あの Pron.sg.NOM. 人 m.sg.NOM. 青い Adj.sg.OBL. 色 m.sg.OBL. GEN.pp.

kaprē pahnē huē hai
 服 m.pl.NOM. 着ている PERF.m.pl. ある Copula.PRES.sg.

青い服の男

nīlē kaprōṅ kā / wālā mard
 青い Adj.OBL. 服 m.pl.OBL. GEN.pp. / 接尾辞 男 m.sg.NOM.

「あの人は青い服を着ている」という表現は、「着た状態にある」という意味である。

(13) あの人はメガネをかけている。

vō ādmī ainak lagāē huē
 あの Pron.sg.NOM. 人 m.sg.NOM. メガネ f.sg.NOM. かけた PERF.m.pl.

hai

ある Copula.PRES.sg.

「服を着ている」、「メガネをかけている」という状態表現では、地域により表現差はあるものの、状態を表す動詞が他動詞である場合、常に男性複数形（語尾が ē の形）となる。

メガネの男

vō jō ainak lagāē huē hai.
Pron.sg.NOM. 関代 メガネ f.sg.NOM. かけた PERF.m.pl. ある Copula.PRES.sg.

ここでも、「メガネをかけている」は「メガネをかけた状態にある」という表現である。また、下記 wālā を用いる「メガネの男」も限定的な用法に限られ、通常は、上記表現（メガネをかけた男）が用いられる。

ainak wālā mard
メガネ f.sg.OBL. 接尾辞 男 m.sg.NOM.

(14) あの人には妻がいる。

us ādmī kī bēgam
あの Pron.sg.OBL. 人 m.sg.OBL. GEN.pp. 妻 f.sg.NOM.
hai
である Copula.PRES.sg.

既婚の人・妻のいる人

šādī šudah

既婚 m.sg.NOM.

妻や子どもなどの親族は、属格後置詞を用いる構文で表現する（下記(15)も参照された）。この表現には、上述の身体部位や、所有権がある事物の所有が含まれる。「既婚者」という表現は、男女の区別なく通常このペルシア語からの借用語を用いる。

(15) あの人には3人子供がいる。

us ādmī kē tīn baccē
あの Pron.sg.OBL. 人 m.sg.OBL. GEN.pp. 3 子ども m.pl.NOM.
haiṅ
いる Copula.PRES.pl.

3人の子持ちの人

tīn baccōṅ wālā ādmī
3 子ども m.pl.OBL. 接尾辞 人 m.sg.NOM.

あの人の 3 人の子ども

us	ādmī	kē	tīn	baccē
あの Pron.sg.OBL.	人 m.sg.OBL.	GEN.pp.	3	子ども m.pl.NOM.

妊娠している女性

vō	aurat	jō	ummīd	sē
Pron.sg.NOM.	女性 f.sg.NOM.	関代	希望 f.sg.OBL.	ABL.pp.

hai

である Copula.PRES.sg.

「あの人には 3 人子供がいる」という表現では、ヒンディー語の場合子供の人数や性別に関係なく属格後置詞が男性複数形である kē を用いる、と説明する文法書がある³一方で、ウルドゥー語では、子供の人数や性別に応じて kā, kē, kī と変化すると説明する。

また「妊娠している女性」の直訳は「(子供がいるという) 希望のある女性」という表現で、「妊娠した」という直接的な表現は、日常会話では用いられることが少ない。

(16) タコには足が 8 本ある。

haštpā	kē	āṭh	pāōṇ	haiṇ
タコ m.sg.OBL.	GEN.pp.	8	足 m.pl.NOM.	ある Copula.PRES.pl.

(17) その飲み物にはアルコールが入っている。

us	mašrūb	mēṇ	alkuhal
その Pron.sg.OBL.	飲み物 f.sg.OBL.	LOC.pp.	アルコール f.sg.NOM.

šāmil hai.

含まれた Adj. ある Copula.PRES.sg.

アルコール入りの飲み物

alkuhal	wālā	mašrūb
アルコール f.sg.NOM.	接尾辞	飲み物 m.sg.NOM.

「アルコール入りの飲み物」では、「～が入った」という意味で接尾辞 wālā が用いられる。

³ たとえば、「エクスプレス ヒンディー語」(田中敏雄, 町田和彦著. 1985. 白水社. p.45) を参照。ただし、ウルドゥー語と同じ変化をする、と説明する場合もあり、必ずしも kē のみを用いるわけではないようである。

(18) あの人はお金を持っている.

us	ādmī	kē	pās
あの Pron.sg.OBL.	人 m.sg.OBL.	GEN.pp.	近くに Adv.
paisē	haiṇ.		
お金 m.pl.NOM.	ある Copula.PRES.pl.		

お金持ちの人

paisōṇ	wālā	ādmī
お金 m.pl.OBL.	接尾辞	人 m.sg.NOM.

amīr

長者, 裕福 m.sg.NOM.

(18)の構文は, ウルドゥー語においてもっとも一般的と言える所有表現である. 属格後置詞 *kē* と「近くに」という意味の副詞を用いて, *X kē pās Y hōnā* (*X*の近くに*Y*がある)という表現になる. この表現がどのような所有に用いられるかについては, 今村(2009,2010)を参照されたい. 「お金持ちの人」で提示した *wālā* を用いる表現⁴は, どちらかと言えば「成金」というマイナスのイメージで用いられがちなのに対し, 裕福という1語にはそういう意味合いが含まれない.

(19) おまえのところには犬がいるか? / 犬のいる人

kyā	tumhārē	pās	kuttā
疑問詞	君の Pron.GEN.OBL.	近くに Adv.	犬 m.sg.NOM.
hai?			
いる Copula.PRES.sg.			

kyā	tumhārē	g ^h ar	mēṇ
疑問詞	君の Pron.GEN.OBL.	家 m.sg.OBL	に LOC.pp.
kuttā	hai?		
犬 m.sg.NOM.	いる Copula.PRES.sg.		

kuttā	pālnē	wālā	ādmī
犬 m.sg.NOM.	飼う INF.OBL.	接尾辞	人 m.sg.NOM.

pās を用いる文が, 今現在, 近くに犬がいるかどうかを尋ねているのに対し, 次の文は,

⁴ 「お金」を示す語彙は, 単数形の *paisē* も用いられ, 用法に差異はないと考えられる.

家で犬を飼っているかどうかを尋ねている。「犬のいる人」の訳文も「犬を飼っている人」の意味である。

(20) おまえは（自分の）ペンを持っているか？／ペンを持っている人

kyā tumhārē pās (apnā) qalam
 疑問詞 君の Pron.GEN.OBL. 近くに Adv. (自分の) ペン m.sg.NOM.
 hai?
 ある Copula.PRES.sg.

kyā tum apnā qalam rak^htē
 疑問詞 君 Pron.NOM. 自分の ペン m.sg.NOM. 置く PRES.2.pl.
 hō?
 ある Copula.PRES.sg.

vō jis kē pās qalam
 彼 Pron.3.sg. 関代 GEN.pp. 副詞 Adv. ペン m.sg.NOM.
 hai.
 ある Copula.PRES.sg.

(20)で用いられている rak^htē は、他動詞「置く」であり、「(ペンを) 自分の近くに置く」という表現である。この表現では、必ずしも自分が今実際に持っていないともよく、たとえば、自分の家にはペンがあるが、今ここでは持っていない場合にも用いることが可能である。

(21) あの人は（誰か別の人の）ペンを持っている。

us ādmī kē pās
 あの Pron.sg.OBL. 人 m.sg.OBL. GEN.pp. 近くに Adv.
 (kisī dūsre kā) qalam
 (誰か Pron.sg.OBL. ほかの Adj.OBL. GEN.pp.) ペン m.sg.NOM.
 hai.
 ある Copula.PRES.sg.

vō ādmī (kisī dūsre
 あの Pron.sg.NOM. 人 m.sg.NOM. (誰か Pron.sg.OBL. ほかの Adj.OBL.
 kā) qalam rak^htā hai
 GEN.pp.) ペン m.sg.NOM. 置く PRES.2.pl. ある Copula.PRES.sg.

(22) あの人は運がいい。 / 幸運な人

us	ādmī	kī	qismat	acc ^h ī
あの Pron.sg.OBL.	人 m.sg.OBL.	GEN.pp.	運 f.sg.NOM.	いい Adj.f.

hai.
ある Copula.PRES.sg.

xušqismat	ādmī
幸運な Adj.	人 m.sg.NOM.

(23) ここは石が多い。 / 石の多い土地

yahān	pat ^h rīlā	(ilāqā)	hai.
ここ Adv.	石が多い Adj.	(地域 m.sg.NOM.)	ある Copula.PRES.sg.

pat ^h rīlā	ilāqā
石が多い Adj.	地域 m.sg.NOM.

(24) その部屋には椅子が3つある / 3つ椅子のある部屋

us	kamrē	mēn	3	kursiyān
その Pron.sg.OBL.	部屋 m.sg.OBL.	LOC.pp.	3	椅子 f.pl.NOM.

haiṅ
ある Copula.PRES.sg.

3	kursiyōn	wālā	kamrā
3	椅子 f.pl.OBL.	接尾辞	部屋 m.sg.NOM.

(25) テーブルの上にスプーンがある。 / スプーンのあるテーブル

mēz	par	camac	hai
机 f.sg.OBL.	上に LOC.pp.	スプーン m.sg.NOM.	ある Copula.PRES.sg.

camac	wālī	mēz
スプーン m.sg.OBL.	接尾辞	机 f.sg.NOM.

vō	mēz	jīs	par	camac
その Pron.sg.NOM.	机 f.sg.NOM.	関代	上に LOC.pp.	スプーン m.sg.NOM.

hai
ある Copula.PRES.sg.

(26) そのスプーンはテーブルの上にある。 / テーブルにあるスプーン

vō camac mēz par
 その Pron.sg.NOM. スプーン m.sg.NOM. 机 f.sg.OBL. 上に LOC.pp.

hai
 ある Copula.PRES.sg.

mēz par camac
 机 f.sg.OBL. 上に LOC.pp. スプーン m.sg.NOM.

(27) そのペンは私のだ。・そのペンは太郎のだ。 / 私のペン・太郎のペン

vō qalam mērā hai
 その Pron.sg.NOM. ペン m.sg.NOM. 私の Pron.GEN.1.sg. である Copula.PRES.sg.

vō qalam Taro kā hai.
 その Pron.sg.NOM. ペン m.sg.NOM. 太郎 GEN.pp. である Copula.PRES.sg.

mērā qalam
 私の Pron.GEN.1.m.sg. ペン m.sg.NOM.

Taro kā qalam
 太郎 GEN.pp. ペン m.sg.NOM.

(28) 昨日、学校で火事があった。 / 私は明日用事があります。

kal iskūl mēṅ āg
 昨日 Adv. 学校 m.sg.OBL. で LOC.pp. 火 f.sg.NOM.

lag gai.
 行く STEM. 行く PERF.f.sg.

kal mērā kām hai.
 明日 Adv. 私の GEN.Pron.1.m.sg. 仕事 m.sg.NOM. ある Copula.PRES.sg.

kal muj^hē kām hai.
 明日 Adv. 私に DAT.Pron. 仕事 m.sg.NOM. ある Copula.PRES.sg.

(29) (この世には) お化けなんていない。

(is dunyā mēṅ b^hūt
 (この Pron.OBL.sg. 世 f.sg.OBL. に LOC.pp.) 幽霊 m.sg.NOM.

nahīṇ hōtā
否定辞 いる PRES.m.sg.

(30) (そこには) 英語を話す人もいるが、話さない人もいる。

(wahāṇ)	anгрēzī	bōlnē	wālē	bʰ
(そこ Adv.)	英語 f.sg.NOM.	話す Inf.OBL.	接尾辞	も
haiṇ	aur	nah	bōlnē	wālē
いる Copula.pl.PRES.	CONJ.	否定辞	話す Inf.OBL.	接尾辞
bʰ	haiṇ			
も	いる Copula.pl.PRES.			

(31) 私より英語ができる人は (ほかに／もつと) います。

aisē	ādmī	(aur / mazīd)	haiṇ	
このような Adj.pl.	人 m.pl.NOM.	(ほかに／もつと)	いる Copula.PRES.pl.	
jis	kō	mujʰ	sē	zyādā
関代	に DAT.pp.	私 Pron.1.OBL.	より ABL.pp.	多く Adj.
anгрēzī	ātī	hai		
英語 f.sg.NOM.	来る PRES.f.sg.	である Copula.PRES.sg.		

(32) ちょっとあなたにお願いがあります。

zarā	āp	sē	darxvāst
少し Adv.	あなた Pron.pl.OBL.	より ABL.pp.	お願い f.sg.NOM.
hai.			
ある Copula.PRES.sg.			

(33) 冬の雨 東京の家

jārē	kī	bāriš
冬 m.sg.OBL.	GEN.pp.	雨 f.sg.NOM.
Tokyo	mēṇ	gʰar
東京	の中に LOC.pp.	家 m.sg.NOM.

「東京の家」という場合、ウルドゥー語では上記表現以外にも、属格後置詞を用いて Tokyo kā gʰar や接尾辞 wālā を用いる Tokyo wālā gʰar という表現も日常的に用いられる。位置格後置詞を用いる表現の方が、より「(たとえば、大阪でも名古屋でもなく) 東京にある」という点が強調される。また、接尾辞 wālā を用いる表現は、ほかの場所にも家はあるが、そ

の中の「東京の家」という点が強調される。

(34) 彼の泳ぎ／犬の鳴き声／火山の爆発 車の運転 ～の小説

us	kī	tairākī	
彼 Pron.sg.OBL.	GEN.pp.	泳ぎ f.sg.NOM.	
kuttē	kī	baṅk	
犬 m.sg.OBL.	GEN.pp.	鳴き声 f.sg.NOM.	
ātišfišān	kā	d ^h amākā	
火山 m.sg.OBL.	GEN.pp.	爆発 m.sg.NOM.	
gārī	calānā		
車 f.sg.NOM.	動かすこと INF.		
--- kā	afsānah		
---の GEN.pp.	小説 m.sg.NOM.		

「運転」という名詞は、通常「動かすこと」という動名詞により表現される。

(35) Xさんのお母さん 机の横に／机の前に／*机に（来て！） あの人の次

X	kī	wālidah	
X sg.OBL.	GEN.pp.	母 f.sg.NOM.	
mēz	kē	pās	
机 f.sg.OBL.	GEN.pp.	近くに Adv.	
mēz	kē	sāmnē	
机 f.sg.OBL.	GEN.pp.	前に Adv.	
mēz	par	(āō!)	
机 f.sg.OBL.	の上に LOC.pp.	(来る IMP.2.pl.)	
us	ādmī	kē	bād
その Pron.sg.OBL.	人 m.sg.OBL	GEN.pp.	あと Adv.

上記例文中、「机に（来て！）」という表現は、たとえばレストランで客が給仕に対して用いる表現である。より具体的には、「(注文を取りに我々の) テーブルへ来てくれ！」という状況が想定される。また、ウルドゥー語の指示代名詞には近称と遠称の区別しかない

ため、日本語で区別する「その」と「あの」は条件によって区別しない。

(36) バラの花びら 果物のナイフ 紙の飛行機 チューリップの絵

花の匂い 英文の手紙 日本語の先生 井戸の水 雨の日

gulāb kī pank^hī
 バラ m.sg.OBL. GEN.pp. 花びら f.sg.NOM.

p^hal kē liyē cāqū
 果物 m.sg.OBL. GEN.pp. ため Adv. ナイフ m.sg.NOM.

kāğaz kā jahāz
 紙 m.sg.OBL. GEN.pp. 飛行機 m.sg.NOM.

lālah kī tasvīr
 チューリップ m.sg.OBL. GEN.pp. 絵 f.sg.NOM.

p^hūl kī bū
 花 m.sg.OBL. GEN.pp. 匂い f.sg.NOM.

angrēzī mēṇ xatt
 英文 f.sg.OBL. INS.pp. 手紙 m.sg.NOM.

jāpānī zabān kā ustād
 日本の Adj. 語 f.sg.OBL. GEN.pp. 先生 m.sg.NOM.

kuṇwēṇ kā pānī
 井戸 m.sg.OBL. GEN.pp. 水 m.sg.NOM.

bāriš kā din
 雨 f.sg.OBL. GEN.pp. 日 m.sg.NOM.

ここに挙げられた例が示すとおり、ウルドゥー語は主格の名詞（句）を並列させられないため、必ず後置詞を挟むことになる。例文中「果物のナイフ」と「英文の手紙」については、それぞれ「果物を『切るための』ナイフ」、「英語『で書かれた』手紙」という属格後置詞を用いない表現になる。ただし、前後の文脈によっては、先述の「東京の家」をどう表現するか、と同様に属格ではなく、別の格を示す後置詞が使われる可能性もある。

また、上記(36)には、接尾辞 wālā を用いる表現が可能なものもある。たとえば、kuṇwēṇ wālā pānī（井戸水）という表現は

ここでは、(水道水はともかく) 井戸水は飲まないで下さい。

yaḥān	kuṇwēn	wālā	pānī	nah
ここ Adv.	井戸 m.sg.OBL.	接尾辞	水 m.sg.NOM.	否定辞

pījiyē.
 飲む IMP.2.pl.

という状況で用いられる。

なお、上記の名詞句の例は、すべて主格のみを示しており、これらが後置格になったり、複数形になったりする場合は語尾変化する場合がある。

(37) 妹の花子／社長の田中さん

c ^h ōī	bahin	Hanako
小さい Adj.f.	姉妹 f.sg.NOM.	花子

sadar	Tanaka
社長 m.sg.NOM.	田中

同格の場合は、名詞(句)の並列により表現され、被修飾語があとに来る。この場合、属格後置詞は不要である。

(38) となりの家の友達のお父さんの車のタイヤ (が昨日突然パンクしたんだって。)

(sunā	hai	ke)	paṛōs
(聞く PERF.m.sg.	である Copula.PRES.sg.	接続詞)	となり m.sg.OBL.

kē	dōst	kē	wālīd	kī
GEN.pp.	友人 m.sg.OBL.	GEN.pp.	父 m.pl.OBL.	GEN.pp.

gārī	kē	ṭāir	(kā
車 f.sg.OBL.	GEN.pp.	タイヤ m.pl.NOM.	(GEN.pp.

acānak	pankcar	huā	hai)
急な Adj.	パンク m.sg.NOM.	起きた PERF.m.sg.	である Copula.PRES.sg.)

この例でも、日本語の「の」は、ウルドゥー語の属格後置詞 kā により表されることがわかる。日本語の「の」と同様に、反復使用が可能である。ただし先述のとおり、ウルドゥー語の属格後置詞 kā は、その直後に来る名詞(句)の性・数・格により、kā, kē, kī と変化する。

5. 結びに代えて

本稿では、日本語における所有・存在表現がウルドゥー語でどのように表現され得るかを考えた。先行研究等でも指摘されてきているとおり、ウルドゥー語では英語の **have** で表現される文が、属格や与格構文となって現れる点が特徴である。それに加えて本稿では、接尾辞 *wāla* を用いる表現の可能性についても触れた。

今回用いられた例文の表現から判断すれば、発話の文脈に寄るところも少なからずあるが、接尾辞 *wāla* が用いられる環境は、用いられない場合に比較して、限定が加わることが多く、複数の選択肢の中の特定の「その人（もしくはそのもの）」を示す場合であると指摘できる（例文(1)などを参照）。この接尾辞には多くの用法が認められるので、今後より多くの例文を参照しつつ、研究を継続していく必要がある。

最後に、本稿執筆に当たり、ウルドゥー語文のチェックおよび貴重な助言をいただいたスハイル・アッパース先生（東京外国語大学特任教授）⁵に謝意を表します。

参考文献

欧文

- Masica, Colin P. 1991. “The Indo-Aryan Languages”, New York: Cambridge University Press.
Schmidt, Ruth Laila. 2003. “Urdu” *The Indo-Aryan Languages*, Ed. by Cardona, George and Dhanesh Jain. pp.250-285. New York: Routledge.
Shapiro, Michael C. 2003. “Hindi”. *The Indo-Aryan Languages*, Ed. by Cardona, George and Dhanesh Jain. pp.250-285. New York: Routledge.

和文

- 今村泰也. 2009. 『ヒンディー語の所有表現再考—類型論的観点からの考察—』 麗澤大学大学院言語教育研究科「言語と文明」第7巻 pp.17-39.
---. 2010. 『ヒンディー語・ウルドゥー語の他動詞 *rakhnaa* を用いた所有表現』 「大阪大学世界言語研究センター論集」第3号 pp.261-284.
鈴木斌. 1981. 『基礎ウルドゥー語』 大学書林
---. 1996. 『ウルドゥー語文法の要点』 大学書林
田中敏雄, 町田和彦. 1986. 『エクスプレス ヒンディー語』 白水社

⁵ パキスタン・イスラーム共和国のファイサーバード生まれ。母語はパンジャービー語だが、いわゆる第一言語としてウルドゥー語を用いる。1966年生まれの男性。

略語表

ABL.	奪格	f.	女性形	pl.	複数形
DAT.	与格	m.	男性形	sg.	単数形
ERG.	能格	STEM.	語幹		
GEN.	所有格	PRES.	未完了分詞		
LOC.	位置格	PERF.	完了分詞		
NOM.	主格	FUT.	単純未来形		
OBL.	後置格	IMP.	命令形（二人称複数に対する）		
		INF.	不定詞		
Adj.	形容詞	pp.	後置詞		
Adv.	副詞				
Pron.	代名詞				

マダガスカル語の所有・存在表現

箕浦 信勝

0. イントロダクション

1. 前書き
2. 所有・存在構文の考察
3. 名詞プラス名詞の所有構造の考察
4. 結び

0. イントロダクション

本稿は、東京外国語大学『語学研究所論集』本号の特集「所有・存在表現」に関して、風間伸次郎が萬宮健策に助言を得つつ作成したアンケート項目（高垣 2012 ms.）に基づいて、マダガスカル語に関して調査を行い、その結果に考察を加えたものである。調査は、2012年12月中旬に、東京在住の豊田ライブ(M^{me} Ramaroarisoa ép. Toyoda Raivo)さんに協力をお願いした¹。

1. 前書き

オーストロネシア語族西マレー・ポリネシア語派のマダガスカル語には、存在動詞 *misy*、所有動詞 *manana* があるが、調査前から、データがそのどちらかに収束するものではなく、またどちらの動詞も使わないものも出てくるとの予想をしていた。

2. 所有・存在構文の考察

この節では、上述の高垣(2012 ms.)に基づいた調査結果を吟味していく。データ番号はアンケート項目の番号に合わせる。

¹ 豊田ライブさんは、言語形成期のほとんどをマダガスカル東岸のトゥアマシナで過ごしたが、家族構成および通った学校の関係で、地元のベツィミサラカ方言ではなく、中央高地の首都圏メリナ方言の話者である。ところどころ、標準語の規範と違うところがある（例えば、27cで接頭辞 Ra-で始まる人名にさらに冠詞の i を前倚するなど）が、それはそのままにした。

- (1) a. m-anana² maso manga iny olona iny³

AV.PRS-持つ 目 青い あの 人
「あの人は青い目を持っている」

- b. olona m-anana maso manga

人 AV.PRS-持つ 目 青い
「青い目を持った人」

【一体的（譲渡不可能的）な、恒常的な所有(1)】に関しては、manana（持つ）を使った表現が得られた。

- (2) a. lava volo iny olona i ny

長い 毛 あの 人 あの
「あの人は髪の毛が長い」

- b. vehivavy lava volo

女 長い 毛
「髪の毛が長い女」

【一体的な、恒常的な所有(2)】(上の(1)に比べると恒常性は下がる。)に関しては、manana（持つ）を使わない表現が得られた。こうした(1)と(2)の違いは、恒常性の度合いの違いに依るのか、それとも単に lava（長い）が述語として用いられることができる形容詞であり、またマダガスカル語が、いわゆる「象は鼻が長い」的構文⁴を良く用いる言語であるために、この様な表現が

² 本稿中の動詞は、特記している場合を除き、動作者態・現在時制の形式である。マダガスカル語には、動作者態(actor voice)、受動者態(undergoer voice)、状況態(circumstantial voice)がある。それらは、教科書等ではそれぞれ能動態(active voice)、受動態(passive voice)、関係態(relative voice)と表記されるが、それは採用しない。時制は、過去、現在、未来がある。また、ハイフンは形態境界(morph boundary)に挿入してある。正書法にあるハイフンは、“+”で置き換えている。本稿で採用している省略語は：ACC (accusative [case] 対格), ARL (areal 場所[名詞化]), AV (actor voice 動作者態), CAUS (causative 使役), CV (circumstantial voice 状況態), DEF (definite 定), GEN (genitive [case] 属格), IMP (imperative 命令), LNK (linker リンカー), NEG (negative 否定), OBL (oblique [case] 斜格), PQ (polar question 極性疑問), PRS (present 現在), PST (past 過去), UV (undergoer voice 受動者態), VM (valency marker 結合価標識)。

³ マダガスカル標準文章語では、名詞句に伴って用いられる指示詞（ここではiny）が、名詞句を取り囲むように前後に置かれて用いられることになっている。

⁴ 「lava volo iny olona iny（あの人は髪の毛が長い）」を「象は鼻が長い」的構文だと書いているが、もとより、日本語同様の「ハ」、「ガ」の区別があるわけではない。その一方で、「あの人」

得られたのかは、これだけでは結論付けがたい。

- (3) a. m-isy volo-m+bava iny olona iny
 AV.PRS-ある 毛-LNK+口 あの 人 あの
 「あの人は髭がある」
 b. lehilahy m-isy volo-m+bava
 男 AV.PRS-ある 毛-LNK+口
 「髭のある男」

【非普通所有物】に関しては、manana (持つ) ではなく、misy (ある) が得られた。

- (4) a. tsara fijery⁵ iny olona iny
 良い 眼力 あの 人 あの
 「あの人は目が良い」
 b. olona tsara fijery
 人 良い 眼力
 「目が良い人」
 c. m-anana fijery tsara iny olona iny
 AV.PRS-持つ 眼力 良い あの 人 あの
 「あの人はいい目を持っている」
 d. olona m-anana fijery tsara
 人 AV.PRS-持つ 眼力 良い
 「いい目を持った人」

【慣用句的表現】この質問事項に関して、マダガスカル語では、身体部位名詞 maso (目) は出て来なかった。また、manana (持つ) がある例(4c, d)と、無い例(4a, b)が得られた。(4a, b)では、tsara (良い) が述語となっており、(4c, d)では、manana (持つ) が述語で、tsara (良い) は fijery (眼力) の修飾語となっている。

- (5) a. roa amby roa-polo taona iny olona iny
 二 超過 二十年 あの 人 あの
 「あの人は22歳だ」

と「髪の毛」が所有構造で1つの句を成したり、「髪の毛」と「長い」が1つの述語を成すこともないという点を重視して、「象は鼻が長い」的な構文であると言っている。

⁵ fijery は動詞 mijery (見る) から派生した1つの名詞形である。(cf. 森山 2003)

b. olona roa amby roa-polo taona

人 二 超過 二十年

「22歳の人」

【側面語のある表現(1)】(5)では、数表現 roa amby roapolo taona (22歳) がそれぞれ主節の述語、関係節の述語となっている。manana (持つ) も misy (ある) も用いられない。

(6) a. m-anana toetra tsara/m-a-lemby/

AV.PRS-持つ 性格 良い/AV.PRS-VM-柔らかい/

m-a-lefaka iny olona iny

AV.PRS-VM-優しい あの 人 あの

「あの人は良い/柔らかい/優しい性格を持っている」

b. olona m-anana toetra tsara/m-a-lemby/

人 AV.PRS-持つ 性格 良い/AV.PRS-VM-柔らかい/

m-a-lefaka

AV.PRS-VM-優しい

「良い/柔らかい/優しい性格を持った人」

【側面語のある表現(2)】(6)では、manana (持つ) が使われている。

(7) a. lava ranjanana iny olona iny

長い 背丈 あの 人 あの

「あの人は背が高い」

b. olona lava ranjanana

人 長い 背丈

「背の高い人」

【側面語のある表現(3)】(7)では、manana (持つ) は用いられず、いわゆる「象は鼻が長い」的構文が用いられている。

(8) a. sivi-fofo amby zato sentimetatra ny halava-n'iny olona iny

九-十 超過 百 センチメートル DEF 長さ-LNK-あの 人 あの

「あの人の背丈は190センチメートルだ」

b. olona m-anana halavana sivi-fofo amby zato sentimetatra

人 AV.PRS-持つ 長さ 九-十 超過 百 センチメートル

「190センチメートルの背丈を持った人」

【側面語のある表現(4), 属性数量詞構文】(8a)では halavan'iny olona iny (あの人の背丈) が名詞句をなし, (8b)では halavana sivifolo amby zato sentimetatra (190センチメートルの背丈) が名詞句をなし, manana (持つ) が用いられている. いずれにせよ, 「象は鼻が長い」的構文を用いるにはそれぞれの構成要素が「大きすぎた」のかも知れない.

- (9) a. efa+joro/karekare io vato io
 四+角/四角 その 石 その
 「その石は四角だ」
 b. vato efa+joro/karekare
 石 四+角/四角
 「四角い石」

【側面語のある表現(5)】無生物主語の(9)では, 名詞 efa-joro (四角) あるいはフランス語からの外来語 karekare (四角) が述語となっている.

- (10) a. m-a-ranitra/m-anam+pahaizana/
 AV.PRS-VM-鋭い \AV.PRS-持つ+能力/
 m-anan+talenta iny olona iny
 AV.PRS-持つ+才能 あの 人 あの
 「あの人は鋭敏だ/能力を持っている/才能を持っている」
 b. olona m-a-ranitra/m-anam+pahaizana/
 人 AV.PRS-VM-鋭い \AV.PRS+持つ能力/
 m-anan+talenta
 AV.PRS-持つ+才能
 「鋭敏な/能力を持った/才能を持った人」

【属性】(10)で外連声⁶によって manam-/manan-となっているものは, (1, 4b, 6, 8b)で使われている manana (持つ) と同じものである. 外連声が起こっている要因は, それを可能にする音韻環境と, 熟語化の度合いによるのかも知れない. maranitra (鋭い) は形容詞1語で述語となっ

⁶ 私は本稿で語と語の間の音韻論のプロセスを全て外連声と機械的に呼んでいる. その「外連声」によって繋がった2語が, 形態論的にも統語論的にも別個の語であるということがはっきりしていれば問題無いが, もし, 形態論的あるいは統語論的な観点から, 2語が1語として振る舞っていると考えた方がよい場合には, サンスクリット的な用語上, これは外連声ではなく内連声と見た方が妥当であるかも知れない. 以上, 細かな問題はあがあるが, それぞれ独立して使用される語と語の間で起こる音韻論のプロセスのことを外連声と呼んでいると理解されたい. 本稿の「外連声」は, マダガスカル語学では fikamban-teny (結びつき-言葉) と呼ばれている.

ている.

- (11) a. m-a-rary iny olona iny
AV.PRS-VM-病気だ あの 人 あの
「あの人は病気だ」
- b. olona m-a-rary
人 AV.PRS-VM-病気だ
「病気の人」
- c. m-anana hafanana iny olona iny
AV.PRS-持つ 熱 あの 人 あの
「あの人は熱を持っている」
- d. olona m-anana hafanana
人 AV.PRS-持つ 熱
「熱を持った人」

【一時的属性】「病気だ」は1つの形容詞 *marary* (病気だ) で表現され、「熱がある」は、*manana* (持つ) で表現されている。

- (12) a. m-an-ao akanjo manga iny olona iny
AV.PRS-VM-する 服 青い あの 人 あの
「あの人は青い服を着ている」
- b. lehilahy m-an-ao akanjo manga
男 AV.PRS-VM-する 服 青い
「青い服を着た男」

【衣服等(1)】(12)で、服を「着ている」ことは、もっと汎用的な意味を持った動詞 *manao* (する) で表現されている。

- (13) a. m-an-ao solomaso iny olona iny
AV.PRS-VM-する 眼鏡 あの 人 あの
「あの人は眼鏡をしている」
- b. lehilahy m-an-ao solomaso
男 AV.PRS-VM-する 眼鏡
「眼鏡をした男」

【衣服等(2)】(13)でも、*manao* (する) が使われている。(12, 13)からわかるのは、「身に付け

る」を表現するには *manao* (する) が使われるということである。

- (14) a. *m-anam+bady iny olona iny*
 AV.PRS-持つ+配偶者 あの 人 あの
 「あの人は既婚だ」
 b. *olona m-anam+bady*
 人 AV.PRS-持つ+配偶者
 「既婚の人」

【親族の所有(1)】(14)では、外連声を起こした *manam-* ← *manana* (持つ) が使われている。外連声で、この表現が熟語的表現であることを示唆している。

- (15) a. *m-anan+janaka telo iny olona iny*
 AV.PRS-持つ+子供 三 あの 人 あの
 「あの人は3人の子持ちである」
 b. *olona m-anan+janaka telo*
 人 AV.PRS-持つ+子供 三
 「3人の子持ちの人」

【親族の所有(2)】(15)でも、外連声を起こした *manan-* ← *manana* (持つ) が使われている。これも熟語的表現であろうが、意味論的結びつきは、[*manan+* [*janaka telo*]]であろう。この様なブラケティング・パラドックス⁷はマダガスカル語に多く見られる。

⁷ 「*manan-janaka*」の様な外連声による音声的結びつき強さの現れは、音韻的環境がそれをゆるし(具体的には前項が *ka*, *tra*, *na* で終わる)意味的結びつきが強いときにのみ見られる。音韻的環境がそれを許さない場合、あるいは意味的結びつきが弱い場合には外連声は起こらない。外連声規則適用前のこの2語は、*manana zanaka* (持つ 子供)である。これら2語のうち、前項が(外連声を起こしうる *na* で終わり、また、「子供を持つ」という述部的ユニットをなすこれら2語の結びつきが強いので、外連声を起こして *manan-janaka* となる。(正書法上の *j* は[*dz*].)このように、*manana*→*manan* と *zanaka*→*janaka* の結びつきは強いのであるが、*manan-janaka telo* となったときに、*janaka telo* (子供 3)がまず統語論的ユニットをなすと考えないと、*telo* (3)を何らかの付加語句と考えなければならなくなり、文法記述において不経済である。つまり、音韻的、形態的には *manan-janaka* (持つ-子供)の方が結びつきが強く、解釈によっては1語を成していると言えないこともない状態になっているが、統語論上は *janaka telo* (子供 3)の方が結びつきが強いので、それをここではブラケティング・パラドックスと呼んでいる。ブラケティング・パラドックスに関しては、3語からなる動詞句に *m-*から *mp-*への接頭辞の付け替えが適用される例(36k)と、その例に後続する本文での説明にも注目されたい。

- (16) m-anana tongotra valo ny orita
AV.PRS-持つ 足 八 DEF 蛸
「蛸は8本の足を持っている」

【普遍的な事実】(16)では、manana (持つ) が外連声を起こさずに使われている。このことは、「足を持つ」という語の並びが熟語化していないことを示唆している。

- (17) a. m-isy alikaola io zava+pisotro io
AV.PRS-ある アルコール その 物+飲み その
「その飲み物にはアルコールが入っている」
b. zava+pisotro m-isy alikaola
物+飲み AV.PRS-ある アルコール
「アルコール入りの飲み物」

【ともに無生物, 含有物】無生物主語の(17)では、misy (ある) が使われている。

- (18) a. m-anan+karena iny olona iny
AV.PRS-持つ+富 あの 人 あの
「あの人はお金持ちだ」
b. olona m-anan+karena
人 AV.PRS-持つ+富
「お金持ちの人」

【もっとも一般的な所有, やや恒常的】(18)の manan-karena (お金持ちだ) は熟語的表現なので、manan- ← manana が外連声を起こしている。

- (19) a. m-anana alika ve ianao?
AV.PRS-持つ 犬 PQ あなた
「あなたは犬を飼っているか？」
b. olona m-anana alika
人 AV.PRS-持つ 犬
「犬を飼っている人」

【所有, やや恒常的, 所有物は有生・家畜】(19)では、外連声を起こしていない manana (持つ) が使われており、manana alika (犬を持つ) が熟語的でないことを示唆している。

- (20) a. m-anana/m-i-tondra/m-amp-i-asa penina ve ianao?
 AV.PRS-持つ/AV.PRS-VM-運ぶ/AV-CAUS-VM-働く ペン PQ あなた
 「あなたはペンを持っている/携帯している/(普段から)使っているか？」
- b. olona m-anana penina
 人 AV.PRS-持つ ペン
 「ペンを持った人」

【一時的携帯物・自分のもの】(20)では、思いがけず「所有している」と、「携帯している」と、「(鉛筆ではなく)ペンを普段から使っている」の3つの表現が採録できた。ここでも manana (持つ) は外連声を起こしていない。

- (21) m-anana/m-i-tondra/m-amp-i-asa
 AV.PRS-持つ/AV.PRS-VM-運ぶ/AV.PRS-CAUS-VM-働く
 penina-n'olon+kafa iny olona iny
 ペン-LNK-人+他の あの 人 あの
 「あの人は他人のペンを持っている/携帯している/(普段)使っている」

【一時的携帯物・他人のもの】(21)でも(20)と同じ3つの動詞が使える。自分のものか、他人のものかの区別は、これらの例からは、無いように思われる。

- (22) a. tsara vintana iny olona iny
 良い 運 あの 人 あの
 「あの人は運がいい」
- b. olona tsara vintana
 人 良い 運
 「運の良い人」

【抽象的・一時的所有物】(22)は、「象は鼻が長い」的な構文で表現されている。

- (23) a. be/betsaka vato eto
 多い/多い 石 ここ
 「ここは石が多い」
- b. toerana/tany be/betsaka vato
 場所/土地 多い/多い 石
 「石の多い場所/土地」

【恒常的存在>状態/性質】(23)では、形容詞 be (多い), betsaka (多い) が述語となってい

る。be は「大きい」と「多い」の両方を表わすことがあるので、「多い」に限ることを明確にしたい場合には、betsaka (多い) (あるいは maro 多い) が使われる。

- (24) a. m-isy seza telo ao amin'io efitra io
AV.PRS-ある 椅子 三 そこに OBL-その 部屋 その
「その部屋には3つの椅子がある」
b. efitra m-isy seza telo
部屋 AV.PRS-ある 椅子 三
「3つの椅子がある部屋」

【非恒常的存在と数量】(24)では、misy (ある) を用いている。「どこどこに・で」は、場所指示詞(cf. 24a, ao)プラス任意に場所名詞(句)を後続させて表わされる⁸。

- (25) a. m-isy soto eo amboni-n'io latabatra io
AV.PRS-ある 匙 そこに 上に-LNK-その テーブル その
「そのテーブルの上にはスプーンがある」
b. latabatra m-isy soto
テーブル AV.PRS-ある 匙
「スプーンのあるテーブル」

【存在が新情報】「スプーンがある」がレーマの場合は、misy soto (ある・スプーン) というように、動詞 misy (ある) が使われる。

- (26) a. eo amboni-n'ny latabatra ilay soto
そこに 上に-LNK-定冠詞 テーブル 件の 匙
「例のスプーンはテーブルの上にある」
b. soto eo amboni-n'ny latabatra
匙 そこに 上に-LNK-定冠詞 テーブル
「テーブルの上にあるスプーン」

【所在・場所が新情報】(26)「テーブルの上」がレーマの場合は、場所指示詞句 eo ambonin'ny latabatra (そこに 上に-定冠詞 テーブル) が述部となり動詞 misy (ある) は使われない。

⁸ 場所指示詞句を形成する際、名詞が場所名詞の場合は場所指示詞に場所名詞を後続させる。Cf. any Madagasikara あそこで・マダガスカル→マダガスカルで。さらに cf. 25a, 26, 33b, 35b, c). 非場所名詞は、接頭辞 an-を付けて場所名詞にするか (cf. ao an-trano そこで・ARL-家→家で。cf. 28a), 斜格前置詞 amin' を使って場所名詞句にしてから指示詞を前に置いて使う(24a, 35d).

- (27) a. ahy io penina io
私(ACC) その ペン その
「(近くにある) そのペンは私のだ」
- b. ahy iny penina iny
私(ACC) その ペン その
「(あなたが持っている) そのペンは私のだ」
- c. an'i Rakoto iny penina iny
ACC-DEF ラクトゥ その ペン その
「そのペンはラクトゥのだ」
- d. peni-ko
ペン-私(GEN)
「私のペン」
- e. penina-n+dRakoto
ペン-LNK+ラクトゥ
「ラクトゥのペン」

【所有物・属格のプロトタイプ】「誰々のだ」という述部は、名詞、代名詞を対格に置いて表わされる。「誰々の○○」は、代名詞の場合は後倚辞の属格形で表わし、名詞が名詞を修飾するときには、2つの名詞の間にリンカー-n-を置く⁹。

- (28) a. n-isy afo t-any an+tsekoly omaly
PST-ある 火 PST-あそこで ARL+学校 昨日
「昨日学校で火事があった」
- b. may ny sekoly omaly
燃える DEF 学校 昨日
「昨日学校が燃えた」
- c. m-anan+k-a-tao aho rahampitso
AVPRS-持つ+未来-UV-する私 明日
「私は明日用事があります」

【できごとの生起】misy (ある) の過去形 nisy (あった) が使われたり(28a), 燃えるという述語が用いられたり(28b), manana (持つ) の外連声を起こした manan-が使われたりする。

⁹ リンカー-n-は、正書法上は、前項の名詞とはハイフン無しで繋げて書かれ、後ろの名詞との間にはハイフンが置かれる。また外連声のせいで、-m-になったり、ゼロになったりもする。

- (29) tsy m-isy lolo/angatra izany
NEG AV-PRS-ある 幽霊/お化け なんて
「(この世に) 幽霊/お化けなんていない」

【実在文】(29)ではすなおに, misy (ある) が否定されて使われている。

- (30) m-isy ny olona m-i-teny anglisy,
AV-PRS-いる DEF 人 AV-PRS-VM-話す 英語,
ary m-isy koa ny tsy m-i-teny
そして AV-PRS-ある も DEF NEG AV-PRS-VM-話す
「英語を話す人もいるが, 話さない人もいる」

【絶対存在文(1)】(30)も素直に misy (いる), tsy misy (いない) が使われている。英語の some に当たるものは使われていないが, 定冠詞 ny が用いられている。定冠詞 ny は(31)には見られないので, これは, 対比のためなのだろうか。はっきりとしたことはわからない。

- (31) m-isy olona m-a-hay m-i-teny anglisy
AV-PRS-いる 人 AV-PRS-VM-できる AV-PRS-VM-話す 英語
noho izaho
よりも 私
「私よりも英語ができる人はいる」

【絶対存在文(2)】(31)も素直に misy (いる) を使っている。

- (32) m-isy zavatra i-angavi-a-ko kely anao
AV-PRS-ある こと VM-お願いする-CV-私(GEN) ちょっと あなた(ACC)
「ちょっとあなたにお願いがあります」

【抽象的なことの所有・発話内効力のある文】(32)でも, misy (ある) が使われる。

2.1. 所有・存在構文の考察の纏め

所有構文に関して角田(1991)によって提案されている「身体部分>属性>衣類>親族>愛玩動物>作品>その他の所有物」という所有傾斜を見ると, そのヒエラルキーのどこにどの述語が現れやすいという傾向は, マダガスカル語に関してはあまり見て取れない。所有表現には manana (持つ) が用いられるもの, それが外連声を起こした manan-/manam-が用いられるもの, misy (ある) が用いられるもの, manao (する) が用いられるもの, 他の動詞が用いられるもの, 形容詞述語が用いられるもの, 名詞が用いられるもの, 数表現が用いられるもの, 場所指示詞

句が用いられるものが見られた。そもそもマダガスカル語にはコピュラが無いが、名詞がそのまま用いられる場合と、manana/manan-/manam-の補語として用いられる場合に関しては、その選択について今後吟味が必要であろう。また、名詞述語文に関して、メトニミーを大胆に利用した「僕はウナギだ」的な文は無節操に使われる訳ではないようである。

manana (持つ) が用いられたのは、「一体的な、恒常的な所有」(1), 「慣用句的表現」(4c, d), 「側面語のある表現」(6), 「一時的属性」(11c, d), 「普遍的な事実」(16), 「家畜の所有」(19), 「一時的携帯物」(20, 21)があった。manana が後続する名詞と外連声を起こして manan-/manam-になっている、すなわち熟語的だ(言い換えると語彙的単位を成している)と見なしうるものは、「属性」(10), 「親族の所有」(14, 15), 「もつとも一般的な所有, やや恒常的」(18), 「できごとの生起」(28c)などで、他言語の状況はどうあれ、少なくともマダガスカル語では熟語的な例であった。

misy (ある) が用いられるものは、「非普通所有物」(3), 「ともに無生物, 含有物」(17), 「非恒常的存在と数量」(24), 「存在が新情報」(25), 「できごとの生起」(28a), 「実在文」(29), 「絶対存在文」(30, 31), 「抽象的なことの所有・発話内効力のある文」(32)であった。2つの項がともに無生物である場合や(17), 非普通所有(3), 抽象的なことの所有(32)に manana (持つ) ではなく、misy (ある) が用いられたのは興味深い。

manao (する) が用いられるのは、衣服(12)や眼鏡(13)を「している, 身につけている」という表現で、ここだけ特殊である。他の動詞 mitondra (運ぶ) と mampiasa (使う) は「一時的携帯物」(20a, 21)で用いられている。また、may (燃える) は「できごとの生起」(28b)で用いられている。

以上の動詞のうち、manao (する) は、身に付けるものに用いられる。manana (持つ) と misy (ある) の区別に関しては、匿名の査読者 no. 2 から、先行文献はネット上にも検索すればすぐ見つかるので、先行研究で何か言われていないかを確認する手続きを踏んだ上で、どういう使い分けがなされるのかを明示せよとのコメントがあった。ネット上を調べたところ、misy に関しては、何件か先行論文がヒットしたが、理論言語学に特化したものであったり、使い易いものは Fugier (1999) だけであった。manana に関しては、検索語を色々工夫(英語とフランス語で existential construction と検索したり)しても何もヒットしなかった。Fugier は、書名になっている統語論のみならず、形態論的にも示唆の多い書籍である。しかし、特に misy と manana の使い分けに関する示唆的な記述は、査読後の短い時間では見つからなかった。今回集めたデータから言えることは、manana の所有者が有生物に限られるということ、misy は、所有者が無生物か、所有者が指定されないばあいがあるが殆どであった。misy が有生物の所有者を取るの、非普通所有(3), 抽象的なことの所有(32)に限られた。

形容詞述語が用いられるのは、「一体的な恒常的な所有」(2), 「慣用句的表現」(4a, b), 「側面語のある表現」(7), 「属性」(10), 「一時的属性」(11a, b), 「抽象的・一時的所有物」(22), 「恒常的存在>状態/性質」(23)で、形容詞述語で表現できる場合には、それを述語にするということ

のようである。「目がいい」という時に、形容詞述語 *tsara* (良い) を使う例(4a, b)と *manana* (持つ) を使う例(4c, d)が得られたのは興味深い。両者の間で、*tsara* (良い) と *fijery* (眼力) の位置関係が反対になっていることに注目されたい。(4c, d)では、*tsara* (良い) は *fijery* (眼力) の修飾語になっている。

名詞が用いられているとも見える「側面語のある表現」(9)の *efa+joro* (四-角) は、referentのある典型的な名詞ではなく、寧ろ文の主語の属性を示す語であり、形容詞的な働きをしているのかもしれない。メトニミーを大胆に利用した日本語等の「僕はウナギだ」的な文とは大幅に異なるものであると考えられる。(9)で入れ替えることができる、*karekare* (四角い) は、フランス語からの外来語 (← *carré*) の疊語で、こちらの方はさらに形容詞的である。

数表現が用いられるものは、年齢を表わす「側面語のある表現」(5)、背丈を表わす「側面語のある表現」(8)で、数詞句述語を用いることができる場合には、*manana* (持つ)、*misy* (ある) などを必要としないことがわかる。しかしながら、これは、「蛸は足を8本持っている」という「普遍的な事実」(16)で、*tongotra valo* (足 八) がそのままでは述語とならず、*manana* (持つ) を必要としている (つまり、「蛸は足が八(本)である」とは言わない) のと対照的である。

場所指示詞句が用いられるものは、「所在・場所が新情報」(26)で、「存在が新情報」(25)の時に *misy* (ある) が用いられるのと対照的である。

3. 名詞プラス名詞の所有構造の考察

以下では、高垣(2012 ms.)に基づき、名詞が名詞を修飾する構造を見ていく。

(33) a. *orana amin'ny ririnina* 【時間】

雨 OBL-DEF 乾季

「乾季の雨」

b. *trano any Antananarivo* 【場所】

家 あそこに アンタナナリブ

「アンタナナリブの家」

マダガスカル語で最も良く用いられる「AのB」にあたる所有構造は、リンカー-nを使った「B-n+A」であるが(cf. 脚注6)、上の例で、季節は斜格に置かれ、場所は指示詞プラス場所名詞で表現されている (場所表現に関して詳しくは脚注5を参照されたい)。

(34) a. *ny filomano-ny* 【Bが行為を示す名詞である場合の主体】

DEF 泳ぎ-彼(GEN)

「彼の泳ぎ」

b. *ny filomano-n+dRakoto* 【Bが行為を示す名詞である場合の主体】

DEF 泳ぎ-LNK+ラクトゥ

- 「ラクトウの泳ぎ」
- c. ny fivohazan'ny alika **【B が行為を示す名詞である場合の主体】**
 DEF 吠え-DEF 犬
 「犬の吠え」
- d. ny fivovohan'ny alika **【B が行為を示す名詞である場合の主体】**
 DEF 吠え-DEF 犬
 「犬の吠え」
- e. ny fipoaka-n'ny volcan **【B が行為を示す名詞である場合の主体】**
 DEF 爆発-LNK-DEF 火山
 「火山の爆発」
- f. ny famoizana fiarakodia **【B が行為を示す名詞である場合の客体】**
 DEF 運転 自動車
 「自動車の運転」
- g. ny fivoizana bisikileta **【B が行為を示す名詞である場合の客体】**
 DEF 運転 自転車
 「自転車の運転」
- h. ny boki-n'i Rabearivelo **【A の生産物である B】**
 DEF 本-LNK-定冠詞 ラベアリベル
 「ラベアリベルの（書いた）本」

【B が行為を示す名詞である場合の主体】の場合、通常の所有構造になる。A が人称代名詞である場合には、属格後倚辞人称代名詞を用いる(34a)。(34b)では、行為者は、モノの所有者を表現するのと同様の形式で、リンカー-n-を介在させて表現される。(34c, d)では、A の前に定冠詞 ny が置かれ、B の行為名詞は末尾の母音 a を落としてその ny に接続している。(正書法上は、ny の前にアポストロフィが書かれる。) (34e) では行為名詞と定冠詞の間にリンカー-n-が置かれている。(34c, d)にリンカー-n-が見られないのは、音韻論的な条件によるのか、形態論的な条件によるのか即断はできない。

【B が行為を示す名詞である場合の客体】の場合、客体・対象を表わす名詞 B は、動詞の補語の時と同じ形(即ちゼロ格)を取り、リンカー-n-による所有構造にはしない(34f, g)。これも[動詞 補語]の動詞句全体が行為名詞(句)化を受けたとかがえることもでき、(15, 37k)のブラケットィング・パラドックス的な現象に連なるかもしれない。別の見方をすれば、「主体名詞句」が属格代名詞(34a)や属格的に働く「リンカー(+定冠詞)+名詞」(34b, c, d, e)で現われ、「客体名詞句」がゼロ格で現われるのは、述語動詞との関係で(焦点化主語でない)「主体名詞句」、「客体名詞句」が採る形式と同一である。

【A の生産物である B】の場合、A と B はリンカー-n-で繋がれる。

- (35) a. ny reni-n'i Mamy 【親族】
DEF 母-LNK-DEF マミ
「マミのお母さん」
- b. avi-a eto/atỳ akaiki-n'ny banc/latabatra 【場所名詞】
来る-IMP ここへ/ここへ 近く-LNK-DEF 机/テーブル
「机/テーブルの近くに来て！」
- c. avi-a eto/atỳ anoloa-n'ny banc/latabatra 【場所名詞】
来る-IMP ここへ/ここへ 前-LNK-DEF 机/テーブル
「机/テーブルの前に来て！」
- d. avi-a eto/atỳ amin'ny banc/latabatra 【場所名詞】
来る-IMP ここへ/ここへ OBL-DEF 机/テーブル
「机/テーブルの所に来て！」
- e. aorian'iny olona iny 【時間的關係】
後-あの 人 あの
「あの人の次」

(35a)の親族は、リンカー-n-で繋がれている。(35b, c)で、「近く/前」も、リンカー-n-で繋がれている。「近く/前」の様な位置関係が特定されない場合(35d)には、斜格前置詞 amin'が用いられる。場所指示詞句に関しては、脚注5を参照されたい。時間的關係(35e)はリンカー-n-無しで直接で繋がれている。

- (36) a. fela-n+draozy 【種別】
花びら-LNK+バラ
「バラの花びら」
- b. antsi-m+boankazo 【用途】
ナイフ-LNK+果物
「果物のナイフ」
- c. fiaramanidina/aéroplane vita amin'ny taratasy 【材料・材質】
飛行機/飛行機 できた OBL-DEF 紙
「紙の飛行機/紙でできた飛行機」
- d. hena-n+kisoa 【材料・材質】
肉-LNK+豚
「豚肉」
- e. sarina tulipe 【内容】
絵 チューリップ

- 「チューリップの絵」
 f. sarin'akondro 【内容】
 絵 バナナ
 「バナナの絵」
 g. sarina paoma 【内容】
 絵 リンゴ
 「リンゴの絵」
 h. fofona voninkazo 【産出物】
 匂い 花
 「花の匂い」
 i. fofom+boninkazo 【産出物】
 匂い+花
 「花の匂い」
 j. taratasy amin'ny teny anglisy 【表現形式】
 紙 OBL-DEF ことば イギリスの
 「英語の手紙」
 k. mpampianatra teny japoney 【職種】
 先生 ことば 日本の
 「日本語の先生」
 l. divai-n'ny Betsileo 【産地】
 ワイン-LNK-DEF ベツィレウ族
 「ベツィレウ族のワイン」
 m. divai-n'i Fianarantsoa 【産地】
 ワイン-LNK-DEF フィアナランツア
 「フィアナランツア州のワイン」
 n. andro m-an-orana 【状況】
 日 AV.PRS-VM-雨降る
 「雨の日、雨降る日」
 o. andro m-an-drivo+doza 【状況】
 日 AV.PRS-VM-嵐吹く
 「サイクロンの日、サイクロンが吹く日」

上の諸例は、リンカー-n-で繋がれている例とそれ以外に分けられる。【種別】(36a)、【用途】(36b)、【産地】(36l, m)は、リンカー-n-で繋がれている。(36b で-n-が-m-に変化していることに関しては脚注 6 を参照されたい。)【材料・材質】で「作った」という行為が意識されるときに

は、(36c)の様に動詞 *vita* を主要部とする関係節で表現しないと行けない。素材であっても「豚肉」(36d)は、リンカーを使って表現される。【内容】(36e, f, g)はリンカーを介さずに「BA」と表現される。(36f)では、外連声で、*sarina* の末尾母音が落ちて *sarin'* になっている。【産出物】(36h, i)もリンカーを介さずに「BA」と表現されるが、外連声の起きていない(36h)と起きている(36i)が見られる。【表現形式】(36j)は、斜格前置詞 *amin'* が使われている。【何々の先生】(36k)でも、リンカーは使われない。これには理由があり、*mampianatra teny japoney* (日本語を教える) という動詞句全体が動詞初頭の *m* を *mp* に変えることによって行為者名詞句に変化するので、補語の格がゼロ格から変わることが無い。よって、リンカーが使われることは無い。これは(15)同様のブラケットィング・パラドックスの例と考えられる。天候などの【状況】(36n, o)は、天候の方が名詞ではなく動詞で表わされ、それが関係節として主要部名詞を修飾する。(manorana (雨降る)に対して、名詞、雨は *orana*; mandrivo-doza (嵐吹く)に対して、名詞、サイクロンは *rivo-doza*)。

- (37) a. Baholy zandri-ko vavy 【同格】
 バフリ 年下のきょうだい私(GEN) 女の
 「私の妹のバフリ」
- b. Ramose Ravalomanana tompo-m+piasana 【同格】
 ムシュー ラバルマナナ 主人-LNK+職場
 「社長のムシュー・ラバルマナナ」
- c. Ramose Ravalomanana mpiandraikitra ambony 【同格】
 ムシュー ラバルマナナ 責任者 一番上の
 「最高責任者のムシュー・ラバルマナナ」

【同格】(37a-c)は、リンカーを介さず、名詞(句)を並置することで表現される。次に、所有構造が入れ子に重ねられるかを見る。

- (38) vaky tampoka hono ny kodiara-n`ny
 壊れた 突然 そうだ 定冠詞 車輪-LNK-DEF
 fiarakodia-n`ny rai-n`ny namana mipetraka
 自動車-LNK-DEF 父-LNK-DEF 友達 住む
 ao amin`ny trano ao ambadika omaly
 そこに OBL-DEF 家 そこに お向かいに 昨日
 「昨日お向かいの家の友達のお父さんの自動車の車輪がパンク
 したんだって (→直訳) 昨日お向かいの家に住む友達のお父さんの
 自動車の車輪がパンクしたんだって」

マダガスカル語は、語を選べば、日本語で「の」を多く重ねて使えるように、名詞(句)をリンカーで長く連ねることもできるかも知れないが、(38)では、リンカー・プラス名詞ではなく、他の修飾節にとって代わってしまっているところがある。

その他、質問項目には無かった例を2つ挙げる。

- (39) a. toto+kena
 搗き+肉
 「挽き肉」
 b. ravitoto
 「ラビトゥトウ」

(39a)は、肉が単独形 *hena* から *kena* になっていることから、元来は **toto-n+kena* (搗き-リンカー-肉) から *n* が分節音としては脱落してしまってできた形と考えられる。もし歴史的に *-n* があったことが想定されなければ、外連声を起こしていない **totohena* になるはずである。またマニオクの葉を搗いて作られるマダガスカル料理「ラビトゥトウ」は、*ravina+toto* 「葉+搗き」から来たことは明らかであるが、通常想定される外連声後の **ravintoto* から、これはリンカーではなく、語根に属する *n* が脱落して *ravitoto* となったと考えられる。ここで問題にしたいのは、名詞と行為動詞の語根 *toto* の順番が、この2例で逆になっていることである。マダガスカル語は類型論的には VO 型で、主要部+従属部の順になるのが通常であるが、化石化¹⁰した表現には、*totokena* の様に逆になっているものもあるということを指摘しておきたい。

3.1. 名詞プラス名詞の所有構造の纏め

名詞プラス名詞の所有構造は、多くが、日本語の「A の B」に対して、リンカー-*n*を用いた「B-*n*+A」の形を持っている。しかし、「A」の側が別な形になっているものも多く見られた。

「B が行為を示す名詞である場合の主体」は、(34b, e)でリンカー-*n*を確認できたが、(34c, d)では見られなかった。これは、元々あった-*n*が音韻規則の中で消えてしまったのか、元々無かったのか、拙速に断じることはできない。しかしながら別の見方をすると、動詞との関係で焦点化主語となっていない受動者態および状況態の主体 (=動作者) 名詞句は「リンカー-(DEF)+名詞」の形を採るので、ここでの名詞を修飾する主体名詞句ももしかしたらそれと同じ形式を採っているのかも知れない。

他方、「B が行為を示す名詞である場合の客体」(34f, g)では、「客体」は動詞の補語であると

¹⁰ 化石化とは、この「主要部+従属部」の順番の方が古いと決めつけているわけではなく、類似のリンカー -*ng* を持つタガログ語が、「主要部+*-ng*+従属部」、「従属部+*-ng*+主要部」の両方の順番を許していることなどを念頭に置いている。

きと同じゼロ格形を取り、リンカー-n-を介在させない。「主体」の方がリンカー-n-を介在させたり、属格代名詞を使ったりして(34a)、動詞が動作者態ではなく、受動者態および状況態の時の動作者が取る形式と同一であるのは、単に名詞が名詞を修飾しているから「B-n+A」の形をとっているというよりは、「名詞化以前」の元の「動詞句」における名詞の振る舞いと軌を一にしていると考えれば、「客体名詞句」がゼロ格を採ることと符号する。

その他、「Aの生産物であるB」(34h)、「親族」(35a)、「時間的關係」(35e)、「種別」(36a)、「用途」(36b)、「材料・材質」(36d)、「産地」(36l, m)で、リンカー-n-を介在させた「B-n+A」の形が見られた。

リンカー-n-を介在させない「BA」は、上に論じられているものも含めて、「Bが行為を示す名詞である場合の主体」(34c, d)、「Bが行為を示す名詞である場合の客体」(34f, g)、「内容」(36e, f, g)、「産出物」(36h, i)、「職種」(36k)、「同格」(37)があった。「職種」(日本語の先生)に関しては、*mampianatra teny japoney*(教える ことば 日本の、日本語を教える)の3語からなる動詞句全体を m-から mp-への接頭辞付け替えによって行為者名詞句にしているので、「日本語」はもとのゼロ格を保ち、リンカー-n-を介在させない。

「A」が前置詞句に取り込まれたのは、「時間」(33a)、「表現形式」(36j)である。

「A」が場所指示詞句に取り込まれたのは、「場所」(33b)、「場所名詞」(35b, c, d)である。(38)の多重所有構造にも、場所指示詞句が2つ認められる。

また、典型的なVO言語であるマダガスカル語では、通常「B-n+A」において、「B」が主要部であるが、化石化した表現には、「A」の方が主要部と考えられるものもあることを(39a)で見た。

4. 結び

所有・存在構文に関しては、マダガスカル語では *manana* (持つ) を述語に採る文、*misy* (ある) を述語に採る文に収斂することは、予想通りに無かった。しかし、有性物所有者の時には基本的に *manana* (持つ) を使い、無生物所有者の場合や、所有者が特定されない存在文の場合には *misy* (ある) が用いられることが観察できた。有性物所有者でありながら *misy* (ある) を使うのは、非普通所有(3)、抽象的なことの所有(32)に限られた。その他、身に付けるものを目的語として採る場合には *manao* (する/身に付ける) が用いられ、またその他の動詞述語が用いられる文、形容詞述語が用いられる文、名詞述語が用いられる文、数表現が用いられる文、場所指示詞句が用いられる文など、できうる限りのばらけ方をした。

名詞プラス名詞の所有構造に関しては、多くの例が日本語の「AのB」に対して、リンカー-n-を用いた「B-n+A」の形を持っている。しかし他の例も見られた。「B」が動作の客体を表わす場合には動詞の目的語となるときと同じ裸形(リンカー-n-を用いない形)で「BA」の様に表現された。そう考えると、「A」が動作の主体を表わす場合も、動詞に対して焦点化主語になっていない受動者態および状況態の動作主形「-n-A」が用いられているのでたまたま「B-n+A」

という他の所有構造と同形になったと見ることもできる。そうなると、節あるいは動詞句が名詞句化されたときには、一律他の所有構造に合流するのではなく、項名詞句は節あるいは動詞句との関係で採っていた形式を採るということになる。(36k)「職種」にリンカーが現れないのもそれと軌を一にする。その他にも、リンカー-n-を介在させない「B A」を採るパターンがいくつかあった。また「A」が前置詞句に取り込まれた例、場所指示詞句に取り込まれた例もあった。また「B-n+A」において、通常は「B」が主要部であるが、化石化した表現の中には「A」の方が主要部と見られるものもあった。

参考資料

高垣敏博 2012 ms. 「語研論集特集へのご協力のお願い」.

角田太作 1991 [2009]. 『世界の言語と日本語』, くろしお出版.

森山工 2003. 『マダガスカル言語研修テキスト』, 東京外国語大学アジア・アフリカ言語文化研究所.

Fugier, Hugiette 1999. *Syntaxe Malgache*, Louvain-la-Neuve: Peeters.

ドイツ語の所有・存在表現¹

藤縄 康弘

(1) と (2) は譲渡不可能所有の例である。(1) であれ, (2) であれ, a のような文中の述語には動詞 *haben* (英: *have*), b のような連体修飾には前置詞 *mit* (英: *with*) を使い, 「青い目を持っている」のような言い方をする。(1) はどちらかといえば恒常的な状態, (2) はどちらかといえば一時的な状態に取られやすいと思われるが, ドイツ語の表現は, それぞれ他方の解釈も排除しない。それどころか, (1) において, 「青い目」の部分が不特定単数で表現されると, 一時性の解釈 (例えば, 殴られて目に青あざがある) のほうが優勢になる。² この限りにおいて, *haben* や *mit* の使用は恒常性・一時性の別には左右されないと考えられる。他方, 恒常性・一時性が表現の他の面に影響を与えるかという観点からは, (2c, d) のように目的語補語の表現が可能な場合, これは一時性を明示するようである。

- (1) a. Er hat blaue Augen / ein blaues Auge.
he.NOM has blue eyes.ACC / a blue eye.ACC
彼は青い目をしている
- b. ein Mann mit blauen Augen / mit blauem Auge
a man.NOM with blue eyes.DAT / with blue eye.DAT
青い目の男, 目が青い男
- (2) a. Die Frau hat lange Haare.
the woman.NOM has long hairs.ACC
その女性は髪が長い
- b. eine Frau mit langen Haaren
a woman.NOM with long hairs.DAT
長い髪の女, 髪の長い女
- c. Die Frau trägt die/ihre Haare lang.
the woman.NOM holds the/her hairs.ACC long
その女性は髪を長くしている

¹ 調査には, 愛媛大学の Rudolf Reinelt 氏にご協力いただいた。氏のご意見・ご助言に対し, ここに感謝申し上げる。

² ちなみに, 不特定単数の場合, (1a) では不定冠詞 *ein* が不可欠であるのに対し, (1b) でこれを用いると, 義眼のような譲渡可能所有物を意図しているのではない限り, 奇異な表現となる。

- d. Der Mann hat den Mund offen.
 the man.NOM has the mouth.ACC open
 その男は口が開いている

(3) も譲渡不可能所有の例である。ここでも — 所有物にあたる「髭」が、だれにでもあるとは限らないため、「青い」「長い」などの修飾語句が不要になるとはいえ — (1) や (2) の場合と同様, haben や mit による表現が可能である。³ なお, Bart「髭」から派生した (3b') の形容詞 bärtig「髭の」は, 恒常的な性質を意味し, 連体修飾にのみ可能である。

- (3) a. Der Mann hat einen Bart.
 the man.NOM has a beard.ACC
 あの男には髭がある
- b. ein Mann mit (einem) Bart
 a man.NOM with (a) beard.DAT
- b' ein bärtiger Mann
 a bearded man.NOM
 髭の男

譲渡不可能所有物が (4) の「目」のような比喩的な意味である場合も, haben や mit による表現は可能である。⁴

- (4) a. Er hat ein Auge für Porzellane.
 he.NOM has a eye.ACC for porcelain.ACC
 彼には磁器を見る目がある
- b. ein Mann mit einem Auge für Porzellane
 a man.NOM with an eye.DAT for porcelain.ACC
 磁器を見る目のある男

(5) ~ (9) のような「側面語」⁵ については, ドイツ語ではたいてい形容詞が用いられる。haben や mit を使うことは一般的でなく, もし可能であるとすれば, (6a') や (9a', b') のように, 当該の側面を対比的に示す発言意図や専門家的な言説であるといった語用論的

³ ただし, mit 表現 (3b) では不定冠詞が任意に可能であり, その有無に特段の意味の差はない。だれにでもあるわけではない「髭」は, この点で (1b) 「眼」とは振舞いが異なる。

⁴ この比喩的な「目」は不特定単数の形で示されることにも注意。

⁵ 高橋太郎 (1975): 「文中における所属関係の種々相」『国語学』103, pp.1-17.

状況の支えが必要となる。

- (5) a. Er ist 22 (Jahre alt).
 he.NOM is 22 (years old)
 彼は22歳だ
- b. ein 22-jähriger Mann / ein Mann von 22 (Jahren)
 a 22-year-old man.NOM / a man.NOM of 22 (years)
 22歳の人
- (6) a. Er ist nett.
 he.NOM is kind
 彼は優しい, 親切だ
- a' Er ist sonst böse, aber er hat auch nette Eigenschaften.
 he is usually wicked but he has also kind properties.ACC
 彼は普段, 意地悪だけれど, 優しいところもある
- b. ein netter Mensch
 a kind person.NOM
 優しい人, 親切な人
- (7) a. Der Mann ist groß.
 the man.NOM is big, tall
 あの人は(背が)大きい
- b. ein großer Mann
 a big, tall man.NOM
 (背の) 大きい人
- (8) Der Japaner ist sogar 1,90 Meter groß.
 the Japanese.NOM is even 1,90 meter tall
 あの日本人は背が190センチもある
- (9) a. Der Stein ist viereckig.
 the stone.NOM is square
 その石は四角い
- a' Der Stein hat vier Ecken.
 the stone.NOM has four edges.ACC
 その石には4つの角がある
- b. ein viereckiger Stein
 a square stone.NOM
 四角い石

- b' ein Stein mit vier Ecken
 a stone.NOM with four edges.DAT
 4つの角のある石

(10) ~ (17) のようなさまざまな属性表現においては、多かれ少なかれ haben (ないしその語彙的変種: anhaben「着ている」、aufhaben「(メガネを) かけている、(帽子を) かぶっている」、enthalten「含んでいる」など) や mit が可能である。形容詞との競合がある場合、単なる文体上の好みによることもあれば、恒常性・一時性をはじめとするさまざまな背景的条件を区別するのに役立つこともある。前者の例として、(12a, b) や (13a, b) の haben/mit 表現に対する (12a', b') や (13a', b') の形容詞表現があり、これは文体的に官庁による報道発表のような印象を与える。後者の例としては、例えば (11a', b') の形容詞表現に対する (11a, b) の haben/mit 表現が、当該の病気が取り立てて注目すべきもの(宿痾や不治の病) であるかのような含みを持ちやすいということが挙げられる。

- (10) a. Er hat Talent.
 he.NOM has talent.ACC
 a' Er ist begabt.
 he.NOM is talented
 彼には才能がある
 b. ein Mann mit Talent
 a man.NOM with talent.DAT
 b' ein begabter Mann
 a talented man.NOM
 才能のある男
- (11) a. Er hat eine Krankheit.
 he.NOM has a illness.ACC
 彼には病気がある
 a' Er ist (heute) krank.
 he.NOM is (today) sick
 あの人(今日) 具合が悪い
 b. ein Mann mit einer Krankheit
 a man.NOM with an illness.DAT
 b' ein kranker Mann
 a sick man.NOM
 病気の男

- c. [?]Er hat einen kranken Magen.⁶
 he.NOM has a bad stomach.ACC
 あの人は胃が病気だ
- c' Sein Magen ist krank / nicht in Ordnung.
 his stomach.NOM is diseased / not in order
 彼の胃は病んでいる / 不調だ
- d. Er hat Fieber.
 he.NOM has fever.ACC
 あの人は熱がある
- (12) a. Er hat ein blaues Hemd an.
 he.NOM has a blue shirt.ACC on
 彼は青いシャツを着ている
- a' Er ist blau bekleidet.
 he.NOM is blue dressed
 彼は青い服装をしている
- b. ein Mann mit blauem Hemd
 a man.NOM with blue shirt.DAT
 青いシャツを着た男, シャツが青い男
- b' ein blau bekleideter Mann
 a blue dressed man.NOM
 青い服装の男
- (13) a. Er hat eine Brille auf / Er trägt eine Brille.
 he.NOM has a pair-of-glasses.ACC on / he.NOM is-wearing a pair-of-glasses.ACC
 彼はメガネをかけている
- a' Er ist bebrillt.
 he.NOM is bespectacled
 彼はメガネをしている
- b. ein Mann mit einer Brille
 a man.NOM with a pair-of-glasses.DAT
 メカネをかけた男

⁶ (11c) の haben 表現は、インフォーマントの意見によればやや奇妙とのことだが、これは haben が一般的に「人は身体部位が病気だ」という表現に用いられないということの意味するわけではない。例えば辞書には ein krankes Herz / eine kranke Leber haben 「心臓 / 肝臓が悪い」という句例が載っている。まったくの偶然かもしれないが、日本語でも「心臓病, 肝臓病」とは言い得ても、「胃病」とは言いにくいということがある。

- b' ein bebrillter Mann
a bespectacled man.NOM
メガネの男
- (14) a. Er hat eine Frau.
he.NOM has a wife.ACC
彼には妻がいる
- a' Er ist verheiratet.
he.NOM is married
彼は結婚している
- b. ein Mann mit Frau
a man.NOM with wife.DAT
妻のいる男
- b' ein verheirateter Mann
a married man.NOM
既婚の男性
- (15) a. Er hat drei Kinder.
he.NOM has three children.ACC
彼には3人の子供がいる
- b. ein Mann mit drei Kindern
a man.NOM with three children.DAT
3人の子持ちの男
- c. seine drei Kinder
his three children.NOM
彼の3人の子
- d. eine Frau, die ein Kind kriegt
a woman.NOM who a child gets
妊娠している女性
- d' eine Schwangere
a pregnant-woman.NOM
妊婦
- (16) a. Die Oktopode hat acht Füße.
the octopus.NOM has eight feet.ACC
タコには足が8本ある

- a' Die Oktopode ist ein achtfüßiges Tier.
 the octopus.NOM is a eight-footed animal.NOM
 タコは 8 本足の生き物だ
- (17) a. Das Getränk enthält Alkohol.
 the drink.NOM contains alcohol.ACC
 その飲み物はアルコールを含んでいる
- a' In dem Getränk ist Alkohol enthalten.
 in the drink.DAT is alcohol.NOM contained
 その飲み物にはアルコールが含まれている
- b. ein Getränk mit 90% Alkohol
 a drink.NOM with 90% alcohol.DAT
 アルコール分 90 パーセントの飲み物
- b' ein alkoholisches Getränk
 an alcoholic drink.NOM
 アルコール入りの飲み物
- c. ein Getränk ohne Alkohol
 a drink.NOM without alcohol.ACC
 アルコールの入っていない飲み物
- c' ein alkoholfreies Getränk
 a non-alcoholic drink.NOM
 ノンアルコール飲料

(18) ~ (21) のような譲渡可能所有の表現には、広く *haben* / *mit* (または、その語彙的変種) が用いられる。(20) では、所有物が自分の持ち物であるか否かは問題でなく、これを敢えて明示するには (21) や (21') の 下線部のような語彙的手段を用いざるを得ない。

- (18) a. Er hat viel Geld.
 he.NOM has much money.ACC
 彼はお金を持っている
- a' Er ist reich.
 he.NOM is rich
 彼は裕福だ
- b. ein Mann mit viel Geld
 a man.NOM with much money.DAT
 大金持ちの男

- b' ein reicher Mann
a rich man.NOM
裕福な男
- (19) a. Hast du einen Hund?
have you a dog.ACC
おまえのところには犬がいるか？ おまえは犬を飼っているか？
- a' Er hat einen Hund dabei.
he.NOM has a dog.ACC with-him
彼は犬を連れてくる
- b. der Mann mit einem Hund
a man.NOM with a dog.DAT
犬を飼っている男, 犬を連れてくる男
- b' ein Mann, der einen Hund hat
a man.NOM who a dog.ACC has
犬を飼っている人
- (20) a. Hast du einen Stift (dabei)?
have you a pen.ACC (with-you)
おまえはペンを持っているか？
- b. ein Mann mit einem Stift
a man.NOM with a pen.DAT
ペンを持っている人
- (21) a. Hast du deinen eigenen Stift dabei?
have you your own pen.ACC with-you
おまえは自分のペンを持っているか？
- b. ein Mann mit seinem eigenen Stift
a man.NOM with his own pen.DAT
自分のペンを持っている人
- (21') Er hat einen Stift in der Hand, der gehört ihm aber nicht.
he.NOM has a pen.ACC in the hand DAT this.NOM belongs him.DAT but not
あの人にはペンを手にはしているが, 自分のものではない

haben/mit 表現は, 抽象物の所有にも適用することができる. (22) に挙げた Glück「運」のほか, Pech「不運」, Idee「考え」, Erfahrungen「経験」, Hunger「空腹」など, 幅広いコロケーションが可能である.

- (22) a. Er hat (viel) Glück.
 he.NOM has (much) luck.ACC
 彼は運がいい
- b. ein Mann mit viel Glück
 a man.NOM with much luck.DAT
 運のいい男

これに対し、所在関係を表す *haben/mit* は珍しい。(23), (24) のように「所在物が所在場所の構成要素である」(地面には石があるものだ, 部屋には椅子が備わっているものだ) という前提が成り立つ限りにおいては *haben/mit* も可能であるものの, 全般的には *liegen* 「横たわっている」, *stehen* 「立っている」, *sein* 「ある」のような所在動詞を用い, 「どこそこに何々がある」のように表現する。その際, 所在物の既知・未知の差は, (25), (26) のとおり, 冠詞類の選択や語順には関係するものの, 所在動詞の選択には影響を与えない。

- (23) a. Der Boden hat viele Steine.
 the ground.NOM has many stones.ACC
 その土地は石が多い
- a' In / Auf dem Boden sind viele Steine (drin / drauf).
 in / on the ground.DAT are many stones.NOM (in-it / on-it)
 その土地 (の中 / 上) には石がたくさんある
- a'' Der Boden ist von vielen Steinen bedeckt.
 the ground.NOM is of many stones.DAT covered
 その土地は石に覆われている
- b. der Boden mit vielen Steinen (drin / drauf)
 the ground.NOM with many stones.DAT (in-it / on-it)
 石が (地中に / 地上に) たくさんある土地
- b' der von vielen Steinen bedeckte Boden
 the of many stones.DAT covered ground.NOM
 石に覆われた土地
- (24) a. Das Zimmer hat drei Stühle.
 the room.NOM has three chairs.ACC
 その部屋には椅子が3つある
- a' In dem Zimmer stehen drei Stühle.
 in the room.DAT stand three chairs.NOM
 その部屋には椅子が3つある

- a” Das Zimmer ist mit drei Stühlen ausgestattet.
 the room.NOM is with three chairs.DAT equipped
 その部屋は椅子を3つ備えている
- b. ein Zimmer mit drei Stühlen
 a room.NOM with three chairs.ACC
 3つ椅子のある部屋
- b’ ein Zimmer, in dem drei Stühle stehen
 a room.NOM in which three chairs NOM stand
 3つ椅子のある部屋
- b” ein mit drei Stühlen ausgestattetes Zimmer
 a with three chairs.DAT equipped room.NOM
 3つ椅子の備わった部屋
- (25) a. Auf dem Tisch liegen / sind Löffel.
 on the table.DAT lie / are spoons.NOM
 テーブルの上にスプーンがある
- b. ein Tisch mit Löffeln (darauf)
 a table.NOM with spoons.DAT (on-it)
 スプーンのあるテーブル
- (26) a. Die Löffel liegen / sind auf dem Tisch.
 the spoon.NOM lie / are on the table.DAT
 スプーンはテーブルの上にある
- b. die Löffel auf dem Tisch
 the spoon.NOM on the table.DAT
 テーブルにあるスプーン

属格による所有者の表示については、ドイツ語の場合、生起可能な環境が限定的である。代表的な事例としては、(27b)のように、固有名詞ないし普通名詞を所有者とする連体修飾で属格が用いられる。その際、普通名詞の属格がほぼ後置され、所有物が冠詞類を伴うのに対し、固有名詞の属格はむしろ前置され、所有物は冠詞類を伴わずに定的な解釈を受ける。所有者が代名詞の場合は、(27’b)のように、人称代名詞の属格ではなく所有代名詞が用いられる。こうした属格(ないし属格相当の表現)は今日、(27b’), (27’b’)のように、本来基点を意味する前置詞 von による句に置き換えられることが珍しくない。この場合、当該の von 句は所有物の表現の後に置かれ、所有物の表現が冠詞類を伴う。他方、所有者が代名詞でない場合、(27b”)のように、所有者を与格で示し、改めて所有代名詞で受け直す表現もサブスタンダードとして可能であり、特に普通名詞の所有者を前置して表示する

手段として好まれている。⁷ さらに文中の述語として所有者を示す場合でも、コンピュータ+属格（ないし属格相当の表現）による (27a), (27'a) よりも、所有者項と与格で要求する動詞 *gehören* を用いた表現 (27a'), (27'a') のほうが無標である。⁸

(27) a. Der Stift ist Taros / von Taro / von dem Mann.
the pen.NOM is Taro.GEN / of Taro / of the man.

a' Der Stift gehört (dem) Taro / dem Mann.
the pen.NOM belongs (the) Taro.DAT / the man.DAT
そのペンは太郎のだ / その男のだ

b. Taros Stift / der Stift des Mannes
Taro.GEN pen.NOM / the pen.NOM the man.GEN

b' der / ein Stift von Taro / von dem Mann
the / a pen.NOM of Taro / of the man

b'' (dem) Taro / dem Mann sein Stift
(the) Taro.DAT / the man.DAT his pen.NOM
太郎の / その男のペン

(27') a. Der Stift ist meiner.
the pen.NOM is mine

a' Der Stift gehört mir.
the pen.NOM belongs me.DAT
そのペンは私のだ

b. mein Stift
my pen.NOM

b' der / ein Stift von mir
the / a pen.NOM of mine
私のペン

⁷ Zifonun, Gisela (2003): *Dem Vater sein Hut*. Der Charme des Substandards und wie wir ihm gerecht werden. In: *Deutsche Sprache* 31-2, pp. 97-126.

⁸ これに関連して、ドイツでは近年、ジャーナリズムを中心に「与格が属格を脅かしている」という言説が盛んで、『与格は属格の死』という題のベストセラー本もあるほどである (Sick, Bastian (2004): *Der Dativ ist dem Genitiv sein Tod*. Köln. ちなみに、原題の「属格の」は与格で示されている)。しかし、ある種の属格（例えばモノの属格）は、相変わらず与格に置き換えることが不可能である。与格であれ、属格であれ、その生起には一定の条件がある、という当たり前の事実を忘れてはなるまい。

「出来事がある」という関係を表す場合、当該の出来事が偶発的な生起である限り、haben もコンピュータも用いられない。(28) のように、「起こる」という意味の再帰動詞 sich ereignen や自動詞 geschehen を使ったり、非人称の存在文 es gibt ... 「... がある」を使ったり、⁹ 語彙的に可能であれば非人称動詞を使ったりする。他方、人の行動や経験を表すのであれば、(28') のように haben が広く可能である ((22) も参照)。このような haben は、(28'b) のような「遂行」の表現にも問題なく生起する。ただし、(28'') のように、人による制御が困難な生理現象や感覚では、経験主の表示に与格が要求されることが珍しくない。

(28) a. Gestern hat sich in der Schule ein Brand ereignet.
yesterday has REFL in the school.DAT a fire.NOM occurred

b. Gestern gab es in der Schule Feuer.
yesterday gave it.NOM in the school.DAT fire.ACC

c. Gestern hat es in der Schule gebrannt.
yesterday has it.NOM in the school.DAT burned
昨日学校で火事があった

(28')a. Morgen habe ich schon einen Termin.
tomorrow have I.NOM already an appointment.ACC
私は明日、用事(約束)があります

b. Ich habe da eine Bitte (an dich).
I.NOM have there a request.ACC (to you.ACC)
ちょっと(あなたに)お願いがあります

(28'')a. Mir ist kalt / unwohl.
me.DAT is cold / not-well
私は寒い / 気分が悪い

b. Mir tut der Kopf weh.
me.DAT does the head.NOM sore
私は頭が痛い

存在文については、いま (28b) で触れた非人称の es gibt が広く用いられるほか、モノの実在を問題にするのであれば、自動詞 existieren 「存在する」も可能である。どちらの表現においても、「この世に」のような場所の表示は — それでもって文を開始するのではない限り — 必須ではない。

⁹ ただし、地域的変種として haben を使った存在文 (es hat ...) もある。

- (29) a. Es gibt keine Gespenster (auf der Welt).
 it.NOM gives no ghosts.ACC (on the world.DAT)
- b. Es existieren keine Gespenster (auf der Welt).¹⁰
 it.NOM exist no ghosts.NOM (on the world.DAT)
 (この世には) お化けなんていない

(30) のような絶対的存在文でも、a に示すとおり、es gibt による表現が相変わらず可能である。しかし日常的には、b のような単文の表現のほうが好まれる。この傾向は、(31) のような比較の文脈でいっそう顕著である。

- (30) a. Da gibt es (einige) Leute, die Englisch sprechen,
 there gives it.NOM (some) people.ACC who English speak
 aber auch viele, die nicht Englisch sprechen.
 but also many.ACC who not English speak
 そこには英語を話す人もいるが、話さない人も多い
- b. Einige Leute sprechen (da) Englisch, andere aber nicht.
 some people.NOM speak (there) English others.NOM but not
 (そこには) 英語を話す人もいるが、話さない人もいる
- (31) Manche Leute können Englisch besser als ich.
 many people.NOM can English better than I.NOM
 私より英語のできる人はたくさんいます

動詞の名詞化において、本来の主語や目的語を属格(ないし属格相当の所有代名詞や von 句)で示すことは、ドイツ語においても可能である。(32)～(34)の a は本来の主語が属格で示される例であり、このうち(32a)と(33a)は意味役割の点で動作主、(34a)は被動者である。また、(35a)は本来、被動者にあたる目的語が属格で示された例である。もとの動詞が他動詞の場合、(36a)のように動作主を所有代名詞または固有名詞の属格のかたちで主要部に前置し、被動者を属格(相当)の表現で後置するか、(36b)のように被動者が属格(相当)の表現のまま、動作主を durch による前置詞句(= 受動態における動作主表示としても可能)で示すかする。なお、このような名詞化表現がどのような述語と結びつくかという点で、たとえ日本語において名詞化表現に違和感がない場合でも、ドイツ語では同様の表現が必ずしも自然であるとは限らない。(33)～(35)の a のように、直接知

¹⁰ (29a) の es が動詞 gibt に 3 人称・単数形を強いる主語としての虚辞(英: it)であるのに対し、(29b) の es は文頭の構造的位置を満たす虚辞(英: there)である。

覚の述語や「起こる」を意味する述語，難易判断の述語などでは，属格による項の表示を伴った名詞化が難しい。こうしたケースではもとより，文法的に a が必ずしも誤りとはいえない (32) のようなケースでも，名詞化によらない，b や b' のような表現が好まれる。

- (32) a. sein Schwimmen (ist schön / komisch)
his swimming.NOM (is beautiful / funny)
彼の泳ぎ (は美しい / 変だ)
- b. Er schwimmt schön / komisch.
he.NOM swims beautiful / funny
彼は泳ぎが美しい / 変だ (= 美しく / 変に泳ぐ)
- (33) a. ([?]ich höre) das Bellen eines Hundes
(I.NOM hear) the barking.ACC a dog.GEN
犬の鳴き声 (が聞こえる)
- b. Ich höre, dass ein Hund bellt.
I.NOM hear that a dog.NOM barks
犬が鳴くのが聞こえる
- b' Ich höre den Hund bellen.
I.NOM hear the dog.ACC barking
犬が鳴いているのが聞こえる
- (34) a. ([?]es ist wieder) ein Ausbruch des Vulkans (geschehen)
(it.NOM is again) a eruption.NOM the volcano.GEN (occurred)
(ふたたび) 火山の爆発 (があった)
- b. Der Vulkan ist wieder ausgebrochen.
the volcano.NOM is again erupted
火山はふたたび爆発した
- (35) a. Das Fahren dieses Autos ([?]ist schwer).
the driving.NOM this car.GEN (is hard)
この車の運転 (は難しい)
- b. Dieses Auto ist schwer zu fahren.
this car.NOM is hard to drive
この車は運転が難しい
- (36) a. Tonys / seine Rettung der Welt
Tony.GEN / his saving.NOM the world.GEN
トニーの / 彼の世界救済

- b. die Rettung der Welt durch Tony
 the saving.NOM the world.GEN through Tony
 トニーによる世界の救済

「小説」のような名詞が属格（相当）の表現を伴う場合、この属格（相当）の表現は多義であり、当該のモノの所有者としても、生産者（執筆者）としても、内容（題材）としても解釈可能である。この属格を *über* による前置詞句に換えることで、内容の解釈に限定することは可能である一方、他の意味関係を明示する代替表現は見当たらない。名詞化においては動作主を表示し得た *durch* 句 ((36b) 参照) でさえ、英語の *by* 句や日本語のニヨル句とは異なり、普通名詞に添えて動作主としての生産者を明示することはできない。

- (37) a. Frau Suzukis Roman
 Ms. Suzuki.GEN novel.NOM
 鈴木さんの小説【所有者】
 鈴木さんによる小説【生産者】
 鈴木さんについての小説【内容】
- b. ein Roman über Frau Suzuki
 a novel.NOM over Ms. Suzuki
 鈴木さんを扱った小説【内容】

日本語において非常に多種多様な意味関係の表示に可能なノ格に比して、ドイツ語の属格（相当）表現は分布が限られている。(38) のように、時間や場所の関係は適当な前置詞句・副詞句で示す。

- (38) a. der Regen im Winter / gestern
 the rain.NOM in-the winter.DAT / yesterday
 冬の / 昨日の雨
- b. die Wohnungen in Tokio / hier
 the apartments.NOM in Tokyo.DAT / here
 東京の / ここの住宅

親族関係には (39a) のように属格（相当）表現が使える一方、「前」、「横」、「ところ」のような場所や「次」のような時間の関係は前置詞で示し、当該の前置詞も (39b-e) のように属格ではなく、与格や対格を支配する。

- (39) a. Frau Suzukis Mutter
Ms. Suzuki.GEN mother.NOM
- a' die Mutter von Frau Suzuki
the mother.NOM of Ms. Suzuki
鈴木さんのお母さん
- b. Komm doch an den Tisch!
come PARTICLE at the table.ACC
机のところに来て
- c. Komm doch zu mir.
come PARTICLE to me.DAT
私のところに来て
- d. Komm doch auf den Marktplatz.
come PARTICLE on the market-place.ACC
広場に来て
- e. Nach ihm bin ich an der Reihe.
after him.DAT am I.NOM at the series.DAT
あの人の次は私の番だ

さらに (40) においても、前置詞句や合成語で表現するのが一般的である。属格（相当）表現が許されるケースは少なく、種別 (40a), 内容 (40d), 発生源 (40e) 程度のものである。

- (40) a. die Blätter der Rosen
the petals.NOM the roses.GEN
- a' die Rosenblätter
the rose-petals.NOM
バラの花びら 【種別】
- b. ein Messer für Obst
a knife.NOM for fruit.ACC
- b' ein Obstmesser
a fruit-knife.NOM
果物のナイフ 【用途】
- c. ein Flugzeug aus Papier
an airplane.NOM of, from paper.DAT

- c' ein Papierflugzeug
a paper-airplane.NOM
紙の飛行機【材料・材質】
- d. ein Foto von Tulpen
a photo.NOM of tulips
チューリップの写真【内容】
- e. die Duft der Blume
the scent.NOM the flower.GEN
- e' die Blumenduft
the flower-scent.NOM
花の匂い【発生源】
- f. ein Brief auf Englisch
a letter.NOM in English
英語の手紙【媒体】
- g. ein Lehrer für Japanisch
a teacher.NOM for Japanese
- g' ein Japanisch-Lehrer
a Japanese-teacher.NOM
日本語の先生【職種】
- h. Wasser aus dem Brunnen
water.NOM from the fountain.DAT
泉の水【取得源】
- h' Brunnenwasser
fountain-water.NOM
井戸の水, 噴水の水
- i. ein regnerischer Tag
a rainy day.NOM
雨の日【状況】

同格の表現は、ドイツ語の場合、2つの名詞(句)を文字どおり同じ格で並列する。固有名詞を後置した(41a)や(41'a)の場合、同格の関係が緊密で、2つの名詞(句)はひとつのプロソディのまとまりをなし、表記の際、コンマが不要である。これに対し、普通名詞を後置すると、(41b)や(41'b)のようにプロソディの切れ目ができ、表記の際はコンマを打つことになる。両者の違いは、およそ各例に付した日本語訳で再現されるようなものと推測される。その限りにおいて、日本語のノ格による親族関係や肩書きの表現は、ドイ

ツ語では固有名詞に後置される表現に対応すると言えるだろう。

(41) a. meine Schwester Hanako
my sister.NOM Hanako.NOM
妹・花子

b. Hanako, meine Schwester
Hanako.NOM my sister.NOM
妹の花子

(41') a. (der) Generaldirektor Tanaka
(the) president.NOM Tanaka.NOM
田中社長

b. Herr Tanaka, der Generaldirektor
Mr. Tanaka.NOM the president.NOM
社長の田中さん

属格の連続に関しては、ドイツ語でも 2 つより多くなると理解が困難になるようである。興味深いことに、属格の表現を (27b') に挙げたような与格の表現に換えると、状況が改善する。インフォーマントの判断によれば、3 つの属格が連続的に後置される (42a) に比して、3 つの与格が前置されて連続する (42b) は理解が容易で、抵抗が少ないとのことである。

(42) a. Der Reifen des Autos des Vaters meines Freundes ist geplatzt.
the tire.NOM the car.GEN the father.GEN my friend.GEN is burst
友達のお父さんの車のタイヤがパンクした

b. Meinem Freund seinem Lehrer seinem Sohn ist der Reifen geplatzt.
my friend.DAT his teacher.DAT his son.DAT is the tire.NOM burst
友達の先生の息子さんのタイヤがパンクした

スペイン語の所有・存在表現

高垣 敏博

はじめに

スペイン語の所有動詞は英語の *to have* に似た *tener* 「もつ」である(衣類を身に付けて「もっている」ような場合には *llevar* を使う: *llevar unas gafas* 「メガネをかけている」(アンケート例文番号13参照), 以下文末の() の番号はアンケート番号を指す).

[1]a. *Tiene {un perro / veinte años / hambre}* .

(He) has {a dog / 20 years / hunger} .

彼は {犬を飼っている / 20歳だ / 空腹だ} .

b. *La bebida tiene alcohol.* (17)

The drink has alcohol

その飲み物にはアルコールが含まれる

多くの言語と同じく, 所有関係は, コピュラ動詞 *estar*(スペイン語のコピュラ動詞として教科書的には「主語と属詞の恒常的關係を表す」*ser* と「一時的關係および存在を表す」*estar* の2種類が使い分けられる¹⁾と所有(付随)を表す前置詞 *con* (=with)に導かれる句の組み合わせとして[2]のように言い換え可能な場合がある.

[2]a. *Tiene fiebre. / Está con fiebre.* (11)

(He) has fever / (He) is with fever

彼は熱がある

b. *La mujer tiene tres hijos. / *La mujer está con tres hijos.* (15)

The woman has three children / The woman is with three children

その女性には3人子供がいる

ただし[2b]からわかるように, *estar* による表現は常に可能であるとは限らない. 制限を詳細に調べていく必要があるだろう.

また, 「属性, 特性」を表す前置詞「*de*」を用いる表現も可能である. <コピュラ動詞 *ser* + *de* + 名詞>, あるいは<名詞 + *de* + 名詞>の形式で用いられる.

[3]a. *Es de buena suerte [=Tiene suerte.]* (22)

(He) is of good luck (He) has luck

彼は運に恵まれている

1 スペイン語の繫辞動詞(コピュラ動詞) *ser* と *estar* については先行研究が多いが Marín (2004) の第2章で Gili Gaya (1961), Luján (1980, 1981), Clements (1988), Carlson (1977), などが紹介されている. それぞれ「永続性/一時性」, "individual level / stage level" (Carlson), 「非有界性 no-acotado / 有界性 acotado」(Marín) などの対立で捉えられる.

b. Es una persona de gran talento. (10)

(He) is a person of great talent

彼は才能豊かな人だ

この **de** は英語の **of**, 日本語の「の」に類似し, 多様な意味関係を成立させる前置詞で, その目的語の名詞が表す意味を属性として「所有する」ことを表わす. そこで, [4]のように **con** と **de** が使い分けられる.

[4]a. Es un hombre con dinero.

(He) is a man with money

彼はお金をもっている

b. Es un hombre de dinero.

(He) is a man of money

彼は裕福な人だ

この2つの例で, **con** の場合は現実, いま, お金をもっている状況に力点が, また **de** が用いられると裕福という属性をもつ人として理解される. したがって概ね後者は **un hombre rico** 「裕福な人」の形容詞 **rico** 「金持ちの」に近い意味を獲得するものとする. 同様に, [3a]がそもそも運に恵まれた人の属性を表すのに対し, 所有, 随伴の意味が明瞭である **con** に代えると, つぎの[5]のようにいま幸運が向いてきているさまを述べることになる.

[5] Está con buena suerte.

(He) is with good luck

彼には運が向いてきた

以下のアンケート項目の半分はそれぞれ名詞句表現である. 前の主要部(被修飾名詞)に補足部の名詞なり形容詞が後置されるのがスペイン語の一般的語順である. 連体修飾の **con** または **de** による前置詞句の二者の使い分けが中心のテーマとなる. 意味の差もすでに述べたとおりである. すなわち, **con** は「所有・付随」, **de** が用いられると「属性・特性」の所有という意味が対比される.

[6]a. un hombre {de / con} gafas (13)

a man {of / with} glasses

メガネ {の / をかけた} 男

b. un hombre {de / *con} la barba (3)

a man {of / with} the beard

ヒゲ {の / をつけた} 男

(a)のメガネの場合は **de** でメガネを特徴とする男, **con** ではメガネをかけている男という対比になるが, (b)ではヒゲを男の特徴として取り上げることは可能であっても, ヒゲを付けている男というのは, それがつけヒゲでない限り意味をなさない.

さてスペイン語の存在文は<hay+不定名詞句>によるもの (英語の *there is (are)...* 構文に相当)と、コンピュータの *estar* を用いる方法が典型的である。 *estar* では特定名詞句を主語とする。

[7]a. *Hay una cuchara en la mesa.* (25)

There is a spoon on the table

テーブルにはスプーンが一つある

b. *La cuchara está en la mesa.* (26)

The spoon is on the table

そのスプーンはテーブルにある

存在文は[8]のように所有文とのつながりが見られるが、つねにこのような関係が成り立つわけではない。

[8]a. *En la habitación hay tres sillas.*

In the room there are three chairs

部屋にはイスが3脚ある

b. *La habitación tiene tres sillas.*

The room has three chairs

部屋にはイスが3脚ある

アンケート

以下ではこのような「所有・存在表現」がどのように使われるのか、アンケートの例文で確認していくことにしよう。

まず、(1)~(4)は身体部位の所有をめぐる表現である。

(1)a. あの人(女性)は青い目をしている

*Esa chica tiene los ojos azules.*²

That girl has the eyes blue

スペイン語の所有を表す動詞は *tener* で、*tiene* は3人称単数形。スペイン語は品質形容詞は名詞に後置されるので *los ojos azules* の語順になっている。

b. 青い目の人・目が青い人

*la chica {de / *con} los ojos azules*

the girl {of / with} the eyes blue

被所有物が連体修飾する場合である。前置詞の *de* (= *of*) で名詞を修飾し、「青い目」がその女性の属性として述べることはできるが、本来所有の意味をもつ前置詞 *con* (= *with*)

²本論の作例はすべて本学教員 Concha Moreno 氏のチェックを受けたものである。母語話者によっては判断が異なる可能性があるが、より詳細な調査は今後の課題となる。

では修飾できない。譲渡不可(*inalienable*)の身体部位をあえて「伴う」とする表現が許容されないであろう。

- (2)a. あの女 {は／の} 髪が長い・あの女は長い髪をしている

Esa chica tiene el pelo largo.

That girl has the hair long

名詞と形容詞の語順を変え?*Esa chica tiene largo el pelo.*にすると「髪の毛は長い、睫 (*las pestañas*)はそうではない」(*Tengo largo el pelo, pero no las pestañas.*)のような対比的用法として理解されるため、単独では不自然になる。

また、「あの女の髪は長い」と日本語から直訳したつぎの文は不自然であるという。

??*El pelo de esa chica es largo*

The hair of that girl is long

- b. 長い髪の女・髪の長い女

la chica {del / ??con el} pelo largo

the girl {of / with} the hair long

この場合も *de* で属性として表わす場合は問題ない。前置詞 *con* では(1b)の「目」に比べると比較的許容されやすい。これは「髪」は身体部位として完全に譲渡不可ではないためと言えるのだろう。

- (3)a. あの人には髭がある。

Ese hombre tiene barba

That man has beard

は問題ない。

- b. 髭の男

el hombre {de / ??con} la barba

the man of / with (the) beard

(b)ではここでも *con* は不自然。属性を表すのではなく、「髭を付けた」という意味合いが出てしまうであろう。

- (4)a. あの人には (見る) 目がある

Él tiene ojo para ver

He has eye to see

比喩的な「目」である。スペイン語でも「ひとを見る目がある」(“*ver lo mejor de las personas*”)の意味で「目」をもつと言える (ただし、冠詞を伴わず抽象化して用いられている)。また文字通り *vista* 「視力、洞察力」を用いて *Él tiene vista* (he has eyesight)と

表現することも可能.

b. 見る目のある人

una persona con {ojo / vista}

a person with {eye / eyesight}

*una persona de vista

a person of eyesight

この場合はこれまでと違い, con を用い, de では容認されない. 名詞 ojo, vista が属性とは認定されないのかもしれない.

以下(5)から(13)までは所有対象がさまざまな属性の場合である. 属性を形容詞で表わすか, 所有表現にするか, あるいは de, con などによる前置詞句を用いるかの使い分けが考慮される.

(5)a. あの人 は 22 歳だ

Él tiene 22 años

He has 22 years

スペイン語では年齢表現には所有の動詞 tener を用いる (英語のように ser = "to be" は用いない).

b. 22 歳の人

una persona {de / con} 22 años

a person {of / with} 22 years

前置詞の de も con も可能であるが, de (= of) は年齢を単純に属性として述べるのに対し, con (= with) では「齢を重ねた」という意味になるという.

(6)a. あの人 は優しい性格だ.

Es {dulce / cariñoso / suave / tierno}

(He) is sweet...

このように ser (=to be) と形容詞の組み合わせが普通の表現である. 日本語に合わせて「性格」(carácter) という名詞を明示的に用いると所有の動詞 tener が使われる.

Tiene un carácter {dulce / cariñoso / suave / tierno}

(He) has a character sweet...

b. 優しい性格の人

名詞修飾でも形容詞を用いるほか, 「優しい性格の人」(de carácter ...) の表現も可能.

この場合は「~の性格をもつ」人と属性の所有で前置詞は de になる.

una persona de carácter {dulce / cariñoso / suave / tierno}

a person of character sweet...

(7)a.あの人には背が高い

「高い背丈という属性をもつ」のように「背丈」を所有ないしは *de* による属性表現にすることは不可。

{**Tiene* / **Es de*} *estatura alta*.

(He) {has / is of} height tall

形容詞 *alto* 「高い」を叙述的に用いるのが一般的である。

Es alto.

(He) is tall

さらに *alto* に「背丈の点で」のような意味の限定句 *de estatura* を付加し、より明示化することも可能である。

Es alto de estatura.

(He) is tall of height (in height)

b. 背の高い人

名詞修飾でも(a)と同じ関係が見られる。

una persona alta

a person tall

una persona alta de estatura

a person tall of height

**una persona* {*de* / *con*} *estatura alta*

a person {of / with} height tall

(8)あの人には背が 190 センチもある。

スペイン語では身長はコピュラ動詞の *ser* ではなく所有の動詞 *tener* とともに用いる。

Tiene no menos que 190 centímetros de estatura.

(He) has no less than 190 centimeters of height

また、「測る」の意味の動詞 *medir* (=measure)を用いることもできる。

Mide no menos que 190 centímetros.

(He) measures no less than 190 centimeters

しかし、(7a)で見たように背丈 *estatura* を「高さの点で」のように後置して明示化することは許容されない。

**Tiene 190 centímetros de estatura*.

(He) has 190 centimeters of height

(9)a.その石は四角い形をしている。

「四角い」という属性を表すのであるが、形容詞が一般的。

La piedra es cuadrada.

The stone is square

また、「形」(forma)という名詞+形容詞の組み合わせも可能で、所有の動詞 tener を用いる。

La piedra tiene forma cuadrada.

The stone has form square

<ser + de +形容詞>の結合は文法的な構成ではあるもののやや不自然であるとの母語話者の判断が見られる。

?La piedra es de forma cuadrada.

The stone is of form square

b. 四角い (形の) 石

una piedra cuadrada

a stone square

?una piedra de forma cuadrada

a stone of form square

名詞修飾の場合も(a)と同じく de forma を用いるとやや不自然になるという。そもそも cuadrado という形容詞が四角い形状を表すので余剰的になるということだろうか。

(10)a. あの人には才能がある。

文字通り「才能 talento をもつ」と「有能な talentoso」という形容詞を用いる表現が可能。しかし後者は(少なくともスペインでは)一般的ではないという。

Tiene talento

(He) has talent.

Es talentoso.

(He) is talented.

属詞の名詞を「de+名詞」修飾の方法は可能であるが、コピュラ動詞 ser に直接 de talento だけを従えることはできない。

Es una persona de gran talento.

(He) is a person of great talent

*Es de talento.

(He) is of talent

b. 才能のある人

前置詞 de, con とともに可能であるが、ここでも de は属性, con は付加された特性, すなわち獲得された特技などについて述べていると考えられる。

una persona {de / con} talento

a person {of / with } talent

(11)a. あの人は病気だ.

この場合は形容詞 **enfermo** 「病気の」のみ可能. ただし, 形容詞は状態的意味を表すので, コピュラ動詞は **ser** ではなく, **estar** を用いる.

Está enfermo.

(He) is sick.

名詞の **enfermedad** 「病気」を用いると容認されない.

***Tiene enfermedad.**

(He) has sickness

***Está con enfermedad.**

(He) is with sickness

b. あの人は熱がある.

ところが「熱」(**fiebre**)では, **con** による所有表現が可能になる.

Tiene fiebre.

(He) has fever.

Está con fiebre.

(He) is with fever.

後者の表現が次第に用いられるようになってきているとの証言がある.

c. 病気の人

una pesrona enferma

a person sick

***una persona con enfermedad**

a person with sickness

この場合も形容詞による表現のみが許容される.

(12)a. あの人は青い服を着ている

Lleva un vestido azul.

(He) wears a suit blue.

{**Tiene / Lleva**} **puesto un vestido azul**

(He) {has / wears} on a suit blue

??**Está con un vestido azul.**

(He) is with a suit blue.

Está vestido { *de / ??con } un vestido azul

(He) is dressed {of / with} a suit blule

一般的には「身に付ける」意味の動詞 *llevar* を用いる。 *tener* を用いる場合には「身に付けた状態で」の意味の過去分詞 *puesto* (< *poner*) を補う必要がある。 *tener* だけでは所有しか表わさないからであろう。最後の2文のようにコピュラ動詞 *estar* と所有の前置詞 *de, con* の組み合わせはどちらも容認されない。

b. 青い服の男

un hombre de azul

a man of blue

このように色 *azul* のみ従える場合は *de* である。「着ている」 *vestido* (=dressed) が名詞を修飾する場合には *en, de* が用いられる。

*un hombre vestido {en / de / *con} azul*

a man dressed {in / of / with} blue

(13)a. あの人はメガネをかけている。

Lleva unas gafas.

(He) wears some glasses

{*Lleva / Tiene*} *puestas unas gafas*

(He) {wears / has} on some glasses

「身につけている」意味の *llevar* が用いられる。 *tener* では過去分詞 *puesto* が補われる。

b. メガネの男

*un hombre {de / con} gafas*³

a man {of / with} glasses

con は「付けている」。 *de* を用いると特徴づけの意味（「メガネの男」）が強くなる。

以下(14)(15)は所有される対象が人の場合である。

(14)a. あの人には妻がいる。

Está casado.

(He) is married.

Tiene mujer.

(He) has wife.

「既婚の」の意味の形容詞 *casado* か、所有の動詞 *tener* を用いる。後者では「妻という存在」と抽象化するため *mujer* 「妻」は無冠詞になる。

³ **Un hombre de unas gafas* のようにメガネに複数の不定冠詞を添えると非文になる。また、定冠詞でも容認されない。 **un hombre {de / con} las gafas* (a man {of / with} the glasses)

b. 既婚の人・妻のいる人

un hombre casado

a man married

のように形容詞を用いるのが一般的.

un hombre con mujer y niños

a man with wife and children

***un hombre con mujer**⁴

a man with wife

con 前置詞句「妻子がある」のように「子供」と組み合わせて用いると自然になるが、「妻」単独では不自然になるという.

(15)a. あの人には3人子供がいる

La mujer tiene tres hijos.

The woman has three children

***La mujer está con tres hijos.**

The woman is with three children

ここでも所有の **tener** が用いられる. con 句は不可である.

b. 3人の子持ちの人

??**la mujer con tres hijos.**

the women with three children

con を用いると不自然になる. この場合「女」(la mujer)を先行詞とする関係節を用いるべきであるという.

la mujer que tiene tres hijos

the woman who has three children

c. あの人の3人の子供

los tres hijos de la mujer

the three children of the woman

d. 妊娠している女性

una mujer embarazada

a woman pregnant

以下各種の所有表現が見られる.

⁴ *Un hombre con una mujer puede ser feliz o desgraciado.*(a man with a wife can be happy or unhappy) 「女房をもつ男は幸せであるかもしれないが不幸かもしれない」のようによく文脈を整えると用いることができるようになるという.

(16) タコには足が 8 本ある

{Un / El} pulpo tiene ocho tentáculos

{A / the} octopus has eight tentacles

{*Un / *El} pulpo está con ocho tentáculos

{A / the} octopus is with eight tentacles.

所有の tener を用いる。"estar + con"を用いると分離したもの（一旦切断した足）を改めて付けてあるような意味合いになってしまう。

(17)a. その飲み物にはアルコールが入っている。

La bebida {tiene / lleva} alcohol.

The drink has alcohol

En la bebida hay alcohol.

In the drink there is alcohol

含有するの意味で動詞 tener, llevar を用いる。

b. アルコール入りの飲み物

una bebida alcohólica

a drink alcoholic

形容詞を用いる。alcohol という名詞を使うのであれば前置詞 con が用いられる。

una bebida {con / *de} alcohol

a drink {with / of} alcohol

(18)a. あの人はお金を持っている。

お金(dinero)を tener の目的語にするか、形容詞「金持ちの」(rico)を用いる。

Tiene dinero.

(He) has money

Es rico.

(He) is rich

b. お金持ちの人

una persona rica

a person rich

前置詞句では con, de の両方が可能である。con は現実にもっている人、de はお金がその人の属性ともいえる「金持ちの」の意味で、形容詞 rico に接近する。

una persona {con / de} dinero

a person {with / of} money

(19)a. おまえのところには犬がいるか？

tener を用いる方法と、不特定なものの存在を表す hay による表現が可能である。

¿Tienes {perro / un perro / perros} en casa?

Do you have {dog / a dog / dogs} at home?

¿Hay {perro / un perro / perros} en (tu) casa?

Is there {dog / a dog / dogs} at home

「犬」は無冠詞(「猫ではなく犬というペット」のように種の意味合い)、あるいは総称の意味で un perro もしくは複数形 perros などが可能。

b. 犬のいる人

名詞句では前置詞 con が用いられる。

una persona con {perro / un perro} ⁵

a person with {dog / a dog}

(20)a. おまえは(自分の)ペンを持っているか？

¿Tienes {pluma / una pluma / tu pluma} ?

Do you have {pen / a pen / your pen} ?

tener を用いる。目的語の pluma は無冠詞(「ペンのような書くもの」の意)、不定冠詞、あるいは所有詞を伴う。

b. ペンを持っている人

una persona con pluma

a person with pen

前置詞 con で所有を表す。無冠詞が普通であるが、つぎのように不定冠詞をつけると 1 本が強調されるためか例えば絵画の題名のような印象を受けるという。

“Una persona con una pluma escribiendo”

a person with a pen writing

「ペンで書きものをしている人」(絵に添えられたタイトル)

(21) あの人(誰か別の人の)ペンを持っている。

(20)に対しこれは他の人のペンをたまたま持っているという例。しかし、同じく tener を用いるものの無冠詞ではなく、所有詞 su、や「他の誰かの一本のペン」のように修飾が必要になる。

Ella tiene su pluma.

(She) has her pen

⁵ *una persona de {perro / un perro} 前置詞 de を用いると容認されない。

Ella tiene una pluma de otra persona.

(She) has a pen of another person

(22)a. あの人は運がいい.

suerte 「運」が抽象名詞の例であるが、慣用で **tener suerte** 「ついている」のように用いる.

Tiene suerte.

(He) has good luck

tener buena suerte (good luck) 「幸運である」 / **tener mala suerte (bad luck)** 「不運である」と使いわけが、形容詞を伴わない場合は幸運を含意する. つぎのように前置詞句を用いる方法はともに容認されない.

***Está con buena suerte.**

(He) is with good luck

***Es de buena suerte.**

(He) is of good luck

「幸運な」という形容詞を用いることもできる.

Es afortunado.

(He) is fortunate

b. 幸運な人

ところが名詞句では、形容詞でも前置詞句を伴う表現でもともに自然であるという. 前置詞句の場合はここでも、**con** であれば「ついている」人、**de** ならば本来的に「運に恵まれた」人というような対比ができる.

una persona afortunada

a person fortunate

una persona {con / de} buena suerte

a person {with / of} good luck

以下(23)からは存在文である.

(23)a. ここは石が多い.

不特定な人・物の存在は **hay** で表わす.

Aquí hay muchas piedras

Here are many stones

b. 石の多い土地

前置詞句による連体表現は **con**, **de** ともに自然である. 前置詞による意味の差はこれまでと同様後者の方が属性を表すと考えられる.

un lugar {con / de} muchas piedaras

a place {with / of} many stones

(24)a. その部屋には椅子が3つある.

存在の動詞 hay を用いる方が自然であるが、部屋を主語にして tener を用いることも可能である.

En la habitación hay tres sillas.

In the room there are three chairs

La habitación tiene tres sillas.

The room has three chairs

b. 3つ椅子のある部屋

前置詞 con を用いる.

una (la) habitación con tres sillas

a (the) room with three chairs

関係節による表現も可能である.

una (la) habitación donde hay tres sillas

a (the) room where there are three chairs

(25)a. テーブルの上にスプーンがある.

典型的な不特定事物の存在表現で hay が適切である.

Hay una cuchara (cucharas) en (sobre) la mesa

There is (are) a spoon (spoons) on the table

b. スプーンのあるテーブル

連体表現は前置詞句 con では不自然で、関係節が適切である.

??la mesa con una cuchara (cucharas)

the table with a spoon (spoons)

la mesa donde hay una cuchara (cucharas)

the table where there is (are) a spoon (spoons)

またテーブルを所有者にする表現はスペイン語らしくない.

??la mesa que tiene una cuchara (cucharas)

the table that has a spoon (spoons)

(24)では3つの椅子が部屋の備品のような関係になっているが、(25)の例ではテーブルとスプーンが偶然的関係にあることが違いを生みだしているのだろうか.

(26)a. そのスプーンはテーブルの上にある.

特定な人・物の存在は hay ではなく, コピュラ動詞 estar を用いる.

La cuchara está en (sobre) la mesa.

The spoon is on the table

b. テーブルにあるスプーン

場所前置詞句を連体修飾に用いることはスペイン語では不自然で⁶, 関係節で説明的に表わすことになる.

??la cuchara en (sobre) la mesa

the spoon on the table

la cuchara que está en (sobre) la mesa

the spoon that is on the table

(27)は所有されるものが主語で, 所有者が属詞の関係にある場合である.

(27)a. そのペンは私のだ.

所有形容詞後置形 (mío, tuyo, suyo, nuestro, vuestro, suyo)を用いる.

La pluma es mía.

The pen is mine

b. そのペンは太郎のだ

所有者が代名詞ではなく, 普通名詞 (あるいは固有名詞) の場合は前置詞 de (=of) に導かれる.

La pluma es de Pedro

The pen is of Pedro (Pedro's)

c. 私のペン・太郎のペン

名詞修飾の所有形容詞は前置形(mi, tu, su, nuestro, vuestro, su)を用いる. また普通名詞 (固有名詞) では前置詞 de に導かれる.

mi pluma

my pen

la pluma de Pedro

the pen of Pedro (Pedro's)

(28a)は何かが生起するという意味の存在であろう.

(28)a. 昨日, 学校で火事があった

Ayer hubo (ocurrió) un incendio en la escuela.

Yesterday there was a fire at school

⁶ 「前置詞」『中級スペイン文法』高垣(1995:153)参照.

b. 私は明日用事があります。

Mañana tengo algo que hacer.

Tomorrow I have something to do.

日本語では存在であるが、私が行うことを目的語とする所有表現を用いる。⁷

(29) (この世には) お化けなんていない

(En este mundo) no hay fantasmas.

In this world there are no ghosts

*Este mundo no tiene fantasmas.

This world has no ghosts

場所名詞 *este mundo* を主語として所有の動詞 *tener* をとることは難しい。

(30) (そこには) 英語を話す人もいるが、話さない人もいる。

Allí hay personas que hablan inglés y otras que no lo hablan.

There are people who speak English and others who do not speak it

Allí hay unos que hablan inglés y otros que no.

There are some who speak English and others who do not.

存在表現 *hay* を用いる。

(31) 私より英語ができる人は (ほかに/もっと) います。

Hay {otros / más} que hablan inglés mejor que yo.

There are {others / more} who speak English better than I

存在表現 *hay* を用いる。

(32) ちょっとあなたにお願いがあります。

Tengo un favor que pedirte.

I have a favor to ask of you

tener を用いる。 *pedir un favor* (to ask a favor) を単独で用いるのは不十分のようである。

?Te pido un favor.⁸

I ask you a favor

⁷ *hay* を用いることができるだろうが (*hay algo que hacer*)、不定人称表現になるので誰が行う行為か不明になる。

⁸ ただし、“*te pido un favor y tú nunca tienes tiempo*” 「いつも君にお願いごとをすると時間がないうんだ」のように文脈が整うことが条件である。

(33)は連体修飾をともなう名詞表現である。

(33) a. 冬の雨

la lluvia de invierno

the rain of winter

冬特有の雨 (propia de esa época) の意。

la lluvia en invierno

the rain in winter

冬の間に降る雨ということで時が強調される(durante el invierno; énfasis en el tiempo).

b. 東京の家

*la casa en Tokio

the house in Tokyo

la casa de Tokio

the house of Tokyo

(26b)で見たのと同じく en による場所前置詞を連体修飾句として用いるのは難しい。一方、de を用いると、他にも家があって、それと対比させて東京の家というような解釈になる。

(34)では動詞の名詞化形とその動作を行う主体の連体修飾関係が問題になる。スペイン語では動作の主体は前置詞 de により後置される。(a)では所有形容詞 su による)。

(34) a. 彼の泳ぎ

su modo de nadar

his way of swimming

*su natación

his swimming

*su nadar

his swimming

名詞 natación 「泳ぎ、水泳」も不定形 nadar 「泳ぐこと」も容認されない。modo 「方法、様式」を伴う場合のみが許容される。

b. 犬の鳴き声

(el) ladrido de un perro

the bark of a dog

(el) ladrar de un perro

the barking of a dog

上の nadar 「泳ぐ」と異なり、ladrar 「鳴く」の場合は名詞形 ladrido 「鳴き声」(ただし、動態性は損なわれている)であれ、不定形 ladrar であれ容認される。

c. 火山の爆発

(la) erupción de un volcán

the eruption of a volcano

d. 車の運転

(la) conducción de un coche⁹

the driving of a car

*(el) conducir de un coche

the driving of a car

動詞由来名詞 **conducción** 「運転」は容認されるが、不定形の **conducir** は不可となる。
このように動詞の名詞化形、および動詞の不定形は動詞により一定しないので個々の
意味を考慮し、その可否を考えていく必要がある。

(35)a. X さんのお母さん

la madre de X

the mother of X (X's)

b. 机の横に／机の前に／*机に（来て！）

¡Ven {al lado de / delante de / a} la mesa!

Come {by / in front of / to} the table!

日本語と異なり、着点を表す前置詞 **a** を用いる表現はスペイン語では問題ない。

c. あの人の次

después de esa persona

after that person

以下、「の」のさまざまな用法が続く。

(36)a. バラの花びら

los pétalos de una rosa

the petals of a rose

部分を表している。

b. 果物のナイフ

cuchillo {para / ??de} frutas

knife {for / of} fruits

ナイフの用途を表している。用途の前置詞 **para** のみが許容される。

⁹ ただし、そのままでは情報は不十分で“La conducción de un coche como este es un palcer の
ような文中に入れてはじめて理解できる。

c. 紙の飛行機

avión de papel

plane of paper

材料を表す.

d. チューリップの絵

cuadro de unos tulipanes

painting of some tulips

絵の対象, テーマを表す.

e. 花の匂い

olor {a / de} flores

smell of flowers

olor a~ 「~の匂い」は決まった結びつきで用いられる (<動詞 oler a~ 「~の匂いがする」>).

f. 英文の手紙

cartas en inglés

letters in English

g. 日本語の先生

profesor de japonés

teacher of Japanese

h. 井戸の水

agua {de / del} pozo

water {of / of the} well

無冠詞の場合は井戸水, 定冠詞を伴う場合は特定の井戸の水を表す.

i. 雨の日

día de lluvia

day of rain

これらの多くの例で前置詞 **de** が使用される点では日本語の「の」との類似性があるだろう.¹⁰

(37)は2つの名詞の同格表現であるが, 前置詞を介さない.

(37)a. 妹の花子

¹⁰ 高垣(1990)「スペイン語前置詞句の連体機能について—スペイン語の”de”と日本語の「の」を中心に—」京都産業大学論集 19-3, 外国語と外国文学系列 17, 158-197.

mi hermana Hanako

my sister Hanako

b. 社長の田中さん

el presidente Tanaka

the president Tanaka

(38) となりの家の友達のお父さんの車のタイヤ (が昨日突然パンクしたんだって.)

los neumáticos del coche del vecino de al lado (se le pincharon de repente ayer)

the tires of the car of the neighbor next-door

?los neumáticos del coche del padre del amigo de la casa de al lado

the tires of the car of the father of the friend of the house next-door

ともに de で修飾を繰り返す。日本語とは要素の修飾関係が逆で、補足部である修飾句が主要部に後続する。2番目の訳例は「理論的にはありうるが、不自然」(teóricamente sí, pero forzada)であるという母語話者の判断が見られた。de 句の繰り返しは上の訳例のように3回ぐらいまでが許容範囲といえるのであろう。

フィンランド語

坂田 晴奈, 高橋 健太郎

1. コンサルタント情報

コンサルタントは以下の2名に協力してもらった。

①2.1 例文(1)~2.4 例文(25)まで

氏名: Malla Mäkinen (マッラ・マキネン)

性別: 女性

生年月日: 1986年02月08日

出身地: フィンランド・ヘルシンキ (Finland, Helsinki)

母語: フィンランド語ヘルシンキ方言

②2.5 例文(1)~(38)まで

氏名: Pyry Kontio (プル・コンティオ)

性別: 男性

生年月日: 1988年11月06日

出身地: フィンランド・シポオ (Finland, Sipoo)

母語: フィンランド語ヘルシンキ方言

なお調査とグロス付けは基本的にまず高橋が全体的に行い、しかるのちに坂田がグロスを中心にチェックした。その後相談の上修正・改訂を行って本稿を作成したものである。

2. 調査結果

この節では調査の結果を示す。グロスに関しては Hakulinen 他(2004)の術語を参考にした。

グロス中のフィンランド語の英語訳はインターネット上の辞書“MOT” (<http://www.kielikone.fi>) のフィンランド語・英語辞書を参照した。

2.1. 存在・所有表現

(1) 「あの人は青い目をしている。 / 青い目の人 / 目が青い人」

Häne-llä	on	sinise-t	silmä-t.
3.SGPRO-ADE	BE.3.SG.PRES	BLUE-PL.NOM	EYE-PL.NOM

/sini=silmäinen	ihminen-ø
BLUE=WITHEYE	PERSON-NOM

/ihminen	jo-lla	on	sinise-t	silmä-t
PERSON	REL-ADE	BE.3.SG.PRES	BLUE-PL.NOM	EYE-PL.NOM

- (2) 「あの女 {は／の} 髪が長い・あの女は長い髪をしている／長い髪の女／髪の長い女」

Häne-llä	on	pitkä-t	hiukse-t.
3.SGPRO-ADE	BE.3.SG.PRES	LONG-PL.NOM	HAIR-PL.NOM

/pitkä=tukkainen	nainen-ø
LONG=WITH HAIR	WOMAN-NOM

/nainen	jo-lla	on	pitkä-ø	tukka-ø.
WOMAN	REL-ADE	BE.3.SG.PRES	LONG-NOM	HAIR-NOM

- (3) 「あの人には髭がある. /髭の男」

Häne-llä	on	parta-ø.	/	parrakas	mies-ø
3.SGPRO-ADE	BE.3.SG.PRES	BEARD.NOM	/	WITH BEARD	MAN-NOM

形容詞 parrakas 「髭のある」のように, -kas で終わる形容詞は「～持ちの」という意味を持つ.

- (4) 「あの人には (見る) 目がある. /見る目のある人」

Häne-llä	on	hyvä	arviointi=kyky-ø
3.SGPRO-ADE	BE.3.SG.PRES	GOOD-NOM	EVALUATION=ABILITY-NOM

/ihminen	jo-lla	on	hyvä-ø	arviointi=kyky-ø
PERSON	REL-ADE	BE.3.SG.PRES	GOOD-NOM	EVALUATION=ABILITY-NOM

- (5) 「あの人は 22 歳だ.」

a: Hän-ø on 22-vuotias.
3.SGPRO-NOM BE.3.SG.PRES 22 YEARS OLD.NOM

b: Hän-ø on 22 vuo-tta.
3.SGPRO-NOM BE.3.SG.PRES 22 YEAR-PART

a と b ではニュアンスの違いはほとんど見られない.

「22 歳の人」

22 vuotias	mies-ø	/	nainen-ø
22 YEAS OLD	MAN-NOM	/	WOMAN-NOM

- (6) 「あの人は優しい性格だ. /優しい性格の人」

Hän-ø	on	{kiltti	luontee-lta-an	/	mukava
3.SGPRO-NOM	BE.3SG.PRES	KIND	NATURE-ABL-3.POSS	/	NICE

ihminen-ø}.
PERSON-NOM

- (7) 「あの人は背が高い。／背の高い人」

Hän-ø on {pitkä / pitkä ihminen-ø}.
 3.SGPRO-NOM BE.3.SG.PRES LONG / LONG PERSON-NOM

- (8) 「あの人は背が 192 センチもある」

Hän-ø on {192-senttinen / 192
 3.SGPRO-NOM BE.3.SG.PRES 192 CENTIMETRE / 192

sentti-ä pitkä}.
 CENTIMETRE-PART LONG

- (9) 「その石は四角い形をしている。／四角い (形の) 石」

{Se/Tuo} kivi-ø on
 IT/THAT STONE-NOM BE.3.SG.NOM

{neliskanttinen/neliskulmainen}.
 SQUARE

- (10) 「あの人には才能がある。」

a: Hän-ellä on lahjo-j-a.
 3.SGPRO-ADE BE.3.SG.PRES GIFT-PL-PART

b: Hän on lahjakas.
 3.SG.NOM BE.3.SG.PRES WITH GIFT

強いて言えば a の文には「彼には才能はある」というニュアンスがあり、b の文には「彼には才能がある」というニュアンスがある。ただし二つの文が全く同じニュアンスで使われることもある。

「才能のある人」

lahjakas ihminen-ø
 WITH GIFT PERSON-NOM

- (11) 「あの人は病気だ。」

Hän-ø on kipeä.
 3.SGPRO-NOM BE.3.SG.PRES SICK

「あの人は熱がある。」

Hän-ellä on kuume-tta.
 3.SGPRO-ADE BE.3.SG.PRES FEVER-PART

「病気の人」
 sairas(kipeä) ihminen-ø
 SICK PERSON-NOM

(12) 「あの人は青い服を着ている。／青い服の男」

Häne-llä on sinise-t vaatee-t.
 3.SGPRO-ADE BE.3.SGPRES BLUE-PL CLOTHES-PL
 /{sinis-i-in pukeutu-nut / sini=vaatteinen} mies-ø
 BLUE-PL-ILL DRESS-NUTP / BLUE=WITH CLOTHES MAN-NOM

(13) 「あの人はメガネをかけている。」

a: Häne-llä on silmälasit.
 3.SGPRO-ADE BE.3.SGPRES GLASSES-PL.NOM

b: Hän-ø käyttä-ä lase-j-a.
 3.SGPRO-NOM USE-3.SGPRES GLASSES-PL-PART

例文 a は客観的に述べる時に用いる。例文 b は習慣的にいつも眼鏡をかけていることを表す時に用いる。

「メガネの男」
 silmälasipäinen mies-ø
 WITH GLASSES MAN-NOM

(14) 「あの人には妻／夫がいる。」

Hän-ø on naimisissa.
 3.SGPRO-NOM BE.3.SGPRES MARRIED

この例文を直訳すると「彼(彼女)は結婚している」となる。

「既婚の人・妻/夫のいる人」
 naimisissa ole-va {mies-ø/nainen-ø}
 MARRIED BE-VAP MAN-NOM/WOMAN-NOM

(15) 「あの人には3人子供がいる。」

Häne-llä on kolme las-ta.
 3.SGPRO-ADE BE.3.SGPRES THREE CHILD-PART

「3人の子持ちの父親」

Kolme-n lapse-n isä-ø
 THREE-GEN CHILD-GEN FATHER-NOM

「妊娠している女性」

Raskaa-na ole-va nainen-ø
 PREGNANT-ESS BE-VAP WOMAN-NOM

- (16) 「タコには足が八本ある。」

Mustekalo-i-lla on kahdeksan lonkero-a.
 OCTOPUS-PL-ADE BE.3.SG.PRES EIGHT TENTACLE-PART

- (17) 「その飲み物にはアルコールが入っている。」

{Siinä / Tuossa} juoma-ssa on alkoholi-a.
 IT.INE / THAT.INE DRINK-INE BE.3.SG.PRES ALCOHOL-PART

「アルコール入りの飲み物」

alkoholillinen juoma
 WITHALCOHOL DRINK

- (18) 「あの人はお金を持っている。」

Häne-llä on raha-a.
 3.SG.PRO-ADE BE.3.SG.PRES MONEY-PART

「お金持ちの人」

rikas ihminen-ø
 WITHMONEY PERSON-NOM

- (19) 「あなたのところには犬がいるか？／犬のいる人」

On-ko tei-llä koira-a? / koira-n=omistaja-ø
 BE.3.SG.PRES-Q 2.PL.PRO-ADE DOG-PART / DOG-GEN=OWNER-NOM

- (20) 「おまえは（自分の）ペンを持っているか？」

On-ko sinu-lla kynä-ä?
 BE.3.SG.PRES-Q 2.SG.PRO-ADE PEN-PART

「ペンを持っている人」

ihminen-ø, jo-lla on kynä-ø
 PERSON-NOM REL-ADE BE.3.SG.PRES PEN-NOM

(21) 「おまえは (誰か別の人の) ペンを持っているか?」

On-ko	sinu-lla	kynä-ä	(laina-ta)?
BE.3.SG.PRES-Q	2.SG.PRO-ADE	PEN-PART	BORROW-AINF

(22) 「あの人は運がいい. / 幸運な人」

a: Häne-llä käy-ø tuuri-ø.
3.SG.PRO-ADE VISIT-3.SG.PRES FORTUNE-NOM

b: Hän-ø on onnekas.
3.SG.PRO-NOM BE.3.SG.PRES LUCKY

c: Häne-llä on hyvä tuuri-ø.
3.SG.PRO-ADE BE.3.SG.PRES GOOD FORTUNE-NOM

a の文には「自分の意志に関わらず幸運が舞い込む」のようなニュアンスがあり, b の文には「彼は運という性質を持っている」というニュアンスがある. そして c の文は b の文に近い.

(23) 「ここは石が多い. / 石の多い土地」

Tämä-ø	on	kivinen	paikka-ø.
THIS-NOM	BE.3.SG.PRES	ROCKY	PLACE-NOM

(24) 「その部屋には椅子が3つある。」

Siinä	huonee-ssa	on	3	tuoli-a.
IT.INE	ROOM-INE	BE.3.SG.PRES	THREE	CHAIR-PART

「3つ椅子のある部屋」

huone-ø,	jo-ssa	on	3	tuoli-a
ROOM-NOM	REL-INE	BE.3.SG.PRES	THREE	CHAIR-PART

(25) 「テーブルの上にスプーンがある。」

Pöydä-llä	on	lusikka-ø.
TABLE-ADE	BE.3.SG.PRES	SPOON-NOM

「スプーンのあるテーブル」

pöytä-ø,	jo-lla	on	lusikka-ø
TABLE-NOM	REL-ADE	BE.3.SG.PRES	SPOON-NOM

(26) 「そのスプーンはテーブルの上にある。」

Se	lusikka-ø	on	pöydä-llä.
IT	SPOON-NOM	BE.3.SG.PRES	TABLE-ADE

「テーブルにあるスプーン」

lusikka-ø, joka on pöydä-llä
 SPOON-NOM REL.NOM BE.3.SG.PRES TABLE-ADE

「(その)スプーンのあるテーブル」

pöytä-ø, jo-lla (se) lusikka-ø on
 TABLE-NOM REL-ADE IT SPOON-NOM BE.3.SG.PRES

(27) 「そのペンは私のだ。」

Tuo kynä-ø on minu-n.
 THAT PEN-NOM BE.3.SG.PRES 1.SG.PRO-GEN

「そのペンは Pekka のだ。」

Tuo kynä-ø on Peka-n.
 THAT PEN-NOM BE.3.SG.PRES Pekka.PN-GEN

(28) 「昨日、学校で火事があった。」

Eilen koulu-ssa ol-i-ø tulipalo-ø.
 YESTERDAY SCHOOL-INE BE-IMP-3.SG FIRE-NOM

「私は明日用事があります。」

Minu-lla on huomenna vähän homm-i-a.
 1.SG.PRO-ADE BE.3.SG.PRES TOMORROW ALITTLE JOB-PL-PART

(29) 「(この世には) お化けなんていない。」

a: Kummituks-i-a ei ole ole-ma-ssa.
 GHOST-PL-PART NEG3.SG BE BE-MAINF-INE

b: Ei kummituks-i-a ole ole-ma-ssa.
 NEG3.SG GHOST-PL-PART BE BE-MAINF-INE

a は淡々と述べるニュアンスがあり, b は話し言葉の中で使われる表現である。

(30) 「(そこには) 英語を話す人もいるが, 話さない人もいる。」

Jotkut sie-llä puhu-vat englanti-a,
 SOMEONE.PL.NOM IT-ADE SPEAK-3.PL.PRES ENGLISH-PART

mutta toise-t eivät.
 BUT OTHER-PL.NOM NEG3.PL

(31) 「私より英語ができる人は (ほかに/もっと) います。」

On	ihmis-i-ä,	jotka	puhu-vat
BE.SG.PRES	PERSON-PL-PART	REL.PL.NOM	SPEAK-3.PL.PRES
paljon	paremmin-kin	englanti-a,	kuin minä-ø.
MUCH	BETTER-FP	ENGLISH-PART	AS 1.SG.PRO-NOM

(32) 「ちょっとあなたにお願いがあります。」

Minu-lla	ol-isi-ø	pieni	pyyntö-ø.
1.SG.PRO-ADE	BE-CON-3.SG	SMALL	REQUEST-NOM

(33) 「冬の雨」

Talvinen	sade-ø
WINTRY	RAIN-NOM

「東京の家」

Tokio-ssa	ole-va	talo-ø
Tokyo.PN-INE	BE-VAP	HOUSE-NOM

(34) 「彼の泳ぎ」

Häne-n	ui-mise-nsa
3.SG.PRO-GEN	SWIM-VS-NOM.3.POSS

「犬の鳴き声」

koira-n	ulvonta-ø
DOG-GEN	HOWL-NOM

「火山の爆発」

tulivuore-n	purkautu-minen-ø
VOLCANO-GEN	ERUPT-VS-NOM

「車の運転」

auto-n	aja-minen -ø
CAR-GEN	DRIVE-VS-NOM

「Aleksis Kivi の小説」

Aleksis Kive-n	romaani-ø
Aleksis Kivi.PN-GEN	NOVEL-NOM

(35) 「Pekka さんのお母さん」

Peka-n äiti- \emptyset
 Pekka.PN-GEN MOTHER-NOM

「机の横に」

pöydä-n viere-ssä
 TABLE-GEN NEXT-INE

「机の前に」

pöydä-n ede-ssä
 TABLE-GEN FRONT-INE

「*机に (来て!)」

pöydä-n luo
 TABLE-GEN TO

「あの人の次」

häne-stä seuraava
 3.SGPRO-ELA NEXT

(36) 「バラの花びら」

ruusu-n terälehti- \emptyset
 ROSE-GEN PETAL-NOM

「果物のナイフ」

hedelmä=veitsi- \emptyset
 FRUIT=KNIFE-NOM

「紙の飛行機」

paperi=lennokki- \emptyset
 PAPER=PLANE-NOM

「チューリップの絵」

kuva- \emptyset tulppaani-sta
 PICTURE-NOM TULIP-ELA

「花の匂い」

kuka-n tuoksu- \emptyset
 FLOWER-GEN SCENT-NOM

「英文の手紙」
 englanni-n=kielinen kirje-ø
 ENGLISH-GEN=IN LANGUAGE LETTER-NOM

kielinen は形容詞である.

「日本語の先生」
 japani-n=opettaja-ø
 JAPANESE-GEN=TEACHER-NOM

「井戸の水」
 kaivo-n vesi-ø
 WELL-GEN WATER-NOM

「雨の日」
 {säteinen päivä-ø / sade=päivä-ø }
 RAINY DAY-NOM / RAIN=DAY-NOM

(37) 「妹の花子」
 sisko-ni Hanako-ø
 SISTER-NOM.1.SG.POSS Hanako.PN-NOM

「社長の田中さん」
 johtaja-ø Tanaka-ø
 MANAGER-NOM Tanaka.PN-NOM

同格は並列して表現される.

(38) 「となりの家の友達のお母さんの車のタイヤ (が昨日突然パンクしたんだって.)」
 naapuri=talo-ssa asu-va-n kaveri-n äidi-n
 NEIGHBOR=HOUSE-INE LIVE-VAP-GEN FRIEND-GEN MOTHER-GEN
 auto-n=rengas-ø (kuulemma puhke-si-ø eilen
 CAR-GEN=TIRE-NOM I HEAR BURST-IMP-3.SG YESTERDAY
 yhtäkkiä.)
 SUDDENLY

kuulemma は副詞である.

略号一覧

グロスに関しては基本的に Hakulinen 他(2004)の術語とその日本語訳に従う(日本語訳は筆者による)。以下の略号一覧で括弧()で表記されたものはその他の文献等での呼称である。

分詞に関しては、AP「動作主分詞」、NUTp「NUT分詞」、TUp「TU分詞」、VAp「VA分詞」の4つのグロスをつけた。後3つのグロスはそれぞれ「能動過去分詞」「受動過去分詞」「現在分詞」のことである。文献によってはVA分詞をそれぞれ「能動現在分詞」(形式は-va/-vä)と「受動現在分詞」(形式は-ttava/-ttävä)に分けて記すものもあるが、ここでは Hakulinen 他(2004)に従いどちらも「現在分詞」としてグロスをつける。つまり本例文中においては「能動現在分詞」(-va/-vä)と「受動現在分詞」(-ttava/-ttävä)のグロスはどちらも VAp「現在分詞」とする。後者のグロスに関しては VAp だけでなく、PASS のグロスも一緒に用いて受動形であることを示す。

	English	Suomi	日本語
ABE	abessive	abessiivi	欠格
ABL	ablative	ablatiivi	奪格
ACC	accusative	akkusatiivi	対格
ADE	adessive	adessiivi	接格
AINF	A-infinitive	A-infinitiivi	A 不定詞(第1不定詞)
ALL	allative	allatiivi	向格
AP	agentive participle	agenttipartisiippi	動作主分詞
CAU	causative	kausatiivi	使役
CON	conditional	konditionaali	条件法
EINF	E-infinitive	E-infinitiivi	E 不定詞(第2不定詞)
ELA	elative	elatiivi	出格
ESS	essive	essiivi	様格
FP	focus particle	fokuspartikkeli	焦点の小辞
GEN	genitive	genetiivi	属格
ILL	illative	illatiivi	入格
IMP	imperfect	imperfekti	未完了
IMPE	imperative	imperatiivi	命令
INE	inessive	inessiivi	内格
MAINF	MA-infinitive	MA-infinitiivi	MA 不定詞(第3不定詞)
NEG	negative	negatiivi	否定
NOM	nominative	nominatiivi	主格
NUTp	NUT-participle	NUT-partisiippi	NUT 分詞(能動過去分詞)
PART	partitive	partitiivi	分格
PASS	passive	passiivi	受動
PL	plural	monikko	複数
PN	proper noun	erisnimi	固有名詞
POSS	possesive	possessiivi	所有

POT	potential	potentiaali	可能法
PRES	present	preesens	現在
PRO	pronoun	pronomini	代名詞
Q	question	kysymys	疑問
REL	relative	relatiivi	関係詞
SG	singular	yksikkö	単数
TP	tone particle	sävyartikkeli	語気を表す小辞
TRA	translative	translatiivi	変格
TUP	TU-participle	TU-partisiippi	TU 分詞(受動過去分詞)
VAP	VA-participle	VA-partisiippi	VA 分詞(現在分詞)
VS	Verbal substantive	Verbaalisubstantiivi	動名詞
1	1 st person	1. persoona	1 人称
2	2 nd person	2. persoona	2 人称
3	3 rd person	3. persoona	3 人称
-			形態素境界
=			複合語境界

参考文献

Hakulinen, Auli, Maria Vilkuna, Riitta Korhonen, Vesa Koivisto, Tarja Riitta Heinonen, Irja Alho (2004)
Iso suomen kielioppi. Helsinki: Suomalaisen Kirjallisuuden Seura.

参考資料

MOT フィンランド語・英語辞書 <http://www.kielikone.fi>

ロシア語

阿出川 修嘉, KOSTYRKIN Alexander

I. はじめに

以下本稿では、まずこの節(「I. はじめに」)で、今回のアンケートへの回答に際しての留意事項を述べ、また現代ロシア語¹における存在及び所有の表現について概観する。続く次節(「II. 言語データ(アンケートへの回答)」)で、今回事前に示された、38項目の日本語文に対応するロシア語を提示する。

1. 本アンケートへの回答について

本アンケートへの回答を準備するにあたり留意した点、また以下の本文における留意点などは以下の通りである。

アンケートで与えられた日本語文が、文脈などに応じて複数の解釈を許容すると考えられる場合には、極力全てのケースをカバー出来るように配慮した。

次節で示す訳文には、必要に応じて適宜コメントを付してある。また、ロシア語文のバリエーション間の差異については、それぞれのコメント内で極力明らかにするように努めた。

また、以下に挙げるロシア語文にはグロスを付してある。その際用いている、各種の文法的カテゴリーに対する略号は、原則として *Leipzig Glossing Rules* の略号になっている²。

以下に挙げるロシア語文については、与えられた日本語をもとに Kostyrkin, 阿出川の双方がそれぞれ作成した訳文を検討、意見の交換をした上で最終的な訳文を確定するという手順を踏んでいる。何らかの不備や誤りなどがあれば、読者諸氏の御指摘を頂ければ幸いである。

¹ 以下単に「ロシア語」とする。

² *Leipzig Glossing Rules* については以下の URL を参照されたい：

<http://www.eva.mpg.de/lingua/resources/glossing-rules.php>

本稿で用いている具体的な略号は以下に示す通り。なお、下では、括弧内に日本のロシア語学界で広く受け入れられている術語を示してある：

1 : 1人称, 2 : 2人称, 3 : 3人称, ACC : 対格, ADJ : 形容詞, ADV : 副詞, DAT : 与格, F : 女性, FUT : 未来形, GEN : 属格(生格), IMP : 命令形, INS : 具格(造格), IPFV : 不完了相(不完了体), LOC : 所格(前置格, 前置詞格), M : 男性, N : 中性, NOM : 主格, PFV : 完了相(完了体), PL : 複数, PRS : 現在形, PST : 過去形, PTCP : 分詞(形動詞), REL : 関係詞, SG : 単数

2. ロシア語における存在・所有の表現³

2.1. 基本的な構文：「存在」の表現

ロシア語における，事物の「存在」を表す表現は，主語にあたる名詞の主格と連辞（及びそれに類する動詞）によって構成される．必要に応じてその事物が存在する「場所」を表す副詞（句）が添えられる．

ロシア語の連辞 **быть** は，現在時制の場合，通常省略される（下例 a）：

- a) Письмо в ящике. 手紙は箱の中にあります.
Letter-SG-NOM in box-SG-LOC

過去時制の場合には，文法上の主語の性と数に形態を合わせる（下例 a'）．未来時制の場合には，主語の人称と数に形態を一致させる（同 a"）．

- a') Письмо было в ящике. 手紙は箱の中になりました.
Letter-N-SG-NOM be-PST-3SG-N in box-SG-LOC

- a") Письмо будет в ящике. 手紙は箱の中にあるでしょう
Letter-SG-NOM be-FUT-3SG in box-SG-LOC (入れられるでしょう).

また，場合により，連辞ではなく，存在や位置の意味を表す動詞が用いられることもある⁴．

2.2. 基本的な構文：「所有」の表現

一方，「所有」の表現は，上の存在の表現を応用したもので，最も典型的な構文では，「前置詞 y+名詞（属格）」という前置詞句で所有者を表示し，名詞の主格によって被所有物を表すという構文を取る：

³ この項を執筆するにあたり，参考にした文献は以下のものである：

Н.Д. Арутюнова, Е.Н. Ширяев. 1983. Русское предложение: бытийный тип. Москва: Русский язык.

А.В. Бондарко и др. 1996. Теория функциональной грамматики: Локативность. Бытийность. Посессивность. Обусловленность. СПб: Наука.

⁴ 存在を表す動詞（экзистенциальные глаголы）としては，他に находиться, существовать, иметься などがある．位置を表す動詞（позиционные глаголы）としては，主語となる名詞で表される事物の形状・様態などに応じて，стоять（立っている），сидеть（座っている），лежать（横たわっている），висеть（掛かっている）などが用いられる．

b) У него есть машина. 彼は車を持っている。
 by he-GEN be-PRS car-SG-NOM

存在の表現の場合と同様、文法上の主語に応じた連辞の諸変化形により、過去時制（下例 b'）、未来時制（下例 b''）の表現を行なう：

b') У него была машина. 彼は車を持っていた。
 by he-GEN be-PST-3SG-F car-F-SG-NOM

b'') У него будет машина. 彼は車を持つでしょう。
 by he-GEN be-FUT-3SG car-SG-NOM

この構文は、上に示したような文字通りの物の「所有」関係ばかりではなく、いわゆる「分離不能な物の所有関係 (отношение неотторжимой принадлежности)」の表現の場合でも用いられる (A.V. Бондарко и др. 1996: 102)。すなわち：

- ① 身体部分：У него были усы. (彼はひげを生やしていた。)
- ② 人：У меня есть брат. (私には兄がいる。)
- ③ 性質、特性、特徴、内的状態：У мальчика есть талант. (この男の子は才能がある。)
- ④ 出来事などを表す名詞：У соседей несчастье. (お隣さんに不幸があった。)

これらの名詞も被所有物として表すことが出来る（それぞれ以下に示す言語データも参照のこと）。

これに対して、英語の have に対応すると考えられる動詞としては、иметь (持っている)、обладать (所有している)、владеть (同) などがあるが、これは上で述べたような、日常的な所有表現としては用いず、特定の補語 (目的語) を伴って用いられ⁵、文体上、あるいは

⁵ 主に抽象名詞とともに用いられる。それぞれの動詞と結び付くことの多い補語の例としては以下のようなものが挙げられる：

иметь:

право (権利), значение (意味, 意義), возможность (可能性), преимущество (長所), связь (関係), статус (地位), успех (成功)

обладать:

способность (能力), свойство (性質), знание (知識), сила (力), право (権利), возможность (可能性), качество (性質), чувство (感情), потенциал (潜在能力, ポテンシャル), опыт (経験), талант (天賦の才能), власть (権力), ресурс (資源, リソース), преимущество (長所)

語法上の制約がある (cf. A.V. Бондарко и др. 1996: 105-109).

2.3. その他の「所有」の表現：属性を表す場合

所有の表現のひとつと言える、属性を表す表現としては、以下のようなものがある（下線を引いた語がそれぞれに対応する語）：

- ① 所有代名詞 (мой, твой, наш, ваш; его, её, их)⁶, 再帰代名詞 (свой 自分の) :

мой дом 私の家
 my-SG-M-NOM house-M-SG-NOM

- ② 物主形容詞⁷ (отцов 父の, мамин 母さんの など) :

Асина книга アーシャの本
 Asja's-ADJ-SG-F-NOM book-F-SG-NOM

- ③ 名詞の属格 :

голова мужчины 男の頭
 head-SG-NOM man-SG-GEN

крыша дома 家の屋根
 roof-SG-NOM house-SG-GEN

владеть:

тайна (秘密), способ (方法), метод (方法)

⁶ 「所有代名詞 (притяжательные местоимения)」と人称代名詞 (личные местоимения) は以下のような対応関係にある (下表に挙げたものは全て主格で示してある) :

人称	文法性	単数		複数	
		人称代名詞	所有代名詞	人称代名詞	所有代名詞
一人称	—	я	мой	мы	наш
二人称	—	ты	твой	вы	ваш
三人称	男性	он	его	они	их
	中性	оно			
	女性	она	её		

⁷ 「物主形容詞 (притяжательные прилагательные)」は、人もしくは動物への所有・帰属の関係を表すのに特化されたものである。男性名詞, 女性名詞から比較的自由に形成されるが, 通常の形容詞とは異なる語尾 (-ов, -ин) を有している点で特徴を異にしている。

④ 一部の形容詞⁸：

<u>усатый</u>	мужчина	ひげの男
moustached-SG-M-NOM	man-M-SG-NOM	

II. 言語データ (アンケートへの回答)

1. あの人は青い目をしている。／青い目の人・目が青い人

(1-a) あの人は青い目をしている。

У	него	голубые	глаза.
by	he-GEN	blue-PL-NOM	eye-PL-NOM

所有の表現に準じた構文を用いて表現する。なお have に対応すると考えられる動詞 (иметь, обладать) を用いた表現 (*Он имеет голубые глаза. / *Он обладает голубыми глазами.) は不可能である⁹。

(1-b) 青い目の人・目が青い人

前置詞句を用いて表すケース (下例 1-b-1) と、形容詞を用いて表すケース (下例 1-b-2) の双方が可能である：

(1-b-1)	человек	с	голубыми	глазами
	person	with	blue-PL-INS	eye-PL-INS

(1-b-2)	голубоглазый	человек
	blue-eyed-SG-M-NOM	person-M-SG-NOM

2. あの女 {は／の} 髪が長い・あの女は長い髪をしている／長い髪の女・髪の長い女

(2-a-1) (今話頭に上っている) あの女は髪が長い。

У	неё	длинные	волосы.
by	she-GEN	long-PL-NOM	hair-PL-NOM

⁸ これらの形容詞には、被所有物がもとになって派生した、「-ат-」、「-аст-」、「-ист-」といった接辞を持つ形容詞 (горбатый, зубастый, плечистый など) や、接頭辞 без- (бес-) を持つ一部の形容詞 (безрукий など) がある (A.V. Бондарко и др. 1996: 104).

⁹ 例文の文頭に付する「*」印は、慣習に従い、当該文が文として成立しないということを表す。同様に、「?」を付してある場合には、当該文の正当性が疑わしい場合を示す。

(2-a-2) (こっちの女ではなく) あの女の髪が長い.

(2-a-2-1) Волосы длинные у неё.
Hair-PL-NOM long-PL-NOM by she-GEN

(2-a-2-2) Волосы у этой женщины длинные.
Hair-PL-NOM by this-SG-F-GEN lady-F-SG-GEN long-PL-NOM

(2-b) あの女は長い髪をしている.

У «неё [этой женщины]¹⁰ длинные волосы.
by «she-GEN [this-SG-F-GEN lady-F-SG-GEN] long-PL-NOM hair-PL-NOM

(2-c) 長い髪の女・髪の長い女

(2-c-1) женщина с длинными волосами
lady-SG-NOM with long-PL-INS hair-PL-INS

(2-c-2) длинноволосая женщина
long-haired-SG-F-NOM lady-F-SG-NOM

先の「目の色」の場合と同様に、前置詞句、あるいは形容詞を用いて表現する。

この場合にも、動詞を用いた文 (*Она имеет длинные волосы; *Она обладает длинным волосами.) は事実上不可能。

3. あの人には髭がある。／髭の男

(3-a) あの人には髭がある。

(3-a-1)

У «него [этого человека] есть «усы [борода].
by «he-GEN [this-SG-M-GEN person-M-GEN] be-PRS «moustache-PL-NOM [beard-SG-NOM]

¹⁰ 以下、例文中で、角括弧 ([]) と丸括弧を用いることがある。原則として、角括弧は、言い換え可能なバリエーションを示す場合に用いている。その際、「始めかぎ括弧 (「) 」を、言い換える部分の最初の語の左側に付して、言い換え可能な部分の開始点を示す(ただし、行頭の語から言い換えが可能な場合には省略してある)。角括弧内に示すバリエーションには、語義が異なっている場合と、類義語を示している場合があるが、適宜グロスを参照されたい。また、丸括弧は、省略可能な語句を示すのに用いている。

(3-a-2)

Он [Этот человек] носит [усы [бороду].
 he-NOM [this-SG-M-NOM person-M-NOM] wear-IPFV-3SG-PRS [moustache-PL-ACC [beard-SG-ACC]

先の例と同様に、動詞「иметь」や「обладать」を用いた例 (?Он имеет [усы [бороду]; ?Он обладает [усами [бородой].) は極めて疑わしい。

(3-b) 髭の男

(3-b-1) мужчина с [усами [бородой]
 man-SG-NOM with [moustache-PL-INS [beard-SG-INS]

(3-b-2) уса́тый [борода́тый] мужчина
 moustached-SG-M-NOM [bearded-SG-M-NOM] man-M-SG-NOM

上の「目の色」、「髪の色」の場合と同様に、前置詞句あるいは形容詞を用いて表現する。

4. あの人には (見る) 目がある。 / 見る目のある人

(4-a) あの人には (見る) 目がある。

Он проницательный человек.
 he-NOM perspicacious-SG-M-NOM person-M-SG-NOM

(4-b) 見る目のある人

проницательный человек.
 perspicacious-SG-M-NOM person-M-SG-NOM

いずれの場合にも、日本語の「目」に対応する語 (例えば глаза) は用いた表現はできない。字句通りの翻訳を試みて、所有の表現の形式に倣った言い方、例えば「*У него глаза。」というような文は意味を成さない¹¹。

同様に、他の身体部位を表す名詞 (「голова (頭)」、「рука (手, 腕)」、「нога (足)」、「уши (耳)」、「рот (口)」、「плечи (肩)」など) あるいは心、精神を意味する「душа」、「сердце」などを用いた場合でも、意味を成す表現は存在しない。ただし、いくつかの名詞では、修

¹¹ あるいは、「Он умеет оценивать вещи.」といった訳も考えうるだろうが、この場合の意味は「(職業・資格上の能力として) ものを見立てる能力がある」という意味になるため、ここでは意味がずれる。

飾語（定語）を伴えば意味を成すケースはある¹².

5. あの人は22歳だ. / 22歳の人

(5-a) あの人は22歳だ.

Ему	22	года.
he-DAT	22-NOM	year-SG-GEN

年齢を表す表現は、名詞・人称代名詞の与格（上例では「Ему」）で主体を表し、数詞の主格を用いて具体的な年齢を表す。

(5-b) 22歳の人

(5-b-1)	двадцатидвухлетний [22-летний]	человек
	22_year_old-SG-M-NOM	person-M-SG-NOM

(5-b-2)	человек	в	возрасте	22-х	лет
	person-SG-NOM	in	age-SG-LOC	22-GEN	year-PL-GEN

数詞から形容詞を形成するという方法（上例 5-b-1）、また、前置詞句を組み合わせた表現（上例 5-b-2）が用いられる。

6. あの人は優しい性格だ. / 優しい性格の人

(6-a) あの人は優しい性格だ.

У	него	「мягкий [добрый]	характер.
by	he-GEN	gentle-SG-M-NOM	character-M-SG-NOM

所有の表現に準じた表現をする¹³.

¹² 例えば「У него [добрая душа [доброе сердце]. (彼は善良な人だ.)」などのような、提喻（換喩）的表現は可能である。また、кровь（血）を用いて「У него кровь.」とすると、「彼は出血している。」の意味になる。

¹³ 述語として属格（例えば「доброго характера」）を用いる表現（例えば「?Он доброго характера.」）は、現代語では極めてまれか、疑わしい。同様に、動詞を用いた「*Он носит добрый характер.」のような文も、ここでの例文のように、人を主語としているような場合には不可能。

(6-b) 優しい性格の人

(6-b-1) человек «мягкого [доброго] характера
 person-SG-NOM gentle-SG-M-GEN character-M-SG-GEN

(6-b-2) человек с «мягким [добрым] характером
 person-SG-NOM with gentle-SG-M-INS character-M-SG-INS

7. あの人は背が高い。／背の高い人

(7-a) あの人は背が高い。

Он высокого роста.
 he-NOM tall-SG-M-GEN height-M-SG-GEN

(7-b) 背の高い人

(7-b-1) высокий человек
 tall-SG-M-NOM person-M-SG-NOM

(7-b-2) человек высокого роста
 person-SG-NOM tall-SG-M-GEN height-M-SG-GEN

8. あの人は背が 190 センチもある。

(8-1)

Его рост целых 190 сантиметров.
 his-SG-NOM height-M-SG-NOM whole-PL-GEN 190-NOM centimeter-PL-GEN

(8-2)

У него рост целых 190 сантиметров.
 by he-SG-GEN height-SG-M-NOM whole-PL-GEN 190-NOM centimeter-PL-GEN

9. その石は四角い形をしている。／四角い（形の）石

(9-a) その石は四角い形をしている。

(9-a-1) У этого камня прямоугольная форма.
 by this-SG-M-GEN stone-M-SG-GEN rectangular-SG-F-NOM form-F-SG-NOM

(9-a-2) Этот камень имеет квадратную форму.
 this-SG-M-NOM stone-M-SG-NOM have-IPFV-PRS-3SG rectangular-SG-F-ACC form-F-SG-ACC

(9-b) 四角い (形の) 石

прямоугольный [четырёхугольный]	камень
rectangular-SG-M-NOM	stone-M-SG-NOM

10. あの人には才能がある。 / 才能のある人

(10-a) あの人には才能がある。

(10-a-1)	У	него	есть	「talant [способности].
	by	he-GEN	be-PRS	「talent-SG-NOM [ability-PL-NOM]

(10-a-2)	Он	имеет	「talant [способности].
	he-SG-NOM	have-IPFV-PRS-3SG	「talent-SG-ACC [ability-PL-ACC]

(10-a-3)	Он	обладает	「talantom [способностями].
	he-SG-NOM	possess-IPFV-PRS-3SG	「talent-SG-INS [ability-PL-INS]

(10-b) 才能のある人

(10-b-1)	человек	с	talantom
	person-SG-NOM	with	talent-SG-INS

(10-b-2)	talantlivyy	человек
	talented-SG-M-NOM	person-M-SG-NOM

11. あ的那个人は病気がだ。 / あ的那个人は熱がある。 / 病気が那个人

(11-a) あ的那个人は病気がだ。

(11-a-1)	Он	болен.	/	Она	больна.
	he-SG-NOM	ill-SG-M-NOM	/	she-SG-NOM	ill-SG-F-NOM

(11-a-2)	Он [Она]	болеет.
	he [she]-SG-NOM	be_ill-PRS-3SG

(11-b) あ的那个人は熱がある。

У	「него [неё]	「температура [жар].
by	「he [she]-GEN	「temperature-SG-NOM [fever-SG-NOM]

(11-c) 病気の人

больной	человек
ill-SG-M-NOM	person-M-SG-NOM

12. あの人は青い服を着ている。 / 青い服の男

(12-a) あの人は青い服を着ている.

(12-a-1) あの人は (今日は) 青い服を着ている.

(12-a-1-1)	Он [Она]	в	синей	одежде.
	he [she]-SG-NOM	in	blue-SG-F-LOC	clothes-F-SG-LOC

(12-a-1-2)	На	「нём [ней]	синяя	одежда.
	on	「he [she]-SG-LOC	blue-SG-F-NOM	clothes-F-SG-NOM

(12-a-2) あの人は (いつも, 習慣として) 青い服を着ている.

Он [Она]	носит	синюю	одежду.
he [she]-SG-NOM	wear-IPFV-PRS-3SG	blue-SG-F-ACC	clothes-F-SG-ACC

(12-b) 青い服の男

(12-b-1)	человек	в	синей	одежде
	man-SG-NOM	in	blue-SG-F-LOC	clothes-F-SG-LOC

(12-b-2)	человек	в	синем
	man-SG-NOM	in	blue-SG-N-LOC

13. あの人はメガネをかけている。 / メガネの男

(13-a-1) (今話した) あの人は (今日は) メガネをかけている.

(13-a-1-1)	Он	в	очках.
	he-SG-NOM	in	glasses-PL-LOC

(13-a-1-2)	На	нём	очки.
	On	he-SG-LOC	glasses-PL-NOM

発話時点で観察される (一時的) 状態を表す場合.

(13-a-2) (習慣として普段) あの人はメガネをかけている.

Он	носит	очки.
he-NOM	wear-IPFV-PRS-3SG	glasses-PL-ACC

(13-b) メガネの男

мужчина	в	очках
man-SG-NOM	in	glasses-PL-LOC

14. あの人には妻がいる。 / 既婚の人・妻のいる人

(14-a-1) あの人には妻がいる.

(14-a-1-1)	У	него	есть	жена.
	by	he-SG-GEN	be-PRS	wife-SG-NOM

(14-a-1-2)	Он	женат.
	he-SG-NOM	married-SG-M-NOM

(14-a-2) あの人には夫がいる¹⁴.

(14-a-2-1)	У	неё	есть	муж.
	by	she-SG-GEN	be-PRS	husband-SG-NOM

(14-a-2-2)	Она	замужем.
	she-SG-NOM	married-ADV

(14-b) 既婚の人・妻のいる人

(14-b-1)	женатый	「мужчина [человек]
	married-SG-M-NOM	man-M-SG-NOM

(14-b-2)	замужняя	женщина
	married-SG-F-NOM	lady-F-SG-NOM

¹⁴ ロシア語においては、「結婚している」という表現に関して、男性が主語となっている場合と、女性が主語となっている場合とで、用いられる語彙（及びそれに応じて構文）が異なるので、ここでは筆者の判断で追加してある。

15. あの人には3人子供がいる。／3人の子持ちの人・あの人の3人の子供／妊娠している女性

(15-a) あの人には3人子供がいる。

(15-a-1) У «него [неё]» трое детей.
by «he [she]-SG-GEN» three-NOM child-PL-GEN

(15-a-2) Он [Она] имеет трёх детей.
he [she]-SG-NOM have-IPFV-PRS-3SG three-ACC child-PL-GEN

(15-b) 3人の子持ちの人

(15-b-1) человек, у которого трое детей
man-SG-NOM by who-SG-M-GEN three-NOM child-PL-GEN

(15-b-2) человек с тремя детьми
man-SG-NOM with three-INS child-PL-INS

(15-c) あの人の3人の子供

его [её] трое детей
his [her] three-NOM child-PL-GEN

(15-d) 妊娠している女性

беременная женщина
pregnant-SG-F-NOM woman-F-SG-NOM

16. タコには足が8本ある。

(16-a) У «осьминога [спрута]» восемь щупалец [ног].
by octopus-SG-GEN eight-NOM tentacle-PL-GEN

(16-b) Осьминог [Спрут] имеет 8 ног.
octopus-SG-GEN have-IPFV-PRS-3SG eight-ACC tentacle-PL-GEN

「足が八本ある」というような表現は、例えば机などの場合（「この机には足が八本ある」）には、「Этот стол на 8 ножках.」というような前置詞句（на 8 ножках）を用いた表現が可能である。しかし、ここでは（例えば「*Осьминог [Спрут] на 8 ногах.」のような文）不可。

17. その飲み物にはアルコールが入っている。／アルコール入りの飲み物

(17-a) その飲み物にはアルコールが入っている。

(17-a-1) В этом напитке есть алкоголь.
in this-SG-M-LOC drink-M-SG-LOC be-PRS alcohol-SG-NOM

(17-a-2) Этот напиток содержит алкоголь.
this-SG-M-NOM drink-M-SG-NOM contain-IPFV-PRS-3SG alcohol-SG-ACC

(17-b) アルコール入りの飲み物

алкогольный [алкоголесодержащий] напиток
alcoholic-SG-M-NOM drink-M-SG-NOM

この場合、具格を用いた表現 (напиток с алкоголем) はまれである。

18. あの人はお金を持っている。／お金持ちの人

(18-a) あの人はお金を持っている。

(18-a-1) У него [неё] есть деньги.
by 'he [she]-SG-GEN be-PRS money-PL-NOM

(18-a-2) Он богат [богач].
he-SG-NOM 'rich-SG-M-NOM [rich man-SG-NOM]

(18-a-3) Она богата [богачка].
she-SG-NOM 'rich-SG-F-NOM [rich woman-SG-NOM]

(18-b) お金持ちの人

(18-b-1) богатый человек
rich-SG-M-NOM man-M-SG-NOM

(18-b-2) человек при деньгах
man-SG-NOM near money-PL-LOC

「богач / богачка (金持ち)」という名詞を用いる表現もある (上例参照)。

19. おまえのところには犬がいるか？／犬のいる人

(19-a) おまえのところには犬がいるか？

У тебя есть собака?
 by you-SG-GEN be-PRS dog-SG-NOM

(19-b) 犬のいる人

(19-b-1) человек, у которого есть собака
 man-M-SG-NOM by who-REL-SG-M-GEN be-PRS dog-SG-NOM

(19-b-2) человек, который держит «собаку [собак]»
 man-M-SG-NOM who-SG-M-NOM hold-IPFV-PRS-3SG «dog-SG-ACC [dog-PL-ACC]»

20. おまえは（自分の）ペンを持っているか？／ペンを持っている人

(20-a) おまえは（自分の）ペンを持っているか？

У тебя есть (своя) ручка?
 by you-SG-GEN be-PRS (your_own-SG-F-NOM) pen-F-SG-NOM

(20-b) ペンを持っている人

(20-b-1) человек, у которого есть ручка
 man-M-SG-NOM by who-SG-M-NOM be-PRS pen-SG-NOM

(20-b-2) человек с ручкой (в руке)
 man-SG-NOM with pen-SG-INS (in hand-SG-LOC)

21. あの人は（誰か別の人の）ペンを持っている。

(21-1) У «него [неё]» есть (чья-то) ручка.
 by «he [she]-SG-GEN be-PRS (someone's-ADJ-SG-F-NOM) pen-F-SG-NOM

(21-2) У «него [неё]» есть чужая ручка.
 by «he [she]-SG-GEN be-PRS somebody_else's-ADJ-SG-F-NOM pen-F-SG-NOM

「別の人」にあたる名詞を属格にし、「ペン」の後に続ける表現（?У него [неё] есть ручка другого [чужого].）は、極めて不自然か事実上不可能。

22. あの人は運がいい。／幸運な人

(22-a) あの人は運がいい。

Ему [Ей] везёт.
 he [she]-DAT be_lucky-IPFV-PRS-3SG

(22-b) 幸運な人

удачливый [счастливый] человек
 lucky-SG-M-NOM man-M-SG-NOM

23. ここは石が多い. /石の多い土地

(23-a) ここは石が多い.

Здесь много 「камня [камней].
 here many-NOM 「stone-SG-GEN [stone-PL-GEN]

(23-b) 石の多い土地

каменистая земля
 stony-SG-F-NOM land-F-SG-NOM

24. その部屋には椅子が3つある. /3つ椅子のある部屋

(24-a) その部屋には椅子が3つある

В (этой) комнате (есть) три стула.
 in (this-SG-F-LOC) room-F-SG-LOC (be-PRS) three-NOM chair-SG-GEN

(24-b) 3つ椅子のある部屋

(24-b-1) комната с тремя стульями
 room-SG-NOM with three-INS chair-PL-INS

(24-b-2) комната, где (есть / стоят) 3 стула
 room-SG-NOM where-ADV (be-PRS / stand-PRS-3PL) three-NOM chair-SG-GEN

25. テーブルの上にスプーンがある. /スプーンのあるテーブル

(25-a) テーブルの上にスプーンがある.

(25-a-1) На столе 「есть [лежит] ложка.
 on table-SG-LOC 「be-PRS [lie-IPFV-PRS-3SG] spoon-SG-NOM

(25-a-1) На столе 「есть [лежат] ложки.
 on table-SG-LOC 「be-PRS [lie-IPFV-PRS-3PL] spoon-PL-NOM

(25-b) スプーンのあるテーブル

(25-b-1) стол, на котором лежат ложки
 table-M-SG-NOM on which-SG-M-LOC lie-IPFV-PRS-3PL spoon-PL-NOM

(25-b-2) стол, где лежит ложка
 table-SG-NOM where-REL-ADV lie-IPFV-PRS-3SG spoon-SG-NOM

「стол с ложкой」は不可.

26. そのスプーンはテーブルの上にある. / テーブルにあるスプーン

(26-a) そのスプーンはテーブルの上にある.

Эта ложка лежит на столе.
 this-SG-F-NOM spoon-F-SG-NOM lie-IPFV-PRS-3SG on table-SG-LOC

(26-b) テーブルにあるスプーン

ложка (, которая лежит) на столе
 spoon-F-SG-NOM (which-REL-SG-F-NOM lie-IPFV-PRS-3SG) on table-SG-LOC

27. そのペンは私のだ. / そのペンはマーシャのだ. / 私のペン・マーシャのペン¹⁵

(27-a) そのペンは私のだ.

(27-a-1) Эта [Ta] ручка — моя.
 this-SG-F-NOM [that-SG-F-NOM] pen-F-SG-NOM my-SG-F-NOM

(27-a-2) Эта [Ta] ручка принадлежит мне.
 this-SG-F-NOM [that-SG-F-NOM] pen-F-SG-NOM belong_to-IPFV-PRS-3SG me-1SG-DAT

(27-b) そのペンはマーシャのだ.

(27-b-1) Эта [Ta] ручка — Маши.
 this-SG-F-NOM [that-SG-F-NOM] pen-F-SG-NOM Masha-GEN

(27-b-2) Эта [Ta] ручка принадлежит Маше.
 this-SG-F-NOM [that-SG-F-NOM] pen-F-SG-NOM belong_to-IPFV-PRS-3SG Masha-DAT

¹⁵ もとのアンケート文では「そのペンは太郎のだ」「太郎のペン」となっていたが、ロシアでは一般的な女性名の愛称である「マーシャ」に変更した.

(27-c) 私のペン

моя ручка
my-SG-F-NOM pen-F-SG-NOM

(27-d) マーシャのペン

(27-d-1) ручка Маши
pen-SG-NOM Masha-GEN

(27-d-2) Машина ручка
Masha's-ADJ-SG-F-NOM pen-F-SG-NOM

上例(27-d-2)は, 2.3.の②で述べた, 物主形容詞の例.

28. 昨日, 学校で火事があった。 / 私は明日用事があります。

(28-a) 昨日, 学校で火事があった。

Вчера в школе был пожар.
yesterday in school-SG-LOC be-PST-SG-M fire-M-SG-NOM

(28-b) 私は明日用事があります。

У меня завтра (есть / будут) дела.
by I-GEN tomorrow (be-PRS / be-FUT-3PL) business-PL-NOM

29. (この世には) お化けなんていない。

(29-1) Привидений не бывает.
ghost-PL-GEN not happen-PRS-3SG

(29-2) На свете нет 「чудовищ [призраков].
in world-SG-LOC not_be-PRS 「monster [ghost]-PL-GEN

30. (そこには) 英語を話す人もいるが, 話さない人もいる。

(30-1)

Там есть те, кто говорит
there be-PRS those-PL-NOM who-REL-SG-NOM speak-IPFV-PRS-3SG
по-английски, и те, кто не говорит.
in_English and those-PL-NOM who-REL-SG-NOM not speak-IPFV-PRS-3SG

(30-2)

(Там) 「некоторые [одни] говорят по-английски, а
 (there) 「some-PL-NOM speak-IPFV-PRS-3PL in_English and

другие нет.
 others-PL-NOM not

31. 私より英語ができる人は（ほかに／もっと）います。

Есть ещё люди, которые владеют английским
 be-PRS more people-PL-NOM who-REL-PL-NOM handle-IPFV-PRS-3PL English-SG-INS

языком свободнее, чем я.
 tongue-SG-INS more_fluently-ADV than I-NOM

32. ちょっとあなたにお願いがあります。

У меня к вам просьба.
 by I-GEN to you-PL-DAT request-SG-NOM

33. 冬の雨, 東京の家

(33-a) 冬の雨

(33-a-1) дождь зимой
 rain-SG-NOM winter-SG-INS

(33-a-2) зимний дождь
 wintry-SG-M-NOM rain-M-SG-NOM

(33-b) 東京の家

(33-b-1) (何軒か持っている家の中で) 東京にある家

(33-b-1-1) дом (, находящийся) в Токио
 house-M-SG-NOM (located-IPFV-PTCP-SG-M-NOM) in Tokyo-LOC

(33-b-1-2) токийский дом
 Tokyo-ADJ-SG-M-NOM house-M-SG-NOM

(33-b-2) (典型的な) 東京の家

токийский	дом
Tokyo-ADJ-SG-M-NOM	house-M-SG-NOM

34. 彼の泳ぎ, 犬の鳴き声, 火山の爆発, 車の運転, トルストイの小説

(34-a) 彼の泳ぎ

(34-a-1)	его	плавание
	his	swimming-SG-NOM

(34-a-2)	то,	как	он	плавает.
	that-SG-N-NOM	as/like-CONJ	he-M-NOM	swim-IPFV-PRS-3SG

(34-b) 犬の鳴き声

(34-b-1)	лай [скулѐж]	собаки
	bark [whining]-SG-NOM	dog-SG-GEN

(34-b-2)	собачий	「лай [скулѐж]
	canine-ADJ-SG-M-NOM	「bark [whining]-M-SG-NOM

(34-c) 火山の爆発

взрыв	вулкана
explosion-SG-NOM	volcano-SG-GEN

(34-d) 車の運転

вождение	「машины [автомобилѧ]
driving-SG-NOM	「car-SG-GEN

(34-e-1) トルストイの小説 (=トルストイが書いた小説)

роман [рассказ]	Толстого
novel [story]-SG-NOM	Tolstoy-SG-GEN

(34-e-2) トルストイの小説 (=トルストイのことについて書いた小説)

роман [рассказ]	「про Толстого	[о Толстом]
novel [story]-SG-NOM	「about Tolstoy-SG-ACC	[about Tolstoy-SG-LOC]

(34-e-3) トルストイの小説 (=トルストイさんが持っている小説)

роман [рассказ]	Толстого
novel [story]-SG-NOM	Tolstoy-SG-GEN

35. イワーノフさんのお母さん, 机の横に (来て!), 机の前に (来て!) *机に (来て!),
あの人の次

(35-a) イワーノフさんのお母さん

мать	Иванова
mother-SG-NOM	Ivanov-SG-GEN

(35-b-1) 机の横に (来て!)

Встань	рядом	со	столом!
stand_up-PFV-IMP-SG	next	to	desk-SG-INS

(35-b-2) 机の前に (来て!)

Встань	прямо	перед	столом!
stand_up-PFV-IMP-SG	exactly	in_front_of	desk-SG-INS

(35-b-3) *机に (来て!)

Подойди	к	столу! ¹⁶
come-PFV-IMP-SG	to	desk-SG-DAT

(35-c) あの人の次

状況 (文脈) に応じて様々な解釈 (とそれに応じた翻訳) が可能だろうが, 基本的には前置詞句を用いた表現となる。

(35-c-1) (私は) あの人の次に並んでいます. (私は) あの人の次の順番です.

Я	「за	ним	[после	него].
I-NOM	「behind	he-SG-INS	[after	he-SG-GEN]
Я	за	「ЭТИМ	[ТЕМ]	ЧЕЛОВЕКОМ.
I-NOM	behind	「this-SG-M-INS	[that-SG-M-INS]	person-M-SG-INS

¹⁶ 「*Приходи к столу!」 は不可.

Я после «этого» [того] человека.
 I-NOM after «this-SG-M- GEN» [that-SG-M- GEN] person-M-SG- GEN

(35-c-2) あなたの順番は、あの人の次（の順番）だ。

Ваша очередь после этого человека.
 your-SG-F-NOM turn-F-SG-NOM after this-SG-M- GEN person-M-SG- GEN

36. バラの花びら, 果物のナイフ, 紙の飛行機, チューリップの絵, 花の匂い, 英文の手紙, 日本語の先生, 井戸の水, 雨の日

(36-a) バラの花びら

лепестки роз / лепесток розы
 petal-PL-NOM rose-PL-GEN / petal-SG-NOM rose-SG-GEN

(36-b) 果物のナイフ（果物用のナイフ¹⁷）

нож для фруктов
 knife-SG-NOM for fruit-PL-GEN

(36-c) 紙の飛行機

бумажный «самолётик [самолёт]»
 paper-made-ADJ-SG-M-NOM plane-M-SG-NOM

(36-d) チューリップの絵

картина с тюльпанами
 picture-SG-NOM with tulip-PL-INS

картинка [изображение] тюльпана
 picture-SG-NOM tulip-SG-GEN

(36-e) 花の匂い

запах цветов
 smell-SG-NOM flower-PL-GEN

¹⁷ 他にも、「果物で作られたナイフ」という（特殊な文脈においてのみ可能な）解釈もありうるだろう。その場合には「нож из фруктов」という異なる前置詞を用いた表現になる。

(36-f) 英文の手紙

(36-f-1) английское письмо
 English-ADJ-SG-N-NOM letter-N-SG-NOM

(36-f-2) письмо (, написанное) на английском (языке)
 letter-N-SG-NOM (written-PFV-PTCP-SG-N-NOM) on English-SG-M-LOC (tongue-M-SG-LOC)

(36-g) 日本語の先生

 учитель [преподаватель] японского языка
 teacher-SG-NOM Japanese-ADJ-SG-M-GEN tongue-M-SG-GEN

(36-h) 井戸の水 (井戸から汲んだ水)

(36-h-1) колодезная вода
 well-ADJ-SG-F-NOM water-F-SG-NOM

(36-h-2) вода из колодца
 water-SG-NOM from well-SG-GEN

「*вода колодца」は不可.

(36-i) 雨の日

 дождливый день
 rainy-SG-M-NOM day-M-SG-NOM

「дождь (雨)」という語の属格を用いた「день дождя」という語結合は、韻文など特殊な言語使用の場においては可能.

37. 妹のマーシャ／社長のペトローフさん

(37-a) 妹のマーシャ

 младшая сестра (по имени) Маша
 younger-SG-F-NOM sister-F-SG-NOM (by name-SG-DAT) Masha-SG-NOM

(37-b) 社長のペトローフさん

 директор [президент] Петров
 president -SG-NOM Petrov-SG-NOM

同格にして並べる.

38. となりの家の友達のお父さんの車のタイヤ (が昨日突然パンクしたんだって.)

(38-1)

Лопнула покрышка машины отца друга,
blow_out-PFV-PST-SG-F tire-F-SG-NOM car-SG-GEN father-SG-GEN friend-M-SG-GEN

живущего по соседству.
living-PTCP-SG-M-GEN by neighbourhood-SG-DAT

(38-2)

У отца моего друга, который живёт
by father-SG-GEN my-SG-M-GEN friend-M-SG-GEN who-REL-SG-M-NOM live-IMP-PRS-3SG

по соседству, у машины лопнуло колесо.
by neighbourhood-SG-DAT by car-SG-GEN blow_out-PFV-PST-SG-N tire-N-SG-NOM

(38-3)

Слушай, вчера вдруг лопнула шина машины
Listen-IPFV-IMP-SG yesterday-ADV suddenly blow_out-PFV-PST-SG-F tire-F-SG-NOM car-SG-GEN

папы нашего друга по соседству!
dad-SG-GEN our-SG-M-GEN friend-M-SG-GEN by neighbourhood-SG-DAT

「となりの家の友達のお父さんの車のタイヤ」に直接対応する箇所は波線部. (38-2) は構文が若干他の二つと異なっているために示していない.

モンゴル語 (ハルハ方言・ホルチン方言)・ブリヤート語

風間 伸次郎

ハルハ方言のコンサルタントは、1988年 övörxangaj 県 xajrxandulaan 郡生まれの女性である。ホルチン方言のコンサルタントは、チチハル市出身で2013年現在40代後半の女性である。ブリヤート語のコンサルタントは、1976年 xəjəŋgə (ロシア名 kizhingə) 出身の男性である。

以下の文では、ハルハ方言を [khal] で、ホルチン方言を [khor], ブリヤート語を [bur] の略号によって示す。例文の表記は、それぞれキリル文字およびモンゴル文字の正書法に従った。なお転字の対応表に関しては割愛させていただいた。

ブリヤート語の調査はコンサルタントとして協力して下さった研究者が研究会のために来日した間のわずかな時間をぬって行った。このため時間が間に合わず、(26)以降は調査ができなかった。したがって(26)以降ではブリヤート語のみ調査結果がない。

(1) あの人は青い目をしている。/青い目の人・目が青い人

[khal] ter xün cenxer nüd-tej.

あれ 人 青い 目-PROP

/ cenxer nüd-tej xün nüd n' cenxer xün

青い 目-PROP 人 目 3sg.POSS 青い 人

このように恒常的な所有においては、日本語の「～している」のような動詞を用いた表現は用いられないという。一時的な事態であれば、ter xün nudee { tom bolgož / bultilgež } bajna. 「その人は目を大きくしている(驚きなどで)」のような動詞を用いた表現が可能であるという。

[khor] tere kümün xöxe nidü-tei.

あれ 人 青い 目-PROP

/ xöxe nidü-tei kümün nidü-ni xöxe kümün

青い 目-PROP 人 目-3SG.POSS 青い 人

[bur] tere basagan xüxe njude-tej.

あれ 女の子 青い 目-PROP

/ xüxe njude-tej basagan

青い 目-PROP 女の子

(2) あの女 {は／の} 髪が長い・あの女は長い髪をしている

／長い髪之女・髪の長い女

[khal] tere megtej {bol / n'} üs n' urt.
あれ女 TOP / 3SG.POSS 髪 3SG.POSS 長い
tere megtej urt üs-tej.
あれ女 長い 髪-PROP
/ urt üs-tej emegtej
長い 髪-PROP 女
üs n' urt emegtej
髪 3SG.POSS 長い 女

bai(-gaa) 「ある」を用いた「あの女には長い髪がある」のような構文（つまり存在文）はここでは用いられない。ただし髪を切ったものをかつらにするために持っている場合などなら言えるという。したがって一体性が問題になることがわかる。

[khor] tere emegtei-yin üsü ni urtu.
あれ 女性-GEN 髪 3SG.POSS 長い
tere emegtei urtu üsü-tei.
あれ 女性 長い 髪-PROP
/ urtu üsü-tei emegtei üsü ni urtu emgtei
長い 髪-PROP 女性 髪 3SG.POSS 長い 女性

やはり bayin_a 「ある」による存在文は使えない。コンサルタントによれば、「自然に、元からあるものだから」使えないのである、という。

[bur] tere basagan uta ühe-tej.
あれ 女の子 長い 髪-PROP
/ uta ühetej basagan
長い 髪-PROP 女の子

やはり存在文（?? tere basagan-da uta ühen baj-na.）は、おかしく感じられるという。

(3) あの人には髭がある。／髭の男

[khal] ter eregtej saxal-taj.
あれ 男 髭-PROP
/saxal-taj eregtej
髭-PROP 男

直訳では *ter eregtejd saxal bij*. 「その 男に 髭が ある」 のようにも言えるが、このように言うと、その男が俳優などで、仕事に使う人工の髭を持っているという意味に感じられるという。

[khor] *tere kümün saqal-tai.* / *saqal-tai eregtei*
 あれ 人 髭-PROP 髭-PROP 男

tere saqal bayin_a uu? 「彼は 髭 あるか」 のような存在文は、「その人は髭を伸ばしているのか?」, という意味で質問する時には使えるという。髭は全ての人にあるものではないので、そのような言い方が可能なのだという。

[bur] *tere xün haxal-taj.* / *haxal-taj xün*
 あれ 人 髭-PROP 髭-PROP 人

やはり存在文 (?? *tere xüinde haxal bajna.*) は、おかしく感じられるという。

(4) あの人には (見る) 目がある。/ 見る目のある人

[khal] *ter xün juman-d nüd-tej.*
 あれ 人 物-DAT 目-PROP

/ *jum xar-a-x nüd-tej xün.*
 物 見る-E-VN.NPST 目-PROP 人

上記の文はあまり普通ではないと感じられるという。その「物」が具体的に指している対象について、聞き手と話し手の両者がわかっている場合に限って、何とか成り立つ文であるという。普通このような意味の文では *mald nudtej* 「家畜に (見る) 目がある」というように対象をはっきりさせて言うという。もしくは *sajnijg olž xardag xün* 「良い物を見つけてみる人」のように言うという。

[khor] *tere kümün qaralta-tai.*
 あれ 人 見通す力-PROP

意識するならば、アンケートの文はこのように「将来を見通す力がある」と翻訳できるだろうという。もしくは *yayum_a üjejü garun_a*. 「物を見て出る (>見る力がある)」のように表現されるという。

[bur] **tere (xün) njude-tej.*
 あれ 人 目-PROP

直訳した上記のような文に特別な意味はなく、使用できない文であるという。

(5) あの人 は 22 歳 だ。 / 22 歳 の 人

[khal] terxün 22 nas-taj. / 22 nas-taj xün.
あれ 人 22 歳-PROP / 22 歳-PROP 人

[khor] tere kümün qorin qoyar nasu-tai.
あれ 人 20 2 歳-PROP
/ qorin qoyar nasu-tai kümün
20 2 歳-PROP 人

[bur] tere xorin xojoy-toj.
あれ 20 2-PROP

(6) あの人 は 優しい 性格 だ。 / 優しい 性格 の 人

[khal] terxün zöölön zan aaš-taj. / zöölön zan aaš-taj xün.
あれ 人 温和な 性格 気質-PROP 温和な 性格 気質-PROP 人

ここでは zan aaš の代わりにロシア語の xarakter が使われることもよくあるという。zan aaš は、類似した意味の語を並べて用いる表現法であるが、この場合、zan と aaš の片方ではどちらであってももの足りない感じがするという。

[khor] tere kümün eyeldeg ĵang-tai. / eyeldeg ĵang-tai kümün
あれ 人 優しい 性格-PROP 優しい 性格-PROP 人

[bur] tere hajn { sed'xel-tej / hanaa-taj }.
あれ 良い 心-PROP 心-PROP
/ hajn { sed'xel-tej / hanaa-taj } xün
良い 心-PROP 心-PROP 人

(7) あの人 は 背 が 高い。 / 背 の 高い 人

[khal] ter xün öndör ??(nuruu-taj). / nuruu öndör-tej xün.
あれ 人 高い 背丈-PROP 背丈 高い-PROP 人

上記のカッコ内(すなわち, nuruu-taj)は当たり前なので普通言わないという。öndör xün 「高い 人」はもちろん問題なく言える。語順を換えた öndör nuruu-taj xün も言えるが、やはりここでも nuruu は当たり前なので言わなくてよいという気がするという。sajxan

nuruulag xün 「よく 背のある状態の 人」, という表現も可能であるという.

[khor] tere kümün-ü bey_e öndür. / öndür bey_e-tei kümün
 あれ 人-GEN 身体 高い 高い 身体-PROP 人

所有接辞を用いた文である tere kümün öndür bey_e-tei. 「その 人 高い 体持ちだ」
 のような文も言えるが, これだと「高い!」ということがより強調されている感じがある
 という.

bey_e は「身体」を意味するが, ここでは「背」の意味となるという.

[bur] tere xün ünder.
 あれ 人 高い
 / ünder xün
 高い 人

(8) あの人は背が 190 センチもある.

[khal] ter xün-ij nuruu бүр 190 santimetr.
 あれ 人-GEN 背丈 完全に 百九十 センチ

[khor] tere kümün-ü bey_e, 190 sentimetr (kürtel_e) bayi-n_a.
 あれ 人-GEN 身体 百九十 センチ 達して ある-PRS

tere kümün 190 senti bey_e-tei. 「その 人 百九十 センチ 体持ちだ」のような所有
 接辞による文は, 言っても間違いとはされないものの, あまり言わないものと感じられる.

[bur] tere xün zuun jeren santimetr ünder.
 あれ 人 百 九十 センチ 高い
 *tere xün zuun jeren santimetr-tej.
 あれ 人 百 九十 センチ-PROP
 *tere xün zuun jeren santimetr ünder-tej.
 あれ 人 百 九十 センチ 高い-PROP

(9) その石は四角い形をしている./四角い(形の)石

[khal] ter čuluu dörvön öncög-t xelber-tej.
 あれ 石 四 角-PROP 形-PROP
 / dörvön öncög-t (xelber-tej) čuluu.
 四 角-PROP 形-PROP 石

ter čuluu dörvön öncög baj-na. 「その石四角ある」は変であるという。自然のものであり、最初からその状態であるので所有接辞を用いた表現がしっくりくるように感じられるのだという。

[khor] tere čilayu dörbeljin. / dörbeljin čilayu
あれ石 四角い 四角い 石

[bur] tere šuluun tebxeger.
あれ石 四角い
tere šuluun dürbelžen xelberi-tej.
あれ石 四角い 形-PROP

上の例がより口語的であり、下の例はより文語的であるという。

(10) あの人には才能がある。／才能のある人

[khal] ter xün av'jaas-taj. / av'jaas-taj xün.
あれ人 才能-PROP 才能-PROP 人

「才能」も元から自然に備わったものであるため、存在動詞による表現は変な感じがするという。

[khor] tere kümün čidaburi-tai. / čidaburi-tai kümün
あれ人 才能-PROP 才能-PROP 人

[bur] tere xün belig-tej. / belig-tej xün
あれ人 才能-PROP 才能-PROP 人

(11) あの人は病気だ。／あの人は熱がある。／病気の人

[khal] ter xün övč-tej (övčün tus-san) {baj-gaa / baj-na}.
あれ人 病気-PROP 病気 罹る-VN.PST ある-VN.IMP / ある-PRS
/ ter xün xaluun-taj baj-na.
あれ人 熱-PROP ある-PRS
/ övčün tus-san xün övč-tej xün
病気 罹る-VN.PST 人 病気-PROP 人

所有接辞を用いた övč-tej xün は、性格や精神に問題のある人と言う意味に受け取られることがある。病気であることを聞き手が理解できる状況等であれば問題なく使える。他方、動詞を用いた övčün tus-san xün ははっきりと病気になった人のみを指すという。所有接辞

の持つ恒常性，および形容詞的な性質が原因であると考えられる。

例えば授業の時に，出欠席の答えとして *övč-tej* と言えば，ふつうに「病気（で休み）」の意味に解釈されるという。

上記の *ter xün xaluun-taj baj-na* は一般に熱があるの意味に解釈される。しかし，酒を飲んでいる時など，状況によっては，例えばその酒のせいで興奮している，という解釈もできるという。

[khor] *tere kümün ebedčín-tei.*
 あれ 人 病気-PROP
 / *tere kümün qalayun-tai.*
 あれ 人 熱-PROP

tere kümün qalayun-tai は、「病気で熱がある」という意味にもなるが，人やお客を温かく，熱く歓迎するような人のことも言うという。

tere kümün qalayun oru-ju bayi-n_a.
 あれ 人 熱 入る-SIM ある-PRS

このように動詞を用いた表現では熱が出ている意味にしかないという。

/ *ebedčín-tei kümün*
 病気-PROP 人
tere kümün qalayun (sedkil) bayi-baču, ~
 あれ 人 熱い 気持ち ある-ADVERS

存在動詞を用いた表現を無理に作ってもらったところ上記のような表現が得られた。この文は，*sedkil*「気持ち」が文脈からわかっている場合なら言えるが，さらに「～けれど，（人に何かしてあげることが）できない」などのような文が続かないとおかしいという。

[bur] *tere übšen.*
 あれ 病気

上記の文は名詞述語文で，これがもっとも一般的な表現であるという。これに対し，動詞述語による下記の一連の表現がある。*tere übdenjej* は，まさに病気になるプロセスにある時を指して言うという。*tere übdöö* もそのプロセスを示す。*tere übdešenxej./tere übdešöö* は，（先日は元気だったのに）突然そうなった時などに発話されるという。

/ *übšen xün*
 病気 人

所有接辞による表現（ *übsen-tej xün ）は使えないという。 übeštej は「馬鹿者」の意であるという。

/ tere nege žaa xaluun-taj.
あれ 少し 熱-PROP

「熱がある」は上記で全く問題ないが、存在動詞による tere xaluurža bajna. がもっとも一般的な表現であろうという。他方、連体修飾では、所有接辞による *xaluun-taj xün は用いられず、xaluurža baj-han xün と言うという。

(12) あの人は青い服を着ている。／青い服の男

[khal] ter xün cenxer { xuvcas-taj baj-na / xuvcas öms-sön baj-na }.
あれ 人 青い 服-PROP ある-PRS / 服 着る-VN.PST ある-PRS
/ cenxer xuvcas-taj xün.
青い 服-PROP 人

所有接辞を用いた ter xün cenxer xuvcas-taj. という表現では、単に持っているという意味に解釈されるという。所有接辞を用いた *xuvcas cenxer-tej xün は非文であるという。より恒常的な状態であれば、ter xün-ij öms-dög xuvcas dandaa cenxer. 「その 人の いつも着ている 服は いつも 青い」のようになるという。

[khor] tere kümün xöxe öngge-tei qubčasu emüs-čü bayi-n_a.
あれ 人 青い 色-PROP 服 着る-SIM ある-PRS

所有接辞を用いた tere kümün xüxe öngge-tei qubčasu-tai. は、家にあって持っている、という感じがするという。ここで öngge-tei は、無くても間違いではないが、あったほうがよいという。他方、所有接辞による連体修飾である xöxe öngge-tei qubčasu-tai kümün のほうは、家にあるという解釈は難しいという（文脈があればそう解釈できるかもしれないが）。つまり、今着ている状態を見て言う表現になるという。今来ている人である、ということより明確に言う表現は、xöxe qubčasu emüsčü bayiy_a kümün 「青い 服 着ている 人」であるという。

[bur] tere xün xüxe kostjum ümdenxej.
あれ 人 青い 服 着ている

所有接辞による tere xün xüxe kostjum-taj. という表現では、青い服を持っているが着ているかどうかはわからない、家にあるだけかもしれない、という。その解釈は文脈によって明らかになるという。

/ xüxe kostjum ümdenxej xün
 青い 服 着ている 人

(13) あの人はメガネをかけている./メガネの男

[khal] ter xün nüd-nij šil-tej baj-na.
 あれ 人 目-GEN ガラス-PROP ある-PRS
 nüd-nij šil züü-sen baj-na.
 目-GEN ガラス 身に着ける-VN.PST ある-PRS
 / nüd-nij šil-tej eregtej.
 目-GEN ガラス-PROP 男

存在動詞による ter xünd nüdnij šil bajna. 「あれ 人 目の ガラス ある」では、持っていることを意味するのみであり、着用しているかは含意しないという。(12) の服の場合とは逆の対応になっている点が興味深い。

[khor] tere kümün nidün sil jëgü-jü bayi-n_a.
 あれ 人 目 ガラス 身に着ける-SIM ある-PRS

これに対し、所有接辞による tere kümün nidün siltei. は、これを単に聞くと「持っている」という意味に解釈できるが、「メガネをかけているか?」と訊かれた、などの文脈では、今実際に掛けているという意味にも解釈されるという。

/ nidün sil jëgü-jü bayi-γ_a kümün
 目 ガラス 身に着ける-SIM ある-VN.IMPF 人

所有接辞による nidün sil-tei kümün は、今かけている、という意味と、今かけてないけど持っている人、という二つの意味での解釈が可能であり、その解釈は文脈によるという。

[bur] tere njuden-ej šel züügee.
 あれ 目-GEN ガラス 身に着ける-VN.IMPF
 tere njuden-ej šel züünxej.
 あれ 目-GEN ガラス 身に着けている

(14) あの人には妻がいる./既婚の人・妻のいる人

[khal] ter xün exner-tej. ter xün(-d) exner baj-gaa.
 あれ 人 妻-PROP あれ 人-DAT 妻 ある-VN.IMPF
 / gerle-sen xün exner-tej xün.
 結婚する-VN.PST 人 妻-PROP 人

「(あの人に) 奥さんいますか?」と訊く時には, *ter xün exner-tej juu.*ではなく, *ter xün-d exner baj-gaa juu?*を使うという.

ter xün exner-tej. に *baj-na* を用いた **ter xün exner-tej baj-na.* は非文であるという. これはこの *ter xün exner-tej.* という文が名詞/形容詞述語文であって, 存在文ではないことを示している.

[khor] *tere kümün { büsgüi-tei / beri-tei }.*
 あれ 人 妻-PROP 妻-PROP

この方言では, *bayin_a* を用いて *tere kümün büsgüi/beri bayin_a.* と言うことも可能であるという. *bayin_a* の有無による意味の違いは感じられず, 文脈によっては, *bayin_a* のある文の方が所有を強調する場合もあると思われるという.

さらに「あの人」に与格を加えて, *tere kümündü büsgüi/beri bayin_a,~* という場合には, 「~, (しかし) この人にはいない」のような文が続かなければおかしいという. つまり対比の文脈が無いと与格は使えないようだ.

[bur] *tere hamga-taj. / hamga-taj xün*
 あれ 妻-PROP 妻-PROP 人

(15) あの人には3人子供がいる./3人の子持ちの人・あの人の3人の子供/妊娠している女性

[khal] *ter xün 3 xüüxed-tej.*
 あれ 人 3 子供-PROP
 / 3 xüüxed-tej xün terxün-ij 3 xüüxed
 3 子供-PROP 人 あれ 人-GEN 3 子供
 / *žirem-sen emegtej*
 妊娠する-VN.PST 女性

所有接辞による文に与格を用いて **ter xün-d 3 xüüxed-tej.* とすると, 子供を物扱いしているようで, 悪いニュアンスになるので, そもそも用いられない, という.

所有接辞を用いた連体修飾 *xüüxed-tej emegtej* は, すでに生まれた子供がいる状態でないと使えない (妊娠している女性を指すことはできない) という.

妊娠した女性に関しては, さらに, *xöl xünd emegtej* 「足 重い 女性」という表現もされるところ.

[khor] *tere kümün 3 keüiked-tei.*
 あれ 人 3 子供-PROP

tere kümün 3 keüiked bayi-n_a.
 あれ 人 3 子供 ある-PRS
 / 3 keüiked-tei kümün 3 keüiked bayi-γ_a kümün
 3 子供-PROP 人 3 子供 ある-VN.IMPF 人

上記の連体修飾表現は、両方とも言えるが前者の方がよく使われ、より自然であると思われるという。

ǰirümsüle-gsen emegtei
 妊娠する-VN.PST 女性

この表現は年輩の人でないと言えないと思うという。この地域のモンゴル語が漢語にとって代わられて来ており、モンゴル語が忘れられて来ているためであるという。

keüiked-tei emegtei は、やはりもう生まれている場合にのみ用いる。現在東北地方では、keüiked oluysan. という方が普通であるという。他方、keüiked oluysan emegtei. は文脈が無いとその解釈がはっきりしない、どこかで子供を拾って来たような場合にもこのように発話できるという。

[bur] tere gurban üxibüü-tej.
 あれ 3 子供-PROP
 / gurban üxibüü-tej xün
 3 子供-PROP 人
 / türe-xe hamgan
 産む-VN.NPST 人

(16) タコには足が 8 本ある。

[khal] najmaalž najman xöl-tej.
 タコ 8 足-PROP
 najmaalžin-d najman xöl baj-dag.
 タコ-DAT 8 足 ある-VN.HAB

写真見ながら説明したりしている時などには、後者がよく使われるような気がするという。意味に違いは感じられないという。譲渡不可能的所有であるが、存在文が使える点で興味深い。

[khor] nayimalǰi nayiman kül-tei.
 タコ 8 足-PROP

nayimalji	nayiman	kül	bayi-n_a.
タコ	8	足	ある-PRS

[bur]	abaaxaj	najman	xül-tej.
	クモ	8	足-PROP

用意した媒介言語の例文及び文化的事情からブリヤート語の例文では「クモ」となっている。

(17) その飲み物にはアルコールが入っている./アルコール入りの飲み物

[khal]	ter uu-x	juman-d	alkogol'	or-son.
	あれ 飲む-VN.NPST	物-DAT	アルコール	入る-VN.PST
	ter uu-x	jum	alkogol'-taj.	
	あれ 飲む-VN.NPST	物	アルコール-PROP	
	/ alkogol'-taj	uu-x	jum.	
	アルコール-PROP	飲む-VN.NPST	物	

or-son の代わりに baj-na や baj-dag を用いると、その飲み物とは別個に存在しているように感じられる。ここでのアルコール成分は、その飲み物に入っている(含まれている)のであり、or-son を用いるのがよいという。また、orson baina と言うこともできるが、orood baina は不自然であるという。orood baina が不自然である理由としては、アルコールは人為的に入れる物であって、自然に入るものではないということが考えられるという。

[khor]	tere uuyumda-yin	dotor_a	ariki(-tai)	bayi-n_a.	
	あれ 飲み物-GEN	中	酒 -PROP	ある-PRS	
	/ ariki-tai	uuyumda	dotor_a-ni	ariki bayi-γ_a	uuyumda
	アルコール-PROP	飲み物	中-POSS.3SG	酒 ある-VN.IMPF	飲み物
[bur]	*ene arxi-taj	undan.	ene arxi.		
	これ 酒-PROP	飲み物	これ 酒		

「炭酸水」であれば、gaz-taj uhan もしくは xii-tej uhan と所有接辞を用いて表現できるという。しかし存在文で、*ene uhan-da gaz baj-na. と言うことはできないという。その場合はやはり所有接辞を用いて、ene uhan gaz-taj. と言うという。

(18) あの人はお金を持っている./お金持ちの人

[khal]	ter xün möngö-tej.	/ möngö-tej	xün	bajan xün.
	あれ 人 お金-PROP	お金-PROP	人	裕福な 人

möngö-tej xün はもとの金持ちでなくとも、今お金を持っているのであれば使えるという。baj-na を使った所有表現で言うと、単にそのお金が現在その人の所にある、というだけになり、その人の所有物である保証はなくなるという。

[khor] tere kümün joyus-tai. tere kümün joyus bayi-n_a.
 あれ 人 お金-PROP あれ 人 お金 ある-PRS
 / joyus-tai kümün joyus bayi-γ_a kümün
 お金-PROP 人 お金 ある-VN.IMPF 人

[bur] tere bajan xün. bajan xün
 あれ 裕福な 人 裕福な 人
 tere xün (jexe) münge-tej.
 あれ 人 多い お金-PROP
 / jexe münge-tej xün
 多い お金-PROP 人

münger-tej xün は、お金持ちの人、の意にもなるが、その時お金がある、という意味にも解釈されるという。存在文で tere xün-de müngen bajna. とすると、「そのお金は、（どこにあるかという）彼の所にある」という意味に解釈される。これは müngen tere xün-de baj-na. とするのと同様に解釈される、という。

(19) おまえのところには犬がいるか？／犬のいる人

[khal] čamd noxoj baj-gaa juu? či noxoj-toj juu?
 おまえ.DAT 犬 ある-VN.IMPF QP おまえ 犬-PROP QP
 / noxoj-toj xün.
 犬-PROP 人

čamd の代わりに tanajd, či の代わりに tanajx を用いることもできる。その場合には「言え」を意識した表現になるという。相手が数人以上の家族で大きめの家に住んでいる場合ならその表現が自然であるという。他方、ワンルームに一人で住んでいる場合などでは、čamd, či による表現が自然であるという。

či noxoj-toj juu?には二つの解釈があり、その二つ目は「戌年生まれか？」という解釈であるという。noxoj-toj xün も同様に「戌年生まれの人」の意に解釈されうるといふ。

[khor] činü tende noqai bayi-n_aau?
 おまえ.GEN あれ.DAT 犬 ある-PRSQP

/ noqai bayi-γ_a kümün noqai-tai kümün
 犬 ある-VN.IMPF 人 犬-PROP 人

noqai-tai kümün は、やはり成年生まれの人という意味に解釈できるという。

[bur] ta noxoj-toj gü-t? / noxoj-toj xün
 あなた 犬-PROP QP-2.POLIT 犬-PROP 人

存在文を用いて、tere xün-de noxoj baj-na. と言ってもほぼ同じ意味に解釈されるという。

(20) おまえは（自分の）ペンを持っているか？／ペンを持っている人

[khal] čamd üzeg (čin') baj-na uu? / üzeg-tej xün.
 おまえ.DAT ペン 2SG.POSS ある-PRS QP ペン-PROP 人

上記の内容は *uzeg-tej juu?* と言うこともできる。しかし上記の文の方が丁寧な気がするという。

[khor] či (öber_e-yin) bir bayi-n_aau?
 おまえ 自分-GEN ペン ある-PRSQP
 či (öber_e-yin) bir-tai uu?
 おまえ 自分-GEN ペン-PROP QP
 / bir-tai kümün. bir bayi-γ_a kümün.
 ペン-PROP 人 ペン ある-VN.IMPF 人

[bur] ručka-taj gü-š?
 ペン-PROP QP-2SG

ブリヤート語では、疑問の小詞が人称変化する点に注意されたい。(šamda) *ručka bajna gu?* と言っても同じ意味であるという。

(21) あの人は（誰か別の人の）ペンを持っている。

[khal] ter xün 《 xen neg-nij 》 üzg-ijg bar'-ž baj-na.
 あれ 人 誰 1-GEN ペン-ACC 掴むP-SIM ある-PRS

この文は《 》内がないと変であるという。所有接辞を用いて、**ter xün (xen neg-nij) üzg-tej.* とするのは非文であるという。問題のペンは、自分の物ではなく、今一時的に使っているから言えないという。

この文では *barix* 「掴む」が用いられているが、これは必ずしも今実際に手に持って使っていることを意味しないという。筆箱に入っていたり、一般に使用している状況があれ

ばこのように言うという。

[khor] tere kümün (bosud kümün-ü) bir-i
 あれ 人 別の 人-GEN ペン-ACC
 { ab-ču / bari-ju } bayi-n_a.
 取る-SIM つかむ-SIM ある-PRS

[bur] tere xünej ručka-taj.
 あれ 人 ペン-PROP

(22) あの人は運がいい。／幸運な人

[khal] ter xün az-taj. / az-taj xün.
 あれ 人 運-PROP 運-PROP 人

[khor] tere kümün-ü qubi jiyay_a sayin./ qubi jiyay_a sayin kümün
 あれ 人-GEN 運 良い 運 良い 人

[bur] tere aza-taj. / aza-taj xün
 あれ 運-PROP 運-PROP 人

(23) ここは石が多い。／石の多い土地

[khal] end čuluu ix {bij / baj-gaa}.
 ここ.DAT 石 多い ある ある-VN.IMPF
 / čuluu ix-tej gazar.
 石 多い-PROP 場所

所有接辞を用いて, ene gazar culuu ix-tej. 「この 場所 石 多い-PROP」と言うこともできる。この文は, 「そこは, 石が多い (からそこから持って来て)」のような文脈でなら言えるという。他方, 語順を換えて, ene gazar ix culuu-taj gazar. 「この 場所 多い 石-PROP」とも言えるという。この場合は意味は同じであるという。

形容詞によっては意味が違ってくる場合もあり, culuu ulaan-taj gazar 「石 赤い-PROP 場所」は, 全般にその場所の石は赤いことを示すのに対し, ulaan culuu-taj gazar 「赤い 石-PROP 場所」は一個でも赤い石がある場所であればそれを指すことができるという。これは -taj が広いスコープを持ち, 上記の2つの句がそれぞれ [culuu ulaan]-taj gazar, [ulaan culuu]-taj gazar のような構造を持っていることに起因するものと考えられる。

[khor] ende čilayu olan. / čilayu olan gaĵar.
 これ.DAT 石 多い 石 多い 土地

[bur] ende olon šuluun baj-na.
 これ.DAT 多い 石 ある-PRS
 ene gazar jexe šuluu-taj. / jexe šuluu-taj gazar
 これ 場所 多い 石-PROP 多い 石-PROP 場所

(24) その部屋には椅子が3つある／3つ椅子のある部屋

[khal] teröröön-d gurvan sandal baj-na.
 あれ 部屋-DAT 3 椅子 ある-PRS
 / gurvan sandal-taj öröö
 3 椅子-PROP 部屋

所有接辞を用いて ter öröön-d gurvan sandal-taj. と言うと、たまたまその状態にあるのではなく、いつも椅子が3つある部屋という意味に解釈されるという。

[khor] tere ger-tü sandali 3 bayin_a .
 あれ 部屋-DAT 椅子 3 ある-PRS
 / 3 sandali-tai (bayi-y_a) ger.
 3 椅子-PROP ある-VN.IMPF 部屋

[bur] ene tahalga soo gurban handali baj-na.
 これ 部屋 3 椅子 ある-PRS

所有接辞を用いた ene tahalga gurban handali-taj, ~ は少し変な感じがするが、「この部屋は椅子が3つだが、あの部屋はいすが4つで、・・・」というような対比の文脈であれば全く問題なく使えるという。

(25) テーブルの上にスプーンがある。／スプーンのあるテーブル

[khal] šireen deer xalbaga baj-na.
 テーブル 上 スプーン ある-PRS
 / xalbaga baj-gaa širee
 スプーン ある-VN.IMPF テーブル

所有接辞を用いた *šireen xalbaga-taj. は非常に奇妙な感じであり、非文であるという。

[khor] siregen deger_e qalbay_a bayi-n_a.
 テーブル 上 スプーン ある-PRS
 siregen deger_e qalbay_a-tai.
 テーブル 上 スプーン-PROP

/ qalbay_a bayi-γ_a sirege.
 スプーン ある-VN.PRS テーブル

所有接辞を用いた qalbay_a tai sirege は、たくさんの机があつて、スプーンのあるテーブルとないテーブルがある場合、などであれば言えるという。

[bur] xalbaga šeree deere baj-na.
 スプーン テーブル 上 ある-PRS

(26) そのスプーンはテーブルの上にある./テーブルにあるスプーン

[khal] terxalbaga šireen deer baj-na.
 あれ スプーン テーブル 上 ある-PRS
 / šireen deer baj-gaa xalbaga
 テーブル 上 ある-VN.PRS スプーン
 šireen deer-xi xalbaga
 テーブル 上-ATTR スプーン

[khor] tere qalbay_a siregen deger_e bayi-n_a.
 あれ スプーン テーブル 上 ある-PRS
 / siregen deger_e bayi-qu qalbay_a.
 テーブル 上 ある-VN.IMPF スプーン

(27) そのペンは私のだ.・そのペンは太郎のだ./私のペン・太郎のペン

[khal] ter üzeg minij-x. ter üzeg taroo-gijn-x.
 あれ ペン 私.GEN-ATTR あれ ペン 太郎.GEN-ATTR
 / minij üzeg taroo-gijn üzeg.
 私.GEN ペン 太郎.GEN ペン

[khor] tere bir minü mön. tere bir taröö-nü mön.
 あれ ペン 私.GEN 正しい あれ ペン 太郎.GEN 正しい
 / minü bir taröö-nü bir.
 私.GEN ペン 太郎.GEN ペン

(28) 昨日、学校で火事があつた./私は明日用事があります。

[khal] öčigdör surguul' deer gal tujmer gar-san.
 昨日 学校 上 火 火事 出る-VN.PST
 / bi margaaš ažil-taj.
 私 明日 仕事-PROP

日本語のように存在の動詞を用いて *öcigdör surguul' deer gal baj-san*. とすることはできないという。「仕事」については, (*nadad*) *baga saga ajil bai-na/baj-gaa*. とすることができるという. *baj-* が存在物として取れるのはより具体的なものであって, 「(デキゴトが) 生起する」の意味では使いにくいということがわかる.

[khor] *öcügedür suryayuli-du gal gar-ĵai.*
 昨日 学校-DAT 火 出る-PST
 / *bi margasi učir-tai. bi margasi učir bayi-n_a.*
 私 明日 用事-PROP 私 明日 用事 ある-PRS

(29) (この世には) お化けなんていない.

[khal] *ene ertönc-ö-d čötgör mötgör baj-x-güj.*
 これ 世の中-E-DAT お化け EW ある-VN.NPST-NEG

?? *ene ertönc čötgör-tej*. は「世の中」というものがあまりに広すぎて, 自分自身では確かめようがないので, 言いづらいつのことであった. 他方, 「学生寮」など確認可能な狭い範囲の名詞が主語なら言えるという (例えば, *čötgör-tej bajšin* 「お化け-PROP 建物」などと言うという).

[khor] (*ene yirtinčü deger_e*) *bong-gesen yayum_a bayi-qu ügei.*
 これ 世の中 上 お化け-SIMLT もの ある-VN.NPST NEG

(30) (そこには) 英語を話す人もいるが, 話さない人もいる.

[khal] *tend angli-ar jar'dag xün č baj-val,*
 あれ.DAT 英語-INS 話す-VN.HAB 人 CUM ある-COND
jar'dag-güj xün č baj-dag.
 話す-VN.HAB=NEG 人 CUM ある-VN.HAB

[khor] (*tende*) *anggli kele kele-ĵü čida-qu kümün*
 それ-DAT 英 語 話す-SIM できる-VN.NPST 人
bayi-n_a, kele-ĵü čida-qu ügei kümün basa bayi-n_a.
 ある-PRS 話す-SIM できる-VN.NPST NEG 人 CUM ある-PRS

(31) 私より英語ができる人は (ほかに/もつと) います.

[khal] *nadaas ilüü angli xel med-deg xün zöndöö ix baj-na.*
 私.ABL より良く 英 語 知る-VN.HAB 人 たくさん 多い ある-PRS

[khor] nada-ača ilegü anggli kele čida-qu kümün
 私.ABL より良く 英 語 できる-VN.NPST 人
 (öger_e basa) bayi-n_a.
 別 CUM ある-PRS

(32) ちょっとあなたにお願いがあります.

[khal] čamaas neg gujlt baj-na.
 あなた.ABL 1 お願い ある-PRS

[khor] tan-i nige bay_a ĵoba-qu učir bayi-n_a.
 あなた-ACC 1 少し 困らせる-VN.NPST 事 ある-PRS

(33) 冬の雨 東京の家

[khal] övl-ijn boroo tokio-g-ijn ger
 冬-GEN 雨 東京-E-GEN 家

[khor] ebül-ün borugan tokio-yin ger
 冬-GEN 雨 東京-E-GEN 家

(34) 彼の泳ぎ／犬の鳴き声／火山の爆発 車の運転 Xの小説

[khal] tüünij selett / noxoj-n xuc-a-x duu
 あれ.GEN 泳ぎ 犬-GEN 吠える-E-VN.NPST 声
 / gal-t uul-yn delberelt
 火-PROP 山-GEN 爆発
 / mašin žoloodlogo / X-n ögüülleg.
 車 運転 X-GEN 小説

属格による表現である mašin-y žoloodlogo は言えるけど変であり、聞かない言い方であるという。bayar-yn öglüüleg は「バイヤルが書いた小説」の意味に解釈され、「バイヤルの生涯を描いた小説」の意味には解釈されない。その意味を実現する表現は bayar-yjn tuxaj öglüüleg 「バイヤルについての小説」となるという。

[khor] tere-yin umbalta / noqai quča-qu dayuu
 あれ-GEN 泳ぎ 犬 吠える-VN.NPST 声
 / gal-tu ayula delberu-kü
 火-PROP 山-GEN 爆発する-VN.NPST

/ terge žiloyud-qu / X-yin roman
 車 運転する-VN.NPST X-GEN 小説

(35) Xさんのお母さん 机の横/机の前/*机に(来て!) あの人の次

[khal] X-ijn eež / širee-nij xažuud
 X-GEN 母親 机-GEN 横
 / širee-nij ömnö / širee rüü ir
 机-GEN 前 机 DIR 来る.IMP
 / ter xün-ij daraa
 あれ 人-GEN 次

[khor] X Guwai-yin eji / sirege-yin qaǰayu-du
 X さん-GEN 母親 机-GEN 横-DAT
 / sirege-yin emün_e/ *sirege-yin deger_e (ir-egereil)
 机-GEN 前 机-GEN 上 来る-POLIT.IMP
 / tere kümün-ü daray_a
 あれ 人-GEN 次

(36) バラの花びら 果物のナイフ 紙の飛行機 チューリップの絵
 花の匂い 英文の手紙 日本語の先生 井戸の水 雨の日

[khal] sarnaj-n delbee / žims-nij xutga
 バラ-GEN 花びら 果物-GEN ナイフ
 / caasan oncoc / altanzul-yn zurag
 紙 飛行機 チューリップ-GEN 絵
 / cecg-ijn ünér / angli zaxia
 花-GEN 匂い 英語 手紙
 / japon xel-nij bagš / xudg-ijn us / boroo-toj ödör
 日本 言葉-GEN 先生 井戸-GEN 水 雨-PROP 日

「紙の飛行機」のように材料の名詞の場合に、これを属格にして *caasan-y oncoc とするのは変で、用いられないという。

angli zaxia 「英文の手紙」は、この表現で問題ないという。

「雨の日」についても、属格を用いた *boroo-ny ödör は言えないという。この句はどのゆおな解釈も不可能であるという。天気というものは自分で決められない、制御できないものであるため、このようには言えない気がするという。

[khor] xuwar-un nabci / ĵimis-un xituy_a
 花-GEN 葉 果物-GEN ナイフ
 / čiyasu-yin nisgel čiyasu-yiar ki-gsen nisgel
 紙-GEN 飛行機 紙-INS 作る-VN.PST 飛行機
 / yujinxiang-yin ĵirug
 チューリップ-GEN 絵
 / xuwar_a-yin ünür / angglic kele-yin ĵakidal
 花-GEN 匂い 英語-GEN 手紙
 / yapon kele-yin bagsi / qudduy-un usu / boruyan-tai edür
 日本 言葉-GEN 先生 井戸-GEN 水 雨-PROP 日

この方言では「紙（という材料）の飛行機」を言うのに属格の表現が使えるという。なおチューリップ（郁金香 *yujinxiang*）は漢語からの借用語である。

(37) 妹の花子／社長の田中さん

[khal] düü xanako / zaxiral tanaka
 弟妹 花子 長 田中
 [khor] keüxen degüü xanako / daruy_a tanaka guwai
 娘 妹 花子 長 田中 さん

(38) となりの家の友達のお父さんの車のタイヤ（が昨日突然パンクしたんだって。）

[khal] xažuu ajl-yn najz-yn maan' aav-yn-x n' mašin-y
 そば 家-GEN 友人-GEN 1PL.POSS 父親-GEN-ATTR 3SG.POSS 車-GEN
 duguj öčigdör genet xagar-san gesen š dee.
 タイヤ 昨日 突然 割れる-VN.PST QUOT MP MP
 [khor] ĵergeledege ayil-yin nayĵa-yin abu-yin tergen xürdü (ni
 そば 家-GEN 友人-GEN 父親-GEN 車 タイヤ 3SG.POSS
 öčögedür genedte ebderčixe-ĵei gen_e.)
 昨日 突然 割れる-PST QUOT

モンゴル語の諸方言では、属格の連続使用に対して抵抗はないようである。

末筆になるが、コンサルタントの方々に深くお礼申し上げたい。札幌学院大学の山越康裕氏には、草稿をチェックしていただいた。記して御礼申し上げたい。無論、間違いがあればそれは全て筆者の責任である。

ABL ablative 奪格
ACC accusative 対格
ADVERS adversative 逆接
ATTR attributive 修飾
COND conditional converb 条件副動詞
CUM cumulative 累加
DAT dative 与位格
DIR directive 方向小辞
E epenthesis 音添加
EC echo word エコーワード
GEN genitive 属格
HAB habitual 恒常
INS instrumental 道具格
MP modal particle ムード小詞
NEG negative 否定

略号

NPST non-past 非過去
PASS passive 受身
PL plural 複数
POLIT polite 丁寧
POSS possessive particle 人称所属小詞
PROP proprietive 所有
PRS present 現在
PST past 過去
QP questionnal particle 疑問小詞
QUOT quotational marker 引用標識
SG singular 単数
SIM simultaneous converb 同時副動詞
SIMLT similitude 比況
VN verbal nominal 形動詞語尾

ナーナイ語の所有表現

風間 伸次郎

ナーナイ語はツングース諸語の1つである。ツングース諸語は、類型的にみて日本語にもよく似たタイプの言語で、もっぱら接尾辞による膠着型言語である。語順はHead-final, つまりSOVで修飾語-被修飾語の語順をとる。基本的にIPAをベースにした音素表記によるが、一音素一文字の原則などの理由から、次のような独自の音素表記も用いている: č[tc], ʃ[ɕ], ŋ[n].

コンサルタントはKile, Lidiya Timofeevna氏(1938年, ナイヒン村生まれ, 女性)である。調査はロシア語を媒介言語にして行った。今回の例文はあまり構文の複雑なものではなかったもので、日本語のアンケートをもとに筆者(風間)がロシア語に翻訳しながらナーナイ語を訊いた。ロシア語に関して不安な点は氏に修正していただいた(氏はロシア語とのバイリンガルである)。日本語文の下の[]内に使用したロシア語文を示す(フォントの都合上, ラテン文字に転字したものを示す, 転字の対応については省略する)。なお, 今回の調査では, コンサルタントにただ訳してもらえばかりではなく, 筆者(風間)がいくつか可能性のある表現を作例し, その句/文の適格性を判断してもらう場合もあったことをこたわっておく。また, 連体修飾句などを調査する場合には, 適宜, 語を補って文の形にして訊いた。

(1) あの人(は)青い目(を)している。 / 青い目(の)人・目(が)青い人

[U nee sinie glaza.]

ňoani nasal-ni ŋongian.

彼女 目-3SG 青い

次のような文は一応理解できるが, あまり聞かない, 発話するのはまれであろうという。

ňoani ŋongian(-ji) nasal-ko.

彼女 青い-INS 目-PROP

次のように言うと, 「青い目」というものが何か別個に存在する物であるかのように感じられるという。

ňoan-do-a-ni ŋongian nasal bi-i-ni.

彼女-DAT-OBL-3SG 青い 目 ある-PTCP.PRS-3SG

次のような文は可能で、ふつうに用いられるという。

ňoan-do-a-ni ňongian nasal.
彼女-DAT-OBL-3SG 青い 目

なお調査の際の不幸で、(1)～(6)に関しては連体修飾句の該当表現を調査し損なってしまった。

(2) あの女 {は／の} 髪が長い・あの女は長い髪をしている

[U nee dlinnyj volas.]

ロシア語を提示して最初に得られたのは次の文であった。

ňoan-do-a-ni ňonimi nuktə.
彼女-DAT-OBL-3SG 長い 髪

次に2文のような表現も問題ないとのことであった。

ňoani ňonimi-ŷi nuktə-ku.
彼女 長い-INS 髪-PROP
ňoani nuktə-ni ňonimi.
彼女 髪-3SG 長い

次のような文は可能だが、「頭のある部分は髪が長く、別の部分は短く、虎刈りになっている、というような意味に解釈される、使わない方が良い文である、」とのことであった。

ňoan-do-a-ni ňonimi nuktə bi-i-ni.
彼女-DAT-OBL-3SG 長い 髪 ある-PTCP.PRS-3SG

(3) あの人には髭がある。

[U nego usy.]

ňoani gogakta-ko.
彼 髭-PROP

この場合には bi-i-ni 「ある-PTCP.PRS-3SG」を用いて完全な存在文にしても表現できるという。「目や髪の毛とは違って、髭はある人もいれない人もいるから、」であるという。

ňoan-do-a-ni gogakta (bi-i-ni).
彼-DAT-OBL-3SG 髭 ある-PTCP.PRS-3SG

(4) あの人には（見る）目がある。

このような文は直訳しても成立しないという。次のような文は、「On vypivshij., すなわち完全な酔っ払いではないが少し酔っ払っている、という意味に解釈され、『目のいい人』

という意味には解釈できない。」という。

ňoani nasal-ko.
 彼 目-PROP

さらに次のような表現は、『足の速い人』の意味にとれなくもないが、『1歳くらいの子供でもう歩ける』、とか『病気の人々の中で歩ける』、などの意味に解釈されるだろう。」という。

ňoani bəgji-ku.
 彼 足-PROP

次のような存在文は如何様にも解釈できず、非文であるという。

*ňoan-do-a-ni nasal bi-i-ni.
 彼-DAT-OBL-3SG 目 ある-PTCP.PRS-3SG

(5) あの人 は 22 歳だ。

[Emu 22 goda.]
 ňoani xor(in) juər səə.
 彼 二十 二 歳

次の 2 文も可能であるという。

ňoani xor(in) juər-ji səə-ku.
 彼 二十 二-INS 歳-PROP
 ňoan-do-a-ni xor(in) juər səə.
 彼-DAT-OBL-3SG 二十 二 歳

しかし存在動詞を用いた完全な存在文は非文と判断された。

*ňoan-do-a-ni xor(in) juər səə bi-i-ni.
 彼-DAT-OBL-3SG 二十 二 歳 ある-PTCP.PRS-3SG

(6) あの人 は 優しい性格だ。

[U nego dobryj xarakter.]

次の 2 文は的確な文であると判断された。

ňoani muru-ni uləən.
 彼 心-3SG 良い
 ňoani uləən-ji muruŋ-ku.
 彼 良い-INS 心-PROP

他方、次の2文は非文と判断された。

*ňoan-do-a-ni	uləən	murun	bi-i-ni.
彼-DAT-OBL-3SG	良い	心	ある-PTCP.PRS-3SG
*ňoan-do-a-ni	uləən	murun.	
彼-DAT-OBL-3SG	良い	心	

(7) あの人は背が高い。／背の高い人

[On vysokij.]

ňoani	gogda.	/	gogda	nai
彼	高い		高い	人

次のように与格を用いて存在文のように表現しようとする時、ňoan-doi gogda. [彼-COMP 高い] 「彼よりも高い」の意味になるという。

ňoan-do-a-ni	gogda.
彼-DAT-OBL-3SG	高い

(8) あの人は背が190センチもある。

[Ego rast 190 s.m.]

ňoani	gogda-laa-ni	190 s.m.
彼	高い-NMLZ-3SG	190 センチ

-laa は日本語の -sa のように形容詞についてその程度を示す名詞を形成する接辞である。

(9) その石は四角い形をしている。／四角い(形の)石

[Etot kamen' chetyrex ugol'noj formy.]

ai	řolo	duin-ři	řokan-ko	/	dua-ku.
これ	石	四-INS	角-PROP		端-PROP

(10) あの人には才能がある。／才能のある人

[On talantlivyj.]

次のような一連の表現が可能であるという。なお -so/-su は動詞につき、「～することの上手な人」などの意の名詞を形成する接辞である。派生接辞であるにもかかわらず、下記の例のように動詞の項構造を保持している点で注目し値する。

ňoani	xai-wa=daa	xəm	saa-so.
彼	何-ACC=CUM	全て	知る-NMLZ

ňoani	xai-wa=daa	xəm	otoli-so.
彼	何-ACC=CUM	全て	わかる-NMLZ
xai-wa=daa	xəm	otoli-i	nai
何-ACC=CUM	全て	わかる-PTCP.PRS	人
ɲaala-ni	paksii	nai	
手-3SG	器用	人	

- (11) あの人は病気だ. /あの人は熱がある. /病気の人の人
[On bolen. On boleet.]

ňoani	ənusi-i-ni.
彼	病んでいる-PTCP.PRS-3SG

[bol'noj chelavek]
ənusi-i nai
病んでいる-PTCP.PRS 人

次のように -so/-su を用いた表現は、「しょっちゅう病気する人や子供」を意味するとい
う。

ənusi-su	nai
病んでいる-NMLZ	人

[U nego temperatura.]
ňoani poloŋ-ko.
彼 熱-PROP

この場合、存在文による表現も可能であるという。恒常的な状態ではないためであろう。

ňoan-do-a-ni	polon	(bi-i-ni).
彼-DAT-OBL-3SG	熱	ある-PTCP.PRS-3SG
poloŋ-ko	nai	
熱-PROP	人	

- (12) あの人は青い服を着ている. /青い服の男
[On nadel sinij kostjum.]

ňoani	ňongian	tətuə-wə	tətu-xə-ni.
彼	青い	服-ACC	着る-PTCP.PST-3SG

上の例に見るように過去形動詞が使われる。このような例から考えれば、この形動詞は

「過去」ではなく「完了」形動詞と呼ぶべきかもしれない。次のように現在形動詞を用いた文は、「着ている最中、もしくは着ようとしていてまだ来ていない状態についてのみ言える」という。

ňoani ñongian tətua-wə tətu-i-ni.
 彼 青い 服-ACC 着る-PTCP.PRS-3SG

所有の接辞を用いた次のような文でも表現可能であるという。

ňoani ñongian-ji tətua-ku.
 彼 青-INS 服-PROP
 ñongian-ji tətua-ku (nai) ji-či-ni.
 青-INS 服-PROP 人 来る-PTCP.PST-3SG

次のように存在文を用いて表現した場合には、家などにあるかも知れず、現在着ているかどうかはわからない、時に着る、というようなニュアンスが感じられるという。

ňoan-do-a-ni ñongian tətua bi-i-ni.
 彼-DAT-OBL-3SG 青い 服 ある-PTCP.PRS-3SG

(13) あの人はメガネをかけている。 / メガネの男

[On nadel ochki.]

ňoani { nasaptom-bi / nasaptom-ba } tətu-xə-ni.
 彼 メガネ-REF.SG / メガネ-ACC 身に着ける-PTCP.PST-3SG
 ñoani nasaptorj-ko.
 彼 メガネ-PROP

上記の表現はメガネをかけている時にのみ用いることができる。ポケットに入っている時などには用いることができない。そのような場合には下記のような表現となる。

ňoan-do-a-ni nasapton bi-i(-ni).
 彼-DAT-OBL-3SG メガネ ある-PTCP.PRS-3SG

この場合に、再帰人称を用いることはできない。再帰人称を支配できるのは主格の主語だけのようであり、この意味での与格主語は成立しない。

*ňoan-do-a-ni nasaptom-bi bi-i(-ni).
 彼-DAT-OBL-3SG メガネ-REF.SG ある-PTCP.PRS-3SG

1 人称の所有とすれば文が成立する。

nasaptom-bi karman-do(-ji-ja) bi-i(-ni).
 メガネ-1SG ポケット-DAT-1SG-OBL ある-PTCP.PRS-3SG

*nasaptom-bi karman-do-ji bi-i(-ni).
 メガネ-REF.SG ポケット-DAT-REF.SG ある-PTCP.PRS-3SG

(14) あの人には妻がいる。 / 既婚の人・妻のいる人

[On zhenatyj.]
 ŋoani asi-ko. / asi-ko nai
 彼 妻-PROP 妻-PROP 人

この場合には存在文では表現できないという。

*ŋoan-do-a-ni asi bi-i-ni.
 彼-DAT-OBL-3SG 妻 ある-PTCP.PRS-3SG

(15) あの人には3人子供がいる。 / 3人の子持ちの人・あの人の子供3人の子供 / 妊娠している女性

[U nego troj detej.]
 ŋoani ilaan piktə-ku.
 彼 三 子供-PROP

この場合には存在文による表現が可能であるという。

ŋoan-do-a-ni ilaan piktə (bi-i).
 彼-DAT-OBL-3SG 三 子供 ある-PTCP.PRS
 ilaan-ji piktə-ku nai
 三-INS 子供-PROP 人

piktə-ku əktə [子供-PROP 女] は「妊娠している女性」の意味では使えないという。「妊娠している女性」は次のように表現するという。

piktə-gu-ji ələə baa-rii əktə-wə saa-rii-ja.
 子供-DESIG-REF.SG 今にも 得る-PTCP.PRS 女-ACC 知る-PTCP.PRS-1SG

次のような慣用句的な表現もある。

bəjə-du bi-i əktə
 体-DAT ある-PTCP.PRS 女

「妊娠初期の女性」を意味する表現には次のようなものがあるという。辞書 (Onenko 1980) には「妊娠2か月目の女性」のとあるが、コンサルタントによれば、2か月目に限られず、3や4の数詞から派生した表現も無いという。juər「二」はここでは「二人」を意味しているのだという。

tai əktə juər-pun. / juər-pun əktə
 あれ 女 二-NMLZ 二-NMLZ 女

- (16) クモには足が 8 本ある.

[U pauka vosem' nog.]

atkajan bəgji-ni jakpon. / atkajan jakpon-ji bəgji-ku.
 クモ 足-3SG 八 クモ 八-INS 足-PROP
 atkajan-do jakpon bəgdi.
 クモ-DAT 八 足

上記の表現が可能であるのに対し、存在動詞を用いた次の表現は非文であるという.

*atkajan-do jakpon bəgji bi-i-ni.
 クモ-DAT 八 足 ある-PTCP.PRS-3SG

- (17) その飲み物にはアルコールが入っている. / アルコール入りの飲み物

[Eto alkagol'nyj napitok.]

ai arki-ko.

これ 酒-PROP

arki-ko napitoka-wa omi-mi mutə-əsi-ji.
 酒-PROP 飲み物-ACC 飲む-SIM できる-PTCP.NEG.PRS-1SG

次のように存在動詞を用いた表現も言えるが、これは「ちょっと飲んでみた時などに言う」文であるという.

ai napitoka-do arki bi-i-ni.
 これ 飲み物-DAT 酒 ある-PTCP.PRS-3SG

- (18) あの人はお金を持っている. / お金持ちの人

[U nego est' den'gi.]

ňoan-do-a-ni jixa bi-i-ni.
 彼-DAT-OBL-3SG お金 ある-PTCP.PRS-3SG

[bogatyj chelovek]

bajan nai
 裕福な 人

次のように所有接辞を用いた句でも、bajan naj と同様の意味が実現するという。裕福さ

の程度は同じくらいだが、しいて言えば *jixa-ko nai* のほうがもう少し金持ちのような気がするという。

ñoani jixa-ko.
 彼 お金-PROP

(19) おまえのところには犬がいるか? / 犬のいる人

[U *vas est' sobaka?*]
sindu inda bi-i?
 おまえ.DAT 犬 ある-PTCP.PRS
sii inada-ko-si?
 おまえ 犬-PROP-2SG
inda-ko nai
 犬-PROP 人

「犬のいる人」は存在動詞によっては表現されない。

**inda bi-i nai*
 犬 ある-PTCP.PRS 人

コンサルタントは次のような句がよいとして提示した。

inda-wa ataxi-i nai
 犬-ACC 飼う-PTCP.PRS 人

(20) おまえは（自分の）ペンを持っているか? / ペンを持っている人

[U *tebja est' ruchka?*]

最初に提示されたのは存在動詞による文であったが、所有の接辞による文も問題ないという。なお *-ko/-ku* は道具を示す名詞を形成する派生接辞である。

sindu niru-ku bi-i?
 おまえ.DAT 書く-NMLZ ある-PTCP.PRS
sii niru-ku-ku-si?
 おまえ 書く-NMLZ-PROP-2SG
niru-ku-ku nai bi-i=nuu?
 書く-NMLZ-PROP 人 ある-PTCP.PRS=INTERR

(21) あの人は（誰か別の人の）ペンを持っている。

[U nego est' chuzhaja ruchka.]

ňoan-do-a-ni goi nai niru-ku-ni bi-i.
彼-DAT-OBL-3SG 別の 人 書く-NMLZ-3SG ある-PTCP.PRS

「自分のペンを持っている」という場合には次のように表現するという。

ňoani niru-ku-ni ňoan-do-a-ni bi-i.
彼 書く-NMLZ-3SG 彼-DAT-OBL-3SG ある-PTCP.PRS

(22) あの人は運がいい。／幸運な人

[Emu vezet. / On udachliv(yj).]

ňoani kəsi-ku. / kəsi-ku nai
彼 幸福-PROP 幸福-PROP 人

存在文では表現できないという。存在動詞を用いなくてもやはり非文であるという。

*ňoan-do-a-ni kəsi bi-i.
彼-DAT-OBL-3SG 幸福 ある-PTCP.PRS
*ňoan-do-a-ni kəsi.
彼-DAT-OBL-3SG 幸福

余談だが、氏の祖母はいつも kəsi xaali=daa pakario nai-či jī-dəsi。「幸運は黒々と目に見えるような形では人のところにやって来ないものだ、」とっていたという。

(23) ここは石が多い。／石の多い土地

[Zdes' kamnej mnoga.]

ai-du jolo(-sal) əgji.
これ-DAT 石-PL 多い

次のように所有の接辞を用いても表現できる。ロシア語訳は Eto kamenistaja zemlja. となるという。

ai naa əgji-ji jolo-ko.
これ 土地 多い-INS 石-PROP
ai naa əgji jolo-ko.
これ 土地 多い 石-PROP

次のよう表現も、kamenistaja zemlja の意で用いることができるという。

ʃolo-ko naa
石-PROP 土地

- (24) その部屋には椅子が3つある / 3つ椅子のある部屋

[V etoj komnate tri stula.]

ai komnata-do ilaan baŋdan.
これ 部屋-DAT 三 椅子

所有の接辞による表現も可能であるという.

ai komnata ilaan-ʃi baŋdan-ko.
これ 部屋 三-INS 椅子-PROP
ilaan-ʃi baŋdan-ko komnata
三-INS 椅子-PROP 部屋

- (25) テーブルの上にスプーンがある. / スプーンのあるテーブル

[Na stole est' lozhka.]

dərə-du xoŋaan bi-i.
テーブル-DAT スプーン ある-PTCP.PRS

この場合には所有の接辞による表現は不可で、どのようにも意味が解釈できないという.

*dərə xoŋaan-ko.
テーブル スプーン-PROP
*xoŋaan-ko dərə
スプーン-PROP テーブル

連体修飾の表現はやはり次のように存在動詞によって形成される.

xoŋaan bi-i-ni dərə-či ənə-u.
スプーン ある-PTCP.PRS テーブル-DIR 行く-IMP

- (26) そのスプーンはテーブルの上にある. / テーブルにあるスプーン

[Lozhka (naxoditsja) na stole.]

xoŋaan dərə-du bi-i.
スプーン テーブル-DAT ある-PTCP.PRS
dərə-du bi-i xoŋaan.
テーブル-DAT ある-PTCP.PRS スプーン

(27) そのペンは私のだ. ・そのペンは太郎のだ. / 私のペン・太郎のペン

[Eto ruchka - moja.]

次の文の -ngi [Poss] という接辞は「～のもの」という名詞を形成する接辞で、ロシア語学でいう「物主代名詞」のようなものを形成する接辞である。日本語で言えば形式名詞 *no* のような働きを示す。

ai mii niru-ku-ji. / ai niru-ku mi-ngi.
 これ 私 書く-NMLZ-1SG これ 書く-NMLZ 私-POSS

[Eto ruchka - Sashina.]

ai sasha niru-ku-ni. / ai niru-ku sasha-ngi.
 これ サーシャ 書く-PROP-3SG これ 書く-NMLZ サーシャ-POSS

(28) 昨日、学校で火事があった. / 私は明日用事があります.

[Vchera v shkole byl pozhar.]

čisæniæ shkola-do jægðæ bi-čin.
 昨日 学校-DAT 火事 ある-PTCP.PST

所有の接辞によっては表現できない。

*shkola jægðæ-ku bi-čin.
 学校 火事-PROP ある-PTCP.PST

[Zavtra u menja est' delo.]

čimana mindu jobon bi-i.
 昨日 私.DAT 仕事 ある-PTCP.PRS
 / čimana mii joboŋ-ko-ji.
 昨日 私 仕事-PROP-1SG

上記に見るように、「火事」や「仕事」はデキゴトであって具体的なモノではない。日本語では「ある」が使えるが、その意味は「モノの存在」ではなく、「デキゴトの生起」である。モンゴル語などではこのような場合に存在動詞は使えないようであるが、ナーナイ語では許容されることがわかる。ただしロシア語からの干渉ではないかという疑念は若干残っている。

(29) (この世には) お化けなんていない.

[(Ja dumaju) privedenie ne sushshestvuet.]

mii murči-i-ji, garbia-wori jaka abaa.
 私 思う-PTCP.PRS-1SG 夢に現れる-PTCP.IMPERS もの 無い

- (30) (そこには) 英語を話す人もいるが、話さない人もいる.

[Tam est' kto govorit po-angliski, i est' kto ne govorit po-angliski.]

[Tam est' govorjashshie po-angliski, i ne govorjashshie.]

[Tam est' znajushshie angliskij, i ne znajushshie.]

tado	<i>anglija</i>	<i>xəsə-wə-ni</i>	<i>saa-rii</i>	<i>nii=daa</i>	<i>bi-i,</i>
それ-DAT	英	語-ACC-3SG	知る-PTCP	人	ある-PTCP.PRS
<i>saa-rasi</i>		<i>nii=daa</i>	<i>bi-i=jə.</i>		
知る-PTCP.NEG.PRS		人=CUM	ある-PTCP.PRS=EMP		
tado	<i>poani</i>	<i>anglija</i>	<i>xəsə-wə-ni</i>	<i>saa-rii,</i>	
それ-DAT	ある者	英	語-ACC-3SG	知る-PTCP.PRS	
<i>poani</i>	<i>saa-rasi.</i>				
ある者	知る-PTCP.NEG.PRS				

- (31) 私より英語ができる人は (ほかに/もつと) います.

[Zdes' est' eshshe kto govorit po-angliski luchshe chem ja.]

まず提示された次の文は疑問文であるという.

<i>əi-du</i>	<i>ui=dəə</i>	<i>bi-i,</i>	<i>anglija</i>	<i>xəsə-wə-ni</i>	<i>mindui</i>
これ-DAT	誰=CUM	ある-PTCP.PRS	英	語-ACC-3SG	私.COMP
<i>uləən</i>	<i>saa-rii</i>	<i>nii?</i>			
良い	知る-PTCP.PRS	人			

次のような文が平叙文であるという.

<i>əi-du</i>	<i>ui=nuu</i>	<i>bi-i,</i>	<i>anglija</i>	<i>xəsə-wə-ni</i>	<i>mindui</i>
これ-DAT	誰=CUM	ある-PTCP.PRS	英	語-ACC-3SG	私.COMP
<i>uləən</i>	<i>saa-rii</i>	<i>nii.</i>			
良い	知る-PTCP.PRS	人			

<i>əi-du</i>	<i>mindui</i>	<i>uləən</i>	<i>anglija</i>	<i>xəsə-wə-ni</i>
これ-DAT	私-COMP	良い	英	語-ACC-3SG
<i>saa-rii</i>	<i>nai</i>	<i>bi-i=jə.</i>		
知る-PTCP.PRS	人	ある-PTCP.PRS=EMP		

- (32) ちょっとあなたにお願いがあります.

[U menja pros'ba k tebe.]

<i>mii</i>	<i>simbiə</i>	<i>mədəsi-ičə-i-ji.</i>
私	あなた.ACC	訊く-INT-PTCP.PRS-1SG

次の文は筆者の作例したものだが、少し変な文である、と判断された。

?? mindu sinči ŋanga gələ-uri baita
私-DAT あなた-DIR 少し 求める-PTCP.IMPERS 事
bi-i.
ある-PTCP.PRS

次の文はコンサルタントが修正を加えた文だが、やはりなおも少し変な文に感じられるという。

?? sinči ŋanga gələ-uri baita,
あなた-DIR 少し 求める-PTCP.IMPERS 事
mindu bi-i.
私.DAT ある-PTCP.PRS

(33) 冬の雨 東京の家

[V zimnij dozhd' xolodno.]

tuə tugdə-ni nonji. / tuə tugdə-du nonji.
冬 雨-3SG 寒い 冬 雨-DAT 寒い

[Domik v dade staryj?]

daa-do bi-i joo(-si) goropči?
ダダ村-DAT ある-PTCP.PRS 家-2SG 古い

なおダダ村はコンサルタントの住むナイヒン村の近隣の村である。所有構造による句は成立しないようだ。

*daa joo-ni goropči?
ダダ村 家-3SG 古い

(34) 犬の鳴き声／車の運転／～の小説

[Sobachij laj slyshno.]

コンサルタントから得られた次の句は形動詞とその主語による節を形成しているため、所有構造ではない。

inda waači-i-wa-ni doolji-ori.
犬 吠える-PTCP.PRS-ACC-3SG 聞く-PTCP.IMPERS

[Trudno vodit' mashinu?]

ここでも形動詞が用いられるため、所有構造による表現は得られなかった。

<i>mashina</i>	<i>vodila-ori(-ni)</i>	<i>manğa?</i>
車	運転する-PTCP.IMPERS-3SG	難しい
<i>mashina-wa</i>	<i>vodila-ori</i>	<i>manğa?</i>
車-ACC	運転する-PTCP.IMPERS	難しい

[Chitali vy stixi Andreja Possara?]

アンドレイ パッサールはナーナイの詩人である。

<i>sii</i>	<i>andrej</i>	<i>possar</i>	<i>stixatvarenie-səl-bə-ni</i>	<i>xola-ka-si?</i>
あなた	アンドレイ	パッサール	詩-PL-ACC-3SG	読む-IND.PST-2SG

(35) 机の {横/前} に立って/?机に (来て!) /あの人の次

[Stoj (rjadom) okolo stola!]

ナーナイ語には日本語の場所名詞に良く似た一連の語が存在する。

<i>dərə</i>	<i>jakpa-do-a-ni</i>	<i>ilisi-u!</i>	<i>dərə</i>	<i>juljə-lə-ni</i>	<i>ilisi-u!</i>
机	そば-DAT-OBL-3SG	立つ-IMP	机	前-LOC-3SG	立つ-IMP

[Idi k stolu!]

名詞のトコロ性に関する顕著な制限は認められない。

<i>dərə-či</i>	<i>ən-uu</i>	/	<i>ji-duu.</i>
机-DIR	行く-IMP		来る-IMP

<i>dərə</i>	<i>baaro-a-ni</i>	<i>ən-uu.</i>
机	方-OBL-3SG	行く-IMP

[Kto sledujushij za nim?]

<i>ui</i>	<i>ňoani</i>	<i>xamia-la-ni?</i>
誰	彼	後ろ-LOC-3SG

(36) バラの花びら 果物のナイフ 紙の飛行機 チューリップの絵

[tsvetok rozy]

<i>roza</i>	<i>čačaka-ni</i>
バラ	花-3SG

[nozh dlja fruktov]

<i>amtaka</i>	<i>kučəə-ni</i>
果物	ナイフ-3SG

上記の句では何を指しているのかよくわからない可能性があるので次のように言うとよいという。

amtaka čaaso-ori kučəən
果物 切る-PTCP.IMPERS ナイフ

[samolet iz bumagi / bumazhnyj samolet]

-ma/-mə は材料等を示す形容詞を形成する派生接辞である。

xaosa-ma samoleta
紙-ADJVLZ 飛行機

これに対し、次のように所有構造で表現すると、「紙の上に飛行機があるかのような感じ」がするという。

*xaosan samoleta-ni
紙 飛行機-3SG

[risunok lilii]

lilija ilga-ni / lilija-wa ilga-la-xan ilga
百合 絵-3SG 百合-ACC 絵-VLZ-PTCP.PST 絵

前者の句はリリヤという女の子が描いた絵のようにも受け取れるので、後者の句のほうが良いという。

花の匂い 英文の手紙 日本語の先生 井戸の水 雨の日

[zapax tsvetka]

čačaka puu-ni
花 匂い-3SG

[pis'mo napisana po-nanajskij]

nanai-ji niru-wuxən bičxə
ナーナイ-INS 書く-PTCP.IMPERS.PST 文字/手紙

nanai xəsə-ni bičxə-ni
ナーナイ 言語-3SG 文字-3SG

この句は「ナーナイの表記法」の意に解釈されるという。

次のような句はいずれもその意味がよく理解できないという。

*nanai-ji bičxə *nanai bičxə-ni
ナーナイ-INS 文字 ナーナイ 文字-3SG

(37) 姉の花子／社長の田中さん

[Eto moja sestra marija.]

ai mii əikə-ji marija.
これ 私 姉-1SG マリア-3SG

上記の意味で次のような所有構造の句を用いることはできないという.

*əikə-ji marija-ni
姉-1SG マリア-3SG

その場合には次のように表現しなければならないという.

əikə-ji gərbu-ni marija
姉-1SG 名前-3SG マリア

正しいのかどうか忘れてしまって確認したい場合には、固有名詞である *marija* に次のように 3 人称の所有人称接辞がついた形が使われるという. この文は *sii əikə-si gərbu-ni* が主語である文と考えていたが、もしかすると *sii əikə-si* が主語である可能性もあり得る.

sii əikə-si gərbu-ni marija-ni?
あなた 姉-2SG 名前-3SG マリア-3SG

これに対し、知らなくて単に訊く場合には次のように言うという.

sii əjkə-si gərbu-ni marija?
あなた 姉-2SG 名前-3SG マリア

(38) となりの家の友達のお父さんの車のタイヤ (が昨日突然パンクしたんだって.)

[Vdrug lopnulo koleso mashiny ottsa moego druga.]

次のように、4 つの所有構造を連続させた句による表現は、いちおう理解はできるものの、良い文ではないとのことであった.

?? mii jia-ji ami-ni mashina-ni koleso-ni
私 友達-1SG 父親-3SG 車-3SG タイヤ-3SG
olokiana boja-xa-ni.
突然 壊れる-PTCP.PST-3SG

次の文は、動詞を用いることによって所有構造を 1 つ減らしたもので、筆者による作例である. コンサルタントによれば、この方がよりましであるものの、依然として良い文とは言えないとのことであった. 総じてナーナイ語では所有構造が連続することは好まれない

いと言ってよいであろう。

? mii ĵia-ji amin-do-a-ni bi-i mashina koleso-ni
私 友達-1SG 父親-DAT-OBL-3SG ある-PTCP.PRS 車 タイヤ-3SG
olokiana boja-xa-ni.
突然 壊れる-PTCP.PST-3SG

末筆になるが、高齢にもかかわらず来日して私を助けて下さった L. T. Kile 氏に深く感謝申し上げたい。細かい表記のミスなども指摘して下さい。査読の方にも感謝申し上げたい。勿論、何かミスがあればそれは筆者の責任である。

略号・記号

1, 2, 3: 1st person, 2nd person, 3rd person

ACC: accusative 対格

ADJVLZ: adjectivalizer 形容詞化

COMP: comparative 比較格

CUM: cumulative 累加

DAT: dative 与格

DESIG: designative case 指定格

DIR: directive 方向格

EMP: emphasis 強調

IMP: imperative 命令法

IMPERS: impersonal 非人称

IND: indicative mood 直説法

INS: instrumental case 道具格

INT: intentional 意志形

LOC: locative 処格

NEG: negative 否定

NMLZ: nominalizer 名詞化

OBL: oblique 斜格標示

PST: past 過去

PL: plural 複数

POSS: possessive 所有

PROP: proprietive 恒常的所有

PRS: present 現在

PTCP: participle 形動詞

REF: reflexive 再帰

SG: singular 単数

VLZ: verbalizer

参考文献

Onenko, S. N. 1980. *Nanajsko-russkij slovar'*. Russkij jazyk, Moskva.

中国語

三宅 登之

小稿では、中国語の所有・存在表現について、アンケート項目に回答する形を通じて、中国語のデータを検討してみたい。¹

(1) あの人は青い目をしている。

他 长着 蓝 眼睛。

Tā zhǎngzhe lán yǎnjīng.

青い目の人・目が青い人

蓝 眼睛 的 人

lán yǎnjīng de rén

通常は2語以上のフレーズが連体修飾語になる際には、構造助詞“的”を介在する。「青い目をしている」が述語の位置に置かれた場合は、「できる、生じる」のような動詞と、状態の持続を表すアスペクト助詞“着”が必要であるが、「青い目の人」のように連体修飾語構造になると、動詞句は不要である。

(2) あの女 {は／の} 髪が長い・あの女は長い髪をしている

那个 女的 留着 长 头发。

Nèige nǚ de liúzhe cháng tóufa.

長い髪の女・髪の長い女

长 头发 的 女人

cháng tóufa de nǚrén

(1)と同様に、述語になる場合には「(長髪を)たくわえる」という動詞に状態の持続を表すアスペクト助詞“着”を後置させる。(主語に位置している“的”は、ここでは「女性」という名詞性成分を作る構造助詞である。)それに対し、連体修飾語の位置に立ったときに

¹ 中国語データは、中国語ネイティブスピーカーである畢璽、白珍花、林仙云、崔婷（敬称略、いずれも小稿執筆当時本学に在学中の中国人留学生）の四氏にご提供いただいた。心より感謝の意を表したい。ただし、小稿の内容に誤りや問題点があれば、それは全て筆者の責任に帰するものである。

は、動詞句に相当するものは不要である。

(3) あの人には髭がある。

他 留着 胡子。

Tā liúzhè húzi.

髭の男

胡须 男

húxū nán

(3)も同様である。髭をたくわえているという述語では、動詞+アスペクト助詞“着”が用いられる。一方、“胡须男”というのは慣用的な表現である。

(4) あの人には（見る）目がある。

他 有 眼光。

Tā yǒu yǎnguāng.

見る目のある人

有 眼光 的人

yǒu yǎnguāng de rén

日本語の「見る目がある」の「見る目（眼力・見識）」の意味を表す際には、そのような意味の語“眼光”を用いる。また、ここで用いられている動詞“有”が、中国語における典型的な所有と存在を表す動詞である。ここでは所有の意味で用いられている。

(5) あの人は22歳だ。

他 二十二 岁。

Tā èrshí' èr suì.

22歳の人

二十二 岁 的人

èrshí' èr suì de rén

年齢表現においては、中国語では通常動詞を用いず、名詞述語文の形を用いる。上では“他”が主語、“二十二岁”が述語である。修飾構造になった際にも当然動詞は用いること

はない。

(6) あの人は優しい性格だ。

他 性格 很好。

Tā xìnggé hěn hǎo.

優しい性格の人

性格 好 的人

xìnggé hǎo de rén

「あの人は優しい性格だ」の場合、中国語ではいわゆる二重主語文の形をとっている。「あの人」(彼)“他”がまず全体の主語となり、それに対する述語が後続するが、述語の中がさらに、「性格が」「性格」という主語と、「とてもよい」「很好」という述語に分かれている。

(7) あの人は背が高い。

他 很高。

Tā hěn gāo.

背の高い人

高 个子 的人

gāo gèzi de rén

「あの人は背が高い」という文においては、中国語では人が主語に立ち「高い」といえば、それは身長が高いという意味が含意される。ただ、「背の高い人」のような修飾構造になると、日本語同様、「身長、背丈」という語“个子”が使われている。

(8) あの人は背が190センチもある。

他 有 一百 九十 公分。

Tā yǒu yìbǎi jiǔshí gōngfēn.

動詞に所有・存在を表す“有”が使われており、形式的には「彼は190センチを持っている」という所有表現となっている。「190センチを持っている」と言えばそれは身長のことであるというのは、「身長」という語を用いなくても、この文がすでに含意している。

(9) その石は四角い形をしている。
这个 石头 是 四方形 的。
Zhèige shítou shì sìfāngxíng de.

四角い（形の）石
四方形 的 石头
sìfāngxíng de shítou

文末の構造助詞“的”は名詞性成分を作る働きをしており、文全体は「この石は四角形の（もの）である」という言い方となっている。修飾構造中の“的”は、連体修飾語を構成するマーカーである。

(10) あの人には才能がある。
他 很 有 才能。
Tā hěn yǒu cáinéng.

才能のある人
有 才能 的 人
yǒu cáinéng de rén

(11) あの人には病いだ。
他 有 病。
Tā yǒu bìng.

あの人には熱がある。
他 发烧。
Tā fāshāo.

病気の人
生病 的 人
shēngbìng de rén

以上のように属性を表す場合には、所有を表す動詞“有”が用いられることがある。

(12) あの人は青い服を着ている。

他 穿着 蓝色 的 衣服。

Tā chuānzhe lán sè de yīfu.

青い服の男

穿 蓝色 衣服 的 人

chuān lán sè yīfu de rén

(13) あの人はメガネをかけている。

他 戴着 眼镜。

Tā dài zhe yǎn jìng.

メガネの男

戴 眼镜 的 男人

dài yǎn jìng de nán rén

衣服やメガネなどを身に着けている場合は、それぞれの目的語を身に着ける動作を表す動詞に、状態の持続を表すアスペクト助詞“着”を付加させて表すことが多い。

(14) あの人には妻がいる。

他 有 妻子。

Tā yǒu qīzi.

既婚の人・妻のいる人

已婚 的 人

yīhūn de rén

(15) あの人には3人子供がいる。

他 有 三个 孩子。

Tā yǒu sān ge hái zǐ.

3人の子持ちの人

有 三个 孩子 的 人

yǒu sān ge hái zǐ de rén

あの人の3人の子供
他 的 三 个 孩 子
tā de sān ge hái zi

妊娠している女性
怀 孕 的 女 性
huáiyùn de nǚ xìng

子供や妻など親族があるという場合は、所有を表す“有”を用いる。

(16) タコには足が8本ある。
章 鱼 有 八 支 爪 子。
Zhāngyú yǒu bā zhī zhǎuzi.

普遍的事実の例。タコは体の構造からいって本来的に足が8本備わっているのだが、この場合タコが8本の足を所有しているにとらえ、所有を表す動詞“有”を用いる。

(17) その飲み物にはアルコールが入っている。
那 个 饮 料 里 含 酒 精。
Nèige yǐnliào li hán jiǔjīng.

アルコール入りの飲み物
含 酒 精 的 饮 料
hán jiǔjīng de yǐnliào

この例の場合には、「含む」という意味の動詞“含”が用いられている。

(18) あの人はお金を持っている。
他 有 钱。
Tā yǒu qián.

お金持ちの人
有 钱 人
yǒu qián rén

(19) おまえのところには犬がいるか？

你 那 里 有 狗 吗？

Nǐ nàlǐ yǒu gǒu ma?

犬のいる人

养 狗 的 人

yang gǒu de rén

(18)(19)のような、恒常的な所有を表す文においては、動詞“有”が用いられる。

(20) おまえは（自分の）ペンを持っているか？

你 带 笔 了 吗？

Nǐ dài bǐ le ma?

ペンを持っている人

带 着 笔 的 人

dàizhe bǐ de rén

(21) あ的那个人は（誰か別の人の）ペンを持っている。

他 拿 着 一 支 笔。

Tā nǎzhe yì zhī bǐ.

(20)(21)のような「一時的な携帯」の場合は、所有を表す動詞“有”ではなく、具体的な動作を表す動詞が選択される。これらの例では「携帯する」という意味の“带”や、「手に持っている（握っている）」という意味の“拿”に、状態の持続を表すアスペクト助詞“着”が伴われていたり、文末に語気助詞“了”が用いられたりしている。

(22) あ的那个人は運がいい。

他 运 气 很 好。

Tā yùnqì hěn hǎo.

幸運な人

很 幸 运 的 人

hěn xìngyùn de rén

(23) ここは石が多い。
这里 石头 很多。
Zhèlǐ shítou hěnduō.

石の多い土地
石头 多的 地方
shítou duō de dìfang

(22)(23)のような「抽象的な所有物」や、「恒常的な存在」の場合は、中国語においては形容詞によって表現されることが多い。もちろん文意によっては所有を表す動詞“有”が選択される場合もありうると思われる。

(24) その部屋には椅子が3つある
那个 房间 有 三 把 椅子。
Nèige fángjiān yǒu sān bǎ yǐzi.

3つ椅子のある部屋
有 三 把 椅子 的 房间
yǒu sān bǎ yǐzi de fángjiān

(25) テーブルの上にスプーンがある。
桌子 上 有 个 汤匙。
Zhuōzi shàng yǒu ge tāngchí.

スプーンのあるテーブル
有 汤匙 的 桌子
yǒu tāngchí de zhuōzi

ある場所に不定の人や物が存在しているという意味を表す時には、「場所+“有”+存在物」という構文をとる。動詞“有”は、所有の意味と存在の意味のいずれも表し、いわば中国語においては動詞“有”を介して所有表現と存在表現がクロスする現象が見られる。

(26) そのスプーンはテーブルの上にある。
那个 汤匙 在 桌子 上。
Nèige tāngchí zài zhuōzi shàng.

テーブルにあるスプーン

桌子上的汤匙

zhuōzi shàng de tāngchí

中国語においては、「ある場所に不定のあるものがある」という存在を表す構文と、「特定のものがある場所にある」という所在を表す構文では、動詞だけでなく構文自体も異なったものを用いる。

存在を表す構文

桌子上 有 一本词典。

場所 “有” 不定の人・物

(机の上に辞書があります.)

所在を表す構文

你的词典 在 桌子上。

特定の人・物 “在” 場所

(あなたの辞書は机の上にあります.)

このように、ある特定の人・物が、「どこにいる・ある」のかを述べる、情報構造からすれば場所が新情報となる内容を述べる場合には、動詞“在”が選択されるだけでなく、“有”の構文とは、人・物と場所の語順が逆転する。

(27) そのペンは私のだ。 / そのペンは太郎のだ。

那支笔 是 我的。 / 那支笔 是 太郎 的。

Nèi zhī bǐ shì wǒ de. / Nèi zhī bǐ shì Tàiláng de.

私のペン / 太郎のペン

我的笔 / 太郎 的 笔

wǒ de bǐ / Tàiláng de bǐ

「～の」のように所有物を形式名詞で示す日本語と類似し、中国語においても、構造助詞“的”で止めて、「～の(もの)」という意味の名詞性成分を構成することができる。

(28) 昨日，学校で火事があった。

昨天 学校 发生了 一场 火灾。

Zuótiān xuéxiào fāshēngle yì cháng huǒzāi.

(28)のようにある場所における出来事の生起を述べる場合は、中国語では通常は「現象文」という構文をとる。動詞には所有や存在のような状態の持続を表す動詞ではなく、“发生”（発生する）のような、事象の変化を表す動詞が用いられる。

私は明日用事があります。

我 明天 有事。

Wǒ míngtiān yǒu shì.

この場合には、無から有への変化ではなく、明日用事を抱えているという状態の表現となっている。

(29) (この世には) お化けなんていない。

这个 世上 没有 妖怪。

Zhèige shì shang méiyǒu yāoguài.

ある対象が実在するか否かを問題にする実在文では、一般的な存在を表す動詞“有”（ある）（肯定）・“没有”（ない）（否定）が用いられる。

(30) (そこには) 英語を話す人もいるが、話さない人もいる。

那里 有人 说 英语，也 有人 不说 英语。

Nàlǐ yǒu rén shuō Yīngyǔ, yě yǒu rén bù shuō Yīngyǔ.

(31) 私より英語ができる人は（ほかに／もっと）います。

英语 比我 好 的人 有 很多。

Yīngyǔ bǐ wǒ hǎo de rén yǒu hěn duō.

絶対的存在文においても、中国語では一般的な存在と区別なく動詞“有”（ある）（肯定）・“没有”（ない）（否定）が用いられる。

(32) ちょっとあなたにお願いがあります。

我 想 请 你 帮 个 忙。

Wǒ xiǎng qǐng nǐ bāng ge máng.

(32)の中国語訳では、「私はあなたに手伝いをお願いしたい」という表現を用いており、存在を表す動詞は用いられていない。しかし、“有”を用いて「あなたにお願いしたい件を一つ持っている」のような表現を用いることも可能である。その場合の“有”は存在というよりも、むしろ「自分がそのような用件を持っている」という所有の表現となっていると考えることができる。

(33) 冬の雨／東京の家

冬 天 的 雨 / 东 京 的 家

dōngtiān de yǔ / Dōngjīng de jiā

(34) 彼の泳ぎ／犬の鳴き声／火山の爆発／車の運転／～の小説

他 的 游 泳 / 狗 的 叫 声 / 火 山 的 爆 发 / 开 车 / ～ 的 小 说

tā de yóuyǒng / gǒu de jiàoshēng / huǒshān de bàofā / kāichē / de xiǎoshuō

(35) Xさんのお母さん

X 的 母 亲

X de mǔqīn

机の横に来て！／机の前に来て！／*机に来て！

来 桌 子 旁 边 / 来 桌 子 前 面 / *来 桌 子

lái zhuōzi pángbiān / lái zhuōzi qiánmiàn / lái zhuōzi

あの人の次

那 个 人 的 下 一 个

Nàige rén de xià yí ge

連体修飾語が名詞性成分を修飾する際には、しばしば構造助詞“的”を用いる。日本語の「の」に用法が近くなることがしばしばあるが、もちろん完全に同一というわけではない。上記の例では基本的に“的”が用いられているが、(35)のように“旁边”（そば、近く）“前面”（前）のような方位を表す名詞（方位詞）は、連体修飾語の修飾を受ける際、“的”を用いる必要はない。

(36) バラの花びら／果物のナイフ／紙の飛行機／チューリップの絵
玫瑰 的 花瓣 / 水果 刀 / 纸 飞机 / 郁金香 的 画儿
méiguī de huābàn / shuǐguǒ dāo / zhǐ fēijī / yùjīnxiāng de huàr

花の匂い／英文の手紙／日本語の先生／井戸の水／雨の日
花香 / 英文 信 / 日语 老师 / 井水 / 雨天
huāxiāng / Yīngwén xìn / Rìyǔ lǎoshī / jǐngshuǐ / yǔtiān

連体修飾語が名詞性成分を修飾する際に“的”を用いるかどうかは、様々な要因に影響されるので、規則としてまとめるのは難しい。日本語では「の」を用いていても、“花香”“井水”“雨天”のように、いわばほぼ語彙化して一語となったものは“的”は用いない。一般に、“英文信”“日语老师”など、被修飾語の属性を表す名詞性成分が修飾語となる場合には“的”は不要で、“玫瑰的花瓣”のように、名詞性成分の範囲を限定している臨時的な組み合わせでは“的”を用いる。しかし“的”の使用は、修飾語と被修飾語の組み合わせがどの程度慣用化された固定の組み合わせかになっているかということにも左右される。

(37) 妹の花子／社長の田中さん
妹妹 花子 / 田中 社长
mèimei Huāzǐ / Tiánzhōng shèzhǎng

同格関係の組み合わせの際には、基本的には名詞性成分を並べるだけで、“的”は使わない。ちなみに、“社长”のような役職名は氏名の後に呼称としてつけられるが、“妹妹”のような親族名称はそのようには使えない。

(38) とんりの家の友達のお父さんの車のタイヤ (が昨日突然パンクしたんだって.)
邻居家 朋友 的 父亲 的 车 的 轮胎
línjū jiā péngyou de fùqin de chē de lúntāi

“～的”は理論上は3つ以上でも並べて使うことは可能であるが、実際にはあまり多くなると不自然になる。特に連体修飾語がいくつ以上だと容認度が下がるといった明確な数があるわけではない。

参考文献

- 范方莲 1963 「存在句」『中国语文』第 5 期 386-395。
- 雷涛 1993 「存在句的范围、构成和分类」『中国语文』第 4 期 244-251。
- 聂文龙 1989 「存在和存在句的分类」『中国语文』第 2 期 95-104。
- 张先亮・范晓等 2010 『现代汉语存在句研究』中国社会科学出版社。
- 木村英樹 2012 「“有” 構文における「時空間存在文」の特性——所有と存在——」『中国語文法の意味とかたち——「虚」的意味の形態化と構造化に関する研究——』白帝社：298-327。

朝鮮語

伊藤 英人

日本語の属格助詞「の」で表されるものが朝鮮語でいかに表現されるかについては、金恩愛(2003), 韓必南(2010, 2011)等に詳しい。日本語の「A の B」に相当する朝鮮語の表現は‘A B’, ‘A-uy B’, ‘A s(?) B’, ‘A 動詞連体形 B’の4通りの形でおおむね表現される。「雨の日」などが「雨降る日」のような動詞連体形による表現となる現象を金恩愛(2003)は「日本語の名詞志向構造」, 「朝鮮語の動詞志向構造」と名づけている。

‘A-uy B’は属格助詞{-uy}によるものである。日本語とは異なり、3度以上の重出は避けられ、また‘A B’のように属格助詞が用いられない表現が口語、文章語を問わず頻出する。‘A s(?) B’は十五世紀朝鮮語の属格語尾{-s}に起源するもので、Bが平音(無声無気音)である場合その頭音を濃音(喉頭化音)に交替させる。あたかも日本語の連濁を彷彿させるが、‘A s(?) B’が必ずしも複合語であるとは看做し得ない。「この会社の人」は‘i hoysa salam (lit. この会社人), ‘i hoysa (s) salam’のいずれでも可であり、‘hoysa (s) salam’は1語とは看做し得ない。正書法上は両者とも‘i hoysa salam’とのみ表記される。{-uy}は十五世紀朝鮮語において処格語尾と同形であり、「名詞+処格+{-s}」に由来する‘mayn aph-uy(-s) salam lit. 一番前にの人→一番前の人’が現代語にも存在するが、正書法上は属格助詞{-uy}で表記されるのみである。

[1] あの人は青い目をしている。／青い目の人・目が青い人

ce salam-un nwun-i phalah-ta.¹

あの 人-は 目-が 青い.

*phala-n nwun-uy salam

青-い 目-の 人

phala-n nwun-uy namca

青-い 目-の 男

nwun-i phala-n salam

目-が 青い 人

「青い目の人」の逐語訳は不可能だが、「青い目の男」は可能である。理由は不明である。「目の青い人 lit. *nwun-uy phala-n salam」のように属格助詞を用いることはない。

¹ 提示された例文は[1], [2]のように示し、他に付け加えた例文は(1), (2)のように示す。転写はYale式による。グロス可能な限り対応する日本語でこれを示す。対応する例文の可否について東京外国語大学大学院准教授南潤珍先生のご教示を得たことを感謝とともに記す。誤謬は言うまでもなく伊藤の責任に帰す。

(1) その少女は長い髪をしている。

ku sonye-nun ki-n meli-lul ha-ko iss-ta.

その 少女-は 長-い 髪-を し-て いる。

のように、日本語と同様に「人ガ～ナ身体部位ヲシテイル」という表現は可能であるが、[1]を直訳して

(2)?～*ce salam-un phala-n nwun-ul ha-ko iss-ta.

あの 人-は 青-い 目-を し-て いる。

とすると違和感がある。

(3) ku salam-un hwana-n (/ *twungku-n) elkwul-ul ha-ko iss-ta.

その 人-は 怒-った (*丸-い) 顔-を し-て いる。

(3)から分かるように、髪の毛や顔(表情)のように主体が自分で時によって調節が可能な身体部位(身体部位の一時的状態)は「人ガ～ナ身体部位ヲシテイル」の言い方が可能であるが、生まれついた(例え整形手術等によって自らの意志で変形可能であっても)身体部位の形状については「人ガ～ナ身体部位ヲシテイル」の言い方が成り立たないようである。

[2] あの女 {は／の} 髪が長い

ce yeca-nun meli-ka kil-ta.

あの 女-は 髪-が 長-い。

あの女は長い髪をしている。

ce yeca-nun ki-n meli-lul ha-ko iss-ta.

あの 女-は 長-い 髪-を し-て いる。

長い髪の女

ki-n meli-uy yeca

長-い 髪-の 女

髪-の長-い女

meli-ka ki-n yeca

髪-が 長-い 女

[1]同様、「髪-の長-い女」のような属格助詞の使用は不可能である。

[3] あの人には髭がある.

ce salam-un swuyem-i iss-ta.

あの 人-は 髭-が ある.

ce salam-un swuyem-ul kill-ess-ta.

あの 人-は 髭-を 生やした(lit.育てた).

髭の男

swuyem kilu-n namca

髭 生やした 男

「あの人には」のように与格助詞を入れると「あの人のところに髭がある」ような感じになってしまう。なお、朝鮮語の与格助詞 *-eykey, -hanthey* は日本語の「～ニ」及び「～ノトコロニ」に対応する。² 「髭を生やした」は、過去の接尾辞 *{-ess-}* のパーフェクト的用法の例である。

「髭の男」の直訳, **swuyem-uy namca* は言えない。修飾語のついた「白い髭の男」‘*hui-n swuyem-uy namca*’ は可である。金恩愛(2003)が多くの例を挙げて説得的に述べているように、日本語の「名詞ノ名詞」は朝鮮語では多くの場合「名詞+動詞連体形+名詞」となり、属格助詞のみによる結合は不可となる。

[4] あの人には(見る)目がある.

ce salam-un po-nun nwun-i iss-ta.

あの 人-は 見-る 目-が ある.

見る目のある人

po-nun nwun-i iss-nun salam

見-る 目-が ある 人

慣用句的表現「(見る)目がある人」が可能であり、「目がある人」は普通所有物なので、おかしな表現になることは朝鮮語でも同様である。属格助詞の使用は[1]～[3]同様不可である。「見る目」を意味する朝鮮漢語 *anmok*(眼目)を用いて

² 現代朝鮮語の与格助詞 *eykei, kkey*(尊敬)は、後期中世朝鮮語の「属格語尾+トコロ(ソコ)+処格語尾」に起源する。なお、筆者は現代朝鮮語においては格助詞、副助詞を後期中世朝鮮語以前の朝鮮語では格語尾、副語尾をそれぞれ認める立場に立つ。

(4) ce salam-un anmok-i iss-ta.

あの人は見る目(眼目)がある.

anmok iss-nun salam

見る目(眼目)ある人

と言うことは可能である.

[5] あの人は 22 歳だ.

ce salam-un sumul tu sal-ita.

あの 人-は 二十 二 歳-だ.

22 歳の人

sumul tu sal-i-n salam

二十 二 歳-である 人

*sumul tu sal-uy salam

二十 二 歳-の 人

のように属格助詞にすると非文となり, copula の連体形を用いる. しかし,

(5) sumul tu sal-uy namca / yeca

二十 二 歳-の 男 / 女

のような表現は可能であるようである.

[6] あの人は優しい性格だ.

ce salam-un sengkyek-i onswunhata.

あの 人-は 性格-が 穏和だ.

?ce salam-un onswunha-n sengkyek-i ta.

あの 人-は 穏和-な 性格-だ.

優しい性格の人

sengkyek-i onswunha-n salam

性格-が 穏和-な 人

*onswunha-n sengkyek-uy salam
穏和-な 性格-の 人

「あの人は優しい性格だ」を直訳した‘ku salam-un onswunha-n sengkyek-ita.’は言いがたく「性格が優しい」のように言う方が自然である。「優しい性格の人」では「二十二歳の人」同様、属格助詞にすると非文となる。

[7] あの人は背が高い。

ce salam-un khi-ka khuta.
あの 人-は 背-が 高い。

背の高い人

khi-ka khu-n salam
背-が 高-い 人

「背の高い人」に属格助詞が使用できない点以外は日本語と同様である。

[8] あの人は背が 190 センチもある。

ce salam-un khi-ka 190seynchi-na toynta.
あの 人-は 背-が 190 センチ-にも なる。

重量, 長さ, 距離などが「ある」は, 数量詞+toy-(なる)を用いる。

(6) あの人は背が 190 センチだ。

ce salam-un khi-ka 190seynchi-ita.
あの 人-は 背-が 190 センチ-だ。

のようなコピュラ文は日本語と同じである。

[9] その石は四角い形をしている。

ku tol-un neymoci-essta.
その 石-は 四角かっ-た。

ku tol-un sakakhyneg-ita..
その 石-は 四角形-だ。

四角い石
neymoci-n tol
四角-い 石

形容詞 neymoci-, neymona- は終止形で過去形を取って現在の状態を, 連体形で形容詞現在連体形語尾 -n を取って現在の状態を, それぞれ表す. 漢語「四角形」にコンピュータをつけてもよい. 「その石は四角い形をしている」の直訳

(7)*ku tol-un neymoci-n hyengtay-lul ha-ko issta.
その 石-は 四角-い 形-を し-ている.

は非文である.

[10] あの人には才能がある.
ce salam-un caynung-i issta.
あの 人-は 才能-が ある.

才能のある人
caynung iss-nun salam
才能 あ-る 人

[11] あの人は病いだ.
ce salam-un pyeng-ita.
あの 人-は 病気-だ.

あの人は熱がある.
ce salam-un yel-i issta.
あの 人-は 熱-が ある.

病気の人
pyeng tu-n salam
病気 入-った 人

文末述語では「病いだ」のようなコンピュータ文が可能だが, 連体修飾節ではコンピュータの連体形を用いて

(8) *pyeng-i-n salam

病気-である 人

とは言うことが出来ず、「病気入った人」のようにするほかない。但し次のような文は可能である。

(9) wicangpyeng-i-n salam

胃腸病-である 人 (→胃腸病の人)

[12] あの人は青い服を着ている。

ce salam-un phala-n os-ul ip-ko issta.

あの 人-は 青-い 服-を 着-て いる。

青い服の男

phala-n os-uy namca

青-い 服-の 男

いずれも日本語と並行的であり「青い服の男」では属格助詞の使用も可能である。ただし「青い服の人」を直訳した *phala-n os-uy salam* は非文となる。

[13] あの人はメガネをかけている。

ce salam-un ankyeng-ul kki-ko issta.

あの 人-は メガネ-を かけ-て いる。

メガネの男

ankyeng kki-n namca

メガネ かけ-た 男

(10) *ankyeng-uy namca

メガネ-の 男

(11) senkullasu-uy namca

サングラス-の 男

「メガネの男」を直訳した(10)が非文となることは金恩愛(2003)が指摘するとおりであるが、(11)の「サングラスの男」の場合、属格助詞の使用が可能である。

[14] あの人には妻がいる.

ce salam-un anay-ka issta.
あの 人-は 妻-が いる.

妻のいる人

anay-ka iss-nun salam
妻-が いる 人

[15] あの人には3人子供がいる.

ce salam-un ai-ka seys issta.
あの 人-は 子供-が 3 いる

3人の子持ちの人

ai-ka seys iss-nun salam
子供-が 3 いる 人
samnammay-lul twu-n salam
三人兄弟-を 置いた 人

あの人の3人の子供

ce salam-uy sey ai
あの 人-の 3 子供

妊娠している女性

imsinha-n yeseng
妊娠した 女性
ai se-n yeseng
子 孕んだ 女性

[16] タコには足が8本ある.

mune-nun tali-ka yetelp kay issta.
蛸-は 脚-が 8 個 ある.
mune-nun tali-ka yetelp kay-ita.
蛸-は 脚-が 8 個-だ.

存在動詞を用いてもコピュラを用いても可能である.

[17] その飲み物にはアルコールが入っている.

ku umlyo-ey-nun alkhoh-i tule-e issta.
その 飲み物-には アルコール-が 入っ-て いる.

アルコール入りの飲み物

alkholsengpun-i tu-n umlyo
アルコール成分-が 入っ-た 飲み物

「成分」の語が必要なようである.

[18] あの人はお金を持っている.

ce salam-un ton-i issta.
あの 人-は お金-が ある.

お金持ちの人

ton iss-nun salam

お金 あ-る 人

iss-nun salam

あ-る 人

単に「ある人」で「金持ち」の意味になる.

[19] おまえのところには犬がいるか?

ne-ney cip-ey kay iss-ni?
お前-ら 家-に 犬 いる-か.

犬のいる人

kay iss-nun salam

犬 いる 人

「犬」に格助詞を付けないのが自然である。「ガ」格に相当する-ka を付けると「意外」のニュアンスを帯びる.

[20] おまえはペンを持っているか？

ne pheyn iss-ni?
お前 ペン ある-か.
ne pheyn kaci-ess-ni?
お前 ペン 持つ-た-か.

ペンを持っている人
pheyn iss-nun salam
ペン あ-る 人
pheyn kaci-ko iss-nun salam
ペン 持つ-て い-る 人

終止的述語では過去のパーフェクト的用法として「持った」が、連体修飾では「テイル」相当の形式が用いられる。

[21] あの人は（誰か別の人の）ペンを持っている。

ce salam-un (talun salam-uy) pheyn-ul kaci-ko issta.
あの 人-は (違-う 人-の) ペン-を 持つ-て いる.

[22] あの人は運がいい。

ce salam-un wun-i cohta.
あの 人-は 運-が いい.

幸運な人
wun coh-un salam
運 いい 人

(12) 私にいい考えがある。

na-hanthey coh-un sayngkak-i issta.
私-に いい 考え-が ある.

[23] ここは石が多い。

yeki-nun tol-i manhta.
ここ-は 石-が 多い.

石の多い土地

tol manh-un ttang

石 多い 土地

(13) ここは雨が多い.

i cipang-un pi-ka manhi onta.

この 地方-は 雨-が 多く 降る.

(14) 雨の多い土地

pi manhi o-nun cipang

雨 多く 降-る 地方

恒常性のより落ちる「ここは雨が多い／雨の多い土地」などでは動詞「降る」を用いねばならない.

[24] その部屋には椅子が3つある

ku pang-ey-nun uyca-ka sey kay issta.

その 部屋-には 椅子-が 3 個 ある.

3つ椅子のある部屋

uyca-ka sey kay iss-nun pang

椅子-が 3 個 あ-る 部屋

3つの椅子

uyca sey kay

椅子 3 個

*sey uyca(lit. 三つの椅子)のように数詞の連体修飾形で言うことは出来ない.

[25] テーブルの上にスプーンがある.

thakca wuy-ey swutkalak-i issta.

テーブル 上-に スプーン-が ある.

スプーンのあるテーブル

swutkala-i iss-nun thakca

スプーン-が ある テーブル

[26] そのスプーンはテーブルの上にある.

ku swutkalak-un thakca wuy-ey issta.

その スプーン-は テーブル 上-に ある.

テーブルにあるスプーン

thakca-ey iss-nun swutkalak

テーブル-に ある スプーン

[27] そのペンは私のだ.

ku pheyn-un nay kes-ita.

その ペン-は 私の もの-だ.

そのペンは太郎のだ.

ku pheyn-un talo kes-ita.

その ペン-は 太郎 もの-だ.

私のペン

nay pheyn

私の ペン

太郎のペン

talo-uy pheyn

「太郎のペン」では属格助詞{-uy}は省略可能である。「私の」の場合は1人称代名詞の属格形でなければならない。「太郎のだ」の表現は‘talo kes-ita’ (lit. 太郎ものだ)であるが発音上は‘talo kkes-ita’のように「もの」を表す形式名詞の頭子音が濃音化する。これは属格マーカー(中世朝鮮語の属格語尾){-s}が添加されているものと解される。

[28] 昨日、学校で火事があった.

ecey hakkyo-ey pul-i nassta.

昨日 学校-に 火-が 出た.

私は明日用事があります。

na-nun nayil polil-i iss-supnita.

私-は 明日 用事-が あり-ます。

(15) ecey hakkyo-eyse teymo-ka / sihem-i / hakyeyhoy-ka issessta.

昨日 学校-で デモ-が / 試験-が / 学芸会-が あった。

「～で火事がある」は「～に火が出る」という言い方をする。(15)のような例では日本語同様の表現になる。

[29] (この世には) お化けなんていない。

seysang-ey tokkaypi kath-un kes epse.

世の中-に お化け みたい-な もの ない。

[30] (そこには) 英語を話す人もいるが、話さない人もいる。

yenge ha-l cwul a-nun salam-to iss-ciman yenge ha-l cwul molu-nun

英語 話-す すべ 知-る 人-も いる-が 英語 話-す すべ 知らな-い

salam-to issta.

人-も いる。

[31] 私より英語ができる人は (ほかに / もっと) います。

ce-pota yenge-ka toy-nun salam-un (ttalo / manhi) iss-supnita.

私-より 英語-が 成-る 人-は (他に / たくさん) い-ます。

[32] ちょっとあなたにお願いがあります。

com puthak-i iss-supnita.

ちょっと お願い-が あり-ます。

[33] 冬の雨【時間】

kyewul pi

冬 雨

東京の家【場所】

tongkyeng(-uy) cip

東京(-の) 家

「東京の家一般」についていうなら属格助詞が入る方が自然であり、ある個人がソウルと東京の両方に家を持っていて、「東京の家のほう」と言うなら属格助詞を入れない方が自然である。

(16) kyewul yenka
冬 恋歌(「冬のソナタ」)

(17) pom-uy walchu
春-の ワルツ

(16), (17)は韓流ドラマの題名である。同じ「固有語時間名詞+名詞」であるが、(17)は属格助詞{-uy}がないと不自然になる。このように1音節名詞か否かも属格助詞の出現に関係するようである。

[34] 彼の泳ぎ

*ku-uy swuyeng
彼-の 水泳

犬の鳴き声

kay cic-nun soli
犬 鳴-く 声

火山の爆発

hwasan phokpal
火山 爆発

車の運転

catongcha wuncen
自動車 運転

～の小説

kong ciyeng-uy sosel
孔枝泳-の 小説

- (18) kyay-uy swuyeng-un acik swuyeng-ilako ha-l swu epsta.
あの子-の 泳ぎ-は まだ 泳ぎ-と 言-う すべ ない
(言うことができない).

「彼の泳ぎ」は不自然だが、「あの子」や人名などが入れば属格助詞を用い得る.

[35] X さん (固有名詞) のお母さん 【親族】

X ssi(-uy) emeni
X さん(-の) お母さん

机の横に
chayksang yeph-ey
机 横-に

机の前に
chayksang aph-ey
机 前に

机に (来て!) 【場所名詞】
chayksang-ulo
机-の方に

あの人の次 【時間的關係】
ce salam taum
あの 人 次

教科書的には場所を表す「aph 前」, 「yeph 横」等と先行名詞の間には属格助詞が入らないとされるが, 前の名詞が修飾句によって限定されていれば, 属格助詞が入り得る.

「机に来て」は方向格助詞{-**(u)lo**}を用いる. トコロ性に関して言うと, 「人間名詞+与格助詞」はそれだけで「だれだれのところに」という意味を表す. これは上述のように与格助詞{-**eykey**, -**kkey**(尊敬)}が「~のソコへ」という場所名詞を含む「属格+トコロ+処格」の連なりの文法化の結果生じた形式であるためである. 延辺方言では与格助詞{-**intey**}が無情物にもついて

(19) namu-intey wa.
木-に 来い(木のところに来い)

ということが出来るようである.

[36] バラの花びら【種別】

cangmi kkochip
バラ 花びら
cangmi-uy kkochip
バラ-の 花びら

果物のナイフ【用途】

kwail khal
果物 ナイフ
*kwail-uy khal
果物-の ナイフ

紙の飛行機【材料・材質】

congi pihayngki
紙 飛行機
*congi-uy pihayngki
紙-の 飛行機

チューリップの絵【内容】

thyullip kulim
チューリップ 絵
*thyullip-uy kulim
チューリップ-の 絵

花の匂い【産出物】

kkoch hyangki
花 匂い
kkoch-uy hyangki
花-の 匂い

英文の手紙【表現形式(?)】

yengmun phyenci

英文 手紙

*yengmun-uy phyenci

英文-の 手紙

yengmun-ulo toy-n phyenci

英文-で 成つ-た 手紙

日本語の先生【職種】

ilpone sensayngnim

日本語 先生

ilpone-uy sensayngnim

日本語-の 先生

井戸の水【取得源】

wumul mul

井戸 水

wumul-uy mul

井戸-の 水

雨の日【状況】

pi o-nun nal

雨 降-る 日

*pi-uy nal

雨-の 日

用途や材料は属格助詞{-uy}を用いにくいようである。「英語の手紙」は「英語手紙」か「英語で成った手紙」と表現するのが自然である。「雨の日」が「雨降る日」となることは先行研究で繰り返し指摘されている。

[37] 妹の花子

yetongsayng-i-n hanakho

妹-であ-る 花子

社長の田中さん

sacang-i-n tanakha ssi

社長-である 田中さん

コンピュータの連体形を用いる.

[38] とりの家の友達のお父さんの車のタイヤ (が昨日突然パンクしたんだって.)

yephcip chinkwu(-uy) apeci(-uy) catongcha thaie-ka ppankkonasstay.

隣 友だち(-の) 父(-の) 自動車 タイヤ-が パンクしたって.

2つ程度の属格助詞の連出は可能である.

参考文献

- 林八龍(1995)「日本語と韓国語における表現構造の対照考察—日本語の名詞表現と韓国語の動詞表現を中心として—」『宮地裕・敦子先生古希記念論集 日本語の研究』明治書院
- 金恩愛(2003)「日本語の名詞志向構造と韓国語の動詞志向構造」『朝鮮学報』188, pp.1-83. 朝鮮学会, 天理
- 韓必南(2010)「連体助詞「の」を含む名詞句の韓国語対応形について—日韓翻訳テキストの分析を通して」, 『言語・地域文化研究』16, pp.331-349. 東京外国語大学大学院総合国際学研究所, 東京
- 韓必南(2011)「所有に関する日韓対照—日本語の「持つ」と韓国語の *gajida* について」, 峰岸真琴, 稗田乃, 早津恵美子, 川口裕司(編)『コーパスに基づく言語学教育研究論集』6, pp.131-150. 東京外国語大学大学院総合国際学研究院, 東京
- 韓必南(2012)「「する」と韓国語「hada」による属性叙述」, 『思言』7, pp.53-76. 東京外国語大学記述言語学研究室, 東京
- 韓必南(2013)「日本語の「ある/いる」構文の類型—命題の意味的特徴に注目して」『日本研究教育年報』17, 東京外国語大学日本課程, 東京 (2013年3月発行予定)

インドネシア語の所有・存在表現

降幡 正志

1. はじめに

インドネシア語の所有表現には、いくつかの手段がある。まずひとつは「所有する」という動詞を用いる方法である。所有に関連する語として *punya*「所有する」、*milik*「所有(物)」があり、これらに接辞を付した *mempunyai* や *memiliki* が他動詞として存在し、フォーマルな文体で用いられるのに対し、*punya* 自体は会話で非常によく用いられる。

一方、名詞に接頭辞 *ber-* を付し「～を持つ／身につける、～がある／いる」といった意味で用いられる動詞も数多い。

また、フォーマルな表現とは言い難いが、いわゆる二重主語文（「AはBがCである」）によって、所有と同内容の表現をすることもできる。

存在表現については、もっとも基本的な語は *ada*「ある／いる」である。ただし、フォーマルな文体ではしばしば「ある／いる」に相当する別の語を用いる。会話では、所有に準ずる表現として *ada* を用いるケースもある。

以下に、アンケートの項目にしたがって、対応するインドネシア語の表現を示し、必要に応じて解説を加えていく¹。

2. インドネシア語データ

2.1. 所有・存在の表現

(1) あの人は青い目をしている。／青い目の人・目が青い人

[1a] Orang itu mempunyai / memiliki mata (yang) biru.²
 person that possess eye REL blue
 「あの人は青い目をしている。」

[1b] Orang itu punya mata (yang) biru.
 person that possess eye REL blue 「あの人は青い目をしている。」

¹ 本稿におけるインドネシア語データのチェックについては、Elyzabeth Esther Fibra Simarmata 氏（本学大学院博士後期課程在学）に協力をお願いした。同氏に感謝の意を表したい。

² 本稿では、文例中の“/”（斜線）はその前後の語が入れ替え可能であることを示し、括弧内の語は省略可能であることを示す。

[1a] はフォーマルな文体で, mata (yang) biru の他に mata yang berwarna biru (berwarna 「～色をしている, 色つきの」) も可能である. [1b] は会話的な表現である.

[1c] Orang itu bermata biru.
 person that BER-eye blue 「あの人は青い目をしている。」

[1c] の bermata 「目がある, (～の／～という) 目をしている」は mata 「目」に接頭辞 ber- を伴っている³.

[1d] Orang itu matanya (berwarna) biru.
 person that eye-DET BER-color blue 「あの人は目が青い。」

[1d] は「AはBがCである」という, いわゆる二重主語文である. 二重主語文はフォーマルな文体とは言い難いが, 会話では頻繁に用いられ, また実際にはフォーマルな文体の中でもしばしば用いられている.

[1e] Mata orang itu (berwarna) biru.
 eye person that BER-color blue 「あの人の目は青い。」

[1e] のように「あの人の目は青い (青色をしている)」という表現も可能である.

[1f] orang yang mempunyai / memiliki / punya mata biru
 person REL possess eye blue

[1g] orang yang bermata biru
 person REL BER-eye blue

[1h] orang yang matanya (berwarna) biru
 person REL eye-DET BER-color blue

[1f] ～ [1h] は「青い目をした人」という名詞句で, [1f] は [1a] 及び [1b] に, [1g] は

³ 本稿では, 「所有」を表す ber- 派生語の gloss を “BER-xxxxx” (xxxxx は基語の語意) と表記する.

[1c] に, [1h] は [1d] にそれぞれ対応する⁴. いずれも被修飾語の後に関係詞 *yang* を用いている⁵.

(2) あの女 {は／の} 髪が長い・あの女は長い髪をしている. / 長い髪の女・髪の長い女

[2a] Wanita itu mempunyai / memiliki / punya rambut (yang) panjang.
 woman that possess hair REL long
 「あの女性は長い髪をしている。」

[2b] Wanita itu berambut panjang.
 woman that BER-hair long 「あの女性は長い髪をしている。」

[2c] Wanita itu rambutnya panjang.
 woman that hair-DET long 「あの女性は髪が長い。」

[2d] Rambut wanita itu panjang.
 hair woman that long 「あの女性の髪は長い。」

(3) あの人には髭がある. / 髭の男

[3a] Orang itu mempunyai / memiliki / punya kumis.
 person that possess mustache 「あの方は口髭がある。」

[3b] Orang itu berkumis.
 person that BER-mustache 「あの方は口髭がある。」

[3c] Orang itu memakai / pakai kumis.
 person that use mustache 「あの方は口髭がある。」

「髭がある」と言う場合には, [3c] のように「使う」に相当する語を用いることも可能である. フォーマルな文体では *memakai* を用いるのに対し, *pakai* は会話的である.

⁴ [1a] と [1b] のように文体による違いがあっても, 説明に差し障りがない場合には, これ以降は [1f] のように *mempunyai*, *memiliki*, *punya* を1つの文例の中にまとめて記載する.

⁵ 次節以降, 特筆すべき語法がある場合を除き, [1f] ~ [1h] のように関係詞 *yang* を用いる名詞句は省略する.

[3d] Orang itu ada kumisnya.
 person that exist mustache-DET 「あの人は口髭がある。」

[3e] Orang itu ada kumis.
 person that exist mustache 「あの人は口髭がある。」

[3d], [3e] のように, *ada* 「ある, いる」を用いた表現も可能である. いずれも会話的な表現だが, [3e] はより会話的である.

(4) あの人には (見る) 目がある. / 見る目のある人

[4a] Orang itu pandai menilai orang lain.
 person that clever evaluate person other
 「あの人は他人を評価するのがうまい。」

「見る目がある」に相当する慣用的表現は見当たらず, 同じ内容を表現するには [4a] のような言い方になるようである.

(5) あの人は 22 歳だ. / 22 歳の人

[5a] Orang itu berusia 22 tahun.
 person that BER-age year 「あの人は 22 歳だ。」

[5b] Orang itu usianya 22 tahun.
 person that age-DET year 「あの人は年齢が 22 歳だ。」

[5c] Orang itu mempunyai / memiliki / punya usia panjang.
 person that possess age long 「あの人は長寿だ。」

年齢を述べる場合, *mempunyai / memiliki / punya* を用いることができない. 但し, [5c] のように *usia panjang* 「長寿」に対しては用いることができる.

(6) あの人は優しい性格だ. / 優しい性格の人

[6a] Orang itu berwatak / bersifat baik.
person that BER-character / BER-nature good 「あの人は優しい性格をしている。」

[6b] Orang itu berhati baik.
person that BER-heart good 「あの人は優しい性格をしている。」

[6c] Orang itu wataknya / sifatnya / hatinya baik.
person that character-DET / nature-DET / heart-DET good
「あの人は性格 / 心が優しい。」

[6d] Orang itu baik hati.
person that good heart 「あの人は優しい。」

[6d] で baik hati 「優しい, 性格がよい」は熟語である.

[6e] Orang itu mempunyai / memiliki / punya hati yang baik.
person that possess heart REL good
「あの人は優しい / 良い性格をしている。」

[6e] で yang を用いないのは不自然である.

(7) あの人は背が高い. / 背の高い人

[7a] Orang itu tinggi.
person that high 「あの人は (背が) 高い。」

[7b] Orang itu berbadan tinggi.
person that BER-body high 「あの人は高い体 (=背) をしている。」

[7c] Orang itu badannya tinggi.
person that body-DET high 「あの人は体 (=背) が高い。」

[7d] Orang itu mempunyai / memiliki / punya badan (yang) tinggi.
 person that possess body REL good
 「あの人は高い体 (=背) をしている。」

(8) あの人は背が 190 センチもある。

[8a] Orang itu tingginya 190cm.
 person that high-DET 「あの人は高さが 190 センチだ。」

[8b] Orang itu tinggi badannya 190 cm.
 person that high body-DET 「あの人は身長が 190 センチだ。」

[8c] Tinggi badan orang itu (adalah) 190 cm.
 high body person that COP
 「あの人の身長は 190 センチだ。」

tinggi badan は「身長」の意となる ([8b], [8c]).

(9) その石は四角い形をしている。 / 四角い (形の) 石

[9a] Batu itu berbentuk persegi.
 stone that BER-form square 「その石は四角形だ。」

[9b] Batu itu bentuknya persegi.
 stone that form-DET square 「その石は形が四角だ。」

[9c] Batu itu mempunyai / memiliki / punya bentuk persegi.
 stone that possess form square
 「その石は四角い形をしている。」

[9c] の bentuk persegi 「四角形」に対しては, persegi の前に関係詞 yang を用いることができない。これは, 一般に yang 節が名詞句を伴うことがないためである。

[9d] Bentuk batu itu (adalah) persegi.
 form stone that COP square 「その石の形は四角だ。」

[9e] Buku itu mahal.
book that expensive 「その本は高価だ。」

[9f] Buku itu berharga mahal.
book that BER-price expensive 「その本は高価だ。」

[9g] Buku itu harganya mahal.
book that price-DET expensive 「その本は値段が高い。」

[9h] Buku itu mempunyai / memiliki / punya harga yang mahal.
book that possess price REL expensive
「その本は値段が高い。」

[9h] の harga yang mahal については, yang を伴わないと, mempunyai / memiliki を用いてもフォーマルさにおいて容認度が下がる.

(10) あの人には才能がある. / 才能のある人【属性】

[10a] Orang itu berbakat.
person that BER-talent 「あの人は才能がある。」

[10b] Orang itu mempunyai / memiliki / punya bakat.
person that possess talent 「あの人は才能がある。」

[10c] Orang itu ada bakat / bakatnya.
person that exist talent / talent-DET 「あの人は才能がある。」

[3d], [3e] などと同様, [10c] は会話的である.

(11) あの人は病気だ. / あの人は熱がある. / 病気の人

[11a] Orang itu sakit.
person that sick 「あの人は病気だ。」

[11b] Orang itu menderit sakit.
 person that suffer sick 「あの人は病気を患っている。」

[11c] Orang itu mempunyai / memiliki / punya sakit.
 person that possess sick
 「あの人は病気を患っている。」

sakit 「病気である, 痛い」は形容詞 (的) であるが, 「病気」のように名詞的な用い方をすることもある。[11b] のように menderit 「患う」と共に用いればフォーマルな文体では差し支えないが, [11c] のように「所有する」の類と共に用いると, フォーマルさにおいて容認度が下がる。

[11d] Orang itu demam.
 person that feverish 「あの人は熱がある。」

[11d] の demam 「熱がある」は, [11b] にみた menderit と共に用いる場合でもフォーマルさにおいて容認度が下がるようである。

(12) あの人は青い服を着ている。 / 青い服の男

[12a] Orang itu berbaju biru.
 person that BER-garment blue 「あの人は青い服を着ている。」

[12b] Orang itu bajunya biru.
 person that garment-DET blue 「あの人は服が青い。」

[12c] Orang itu memakai / pakai baju biru.
 person that use garment blue 「あの人は青い服を着ている。」

[12c] の memakai は, 「使う」の他に 「(衣服などを) 身につける」の意でも用いる語である。[3c] などと同様に pakai は会話的である。

(13) あの人はメガネをかけている。 / メガネの男

[13a] Orang itu berkacamata.
person that BER-glasses 「あの人はメガネをかけている。」

[13b] Orang itu memakai / pakai kacamata.
person that use glasses 「あの人はメガネをかけている。」

(14) あの人には妻がいる。 / 既婚の人・妻のいる人

[14a] Orang itu sudah beristri.
person that PERF BER-wife 「あの人にはもう妻がいる。」

[14b] Orang itu sudah mempunyai / memiliki / punya istri.
person that PERF possess wife
「あの人にはもう妻がいる。」

[14c] Orang itu sudah ada istri / istrinya.
person that PERF exist wife / wife-DET 「あの人にはもう妻がいる。」

(15) あの人には3人子供がいる。 / 3人の子持ちの人・あの人の3人の子供 / 妊娠している女性

[15a] Orang itu beranak tiga (orang).
person that BER-child three CLF 「あの人には3人子どもがいる。」

[15b] Orang itu mempunyai / memiliki / punya tiga (orang) anak.
person that possess three CLF child
「あの人には3人子どもがいる。」

[15c] Orang itu anaknya tiga (orang).
person that child-DET three CLF 「あの人は子どもが3人だ。」

[15d] tiga (orang) anak (dari) orang itu
three CLF child from person that 「あの人の3人の子ども」

被修飾語が後続の修飾語に属しているという関係を表す場合に、とりわけフォーマルな文ではしばしば前置詞 *dari* を用いる。

[15e] wanita yang (sedang) hamil
 woman REL PROG pregnant 「妊娠している女性」

[15f] wanita yang (sedang) mengandung
 woman REL PROG contain 「妊娠している女性」

「妊娠している」は *hamil* または *mengandung* という語を用いるのみである ([15e], [15f]).

(16) タコには足が 8 本ある。

[16a] Gurita (itu) berkaki delapan.
 octopus that BER-leg eight 「タコは 8 本足である」

[16b] Gurita (itu) mempunyai / memiliki / punya delapan kaki.
 octopus that possess eight leg
 「タコは 8 本足である。」

[16c] Gurita (itu) kakinya delapan.
 octopus that leg-DET eight 「タコは足が 8 本だ。」

指示代名詞 *itu* は総称的 (「～というもの (は)」) に述べる際にも用いられる ([16a]～[16c]).

(17) その飲み物にはアルコールが入っている。 / アルコール入りの飲み物

[17a] Minuman itu mengandung alkohol.
 beverage that contain alcohol
 「その飲み物はアルコールを含んでいる。」

[17b] Minuman itu beralkohol.
 beverage that BER-alcohol 「その飲み物はアルコール入りだ。」

[17c] minuman beralkohol
 beverage BER-alcohol 「アルコール入りの飲み物」

ber- 派生語は、語によってしばしば関係詞 yang を伴わず修飾語として用いられる。
 [17c] の場合、minuman yang beralkohol は容認度が低いようだ。

(18) あの人はお金を持っている。／お金持ちの人

[18a] Orang itu mempunyai / memiliki / punya (banyak) uang.
 person that possess many money
 「あの人はお金を (たくさん) 持っている。」

数量を示す語は、[18a] のように先に述べるのが語順の基本である。ただし実際には、とりわけ会話で uang banyak とも言う。

[18b] Orang itu ada (banyak) uang.
 person that exist many money 「あの人はお金が (たくさん) ある。」

[18c] Orang itu uangnya banyak.
 person that money-DET many 「あの人はお金がたくさんある。」

[18d] Orang itu banyak uangnya.
 person that many money-DET 「あの人はお金がたくさんある。」

[18b] ～ [18d] は会話的である。[18c] が「AはBがCである」という語順であるのに対し、[18d] は「AはCである、Bが」という語順と解釈できる。

(19) おまえのところには犬がいるか？／犬のいる人

[19a] Di rumah kamu ada anjing?
 at house 2SG exist dog 「おまえの家には犬がいるか？」

[19b] Ada anjing di rumah kamu?
 exist dog at house 2SG 「おまえの家に犬がいるか？」

[19c] Kamu memelihara anjing di rumah?
 2SG take care dog at house 「おまえは家で犬を飼っているか？」

[19d] Kamu punya anjing di rumah?
 2SG possess dog at house 「おまえは家に犬がいるか？」

[19e] Kamu ada anjing di rumah?
 2SG exist dog at house 「おまえは家に犬がいるか？」

[19d] はやや会話的, [19e] は会話的である.

(20) おまえはペンを持っているか? / ペンを持っている人

[20a] Kamu membawa / bawa pulpen (kamu sendiri)?
 2SG carry pen yourself
 「おまえは (自分の) ペンを持って (きて) いるか？」

[20b] Anda mempunyai / memiliki / punya pulpen (Anda sendiri)?
 2SG possess pen yourself
 「あなたは (自分の) ペンを持っていますか？」

[20a] は手元にあるかどうかを, [20b] は所有として持っているかどうかを尋ねることになる.

[20c] Kamu ada pulpen (kamu sendiri)?
 2SG exist pen yourself 「おまえは (自分の) ペンがあるか？」

(21) あの人は (誰か別の人の) ペンを持っている.

[21a] Orang itu membawa pulpen orang lain.
 person that carry pen person other
 「あの人は他人のペンを持っている」

[21b] Orang itu memegang pulpen orang lain.
 person that hold pen person other
 「あの人は他人のペンを手に持っている」

[21c] Orang itu menyimpan pulpen orang lain.
 person that store pen person other
 「あの人は他人のペンをしまっている」

mempunyai / memiliki / punya は所有物として持っていることを表し、他人のものを手に持っていることを意味しない。そのため [21a] ~ [21c] などのように別の動詞を用いることになる。

(22) あの人は運がいい。 / 幸運な人 / 私に良い考えがある。

[22a] Orang itu beruntung.
 person that BER.luck 「あのひとは運が良い。」

[22b] Orang itu untung.
 person that luck 「あのひとは運が良い。」

untung は基本的に名詞だが、会話では [22b] のように接頭辞 ber- を伴わずに「運が良い」という意味でよく用いられる。

[22c] Orang itu mempunyai / memiliki / punya untung.
 person that possess luck 「あの人は運が良い。」

untung については、ada を用いた *Orang itu ada untung(-nya). のような言い方はできない。

[22d] Saya mempunyai / memiliki / punya ide bagus.
 1SG possess idea nice 「私は良い考えがある。」

[22e] Saya ada ide bagus.
 1SG exist idea nice 「私は良い考えがある。」

(23) ここは石が多い. / 石の多い土地

[23a] Di daerah ini terdapat banyak batu.
 at region this can be found many stone
 「この地域には石がたくさんある。」

[23a] の terdapat はもともと「見受けられる」といった意味だが、フォーマルな文体で「ある／いる」を表す際によく用いられる。

[23b] Di daerah ini ada banyak batu.
 at region this exist many stone 「この地域には石がたくさんある。」

[23c] Di daerah ini banyak batu.
 at region this many stone 「この地域には石がたくさんある。」

banyak は単独で「たくさんある／たくさんいる」のように存在を表す述語として機能する ([23c])。しかし、[23b] のように ada を伴う表現もしばしば見受けられる。

[23d] Di daerah yang banyak batunya
 at region REL many stone-DET 「石の多い地域」

[23e] daerah tempat terdapat banyak batu
 region place can be found many stone 「石が多くある地域」

[23f] daerah di mana terdapat banyak batu
 region at where can be found many stone 「石が多くある地域」

関係詞 yang を用いる際には、先行詞と yang に後続する部分とが「主語－述語」の関係になっている必要がある。そのような関係ではない場合、場所を表す際には tempat (直訳「場所」) あるいは di mana (直訳「どこで」) を関係副詞のごとく用いる。di mana は標準インドネシア語としては容認度が低い、実際には多用されている。

(24) その部屋には椅子が 3 つある / 3 つ椅子のある部屋 / 3 つの椅子

[24a] Di kamar itu terdapat tiga (buah) kursi.
at room that can be found three CLF chair

「その部屋には椅子が 3 つある。」

[24b] Di kamar itu ada tiga (buah) kursi.
at room that exist three CLF chair

「その部屋には椅子が 3 つある。」

[24c] kamar dengan tiga (buah) kursi.
room with three CLF chair

「椅子が 3 つある部屋」

dengan (「〜と」) を用いた [24c] はフォーマルな表現である。kamar yang tiga (buah) kursi は標準インドネシア語では不可とされるが、会話では用いられる。

(25) テーブルの上にスプーンがある。 / スプーンのあるテーブル

[25a] Terdapat sendok di atas meja itu.
can be found spoon at upper side table that

「そのテーブルの上にスプーンがある。」

[25b] Ada sendok di atas meja itu
exist spoon at upper side table that

「そのテーブルの上にスプーンがある。」

[25c] Di atas meja itu terdapat / ada sendok.
at upper side table that can be found / exist spoon

「そのテーブルの上にはスプーンがある。」

存在が新情報である場合、ada / terdapat の後に存在する事物が続き、ひとつのフレーズを形成する。

[25d] meja yang ada sendoknya
table REL exist spoon-DET

「スプーンのあるテーブル」

[25d] は「BがCであるA」という構造と解釈される。

(26) そのスプーンはテーブルの上にある。 / テーブルにあるスプーン

[26a] Sendok itu terdapat di atas meja makan.
 spoon that can be found at upper side dining table
 「そのスプーンは食卓の上にある。」

[26b] Sendok itu ada di atas meja makan.
 spoon that exist at upper side dining table
 「そのスプーンは食卓の上にある。」

存在ではなく場所が新情報の場合、存在する事物がいわゆる主語として独立したフレーズを形成し、terdapat / ada 以降が述語として対応する。

[26c] sendok yang ada di atas meja makan.
 spoon REL exist at upper side dining table 「食卓の上にあるスプーン」

(27) そのペンは私のだ。・そのペンは太郎のだ。 / 私のペン・太郎のペン

[27a] Pulpen itu milik / kepunyaan saya / Taro.
 pen that possession 1SG / NAME 「そのペンは私 / 太郎のだ。」

[27b] Pulpen itu punya saya / Taro.
 pen that possession 1SG / NAME 「そのペンは私 / 太郎のだ。」

punya は「所有する / している」という動作（またはプロセス）を表す語だが、[27b] のように会話ではしばしば「所有（物）」の意味で用いられる。

[27c] pulpen saya / Taro
 pen 1SG / NAME 「私 / 太郎のペン」

[27d] pulpen milik / kepunyaan saya / Taro
 pen possession 1SG / NAME 「私 / 太郎のペン」

所有者を表す場合には、基本的に [27c] のように所有者を直接続けるか、[27d] のように「所有(物)」を意味する *milik / kepunyaan* を用いて「私／太郎の所有物であるペン」のように言う。なお、会話では「私のペン」を *saya punya pulpen* のように言うこともある。

(28) 昨日、学校で火事があった。／私は明日用事があります。

[28a] *Kebakaran terjadi di sekolah kemarin.*
fire happen at school yesterday 「昨日学校で火事が起こった。」

[28b] *Terjadi kebakaran di sekolah kemarin.*
happen fire at school yesterday 「昨日学校で火事が起こった。」

[28c] *Ada kebakaran di sekolah kemarin.*
exist fire at school yesterday 「昨日学校で火事があった。」

「できごとの生起」を表す最も一般的な語は *terjadi* ([28a], [28b]) だが、とりわけ会話では *ada* 「ある／いる」を用いることもしばしばである。

[28d] *Saya mempunyai / punya urusan besok.*
1SG possess matter tomorrow 「私は明日用事がある。」

[28e] *Saya ada urusan besok.*
1SG exist matter tomorrow 「私は明日用事がある。」

「用事がある」は「用事を持つ」([28c]) あるいは「用事がある」([28d]) のように言う(ただし [28d] の *punya* や [28e] は会話的表現)。

(29) (この世には) お化けなんていない。

[29a] *Di dunia ini tidak ada hantu.*
at world this not exist ghost 「この世にはお化けはいない。」

[29b] Hantu itu tidak ada di dunia ini
ghost that not exist at world this

「お化け（というもの）はこの世にいない。」

[29b] は標準インドネシア語としては容認度がやや下がる。

(30) (そこには) 英語を話す人もいるが、話さない人もいる。

[30a] Ada yang bisa berbahasa Inggris, ada (juga) yang tidak.
exist REL can BER-language England exist also REL not

「英語ができる人もいれば、そうでない人もいる。」

「Aする人もいればBする人もいる」という表現は、Ada yang A, (dan) ada (juga) yang B のパターンが一般的である。なお、[30a]の後半部分は、「Aしない人」なので、yang の後に否定語 tidak を用いるのみとなっている。

(31) 私より英語ができる人は（ほかに／もっと）います。

[31a] Masih ada lagi (orang) yang lebih pintar berbahasa
still exist also person REL more clever BER-language
Inggris daripada saya.
England than 1SG

「私よりも英語を用いるのがうまい人はまださらにいる。」

[31b] Banyak lagi (orang) yang lebih pintar berbahasa
many also person REL more clever BER-language
Inggris daripada saya.
England than 1SG

「私よりも英語を用いるのがうまい人はさらにたくさんいる。」

[31b] の banyak は「たくさんある／いる」のように ada を用いることなく単独で存在を表す述語として成立する ([23c] 参照)。

(32) ちょっとあなたにお願いがあります.

[32a] Saya mau minta tolong kepada Anda.
1SG want ask for help to 2SG

「私はあなたに手伝いをお願いしたい。」

「お願いがある」という意図は、一般的には [32a] のように「手伝いを頼む」という表現を用いる.

2.2. 句の所有構造

(33) 冬の雨【時間】，東京の家【場所】

[33a] hujan pada / di musim dingin
rain at / at season cold 「冬の雨」

[33b] hujan musim dingin
rain season cold 「冬の雨」

[33c] rumah di Tokyo
house at Tokyo

「冬の雨」と言う場合，[33a] [33b] のように時を表す前置詞 *di / pada* を用いても，用いなくても表現することができる．一方 [33c] のように，場所を示す語を修飾語として直接続けることはできず，前置詞 *di* を用いなければならない．

(34) 彼の泳ぎ／犬の鳴き声／火山の爆発【Bが行為を示す名詞である場合の主体】，車の運転【Bが行為を示す名詞である場合の客体／対象】，～の小説【Aの生産物であるB】

[34a] gaya / cara / penampilan renang
style / manner / performance swimming-3SG 「彼(女)の泳ぎ方」

「泳ぎ」に相当する表現は，[34a] のように *gaya / cara / penampilan* 等の語を伴って「泳ぎ方」といった表現にする必要がある．

[34b] gonggongan anjing
barking dog 「犬の鳴き声」

[34c] letusan gunung berapi
eruption mountain volcanic 「火山の爆発」

[34b] の gonggongan や [34c] の letusan は、いずれも名詞を形成する接尾辞 -an を伴っている。

[34d] cara menyetir mobil
manner drive car 「自動車の運転 (の仕方)」

[34e] penyetiran mobil
driving car 「自動車の運転」

[34d] は「自動車の運転の仕方」、[34e] は「自動車を運転するという行為」を表す。実際には [34e] は使用できる状況が限られると思われる。

[34f] novel Pramoedya
novel NAME 「プラムディアの小説」

[34g] novel karangan Pramoedya
novel piece of writing NAME 「プラムディアの小説」

「Bの作品であるA」は、[34f] のように作者を作品に直接続けることで表現することもできるが、よりフォーマルには「作ったもの」に相当する語を用い、同格の句を修飾語とする。[34g] は、直訳的に述べると「プラムディアが書いたものである小説」といった表現である。

(35) Xさん (固有名詞) のお母さん【親族】、机の横に／机の前に／*机に (来て!)【場所名詞】、あの人の次【時間的關係】

[35a] ibu saya
mother 1SG 「私の母」

[35b] ibu dari Ade
mother from NAME 「アデの母親」

[35c] ibunya Ade
mother-DET NAME 「アデの母親」

親族関係を表す場合、「AのB」の「A」が代名詞のみであれば、一般的にそのまま続ける ([35a])。固有名詞あるいは一般名詞を含む場合には、[35a] の修飾形式も可能だが、フォーマルな文体ではしばしば前置詞 *dari* を伴う ([35b])。また会話では、*-nya* を用いる表現が一般的となっている ([35c])。

[35d] di samping meja
at side desk 「机の横に」

[35e] di depan meja
at front desk 「机の前に」

[35f] Datanglah pada meja
come-PTCL at desk 「机のところに来て！」

位置関係を述べるには、[35d] や [35e] のように「横」や「前」など具体的な位置を表す語を前置詞 *di* に続けて用いる。[35f] のように具体的な位置関係を用いずに「～のところへ」と述べる場合には、前置詞 *pada* を用いることにより表現が可能となる。

[35g] giliran berikutnya
turn following-DET 「次の順番」

[35h] giliran berikutnya sesudah orang itu
turn following-DET after person that 「あの人の次の順番」

「あの人の次」に相当する表現は、[35h] のような言い方をせざるを得ないようである。

- (36) バラの花びら【種別】，果物のナイフ【用途】，紙の飛行機【材料・材質】，チューリップの絵【内容】，花の匂い【産出物】，英文の手紙【表現形式(?)】，日本語の先生【職種】，井戸の水【取得源】，雨の日【状況】

[36a] daun makhkota (dari) bunga mawar
petal from flower rose 「バラの花びら」

[36b] pisau untuk buah-buahan
knife for fruits 「果物のナイフ」

pisau buah-buahan は会話的で容認度が低く，用途を表すには前置詞 *untuk* を用いる。

[36c] pesawat terbang dari kertas
airplane from paper 「紙の飛行機」

- [36c] は，被修飾語が2語であるため前置詞 *dari* が必要になると思われる。被修飾語が1語であれば，*dari* がなくてもよさそうである（例：perahu kertas 「紙の船」）

[36d] gambar bunga tulip
picture flower tulip 「チューリップの花の絵」

[36e] bau bunga (yang harum)
smell flower REL aromatic 「花の匂い」

[36f] surat dalam bahasa Inggris
letter in language England 「英語の手紙」

「〇〇語の／〇〇語で書かれている」と言う場合，一般的に前置詞 *dalam* を用いる。

[36g] guru bahasa Jepang
teacher language Japan 「日本語の先生」

[36h] air (dari) sumur
water from well 「井戸の水」

[36i] hari hujan
 day rain 「雨の日」

天候を表す場合、語によって修飾の仕方が異なるようである。hujan「雨」は一般に名詞(的)であり、関係詞 yang を用いた hari yang hujan は不自然である。一方, cerah「晴れている」や mendung「曇っている」は一般に形容詞(的)であり, hari yang cerah あるいは hari yang mendung のように yang を伴う用例の方が多く見受けられる。

(37) 妹の花子／社長の田中さん 【同格】

[37a] Hanako, adik saya
 NAME younger brother/sister 1SG 「私の妹である花子」

[37b] adik saya, Hanako
 younger brother/sister 1SG NAME 「私の妹の花子」

同格を表す「の」に相当する語がないため、「AであるB」や「A B」という表現とまる ([37a], [37b] : [37d], [37e] も同様)。

[37c] adik saya yang bernama Hanako
 younger brother/sister 1SG REL BER-name NAME 「花子という名の私の妹」

[37d] direktur kami, Bapak Tanaka
 managing director 1PL.EXCL TTL NAME 「私どもの社長の田中(氏)」

[37e] Bapak Tanaka, direktur kami
 TTL NAME managing director 1PL.EXCL 「私どもの社長である田中(氏)」

[37f] Bapak Tanaka yang merupakan direktur kami
 TTL NAME REL constitute managing director 1PL.EXCL
 「私どもの社長である田中(氏)」

[37f] の merupakan は、語構成としては「～を形作る」といった意味であるが、フォーマルな文章ではコンピュータのごとく用いられる。

(38) となりの家の友達のお父さんの車のタイヤ (が昨日突然パンクしたんだって。) 【属格の連続使用】

[38a] ban mobil milik ayah teman yang tinggal di rumah sebelah
 tire car possession father friend REL live at house next

「となりの家の友達のお父さんの車のタイヤ」

属格の連続使用は、一般に日本語ほどの自由がきかない。上記の例では、とりわけ「隣の家の (友達)」は場所を示すため、少なくとも前置詞 *di* が必要となる ([33c] 参照)。

略語

1PL	1st person plural	EXCL	exclusive
1SG	1st person singular	NAME	proper name
2SG	2nd person singular	PERF	perfective
3SG	3rd person singular	PROG	progressive
CLF	classifier	PTCL	particle
COP	copula	REL	relative
DET	determiner	TTL	title

マレーシア語の所有表現(データ)

野元 裕樹, ウン・シンティ, ファリダ・モハメッド

1. 概要

マレーシア語で所有を表す方法には、大きく分けて2つの方法が存在する。所有を表す動詞によるものと接頭辞 *ber-* によるものである。所有を表す動詞には *ada*「ある」、*mempunyai*「持つ」、*memiliki*「所有する」などがある。*ada* は、存在、所在も表す(例:(25), (26), (28)–(30))。 *mempunyai* と *memiliki* はそれぞれ、語根 *punya*, *milik* に能動態標識 *meN-*¹ と適用標識 *i* が付加したものである。下のデータでは紙幅の節約のため、これら2語の形態素分析を省略してある。語根 *punya*, *milik* は単独では所有の標識として用いられる。*punya* を使った所有表現は、口語体であり、「所有者 *punya* 所有物」という語順を取る(例:(27))。この語順は、修飾句が被修飾句の後に来る、マレーシア語の修飾構造の一般型から逸脱する。一方、*milik* を使った所有表現は、マレーシア語の修飾構造の一般型に従った、「所有物 *milik* 所有者」という語順を取る(例:(21))。

接頭辞 *ber-* は、その補部の特性が備わっていることを表す動詞句を形成する。その意味は所有に類似し、多くの場合、所有を表す動詞を使った表現でパラフレーズが可能である。統語的には、*bel-ajar*「学ぶ」など語彙化したものを除けば、*ber-* は句を補部にとると考えたい²。例えば、(1)の *ber-mata biru*「青い目をしている」の場合、語根 *mata*「目」に *ber-* が付加し、その後、*biru*「青い」が併合 (*merge*) される ([[*ber-mata*] *biru*]) のではなく、*ber-* が名詞句 *mata biru*「青い目」を補部に取り、それを動詞句化する ([*ber-* [*mata biru*]])。よって、*ber-* 動詞句は、基本的に一項述語(自動詞)である。*ber-* 動詞句の統語分析を興味深くするのは、*ber-* の補部となる名詞句が数量表現を含む場合である。通常ならば NP の前に生起する、数量表現が NP の後に生起するのである(例:(15), (18), (23), (24))。例えば、「3人の子供」を意味する表現は、他動詞の項である(15a)では、*tiga orang anak* [three CLF child]であるのに対し、*ber-* の補部である(15a')では、*anak tiga orang* [child three CLF]となる。

¹ N で表される鼻音要素は、語幹の最初の音に応じて変化する。なお、語幹が *p*, *t*, *s*, *k* で始まる場合、これらの音は脱落する。本稿では、これらの脱落する無声阻害音を [] に入れて表記することにする。

² 実際にそのような分析が正しいかどうかの検討は、今後の課題とする。*ber-* 動詞の統語的特徴については、Fortin and Soh (2013)を除けば、本格的な議論はほとんどされていない。

2. データ

2.1. 所有表現

- (1) a. Orang itu ber-mata biru.
 person that BER-eye blue
 「あの人は青い目をしている。」
- b. orang yang ber-mata biru
 person REL BER-eye blue
 「青い目の人」
- c. orang yang mata-nya biru
 person REL eye-3SG blue
 「目が青い人」
- d. Orang-orang itu {mempunyai mata/ ber-mata}.
 scarecrow that own eye BER-eye
 「あのカカシは目がある。」(「目」に対する修飾語なし。主語が orang 「人」
 の場合、文法的だが、意味的に容認不可能。)
- (2) a. Wanita itu rambut-nya panjang.
 woman that hair-3SG long
 「あの女は髪が長い。」
- b. Rambut wanita itu panjang.
 hair woman that long
 「あの女の髪は長い。」
- c. Wanita itu be-rambut panjang.
 woman that BER-hair long
 「あの女は長い髪をしている。」
- d. wanita yang be-rambut panjang
 woman REL BER-hair long
 「長い髪の女」
- e. wanita yang rambut-nya panjang
 woman REL hair-3SG long
 「髪の長い女」
- (3) a. Orang itu ada/mempunyai/memiliki misai/janggut.
 person that have/own/possess mustache/beard
 「あの人には髭がある。」

- b. lelaki (yang) ber-misai/ ber-janggut
 man REL BER-mustache/ BER-beard
 「髭の男」
- (4) a. Orang itu mempunyai mata yang tajam.
 person that own eye REL sharp
 「あの人には（見る）目がある。」（慣用的表現としての「目」）
- b. orang yang mempunyai mata yang tajam
 person REL own eye REL sharp
 「見る目のある人」（慣用的表現としての「目」）
- (5) a. Orang itu (ber-usia/ ber-umur) 22 tahun.
 person that BER-age BER-age 22 year
 「あの方は22歳だ。」
- b. orang yang (ber-usia/ ber-umur) 22 tahun
 person REL BER-age BER-age 22 year
 「22歳の人」
- (6) a. Orang itu ber-perangai baik.
 person that BER-personality good
 「あの方は優しい性格だ。」
- b. orang yang ber-perangai baik
 person REL BER-personality good
 「優しい性格の人」
- (7) a. Orang itu (ber-badan) tinggi.
 person that BER-body tall
 「あの方は背が高い。」
- b. orang yang (ber-badan) tinggi
 person REL BER-body tall
 「背の高い人」
- (8) a. Orang itu ke-tinggi-an-nya ada (sampai) 190 cm.
 person that NMLZ-high-NMLZ-3SG have till 190 cm

- a'. *Orang itu ada ke-tinggi-an se-tinggi 190 cm.
 person that have NMLZ-high-NMLZ as-high 190 cm
- a'". *Orang itu ber-ke-tinggi-an se-tinggi 190 cm.
 person that BER-NMLZ-high-NMLZ as-high 190 cm
 「あの人は背が 190 センチもある。」
- (9) a. Batu itu ber-bentuk empat segi.
 stone that BER-shape four side
 「その石は四角い形をしている。」
- b. batu yang ber-bentuk empat segi
 stone REL BER-shape four side
 「四角い (形の) 石」
- (10) a. Orang itu ada/mempunyai/memiliki bakat.
 person that have/own/possess talent
- a'. Orang itu ber-bakat.
 person that BER-talent
 「あの人には才能がある。」
- b. orang yang ada/mempunyai/memiliki bakat
 person REL have/own/possess talent
- b'. orang yang ber-bakat
 person REL BER-talent
 「才能のある人」
- (11) a. Orang itu sakit.
 person that ill
 「あの人は病気だ。」
- b. Orang itu {ada demam panas/ *ber-demam panas}.
 person that have fever hot BER-fever hot
 「あの人は熱がある。」
- c. orang yang sakit
 person REL ill
 「病気の人」

- (12) a. Orang itu mem-[p]akai baju biru.³
 person that ACT-wear clothes blue
 a'. Orang itu ber-baju biru.
 person that BER-clothes blue
 「あの人は青い服を着ている。」
 b. lelaki yang baju-nya biru
 man REL clothes-3SG blue
 「青い服の男」
- (13) a. Orang itu mem-[p]akai cermin mata.
 person that ACT-wear glasses
 a'. Orang itu ber-cermin mata.
 person that BER-glasses
 「あの人はメガネをかけている。」
 b. lelaki yang ber-cermin mata.
 man REL BER-glasses
 「メガネの男」
- (14) a. Orang itu ada/mempunyai/memiliki isteri.
 person that has/own/possess wife
 a'. Orang itu ber-isteri.
 person that BER-wife
 「あの人には妻がいる。」
 b. orang yang (sudah) ber-kahwin/ ber-nikah/ be-rumah tangga.
 person REL PERF BER-marry/ BER-marry/ BER-household
 「既婚の人」
 c. orang yang ada/mempunyai/memiliki isteri
 person REL have/own/possess wife
 c'. orang yang ber-isteri
 person REL BER-wife
 「妻のいる人」

³ Leipzig Glossing Rules にない略号 : ACT: active; PART: particle; PERF: perfect.

- (15) a. Orang itu ada/mempunyai/memiliki tiga orang anak.
 person that have/own/possess three CLF child
- a'. Orang itu ber-anak tiga orang.
 person that BER-child three CLF
 「あの人には3人子供がいる。」
- b. orang yang ada/mempunyai/memiliki tiga orang anak
 person REL have/own/possess three CLF child
- b'. orang yang ber-anak tiga orang
 person REL BER-child three CLF
 「3人の子持ちの人」
- c. tiga orang anak orang itu
 three CLF child person that
 「あの人の3人の子供」
- d. perempuan yang sedang mengandung
 woman REL PROG pregnant
- d'. perempuan yang ber-badan dua
 woman REL BER-body two
 「妊娠している女性」
- (16) a. Sotong kurita ada/mempunyai/memiliki lapan kaki.
 octopus have/own/possess eight leg
- a'. Sotong kurita ber-kaki lapan.
 octopus BER-leg eight
 「タコには足が8本ある。」
- (17) a. Minuman itu ada (mengandung) alkohol.
 beverage that have contain alcohol
- a'. Minuman itu ber-campur alkohol.
 beverage that BER-mix alcohol
 「その飲み物にはアルコールが入っている。」
- b. minuman yang mengandung alkohol
 beverage REL contain alcohol
 「アルコール入りの飲み物」

- (18) a. Orang itu ada/mempunyai/memiliki wang.
 person that have/own/possess money
 a'. Orang itu ber-wang/ ber-duit.
 person that BER-money/ BER-money
 「あの人はお金を持っている。」
 b. orang yang ber-wang/ ber-duit/ kaya
 person REL BER-money/ BER-money/ rich
 b'. orang yang ber-harta banyak
 person REL BER-property many
 「お金持ちの人」
- (19) a. Rumah kamu ada anjing-kah?
 house 2SG have dog-Q
 「おまえのところには犬がいるか？」
 b. orang yang ada/mempunyai/memiliki anjing
 person REL have/own/possess dog
 「犬のいる人」
- (20) a. Kamu ada/mempunyai/memiliki pen (sendiri) -kah?
 2SG have/own/possess pen own -Q
 「おまえは（自分の）ペンを持っているか？」
 b. orang yang ada/mempunyai/memiliki pen
 person REL have/own/possess pen
 「ペンを持っている人」
- (21) Orang itu ada simpan/ bawa pen (milik orang lain).
 person that have keep/ bring pen POSS person other
 「あの人は（誰か別の人の）ペンを持っている。」
- (22) a. Orang itu nasib-nya baik.
 person that luck-3SG good
 「あの人は運がいい。」
 b. orang yang ber-nasib baik
 person REL BER-luck good
 「幸運な人」

- (23) a. Di sini banyak batu.
at here many stone
「ここは石が多い。」
- b. tanah yang {banyak batu/ ber-batu banyak}
land REL many stone BER-stone many
「石の多い土地」
- (24) a. Bilik itu ada/mempunyai/memiliki tiga buah kerusi.
room that have/own/possess three CLF chair
- a'. Bilik itu ber-kerusi tiga buah.
room that BER-chair three CLF
「その部屋には椅子が3つある。」
- b. bilik yang ada/mempunyai/memiliki tiga buah kerusi
room REL have/own/possess three CLF chair
- b'. bilik yang ber-kerusi tiga buah
room REL BER-chair three CLF
「3つ椅子のある部屋」
- (25) a. Di atas meja ada sudu.
at top table be spoon
「テーブルの上にスプーンがある。」
- b. meja yang {ada sudu/ ber-sudu}
table REL have spoon BER-spoon
「スプーンのあるテーブル」
- (26) a. Sudu itu ada di atas meja.
spoon that be on top table
「そのスプーンはテーブルの上にある。」
- b. sudu yang ada di atas meja
spoon REL be at top table
「テーブルにあるスプーン」

- (27) a. Pen itu saya punya.
pen that 1SG POSS
「そのペンは私のだ。」
- b. Pen itu Ali punya.
pen that Ali POSS
「そのペンはアリのだ。」
- c. pen saya
pen 1SG
「私のペン」
- d. pen Ali
pen Ali
「アリのペン」
- (28) a. Semalam, ada kebakaran di sekolah.
yesterday be fire at school
「昨日, 学校で火事があった。」
- b. Esok saya ada hal.
tomorrow 1SG have matter
「私は明日用事があります。」
- (29) Tidak ada hantu di dunia ini.
not be ghost at world this
「(この世には) お化けなんていない。」
- (30) (Di situ) ada juga orang yang boleh ber-bahasa Inggeris, ada juga
at there be also person REL can BER-language English be also
(orang) yang tidak boleh.
person REL not can
「(そこには) 英語を話す人もいるが, 話さない人もいる。」
- (31) Ramai lagi orang yang lebih pandai ber-bahasa Inggeris daripada saya.
many more person REL more clever BER-language English from 1SG
「私より英語ができる人はもっています。」

- (32) Saya hendak minta tolong sedikit (dengan kamu).
 1SG want ask help a.little with 2SG
 「ちょっとあなたにお願いがあります。」

2.2. 「A の B」

- (33) a. hujan (pada/di) musim sejuk
 rain at/at winter
 「冬の雨」
 b. rumah (di) Tokyo
 house at Tokyo
 「東京の家」
- (34) a. gaya/cara dia be-renang
 style/way 3SG BER-swim
 「彼の泳ぎ」
 b. suara anjing meny-[s]alak
 voice dog ACT-bark
 b'. bunyi salak-an (*oleh) anjing
 sound bark-NMLZ by dog
 「犬の鳴き声」 (-an 名詞の外項 (動作主など) は oleh 前置詞句で表せない.)
 c. letup-an (*oleh) gunung berapi
 explode-NMLZ by volcano
 「火山の爆発」
 d. cara mem-[p]andu kereta
 way ACT-drive car
 「車の運転」
 e. novel (oleh) Anwar Ridhwan
 novel by Anwar Ridhwan
 e'. novel tulis-an (*oleh) Anwar Ridhwan
 novel write-NMLZ by Anwar Ridhwan
 「アヌワー・リドゥワンの小説」
- (35) a. ibu (kepada) Cik Halimah
 mother to Miss Halimah
 「ハリマさんのお母さん」

- b. di tepi meja
at side table
「机の横に」
- c. di depan meja
at front table
「机の前に」
- d. (Mari-lah) ke meja
come-PART to table
「机 * (の所) に (来て!)」
- e. selepas orang itu
after person that
「あの人の次」
- (36) a. kelopak bunga mawar
petal flower rose
「バラの花びら」
- b. pisau potong buah
knife cut fruit
「果物 (用の) ナイフ」
- c. kapal terbang kertas
plane papar
「紙 (の) 飛行機」
- d. gambar bunga tulip
picture flower tulip
「チューリップの絵」
- e. bau bunga
scent flower
「花の匂い」
- f. surat (dalam) bahasa Inggeris
letter in language English
「英文 (の) 手紙」
- g. guru bahasa Jepun
teacher language Japan
「日本語 (の) 教師」

- h. air (dari/daripada) perigi
water from/from well
「井戸 (の) 水」
- i. hari hujan
day rain
「雨の日」
- (37) a. adik perempuan (saya), Siti
younger.sibling female 1SG Siti
「妹のシテイ」
- b. presiden syarikat, Encik Lim
president company Mr. Lim
「社長のリムさん」
- (38) tayar kereta bapa kawan rumah sebelah
tyre car father friend house side
(tiba-tiba pancit semalam, kata-nya.)
suddenly punctured yesterday say-3SG
「となりの家の友達のお父さんの車のタイヤ (が昨日突然パンクしたんだって.)」

参考文献

- Fortin, Catherine and Hooi Ling Soh. 2013. Blocking effects and the verbal prefix *ber-* in Malay and Indonesian. The 20th Meeting of the Austronesian Formal Linguistics Association (AFLA)での発表論文.

アラビア語

松尾 愛

現代標準アラビア語(以下, MSA)の所有表現には前置詞(li-: for~, 'inda-: at~, ladā: at~, ma'a-: with~, fi: in~, bi-: of~) +所有者(属格)を用いた構文の他, 「所有者」を意味する *dū*¹ +属格の名詞を用いた表現もある。財産・不動産などを所有している場合には *iktasaba* や *imtalaka* といった「～を所有する」という動詞を使うこともある。

以下の例文は, 東京外国語大学特任外国人教員イハープ・アフマド・エベード氏のチェックを受けている。

なお, 本稿における例文などはすべて稿末に掲げる規則に従った転写法により表記する。

(1) あの人は青い目をしている。 / 青い目の人・目が青い人

(1a) la-hu 'ayn-āni zarqāwat-āni
 (前置詞)～に-彼.GEN 目-DU.NOM 青い\DU.NOM
 「彼は青い目をして(持って)いる。」

(1b) a-rrajul-u *dū* 'ayn-ayni zarqāwat-ayni
 DEF-男-NOM 所有者.NOM 目-DU.GEN 青い\DU.GEN
 「その男は青い目をしている。」

(1c) 'ayn-ā-hu zarqāwat-āni
 目-DU-彼.GEN 青い\DU.NOM
 「彼の両目は青い。」

(1d) a-rrajul-u *dū* l-'ayn-ayni l-zarqāwat-ayni
 DEF-男-NOM 所有者.NOM DEF-目-DU.GEN DEF-青い\DU.GEN
 「青い目のその男(は)」

(1e) a-rrajul-u llaḍī la-hu 'ayn-āni zarqāwat-āni
 DEF-男-NOM REL (前置詞)～に-彼.GEN 目-DU.NOM 青い\DU.NOM
 「青い目のその男(は)」

(1) (1a)は前置詞 *li*²を用いた構文。身体部位や家族, 権利など所有者にとって不可分・不可欠なものというニュアンスが含まれる場合, 前置詞は *li*-が用いられる(八木ほか2013: 80)。(1b)は所有者を意味する *dū* を用いた構文。後続する語が非限定の場合「文」になるが, (1d)のよう

¹ 数・格によって曲用する。単数形のみここに例を示す。 *dū*/ *dī*/ *dā*: M.SG.NOM/ GEN/ ACC, *dāt-u*/ *dāt-i*/ *dāt-a*: F.SG.NOM/ GEN/ ACC,

² 後続する非分離系人称代名詞が *-hu*: 彼, *-ka*: 貴男, *-ki*: 貴女などの場合, 前置詞は *li*-は *la*-になる。

に限定された名詞が *dū* に後続すると「句」になる。(1e)は関係詞節のなかに「前置詞の *li-* for~+所有者」の表現を用いた文である。イハープ氏によると、*dū* を用いた構文は関係詞を用いた文よりもよりフォーマル度が高い印象があるという。

(2) あの女 {は/の} 髪が長い・あの女は長い髪をしている/長い髪の女・髪の長い女

(2a) *la-hā* *ša'r-un* *ṭawīl-un*
 (前置詞)〜に-彼女.GEN 髪-DU.NOM 長い\DU.NOM
 「彼女は長い髪をして(持って)いる。」

(2b) *ša'r-u-hā* *ṭawīl-un*
 髪-NOM-彼女.GEN 長い\NOM
 「彼女の髪は長い。」

(2c) *al-mar'at-u* *dāt-u* *ša'r-in* *ṭawīl-in*
 DEF-女性-NOM 所有者-NOM 髪-GEN 長い\GEN
 「その女性は長い髪をして(持って)いる。」

(2d) *al-mar'at-u* *ṭawīlat-u* *š-ša'r-i*
 DEF-女性-NOM 長い\NOM DEF-髪-GEN
 「その女性は長い髪です。」

(2e) *al-mar'at-u* *dāt-u* *š-ša'r-i* *ṭ-ṭawīl-i*
 DEF-女性-NOM 所有者-NOM DEF-髪-GEN DEF-長い\GEN
 「長い髪をしたその女性 (は)」

(2f) *al-mar'at-u* *llaī* *la-hā* *ša'r-un* *ṭawīl-un*
 DEF-女性-NOM REL (前置詞)〜に-彼女.GEN 髪.NOM 長い\NOM
 「長い髪をしたその女性 (は)」

(2) (2a)は身体部位の所有表現で、前置詞 *li-* を用いた構文。(2c)は所有者 *dū* を用いた構文。(2d)は複合形容詞「(その) 髪が長い」を用いた文 (□で囲んだ部分は複合形容詞であることを示している)。(2e)(2f)は(1d)(1e)と同様である。

(3) あの人には髭がある。/髭の男

(3a) *la-hu* *šārib-un*
 (前置詞)〜に-彼.GEN ひげ-NOM
 「彼には髭がある。」

(3b) *a-rrajul-u* *dū* *šārib-in*
 DEF-男-NOM 所有者.NOM ひげ-GEN
 「彼には髭がある。」

(3c) a-rrajul-u dū l-šārib-i
 DEF-男-NOM 所有者.NOM DEF-ひげ-GEN
 「ひげのその男 (は)」

(3d) a-rrajul-u llaḏī la-hu šārib-un
 DEF-男-NOM REL (前置詞)〜に-彼.GEN ひげ-NOM
 「ひげのその男 (は)」

(4) あの人には (見る) 目がある. / 見る目のある人

(4a) ḏawq-u-hu jamīl-un
 センス-NOM-彼.GEN よい-NOM
 「彼の趣味はよい (見る目がある).」

(4b) a-rrajul-u dū ḏ-ḏawq-i l-jamīl-i
 DEF-男-NOM 所有者.NOM DEF-センス-GEN DEF-よい-GEN
 「見る目のある人 (は)」

(4c) a-rrajul-u llaḏī la-hu ḏawq-un jamīl-un
 DEF-男-NOM REL (前置詞)〜に-彼.GEN センス-NOM-彼.GEN よい-NOM
 「見る目のある人 (は)」

(参考: カイロ方言には以下のような言い回しがある.)

(4d) la-h lisān ṭawīl
 (前置詞)〜に-彼.GEN 舌.NOM 長い.NOM
 「彼は悪口を言いふらす人だ (直訳: 舌が長い).」

(4d) la-h yad ṭawīl
 (前置詞)〜に-彼.GEN 手.NOM 長い.NOM
 「彼は泥棒だ (直訳: 手が長い).」

(4) 日本語ほどには「身体部位を所有している (ある)」という言い回しの慣用表現は豊富ではない.

(5) あの人は〇〇歳だ. / 〇〇歳の人

(5a) 'umur-u-hu 'iṣr-ūn 'ām-an
 年齢-NOM-彼.GEN 20-NOM 年-ACC
 「彼の年齢は20歳です.」

- (5b) a-ššaxš-u ‘umur-u-hu ‘iṣr-ūn ’ām-an
 DEF-人-NOM 年齢-NOM-彼.GEN 20-NOM 年-ACC
 「その人は年齢が20歳です。」
- (5c) a-ššaxš-u llaḍī ‘umur-u-hu ‘iṣr-ūn ’ām-an
 DEF-人-NOM REL 年齢-NOM-彼.GEN 20-NOM 年-ACC
 「20歳の人 (は)」

(5) いずれも対格で「年」を付加して、「年齢は年でいうと20です。」という単なる名詞文。

(6) あの人は優しい性格だ。 / 優しい性格の人

- (6a) huwa laḥīf-un
 彼.NOM 優しい-NOM
 「彼は優しい。」
- (6b) la-hu malāmiḥ-u laḥīfat-un
 (前置詞)~に-彼.GEN 特徴-NOM 優しい-NOM
 「彼は (顔立ちの) 優しい人です。」
- (6c) a-ššaxš-u dū l-malāmiḥ-i l-laḥīfat-i
 DEF-人-NOM 所有者.NOM DEF-特徴-GEN DEF-優しい-NOM
 「(顔立ちの) 優しい人 (は)」
- (6d) a-ššaxš-u llaḍī malāmiḥ-u-hu laḥīfat-un
 DEF-人-NOM REL 特徴-NOM-彼.GEN 優しい-NOM
 「(顔立ちの) 優しい人」

(7) あの人は背が高い。 / 背の高い人

- (7a) huwa taḥīl-un
 彼.NOM 背が高い-NOM
 「彼は背が高い。」
- (7b) huwa taḥīl-u l-qāmat-i
 彼.NOM 背が高い-NOM DEF-姿
 「彼は背が高い。」
- (7c) šaxš-un taḥīl-u l-qāmat-i
 人-NOM 背が高い-NOM DEF-姿
 「背の高い人」
- (7d) šaxš-un qāmat-u-hu taḥīlat-un
 人-NOM 姿-NOM-彼.GEN 背が高い-NOM

「背の高い人」

(7) (7a)は形容詞を用いた名詞文. (7b)は「背の高い」という複合形容詞 (□で示した部分) を用いた名詞文. (7c)は複合形容詞を修飾語に用いた句.

(8) あの人は背が〇〇センチもある.

(8a) *tūl-u-hu* *mitr-āni*
身長-NOM-彼.NOM メートル-DU.NOM
「彼の身長は2メートルです。」

(8b) *tūl* *qāmat-i-hi* *mitr-āni*
身長 姿-GEN-彼.GEN メートル-DU.NOM
「彼の身長は2メートルです。」

(9) その石は四角い形をしている. /四角い (形の) 石

(9a) *al-ḥajar-u* *murabba‘-un*
DEF-石-NOM 四角い-NOM
「その石は四角い。」

(9b) *al-ḥajar-u* *murabba‘-u* *š-šakl-i*
DEF-石-NOM 四角い-NOM DEF-形-GEN
「その石は (形が) 四角い。」

(9c) *ḥajar-un* *murabba‘-u* *š-šakl-i*
石-NOM 四角い-NOM DEF-形-GEN
「形が四角い石 (は)」

(9) いずれも「四角い」という受動分詞を用いて表す. (9b)(9c)では「形の四角い」という複合形容詞が用いられている.

(10) あの人には才能がある. /才能のある人

(10a) *laday-hi* *mawhūbat-un*
(前置詞)~の下に-彼.GEN 才能-NOM
「彼は才能がある。」

(10b) *‘inda-hu* *mawhūbat-un*
(前置詞)~の下に-彼.GEN 才能-NOM
「彼は才能がある。」

- (10c) huwa muwhūb-un
 彼.NOM 才能のある-NOM
 「彼は才能がある（人です）。」
- (10d) a-ššaxṣ-u l-mawhūb-u
 DEF-人-NOM DEF-才能のある-NOM
 「才能のあるその人（は）」
- (10e) mawhūb-un
 才能のある-NOM
 「才能のある人（は）」
- (10f) a-ššaxṣ-u ḍu l-mawhibat-i
 DEF-人-NOM 所有者.NOM DEF-才能-GEN
 「才能のある人（は）」
- (10g) a-ššaxṣ-u llaḍī laday-hi mawhūbat-un
 DEF-人-NOM REL (前置詞)～の下に-彼.GEN 才能-NOM
 「才能のある人（は）」

(10) (10a)(10b)のように前置詞‘inda-, laday-を用いて表すことができる。(10c)は受動分詞を用いた文。(10d)は限定された句。(10e)は非限定の受動分詞のみで「才能のある人」を意味する。限定したい場合は冠詞をつければよい。

(11) あの人(は)病気だ。／あの人(は)熱がある。／病気の人

- (11a) huwa marīḍ-un
 彼.NOM 病気の-NOM
 「彼は病気です。」
- (11b) ‘inda-hu ḥummā
 (前置詞)～の下に-彼.GEN 熱-NOM
 「彼は熱があります（熱を持っています）。」
- (11c) marīḍ-un
 病気の-NOM
 「病気の人（は）」

(12) あの人(は)青い服を着ている。／青い服の男

- (12a) yalbisu malābis-a zuraqā⁷-a
 着る: IPFV.3.M.SG 服.PL-ACC 青い⁷-ACC
 「彼は青い服を着ている。」

(12b) a-rrajul-u llaḏī yalbisu malābis-a zuraqā²-a
 DEF-男-NOM REL 着る: IPFV.3.M.SG 服.PL-ACC 青い²-ACC
 「青い服を着ている (その) 男 (は)」

(13) あの人にはメガネをかけている。 / メガネの男

(13a) yalbisu nazzārat-an
 着る: IPFV.3.M.SG メガネ-ACC
 「彼はメガネをかけている。」

(13b) rajul-un dū nazzārat-in
 男-NOM 所有者.NOM メガネ-GEN
 「メガネをかけている (をもっている) 男 (は)」

(13) (13a)のメガネは「非限定」, labisa (着る) のかわりに iltadā (着る) という動詞でも可能である。(13b)dū「所有者」は身に着けているものにも使用できる。

(14) あの人には妻がいる。 / 既婚の人・妻のいる人

(14a) huwa mutazawwij-un
 彼.NOM 結婚する.APT-NOM
 「彼は結婚している。」

?(14b) la-hu zawjat-un
 (前置詞)〜に-彼.GEN 妻-NOM
 「彼には妻がいる (彼は妻を持っている).」

(14c) šaxṣ-un mutazawwij-un
 人-NOM 結婚する.APT-NOM
 「結婚している人 (は)」

*(14d) šaxṣ-un dū zawjat-in
 人-NOM 所有者.NOM 妻-GEN
 「結婚している人 (は)」

(14) 「妻がいる」という場合, (14a)のように能動分詞を用いて表す。(14b)の前置詞 li-を用いた所有表現はイハブ氏によると許容度が低いという。(14d)の所有者 dū を用いた文は非文である。(15)の例「子供がいる」場合と比較してほしい。

(15) あの人には3人子供がいる。 / 3人の子持ちの人・あの人の3人の子供/妊娠している女性

- (15a) la-hā talātāt-u 'aṭfāl-in
 (前置詞)〜に-彼女.GEN 3-NOM 子供.PL-GEN
 「彼女には3人の子供がいる。」
- (15b) a-ššaṣ-u llaḏī la-hu talātāt-u 'aṭfāl-in
 DEF-人-NOM REL (前置詞)〜に-彼.GEN 3-NOM 子供.PL-GEN
 「3人の子供がいる人 (は)」
- (15c) a-ttālātāt-u 'aṭfāl-in li-ḏālika š-šaṣ-i
 DEF-3-NOM 子供-GEN (前置詞)〜に-あの DEF-人-GEN
 「あの人の3人の子供 (は)」
- (15d) al-'imra'at-u l-ḥublā
 DEF-女性-NOM DEF-妊娠している
 「妊娠しているその女性 (は)」

(15) 「子供がいる」という場合、(14)の「妻がいる」場合と異なり、前置詞 li-を用いた所有表現を用いることができる。ḏū 所有者を用いた表現は、ここではできないという。(15d)は ḥublā のかわりに ḥāmil-un という能動分詞の単語でも「妊娠している」という状態を表すことができる。

(16) タコには足が八本ある。

- (16) li-l-'uṣṭubūt-i tamān-ī 'aḡdām-in
 (前置詞)〜に-DEF-タコ.GEN 8-NOM 足.PL-GEN
 「タコには足が八本ある (持っている).」

(16) 身体部位の所有は前置詞 li-を用いて表す。(1)(2)などの人間の場合と同様である。

(17) その飲み物にはアルコールが入っている。

- (17a) yaḥṭawī l-mašrūb-u 'ala ḵḥūl-in
 含む: IPFV.3.M.SG DEF-飲み物-NOM 前置詞 アルコール-GEN
 「その飲み物はアルコールを含んでいる。」
- (17b) ḥāḏa l-mašrūb-u fī-hi(/ bi-hi) ḵḥūl-un
 この DEF-飲み物-NOM (前置詞)〜に-それ.GEN アルコール-NOM
 「この飲み物のなかにはアルコールが入っている。」

(17) (17a)は iḥṭawā 'ala ~ 「〜を含む」という動詞を用いた文。(17b)は前置詞 fī: in~を用いた文。

(18) あの人はお金を持っている。／お金持ちの人

(18a) huwa ġanī-yun
彼.NOM 金持ちの-NOM
「彼は金持ちだ。」

(18b) ġanī-yun
金持ちの-NOM
「金持ちの／金持ちの人 (は)」

(18c) ma‘a-hu māl-un
(前置詞)～ともに-彼.GEN 金-NOM
「彼は (今) お金を持っている。」

(18) 恒常的に「金を持っている人」という意味では、前置詞 li-や‘inda-を用いた所有表現を用いず、「金持ちの」という意味の単語を用いる。(18c)のように前置詞 ma‘a: with~を用いた文では「今身に着けている、持っている」という意味にしかならず、恒常的な状態を表すことはできない。

(19) おまえのところには犬がいるか？／犬のいる人

(19a) hal ‘inda-ka kalb-un?
Q (前置詞)～の下に-貴男.GEN 犬-NOM
「貴男は犬を飼って (持って) ますか？」

(19b) hal turabbī kalb-an?
Q 養う:IPFV.2.M.SG 犬-ACC
「貴男は犬を飼っていますか？」

(19c) a-ššaxš-u llaḡi ‘inda-hu kalb-un
DEF-人-NOM REL (前置詞)～に-彼.GEN 犬-NOM
「犬を飼って (持って) いる人 (は)」

(20) おまえは (自分の) ペンを持っているか？／ペンを持っている人

(20a) hal ma‘a-ka qalam-ka?
Q (前置詞)～共に-彼.GEN ペン-貴男.GEN
「貴男は (自分の) ペンを持っていますか？」

(20b) a-ššaxš-u llaḡi ma‘a-hu qalam-un
DEF-人-NOM REL (前置詞)～共に-彼.GEN ペン-NOM
「ペンを持っている人 (は)」

(20) 前置詞 *ma'a-*: *with-*を用いた文は「今身に着けている, 所有している」状態を表す. (21) の他人のものを所有している場合と特に違いは存在しない.

(21) あの人は (誰か別の人の) ペンを持っている.

(21) *ma'a-hu* *qalam-u* *fulān-in*
 (前置詞)~共に-彼.GEN ペン-NOM 他人-GEN
 「彼は他人のペンを持っている。」

(22) あの人は運がいい. / 幸運な人

(22a) *huwa* *mahzūz-un*
 彼.NOM 幸運な.APT-NOM
 「彼は運がいい。」

(22b) *a-ššaṣ-u* *dū* *ḥazz-in*
 DEF-人-NOM 所有者.NOM 幸運-GEN
 「幸運な人 (は)」

(22) (22a)は受動分詞を用いた文. (22b)は所有者 *dū* を用いた文.

(23) ここは石が多い. / 石の多い土地

(23a) *hunāka* *l-kaḥīr-u* *min* *al-'ahjār-i*
 ここに DEF-多い-NOM (前置詞)~の DEF-石.PL-GEN
 「ここは石が多い。」

(23b) *hunāka* *'ahjār-un* *kaḥīrat-un*
 ここに 石.PL-NOM たくさんの-NOM
 「ここは石が多い。」

(23c) *balad-un* *bi-hi* *naft-un* *kaḥīr-un*
 国-NOM (前置詞)~に-それ.GEN 石油-NOM たくさんの-NOM
 「石油のたくさんある国 (は)」

(23) (23a)(23b)は副詞 *hunāka* を用いた英語の *there is* 構文に近い表現. (23c)は前置詞 *bi-*を用いた句.

(24) その部屋には椅子が3つある / 3つ椅子のある部屋

(24a) *hunāka* *talāṭat-u* *karāsi-in* *fi* *l-ḡurfat-i*
 ここに 3-NOM 椅子.PL-GEN (前置詞)~の中に DEF-部屋-GEN

「その部屋には椅子が3つある。」

(24b) *tammata* *talātat-u* *karāsī-in* *fi* *l-ġurfat-i*
そこに 3-NOM 椅子.PL-GEN (前置詞)~の中に DEF-部屋-GEN

「その部屋には椅子が3つある。」

(24c) *fi* *l-ġurfat-i* *talātat-un* *karāsī-yun*
(前置詞)~の中に DEF-部屋-GEN 3-NOM 椅子.PL-NOM

「その部屋には椅子が3つある。」

(24d) *a-ttalātat-u* *l-karāsī-yu* *fi* *l-ġurfat-i*
DEF-3-NOM DEF-椅子.PL-NOM (前置詞)~の中に DEF-部屋-GEN

「その部屋には (その) 3つの椅子がある。」

(24) (24a)(24b)は副詞を冒頭にもってきて、存在するものを後続させた文。英語の *There is* 構文に近い表現である。(24c)は非限定のものや人が存在するときはそれを先頭にもってくるできない。限定された名詞の場合(24d)と文の構造が倒置になる。

(25) テーブルの上に○○がある。 / スプーンのあるテーブル

(25a) *‘ala* *ṭ-ṭāwilat-i* *kitāb-un*
(前置詞)~の上に DEF-テーブル-GEN 本-NOM

「テーブルの上に本がある。」

(25b) *ṭawīlat-un* *‘alay-hā* *kitāb-un*
テーブル-NOM (前置詞)~の上に-それ.GEN 本-NOM

「本のあるテーブル (直訳: その上に本のあるテーブル) (は)」

(26) その○○はテーブルの上にある。 / テーブルにあるスプーン

(26a) *al-kitāb-u* *ala* *ṭ-ṭāwilat-i*
DEF-本-NOM (前置詞)~の上に DEF-テーブル-GEN

「テーブルの上にその本がある。」

(26b) *al-kitāb-u* *llaḡī* *ala* *ṭ-ṭāwilat-i*
DEF-本-NOM REL (前置詞)~の上に DEF-テーブル-GEN

「テーブルの上にあるその本 (は)」

(27) そのペンは私のだ。・そのペンは太郎のだ。 / 私のペン・太郎のペン

(27a) *al-qalam-u* *qalam-ī*
DEF-ペン-NOM ペン.NOM-私.GEN

「そのペンは私のペンです。」

- (27b) al-qalam-u l-ī
DEF-ペン-NOM (前置詞)〜に-私.GEN
「そのペンは私のです。」
- (27c) al-qalam-u qalam-u 'aḥmad-a
DEF-ペン-NOM ペン-NOM アフマド-GEN
「そのペンはアフマドのです。」
- (27d) qalam-ī / qalam-u 'aḥmad-a
ペン.NOM-私.GEN / ペン-NOM アフマド-GEN
「私のペン (は) / アフマドのペン (は)」
- (28) 昨日, 学校で火事があった. / 私は明日用事があります.
- (28a) waqa'a ḥarīq-un fī l-madrasat-i 'amsi
起こる: PFV.3.M.SG 火事-NOM 〜で DEF-学校-GEN 昨日
「昨日学校で火事があった。」
- (28b) kāna hunāka ḥarīq-un fī l-madrasat-i 'amsi
COP: PFV.3.M.SG ここに 火事-NOM 〜で DEF-学校-GEN 昨日
「昨日学校で火事があった。」
- (28c) 'ind-ī 'amal-un ḡadd-an
(前置詞)〜の下に-私.GEN 仕事-NOM (対格で)明日
「私は明日用事があり (持って) ます。」
- (28d) laday-ya 'amal-un ḡadd-an
(前置詞)〜の下に-私.GEN 仕事-NOM (対格で)明日
「私は明日用事があり (持って) ます。」
- (28) (28a)は waqa'a (起こる) の他に, ḥadaṭa (起こる), ṣabba ((戦争や火事が) 勃発する) という動詞を用いることもできる。
- (29) (この世には) お化けなんていない.
- (29a) laysa hunāka 'ašbāḥ-un
〜ない: PFV.3.M.SG ここに お化け.PL-NOM
「お化けはいない。」
- (29b) al-'ašbāḥ-u laysat mawjūdat-an
DEF-お化け.PL-NOM 〜ない: PFV.3.M.SG 存在する.APT-ACC
「お化けは存在しない。」

(30) (そこには) 英語を話す人もいるが, 話さない人もいる.

(30) *hunāka man yastaḥī'u 'an yatakallama l-'inglīzīyat-a*
 ここに who(REL) できる:IPFV.3.M.SG that 話す:SBJV.3.M.SG DEF-英語-ACC
wa-hunāka man lā yastaḥī'u
 そして-ここに who(REL) NEG できる:IPFV.3.M.SG
 「そこには英語を話す人もいるが, 話せない人もいる。」

(31) 私より英語ができる人は (ほかに/もっと) います.

(31) *hunāka fulān-un yastaḥī'u 'an yatakallama l-'inglīzīyat-a*
 ここに 他の人-NOM できる:IPFV.3.M.SG that 話す:SBJV.3.M.SG DEF-英語-ACC
'aḥsan-a min-ī
 より上手に-ACC ~より-私.GEN
 「私より英語ができる人はほかにいます。」

(31) *fulān-un* (他の人) を関係詞 *man* に替えて表すことも可能である.

(32) ちょっとあなたにお願いがあります.

(32) *'ind-ī šay'-un 'urīdu 'an*
 (前置詞)~の下に-私.GEN もの-NOM 欲する:IPFV.1.SG that
'aṭluba-hu min-ka
 要求する:SBJV.1.SG-それ.ACC of-貴男.GEN
 「貴男にお願いしたいことがあります。」

(33) 冬の雨 東京の家

(33a) *al-maṭar-u fī l-šitā'-i*
 DEF-雨-NOM ~の DEF-冬-GEN
 「冬の雨 (は)」

(33b) *maṭar-u l-šitā'-i*
 雨-NOM DEF-冬-GEN
 「冬の雨 (は)」

(33c) *bayt-un fī tūkiyū*
 家-NOM ~の 東京
 「東京の (にある) 家 (は)」

(33) 「A の B」というような名詞のあとに名詞を続ける表現をアラビア語の文法では「イダ

ーファ（付け加えること）」という。B+（限定）A（属格）の形になる。(33a)(33b)はイダーファ表現。

- | | | |
|-----------------------|---------------|-------------------|
| (34) 彼の泳ぎ／犬の鳴き声／火山の爆発 | 車の運転 | ～の小説 |
| (34a) sibāḥat-u-hu | (34b) nabāx-u | l-kalb-i |
| 泳ぎ-NOM-彼.GEN | 鳴き声-NOM | DEF-犬-GEN |
| 「彼の泳ぎ (は)」 | 「犬の鳴き声 (は)」 | |
| (34c-1) ṭawrān-u | l-burkān-i | (34c-2) ṭawrān-un |
| 爆発-NOM | DEF-火山-GEN | burkānī-yun |
| 「火山の爆発 (は)」 | | 爆発-NOM |
| | | 火山の-NOM |
| | | 「火山の爆発 (は)」 |
| (34d) qiyādat-u | l-sayyārat-i | (34e) riwāyat-u |
| 運転-NOM | DEF-車-GEN | 'aḥmad-a |
| 「車の運転 (は)」 | | 小説-NOM |
| | | アフマド-GEN |
| | | 「アフマドの小説 (は)」 |

(34) (34c-2)をのぞき全てイダーファを用いた表現。(34c-2)はいわゆる「ニスバ形容詞」を用いた表現。

- | | | |
|--------------------|---------------------|------------|
| (35) X さんのお母さん | 机の横に／机の前に／*机に (来て！) | あの人の次 |
| (35a) 'umm-u | muḥammad-in | |
| 母-NOM | ムハンマド-GEN | |
| 「ムハンマドの母 (は)」 | | |
| (35b-1) bi-jiwār-i | l-maktab-i | |
| (前置詞)~に-側-GEN | DEF-机-GEN | |
| 「机の横に」 | | |
| (35b-2) jiwār-a | l-maktab-i | |
| 側-ACC | DEF-机-GEN | |
| 「机の横に」 | | |
| (35c-1) ta'āla | 'ilay-a | |
| 来る:IMP.2.M | ～に-私.GEN | |
| 「私 (のところに) に来て。」 | | |
| (35c-2) ta'āla | 'ila | l-maktab-i |
| 来る:IMP.2.M | ～に | DEF-机-GEN |
| 「机 (のところに) に来て。」 | | |

(35) (35b-1)は前置詞 bi-を用いた表現だが、(35b-2)は名詞を対格にして「～の側に」という副

詞的な意味を表している。(35c-1)のように「私に来て」も(35c-2)「机に来て」のいずれも言うことができる。

(36) バラの花びら 果物のナイフ 紙の飛行機 チューリップの絵

花の匂い 英文の手紙 日本語の先生 井戸の水 雨の日

(36a) batalat-u warad-in (36a-2) batalat-u l-warad-i
 花びら-NOM バラ-GEN 花びら-NOM DEF-バラ-GEN
 「(1枚の) バラの花びら (は)」 「(一般的な) 花びら (は)」

(36b) sikkīn-u l-fawākih-i
 ナイフ-NOM DEF-果物.PL-GEN
 「果物ナイフ (は)」

(36c-1) tā'irat-un waraqīyat-un (36c-2) tā'irat-un min al-waraq-i
 飛行機-NOM 紙の-NOM 飛行機-NOM 前置詞 of~ DEF-紙-GEN
 「紙の飛行機 (は)」 「紙の飛行機 (は)」

(36c-3) tā'irat-u waraq-in
 飛行機-NOM 紙-GEN
 「紙の飛行機 (は)」

(36c) (36c-1)はニスノ形容詞を用いた表現。(36c-2)は性質を前置詞 min-を用いて表現している。(36c-3)のように無冠詞の名詞を属格で後続させて物の性質・属性を表す用法は現代ではあまり用いられないという。

(36d) šūrat-u l-warad-i (36e) rā'ihāt-u l-zuhr-i
 絵-NOM DEF-バラ-GEN 香り-NOM DEF-花-GEN
 「バラの絵 (は)」 「花の香り (は)」

(36d) (36e)はイダーファ表現を用いた句。

(36f-1) rišālat-un maktūbat-un bi-l-'inglīziyat-i
 手紙-NOM 書かれた.PPT-NOM ~で-DEF-英語-GEN
 「英語で書かれた手紙 (は)」

(36f-2) rišālat-un kutibat bi-l-'inglīziyat-i
 手紙-NOM 書く:PASS.PFV.3.F.SG ~で-DEF-英語-GEN
 「英語で書かれた手紙 (は)」

(36f-1)は受動分詞を用いた表現。(36f-2)は受動構文を関係節中に用いた句。

(36g-1) mudarris-un li-l-luġat-i l-yābānīyat-i
先生-NOM ~のための-DEF-言語-GEN DEF-日本語-GEN
「日本語の先生 (は)」

(36g-2) mudarris-un l-luġat-i l-yābānīyat-i
先生-NOM DEF-言語-GEN DEF-日本語-GEN
「日本語の先生 (は)」

(36h-1) al-māʾ-u min al-biʾr-i
DEF-水-NOM 前置詞 of~ DEF-井戸-GEN
「井戸の水 (は)」

(36h-2) māʾ-un min al-ʾabyār-i
水-NOM 前置詞 of~ DEF-井戸.PL-GEN
「(一般的な) 井戸水 (は)」

(36h-3) māʾ-u l-biʾr-i
水-NOM DEF-井戸-GEN
「(一般的な) 井戸水 (は)」

(36g-1)(36h-1)(36h-2)は性質・種類について前置詞を用いて表した句。(36g-2)(36h-3)はイダーファ表現を用いた句である。

(36i) yawm-un mumṭir-un
日-NOM 雨の.APT-NOM
「雨の日 (は)」

(36i)は能動分詞を用いた表現である。

(37) 妹の花子／社長の田中さん

(37a) huwa ʾax-ī ṣ-ṣaġīr-u, ʾaḥmad-u
彼.NOM 弟.NOM-私.GEN DEF-小さい-NOM アフマド-NOM
「彼は私の弟、アフマドです。」

(37) 通常同格は直前の名詞と格を一致させる。

(38) となりの家の友達のお父さんの車のタイヤ (が昨日突然パンクしたんだって.)

- (38a) 'itār-u sayyārat-i 'ab-ī ṣadīq-i jā-r-ī
 タイヤ-NOM 車-GEN 父-GEN 友人-GEN 隣人.GEN-私.GEN
 「私の隣人の友達のお父さんの車のタイヤ (は)」
- (38b) 'itār-u sayyārat-i li-'ab-ī ṣadīq-i jā-r-ī
 タイヤ-NOM 車-GEN (前置詞)~のもとに-父-GEN 友人-GEN 隣人.GEN-私.GEN
 「私の隣人の友達のお父さんの車のタイヤ (は)」
- (38c) sami'tu 'anna 'itār-a sayyārat-i 'abī ṣadīq-i
 聞く:PFV.1.SG that タイヤ-ACC 車-GEN 父-GEN 友人-GEN
 jā-r-ī nṭaqabat
 隣人.GEN-私.GEN パンクする:VII.PFV.3.F.SG
 「私の隣の家の友達のお父さんの車のタイヤがパンクしたと聞いた。」

(38) イダーファは理論的にはいくらでも後続させることができる。しかし、実際には4つ以上の名詞を連続させると悪文と感じられるという。多くの名詞を後続させたい場合は、文を分かり易くするために(38b)のように前置詞の li-/(bi-)を用いることがある。

参考文献

八木久美子, 青山弘之, エベード, イハーフ・アフマド(2013)『大学のアラビア語詳解文法』府中(東京): 東京外国語大学出版社.

略号一覧

I ~ X: pattern I ~X 派生形第~形	FUT: future tense 未来	PL: plural 複数形
1, 2, 3: 1st,2nd, 3rd person 1, 2, 3 人称	GEN: genitive 属格	PPT: passive participle 受動分詞
ACC: accusative 対格	IMPF: imperfective 未完了形	Q: questionmarker 疑問標識
COP: copla コピュラ	JUSS: jussive 短形	REL: relative 関係詞
DEF: definite 定	M: masculine 男性形	SBJV: 接続形
DU: dual 双数形	NEG: negative 否定	SG: singular 単数形
F: feminine 女性形	NOM: nominative 主格	VN: verbal noun 動名詞
	PASS: passive 受動態	- 形態素境界
	PFV: perfective 完了形	

転写法

字母	ا	ب	ت	ث	ج	ح	خ	د	ذ	ر	ز	س	ش	ص	ض	ط	ظ	ع	غ	ف	ق	ك	ل	م	ن
転写	'	b	t	ṭ	j	h	x	d	ḍ	r	z	s	š	ṣ	ḍ	ṭ	ẓ	‘	g	f	q	k	l	m	n
字母	و	ي																							
転写	h	w	y																						

ペルシア語の所有・存在表現

吉枝 聡子

1. エザーフェ

はじめに、ペルシア語の所有表現に密接に関与するエザーフェについて簡潔に述べておきたい。エザーフェとは、先行語に後続語詞・語句を文法的に関連づける前接小辞-e（母音に接続する場合は-ye）である。古代イラン語の関係詞に由来する。ペルシア語では、被修飾語は修飾語（句）に先行し、エザーフェで連結するのが通常の語順である。なお、ペルシア文字の性質上、エザーフェは/a/,/u/に接続する場合を除き、文字表記はされない。

gol-e sorx 「赤い花」

花-EZ 赤い

エザーフェは、名詞（句）、形容詞（句）、前置詞句、副詞句等を連結することができる。連結される修飾語句には数の制限がなく、属性、所属、所有、行為者、被行為者、目的、起源、材質、部分、類等々、多様な意味が表される。

xāne-ye bozorg-e qadimi-ye sefid 「大きくて、古い、白い家」

家-EZ 大きい-EZ 古い-EZ 白い

pedar-e maryam 「マリヤムの父」

父親-EZ マリヤム

rosta-m-e zāl 「ザールの息子ロスタム」

ロスタム-EZ ザール

nāme-ye az tehrān reside 「テヘランから届いた手紙」

手紙-EZ PREP「～から」 テヘラン 着く-PAST.PTCPL

neveštan-e nāme 「手紙を書くこと」

書く-INF 手紙

residan-e u 「彼が到着すること」

着く-INF 彼

rešte-ye fārsi-ye dānešgāh-e motāle'āt-e xāreji-ye tokiyo

部門-EZ ペルシア語-EZ 大学-EZ 学問(PL)-EZ 外国の-EZ 東京

「東京外国語大学ペルシア語科（専攻）」

ru-ye miz 「机の上に」

表面-EZ 机

vāred-e otāq shod. 「彼は部屋に入った」

入った-EZ 部屋 ～になる-PAST.3SG

* 語順の逆転とエザーフェ

修飾語が、数詞（数詞＋助数詞も含む）、形容詞最上級-tarin と-in で終わる序数詞、指示形容詞、疑問詞形容詞、その他の一部の不定形容詞等である場合は、通常の語順でなく、修飾語（句）が被修飾語に先行し、エザーフェは省略される。

se tā bačče 「3 人の子供」
 3 人 子供
 rang-e ān lebās 「あの服の色」
 色-EZ あの 服
 porforuštārin farš-e in maqāze 「この店で一番売れ筋の絨毯」
 売れ筋の-SUPRL 絨毯-EZ この 店

2. 例文¹

(1)(2)は、1)エザーフェで連結された名詞句＋動詞 dāštan「持つ」 2)トピック（所有者）＋名詞（文法的主語）－属性を表す接尾辞形人称代名詞＋補語とコピュラによる二重主語構文の二通りで表すことが可能である。

なお、ペルシア語では、譲渡不可能のような本質的に所有者がある事物については、接尾辞形人称代名詞等を用いて所有者を明示する必要がある。このため(2)のタイプの構文では接尾辞形人称代名詞は省略できない。

(1) あの子は青い目をしている。

直訳はそれぞれ「あの子は青い目を持っている」「あの子はその目が青い」となる。

ān fard češm-ān-e ābi dārad.
 あの 人 目-PL-EZ 青い 持つ-IND.PRES.3SG
 ān fard češm-ān-aš ābi ast.
 あの 人 目-PL-PRON.SUF.3SG 青い COP.IND.PRES.3SG

(1a) 青い目の人・目が青い人

形容詞または前置詞句による二通りの表現が可能である。(2a)も同様。

fard-e češm-ābi.
 人-EZ ADJ 「目の青い」
 fard-i bā češm-ān-e ābi.
 人-SUF² PREP 「～をもつ」³ 目-PL-EZ 青い

¹ 本稿の作成にあたり、Kāve Maqsudi（本学大学院博士前期課程在学、男性、テヘラン出身）に協力いただいた。記して感謝したい。

² いわゆる「無強勢の-i」。この接尾辞-iはペルシア語文法書では一般的に「不定の-i」と呼ばれ、不定のマーカ―として説明される。しかしながらこの接尾辞は、定・不定の観点か

(2) あの女性 (の／は) 髪が長い・あの女性は長い髪をしている

直訳はそれぞれ「あの女性の髪は長い」「あの女性は髪が長い」となる。

ān	zan	mu-hā-ye	boland	dārad.
あの	女性	髪-PL-EZ	長い	持つ-IND.PRES.3SG
ān	zan	mu-hā-yaš	boland	ast.
あの	女性	髪-PL-PRON.SUF.3SG	長い	COP.IND.PRES.3SG

(2a) 長い髪の女・髪の長い女

zan-e	mu-boland.		
女性-EZ	ADJ「長髪の」		
zan-i	bā	mu-hā-ye	boland.
女性-SUF	PREP「～をもつ」	髪-PL-EZ	長い

(3) あの人には髭がある。

ān	mard	riš	dārad.
あの	男性	顎髭	持つ-IND.PRES.3SG

(3a) 髭の男

mard-e	rišu.
男性-EZ	ADJ「顎髭のある」

(4) あの人には (見る) 目がある。

ān	fard	češm-e	basirat	dārad.
あの	人	目-EZ	眼識, 洞察力	持つ-IND.PRES.3SG

ら必ずしも分析できない用法も確認されており、その機能はなお未解明である。ここではペルシア語の強勢をとる他の派生接辞-iと区別するために、音声上の特徴から単に「無強勢の-i」としておく。なお本稿では、強勢をとる接辞-iはグロス中に示していないため、名詞の後に-SUFとしてある-iは全て、この「無強勢の-i」を指す。

³ 被修飾語が前置詞句によって修飾される場合、エザーフェは省略されるのが一般的である(ただし出入りは自由)。また、エザーフェによって連結された被修飾語句+修飾語句に無強勢の-iがつく際は、-iは最後の語に付加するのが普通だが、しばしば、語調を整えるために、被修飾語に無強勢の-iが接続されることがある。この場合はエザーフェは省略される。

(4a) 見る目のある人

関係詞節または前置詞句による表現が可能.

fard-i	ke	češm-e	basirat	dārad.
人-SUF	REL.PRON	目-EZ	眼識	持つ-IND.PRES.3SG
fard-i	bā	češm-e	basirat.	
人-SUF	PREP 「～をもつ」	目-EZ	眼識	

(5) 彼は 22 歳だ.

u	bist-o do	sāl	dārad.
彼	22	年	持つ-IND.PRES.3SG

(5a) 22 歳の人

fard-e	bist-o do	sāle.
人-EZ	22	～年の(ADJ)

*年齢表現は通常, 1)動詞 *dāštan* 「持つ」を用いた所有表現 2)形容詞 *sāle* 「～年の, ～歳の」を用いた表現 の二通りで表す. また,

bist-o do	sāl-eš	ast.
22	年-PRON.SUF.3SG	COP.IND.PRES.3SG

のように, 数詞+*sāl* 「年」+属性を表す接尾辞形人称代名詞とコピュラで表すこともできる. 会話文ではこのタイプの方が高頻度に用いられる.

なお, この構文は年齢表現に限らず,

gorosne-am	ast.	「私は空腹だ」
空腹な-PRON.SUF.1SG	COP.IND.PRES.1SG	

sard-et-e? 「(君は) 寒い?」

寒い-PRON.SUF.2SG + COP.IND.PRES.2SG (口語発音)

のように, 知覚・感覚を表す形容詞等にも同様に用いることができる. これらの用法は口語体が中心であり, 書記体では用いられない.

(6)～(8)については, (1)(2)と同様の二重主語構文または所有動詞で表される. 適切な語がある場合は形容詞による表現も可能となる.

(6) 彼女は優しい性格 (の人) だ.

u	fard-i	xoš-axlāq	ast.
彼女	人-SUF	ADJ 「性格のよい, 気立てのよい」	COP.IND.PRES.3SG

(6a) 優しい性格の人

fard-e xoš-axlāq.
人-EZ ADJ 「気立てのよい」

(7) 彼は背が高い.

直訳はそれぞれ「彼はその背が高い」「彼は長身だ」となる.

u qadd-aš boland ast.
彼 背-PRON.SUF.3SG 高い COP.IND.PRES.3SG
u (fard-i) qadd-boland ast.
彼 人-SUF ADJ 「長身の」 COP.IND.PRES.3SG

(7a) 背の高い人

fard-e qadd-boland.
人-EZ ADJ 「長身の」

(8) 彼は背が 190 センチある.

以下二例の, 数詞と被修飾語の語順とエザーフェとの関連については, 1 のエザーフェの説明を参照のこと.

u sad-o navad sāntimetr qadd dārad .
彼 190 cm 背丈 持つ-IND.PRE.3SG
u qadd-aš sad-o navad sāntimetr ast.
彼 背丈-PRON.SUF.3SG 190 cm COP.IND.PRES.3SG

(8a) 身長 190 センチの人

fard-i bā sad-o navad sāntimetr qadd.
人-SUF PREP 「~をもつ」 190 cm 背丈
fard-i bā qadd-e sad-o navad sāntimetr.
人-SUF PREP 「~をもつ」 背丈-EZ 190 cm

(9) その石は四角い形をしている.

ān sang čahārguš ast.
その 石 四角 COP.IND.PRES.3SG

(9a) 四角い (形の) 石

sang-e čahārguš.

石-EZ 四角

(10) 彼は才能のある人だ.

u ādam-e bā-este'dād-i ast.

彼 人-EZ ADJ「才能のある」-SUF COP.IND.PRES.3SG

(10a) 才能のある人

fard-e bā-este'dād.

人-EZ ADJ「才能のある」

* (10)(10a)では、形容詞化した前置詞句が被修飾語の名詞とエザーフェによって連結されている。

(11) 彼は病気だ.

u bimār ast.

彼 病気の COP.IND.PRES.3SG

(11a) 彼は熱がある.

u tab dārad.

彼 熱 持つ-IND.PRES.3SG

(11b) 病気の人

fard-e bimār.

人-EZ 病気の

(12) 彼は青い服を着ている.

u lebās-e ābi pušide ast.

彼 服-EZ 青い 着る-IND.PRES.PERF.3SG

u lebās-e ābi be tan dārad.

彼 服-EZ 青い PREP「～に」 身体 持つ-IND.PRES.3SG

(12a) 青い服の人

fard-i bā lebās-e ābi.
人-SUF PREP 「～をもつ」 服-EZ 青い

(13) 彼はメガネをかけている.

u eynak zade ast.
彼 眼鏡 かける-IND.PRES.PERF.3SG
u eynak be češm dārad.
彼 眼鏡 PREP 「～に」 目, 眼 持つ-IND.PRES.3SG

(13a) メガネの男

mard-e eynaki.
男性-EZ ADJ 「眼鏡の, 眼鏡をかけた」

(14) 彼には妻がいる.

u zan dārad.
彼 妻 持つ-IND.PRES.3SG
u mota'ahhel ast.
彼 ADJ 「既婚の」 COP.IND.PRES.3SG

(14a) 既婚の人・妻のいる人

mard-e mota'ahhel.
男性-EZ ADJ 「既婚の」

(15) 彼には3人子供がいる.

u se tā bačče dārad.
彼 3 人 子供 持つ-IND.PRES.3SG

* (14)(15)存在動詞 (budan) を用いた表現は不可.

(15a) 3人の子持ちの人

fard-i bā se bačče.
人-SUF PREP 「～をもつ」 3 子供

(15b) あの人の3人の子供

se	tā	bačče-hā-ye	ān	fard.
3	人	子供-PL-EZ	あの	人

(16) タコには足が8本ある.

haštpā (oxtāpus)	hašt	tā	pā	dārad.
タコ	8	個, 本	足	持つ-IND.PRES.3SG

* (15a)(15b)(16)エザーフエ構文における語順については1を参照.

(17) その飲み物にはアルコールが入っている.

ān	nušidani	alkoli	ast.
その	飲み物	ADJ「アルコール(入り)の」	COP.IND.PRES.3SG

(17a) アルコール入りの飲み物

nušidani-ye	alkoli
飲料-EZ	ADJ「アルコール(入り)の」

(18) 彼はお金を持っている.

u	puldār	ast.
彼	金持ち	COP.IND.PRES.3SG

(18a) お金持ちの人

fard-e	puldār
人-EZ	金持ち

(19) おまえのところには犬がいるか?

āyā	to	sag	dāri?
疑問文マーカー	君	犬	持つ-IND.PRES.2SG
āyā	to	az	sag negahdāri mikoni?
疑問文マーカー	君	PREP(直接目的語を示す)	犬 飼う-IND.PRES.2SG

(19a) 犬のいる人

fard-i	ke	sag	dārad.
人-SUF	REL.PRON	犬	持つ-IND.PRES.3SG

(20) おまえは（自分の）ボールペンを持っているか？

āyā xodkār dāri?
疑問文マーカー ボールペン 持つ-IND.PRES.2SG

(20a) ペンを持っている人

kas-i ke xodkār dārad.
人-SUF REL.PRON ボールペン 持つ-IND.PRES.3SG

* (19a)(20a)－(18)のように対応する複合語(ex. -dār 「～持ち」)がない場合は、関係詞節を用いる。なお、この他に前置詞 (bā 「～をもつ」等) による表現が可能な場合もあるが、所有の一時性・恒常性、所有物の性質や属性等が関連することが予測されるなど、さらなる考察が必要である。

(21) 彼は（他人の）ペンを持っている。

直訳は「彼は、他の人のボールペンがその手にある」となる。

u xodkār-e kas-e digar-i dast-aš ast.
彼 ボールペン 人-EZ 別の-SUF 手-PRON.SUF.3SG COP.IND.PRES.3SG

(22) 彼は運がいい。

u xoš-šāns ast.
彼 ADJ 「運の良い」 COP.IND.PRES.3SG

(22a) 幸運な人

fard-e xoš-šāns.
人-EZ ADJ 「運の良い」

(23) ここは石が多い。

injā sang ziyād ast.
ここ 石 多い(ADJ) COP.IND.PRES.3SG
injā sang ziyād dārad.
ここ 石 多く(ADV) 持つ-IND.PRES.3SG
injā sang ziyād peydā mišavad.
ここ 石 多く(ADV) 見つかる-IND.PRES.3SG

(23a) 石の多い土地

mantaqe-yi	ke	sang	ziyād	dārad.
地域-SUF	REL.PRON	石	多く(ADV)	持つ-IND.PRES.3SG
mantaqe-yi	ke	sang	ziyād	peydā mišavad.
地域-SUF	REL.PRON	石	多く(ADV)	見つかる-IND.PRES.3SG

*対応する形容詞が存在する場合は、エザージェ構文で表すことも可能と予測されるが、この例文では関係詞による表現が適当。

(24) その部屋には椅子が3つある。

dar	ān	otāq	se	tā	sandali	hast.
PREP「～に」	その	部屋	3	個	椅子	ある-IND.PRES.3SG

*hast：通常コンピュータとして使用される budan の強調形，存在を示す。

ān	otāq	se	tā	sandali	dārad.
その	部屋	3	個	椅子	持つ-IND.PRES.3SG

(24a) 3つ椅子のある部屋

otāq-i	bā	se	sandali.
部屋-SUF	PREP「～をもつ」	3	椅子

(25) テーブルの上にスプーンがある。

ru-ye	miz	qāšoq ⁴	hast.
上-EZ	テーブル	スプーン	ある-IND.PRES.3SG

(25a) スプーンのあるテーブル

miz-i	ke	ru-yaš	qāšoq	hast.
テーブル-SUF	REL.PRON	上-PRON.SUF.3SG	スプーン	ある-IND.PRES.3SG

(26) そのスプーンはテーブルの上にある。

ān	qāšoq	ru-ye	miz	ast.
その	スプーン	上-EZ	テーブル	ある-IND.PRES.3SG

⁴ qāšoq が新情報で、特に後続の文でトピックとなるような場合には接尾辞-i を付けて提示する必要がある。

(26a) テーブルにあるスプーン

qāšoq-i	ke	ru-ye	miz	ast.
スプーン-SUF	REL.PRON	上-EZ	テーブル	ある-IND.PRES.3SG

* (25)(26)(2a) ru-ye : 「上, 表面」を表す名詞+エザーフェによる前置詞的用法.

(27) そのボールペンは私のだ.

ān	xodkār	māl-e	man	ast.
その	ボールペン	財産, 所有物-EZ	私	COP.IND.PRES.3SG

(27a) そのボールペンはアリーのだ.

ān	xodkār	māl-e	'ali	ast.
その	ボールペン	財産, 所有物-EZ	アリー	COP.IND.PRES.3SG

* 所有物「～のもの」は, māl 「財産, 所有物」+エザーフェ+所有者で表す.

(27b) 私のペン

xodkār-e	man.
ボールペン-EZ	私

アリーのペン

xodkār-e	'ali.
ボールペン-EZ	アリー

(28) 昨日学校で火事があつた.

diruz	dar	madrese	ātašsuzi	ettefāq oftād.
昨日	PREP 「～で」	学校	火事	起こる-IND.PAST.3SG

(28a) 私は明日用事があります.

man	fardā	kār	dāram.
私	明日	用事, 仕事	持つ-IND.PRES.1SG

(29) (この世には) お化けなんていない.

(dar in donyā)	ruh (va injur čizhā)
PREP 「～で」+この世界	魂, お化け (のようなもの)

vojud nadārad.

存在する-NEG.IND.PRES.3SG

(30) (そこには) 英語を話す人もいるが、話さない人もいる.

(anjā)	kas-i	ke	englisi	sohbat mikonad	ham
そこ	人-SUF	REL.PRON	英語	話す-IND.PRES.3SG	強調の副詞
hast,			kas-i	ke	(englisi)
いる, ある-IND.PRES.3SG	人-SUF	REL.PRON	英語		
sohbat nemikonad	ham		hast.		
話す-NEG.IND.PRES.3SG	強調の副詞		いる, ある-IND.PRES.3SG		

(31) 私より英語ができる人は (ほかに／もっと) います.

kas-ān-i	ke	az		man
人-PL-SUF	REL.PRON	PREP 「～より」 (比較の対象)		私
bištar	englisi	balad	bāšand	ham
多く-COMP	英語	できる, 分かる	COP.SUBJ.PRES.3PL	強調の副詞
hastand.				
いる, ある-IND.PRES.3PL				

または

kas-i	ke	az	man	bištar
人-SUF	REL.PRON	PREP 「～より」 (比較の対象)	私	多く-COMP
englisi	balad	bāšad	ham	
英語	できる, 分かる	COP.SUBJ.PRES.3SG	強調の副詞	
hast.				
いる・ある-IND.PRES.3SG				

(32) ちょっとあなたにお願いがあります.

yek	darxāst-i	az	šoma	dāštam.
1	依頼-SUF	PREP (目的語を表す)	あなた	持つ-IND.PAST ⁵ .1SG

(33)-(36)のような所有構造は、同格の場合を除き、全てエザーフエ構文による表現が可能である.

⁵ この例文での過去形は、「お願いがあるのですが」という遠慮・婉曲の表現として用いられている.

(33) 冬の雨

bārān-e zemestān.

雨-EZ 冬

bārān-e zemestāni.

雨-EZ ADJ 「冬の」

(33a) テヘランの家

xāne-yi dar tehrān.

家-SUF PREP 「～に, ～で」 テヘラン

(34) 彼の泳ぎ

šenā kardan-e u.

泳ぐ-INF-EZ 彼

šenā-ye u.

泳ぎ-EZ 彼

(34a) 犬の鳴き声

sedā-ye vāq-vāq-e/ zuze-ye sag.

声, 音-EZ 犬の吠え声/ うなり声-EZ 犬

(34b) 火山の噴火

favarān-e ātašfešān.

噴火-EZ 火山

(34c) 車の運転

rānandegi-ye māšin.

運転-EZ 車

rānandegi bā māšin.

運転 PREP (手段を表す) 車

(34d) ヘダーヤトの小説

romān-e hedāyat

小説-EZ ヘダーヤト

(35) サーデギーさんのお母さん

mādar-e	āqā-ye/xānom-e	sādeqi
母親-EZ	～さん (男性) / ～さん (女性) -EZ	サーデギー

(35a) 机の横に／机の前に

baqal-e	miz
傍ら, 横-EZ	机
jolo-ye	miz
前-EZ	机

* (26)と同様, 場所・方向を表す名詞+エザーフェによる前置詞的用法.

(35b) あの人の次

poštesari-ye	ān	fard.
後ろ, 次-EZ	あの	人

(36) バラの花びら

golbarg-e	gol-e	sorx.
花びら-EZ	花 (バラ) -EZ	赤い
golbarg-e	gol-e	roz.
花びら-EZ	花-EZ	バラ

(36a) 果物のナイフ

čāqu-ye	mivexori.
ピーリングナイフ-EZ	ADJ 「果物用の, 果物を食べるための」

(36b) 紙の飛行機

havāpeymā-ye	kāqazi ⁶ .
飛行機-EZ	ADJ 「紙の, 紙製の」

(36c) チューリップの絵

tasvir-e	gol-e	lāle.
絵-EZ	花-EZ	チューリップ

⁶ kāqaz 「紙」を用いた表現は不可.

(37a) 社長のバーゲリーさん

modir-e	šerkat	āqā-ye	bāqeri.
長, 社長-EZ	会社	～さん (男性) -EZ	バーゲリー

* (36)と同様に語順を入れ替えることも可.

ちなみに, 上の例をエザーフェで連結した表現 (maryam-e xāhar-am) は, 「私の妹であるマリヤム」でなく, 「(複数いるマリヤムのうちの), 姉妹方 (の家族, 親戚) のマリヤム」の意味になる. 同様に, 下の例もエザーフェで結ぶと, 「複数のバーゲリーさんのうち, 社長をしているバーゲリーさん」と, 属性を表すことになる.

(38) となりの家の友達のお父さんの車のタイヤが昨日突然パンクしたんだって.

čarx-e	māšin-e	pedar-e	dust-e	xāne-ye	baqali-yam
タイヤ-EZ	車-EZ	父親-EZ	友達-EZ	家-EZ	隣り-PRON.SUF.1SG
diruz	yek daf'e	pančar	šod.		
昨日	突然	パンクする-IND.PAST.3SG			

または

čarx-e	māšin-e	pedar-e	dust-am	ke	hamsāye-ye
タイヤ-EZ	車-EZ	父親-EZ	友達-PRON.SUF.1SG	REL.PRON	隣人-EZ
baqali-yemun	ast	diruz	yek daf'e	pančar	šod.
隣り-PRON.SUF.1SG		昨日	突然	パンクする-IND.PAST.3SG	

* 上述のように, エザーフェは複数の修飾語を連結することが可能だが, 2 番目の例のように同様の修飾語句の一部が関係詞節によって表されることもある.

参考文献

- 上岡弘二「エザーフェ」『言語学大辞典: 術語編』(千野栄一他編), 三省堂, 1995, pp.115-20.
 吉枝聡子『ペルシア語文法ハンドブック』白水社, 2011.
 Windfuhr, G.L. 1979. *Persian Grammar; History and State of its Study* (Trends in Linguistics, State-of-the-Art Reports 12), The Hague/Paris/New York, Mouton
 Perry R. and Windfuhr G.L. 2009. *Persian and Tajik, The Iranian Languages* (Windfuhr G.L. ed.). London/New York, Routledge.pp.416-515.
 Schmitt, R. 1989, *Compendium Linguarum Iranicarum*, Wiesbaden, Dr.Ludwig Reichert Verlag.

略語

ADJ	形容詞	PERF	完了
ADV	副詞	PL	複数
REL.PRON	関係詞	PREP	前置詞
COMP	比較級	PRES	現在
COP	コピュラ	PRON.SUF	接尾辞形人称代名詞
EZ	エザーフェ	PTCPL	分詞
IND	直説法	SG	単数
INF	不定詞	SUF	接尾辞
NEG	否定	SUPRL	最上級
PAST	過去		

企画 2

補遺

〈補遺〉

[補遺]
まえがき

風間 伸次郎

1. 企画ならびにデータ収集に至った経緯

『語学研究所論集』では、これまで「受動表現」「アスペクト」「モダリティ」「ヴォイス」という統一テーマを組んで、諸言語のデータを収集してきた。

俗に TAM (テンス・アスペクト・モダリティ) と言われるが、これにヴォイス(受動を含む)を加えたものは、一般的に動詞の文法的カテゴリーの代表的なものと考えられている。もちろんさらに極性(肯定/否定)や証拠性(evidentiality)など、研究すべき動詞のカテゴリーは多いが、いちおう上記の4回の特集は動詞の文法カテゴリーをある程度カバーしているということができると思う。

しかし一方で、残念ながら収集できた言語データの量は決して多いとは言えない。しかもウラル語族やアフロ・アジア語族の言語など、重要な語族の言語が全く欠けていた。アフロ・アジア語族の中でもたとえばアラビア語は影響力のきわめて大きい大言語であり、外大の27地域言語にも入っている言語である。また言語によっては、一部の特集のデータはあるが別の特集のデータは欠けている、というような状況もある。

このような状況を少しでも改善するために、研究者のみならず院生にも協力を仰いで、上記の動詞の文法カテゴリーに関するデータ収集をお願いした。このような経緯で今号にはこの[補遺]が掲載される運びとなった。

データの集まった言語は、フィンランド語(ウラル語族)、アラビア語(アフロ・アジア語族)、サハ語とウズベク語とトゥバ語(3つともにチュルク諸語)である。さらに、私風間もナーナイ語とソロン語について、欠けていた部分のデータを収集することができた。

しかし依然として、新大陸やオーストラリア先住民、ニューギニアやカフカースは言うに及ばず、ドラヴィダ語族やニジェール・コンゴ語族などの言語のデータもない。より多くの言語のデータの収集が今後の課題である。他方、中国語や、ロシア語、フランス語のデータの蓄積は同時に貴重な媒介言語の questionnaire としての意味もある。これらはすでに一部その目的で使用されているが、今後もこれらにより少しずつでもより多くの言語のデータが収集されていくことが期待される。

〈補 遺〉

フィンランド語

坂田 晴奈, 高橋 健太郎

1. コンサルタント情報

コンサルタントは以下の2名に協力してもらった。

①2.1 例文(1)~2.4 例文(25)まで

氏名: Malla Mäkinen (マッラ・マキネン)

性別: 女性

生年月日: 1986年02月08日

出身地: フィンランド・ヘルシンキ (Finland, Helsinki)

母語: フィンランド語ヘルシンキ方言

②2.5 例文(1)~(38)まで

氏名: Pyry Kontio (プル・コンティオ)

性別: 男性

生年月日: 1988年11月06日

出身地: フィンランド・シポオ (Finland, Sipoo)

母語: フィンランド語ヘルシンキ方言

なお調査とグロス付けは基本的にまず高橋が全体的に行い、しかるのちに坂田がグロスを中心にチェックした。その後相談の上修正・改訂を行って本稿を作成したものである。

2. 調査結果

この節では調査の結果を示す。グロスに関しては Hakulinen 他(2004)の術語を参考にした。

グロス中のフィンランド語の英語訳はインターネット上の辞書“MOT” (<http://www.kielikone.fi>) のフィンランド語・英語辞書を参照した。

2.1. 受身

(1) 「Tomi は Antti に叩かれた。」

a: Antti- \emptyset lö-i- \emptyset Tomi-a.
Antti.PN-NOM HIT-IMP-3.SG Tomi.PN-PART

b: Tomi-a lyö-tiin Anti-n toimesta.
Tomi.PN-PART HIT-PASS.IMP Antti.PN-GEN BY

c: Tomi- \emptyset tul-i- \emptyset Anti-n lyö-mä-ksi.
Tomi.PN-NOM COME-IMP-3.SG Antti.PN-GEN HIT-AP-TRA

最も自然なものは a の文。動作主 Antti が出てくる場合にはフィンランド語では通常受動文を用いず、a のような能動文で表す。英語の by に相当する toimesta を使って b のような受動文を作ることも可能だが、非常に堅苦しい。

(2) 「Tomi は Antti に足を踏まれた。」

Antti- \emptyset	astu-i- \emptyset	Tomi-n	varpa-i-lle.
Antti.PN-NOM	STEP-IMP-3.SG	Tomi.PN-GEN	TOE-PL-ALL

(1)同様に能動文で表す。直訳すると「Antti は Tomi のつま先を踏んだ」となる。

(3) 「Tomi は Antti に財布を盗まれた。」

Antti- \emptyset	varast-i- \emptyset	Tomi-n	lompako-n.
Antti.PN-NOM	STEAL-IMP-3.SG	Tomi.PN-GEN	WALLET-ACC

(1), (2)と同じように能動文で表す。目的語は属格形対格で標示されている。

(4) 「昨日の夜、私は赤ん坊に泣かれた。それでちっとも眠れなかった。」

Eilen	yö-llä	vauva- \emptyset	itk-i- \emptyset	
YESTERDAY	NIGHT-ADE	BABY-NOM	CRY-IMP-3.SG	
(häiritsevästi).	E-n	saa-nut	nukuttu-a	silmäys-tä-kään.
DISTURBINGLY	NEG-1.SG	GET-NUTP	SLEEP-AINF	GLANCE-PART-TP

この場合も能動態で表す。「否定動詞+NUT 分詞」で能動・非完了の否定を表す。-kään は語気を表す小辞。

(5) 「新しいビルが (Tomi によって) 建てられた。」

a: Tomi- \emptyset rakennu-tt-i- \emptyset uude-n rakennukse-n.
Tomi.PN-NOM BUILD-CAU-IMP-3.SG NEW-ACC BUILDING-ACC

b: ?Uusi- \emptyset rakennus- \emptyset rakenne-ttiin Tomi-n toimista.
NEW-ACC BUILDING-ACC BUILD-PASS.IMP Tomi.PN-GEN BY

c: Rakenne-ttiin uusi- \emptyset rakennus- \emptyset .
BUILD-PASS.IMP NEW-ACC BUILDING-ACC

動作主を明記する場合は a が自然。ただし a は「Tomi は(誰かに)新しいビルを建てさせた。」という意味である。英語の by のような表現を用いるならば、b が言えそうだが違和感があると

言う。c は動作主を明記しない場合では最も自然。目的語に関しては a では属格形対格, b と c では主格形対格が用いられている。

(6) 「カナダではフランス語が話されている。」

Kanada-ssa	puhu-taan	ranska-a.
CANADA.PN-INE	SPEAK-PASS.PRES	FRENCH-PART

(7) 「財布が (Tomi に) 盗まれた。」

a:	Lompakko-ni	varaste-ttiin	(? Tomi-n	toimesta).
	WALLET-ACC.1.SG.POSS	STEAL-PASS.IMP	Tomi.PN-GEN	BY

b:	Tomi- \emptyset	varast-i- \emptyset	lompakko-ni.
	Tomi.PN-NOM	STEAL-IMP-3.SG	WALLET-ACC.1.SG.POSS

a の文は()内がなければ自然であるが, ()内を付け足すと違和感があると言う。b は能動文だが自然である。

(8) 「壁に絵が掛けられている。」

a:	Seinä-llä	on	kuva- \emptyset .
	WALL-ADE	BE.3.SG.PRES	PICTURE-NOM

b:	Seinä-lle	on	ripuste-ttu	kuva- \emptyset .
	WALL-ALL	BE.3.SG.PRES	HANG-TUP	PICTURE-ACC

a の文は存在文である。b の文は受身で表現したものある。on + TU 分詞で受動・完了を表す。

(9) 「Tomi は Elina に/から愛されている。」

a:	Elina- \emptyset	rakasta-a	Tomi-a.
	Elina.PN-NOM	LOVE-3.SG.PRES	Tomi.PN-PART

b:	Tomi- \emptyset	on	Elina-lle	rakas.
	Tomi.PN-NOM	BE.3.SG.PRES	Elina.PN-ALL	LOVE

b の文で *rakas* は「好きな」という意味の形容詞である。この文は愛する側である Elina に向格がついて「Tomi は Elina に愛されている」という意味になる。

(10) 「Tomi は Antti に/から『ここへ来い』と言われた。」

a:	Antti- \emptyset	pyy-si- \emptyset	Tomi-a	tule-ma-an
	Antti.PN-NOM	ASK-IMP-3.SG	Tomi.PN-PART	COME-MAINF-ILL

luokse-en/tänne.
TO-3.POSS/HERE

b: Antti- \emptyset sano-i- \emptyset Tomi-lle, että häne-n
Antti.PN-NOM SAY-IMP-3.SG Tomi.PN-ALL THAT 3.SG.PRO-GEN
pitä-isi- \emptyset tul-la tänne.
MUST-CON-3.SG COME-AINF HERE

(10)ではどちらの場合も能動文で表わす。bの従属節は義務を表す構文になっており、その場合主語は属格で表す。

(11) 「Tomi さんは Antti さんに呼ばれて、今 Antti さんの部屋に行っています。」

a: Tomi- \emptyset on Anti-n kutsu-sta
Tomi.PN-NOM BE.3SG.PRES Antti.PN-GEN INVITATION-ELA
käy-mä-ssä Anti-n luona.
VISIT-MAINF-INE Antti.PN-GEN AT

b: Tomi- \emptyset on Anti-n kutsu-ma-na Anti-llä
Tomi.PN-NOM BE.3SG.PRES Antti.PN-GEN INVITE-AP-ESS Antti.PN-ADE
kylässä.
BY VISITING SOMEONE

c: Tomi- \emptyset on tul-lut kutsu-ttu-na
Tomi.PN-NOM BE.3SG.PRES COME-NUTP INVITE-TUP-ESS
Anti-lle käy-mä-än.
Antti.PN-ALL VISIT-MAINF-ILL

aの luona は「～のところへ」を意味する。bの kutsumana は動詞語幹 kutsu-に動作主分詞-maと様格-na がついた形である。動作主分詞-ma は形の上では MA 不定詞と同じである。

(12) 「Antti さんが Tomi さんを読んで、Tomi さんは今 Antti さんの部屋に行っています。」

Tomi- \emptyset kutsu-i- \emptyset Anti-n käy-mä-än,
Tomi.PN-NOM INVITE-PAST-3.SG Antti.PN-GEN VISIT-MAINF-ILL
ja nyt Antti- \emptyset on Tomi-llä
AND NOW Antti.PN-NOM BE.3.SG.PRES Tomi.PN-ADE
kylässä.
BY VISITING SOMEONE

2.2. アスペクト

以下の例文で固有名詞や「あの人」に当たる部分は Hän(3 人称単数代名詞)となっているが、固有名詞や「あの人」に当たる語が来ても文の中で文法上形式が変わる箇所はない。

- (1) 「～さん (固有名詞) は/あの人は もう来た。」

Hän-∅	tul-i-∅	jo.
3.SGPRO-NOM	COME-IMP-3.SG	ALREADY

- (2) 「～さん (固有名詞) は/あの人は もう来ている。」

Hän-∅	on	jo	tul-lut.
3.SGPRO-NOM	3.SGPRES	ALREADY	COME-NUTP

(Hän-∅	on	jo	tää-llä.)
3.SGPRO-NOM	3.SGPRES	ALREADY	THIS-ADE

- (3) 「～さん (固有名詞) は/あの人は まだ来ていない。」

Hän-∅	ei	ole	vielä	tul-lut.
3.SGPRO-NOM	NEG3.SG	BE	STILL	COME-NUTP

- (4) 「～さん (固有名詞) は/あの人は まだ来ない。」

Hän-∅	ei	tule	vielä.
3.SGPRO-NOM	NEG3.SG	COME	STILL

- (5) 「～さん (固有名詞) は/あの人は もう (すぐ) 来る。」

Hän-∅	tule-e	pian.
3.SGPRO-NOM	COME-3.SGPRES	SOON

- (6) 「(あっ,) 健太郎が来た。」 [その人が来るのに気づいた場面での発話]

Kentaroo!
KENTARO.PN

基本的には到着した人物の名前を呼ぶことで表す。

- (7) 「おととい, 彼が来たよ。」

a: Hän-∅ tul-i-∅ toissapäivänä.
3.SGPRO-NOM COME-IMP-3.SG THE DAY BEFORE YESTERDAY

b: Hän-∅ muuten tul-i-∅ toissapäivänä.
3.SGPRO-NOM BY THE WAY COME-IMP-3.SG THE DAY BEFORE YESTERDAY

c: Hän-ø sitten tul-i-ø toissapäivänä.
 3.SGPRO-NOM THEN COME-IMP-3.SG THE DAY BEFORE YESTERDAY

d: Hän-ø (muuten) (sitten) tul-i-ø(-kin)
 3.SGPRO-NOM BY THE WAY THEN COME-IMP-3.SG-FP
 toissapäivänä.
 THE DAY BEFORE YESTERDAY

b の例文での *muuten* は「彼が来た」ことが新情報であることを表している。c の例文は b と同じく「彼が来た」ことが新情報であることを表しているだけでなく、*sitten* は相手が「彼が来る」ことを期待している場合にそれに対して答える場合に用いる。b の *muuten* は相手が期待しているとは限らない。小辞 *kin* を用いた例文 d は、前提に「彼が来ない」という考えがあり予想外に彼が来た場合と、前提に「彼は来るだろう」という考えがあり予想通りやはり来た場合に使われる。

(8) 「おととい、～さんは来なかったよ。」

Hän-ø ei (sitten) (muuten) tul-lut(-kaan)
 3.SGPRO-NOM NEG3.SG THEN BY THE WAY COME-NUTP(-FP)
 toissapäivänä.
 THE DAY BEFORE YESTERDAY

(9) 「(私は) あのリンゴをもう食べた。」

Sö-i-n se-n omena-n jo.
 EAT-IMP-1.SG IT-ACC APPLE-ACC ALREADY

(10) 「私はあのリンゴをまだ 食べていない／食べない。」

a: E-n ole vielä syö-nyt sitä omena-a.
 NEG-1.SG BE STILL EAT-NUTP IT.PART APPLE-PART

b: E-n syö sitä omena-a vielä.
 NEG-1.SG EAT IT.PART APPLE-PART STILL

a の文は「私はあのリンゴをまだ食べていない」という意であり、b の文は「私はまだ食べない」という意である。

(11) 「あの人は今 (ちょうど) そのリンゴを食べています／食べているところです。」

a: Hän-ø syö-ø nyt sitä omena-a.
 3.SGPRO-NOM EAT-3.SG.PRES NOW IT.PART APPLE-PART

b: Hän- \emptyset on (juuri) nyt syö-mä-ssä sitä
 3.SG.PRO-NOM BE.3.SG.PRES JUST NOW EAT-3INF-INE IT.PART
 omena-a.
 APPLE-PART

例文 a は進行を表し, b は進行もしくは突然を表す.

(12) 「窓が開いている. / 窓が開いていた.」

Ikkuna- \emptyset on auki.
 WINDOW-NOM BE.3.SG.PRES OPEN

/Ikkuna- \emptyset oli- \emptyset auki.
 WINDOW-NOM BE-IMP-3.SG OPEN

(13) 「私は毎朝新聞を読む/読んでいます.」

a: Lue-n lehde-n joka aamu.
 READ-1.SG.PRES NEWSPAPER-ACC EVERY MORNING

b: Lue-n lehte-ä joka aamu.
 READ-1.SG.PRES NEWSPAPER-PART EVERY MORNING

c: Lue-n aina aamuisin lehde-n.
 READ-1.SG.PRES ALWAYS IN THE MORNING NEWSPAPER-ACC

a と c では目的語の格標示が対格であり, この場合新聞を全て読み切る意となる. b の場合は分格目的語であり, 新聞の一部を読む意となる.

(14) 「あなたは (あなたの) お母さんに似ている.」

a: Muistuta-t äiti-ä-si.
 RESEMBLE-2.SG.PRES MOTHER-PART-2.SG.POSS

b: Ole-t tul-lut äiti-i-si.
 BE-2.SG.PRES COME-NUTP MOTHER-ILL-2.SG.POSS

a の文は広く母親に似ているという意味で, b の文は母親から色々な物を遺伝的に受け継いだという意味が含まれる.

(15) 「私はその頃毎日学校へ通っていた。」

Käv-i-n silloin joka päivä koulu-ssa.
VISIT-IMP-1.SG THEN EVERY DAY SCHOOL-INE

(16) 「私はヘルシンキに行ったことがある。」

Ole-n käy-nyt Helsingi-ssä.
BE-1.SG.PRES VISIT-NUTP HELSINKI.PN-INE

(17) 「やっとバスは 走り出した／走り始めた。」

a: Bussi-ø läht-i-ø vihdoin liikkee-lle.
BUS-NOM LEAVE-IMP-3.SG FINALLY MOTION-ALL

b: Bussi-ø alko-i-ø viimein liikke-a.
BUS-NOM START-IMP-3.SG FINALLY MOVE-AINF

a の文は「日常的なスケジュールの中で時刻通りに走り始めた」という意味で、b の文は「エントストなどの何らかの理由で途中で停車していたバスが物理的にやっと走り始めた」という意味である。

(18) 「きのう彼女はずっと寝ていた。」

Hän-ø nukku-i-ø eilen koko päivä-n.
3.SGPRO-NOM SLEEP-IMP-3.SG YESTERDAY WHOLE DAY-ACC

(19) 「私はそれをちょっと食べてみた。」

Koet-i-n syö-dä sitä vähän.
TRY-IMP-1.SG EAT-AINF IT.PART ALITTLE

(20) 「あの人はそれ(ら)をみんなに分け与えた。」

Hän-ø jako-i-ø ne kaik-i-lle.
3.SGPRO-NOM SHARE-IMP-3.SG THEM.NOM ALL-PL-ALL

上の例文で対格形 *niitä* ではなく主格形 *ne* が用いられているのは話し言葉によるためである。意味を優先して英語訳は **THEM** とした。

(21) 「さあ、(私たちは) 行くよ！」

a: Men-nään (sitten)!
GO-PASS.PRES THEN

b: Men-kää-mme (sitten)!
GO-IMPE-1.PL THEN

例文 b はほとんど使われないが、文法的には正しい。

(22) 「地球は太陽の周りを回っている。」

Maapallo-ø kiertä-ä aurinko-a.
EARTH-NOM GO ROUND-3.SG.PRES SUN-PART

(23) 「あの木は今にも倒れそうだ。」

Tuo-ø puu-ø on (aivan)
THAT-NOM TREE.NOM BE.3.SG.PRES JUST

kaatu-ma-isi-lla-an.
FALL.DOWN-MAINF-CON-ADE-3.POSS

例文(23)のような表現は「あの人は何か言いそうだ」のような文にも使えるが、「雨が降りそうだ」のような文に使うには違和感がある。

(24) 「(私は) あやうく転ぶところだった。」

a: Ol-i-n viittä vaille kaatu-ma-ssa.
BE-IMP-1.SG ALMOST FALL-MAINF-INE

b: Melkein kaadu-i-n.
NEARLY FALL-IMP-1.SG

c: Ol-i-n kaatu-ma-isi-lla-ni.
BE-IMP-1.SG FALL-MAINF-CON-ADE-1.SG.POSS

d: Hyvä etten kaatu-nut.
GOOD THAT.NEG.1.SG FALL-NUTP

a の文には「転ぶ寸前だった」、b は「ほぼ転んだ」、c の文は「転ぶところだった」、d は「転ばなくてよかった」というニュアンスがある。

(25) 「明日お客が来るので、パンを買っておく。」

Huomenna tule-e viera-i-ta, joten
TOMORROW COME-3.SG.PRES GUEST-PL-PART SO
osta-n (heitä varten) pulla-a.
BUY-1.SG.PRES 3.PL.PRO.PART FOR COFFEEBREAD-PART

(26) 「(私は) ～に (街とか市場とか) 行った時, この袋を買った。」

Ost-i-n	tämä-n	pussuka-n	tori-lta
BUY-IMP-1.SG	THIS-ACC	POUCH-ACC	MARKET-ABL
kun	käv-i-n	tori-lle.	
WHEN	VISIT-IMP-1.SG	MARKET-ALL	

例文(26)は買った場所は市場ではなく市場へ行く途中で買ったという意味になる。

(27) 「(私は) ～に (街とか市場とか) 行く時/行く前に, この袋を買った。」

a:

Ost-i-n	tämä-n	pussuka-n	
BUY-IMP-1.SG	THIS-ACC	POUCH-ACC	
tori-lle	menn-e-ssä-ni.		
MARKET-ALL	GO-EINF-INE-1.SGPOSS		

b:

Ost-i-n	tämä-n	pussuka-n,	kun ol-i-n
BUY-IMP-1.SG	THIS-ACC	POUCH-ACC	WHEN BE-IMP-1.SG
meno-ssa	tori-lle.		
GOING-INE	MARKET-ALL		

a と b の意味は全く同じである。a の文では従属節に不定詞が使われており, b の文では接続詞が使われている。

(28) 「(私は) 彼が市場でこの袋を買ったのを知っていた。」

a:

Tie-si-n	häne-n	osta-ne-en	tämä-n	pussuka-n
KNOW-IMP-1.SG	3.SGPRO-GEN	BUY-NUTP-ACC	THIS-ACC	POUCH-ACC
tori-lta.				
MARKET-ABL				

b:

Tie-si-n,	että	hän-ø	ol-i-ø	osta-nut
KNOW-IMP-1.SG	THAT	3.SGPRO-NOM	BE-IMP-3.SG	BUY-NUTP
tämä-n	pussuka-n	tori-lta.		
THIS-ACC	POUCH-ACC	MARKET-ABL		

a と b では補文節にそれぞれ分詞, että が使われているという点で異なる。

2.3. モダリティに関する意図説明

(1) 「(その仕事が終わったら) もう帰ってもいいですよ。」

{Voi-t/Saa-t}	lähte-ä,	kun	saa-t	se-n
CAN-2.SG.PRES/GET-2.SG.PRES	LEAVE-AINF	WHEN	GET-2.SG.PRES	IT-ACC

valmiiksi.
READY

(2) 「(腐っているから、あなたは) それを食べてはいけない。 / それを食べるな。」

a: E-t saa syö-dä sitä.
NEG-2.SG GET EAT-AINF IT.PART

b: Sitä ei { voi/saa } syö-dä.
IT.PART NEG.3.SG CAN/GET EAT-AINF

a の文は聞き手への禁止を表し、b の文は一般的な禁止事項を表す。voi と saa の違いとしては前者が状況的な不可能、後者は能力的な不可能を表す。

(3) 「(遅くなったので) 私たちはもう帰らなければならない。」

a: Meidä-n pitä-ä lähte-ä koti-in.
1.PL.PRO-GEN MUST-3.SG.PRES LEAVE-AINF HOME-ILL

b: Meidä-n on lähde-ttävä koti-in.
1.PL.PRO-GEN BE.3.SG.PRES LEAVE-VAP.PASS HOME-ILL

フィンランド語には義務を表す形式がいくつかある。義務を表す構文では、意味上の主語は属格形で現れ動詞は常に3人称単数の形式をとる。例文 a では動詞部分に pitää 「～しなければならない」が使われている。例文 b では on + VA 分詞を用いて義務を表している。VA 分詞には能動と受動の形式があるが、義務を表すのに使われるのは VA 分詞の受動形である。

(4) 「(雨が降るそうだから) 傘を持って出かけたほうがいいよ。」

Kannatta-a otta-a sateenvarjo-ø mukaan.
HAD BETTER-3.SG.PRES TAKE-AINF UMBRELLA-ACC WITH

義務の構文と同じく、「～したほうがいい、～する価値がある」など推奨を表す動詞は主語に関わらず3人称単数(0人称)の形式をとる。主語を明記する場合は主語は属格形をとる。

(5) 「歳を取ったら、子供の言うことを聞くべきだ / ものだ。」

a: Kun tule-e vanha-ksi, ol-isi-ø syy-tä
WHEN COME-3.SG.PRES OLD-TRA BE-CON-3.SG REASON-PART

kuunnel-la laste-nsa mielipite-i-tä.
LISTEN-AINF CHILD-GEN.3.POSS OPINION-PL-PART

b:	Kun	tule-e	vanha-ksi,	pitä-isi-ø
	WHEN	COME-3.SG.PRES	OLD-TRA	MUST-CON-3.SG
	kuunnel-la	laste-nsa	mielipite-i-tä.	
	LISTEN-AINF	CHILD-GEN.3.POSS	OPINION-PL-PART	

例文 a では on + syytä 「～すべきだ」が用いられており、これに条件法を用いることで「～するものだ」と弱められている。例文 b では pitäisi を用いることで恐れ多い様子を表している。

(6) 「(お腹が空いたので、私は) 何か食べたい。」

a:	Halua-n	syö-dä	jotain.
	WANT-1.SG.PRES	EAT-AINF	SOMETHING.PART

b:	Halua-isi-n	syö-dä	jotain.
	WANT-CON-1.SG	EAT-AINF	SOMETHING.PART

a より b の方が丁寧な表現である。

(7) 「私が持ちましょう。」

Minä-ø	nosta-n	se-n,
1.SG.PRO-NOM	LIFT-1.SG.PRES	IT-ACC

(8) 「じゃあ、一緒に昼ごはんを食べましょう。」

a:	(Syö-dään-kö	yhdessä	lounas-ta?)
	EAT-PASS.PRES-Q	TOGETHER	LUNCH-PART

b:	Syö-täisiin-kö	yhdessä	lounas-ta?
	EAT-PASS.CON-Q	TOGETHER	LUNCH-PART

c:	Sopi-i-ko,	että	syö-dään	yhdessä	lounas-ta?
	SUIT-3.SG.PRES-Q	THAT	EAT-PASS.PRES	TOGETHER	LUNCH-PART

d:	Jos	sitten	syö-dään	yhdessä	lounas-ta.
	IF	THEN	EAT-PASS.PRES	TOGETHER	LUNCH-PART

a の文には「一緒に食べようじゃないか」、b の文には「一緒に食べませんか」、c の文には「一緒に食べに行ってもかまいませんか」、d の文には「一緒に食べに行くんですね」というニュアンスがそれぞれある。

(9) 「一緒に昼ごはんを食べませんか？」

- a: Ei-kö syö-täisi lounas-ta yhdessä?
 NEG3.SG-Q EAT-PASS.CON LUNCH-PART TOGETHER
- b: Syö-dään-kö yhdessä lounas-ta?
 EAT-PASS.PRES-Q TOGETER LUNCH-PART
- c: Syö-täisiin-kö yhdessä lounas-ta.
 EAT-PASS.CON-Q TOGETHER LUNCH-PART
- d: Sopi-i-ko, että syö-dään yhdessä lounas-ta?
 SUIT-3.SG.PRES-Q THAT EAT-PASS.PRES TOGETHER LUNCH-PART

a の文には「一緒に昼ごはんを食べませんか」、b の文には「昼ごはんでも一緒に食べませんか」、c の文には「昼御飯でも一緒に食べても構いませんか」、d の文には「一緒に昼ごはんを食べて頂いても構いませんか」というニュアンスがそれぞれある。

(10) 「明日、良い天気になるといいなあ。／明日は良い天気になってほしいなあ。」

- a: Ol-isi-pa huomenna hyvä sää-ø.
 BE-CON.3.SG-TP TOMORROW GOOD WEATHER-NOM
- b: Kunpa huomenna ol-isi-ø hyvä sää-ø.
 IF TOMORROW BE-CON-3.SG GOOD WEATHER-NOM

例文 b に関して、自分が制御できないようなものに対しては条件法-isi を用いる。

(11) 「これはあの人に持って行かせろ/持って行かせよう。」

- a: Laita häne-t vie-mä-än se-ø.
 PUT.2.SG.IMPE 3.SG.PRO-ACC BRING-MAINF-ILL IT-ACC
- b: Laitte-taan häne-t vie-mä-än se-ø.
 PUT-PASS.PRES 3.SG.PRO-ACC BRING-MAINF-ILL IT-ACC
- c: Laitta-kaa-mme häne-t vie-mä-än se-ø.
 PUT-IMPE-1.PL 3.SG.PRO-ACC BRING-MAINF-ILL IT-ACC

a の文には「彼にそれを持って行かせてくれ」、b の文には「(みんなで)彼にそれを持って行かせよう」というニュアンスがある。c の文には「彼にそれを持って行かせましょう」というかしこまった感じがある。c はほとんど使われない。

(12) 「(私はここで待っているから) すぐにそれを持って来なさい。」

Tuo	se-∅	heti.
BRING2.SGIMPE	IT-ACC	SOON

(13) 「そのペンをちょっと貸していただけませんか？」

a:	Saa-n-ko	laina-ta	tuo-ta	kynä-ä?
	GET-1.SGPRES-Q	BORROW-AINF	THAT-PART	PEN-PART

b:	Sa-isi-n-ko	laina-ta	tuo-ta	kynä-ä?
	GET-CON-1.SG-Q	BORROW-AINF	THAT-PART	PEN-PART

c:	Voi-n-ko	laina-ta	tuo-ta	kynä-ä?
	CAN-1.SGPRES-Q	BORROW-AINF	THAT-PART	PEN-PART

d:	Vo-isi-n-ko-han	laina-ta	tuo-ta	kynä-ä?
	CAN-CON-1.SG-Q-TP	BORROW-AINF	THAT-PART	PEN-PART

e:	Sa-isi-n-ko-han	laina-ta	tuo-ta	kynä-ä?
	GET-CON-1.SG-Q-TP	BORROW-AINF	THAT-PART	PEN-PART

aの文には「あのペン借りてもいい?」、bの文には「あのペン借りてもいいですか?」、cの文には「(軍隊のような場で)あのペン借りてもよいですか?」、dの文には「(軍隊のような場で)あのペン借りてもよろしいですか?」、eの文には「もしよろければあのペン借りてもよろしいでしょうか?」というニュアンスがある。

(14) 「あの人は中国語が読めます。 / あの人は中国語を読むことができます。」

a:	Hän-∅	osaa-∅	luke-a	kiina-a.
	3.SGPRO-NOM	CAN-3.SGPRES	READ-AINF	CHINESE-PART

b:	Hän-∅	pysty-y	luke-ma-an	kiina-a.
	3.SGPRO-NOM	CAN-3.SGPRES	READ-MAINF-ILL	CHINESE-PART

c:	(Hän-∅	kykene-e	luke-ma-an	kiina-a.)
	3.SGPRO-NOM	CAN-3.SGPRES	READ-MAINF-ILL	CHINESE-PART

aの文には「中国語ができます」、bの文には「(なんとなく)中国語ができます」というニュアンスがある。cの文はほとんど使われず違和感がある。

(15) 「明かりが暗くて、ここに何て書いてあるのか、読めない。」

a: On niin pimeä-ä, etten näe luke-a
 BE.3.SG.PRES SO DARK-PART THAT.NEG.1.SG SEE READ-AINF
 mitä tä-ssä sano-taan.
 WHAT.PART THIS-INE SAY-PASS.PRES

b: On niin pimeä-ä, etten pysty
 BE.3.SG.PRES SO DARK-PART THAT.NEG.1.SG CAN
 luke-ma-an mitä tä-ssä sano-taan.
 READ-MAINF-ILL WHAT.PART THIS-INE SAY-PASS.PRES

例文 a の etten は että (接続詞 that と同様の語。「～ということ」の意)に en (否定動詞 1 人称単数形)がついた形である。グロスには THAT.NEG.1.SG のようにつけた。

(16) 「(朝早く出発したから) 彼らはもう着いているはずだ。 / もう着いたに違いない。」

a: Hän-ø on varmasti jo sie-llä.
 3.SG.PRO-NOM BE.3SG.PRES SURELY ALREADY IT-ADE

b: Hän-ø on epäilemättä jo sie-llä.
 3.SG.PRO-NOM BE.3SG.PRES UNDOUBTLY ALREADY IT-ADE

c: Häne-n täyty-y ol-la jo sie-llä.
 3.SG.PRO-GEN MUST-3.SG.PRES BE-AINF ALREADY IT-ADE

d: Häne-n pitä-isi-ø ol-la jo sie-llä.
 3.SG.PRO-GEN MUST-CON-3.SG BE-AINF ALREADY IT-ADE

例文 c と d は義務の意味に近い。「彼らはもう着いていなければならない」など。

(17) 「(あの人は) 今日はたぶん来ないだろう。」

a: Hän-ø tuskin tule-e täänään.
 3.SG.PRO-NOM HARDLY COME-3.SG.PRES TODAY

b: Hän-ø ei luultavasti tule täänään.
 3.SG.PRO-NOM NEG.3.SG PROBABLY COME TODAY

c: (Hän-ø ei tul-le täänään.)
 3.SG.PRO-NOM NEG.3.SG COME-POT TODAY

d: Hän-ø ei varmaan tule tänään.
 3.SGPRO-NOM NEG3.SG PROBABLY COME TODAY

例文 a から d の順にあまりよく使われなくなっていく。

(18) 「彼らがまだ来ないなんて、きっと途中で車が壊れたんじゃないか。」

a: Jos hän-ø ei kerran ole vielä tää-llä,
 IF 3.SGPRO-NOM NEG3.SG IT SEEMS SO BE YET THIS-ADE

 auto-ø on varmaan hajon-nut matka-lla.
 CAR-NOM BE.3.SG.PRES PROBABLY BREAK-NUTP WAY-ADE

b: Jos hän-ø ei kerran ole vielä tää-llä,
 IF 3.SGPRO-NOM NEG3.SG IT SEEMS SO BE YET THIS-ADE

 liene-e-kö-hän auto-ø hajon-nut matka-lla.
 BE.POT-3.SG-Q-TP CAR-NOM BREAK-NUTP WAY-ADE

c: Jos hän-ø ei kerran ole vielä tää-llä,
 IF 3.SGPRO-NOM NEG3.SG IT SEEMS SO BE YET THIS-ADE

 auto-ø on ehkä hajon-nut matka-lla.
 CAR-NOM BE.3.SG.PRES MAYBE BREAK-NUTP WAY-ADE

d: Jos hän-ø ei kerran ole vielä tää-llä,
 IF 3.SGPRO-NOM NEG3.SG IT SEEMS SO BE YET THIS-ADE

 voi-ø ol-la, että auto-ø on hajon-nut matka-lla.
 MAY-3.SG.PRES BE-AINF THAT CAR-NOM 3.SG.PRES BREAK-NUTP WAY-ADE

e: Jos hän-ø ei kerran ole vielä tää-llä,
 IF 3.SGPRO-NOM NEG3.SG IT SEEMS SO BE YET THIS-ADE

 auto-ø saatta-a ol-la hajon-nut matka-lla.
 CAR-NOM MAY-3.SG.PRES BE-AINF BREAK-NUTP WAY-ADE

a の文は「車はきっと壊れているに違いない」、b の文は「車は壊れている可能性がある」、c の文は「おそらく車は壊れた可能性がある」、d の文は「車が壊れたことがありえる」、e の文は「車が壊れたかもしれない」という意味である。

(19) 「さあ、(昼間だからあの人は家に) いるかもしれないし、いないかもしれない。」

a: Voi-ø ol-la, että hän-ø on kotona,
 MAY-3.SG.PRES BE-AINF THAT 3.SGPRO-NOM BE.3.SG.PRES AT HOME

tai voi- \emptyset ol-la, ettei ole.
OR MAY-3.SG.PRES BE-AINF THAT.NEG.3.SG BE

- b: Hän- \emptyset saatta-a ol-la kotona,
3.SG.PRO-NOM MAY-3.SG.PRES BE-AINF AT HOME
- mutta saatta-a ol-la ole-ma-tta-kin.
BUT MAY-3.SG.PRES BE-AINF BE-MAINF-ABE-FP

例文 a の ettei は että (接続詞 that と同様の語。「～ということ」の意)に ei (否定動詞 3 人称単数形)がついた形である。グロスには THAT.NEG.3.SG のようにつけた。

(20) 「(額に触ってみて) どうもあなたは熱があるようだ。」

- a: Ettei sinu-lla ol-isi- \emptyset kuume-tta!
THAT.NEG.3.SG 2.SG.PRO-ADE BE-CON-3.SG FEVER-PART
- b: Sinu-lla taita-a ol-la kuume-tta!
2.SG.PRO-ADE SEEM-3.SG.PRES BE-AINF FEVER-PART
- c: Sinu-lla tuntuu ole-va-n kuume-tta.
2.SG.PRO-ADE FEEL-3.SG.PRES BE-VAP-ACC FEVER-PART
- d: Tuntu-u, kuin sinu-lla ol-isi- \emptyset kuume-tta.
FEEL-3.SG.PRES AS 2.SG.PRO-ADE BE-CON-3.SG FEVER-PART

例文 b の taitaa を用いると証拠があるイメージである。ただし触覚による判断とは限らない。c や d の tuntuu は可能性や予感を表す時に使う。

(21) 「(天気予報によれば) 明日は雨が降るそうだ。」

Huomenna kuulemma sata-a sääätiedotukse-n
TOMORROW I HEAR RAIN-3.SG.PRES WEATHER REPORT-GEN

mukaan.
ACCORDING TO

kuulemma は副詞である。

(22) 「もしお金があったら、あの車を買うんだけどなあ。」

Jos ol-isi- \emptyset raha-a, halua-isi-n osta-a se-n
IF BE-CON-3.SG MONEY-PART WANT-CON-1.SG BUY-AINF IT-ACC

auto-n.
CAR-ACC

従属節と主節の動詞はともに条件法でマークされる。

(23) 「もしあなたが教えてくれていなかったら、私はそこにたどり着けなかったでしょう。」

Jos	e-t	ol-isi-ø	kerto-nut	siitä	paika-sta
IF	NEG-2.SG	BE-CON-3.SG	TELL-NUTP	IT.ELA	PLACE-ELA
minu-lle,	e-n	varmaan	ol-isi-ø	pääty-nyt	
1.SGPRO-ALL	NEG-1.SG	PROBABLY	BE-CON-3.SG	LAND-NUTP	
sinne.					
THERE					

(24) 「(あの人は) 街へ行きたがっている。」

a: Hän-ø kaipa-a kaupungi-lle.
3.SGPRO-NOM LONG FOR-3.SG PRES CITY-ALL

b: Hän-ø halua-a men-nä kaupungi-lle.
3.SGPRO-NOM WANT-3.SG PRES GO-AINF CITY-ALL

a の文は「町に行くのが恋しい」、b の文は「町に行きたい」という意味である。

(25) 「僕にもそれを少し飲ませろ。」

a: Anta-kaa minu-n-kin juo-da sitä.
LET-2.PL.IMPE 1.SGPRO-GEN-FP DRINK-AINF IT.PART

b: Anta-kaa sitä minu-lle-kin juotava-ksi.
LET-2.PL.IMPE IT.PART 1.SGPRO-ALL-FP DRINKABLE-TRA

a より b の方が文体上硬い感じがする。

(26) 「これはあの人に持って行かせろ／持って行かせよう。」

→2.3 節の例文(11)を参照。

(27) 「そのテーブルの上のお菓子は後で食べなさい。」

Syö	nuo	pöydä-llä	ole-va-t
EAT.2.SG.IMPE	THAT.PL.ACC	TABLE-ADE	BE-VAP-PL.ACC
herku-t	myöhemmin.		
GOODY-PL.ACC	LATER		

(28) 「もっと早く来ればよかった。」

Ol-isi-n-pa	tul-lut	aikaisemmin.
BE-CON-1.SG-TP	COME-NUTP	EARLIER

(29) 「あなたも一緒に行ったら（どうですか）？」

a: (Mitä) jos sinä-kin men-isi-t?
 WHAT.PART IF 2.SGPRO.NOM-FP GO-CON-2.SG

b: Jos-pa sä-kin men-isi-t?
 IF-TP 2.SGPRO.NOM-FP GO-CON-2.SG

c: E-t sinä-kin (kuitenkin) men-isi?
 NEG-2.SG 2.SGPRO.NOM-FP THOUGH GO-CON

a の文は「あなたも行ったらどうですか」、b の文は「お前も行けば」、c の文は「あなたもやっぱ行かないのかい？」という意味である。

(30) 「オレがそんなこと知るか。」

a: Mistä mä se-n tietä-isi-n!
 WHAT.ELA 1.SGPRO.NOM IT-ACC KNOW-CON-1.SG

b: Näytä-n-kö mä-ø muka siltä, että tietä-isi-n?
 LOOK-1.SG-Q 1.SGPRO-NOM AS IF IT.ABL THAT KNOW-CON-1.SG

a の文は「俺が知るか」、b の文は「俺が知っているように見えるのか」という意味である。

(31) 「これを作った（料理した）のは、お母さんだよね？」「いいえ、私が作ったのよ。」

a: Tämä-ø on kai äiti-si
 THIS-NOM BE.3.SG.PRES PERHAPS MOTHER-GEN.2.SG.POSS

teke-mä-ä?
 MAKE-AP-PART

-Ei vaan minu-n.
 NEG.3.SG BUT 1.SGPRO-GEN

b: Tämä-hän on äiti-si teke-mä-ä?
 THIS.NOM-TP BE.3.SG.PRES MOTHER-GEN.2.SG.POSS MAKE-AP-PART

-Ei vaan minu-n.
 NEG.3.SG BUT 1.SGPRO-GEN

a の文は「お母さんが作ったのでしょう」、b の文は「お母さんが作ったんだよね」という意味である。

2.4. ヴォイス・意志性・全体部分, 感覚述語ほか

(1a) 「《風などで》ドアが開いた。」

Ovi- \emptyset	avautu-i- \emptyset .
DOOR-NOM	OPEN-IMP-3.SG

(1b) 「(彼が) ドアを開けた。」

Hän- \emptyset	ava-si- \emptyset	ove-n.
3.SGPRO-NOM	OPEN-IMP-3.SG	DOOR-ACC

(1c) 「入口のドアが開けられた。」

Sisäänkäynni-n	ovi- \emptyset	ava-ttiin.
ENTRANCE-GEN	DOOR-ACC	OPEN-PASS.IMP

フィンランド語では動詞の自他は形の上で区別される。「開く」は *avautua*、「開ける」は *avata* のような例がある。他の動詞でも同様に、-*utua*/*-ytyä* で終わる多くの動詞は自動詞的・再帰的な意味合いを持つ。例文 c では受動文で、目的語には主格形対格が用いられる。動作主が不定の場合に使われる。

(2) 「(2時間/隅に など) 私は (自分の) 弟を立たせた。」

a: Pist-i-n pikkuvelje-n seiso-ma-an.
MAKE-IMP-1.SG YOUNGER BROTHER-ACC STAND-MAINF-ILL

b: Pakot-i-n pikkuvelje-n seiso-ma-an.
FORCE-IMP-1.SG YOUNGER BROTHER-ACC STAND-MAINF-ILL

c: Laito-i-n pikkuvelje-n seiso-ma-an.
MAKE-IMP-1.SG YOUNGER BROTHER-ACC STAND-MAINF-ILL

d: Seisotut-i-n pikkuvelje-ä
LET STAND-1.SG YOUNGER BROTHER-PART

(kaksi tunti-a / nurka-ssa yms).
TWO HOUR-PART / CORNER-INE ETC.

例文 a では動詞 *pistää* は「刺す(*sting*)」が基本的な意味である。a~c では動詞自体が使役的な

意味を持つ。

(3) 「私は彼に本を読ませた。」

a: Luetut-i-n häne-llä kirja-n.
LET READ-IMP-1.SG 3.SG.PRO-ADE BOOK-ACC

b: Pist-i-n häne-t luke-ma-an kirja-a.
MAKE-IMP-1.SG 3.SG.PRO-ACC READ-MAINF-ILL BOOK-PART

a の文は「彼に本を読ませた」、b の文は「彼を本を読むようにしてやった」という意味である。

(4a) 「《遊びたがっている子供に無理やり》母は子供にパンを買いに行かせた。」

Äiti-ø pist-i-ø / laitto-i-ø lapse-n
MOTHER-NOM MAKE-IMP-3.SG / MAKE-IMP-3.SG CHILD-ACC
leipä=ostoksi-lle.
BREAD=BUYING-ALL

(4b) 「《遊びに出たがっているのを見て》母は子供を遊びに行かせた。」

Äiti-ø pääst-i-ø lapse-n leikki-mä-än.
MOTHER-NOM LET-IMP-3.SG CHILD-ACC PLAY-MAINF-ILL

(5a) 「私は弟に服を着せた。」

Pu-i-n pikkuvelje-lle vaatee-t päälle.
DRESS-IMP-1.SG YOUNGER BROTHER-ALL CLOTHES-ACC OVER

(5b) 「私は弟にその服を着させた。」

Pist-i-n / Laito-i-n pikkuvelje-n
MAKE-IMP-1.SG/ MAKE-IMP-1.SG YOUNGER BROTHER-ACC
puke-ma-an vaatee-t päälle-en.
DRESS-MAINF-ILL CLOTHES-ACC OVER-3.POSS

(6) 「私は弟にその本をあげた。」

Anno-i-n se-n kirja-n pikkuvelje-lle.
GIVE-IMP-1.SG IT-ACC BOOK-ACC YOUNGER BROTHER-ALL

(7a) 「私は弟に本を読んであげた。」

Lu-i-n pikkuvelje-lle kirja-n / kirja-a.
READ-IMP-1.SG YOUNGER BROTHER-ALL BOOK-ACC / BOOK-PART

(7b) 「兄は私に本を読んてくれた。」

Isoveli- \emptyset luk-i- \emptyset minu-lle kirja-n /
BIG BROTHER-NOM READ-IMP-3.SG 1.SGPRO-ALL BOOK-ACC /
kirja-a.
BOOK-PART

(7c) 「私は母に髪のを切ってもらった。」

Äiti- \emptyset leikka-si- \emptyset hiukse-ni.
MOTHER-NOM CUT-IMP-3.SG HAIR-ACC.1.SG.POSS

(8a) 「私は（自分の）体を洗った。」

Pes-i-n ruumii-ni / keho-ni.
WASH-IMP-1.SG BODY-ACC.1.SG.POSS / BODY-ACC.1.SG.POSS

(8b) 「私は手を洗った。」

Pes-i-n käte-ni.
WASH-IMP-1.SG HAND-ACC.1.SG.POSS

(8c) 「彼は（／その人は）手を洗った。」

Hän- \emptyset pes-i- \emptyset käte-nsä.
3.SGPRO-NOM WASH-IMP-3.SG HAND-ACC.3.POSS

(9) 「私は（自分のために）その本を買った。」

Ost-i-n se-n kirja-n (itse-lle-ni).
BUY-IMP-1.SG IT-ACC BOOK-ACC ONESELF-ALL-1.SG.POSS

(10) 「彼らは（／その人たちは）（互いに）殴り合っていた。」

a: He- \emptyset vaihto-i-vat nyrkinisku-j-a.
3.PL.PRO-NOM CHANGE-IMP-3.PL PUNCH-PL-PART

b: He- \emptyset nujako-i-vat.
3.PL.PRO-NOM SCUFFLE-IMP-3.PL

aは「殴り合っていた」、bは「殴りまくっていた」という意味である。

(11) 「その人たちは《みな一緒に》町へ出発した。」

He- \emptyset läht-i-vät (yhdessä) kaupunki-in.
3.PL.PRO-NOM LEAVE-IMP-3.PL TOGETHER CITY-ILL

(12) 「その映画は泣ける (その映画を見ると泣いてしまう).」

- a: Se elokuva-ø itke-ttä-ä.
IT MOVIE.NOM CRY-CAU-3.SG.PRES
- b: Se elokuva-ø pistä-ä itke-mä-än.
IT MOVIE-NOM MAKE-3.SG.PRES CRY-MAINF-ILL
- c: Se-ø on itketysleffa.
IT-NOM 3.SG.PRES TEARJERKER MOVIE

a は「その映画は泣かせる」、b は「その映画に泣かせられる」、c は「それは泣ける映画だ」という意味である。

(13a) 「私は卵を割った。」

- Riko-i-n kana-n=muna-n.
BREAK-IMP-1.SG CHICKEN-GEN=EGG-ACC

(13b) 「《うっかり落として》私はコップを割った (／割ってしまった).」

- Riko-i-n lasi-n.
BREAK-IMP-1.SG GLASS-ACC

(14a) 「きのう私はコーヒーを飲みすぎて (飲みすぎたので) 眠れなかった。」

- a: Jo-i-n eilen liikaa kahvi-a,
DRINK-IMP-1.SG YESTERDAY TOO MUCH COFFEE-PART
- enkä siksi saa-nut un-ta.
AND.NEG.1.SG THUS GET-NUTP SLEEP-PART
- b: Jo-i-n eilen liikaa kahvi-a,
DRINK-IMP-1.SG YESTERDAY TOO MUCH COFFEE-PART
- enkä siksi pysty-nyt nukahta-ma-an.
AND.NEG.1.SG THUS CAN-NUTP FALLASLEEP-MAINF-ILL

例文 a と b には、動詞に saada と pystyä が使われているが、これらは自分の影響による時に用いる。

(14b) 「きのう私は仕事がたくさんあって (たくさんあったので) 眠れなかった。」

- Eilen ol-i-ø niin paljon tö-i-tä,
YESTERDAY BE-IMP-3.SG SO MUCH JOB-PL-PART

etten	pääs-syt	nukku-ma-an.
THAT.NEG.1.SG	GET-NUTP	SLEEP-MAINF-ILL

上の例文では動詞に päästä が使われており、これは外部からの影響による時に用いられる。

(15) 「私は頭が痛い。」

a:	Pää-ni	on	kipeä.
	HEAD-NOM.1.SG.POSS	BE.3.SG.PRES	SICK

b:	Pää-ø	on	kipeä.
	HEAD-NOM	BE.3.SG.PRES	SICK

a は 1 人称の所有接辞が「頭」に付いた形である。b のように所有接辞を付けなくても言うことができる。

(16) 「あの女性は髪が長い。」

a:	Häne-n	hiukse-nsä	ovat	pitkä-t.
	3.SG.PRO-GEN	HAIR-NOM.3.POSS	BE.3.PL.PRES	LONG-PL

b:	Hän-ø	on	pitkä=hiuksinen.
	3.SG.PRO-NOM	BE.3.SG.PRES	LONG=HAIR

c:	Häne-llä	on	pitkä-t	hiukse-t.
	3.SG.PRO-ADE	BE.3.SG.PRES	LONG-PL	HAIR-PL

a は「彼女の髪は長い」、b は「彼女は長い髪をしている」、c は「彼女は長い髪を持っている」という意味である。b の pitkä=hiuksinen は形容詞である。

(17a) 「彼は (別の) 彼の肩を叩いた。」

a:	Hän-ø	taputt-i-ø	olkapää-tä.
	3.SG.PRO-NOM	CLAP-IMP-3.SG	SHOULDER-PART

b:	Hän-ø	taputt-i-ø	häne-n	olkapää-tä-än.
	3.SG.PRO-NOM	CLAP-IMP-3.SG	3.SG.PRO-GEN	SHOULDER-PART-3.POSS

c:	(Hän-ø)	taputt-i-ø	tämä-n	olkapää-tä.)
	3.SG.PRO-NOM	CLAP-IMP-3.SG	THIS-GEN	SHOULDER-PART

例文 b では、主語の「彼(女)」と異なる「彼(女)」の肩を叩く場合、hänen と所有人称接辞-än

の両方を用いなければならない。

(17b) 「彼は（この別の彼の）手をつかんだ。」

Hän-ø	tarrautu-i-ø	(tämä-n)	käte-en.
3.SGPRO-NOM	GRASP-IMP-3.SG	THIS-GEN	HAND-ILL

もし自分の手をつかむなら käteensä になる。

(18a) 「私は彼がやって来るのを見た。」

a:	Nä-i-n	häne-n	tule-va-n.
	SEE-IMP-1.SG	3.SGPRO-GEN	COME-VAP-ACC

b:	Nä-i-n,	{että / kuinka}	hän-ø	tul-i-ø.
	SEE-IMP-1.SG	THAT / HOW	3.SGPRO-NOM	COME-IMP-3.SG

a の補文節には分詞が、b では接続詞が使われている。

(18b) 「私は彼が今日来ることを知っている。」

a:	Tiedä-n	häne-n	tule-va-n	tänään.
	KNOW-1.SG.PRES	3.SGPRO-GEN	COME-VAP-ACC	TODAY

b:	Tiedä-n,	että	hän-ø	tule-e	tänään.
	KNOW-1.SG.PRES	THAT	3.SGPRO-NOM	COME-3.SG.PRES	TODAY

a の補文節には分詞が、b では接続詞が使われている。

(19) 「彼は自分（のほう）が勝つと思った。」

a:	Hän-ø	luul-i-ø	voitta-va-nsa	(häne-t).
	3.SGPRO-NOM	THINK-IMP-3.SG	WIN-VAP-ACC.3.POSS	3.SGPRO-ACC

b:	Hän-ø	luul-i-ø,	että	voitta-isi-ø.
	3.SGPRO-NOM	THINK-IMP-3.SG	THAT	WIN-CON-3.SG

a の補文節には分詞が、b では接続詞が使われている。

(20a) 「私は（コップの）水（の一部）を飲んだ。」

Jo-i-n	lasi-sta	ve-ttä.
DRINK-IMP-1.SG	GLASS-ELA	WATER-PART

(20b) 「私は (コップの) 水を全部飲んだ。」

Jo-i-n vede-n lasi-sta.
DRINK-IMP-1.SG WATER-ACC GLASS-ELA

(21) 「あの人は肉を食べない。」

Hän-ø ei syö liha-a.
3.SGPRO-NOM NEG3.SG EAT MEAT-PART

(22a) 「今日は寒い。」

Tänään on kylmä-ä.
TODAY BE.3.SG.PRES COLD-PART

客観的な場合は kylmä のように分格で標示される。

(22b) 「私は (何だか) 寒い (私には寒く感じる).」

On kylmä.
BE.3.SG.PRES COLD

主観的な場合は kylmä のように主格で標示される。

(23) 「私は人がとても多いのに驚いた。」

a: Ylläty-i-n ihmis=paljoude-sta.
BE SURPRISED-IMP-1.SG PEOPLE=BEING MANY-ELA

b: Ylläty-i-n siitä, miten paljon ihmis-i-ä ol-i-ø.
BE SURPRISED-IMP-1.SG IT.ELA HOW MANY PERSON-PL-PART BE-IMP-3.SG

a の文では「人がとても多い」という意味を複合語の名詞で表しており、b では補文が用いられている。

(24) 「雨が降ってきた。」

Alko-i-ø sata-a.
START-IMP-3.SG RAIN-AINF

(25) 「その本は良く売れる。」

Se kirja-ø myy-ø hyvin.
IT BOOK-NOM SELL-3.SG.PRES WELL

略号一覧

グロスに関しては基本的に Hakulinen 他(2004)の術語とその日本語訳に従う(日本語訳は筆者による)。以下の略号一覧で括弧()で表記されたものはその他の文献等での呼称である。

分詞に関しては、AP「動作主分詞」、NUTp「NUT分詞」、TUp「TU分詞」、VAp「VA分詞」の4つのグロスをつけた。後3つのグロスはそれぞれ「能動過去分詞」「受動過去分詞」「現在分詞」のことである。文献によってはVA分詞をそれぞれ「能動現在分詞」(形式は-va/-vä)と「受動現在分詞」(形式は-ttava/-ttävä)に分けて記すものもあるが、ここでは Hakulinen 他(2004)に従いどちらも「現在分詞」としてグロスをつける。つまり本例文中においては「能動現在分詞」(-va/-vä)と「受動現在分詞」(-ttava/-ttävä)のグロスはどちらも VAp「現在分詞」とする。後者のグロスに関しては VAp だけでなく、PASS のグロスも一緒に用いて受動形であることを示す。

	English	Suomi	日本語
ABE	abessive	abessiivi	欠格
ABL	ablative	ablatiivi	奪格
ACC	accusative	akkusatiivi	対格
ADE	adessive	adessiivi	接格
AINF	A-infinitive	A-infinitiivi	A 不定詞(第1不定詞)
ALL	allative	allatiivi	向格
AP	agentive participle	agentipartisiippi	動作主分詞
CAU	causative	kausatiivi	使役
CON	conditional	konditionaali	条件法
EINF	E-infinitive	E-infinitiivi	E 不定詞(第2不定詞)
ELA	elative	elatiivi	出格
ESS	essive	essiivi	様格
FP	focus particle	fokuspartikkeli	焦点の小辞
GEN	genitive	genetiivi	属格
ILL	illative	illatiivi	入格
IMP	imperfect	imperfekti	未完了
IMPE	imperative	imperatiivi	命令
INE	inessive	inessiivi	内格
MAINF	MA-infinitive	MA-infinitiivi	MA 不定詞(第3不定詞)
NEG	negative	negatiivi	否定
NOM	nominative	nominatiivi	主格
NUTp	NUT-participle	NUT-partisiippi	NUT 分詞(能動過去分詞)
PART	partitive	partitiivi	分格
PASS	passive	passiivi	受動
PL	plural	monikko	複数
PN	proper noun	erisnimi	固有名詞
POSS	possessive	possessiivi	所有

POT	potential	potentiaali	可能法
PRES	present	preesens	現在
PRO	pronoun	pronomini	代名詞
Q	question	kysymys	疑問
REL	relative	relatiivi	関係詞
SG	singular	yksikkö	単数
TP	tone particle	sävyartikkeli	語気を表す小辞
TRA	translative	translatiivi	変格
TUP	TU-participle	TU-partisiippi	TU 分詞(受動過去分詞)
VAP	VA-participle	VA-partisiippi	VA 分詞(現在分詞)
VS	Verbal substantive	Verbaalisubstantiivi	動名詞
1	1 st person	1. persoona	1 人称
2	2 nd person	2. persoona	2 人称
3	3 rd person	3. persoona	3 人称
-			形態素境界
=			複合語境界

参考文献

Hakulinen, Auli, Maria Vilkuna, Riitta Korhonen, Vesa Koivisto, Tarja Riitta Heinonen, Irja Alho (2004)
Iso suomen kielioppi. Helsinki: Suomalaisen Kirjallisuuden Seura.

参考資料

MOT フィンランド語・英語辞書 <http://www.kielikone.fi>

〈補遺〉

ソロン語のアスペクト, ヴォイス, モダリティ

風間 伸次郎

ソロン語は中国内蒙古自治区のホロンバイル地方に主に分布する言語で、ソロンの生業は遊牧である。中国では鄂温克 (èwēnkè) 語 (エウエンク語) の一方言とされている。1988年のある見積もりによれば、話者数は17,000人とされている。ツングース諸語の中では、言語・文化の両面で長年に亘りモンゴル語の影響を最も強く受けてきた言語である。

コンサルタントは1957年生まれの女性で、2013年3月に招聘して調査を行った。なおコンサルタントはモンゴル語とソロン語のバイリンガルであり、漢語も解する。

この言語の受身に関してはすでに調査を行い、語研論集の14号に調査結果を示したので、今回はアスペクト, ヴォイス, モダリティについての調査を行い、その結果を示すことにした。媒介言語には漢語を使用した。elicitationによる調査では、媒介言語による影響が大きく現れるので、使用した漢語の例文を提示すべきであるが、今回提示することができなかった。本誌前号までの「中国語」の項の文を使用させていただいたので、本稿の例文を対象に研究される場合には、併せて参照していただきたい。

ソロン語はふだん書かれることはなく、本稿の表記は筆者による音素表記である。例文中に漢語からの借用が現れる場合には、拼音により表記した。なお同じと思われる形態素でも、母音の長短に関してゆれが観察される場合がある。これに関しては恣意的な解釈を行わず、コンサルタントの発音通りにゆれをそのまま表記することとした。

この言語の先行研究、音韻体系、文法などに関して、さらに詳しくは風間 (2005a), 風間・トヤー (2007) なども参照されたい。またモンゴル語からの影響に関しては、風間 (2010) を参照されたい。

[アスペクト]

(1) 小王 (固有名詞) は もう来た。

<i>xiaowang</i>	<i>nigantə</i>	<i>əmə-sə.</i>
小王	もう	来る-PTCP.PERF

「(2) 小王は/あの人は もう来ている。」は(1)と同じ文となるという。

(3) ~さん (固有名詞) は/あの人は まだ来っていない。

<i>xiaowang</i>	<i>naan</i>	<i>ə-sə</i>	<i>əmə-rə.</i>
小王	なお/まだ	NEG-PTCP.PERF	来る-INF

ツングース諸語の多くにおける否定構造では、否定動詞が現れ、この否定動詞が時制や人称に関して屈折する。否定される動詞自体は一種の不定形となってその後ろに置かれる。

- (4) ~さん (固有名詞) は/あの方は まだ来ない。

<i>xiaowang</i>	<i>naan</i>	<i>ə-sin</i>	<i>əmə-rə.</i>
小王	なお/まだ	NEG-PTCP.IMPF	来る-INF

- (5) ~さん (固有名詞) は/あの方は もう (すぐ) 来る。

<i>xiaowang</i>	<i>maasan</i>	<i>əmə-rə.</i>
小王	すぐに	来る-INF

maasan 「すぐに」は漢語からの借用語である。しかしソロン語の音韻体系に合った形に音形が変化しており、借用語としてしての意識も低いいため拼音表記にはしていない。

- (6) (あつ,) ~さんが来た。 [その人が来るのに気づいた場面での発話]

<i>xiaowang</i>	<i>əmə-sə.</i>
小王	来る-PTCP.PERF

- (7) おととい, ~さんが来たよ。

<i>tiinug</i>	<i>xiaowang</i>	<i>əmə-sə.</i>
きのう	小王	来る-PTCP.PERF

- (8) おととい, ~さんは来なかったよ。

<i>tiinug</i>	<i>xiaowang</i>	<i>ə-sə</i>	<i>əmə-rə.</i>
きのう	小王	NEG-PTCP.PERF	来る-INF

(3)との対比から、未完了と過去の否定とでは、形の上でのはっきりした違いが現れないことがわかる。

- (9) (私は) あのリンゴをもう食べた。

<i>bii</i>	<i>tajjaa</i>	<i>pingguo</i>	<i>jič-č-u.</i>
私	あの	リンゴ	食べる-PTCP.PERF-1SG

- (10) 私はあのリンゴをまだ 食べていない/食べない。

<i>bii</i>	<i>tajjaa</i>	<i>pingguo</i>	<i>naan</i>	<i>ə-s-u</i>	<i>jit-tə.</i>
私	あの	リンゴ	まだ	NEG-PTCP.PERF-1SG	食べる-INF

- (11) あの人は今(ちょうど) そのリンゴを食べています/食べているところです。

tarɪ əsɪi jag tajjaa pingguo jɪj-ʃi-rə-n.
 あれ 今 ちょうど あの リンゴ 食べる-PROG-IND.PRS-3SG

「食べる」の動詞語幹は *jip-* であると考えられるが、この例文で語幹末子音は次に来る接辞と同化を起こしている。広範囲に同化(主に逆行同化)が起きた/起きるのがこの言語の特徴である。なお *r* に始まる形動詞や不定詞は、子音終わりの動詞語幹に接続する際に *t* や *d* に始まる異形態を示す。*jag* 「ちょうど」はモンゴル語からの借用である。

- (12) 窓が開いている。/窓が開いていた。

soŋko naŋu-wɔ-ʃi-ra-n.
 窓 開ける-PASS-PROG-IND.PRS-3SG

- (13) 私は毎朝新聞を読む/読んでいます。

bii əddən taŋu sonu isi-m=e.
 私 朝 毎 新聞 見る-IND.PRS.1SG=EMP

動詞語末の *-m=e* [-IND.PRS.1SG=EMP] の分析に関しては、なお検討を要する。単に *-mi* [-IND.PRS.1SG] とし、文末で広母音化するものと分析するか、*-mi=a* [-IND.PRS.1SG=EMP] のように分析することも考えられる。

- (14) あなたは(あなたの) お母さんに似ている。

sii əmmə-ʃi-wi adil.
 あなた 母親-INS-REF.SG 同じ

- (15) 私はその頃毎日学校へ通っていた。

tar ui-də inəŋ taŋu xokko sɔrguul-di-wi
 あの 頃-DAT 日 毎 全部 学校-DAT-REF.SG
 nin-ʃi-s-u.
 行く-PROG-PTCP.PERF-1SG

ui や *sɔrguul* もモンゴル語からの借用語である。

- (16) 私は北京に行ったことがある。

bii beijing nini-m unguur-s-u.
 私 北京 行く-CVB.SIM 経験がある-PTCP.PERF-1SG

(17) やっとバスは 走り出した／走り始めた.

paas əsii-xun guggəl-čə.
バス 今-DIM 動く-PTCP.PERF

(18) きのう彼女はずっと寝ていた.

tari əmun inikku aasim-ča.
あれ 一 日中 寝る-PTCP.PERF

(19) 私はそれをちょっと食べてみた.

antaalaa-s-u.
試食する-PTCP.PERF-1SG

(20) あの人はそれ(ら)をみんなに分け与えた.

tar tajjaa jəəmə-w baraan ʊlad-də
あれ あの もの-DEF.ACC たくさん 人々-DAT
xuwaa-m buu-saa.
分ける-CVB.SIM 与える-PTCP.PERF

ʊlad 「人々」は ʊlar の同化による形である。なおこの言語にはそれぞれが明示的な形を持つ定対格と不定対格の使い分けがある。

(21) さあ、(私たちは) 行くよ！

mit ug-gəəree.
1.PL.INC 行く-COHOR

ug- は ul- 「行く」の同化による形である。

(22) 地球は太陽の周りを回っている.

dəlxeen bumbulčix siŋum-bə əggi-m ʊl-ji-rə-n.
世界 球 太陽-DEF.ACC 周る-CVB.SIM 行く-PROG-IND.PRS-3SG

進行アスペクトを示す ji は、恒常的真理を示すのにも用いられることがわかる。

(23) あの木は今にも倒れそうだ.

tari əmun moo isi-m=e bi-d-də,
あの 一 木 見る-CVB.SIM=EMP ある-PTCP.IMPF-DAT

maasan tixi-rə-n.
 すぐ 倒れる-IND.PRS-3SG

isi-m=e bi-d-də は媒介言語例文の漢語の「看起來」を訳そうと考えた結果、発話されたものである。コンサルタントはさらにこの表現に関して、これはモンゴル語で *üze-ž bajx-a-d* というのと同様であるとも言及していた。

bi-d-də の -d は -r が同化したものである。

- (24) (私は) あやうく転ぶところだった。

bii gəl, ə-s-u tixi-rə.
 私 あやうく NEG-PTCP.PERF-1SG 倒れる-INF

- (25) 明日お客が来るので、パンを買っておく。

timaasin ailčt əmə-rə-n, bii mianbao unii-m
 明日 お客 来る-IND.PRS-3SG 私 パン 売買する-CVB.SIM
 gan-naa-s-ü.
 取る-DIRINT-PTCP.IMPF-1SG

- (26) (私は) ～に (街とか市場とか) 行った時、この袋を買った。

bii xoččoο-tixi əjjəə tukkə-w unii-m ga-s-ü.
 私 市場-DIR この 袋-DEF.ACC 売買する-CVB.SIM 取る-PTCP.PERF-1SG

- (27) (私は) ～に (街とか市場とか) 行く時/行く前に、この袋を買った。

bii xoččoο-da nin-tixi noogoo-do, əjjəə tukkə-w
 私 市場-DAT 行く-DIR 前-DAT この 袋-DEF.ACC
 ga-s-ü.
 取る-PTCP.PERF-1SG

nin-tixi の -tixi は方向格接辞であるので、名詞相当の語につくべきものであるが、ここではなぜか動詞語幹に直接ついている。理由はなお不明である。

- (28) (私は) 彼が市場でこの袋を買ったのを知っていた。

Tajjaa əjjəə tukkə-w xoččoο-tixi ga-saa-wa-n
 あれ この 袋-DEF.ACC 市場-DIR 取る-PTCP.PERF-ACC-3SG
 bii saa-ji-m=e.
 私 知る-PROG-IND.PRS.1SG=EMP

[モダリティ]

- (1) (その仕事が終わったら) もう帰ってもいいですよ.

ajilla-m ətə-sə, sii nənuu-m oo-do-n.
 働く-CVB.SIM 終わる-PTCP.PERF あなた 帰る-CVB.SIM なる-IND.PRS-3SG

- (2) (腐っているから, あなたは) それを食べてはいけない. /それを食べるな.

ə-ji jīt-tə.
 NEG-IMP 食べる-INF

- (3) (遅くなったので) 私たちはもう帰らなければならない.

mit nənuu-gəəree.
 1PL.INC 帰る-COHOR

- (4) (雨が降るそうだから) 傘を持って出かけたほうがいいよ.

suu tuləəsixi juu-d-di-wi, xamgim ai-nm,
 あなたたち 外へ 出る-PTCP.IMPF-DAT-REF.SG 一番 良い-3poss
 ʊda-nii sam-ba əbbuu-xəldə=nee.
 雨-GEN 傘-DEF.ACC 持って行く-IMP,2PL=CLT

san 「傘」の末尾子音は次に来ている対格の頭子音に同化して m となっている.

- (5) 歳を取ったら, 子供の言うことを聞くべきだ/ものだ.

ədduuləə-kki, uril-nii ugə-wə-n dooldii-xoldo=nee.
 歳をとる-CVB.COND 子供-GEN 言葉-DEF.ACC-3SG 聞く-IMP,2PL=CLT

- (6) (お腹が空いたので, 私は) 何か食べたい.

amasxun jəəmə-i jīg-gə-d guŋkən
 少し 物-INDEF.ACC 食べる-PTCP.IMPF-DAT QUOT
 bodo-ji-m=e.
 考える-PROG-IND.PRS.1SG=EMP

jīg-gə-d の -gə は未完了形動詞 -rə の順行同化したものと考えたいが, するとそこでの「食べる」の動詞語幹は jīg- と意識されているということになる.

- (7) 私が持ちましょう.

bii mæŋkən ga-xtee.
私 REF.PRON.SG 取る-VOLIT

- (8) じゃあ、一緒に昼ごはんを食べましょう.

tookki inin dol-nii xæmə-w æməɾættə jikkə-wu-gæree.
では 昼 中-GEN 御飯-DEF.ACC 一緒に 食べる-PASS-COHOR

「食べる」の動詞語幹部分がここで jikkə- となっている原因はなお不明である.

- (9) 一緒に昼ごはんを食べませんか?

æməɾættə xæmə-i jikkə-wu-gæree, oo-do-n=gi?
一緒に 御飯-INDEF.ACC 食べる-PASS-COHOR なる-IND.PRS-3SG=INTERR

(8),(9) の文の動詞になぜ受身の接辞が現れるのかについてはなお不明である.

- (10) 明日、良い天気になるといいなあ。 / 明日は良い天気になってほしいなあ.

tmaasɪn ai inig oo-gi-ni guŋkən xusu-ji-m=e.
明日 良い 日 なる-IMP.3SG QUOT 願う-PROG-1SG=EMP

- (11) (私はここで待っているから) すぐにそれを持って来なさい.

sii amakkan nin-či, tajjaa-w æmuu-xə.
あなた すぐに 行く-CVB.ANT あれ-DEF.ACC 持って来る-IMP

- (12) そのペンをちょっと貸していただけませんか?

bii tajjaa xarandaa-wə-si xəɾəglə-m oo-do-n=gi?
私 あの 鉛筆-DEF.ACC-2SG 使う-CVB.SIM なる-IND.PRS-3SG=INTERR

- (13) あの人は中国語が読めます。 / あの人は中国語を読むことができます.

tar baj nixan bitəgə əɾə-čči guuluu-rə-n.
あれ 人 漢 文字 読む-CVB.ANT わかる-IND.PRS-3SG

- (14) 明かりが暗くて、ここに何て書いてあるのか、読めない.

gəɾəl-nin mandu attiddi, oondu jəmə-w
明かり-3POSS とても 暗い どのような 物事-DEF.ACC

ʃori-ʃi-b-ba-n isi-m ə-si-m ətə-rə.
 書く-PROG-PTCP.IMPF-DEF.ACC-3SG 見る-CVB.SIM NEG-PTCP.IMPF-1SG できる-INF

- (15) (朝早く出発したから) 彼らはもう着いているはずだ。 / もう着いたに違いない。

tačči l isi-r oo-so.
 彼ら 着く-PTCP.IMPF なる-PTCP.PERF

- (16) (あの人は) 今日とはたぶん来ないだろう。

ərnig ə-sin əmə-ggii-r=ba.
 今日 NEG-PTCP.IMPF 来る-REPET-PTCP.IMPF=SPEC

=ba は漢語からの借用である。

- (17) 彼らがまだ来ないなんて、きっと途中で車が壊れたんじゃないか。

taččil naan ə-sə əmə-ggii-r,
 彼ら なお NEG-PTCP.PERF 来る-REPET-PTCP.IMPF
 labtee təggəə-nin ədda-wu-səə=ba.
 きっと 車-3POSS 壊す-PASS-PTCP.PERF=SPEC

labtee 「きっと」 はモンゴル語からの借用である。

- (18) さあ、(昼間だからあの人は家に) いるかもしれないし、いないかもしれない。

tari ʃuud-di-wi bi-sin, ə-sikki ʃuud-di-wi
 あれ 家-DAT-REF.SG ある-PTCP.IMPF NEG-CVB.COND 家-DAT-REF.SG
 aasm, ʃinʃi-r-da mandī.
 ない 話す-PTCP.IMPF-DAT 難しい

- (19) (額に触ってみて) どうもあなたは熱があるようだ。

sii əxuddələə-ʃi-r=nəgən.
 あなた 熱がある-PROG-PTCP.IMPF=SIMILIT

- (20) (天気予報によれば) 明日は雨が降るそうだ。

tmaasin uda-si.
 明日 雨-PROP

tmaasm law/labtee odan tokkø-ra-n.
 明日 きっと 雨 降る-IND.PRS-3SG

(21) もしお金があつたら, あの車を買うんだけどなあ.

bii mugu-si bi-kki, tajjaa tæggæm-bæ gada-m=e.
 私 お金-PROP である-CVB.COND あの 車-DEF.ACC 取る-IND.PRS.1SG=EMP

(22) もしあなたが教えてくれていなかったら, 私はそこにたどり着けなかったでしょう.

sii ə-sə jmjɪ-m buu-r bi-kki, tajjaa
 あなた NEG-PTCP.PERF 話す-CVB.SIM あげる-PTCP.IMPF である-CVB.COND あの
 buɣu bii baxa-m ə-sin ətə-r.
 場所 私 見つける-CVB.SIM NEG-PTCP.IMPF できる-INF

(23) (あの人は) 街へ行きたがっている.

tajjaa bəj, gee-da nini-m guŋkæn bodo-ji-ro-n.
 あの 人 街-DAT 行く-CVB.SIM QUOT 考える-PROG-IND.PRS-3SG

bodo-ji-ro-n の部分には, guŋ-ji-rə-n 「言う-PROG-IND.PRS-3SG」を用いても良いという.

(24) 僕にもそれを少し飲ませろ.

mindu naan amasxøn im-oo-xa.
 私.DAT も 少し 飲む-TRANS-IMP

なぜここでの動詞が使役形 (-xan) にならず, 他動詞形成接辞による形になっているのかは不明である.

(25) これはあの人に持って行かせろ/持って行かせよう.

tara-w tadø əbbuu-xəŋ-kə.
 あれ-DEF.ACC あれ.DAT 持って行く-CAUS-IMP

(26) そのテーブルの上のお菓子は後で食べなさい.

tar sirə-nii oroon-do-n bi-ji-r əwəəm-bæ
 あれ テーブル-GEN 上-DAT-3SG ある-PROG-PTCP.IMPF お菓子-DEF.ACC
 amasxøn bi-čči, jik-kə.
 少し 経つ-CVB.ANT 食べる-IMP

(27) もっと早く来ればよかった.

əddə-xun əmə-səə bi-kki=si
早い \-DIM 来る-PTCP.PERF である-COND=TOP
oo-dor bi-səə.
なる-PTCP.IMPF である-PTCP.PERF

bii əddə-xun əmə-m=e.
私 早い \-DIM 来る-IND.PRS.1SG=EMP

=si は漢語「是」からの借用であると考えられる.

(28) あなたも一緒に行ったら (どうですか) ?

sii naan əmə-rəəttə niŋ-kə.
あなた も 一緒に 行く-IMP

niŋ-kə は nik-kə と同発音される.

(29) オレがそんなこと知るか.

awuu saa-ra.
誰 知る-IND.PRS

bii ittuu saa-m=e.
私 どのようにして 知る-IND.PRS.1SG=EMP

上記の例のような反語表現で直説法の動詞形が現れることは興味深い. この問題に関しては, 風間 (2005b) も参照されたい.

(30) これを作った (料理した) のは, お母さんだよな? いいえ, 私が作ったのよ.

əjjə=si, sinii əmmə-si oo-soo=ba.
これ=TOP あなた.GEN 母親-2SG 作る-PTCP.PERF=SPEC

əntu, əjjə-w bii oo-s-u.
違う これ-DEF.ACC 私 作る-PTCP.PERF-1SG

ここでの =si もやはり漢語からの借用である.

[ヴォイス]

(1a) 《風などで》ドアが開いた.

ukkə naŋi-wu-saa.
 ドア 開ける-PASS-PTCP.PERF

(1b) (彼が) ドアを開けた.

tajjaa ukkə-i naŋi-saa.
 あれ ドア-INDEF.ACC 開ける-PTCP.PERF

(2) 私は (自分の) 弟を立たせた.

bii naxum-bi ila-xa gun-č-u.
 私 弟-REF.SG 立つ-IMP 言う-PTCP.PERF-1SG

ここでも使役接辞が使用可能であると思われるが、このような文が得られたのは媒介言語の漢語の干渉によるものと推測される.

(3) 私は (自分の) 弟に歌を歌わせた.

bii naxum-bi, doo doolo-xo gun-č-u.
 私 弟-REF.SG 歌 歌う-IMP 言う-PTCP.PERF-1SG

(4a) 《遊びたがっている子供に無理やり》母は子供にパンを買いに行かせた.

əmmə uril-wi mianbao ga-xaa-naa-saa.
 母親 子供-REF.SG パン 取る-CAUS-DIRINT-PTCP.PERF

(4b) 《遊びに出たがっているのを見て》母は子供を遊びに行かせた.

əmmə uril-wi ugii-nə-xə gun-čə.
 母親 子供-REF.SG 遊ぶ-DIRINT-IMP 言う-PTCP.PERF

(5a) 私は弟に服を着せた.

bii naxun-di-wi təggəčči-i titi-wu-s-u.
 私 弟-DAT-REF.SG 車-INDEF.ACC 着る-TRANS-PTCP.PERF-1SG

(5b) 私は弟にその服を着させた.

bii naxun-di-wi tajjaa təggəčči-w titi-wu-s-u.
 私 弟-DAT-REF.SG あの 服-DEF.ACC 着る-TRANS-PTCP.PERF-1SG

コンサルタントは最初には上記のような文を発話した。弟が自分で着る，ということを確認した後では，次のような文を発話した。

bii	nəxun-di-wi	tajjaa	təggəčči-w	titi-xə	gun-č-u.
私	弟-DAT-REF.SG	あの	服-DEF.ACC	着る-IMP	言う-PTCP.PERF-1SG

(6) 私は弟にその本をあげた。

bii	tajjaa	bitəgə-w,	nəxun-di-wi	buu-s-u.
私	あの	本-DEF.ACC	弟-DAT-REF.SG	あげる-PTCP.PERF-1SG

(7a) 私は弟に本を読んであげた。

bii	nəxun-di-wi	tajjaa	bitəgə-w	əəri-m	buu-s-u.
私	弟-DAT-REF.SG	あの	本-DEF.ACC	読む-CVB.SIM	あげる-PTCP.PERF-1SG

この言語ではやりもらいの動詞が補助動詞として使用される（ただし「もらう」にあたる動詞を補助動詞に使うことはなく，「やる」と「くれる」の対立もない）。

(7b) 兄は私に本を読んでくれた。

minii	axaa	mindu	tajjaa	bitəgə-w	əəri-m	buu-sə.
私.GEN	兄	私-DAT	あの	本-DEF.ACC	読む-CVB.SIM	あげる-PTCP.PERF

(7c) 私は母に髪の毛を切ってもらった。

bii	əmməə-ji-wi	nuuttə-wi
私	母-DAT-REF.SG	髪-REF.SG
{ ga-xan-č-u	/	xaisılaa-xan-č-u }.
取る-CAUS-PTCP.PERF-1SG	/	鋏で切る-CAUS-PTCP.PERF-1SG

(8a) 私は（自分の）体を洗った。

bii	bəjə-wi	sikki-s-u.
私	体-REF.SG	洗う-PTCP.PERF-1SG

(8b) 私は手を洗った。

bii	naala-wi	sikki-s-u.
私	手-REF.SG	洗う-PTCP.PERF-1SG

(8c) 彼は (／その人は) 手を洗った.

tari naala-wi sikki-sa.
あれ 手-REF.SG 洗う-PTCP.PERF

(9) 私は (自分のために) その本を買った.

bii tajjaa bitəgə-w unii-m ga-s-u.
私 あの 本-DEF.ACC 売買する-CVB.SIM 取る-PTCP.PERF-1SG

(10) 彼らは (／その人たちは) (互いに) 殴り合っていた.

taččil mandaa-ldii-sa.
彼ら 叩く-RECIP-PTCP.PERF

(11) その人たちは《みな一緒に》町へ出発した.

taččil əmərəətə gee-do {juu-sə / nin-čə}.
彼ら 一緒に 街-DAT 出る-PTCP.PERF / 行く-PTCP.PERF

(12) その映画は泣ける (その映画を見ると泣いてしまう).

Tajjaa kino bəjə-w sorjoo-xoon-o-n.
あの 映画 人-DEF.ACC 泣く-CAUS-IND.PRS-3SG

(13a) 私は卵を割った.

bii əmun ʊmotta-i əddə-s-u.
私 一つ 卵-INDEF.ACC 壊す-PTCP.PERF-1SG

(13b) 《うっかり落として》私はコップを割った (／割ってしまった).

bii ə-si-m saa-r, əmun čomo-i əddə-s-u.
私 NEG-PTCP.IMPF-1SG 知る-INF 一つ 容器 壊す-PTCP.PERF-1SG

その行為が故意であるかないかは、この言語の動詞の形態に影響を与えないことがわかる.

(14a) きのう私はコーヒーを飲みすぎて (飲みすぎたので) 眠れなかった.

bii tiinug kafei baraan mmi-čči, ittuu=xəd
私 昨日 コーヒー たくさん 飲む-CVB.ANT どのように=CUM

aasi-m ə-s-u ətə-r.
 寝る-CVB.SIM NEG-PTCP.PERF-1SG できる-INF

(14b) きのう私は仕事がたくさんあって（たくさんあったので）眠れなかった。

bii tiinug mandɪ ajillaa-čči, əmun dolbo
 私 昨日 とても 仕事する-CVB.ANT 一 晩
 aasi-m ə-s-u ətə-r.
 寝る-CVB.SIM NEG-PTCP.PERF-1SG できる-INF

(15) 私は頭が痛い。

minii dil ənuun-ji-rə-n.
 私.GEN 頭 痛む-PROG-IND.PRS-3SG

(16) あの女性は髪が長い。

tarnii nuuttə-nin mandɪ nɔnɔm.
 あれ.GEN 髪-3SG とても 長い

tarnii は tannii と同化しても発話される。

(17a) 彼は（別の）彼の肩を叩いた。

tari tajaa-nii miir-wə-n mandaa-saa.
 あれ あれ-GEN 肩-DEF.ACC-3SG 叩く-PTCP.PERF

(17b) 彼は（別の）彼の手をつかんだ。

tari tajaa-nii naala-wa-n jawu-saa.
 あれ あれ-GEN 手-DEF.ACC-3SG つかむ-PTCP.PERF

この言語の体の部分に働きかける表現は一括支配型となり、分割支配型にはならないことが確認できる（一括支配型／分割支配型に関しては、風間（1994）を参照されたい）。

(18a) 私は彼がやって来るのを見た。

bii tarnii əmə-səə-wə-n ič-č-ɪ.
 私 あれ.GEN 来る-PTCP.PERF-DEF.ACC-3SG 見る-PTCP.PERF-1SG

(18b) 私は彼が今日来ることを知っている。

bii tarnii ər inəg əmə-b-bə-n
 私 あれ.GEN この 日 来る-PTCP.IMP-DEF.ACC-3SG

saa-m.

知る-IND.PRS.1SG

(19) 彼は自分（のほう）が勝つと思った.

tarɪ mæəmbi diilə-m gurkən bodo-ʃi-ro-n.
あれ 自分.ACC 勝つ-IND.PRS.1SG QUOT 考える-PROG-IND.PRS-3SG

(20a) 私は（コップの）水（の一部）を飲んだ.

bii muu-nii dolim-ba-n imi-s-ʊ.
私 水-GEN 半分-DEF.ACC-3SG 飲む-PTCP.PERF-1SG

(20b) 私は（コップの）水を全部飲んだ.

bii muu-w xokko imi-s-ʊ.
私 水-DEF.ACC 全部 飲む-PTCP.PERF-1SG

(21) あの人は肉を食べない.

tarɪ uldə-i ə-si-n ʃit-tə.
あれ 肉-INDEF.ACC NEG-PTCP.IMPF-3SG 食べる-INF

(22a) 今日は寒い.

ər inəg inigəddi.
これ 日 寒い

(22b) 私は（何だか）寒い（私には寒く感じる）.

bii amaxʊn bəgii-ʃi-m.
私 少し 凍える-PROG-IND.PRS.1SG

(23) 私は人がとても多いのに驚いた.

bii ənnəgən baraan bəj gurkən ol-s-ʊ.
私 このように 多い 人 QUOT 驚く-PTCP.PERF-1SG

(24) 雨が降ってきた.

ʊdan tʊkka-sa.
雨 落ちる-PTCP.PERF

(25) その本は良く売れる。

tajjaa	bitəgə	unii-d-də	aja.
あの	本	売買する-PTCP.IMPF-DAT	良い

末筆であるが、この場を借りてコンサルタントの方にお礼申し上げたい。丁寧にみて下さった査読者の方にもお礼申し上げたい。無論、間違い等があればそれは全て筆者の責任に帰するものである。

略号・記号

1, 2, 3: 1 st person, 2 nd person, 3 rd person	INTERR: INTERROGATIVE 疑問
ACC: accusative 対格	NEG: negative 否定
ANT: anterior 先行 (副動詞)	PASS: passive 受身
CAUS: causative 使役	PERF: perfect 完了
COHOR: cohortative 勧誘	PL: plural 複数
CLT: clitic クリティック	PROG: progressive 進行
COND: conditional 条件	PRON: pronoun 代名詞
CUM: cumulative 累加	PROP: proprietive 恒常的所有
CVB: converb 副動詞	PRS: present 現在
DAT: dative 与格	PTCP: participle 形動詞
DEF: definite 定	POSS: possessive 所有
DIM: diminutive 指小	QUOT: quotation 引用
DIR: directive 方向格	REF: reflexive 再帰
DIRINT: directional intentional 移動の目的	REPET: repetitive-reversive aspect 再度・反動アスペクト
EMP: emphasis 強調	RECIP: reciprocal 相互
GEN: genitive 属格	SG: singular 単数
IMP: imperative 命令法	SIM: simultaneous 同時 (副動詞)
IMPF: imperfect 未完了	SIMILT: similitude 比況
INC: inclusive (1人称複数) 包括形	SPEC: speculation 推量
IND: indicative mood 直説法	TOP: topicalization 主題化
INF: infinitive 不定形	TRANS: transitivizer 他動詞化
INS: instrumental case 道具格	VOLIT: volitional 願望

参考文献

- 風間伸次郎 (1994) 『ナーナイ語の「一致」について』 北大言語学研究報告 5. 札幌：北海道大学
- 風間伸次郎 (2005a) 「ソロン語口語コーパスとその分析」 風間伸次郎・川口裕司編『言語情報学研究報告 8 フィールド調査による口語資料の収集およびその分析』 11-43. 21世紀 COE プログラム「言語運用を基盤とする言語情報学拠点」東京外国語大学大学院地域文化研究科.
- 風間伸次郎 (2005b) 「ナーナイ語の疑問詞による反語表現について」 津曲敏郎(編)『環北太平洋の言語』 12: 129-163. 札幌：北海道大学.
- 風間伸次郎 (2010) 「ソロン語におけるモンゴル語の影響 —言語接触の一事例として—」. 寺村政男・福盛貴弘(編)『言語の研究Ⅱ —ユーラシア言語からの視座—』 語学教育フォーラム 24: 163-183. 東京：大東文化大学語学教育研究所.
- 風間伸次郎・トヤー (2008) 『ソロンの民話と伝説 1』 ツングース言語文化論集 37. 札幌：北海道大学文学研究科

ナーナイ語のヴォイス・受身

風間 伸次郎

ナーナイ語に関して、本誌ではこれまでアスペクトとモダリティの特集の際に調査を行ってデータを集めることができたが、ヴォイスと受身の特集の例文に関してはまだ調査を行っていなかった。幸い、この言語を調査する際に必要な媒介言語のロシア語による特集によるアンケートの例文が本誌に掲載されたので、これによってこれまで調査の難しかった受身の例などを調査することができた。例文番号は両特集のアンケート番号のままである。受身の(3),(4)についてはロシア語の文が受身を引き出せるものとは思えなかったもので、調査自体を省略した。

ナーナイ語はツングース諸語の1つである。ツングース諸語は、類型的にみて日本語にもよく似たタイプの言語で、もっぱら接尾辞による膠着型言語である。語順はHead-final、つまりSOVで修飾語-被修飾語の順序をとる。基本的にIPAをベースにした音素表記によるが、一音素一文字の原則などの理由から、次のような独自の音素表記も用いている：č[tc], j[ɕ], ŋ[n]。ロシア語からの近年の借用語は斜字体で示している。

コンサルタントはKile, Lidiya Timofeevna氏(1938年, ナイヒン村生まれ, 女性)である。2012年11月の学祭期間中に招聘した際に調査を行った。調査は上述のようにロシア語を媒介言語にして行った。日本語文の下の[]内に使用したロシア語文を示す。

ここでは本稿の理解に必要なナーナイ語の動詞の形態論について概観しておく。動詞は、[[語幹](-派生接辞)-[屈折接辞1]-[屈折接辞2]]のような構造をとる。派生接辞は任意、屈折接辞は基本的に必須である。屈折接辞1はモダリティ・時制を示し、屈折接辞2は人称を示す。屈折接辞2は、屈折接辞1の種類によっては現れない場合もある。屈折接辞1は、次にくる語に対するきれつづきによって、定動詞、形動詞、副動詞(indicative, participle, converb)の3つに分かれている。ここでいう形動詞は、分詞的な形のこと、日本語でいえば連体形、特に準体法をそなえた古文の連体形に近い働きを持つ形式である。形動詞には述語用法もあり、実際には形動詞が文末の述語として使われる頻度はかなり高い。

(1a) 《風などで》ドアが開いた。 [Дверь открылась.]

uikə nixəli-ptə-xə-ni. / uikə nixəli-k-pi-ni.
 ドア 開ける-SPON-PTCP.PST-3SG ドア 開ける-SPON-PTCP.PST-3SG

-ptə の -p はエウエンキー語などで受身とされているものと同語源の要素であると考

えられる。残る *-tə* の部分は、かつては形動詞現在を示していたが、子音終わりの語幹につく不規則な形であったこともおそらくは作用して、形態素の切れ目がずれて、*-p* とともに一つの接辞を形成するようになった者と考えられる。機能的な観点から見ると、動作主は現れにくいので、受身と言うより自発的な出来事を示す語幹形成接辞となっている。

二つ目の文では、*-p* の形で現れているものの、下線部にメタセシスが起きて、*nixəli-p-ki-ni* > *nixəlikpini* となっている。この言語では軟口蓋音と唇音の連続はもっぱらこの順序をとり、形態素境界で逆の順序が生じそうになった場合にはメタセシスが起る。

(1b) (彼が) ドアを開けた。[Он открыл дверь.]

ñoani uikə-wə nixəli-xə-ni.
彼 ドア-ACC 開ける-PTCP.PST-3SG

(1c) 入口のドアが開けられた。

[Входную дверь открыли. Входная дверь открыта (кем-то).]

boa-či niə-uri uikə-wə nixəli-xə-či.
外-DIR 出る-PTCP.IMPERS ドア-ACC 開ける-PTCP.PST-3PL

boa-či niə-uri uikə-wə ui=nuu nixəli-xə-či.
外-DIR 出る-PTCP.IMPERS ドア-ACC 誰=INTERR 開ける-PTCP.PST-3PL

一つ目の文は、ロシア語に忠実に3人称複数主語を主語とした文に訳している。二つ目の文は、ロシア語の文ではドアを主語としているが、ナーナイ語の文はやはり3人称複数主語を主語とした文となっている。語順に関しては対格目的語を文頭に置き、主格主語を後ろに回していることが観察される。疑問代名詞に疑問や累加の付属語が付いて不定の代名詞を作る点は日本語などとも似ている。

[Дверь сломалась. Дверь сломали.]

uikə boja-xa-ni. uikə boja-li-xa-či.
ドア 壊れる-PTCP.PST-3SG ドア 壊れる-TRANS-PTCP.PST-3PL

このペアでは他動詞化接辞 *-li* による他動詞派生の自他対応となっているが、常にこのような形式での自他対応になっているわけではなく、語彙によって異なっている。

(2) 私は(自分の) 兄を立たせた。[Я заставил брата встать.]

mii aag-bi ili-waaj-kim-bi.
私 兄-REF.SG 立つ-CAUS-PTCP.PST-1SG

(3) 私は（自分の）兄に歌を歌わせた。[Я заставил брата спеть песню.]

mii aag-bi ʃari-waəŋ-kim-bi.
私 兄-REF.SG 歌う-CAUS-PTCP.PST-1SG

(4a) 《遊びたがっている子供に無理やり》母は子供にパンを買いに行かせた。

[Мама заставила ребёнка пойти купить хлеб.]
əniə { nuuʃipiktə-wə / piktə-ji } əpəəm-bə ga-ninda-waəŋ-ki-ni.
母親 小さい 子-ACC 子-REF.SG パン-ACC 買う-DIRINT-CAUS-PTCP.PST-3SG

(4b) 《遊びに出たがっているのを見て》母は子供を遊びに行かせた。

[Мама позволила (разрешила) ребёнку пойти поиграть.]
əniə piktə-ji boa-či xupi-ndə-mi
母親 子-REF.SG 外-DIR 遊ぶ-DIRINT-SIM

{ ənə-i-wə-ni / ənə-gu-ə-ni } ʃixala-xa-ni.
行く-PTCP.PRS-ACC-3SG 行く-PURP-E-3SG 同意する-PTCP.PST-3SG

許容使役では -waan (caus) を用いずに、分析的な表現によって示していることがわかる。しかしこれはロシア語の表現に引きずられたのかもしれない。-waan (caus) を用いても許容使役の意味が実現可能かどうかについて確認すべきであった。

なおこの他に3人称命令形 -gi という形式があり、xupi-ndə-gi-ni. (遊ぶ-DIRINT-IMP.3-3SG) という文も可能であることを確認した。意味は пусть идет играть. であるという。

(5a) 私は弟に服を着せた。[Я одел брата. Я одел на брата одежду.]

mii nəu-ji tətuaə-gu-wəəŋ-kim-bi.
私 弟妹-REF.SG 服を着せる-REPET-CAUS-PTCP.PST-1SG

mii nəu-ji tətua-wə-n i tətū-gu-wəəŋ-kim-bi.
私 弟妹-REF.SG 服-ACC-3SG 着る-REPET-CAUS-PTCP.PST-1SG

(5b) 私は弟にこの服を着させた。[Я одел брата в эту одежду.]

mii nəu-ji əi tətua-wə-ni tətū-wəəŋ-kim-bi.
私 弟妹-REF.SG これ 服-ACC-3SG 着る-REPET-CAUS-PTCP.PST-1SG

直接の行為と間接の行為で、現れる使役の形式および構文は変わらないことがわかる。

(6) 私は兄にこの本をあげた。 [Я подарил брату эту книгу.]

mii aag-do-ji əi { daŋsa-wa / daŋsa-go-a-ni } sugləŋ-kim-bi.
私 兄-DAT-REF.SG これ 本-ACC 本-DESIG-OBL-3SG 贈る-PTCP.PST-1SG

(7a) 私は弟に本を読んであげた。 [Я прочёл брату книгу.]

mii nəu-du-ji daŋsa-wa xola-xam-bi.
私 弟-DAT-REF.SG 本-ACC 読む-PTCP.PST-1SG

この言語ではやりもらいの動詞を補助動詞として用いることがない。

(7b) 兄は私に本を読んでくれた。 [Брат прочитал мне книгу.]

agaa mindu daŋsa-wa xola-xa-ni.
兄 私.DAT 本-ACC 読む-PTCP.PST-3SG

(7c) 私は母に髪の毛を切ってもらった。 [Мама подстригла мне волосы.]

əniə mii nuktə-ji-jə { čaali-xa-ni / posi-xa-ni }.
母 私 髪-1SG-OBL 切る-PTCP.PST-3SG 刈る-PTCP.PST-3SG

(8a) 私は（自分の）体を洗った。 [Я помылся.]

mii { məəpi / bəjə-ji } silko-xam-bi.
私 自分.ACC 体-REF.SG 洗う-PTCP.PST-1SG

(8b) 私は手を洗った。 [Я вымыл (помыл) руки.]

mii ŋaala-ji silko-xam-bi.
私 手-REF.SG 洗う-PTCP.PST-1SG

再帰的表現に関しては、再帰人称接辞が発達しているためか、動詞の方には何ら目立った特徴が観察されない。

(8c) 彼は（／その人は）手を洗った。 [Он вымыл (помыл) руки.]

ŋoani ŋaala-ji silko-xa-ni.
彼 手-REF.SG 洗う-PTCP.PST-3SG

(9) 私は（自分のために）その本を買った。

[Я купил эту книгу. Я купил себе эту книгу.]

mii əi daŋsa-wa ga-čim-bi.
私 これ 本-ACC 買う-PTCP.PST-1SG

mii əi daŋsa-wa məən-du-ji ga-čim-bi.
私 これ 本-ACC 自分-DAT-REF.SG 買う-PTCP.PST-1SG

(10) 彼らは（／その人たちは）（互いに）殴り合っていた。 [Они подрались.]

ňoači sori-xa-či.
彼ら ケンカする-PSTP.PST-3PL

ňoači sori-maači-xa-či.
彼ら ケンカする-RECIP-PSTP.PST-3PL

相互の動詞語幹拡張接辞を用いた二つ目の文は、より柔らかい感じがするという。口喧嘩をしている（поспорили）ように感じるという。

(11) その人たちは《みな一緒に》町へ出発した。 [Они все вместе поехали в город.]

ňoači xəmtu-ji-əri xoton-či ənə-xə-či.
彼ら 皆-INS-REF.PL 町-DIR 行く-PTCP.PST-3PL

動詞の側に衆動態のようなものは観察されない。

(12) その映画は泣ける（その映画を見ると泣いてしまう）。

[От этого фильма хочется плакать.]
əi kino-wa ičəjə-mi, soŋo-mo.
これ 映画-ACC 見る-SIM 泣く-OPT

(13a) 私は卵を割った。 [Я разбил (расколол) яйцо.]

mii omokta-wa { boja-li-xam-bi / təkəli-xəm-bi }.
私 卵-ACC 壊れる-TRANS-PTCP.PST-1SG 割る-PTCP.PST-1SG

(13b) 《うっかり落として》私はコップを割った（／割ってしまった）。

[Я разбил чашку.]
mii kotaam-ba boja-li-xam-bi.
私 容器-ACC 壊れる-TRANS-PTCP.PST-1SG

この言語では、意図的な行為であるとそうでないに関わらず、他動詞によって同じよ

うに表現することが確認できる。

- (14a) きのうち私はコーヒーを飲みすぎて（飲みすぎたので）眠れなかった。

[Вчера я выпил много кофе и не мог уснуть.]

čisəniə mii əgʲi kofe-wa omi-xam-bi, tuita-mi
 昨日 私 たくさん コーヒー-ACC 飲む-PTCP.PST-1SG そうする-SIM

oŋasa-mi { mutə-əči-ji / əčiə mutə-ə-i}.
 眠る-SIM できる-NEG.PST-1SG NEG.PST できる-INF-1SG

- (14b) きのうち私は仕事がたくさんあって（たくさんあったので）眠れなかった。

[Вчера было много работы, и я не мог уснуть.]

čisəniə əgʲi ʎobon bi-či-ni, mii
 昨日 たくさん 仕事 ある-ptcp.pst-3sg 私

{ oŋasa-mi əčiə mutə-ə-i / goida-mi əčiə oŋasa-a-i }.
 眠る-SIM NEG.PST できる-INF-1SG 長引く-SIM NEG.PST 眠る-INF-1SG

- (15) 私は頭が痛い。 [У меня болит голова.]

mii ʎili-ji ənusi-i-ni.
 私 頭-1SG 痛む-PTCP.PRS-3SG

- (16) あの女性は髪が長い。 [У нее длинные волосы.]

ŋoan-do-a-ni ŋonimi nuktə.
 彼(女) -DAT-OBL-3SG 長い 髪

- (17a) 彼は（別の）彼の肩を叩いた。 [Он ударил его по плечу.]

ŋoani ŋoam-ba-ni muirə-lə-ni pačila-xa-ni.
 彼 彼-ACC-3SG 肩-LOC-3SG 叩く-PTCP.PST-3SG

- (17b) 彼は（別の）彼の手をつかんだ。 [Он схватил его за руку.]

ŋoani ŋoam-ba-ni ŋaala-do-a-ni ʎapa-xa-ni.
 彼 彼-ACC-3SG 手-DAT-OBL-3SG 掴む-PTCP.PST-3SG

(17a) のように接触とでもいうべき行為には部分格的な格として場所格が用いられるが、
 ʎapa-「掴む」のようにその状態がその後持続するような行為では与格が用いられる。

(18a) 私は彼がやって来るのを見た。 [Я видел, как он пришёл (приехал).]

mii ičə-xəm-bi, ŋoani xooni=daa j̄ju-xəm-bə-ni.
私 見る-PTCP.PST-1SG 彼 どう=CUM 戻る-PTCP.PST-ACC-3SG

mii ŋoani j̄ju-i-wə-ni ičə-xəm-bi.
私 彼 戻る-PTCP.PRS-ACC-3SG 見る-PTCP.PST-1SG

一つ目の文はロシア語の表現を忠実になぞっている。二つ目の文は筆者が提示したところ、問題がないとのことであった。

(18b) 私は彼が今日来ることを知っている。 [Я знаю, что он придет сегодня.]

mii saa-ram-bi, ŋoani əiniə j̄ju-i-wə-ni.
私 知る-IND.PRS-1SG 彼 今日 戻る-PTCP.PRS-ACC-3SG

(19) 彼は自分（のほう）が勝つと思った。 [Он думал, что победит.]

ŋoani murči-xə-ni, { xə-tə-ǰəm-bi=ə=m=də
彼 思う-PTCP.PST-3SG 勝つ-PTCP.FUT-1SG=EMP=QUOT=CUM

/ dabji-ǰaam-bi=a=m=da }.

勝つ-PTCP.FUT-1SG=EMP=QUOT=CUM

murči-「思う、考える」のような思考を表わす動詞では、上記のような知覚動詞とは異なり、引用として表現されることが確認できる。

(20a) 私は（コップの）水（の一部）を飲んだ。 [Я выпил воды.]

mii muə-wə omi-xam-bi.
私 水-ACC 飲む-PTCP.PST-1SG

(20b) 私は（コップの）水を全部飲んだ。 [Я выпил всю воду. / стакан воды.]

mii stakan muə-wə-ni xə-m omi-xam-bi.
私 コップ 水-ACC-3SG 全部 飲む-PTCP.PST-1SG

このような表現では特に全体と部分の違いを表現し分けていない。ただし (20a) のロシア語の生格形をどこまで意識して翻訳したのかは定かではない。

(21) あの人は肉を食べない。 [Он не ест мяса. (Он не ест мясо.)]

ñoani uliksə-wə sia-rasi.
彼 肉-ACC 食べる-NEG.PRS

(22a) 今日は寒い。 [Сегодня холодно.]

əiniə nonji.
今日 寒い

(22b) 私は (何だか) 寒い (私には寒く感じる)。 [Мне что-то холодно.]

mindu nonji.
私.DAT 寒い

このような文には斜格 (与格) で感情主体が表現されうることが確認できる。

(23) 私は人がとても多いのに驚いた。 [Я удивился тому, что было много людей.]

mii olo-xam-bi, nai əgji-ji-ə-ni.
私 驚く-PTCP.PST-1SG 人 多い-INS-OBL-3SG

(24) 雨が降ってきた。 [Пошёл дождь.]

tugdə tugdə-lu-xə-ni.
雨 降る-INC-PTCP.PST-3SG

(25) この本は良く売れる。 [Эта книга хорошо продаётся.]

əi daŋsa uləən { xodasi-i-či / ga-dii-či }.
これ 本 良い 売る-PTCP.PRS-3PL 買う-PTCP.PRS-3PL

このようないわゆる中間構文においても特別な動詞形は観察されない。

[受動]

(1) A は B に叩かれた。

[Моего сына избил учитель. Мой сын был избит учителем.]

mii piktə-ji-jə aloosimji toikaarj-ki-ni.
私 子-1SG-OBL 先生 叩く-PTCP.PST-3SG

mii piktə-ji aloosimji-ji toikaam-ba baa-xa-ni.
私 子-1SG 先生-ABL 叩くこと-ACC 受ける-PTCP.PST-3SG

一つ目の文は目的語を文頭に移動させているだけで、ロシア語の文と同様、能動態である。これに対し二つ目の文は *baa*-「見つける, 得る」を用いて被動者を主語にして表現している点が注目に値する。朝鮮語の *daŋhada* による表現を想起させる。

(2) A は B に足を踏まれた。[Мне наступил на ногу незнакомый мужчина.]

taako-wasi nai mii bəgʲi-ji-jə taktoola-xa-ni.
顔見知りだ-PTCP.NEG.IMPERS 人 私 足-1SG-OBL 踏む-PTCP.PST-3SG

(5) 新しいビルが (A によって) 建てられた。

[Новое здание построено. Новое здание построено японским архитектором.]

sikun zdanie aŋgo-oxan.
新しい 建物 作る-PTCP.IMPERS.PST

sikun zdanie-wə sisan arxitektor-ni aŋgo-xa-ni.
新しい 建物-ACC 日本 建築家-3SG 作る-PTCP.PST-3SG

一つ目の文では非人称形動詞を用いている点が注目される。

(6) カナダではフランス語がはなされている。[В Канаде говорят по-французски.]

kanada-do frantsuzkaj xəsə-ʒi-ə-ni xisaŋgo-i-či.
カナダ-DAT フランスの 言葉-INS-OBL-3SG 話す-PTCP.PRS-3PL

(7) 財布が (A に) 盗まれた。

[Кошелек украден. Кошелек украден Никитой. У меня кошелек украл ребенок.]

partama čoola-k-pin.
財布 盗む-SPON-PTCP.PST

partama-wa nikita čoola-xa-ni.
財布-acc ニキータ 盗む-PTCP.PST-3SG

mii partama-ji-wa nuuči piktə čoola-xa-ni.
私 財布-refsg 小さい 子供 盗む-PTCP.PST-3SG

動作主が現れない場合には、自発態の *-p* を用いることができる。

(8) 壁に絵が掛けられている。[Картина повешена на стену.]

kartina-wa paʒiran-do loo-woxan.
絵-ACC 壁-DAT 掛ける-PTCP.IMPERS.PST

この場合には、非人称形動詞が用いられている。

(9) A は B に／から愛されている。 [Она любима всеми.]

ñoam-ba-ni xəmtu nai uləəsi-i.

彼-ACC-3SG 皆 人 愛する-PTCP.PRS

略号・記号

1, 2, 3: 1st person, 2nd person, 3rd person

ABL: ablative 奪格

ACC: accusative 対格

CAUS: causative 使役

CONV: converb 副動詞

DAT: dative 与格

DESIG: designative case 指定格

DIR: directive 方向格

DIRINT: directional intentional

移動の目的

EMP: emphasis 強調

FUT: future 未来

IMP: imperative 命令法

IMPERS: impersonal 非人称

INC: inchoative aspect 始動相

IND: indicative mood 直説法

INF: infinitive 不定形

INS: instrumental case 道具格

INTERR: INTERROGATIVE 疑問

LOC: locative 処格

NEG: negative 否定

OBL: oblique 斜格標示

OPT: optative mood 希求法

PL: plural 複数

PROP: proprietive 恒常的所有

PRS: present 現在

PST: past 過去

PTCP: participle 形動詞

PURP: purposive converb 目的副動詞

QUOT: quotation 引用

REF: reflexive 再帰

REPET: repetitive-reversive aspect

再度・反動アスペクト

RECIP: reciprocal 相互

SG: singular 単数

SIM: simultaneous converb 同時副動詞

SPON: spontaneous 自発

trans: transitive 他動詞化

アラビア語

松尾 愛

1. 受動表現

現代標準アラビア語(以下, MSA)では, 受動態は動詞を内部屈折(例 *kasala: break* → *kuṣila: kusila*) させることで表す. Cantarino (1974) によれば, 動作主が不明もしくは神に対しての尊敬心から述べられるべきではないとされる場合に限り受動態は使用されるという. Holes (1995) によれば, 受動構文でも前置詞句 (*min qibal: from the side of ... / min taraf: from the party of ... / 'ala yadi: by ...'s hand* など) を以って動作主を紹介することがあるとしている.

受動表現のなかで, 現在の状態を表現する際には受動分詞が用いられる.

以下の例文は, 東京外国語大学特任外国人教員イハブ・アフマド・エベード氏のチェックを受けている. 1つの日本語の文に対し, 複数の例文を示したものもあるが, いずれもイハブ氏から許容度が高いとされたものを示してある.

なお, 本稿における例文などはすべて稿末に掲げる規則に従った転写法により表記する.

(1)~(12)の例文のうち, 受動態を用いて表現するのは, (5)(6)(7) (動作主が明示されない場合)のみである. 受動分詞を用いて表現するのは(8)で, その他はすべて動作主を主語にした能動態で表す.

(1) A は B に叩かれた.

<i>daraba</i>	<i>'alī-yun</i>	<i>muḥammad-an</i>
殴る: PFV.3.M.SG	アリー-NOM	ムハンマド-ACC

「アリーがムハンマドを叩いた.

(2) A は B に足を踏まれた.

<i>dāsa</i>	<i>'alī-yun</i>	<i>'ala</i>	<i>qadam-a</i>	<i>muḥammad-in</i>
踏みつける: PFV.3.M.SG	アリー-NOM	~の上を	足-ACC	ムハンマド-GEN

「アリーがムハンマドの足を踏んだ.」

(3) A は B に財布を盗まれた.

<i>saraqā</i>	<i>'alī-yun</i>	<i>maḥfazat-a</i>	<i>muḥammad-in</i>
盗む: PFV.3.M.SG	アリー-NOM	サイフ-ACC	ムハンマド-GEN

「アリーがムハンマドの財布を盗んだ.」

(4) 昨日の夜, 私は赤ん坊に泣かれた. それでちっとも眠れなかった. [迷惑の受身]

MSA には、日本語の「泣かれた」のような受動構文は見当たらない。

mā nimutu 'abad-an li-'anna t-ṭifl-a
 NEG 眠る: PFV.1.SG (対格で) 決して (理由) -that (接続詞) DEF-赤ん坊-ACC
 kāna yabkī tawāla l-layl-i 'amsi
 COP: PFV.3.M.SG 泣く: IPFV.3.M.SG 間 DEF-夜 昨日

「赤ん坊が昨日の夜一晩中ないたので (困って) 私はちっとも眠らなかつた。」

(1)(2)(3)(4)はいずれも動作主が明らかなので、受動態は用いず、能動態で表す。

(5) 新しいビルが (A によって) 建てられた。

(5a) buniya mabnā jadīd-un
 建てる: PASS.PFV.3.M.SG 建物.NOM 新しい-NOM
 「新しい建物が建てられた。」

(5b) banā muḥammad-un mabnā jadīd-an
 建てる: PFV.3.M.SG ムハンマド-NOM 建物.ACC 新しい-ACC
 「ムハンマドが新しい建物を建てた。」

(5) (5a)は動作主が不明の場合の文で、受動態で表す。(5b)は動作主が明らかなので能動態で表す。

(6) カナダではフランス語がはなされている。

(6a) tustaxdamu l-luḡat-u l-faransīyat-u fī kānadā
 使う: PASS.IPFV.3.F.SG DEF-言語-NOM DEF-フランスの-NOM ~で カナダ
 「フランス語がカナダで使われている。」

(6b) yatakallamu kānadī-yūn l-luḡat-a l-faransīyat-a
 話す: IPFV.3.M.SG カナダ人-PL.NOM DEF-言語-ACC DEF-フランスの-ACC
 「カナダ人はフランス語を話す。」

(6) (6a)は動作主の特にないので受動態で表す。(6b)は不定・複数のカナダ人を主語に能動態で表した文である。

(7) 財布が (A に) 盗まれた。

動作主が不明の場合、受動態が用いられる。

suriqat l-mahfazat-u
 盗む: PASS.PFV.3.F.SG DEF-サイフ-NOM
 「財布が盗まれた。」

(7) 動作主が不明なので受動態を用いる。動作主が明らか場合は例文(3)のように能動態を用いて表す。

(8) 壁に絵が掛けられている。

(8a) a-ṣṣūrat-u mu‘allaqat-un ‘ala l-jidār-i
DEF-絵-NOM 掛ける.PPT-NOM ~の上に DEF-壁-GEN
「絵が壁に掛けられている。」

(8b) tu‘llaqu ṣ-ṣūrat-u ‘ala l-jidār-i
掛ける:PASS.IPFV.3.F.SG DEF-絵-NOM ~の上に DEF-壁-GEN
「絵は壁に掛けられるものだ／まさに今絵が壁にかけられている。」

(8) 「壁に絵が掛けられている」状態は(8b)のような動詞の未完了形では表せない。(8a)のように状態を表す受動分詞を用いる。(8b)は「絵とは～なものだ」という一般的な事柄の説明する文、もしくは「今まさに～している」という意味を表す受動構文である。

(9) AはBに／から愛されている。

(9a) tuḥibbu fāṭimat-u muḥammad-an
愛する:IPFV.3.F.SG ファーティマ-NOM ムハンマド-ACC
「ファーティマはムハンマドを愛している。」

動作主が明らかことから受動態は用いない。「BがAを愛している」という能動態で表す。なお、以下のような受動分詞を用いた作文は可能である。

(9b) muḥammad-un maḥbūb-un mina n-nās-i
ムハンマド-NOM 愛する.PPT ~から DEF-人々-GEN
「ムハンマドは人々から愛されている。」

??(9c) muḥammad-un maḥbūb-un min fāṭimat-i
ムハンマド-NOM 愛する.PPT ~から ファーティマ
「ムハンマドはファーティマから愛されている。」

イハーブ氏によると、min以下の部分が(9b)のように、集団や組織であれば受動分詞を用いた文でも表すことができるが、min以下の部分が(9c)のように特定の人名になると容認度が低いという。

また、いわゆる「ゾウは鼻が長い構文」とよばれる二重構文を用いて、(9d)のように表すこともできる。

(9d) muḥammad-un, tuḥibbu-hu fāṭimat-u
ムハンマド-NOM 愛する:IPFV.3.F.SG-彼を ファーティマ-NOM
「ムハンマドはファーティマが愛している。」

(10) AはBに／から「…」と言われた。

qāla ‘alī-yun li-muḥammad-in ‘inna ...
言う:PFV.3.M.SG アリー-NOM ~に-ムハンマド-GEN that ...

「アリーが...とムハンマドに言った。」

(10) 動作主が明らかなので、受動態は用いない。

(11) AさんはBさんに呼ばれて、今Bさんの部屋に行っています。

(12) BさんがAさんを読んで、Aさんは今Bさんの部屋に行っています。

(11)(12)は、動作主が明らかのため、いずれも能動態で表す。MSAでは(11)と(12)は同じ表現になる。

da'ā	'alī-yun	muḥammad-an	'ila	gurfat-i-hi
呼ぶ: PFV.3.M.SG	アリー-NOM	ムハンマド-ACC	～に	部屋-GEN-彼.GEN

wa-huwa	al-ān-a	hunāka	
そして (付帯状況) 彼.NOM	(対格で) 今	そこに	

「アリーが自分の部屋にムハンマドを読んで、(ムハンマドは) 今そこにいます。」

2. アスペクト

(1) ～さん (固有名詞) は/あの方は もう来た。

qad	'atā(/jā'a)	muḥammad-un
もう	来る: PFV.3.M.SG	ムハンマド-NOM

「ムハンマドはもう来た。」

(1) (1)はqadという小辞を動詞の前に用いることで「既に動作が完了している」ことを強調している。'atāの代わりに、jā'a来る: PFV.3.M.SGでもよい(jā'aは古典アラビア語ではbi-(～を携えて)と共に用いられていたがMSAでは'atāとjā'aには差異がないとされる)。

(2) ～さん (固有名詞) は/あの方は もう来ている。

(2a) qad	'atā(/jā'a)	muḥammad-un
もう	来る: PFV.3.M.SG	ムハンマド-NOM

「ムハンマドはもう来た。」

(2b) muḥammad-un	hunā
ムハンマド-NOM	ここに

「ムハンマドは(もう来て) ここにいる。」

(2c) muḥammad-un	mawjūd-un	hunā
ムハンマド-NOM	いる.PPT-NOM	ここに

「ムハンマドは(もう来て) ここにいる。」

(2) (2a)と(1)の文はMSAでは区別がない。(2b)や(2c)のように名詞文で「今～にいる状態である」として表現することもできる。

(3) ~さん (固有名詞) は/あの方は まだ来ていない.

(3a) lam ya'ti muḥammad-un ba'du
NEG 来る:JUSS.3.M.SG ムハンマド-NOM まだ
「ムハンマドはまだ来ていない。」

(3b) mā 'atā muḥammad-un ba'du
NEG 来る:PFV.3.M.SG ムハンマド-NOM まだ
「ムハンマドはまだ来ていない。」

(3) (3a)は否定辞の lam+動詞の短形に「まだ」という語を用いた文である。(3b)は否定辞の mā+動詞の完了形に「まだ」という語を用いた文である。どちらも同じ意味を表している。古典アラビア語では(3a)と(3b)の間には違いがあるとされていた(Sāmīrā'ī 2000: 193)が、MSA ではその違いは消失している。ba'du 「まだ」という副詞を伴うことで、過去のある時点から今もまだ動作は行われていないことを表す。副詞を伴わないと、(8)のように「過去の否定」になる。

(4) ~さん (固有名詞) は/あの方は まだ来ない.

(4)の表現は(3a)(3b)と全く同じ表現を用いる。

(5) ~さん (固有名詞) は/あの方は もう (すぐ) 来る.

(5a) sa-ya'ti muḥammad-un ḥāl-an
FUT-来る:IPFV.3.M.SG ムハンマド-NOM (対格で) もうすぐ

(5b) sawfa ya'ti muḥammad-un ḥāl-an
FUT 来る:IPFV.3.M.SG ムハンマド-NOM (対格で) もうすぐ

(5) (5a)は未来を表す接頭辞 sa-を未完了形の動詞に付加して、「もうすぐ」という意味の副詞句を用いた文である。(5b)は未来を表す小辞 sawfa を用いた文である。

(6) (あつ,) ~さんが来た. [その人が来るのに気づいた場面での発話]

(6a) yā, ḥaḍara muḥammad-un
ああ 現れる:PFV.3.M.SG ムハンマド-NOM

(6b) yā, jā'a muḥammad-un
ああ 来る:PFV.3.M.SG ムハンマド-NOM

(6) (6a)は「現れる」という動詞の完了形を用いて表した文である。(6b)は「来る」という動詞の完了形を用いて表した例である。いずれもちょうど「来た」ことを表している。

(7) おととい, ~さんが来たよ.

'atā muḥammad-un qabla yawm-ayini
来る:PFV.3.M.SG ムハンマド-NOM 前に 日-DU.GEN

「おととい、ムハンマドが来た。」

完了形を用いて表す。

(8) おととい、～さんは来なかったよ。

(8a) lam ya'ti muḥammad-un qabla yawm-ayini
NEG 来る: JUSS.3.M.SG ムハンマド-NOM 前に 日-DU.GEN

「おととい、ムハンマドは来なかった。」

(8b) mā 'atā muḥammad-un qabla yawm-ayini
NEG 来る: PFV.3.M.SG ムハンマド-NOM 前に 日-DU.GEN

「おととい、ムハンマドは来なかった。」

(8) (8a)(8b)の文は(3a)(3b)と副詞句・前置詞句の部分は異なるが否定辞+動詞の短形/完了形の部分は同じである。過去の否定を表している。

(9) (私は) あのリンゴをもう食べた。

qad 'akaltu tilka l-tuffāḥat-a
もう 食べる: PFV.1.SG あの DEF-リンゴ-ACC

「私はあのリンゴをもう食べた。」

(9) (2)と同じ構造 qad+動詞の完了形である。

(10) 私はあのリンゴをまだ 食べていない/食べない。

(10a) lam ākul tilka l-tuffāḥat-a ba'du
NEG 食べる: IPFV.1.SG あの DEF-リンゴ-ACC まだ

「私はあのリンゴをまだ 食べていない。」

(10a) mā 'akaltu tilka l-tuffāḥat-a ba'du
NEG 食べる: PFV.1.SG あの DEF-リンゴ-ACC まだ

「私はあのリンゴをまだ 食べていない。」

(10) (3a)(3b)と同様の文である。ba'du「まだ」という語を文末に付加して表す。

(11) あの人は今 (ちょうど) そのリンゴを食べています/食べているところです。

(11a) ya'kulu dālika ṣ-ṣaxṣ-u l-tuffāḥah l-ān-a
食べる: IPFV.3.M.SG あの DEF-人-NOM DEF-リンゴ.ACC (対格で) 今

「あの人は今 (ちょうど) そのリンゴを食べています/食べているところです。」

??(11b) dālika ṣ-ṣaxṣ-u ākil-un al-tuffāḥat-a l-ān-a
あの DEF-人-NOM 食べる.APT-NOM DEF-リンゴ-ACC (対格で) 今

「あの人は今 (ちょうど) そのリンゴを食べています/食べているところです。」

(11) (11a)は動詞の未完了形に「今」という副詞句を併せて用いている。(11b)は「今～している」という状態を表すために、能動分詞 *ākil-un* を用いた文だが、イハーブ氏によると、発話したことがないという。容認度が低いと考えられる。なお、以下に示す(11c)は「眠っている」という状態を表す能動分詞 *nā'im-un* を用いた文で、これは問題なく使えるという。従って、「今～している」という意味を能動分詞を用いて表すことが可能であるかは個々の動詞によると言える。

(11c) *huwa nā'im-un al-ān-a*
 彼.NOM 眠る.APT-NOM (対格で) 今
 「彼は今眠っている。」

(12) 窓が開いている。／窓が開いていた。

(12a) *a-ššubbāk-u maftūḥ-un*
 DEF-窓-NOM 開く.PPT-NOM
 「窓が開いている。」

(12b) *kāna š-šubbāk-u maftūḥ-an*
 COP: PFV.3.M.SG DEF-窓-NOM 開く.PPT-ACC
 「窓が開いていた。」

(12) (12a)は能動分詞を用いた名詞文で、現在の状態を表している例である。(12b)は英語の *be* 動詞にあたるような動詞 *kāna* の完了形を用い、補語にあたる受動分詞は対格になっている。いずれも「状態」を表すために受動分詞を用いた文である。

(13) 私は毎朝新聞を読む／読んでいます。

(13a) *'aqrā'u jarīdat-an kull-a ṣ-ṣabāḥ-i*
 読む: IPFV.1.SG 新聞-ACC 毎-ACC DEF-朝-GEN
 「私は毎朝新聞を読む／読んでいます。」

(13) (13a)は未完了形を「毎朝」という副詞句とともに用いている。過去の習慣を表す場合には *kāna*(COP)+未完了形を用いるが、現在の習慣には特別なアスペクト形式は存在しない。

(14) あなたは(あなたの)お母さんに似ている。

(14a) *tušbiḥu 'umm-a-ka*
 似ている: IPFV.2.M.SG 母-ACC-あなたの
 「貴男は貴男のお母さんに似ている。」

* (14b) *'anta mušbiḥ-un*
 貴男.nom 似ている.APT

(14c) 'anta mutazawwij-un
 あなたは 結婚する.APT-NOM
 「あなたは結婚している。」

?? (14d-1) ('anta) tatazawwaju
 (あなたは) 結婚する: IPFV.2.M.SG
 「あなたは結婚している。」

(14d-2) al-bint-u tatazawwaju
 DEF-女の子-NOM 結婚する: IPFV.3.F.SG
 「女の子は結婚するものです。」

(14e) huwa nā'im-un
 彼は 眠る.APT-NOM
 「彼は眠っている。」

(14f) yanāmu hunā
 眠る: IPFV.3.M.SG ここに
 「彼はここで眠る。」

(14) 動詞によって、未完了形を用いて「状態」をあらわすものと、能動分詞を用いて「状態」を表すものがある。「似ている」という場合は、(14a)のように動詞の未完了形で表す。(14a)で用いた動詞'ašbaha「似ている」の能動分詞形では「状態」を表すことはできず、(14b)は非文である。「結婚している」という場合、(14c)のように能動分詞を用いて「結婚している」状態を表す。(14d)のように動詞の未完了形を用いて「結婚しているという現在の状態」を表すというよりは、「一般論」として「結婚するものだ」という意味を表す。(14e)も自動詞の例で、(14c)と同様に能動分詞を用いている。(14f)は、動詞の未完了形を用いて「習慣」を表す文となっている。

(15) 私はその頃毎日学校へ通っていた。

(15a) kuntu 'aḏhabu 'ila l-madrasat-a kull-a yawm-in fi
 COP: PFV.1.SG 行く: IPFV.1.SG ～に DEF-学校-ACC 毎-ACC 日-GEN ～に
 ḏāika l-waqt-i
 あの DEF-時-GEN
 「私はその頃毎日学校へ通っていた。」

(15b) qad kuntu 'aḏhabu 'ila l-madrasat-a kull-ayawm-in fi
 もう COP: PFV.1.SG 行く: IPFV.1.SG ～に DEF-学校-ACC 毎-ACC 日-GEN ～に
 ḏāika l-waqt-i
 あの DEF-時-GEN
 「私はその頃毎日学校へ通っていた。」

(15) (15a)は英語の *be* 動詞にあたる *kāna*+未完了形の動詞を用いて過去の習慣を表している。(15b)は *qad* という小辞を動詞に先行させて、「過去のある時点でその動作は既に行われていた」ことを表している。イハープ氏によると、(15b)の場合は、現在はもう「行ってない」と感じられるという。

(16) 私は～に (大きな街の名前など) 行ったことがある。

(16a) *zirtu* *landan*
訪れる:PFV.1.SG ロンドン
「私はロンドンに行った (ことがある).」

(16b) *qad* *zirtu* *landan*
もう 訪れる:PFV.1.SG ロンドン
「私はロンドンに行った (ことがある).」

(16) (16a)は動詞の完了形を、(16b)は完了形の前に小辞の *qad* を付した例である。

(17) やっとバスは 走り出した／走り始めた。

(17a) *taharrakat* *l-ḥāfilat-u* 'axīr-an
動く:PFV.3.E.SG DEF-バス-NOM (対格で) やっと
「やっとバスは 動いた。」

(17b) *bada'at* *tataharrak-u* *l-ḥāfilat-i* 'axīr-an
始まる:PFV.3.E.SG 動く:IPFV.3.E.SG-NOM DEF-バス-GEN (対格で) やっと
「やっとバスは 動き始めた。」

(17c) *bada'at* *fi* *tataharrak-i* *l-ḥāfilat-i*
始まる:PFV.3.E.SG ～において 動くこと(VN)-GEN DEF-バス-GEN
'axīr-an
(対格で) やっと
「やっとバスは動き始めた。」

(17) (17a)は「動く」という動詞の完了形に副詞句「やっと」を伴った例である。(17b)は「始める」という動詞に未完了形の動詞を後続させて「～し始める」という意味を表している。(17c)は「始める」という動詞の後に前置詞 *fi*+動名詞を後続させて「～することを始める」という意味を表している。

(18) きのう彼女はずっと寝ていた。

kānat *nā'imat-an* *ṭawāla* *l-'amsi*
COP:PFV.3.E.SG 眠る.APT-ACC 間 DEF-昨日
「昨日彼女はずっと眠っていた。」

(18) (18)は *kāna*+能動分詞 (対格) で、過去の状態を表している。「昨日の間中」という前置詞句をともなって、「ずっと」の意味を加えている。

(19) 私はそれをちょっと食べてみた。

jarrabtu-hu *qalīl-an*
 味見する:PFV.1.SG-それを (対格で) 少し
 「私は少しそれを味見した。」

(19) アラビア語には「試行的アスペクト表現」は特に見られない。(19)は「味見する」という動詞の完了形を用い、「ちょっと」にあたる副詞句を用いた表現である。

(20) あの人(ら)はそれ(ら)をみんなに分け与えた。

qassama-hu *dālika* *š-šaṣṣ-u* *bayna* *n-nās-i*
 分ける:PFV.3.M.SG-それを あの DEF-人-NOM 間で DEF-人々-GEN
 「あの人(ら)はそれ(ら)をみんなに分け与えた。」

(21) さあ、(私たちは) 行くよ!

(21a) *li-naḡhab*

接辞 *li*-行く:JUSS.1.PL
 「さあ、(私たち一緒に) 行きましょう。」

(21b) *fa-l-naḡhab*

そして (接続詞) -接辞 *li*-行く:JUSS.1.PL
 「さあ、(私たち一緒に) 行きましょう。」

(21c) *hayyā* *naḡhab*

(間投詞) さあ 行く:JUSS.1.PL
 「さあ、(私たち一緒に) 行きましょう。」

(21) (21a)および(21b)は *li-/ fal* に動詞の短形を後置させる形で「一緒に～しよう」の意味になる。(21b)の *fa* はもともと、接続詞の *fa* 「そして」に *li*-が後置し、母音の脱落がおこったものである。(21c)は間投詞 *hayyā*+動詞の短形を用いた例である。

(22) 地球は太陽の周りを回っている。

tadūru *l-'arḡ-u* *ḡawla* *š-šams-i*
 回る:IPFV.3.F.SG DEF-地球-NOM ～の周りを DEF-太陽-GEN
 「地球は太陽の周りを回っている。」

(22) (22)はいわゆる「恒常的真理」を表す文。動詞の未完了形を用いて表す。

(23) あの木は今にも倒れそうだ。

(23a) takādu š-šajarat-u taqa‘u
 ～しそう: IPFV.3.F.SG DEF-木-NOM 倒れる: IPFV.3.F.SG
 「あの木は今にも倒れそうだ。」

(23b) takādu š-šajarat-u ’an taqa‘a
 ～しそう: IPFV.3.F.SG DEF-木-NOM that 倒れる: SBJV.3.F.SG
 「あの木は今にも倒れそうだ。」

(23c) aš-šajarat-u ‘ala wašuk-i ’an taqa‘a
 DEF-木-NOM on verge-gen that 倒れる: SBJV.3.F.SG
 「あの木は今にも倒れそうだ。」

(23d) a-š-šajarat-u ‘ala wašuk-i l-wuqū‘-i
 DEF-木-NOM on verge-GEN DEF-倒れること(VN)-GEN
 「あの木は今にも倒れそうだ。」

(23) (23a)(23b)は英語の be about to, be on the point に相当する動詞 kāda の未完了形を用いた例である。’anを用いた(23b)はMSAで特にみられるようになった例である。特に、非意図的な動作が起こりそうなときに用いる。(23c)(23d)は英語の at the point of, on the verge of に相当する前置詞句を用いた例である。

(24) (私は) あやうく転ぶところだった。

(24a) kidtu ’aqa‘u ‘ala l-’arq-i
 ～しそう: PFV.1.SG 転ぶ: IPFV.1.SG ～に DEF-地面-GEN
 「私はあやうく転ぶところだった。」

(24b) kidtu ’an ’aqa‘a ‘ala l-’arq-i
 ～しそう: PFV.1.SG that 転ぶ: SBJV.1.SG ～に DEF-地面-GEN
 「私はあやうく転ぶところだった。」

(24) (24a)(24b)の例は(23a)(23b)の例と同様の kāda を用いた例である。’an(that)はあつてもなくてもよい。

(25) 明日お客が来るので、パンを買っておく。

’āštārī xubz-an li-’anna-hu sa-yazūru-nī
 買う: IPFV.1.SG パン-ACC (理由) -that (接続詞) 非人称代名詞 FUT-IPFV.3.F.SG-私を
 dayf-un ġad-an
 客-NOM (対格で) 明日

「明日客が私を訪ねるので、私はパンを買う。」

(25) アラビア語には「～しておく」といった表現はない。「客が来る(未来)ので、買う(未

完了)」という形で表す。

- (26) (私は) ～に (街とか市場とか) 行った時, この袋を買った。

ištaraytu hāda l-kīs-a 'indamā ḡahabtu 'ila l-madīnah
 買う:PFV.1.SG この DEF-袋-ACC 時 (接続詞) 行く:PFV.1.SG ～に DEF-街
 「私は街に行った時, この袋を買った。」

- (26) 主節, 従節どちらも完了形を用いる。

- (27) (私は) ～に (街とか市場とか) 行く時/行く前に, この袋を買った。

(27a) ištaraytu hāda l-kīs-a qabla 'an 'aḡhaba
 買う:PFV.1.SG この DEF-袋-ACC 前に that (接続詞) 行く:SBJV.1.SG
 'ila l-madīnah
 ～に DEF-街
 「私は街に行く時/行く前に, この袋を買った。」

(27b) ištaraytu hāda l-kīs-a qabla l-ḡahāb-i 'ila
 買う:PFV.1.SG この DEF-袋-ACC 前に DEF-行くこと(VN)-GEN ～に
 l-madīnah
 DEF-街
 「私は街に行く時/行く前に, この袋を買った。」

- (27) (27a)は従属節は接続形, 主節は完了形を用いる。(27b)は「町に行く前」の部分前置詞句で表している。

- (28) (私は) 彼が市場でこの袋を買ったのを知っていた。

(28a) kuntu 'a'rifu 'anna-hu štarī hāda
 COP:PFV.1.SG 知る:IPFV.1.SG that-彼は 買う:PFV.3.M.SG この
 l-kīs-a mina l-sūq-i
 DEF-袋-ACC ～から DEF-市場-GEN
 「私は彼が市場でこの袋を買ったのを知っていた。」

(28b) kuntu 'a'rifu 'anna-hu kāna ḡad
 COP:PFV.1.SG 知る:IPFV.1.SG that-彼は COP:PFV.3.M.SG もう
 štarī hāda l-kīs-a mina l-sūq-i
 買う:PFV.3.M.SG この DEF-袋-ACC ～から DEF-市場-GEN
 「私は彼が市場でこの袋を買ってしまったのを知っていた。」

- (28) (28a)は主節ではkāna+未完了形で過去の状態を表している。従節は完了形を用いている。
 (28b)は主節は(28a)と同じだが, 従節がkāna+小辞「もう」+完了形の形で「すでに過去のある

- (3a) *lā budd-a* 'an *narja'a* li-'anna l-waqt-a
 NEG escape-acc that 帰る: SBJV.1.PL (理由) -that (接続詞) DEF-時間-ACC
muta'axxir-un
 遅い\ PPT-NOM

「遅くなったので私たちはもう帰らなければならない。」

- (3b) *yajibu* 'an *narja'a*
 ~しなければならない: IPFV.3.M.SG that 帰る: SBJV.1.PL
li-'anna l-waqt-a *muta'axxir-un*
 (理由) -that (接続詞) DEF-時間-ACC 遅い\ PPT-NOM

「遅くなったので私たちはもう帰らなければならない。」

(3) (3a)の「lā+対格」の形は本来「～が存在しない、ない」という意味で、直訳すると *lā budda* は「漏れなく」である。(3b)は常に3人称男性単数の未完了形で用いる *yajibu* 「～しなければならない」という動詞を用いた例である。いずれも *that* 以下に接続形の動詞を後続させる。

(4) (雨が降るそうだから) 傘を持って出かけたほうがいいよ。

- (4a) *yanbaġi* 'an *ta'xuḍa* ma'a-ka
 ~する必要がある that 持つ: SBJV.2.M.SG ~とともに-貴男
li-'anna-hā sa-tamṭiru

(理由) -that (接続詞) -それ. acc FUT-雨が降る: IPFV.3.F.SG

「雨が降るそうだから、傘を貴男は持っていった方がいい。」

- (4b) *min* al-'afḍal-i 'an *ta'xuḍa* ma'a-ka
 of DEF-好ましい-GEN that 持つ: SBJV.2.M.SG ~とともに-貴男
li-'anna-hā sa-tamṭiru

(理由) -that (接続詞) 非人称代名詞 FUT-雨が降る: IPFV.3.F.SG

「雨が降るそうだから、傘を貴男は持っていった方がいい。」

(4) (4a)は常に3人称男性単数の未完了形で用いる *yanbaġi* 「～する必要がある」という動詞を用いた表現である。(4a)の *hā* は *ṣ-šamā'-u* 「空・天気」という女性名詞のことを指す代名詞として非分離系人称代名詞の三人称女性単数にあたる *hā* が用いられている。(4b)は「*min*+DEF-形容詞-GEN+接続形」の構文を用いた例である。

(5) 歳を取ったら、子供の言うことを聞くべきだ／ものだ。

- (5a) *min* aḍ-ḍarūrī 'an *yasma'a* l-wālid-āni kalām-a
 of DEF-必要な-GEN that 聞く: SBJV.3.M.SG DEF-親-DU.NOM 言葉-ACC
bn-i-humā 'indamā yakburāni fi s-sinn-i
 子供-GEN-彼ら.DU.GEN 時 (接続詞) 老いる: IPFV.3.M.DU ~において DEF-年-GEN

「年を取ったら親は子供の言うことを聞く必要がある。」

- (5b) min ʔ-ʔabīʔ ʔan yasmaʔa l-wālid-āni kalām-a
of DEF-自然な-GEN that 聞く: SBJV.3.M.SG DEF-親-DU.NOM 言葉-ACC
bn-i-humā ʔindamā yakburāni fī s-sinn-i
子供-GEN-彼ら.DU.GEN 時 (接続詞) 老いる: IPFV.3.M.DU ~において DEF-年
「年を取ったら親は子供の言うことを当然聞くべきはずだ。」

(5) (5a)は「min+DEF-形容詞-GEN+接続形」の構文を用いた例である。(4a)(4b)で用いた動詞や構文でも言うことが可能である。(5b)は「当然～のはずだ」というニュアンスがでている。

(6) (お腹が空いたので、私は) 何か食べたい。

- (6a) ʔurīdu ʔan ākula šayʔ-an li-ʔan-nī
欲しい: IPFV.1.SG that 食べる: SBJV.1.SG もの-ACC (理由) -that (接続詞) -私.ACC
jawʔān-un
空腹の-NOM
「お腹が空いたので、私は何か食べたい。」

- (6b) ʔurīdu ʔakl-a šayʔ-in li-ʔan-nī
欲しい: IPFV.1.SG 食べること(VN)-ACC もの-GEN (理由) -that (接続詞) -私
jawʔān-un
空腹の-NOM
「お腹が空いたので、私は何か食べたい。」

(6) (6a)は動詞ʔarāda「欲しい」に接続形の動詞を that 節以下に後続させた例である。(6b)はʔarāda「欲しい」+前置詞 fī+動名詞で表している。(6b)の方がより文語的な表現である。

(7) 私が持ちましょう。

- daʔ-nī ʔaḥmalu la-ka hādā
させる: IMP.2.M-私-GEN 運ぶ: IPFV.1.SG ~のために-貴男.GEN これ.ACC
「私が貴男のためにこれを運びましょう。」

(7) 英語の「Let me do」の形に相当する表現である。wadaʔa という動詞は命令形の形でのみ用いる。

(8) じゃあ、一緒に昼ごはんを食べましょう。

- (8a) ʔiḍan fa-l-naʔkul l-ḡadāʔ-a
それでは そして (接続詞) -接辞 li-食べる: JUSS.1.PL DEF-昼食-ACC
(maʔa-an)
((対格で) 一緒に)

「じゃあ、一緒に昼ごはんを食べましょう。」

- (8b) 'iḍan hayyā na'kul l-ḡadā'-a (ma'a-an)
 それでは (間投詞) さあ 食べる:JUSS.1.PL DEF-昼食-ACC ((対格で)一緒に)

(8) (8a)は fal に動詞の短形を後置させる形で「一緒に～しよう」の意味になる。(8a)の fal はもともとは、接続詞の fa「そして」に li-が後置詞、母音の脱落がおこったものである。(8b)は間投詞 hayyā に動詞の短形を後続させる例である。いずれの文でも「一緒に」という副詞句はあってもなくてもよい。

(9)一緒に昼ごはんを食べませんか？

- (9a) hal na'kulu l-ḡadā'-a (ma'a-an)?
 Q 食べる:IPFV.1.PL DEF-昼食-ACC ((対格で)一緒に)
 「一緒に昼ごはんを食べましょうか。」

- (9b) mā ra'y-u-ka 'an na'kula l-ḡadā'-a (ma'a-an)?
 何 考え-NOM-貴男.GEN that 食べる:SBJV.1.PL DEF-昼食 ((対格で)一緒に)
 「一緒に昼ごはんを食べるのはどうですか。」

(9) (9a)は「食べる」という動詞を1人称複数未完了形を疑問文にした例である。(9c)は「that以下について貴男の考えはどうか？」という尋ね方である。(8)の例と比べて、最も強度度が低いのは(9b)である。いずれの例も「一緒に」という副詞句はあってもなくてもよい。

(10) 明日、良い天気になるといいなあ。／明日は良い天気になってほしいなあ。

- 'atamannā 'an yakūna l-jaww-u jamīl-an
 望む:IPFV.1.SG that COP:SBJV.3.M.SG DEF-天気-NOM 美しい-ACC
 ḡad-an
 (対格で) 明日

「明日、良い天気になるといいなあ。／明日は良い天気になってほしいなあ。」

(10) (10)は tamannā「望む」という動詞に that+接続形を後続させた例である。

(11) (私はここで待っているから) すぐにそれを持って来なさい。

- (11a) 'ahḍir-hu ḥāl-an
 持ってくる:IMP.2.M-それ.ACC (対格で) すぐに
 wa-sa-'antaziru-ka hunā
 (付帯状況) -FUT-待つ:IPFV.1.SG-貴男.ACC ここで
 「私がここで待っている間にそれをすぐに持って来い。」
- (11b) sa-'antaziru-ka hunā fa-'ahḍir-hu
 FUT-待つ:IPFV.1.SG-貴男.ACC ここで そして-持ってくる:IMP.2.M-それ.ACC

ḥāl-an

(対格で) すぐに

「私がここで待っているからそれをすぐに持って来い。」

(11) (11a)(11b)ともに「持って来い」の部分は命令形である。

(12) そのペンをちょっと貸していただけませんか？

(12a) hallā `a`alta-nī l-qalam-a?
why not 貸す:PFV.2.M.SG-私-GEN DEF-ペン-ACC
「そのペンをちょっと貸していただけませんか?。」

(12b) hal yumkinu-nī `an `asta`īra l-qalam-a?
Q できる:IPFV.3.M.SG-私-ACC that 借りる:SBJV.1.SG DEF-ペン-ACC
「私はあなたからそのペンを借りることはできますか?。」

(12c) hal min al-mumkin-i `an `asta`īra l-qalam-a?
Q of DEF-可能な-GEN that 借りる:SBJV.1.SG DEF-ペン-ACC
「私はあなたからそのペンを借りることはできますか?。」

(12) (12a)の hallā は hal+lā(疑問標識+否定辞+完了形)で否定疑問文の形で丁寧な依頼、懇願を表す。(12b)(12c)は(1a)(1b)で用いた文型を疑問文にした形で丁寧な依頼、懇願を表す。(12b)は動詞文、(12c)は「min+DEF-形容詞-GEN+接続形」の構文である。

(13) あの人は中国語が読めます。／あの人は中国語を読むことができます。

(13a) yastaḥ`u ḍālika š-šaxš-u `an yaqra`a š-šīnīyat-a
できる:IPFV.3.M.SG あの DEF-人-NOM that 読む:SBJV.3.M.SG DEF-中国語-ACC
「あの人は中国語を読むことができます。」

(13b) yastaḥ`u ḍālika š-šaxš-u qirā`at-a š-šīnīyat-i
できる:IPFV.3.M.SG あの DEF-人-NOM 読むこと(VN)-ACC DEF-中国語-GEN
「あの人は中国語を読むことができます。」

(13c) ḍālika š-šaxš-u qādir-un `ala qirā`at-i š-šīnīyat-i
あの DEF-人-NOM できる.APT-NOM 前置詞 読むこと(VN)-GEN DEF-中国語-GEN
「あの人は中国語を読むことができます。」

(13) (13a)は istaḥ`a「できる」という動詞に接続詞 that+動詞の接続形を後置させる例である。(13b)は(13a)は istaḥ`a「できる」という動詞+動名詞(対格)を伴う例である。(13c)は状態を表す能動分詞 qādir `ala を用いた例である。よりフォーマル度の高い(格調高い)とされるのは動名詞を用いた(13b)の例である。

(14) 明かりが暗くて、ここに何て書いてあるのか、読めない。

(14a) lā 'astaḥī'u 'an 'aqrā'a l-makutūb-a
 NEG できる:IPFV.1.SG that 読む:SBJV.1.SG DEF-書かれているもの-ACC
 hunā li-'anna ḍ-ḍaw'a da'if-un
 ここに (理由) -that (接続詞) DEF-明かり-ACC 弱い-NOM
 「明かりが暗くて、ここに何て書いてあるのか、読めない。」

(14b) laysa min al-mumkin-i 'an 'aqrā'a
 ~ない:PFV.3.M.SG of DEF-可能な-GEN that 読む:SBJV.1.SG
 l-makutub-a hunā
 DEF-書かれているもの-ACC ここに
 「明かりが暗くて、ここに何て書いてあるのか、読めない。」

(14c) lastu qādir-an 'ala qirā'at-i
 ~ない:PFV.1.SG できる.APT-ACC (前置詞) on 読むこと (VN)-GEN
 l-makutub-i hunā
 DEF-書かれているもの-GEN ここに
 「明かりが暗くて、ここに何て書いてあるのか、読めない。」

(14) (14a)は that 節以降を(13b)のように動名詞で言うことも可能である。(14b)は「min+def-形容詞-gen+接続形」の構文を用いている。(14c)は qādirun (できる) という意味の能動分詞を用いた文である。

(15) (朝早く出発したから) 彼らはもう着いているはずだ。 / もう着いたに違いない。

(15a) lā šakk-a 'anna-hum waṣalū
 NEG 疑い-ACC that-彼ら 到着する:PFV.3.M.PL
 「彼らはもう着いたに違いない。」

(15b) min al-mu'akkad-i 'anna-hum waṣalū
 of DEF-確かな.PPT-GEN that-彼ら 到着する:PFV.3.M.PL
 「彼らはもう着いたに違いない。」

(15c) min al-muftarad-i 'anna-hum waṣalū
 of DEF-確かな.PPT-GEN that-彼ら 到着する:PFV.3.M.PL
 「彼らはもう着いているはずだ。」

(15) (15a)は否定辞+不定名詞-対格で「〜が(絶対)ない」という強調した構文である。(15a)と(15b)は確信度が非常に高い。(15c)は(15a)(15b)に比べると確信度は低い。

(16) (あの人は) 今日とはたぶん来ないだろう。

(16a) lan ya'tiya al-yawm-a
 NEG 来る:SBJV.3.M.SG DEF-日-ACC (今日)

「彼は今日来ないだろう。」

(16b) qad lan ya'tiya al-yawm-a
たぶん NEG 来る:SBJV.3.M.SG DEF-日-ACC (今日)

「彼は今日来ないだろう。」

(16) (16a)は未来の否定辞 lan+動詞の接続形を用いた文である。qad 「かもしれない」が動詞の未完了形に前置された(16b)のほうが確信度は更に低い。フィフティフィフティの感覚がするという。

(17) 彼らがまだ来ないなんて、きっと途中で車が壊れたんじゃないか。

(17a) bi-t-ta'kīd-i sayyārat-u-hum mu'ṭallat-un li-'anna-hum
きっと 車-NOM-彼ら.GEN 故障している.PPT-NOM (理由) -that(接続詞)-彼ら
lam ya'tū ba'du
NEG 来る:JUSS.3.M.SG まだ

「彼らがまだ来ないなんて、きっと途中で車が壊れたんじゃないか。」

(17b) min al-muḥtamal-i 'anna sayyārat-u-hum qad
of DEF-ありがちな.PPT-GEN that 車-NOM-彼ら.GEN たぶん
takūn mu'ṭallat-an li-'anna-hum lam
COP: IPFV.3.F.SG 故障している.PPT-ACC (理由) -that (接続詞) -彼ら NEG
ya'tū ba'du
来る:JUSS.3.M.SG まだ

「彼らがまだ来ないなんて、きっと途中で車が壊れたんじゃないだろうか。」

(17) (17a)は疑念がかなり強い。(17b)は(17a)よりは疑念の強さは弱い。

(18) さあ、(昼間だからあの人は家に) いるかもしれないし、いないかもしれない。

lā 'a'rifū, rubbamā yakūnu fī l-bayt-i
NEG 知っている:IPFV.1.SG たぶん COP: IPFV.3.M.SG ~に DEF-家-GEN
wa-rubbamā lā yakūnu li-'anna-nā
そして-たぶん NEG COP: IPFV.3.M.SG (理由) -that (接続詞) -私たち
fī z-zuhr-i al-ān-a
~に DEF-昼 (対格で) 今

「今昼だから彼は家にいるかもしれないしいないかもしれないが、私は知らない。」

(18) 副詞 rubbamā 「たぶん」を用いた文。wa-のかわりに aw 「又は」を使ってもよい。

(19) (額に触ってみて) どうもあなたは熱があるようだ。

(22) もしあなたが教えてくれていなかったら、私はそこにたどり着けなかったでしょう。

law lam taqul-nī la-mā staṭā'tu 'an
 もし～なら NEG 言う:JUSS.2.M.SG-私.ACC 接頭辞-NEG できる:PFV.1.SG that
 'ašila 'ila hunāka
 到着する:IPFV.1.SG ～に そこに

「もしあなたが言ってくれなかったら、私はそこにたどり着けなかったでしょう。」

(22) 条件節が lam+動詞の短形で「過去の否定」、応答節は mā+動詞の完了形で「過去の否定」になっている。

(23) (あの人は) 街へ行きたがっている。

yuṛīdu dālika š-šaxš-u 'an yaqhaba 'ila l-madīnat-i
 欲しい:IPFV.3.M.SG あの DEF-人 that 行く:SBJV.3.M.SG ～に DEF-街-GEN
 「あの人は街へ行きたがっている。」

(24) 僕にもそれを少し飲ませろ。

da'-nī 'ašrabu-hu qalīl-an
 自由に～させる:IMP.2.M-私.ACC 飲む:IPFV.1.SG-それ.ACC 少し-ACC
 「私にそれを少し飲ませろ。」

(24) 英語の Let me do の形に相当する表現。(7)の「私が～しましょうか?」と同じ構文である。

(25) これはあの人に持って行かせろ/持って行かせよう。

fa-l-ya'xuḍ-hu ma'a-hu
 接続詞-接辞 li-持って行く:JUSS.3.M.SG-それ.ACC ～とともに-彼.GEN
 「これはあの人に持って行かせろ」

(26) そのテーブルの上のお菓子は後で食べなさい。

kuli l-ḥalw-a llatī 'ala t-tāwilat-i fimā ba'du
 食べる:IMP.2.M DEF-お菓子-ACC REL ～に DEF-テーブル-GEN (2語で) あとで
 「そのテーブルの上のお菓子は後で食べなさい。」

(27) もっと早く来ればよかった。

(27a) yā layta-ka ji'ta mubakkir-an
 間投詞 ～だったらなあ-貴男 来る:PFV.2.M.SG 早い-ACC
 「貴男がもっと早くきてればなあ。」

(27b) yā layta-nī jī'tu mubakkir-an
 間投詞 ～だったらなあ私 来る:PFV.1.SG 早いACC
 「貴男がもっと早くきてればなあ。」

(27) 反実仮想で「～だったらなあ」を表す構文. yā layta の後には名詞は対格, 非分離系人称代名詞は属格が続く. 現実には起きていないできごとは, 動詞の完了形で表す.

(28) あなたも一緒に行ったら (どうですか) ?

mā ra'y-u-ka (fi) 'an taḏhaba
 what 考え-NOM-貴男.GEN (～における) that 行く:SBJV.2.M.SG
 ma'a-an?
 一緒-ACC

「あなたも一緒に行くというのはどうですか?」

(28) (9b)の構文と同じ. 提案や丁寧な勧誘 (相手に断る余地を与える強要度の低い言い回し) である.

(29) オレがそんなこと知るか.

man 'adrā-nī bi-ḏalika?
 誰 教える:PFV.3.M.SG-私.ACC of-それ.GEN

「誰が私にそんなことを伝えるのか. (誰も伝えない.)」

(29) 日本語では疑問詞のない反語表現だが, これに相当する MSA の表現では「誰が私にそんなことを伝えるのか.」という疑問詞を用いた反語表現となる.

(30) これを作った (料理した) のは, お母さんだよな? いいえ, 私が作ったのよ.

hal ṭabaxat 'ummu-ka hādā? 'a-laysa
 Q 料理する:PFV.3.F.SG 母親-貴男.GEN これ.ACC Q-～ではない:PFV.3.F.SG

ka-ḏalika?

ような-これ.GEN

「貴男のお母さんがこれを作ったの? そうじゃないの?」

(30) MSA には英語の付加疑問文のような念を押したり確認する構文はない. 'a-laysa ka-ḏalika? という言い回しが「そうだよね?」という言い方に近い.

4. ヴォイスとその周辺

アラビア語の使役は、英語の *make* や *let* に相当する動詞を用いて目的語+動詞の未完了形を後続させることもできるが、動詞を IV 形 (fa'ala→'af'ala) の形にして派生させて生産的に作ることもできる。但し、全ての動詞が IV 形の派生形を持つわけではない。

(1a) 《風などで》ドアが開いた。

(1a-1) infataḥa l-bāb-u
 開く: PFV.3.M.SG DEF- ドア-NOM
 「ドアが開いた。」

(1a-2) infataḥa l-bāb-u bi-r-rīx-i
 開く: PFV.3.M.SG DEF- ドア-NOM ~によって-DEF-風-GEN
 「ドアが開いた。」

(1b) (彼が) ドアを開けた。

fataḥa l-bāb-a
 開ける: PFV.3.M.SG DEF- ドア-ACC
 「彼がドアを開けた。」

(1c) 入口のドアが開けられた。

futiḥa l-madḡal-u
 開ける: PASS.PFV.3.M.SG DEF-入口-NOM
 「入口が開けられた。」

(1) (1a-1)は自動詞を使った表現(派生形 VII 形)である。(1a-2)は、ドアが開いた原因を前置詞句によって付加した文である。bi-r-rīx-i「風によって」のほか、bi-fi'l-i r-rīx-i「風の作用で」という表現も可能である。(1b)は動作主が明らかなので能動態を用いて表現した文である。(1c)は動作主が不明であることから受動態を用いた文である。

(2) 私は(自分の)弟を立てさせた。

ja'altu 'ax-ī yaqafu
 ~させる 弟.ACC-私.GEN 立つ: IPFV.3.M.SG
 「私は弟を立てさせた。」

(2) 英語の *make*+目的語+原型不定詞に相当する表現。元々は ja'ala+動詞の未完了形は「〜し始める」の意味で使われていたが現在では「〜に...させる」という使役の意味がある。

(3) 私は(自分の)弟に歌を歌わせた。

?(3a) ja'altu 'ax-ī yugannī
 ~させる 弟.ACC-私.GEN 歌う: IPFV.3.M.SG

「私は弟に歌わせた。」

(3b) 'ajbartu 'axī 'ala l-ġinā'i
 強制する 弟.ACC-私.GEN 前置詞 DEF-歌うこと-GEN

「私は弟に（無理やり）歌わせた。」

(3) イハーブ氏によると、(3a)は文法的には可能だが使わないのではないかという。「歌ってもらおう」というニュアンスはMSAでは表しにくいとのことである。(3b)は'ajbara ('ala)「(~を)強制する」という動詞を使った文である。

(4a) 《遊びたがっている子供に無理やり》母は子供にパンを買いに行かせた。

(4a-1) 'ajbarat l-'umm-u t-ṭifl-a 'ala
 強制する:PFV.3.F.SG DEF-母親-NOM DEF-子供-ACC 前置詞
 ištirā'i l-xubz-i
 買うこと(VN)-GEN DEF-パン-GEN

「母はその子供に（無理やり）パンを買うことを強制した。」

(4a-2) ja'alat l-'umm-u t-ṭifl-a yaštārī
 ~させる:PFV.3.F.SG DEF-母親-NOM DEF-子供-ACC 買う:IPFV.3.M.SG

xubz-an

パン-ACC

「母はその子供にパンを買わせた。」

(4b) 《遊びに出たがっているのを見て》母は子供を遊びに行かせた。

(4b-1) samahat l-'umm-u li-t-ṭifl-i bi-'an
 許可する:PFV.3.F.SG DEF-母親-NOM ~に-DEF-子供-GEN 前置詞-that (接続詞)
 yaḏhaba li-l-la'b-i
 行く:SBJV.3.M.SG ~のために-DEF-遊び-GEN

「母親は自分の子どもに遊びに行くことを許可した。」

(4b-2) tarakat l-'umm-u li-t-ṭifl-i yaḏhabu
 放っておく:PFV.3.F.SG DEF-母親-NOM ~に-DEF-子供-GEN 行く:SBJV.3.M.SG
 li-l-la'b-i

~のために DEF-遊び-GEN

「母親はその子どもを（ほったらかして）遊びに行かせた。」

(4b) (4b-1)は samaha「許可する」という動詞に that+動詞の接続形を後続させた文である。(4b-2)は taraka「放っておく」+目的語(人)+動詞の未完了形で「放置して勝手に~にやらせる」というマイナスのニュアンスになる。

(5a) 私は弟に服を着せた。

'albastu 'ax-ī l-malābis-a
着させる: IV.PFV.1.SG 弟.NOM-私.GEN DEF-服.PL-ACC
「私は弟に服を着せた。」

(5b) 私は弟にその服を着させた。

ja'altu 'ax-ī yalbasu l-malābis-a
～させる: PFV.1.SG 弟.ACC-私.GEN 着る: IPFV.3.M.SG DEF-服.PL-ACC
「私は弟に服を着せた。」

(5) (5a)は動詞の IV 形を用いた文である。(5b)は英語の make+目的語+原型不定詞に相当する表現である。

(6) 私は弟にその本をあげた。

'a'taytu 'ax-ī š-šaḡīr-a al-kitāb-a
あげる: PFV.1.SG 弟-私.GEN DEF-小さい-ACC DEF-本-ACC
「私は弟にその本をあげた。」

(7a) 私は弟に本を読んであげた。

qara'tu kitāb-an li-'ax-ī š-šaḡīr-a
読む: PFV.1.SG 本-ACC ~のために-弟.GEN-私.GEN DEF-小さい-GEN
「私は弟に本を読んであげた。」

(7b) 兄は私に本を読んでくれた。

qara'a 'ax-ī kitāb-an l-ī
読む: PFV.3.F.SG 兄.NOM-私.GEN 本-ACC ~のために-私.GEN
「兄は私に本を読んでくれた。」

(7c) 私は母に髪の毛を切ってもらった。

qaṣṣat l-ī 'umm-ī ša'r-ī
切る: PFV.3.F.SG ~のために-私.GEN 母親.NOM-私.GEN 髪-GEN
「私の母が私のために髪の毛を切った。」

(7) MSA では「～てあげる」「～てくれる」の表現に違いはない。li-「～のために」という前置詞を用いて「恩恵」を示す。「～てもらう」についても特別の表現はない。髪をきってくれた人が明らかであることから、日本語の「私は母に髪の毛を切ってもらった。」のように「私は」を主語にして文を作らない。

(8a) 私は（自分の）体を洗った.

ġasaltu

（体を）洗う:PFV.1.SG

「私は体を洗った.」

(8b) 私は手を洗った.

ġasaltu

yad-ay-a

洗う:PFV.1.SG 手-DU.ACC-私.GEN

「私は手を洗った.」

(8c) 彼は（／その人は）手を洗った.

ġasaltu

yad-ay-hi

洗う:PFV.3.M.SG 手-DU.ACC-彼.GEN

「彼は手を洗った.」

(8) (8a)は「体を洗う」という自動詞で表す。(8b)は「手」を目的語にとる他動詞を用いる。(8b)と(8c)は同じ構文である.

(9) 私は（自分のために）その本を買った.

ištaraytu

l-kitāb-a

lī

買う:PFV.1.SG DEF-本-ACC ~のために-私.GEN

「私は自分のためにその本を買った.」

(9) (7)と同じで li- 「～のために」という前置詞を用いる.

(10) 彼らは（／その人たちは）（互いに）殴り合っていた.

(10-1) kāna

yatalākamāni

COP: PFV.3.M.SG

互いに殴りあう:IPFV.3.M.DU

「彼ら二人は互いに殴り合っていた.」

(10-2) kāna

yatalākamānū

COP: PFV.3.M.SG

互いに殴りあう:IPFV.3.M.PL

「彼ら（3人以上）は互いに殴り合っていた.」

(10-3) kāna

yaḍribāni

ba‘ḍ-a-humā

l-ba‘ḍ-i

COP: PFV.3.M.SG

殴りあう:IPFV.3.M.PL

人-ACC-彼ら.PL.GEN

DEF-人-GEN

（下線部で「互いに」）

「彼らは（3人以上）は互いに殴り合っていた.」

(10) (10-1)(10-2)は「互いに～する」という意味を表す派生形第VI形動詞（自動詞）を用いた文で目的語をとらない。(10-3)は「互いに～する」という意味の第III形動詞（他動詞）を用いた文で、目的語をとる.

(11) その人たちは《みな一緒に》町へ出発した。

taraka l-ašxāš-u 'ila l-madīnat-i ma'-an
出発する:PFV.3.M.SG DEF-人.PL ～に DEF-町-GEN (対格で) 一緒に
「その人たちは一緒に町へ出発した。」

(11) 「一緒に」という副詞句を用いて表す。

(12) その映画は泣ける (その映画を見ると泣いてしまう)。

(12-1) yubkī-nī l-film-u
泣かせる:IPFV.3.M.SG-私.ACC DEF-映画-NOM
「その映画は私を泣かせる。」

(12-2) yaj'al-nī l-film-u 'abkī
～させる:IPFV.3.M.SG-私.GEN DEF-映画-NOM 泣く:IPFV.1.SG
「その映画は私を泣かせる。」

(12) (12-1)は無生物を主語にして、使役を表す派生形第 IV 形動詞を用いた文である。(12-2)は(2)と同じ形式の文 (ja'ala 「～させる」 + 目的語 + 動詞の未完了形) である。

(13a) 私は卵を割った。

(13a) kasartu baydat-an
割る:PFV.1.SG 卵-ACC
「私は卵を割った。」

(13b) 《うっかり落として》私はコップを割った (／割ってしまった)。

(13b) kasartu ka'a-an sahw-an
割る:PFV.1.SG コップ-ACC (対格で) うっかり
「私はうっかりコップを割った。」

(13) 動作の意志の有無は動詞では表せない。(13b)のように副詞句で「無意識」であることを示す。

(14a) きのう私はコーヒーを飲みすぎて (飲みすぎたので) 眠れなかった。

lam 'astaḡī' 'an 'anāmā 'ams-i
NEG できる:JUSS.1.SG that 寝る:SBJV.1.SG 昨日-GEN
li-'an-nī šaribtu l-kaḡīr mina l-qahwat-i
(理由) -that (接続詞) -私.ACC 飲む:PFV.1.SG DEF-たくさん ～の DEF-コーヒー
「きのう私はコーヒーを飲みすぎて (飲みすぎたので) 眠れなかった。」

(14b) きのう私は仕事がたくさんあって (たくさんあったので) 眠れなかった。

lam 'astaṭī' 'an 'anāmā 'ams-i
 NEG できる:JUSS.1.SG that 寝る:SBJV.1.SG 昨日-GEN
 li-'an-nī kāna 'ind-ī
 (理由) -that (接続詞) -私.ACC COP: PFV.3.M.SG (前置詞) ~ところに-私.GEN
 'a'māl-un kaṭīr-un
 仕事.PL-NOM たくさんの-NOM

「きのう私は仕事がたくさんあって (たくさんあったので) 眠れなかった。」

(15) 私は頭が痛い。

'ind-ī ṣdā'-un
 (前置詞) ~ところに-私.GEN 頭痛-NOM

「私は頭が痛い (私は頭痛を持っている).」

(15) 必ず非限定の名詞を用いる (「所有表現」の言語データを参照のこと)。

(16) あの女性は髪が長い。

(16a) la-hā ša'r-un ṭawīl-un
 (前置詞) ~に-彼女.GEN 髪-NOM 長い-NOM

「彼女は長い髪を持って (して) いる。」

(16b) ša'r-hā ṭawīl-un
 髪-彼女.GEN 長い-NOM

「彼女の髪は長い。」

(16) 身体部位の場合, 所有表現は(16a)のように, 「前置詞 li-所有者+非限定名詞」の形で表す。

(17a) 彼は (別の) 彼の肩を叩いた。

'amsaka bi-katif-i-hi
 叩く:PFV.3.M.SG 前置詞(of)-肩-GEN-彼.GEN

「彼は彼の肩をつかんだ。」

(17b) 彼は (別の) 彼の手をつかんだ。

'amsaka bi-yad-i-hi
 叩く:PFV.3.M.SG 前置詞(of)-手-GEN-彼.GEN

「彼は彼の手をつかんだ。」

(18a) 私は彼がやって来るのを見た。

ra'aytu-hu wa-huwa ya'tī 'ila hunā
見る:PFV.1.SG-彼.ACC 接続詞 (付帯状況) -彼.NOM 来る:IPFV.3.M.SG ~に ここに
「彼がここに来るのを私は見た。」

(18b) 私は彼が今日来ることを知っている。

'a'rifu 'anna-hu sa-ya'tī l-yawm-a
知っている:IPFV.1.SG that (接続詞) -彼.ACC FUT-来る:IPFV.3.M.SG DEF-日-ACC (今日)
「私は彼が今日来ることを知っている。」

(19) 彼は自分 (のほう) が勝つと思った。

kāna yazunnu 'anna-hu sa-yafūzu
COP:PFV.3.M.SG 思う:IPFV.3.M.SG that (接続詞) -彼.ACC FUT-勝つ:IPFV.3.M.SG
「彼は自分が勝つと思っていた。」

(20a) 私は (コップの) 水 (の一部) を飲んだ。

šaribtu ka's-an min al-mā'i
飲む:PFV.1.SG コップ-ACC ~の DEF-水-GEN
「私はコップの (中の) 水を飲んだ。」

(20b) 私は (コップの) 水を全部飲んだ。

šaribtu ka's-a l-mā'i kull-a-hu
飲む:PFV.1.SG コップ-ACC DEF-水-GEN 全て-ACC-それ.ACC
「私はコップの水 (それ) 全てを飲んだ。」

(21) あの人は肉を食べない。

lā ya'kulu l-laḥm-a
NEG 食べる:IPFV.3.M.SG DEF-肉-ACC
「彼は肉を食べない。」

(22a) 今日は寒い。

(22a-1) al-yawm-u bārid-un
DEF-日-NOM 寒い-NOM
「今日は寒いです。」

(22a-2) a-tṭāqs-u bārid-un al-yawm-a
DEF-天気-NOM 寒い-NOM DEF-日-ACC (今日)
「今日の天気は寒いです。」

(22b) 私は (何だか) 寒い (私には寒く感じる).

(22b-1) 'aš'uru bi-l-bard-i
 感じる:IPFV.1.SG 前置詞(of)-DEF-寒さ-GEN
 「私は寒さを感じている。」

(23) 私は人がとても多いのに驚いた.

ndahaštu min kaṭrat-i n-nās-i
 驚く:PFV.1.SG ~に 多さ-GEN DEF-人々-GEN
 「私は人の多さに驚いた。」

(24) 雨が降ってきた.

bada'at (s-samā'-u) tamṭuru
 始まる:PFV.3.F.SG (DEF-天気-NOM) 雨が降る:IPFV.3.F.SG
 「雨が降り始めた。」

(25) その本は良く売れる.

(25-1) yubā'u l-kitāb-u jayyīd-an
 売る:PASS.IPV.3.M.SG DEF-本-NOM 良い-ACC
 「その本はよく売れる (直訳: 売られる).」

(25-2) a-ssikkīnat-u ḥāddat-un jayyīd-an
 DEF-ナイフ-NOM 鋭い-APT-NOM 良い-ACC
 「そのナイフはすごく鋭い (よく切れる).」

(25-1)は受動態を用いた文である. (25-2)は能動分詞を用いた状態を表す文である.

参考文献

- Cantarino, Vicente. (1974) *Syntax of Modern Arabic Prose: The Simple Sentence*. vol.1, Bloomington: Indiana University Press.
- Holes, Clive. (1995) *Modern Arabic: Structures, Functions and Varieties*. London, New York: Longman Publishing.
- Sāmīrā'ī, Fāḍil Šāliḥ. (2000) *Ma'ānā n-Nāḥw*. vol.4, al-'urdunnu: Dār al-fikr.
- 八木久美子, 青山弘之, エベード, イハープ・アフマド(2013)『大学のアラビア語詳解文法』府中(東京): 東京外国語大学出版会.

略号一覧

I~X: pattern I~X 派生形第~形	FUT: future tense 未来	PL: plural 複数形
1, 2, 3: 1st,2nd, 3rd person 1, 2, 3 人称	GEN: genitive 属格	PPT: passive participle 受動分詞
ACC: accusative 対格	IMPF: imperfective 未完了形	Q: questionmarker 疑問標識
COP: copla コピュラ	JUSS: jussive 短形	REL: relative 関係詞
DEF: definite 定	M: masculine 男性形	SBJV: 接続形
DU: dual 双数形	NEG: negative 否定	SG: singular 单数形
F: feminine 女性形	NOM: nominative 主格	VN: verbal noun 動名詞
	PASS: passive 受動態	- 形態素境界
	PFV: perfective 完了形	

転写法

字母	ا	ب	ت	ث	ج	ح	خ	د	ذ	ر	ز	س	ش	ص	ض	ط	ظ	ع	غ	ف	ق	ك	ل	م	ن
転写	'	b	t	ṭ	j	ħ	x	d	ḍ	r	z	s	š	ʂ	ɖ	ʈ	ʒ	ʕ	g	f	q	k	l	m	n
字母	و	ي																							
転写	h	w	y																						

〈補遺〉

ウズベク語

—補遺データ(受動表現, ヴォイスとその周辺, モダリティ)—

日高 晋介

1. はじめに

ウズベク語はチュルク語の1種であり, 主にウズベキスタン共和国内で話される。話者数は約1660万人であり, 東方またはチャガタイと呼ばれる言語グループに属する。1940年にキリル文字正書法が制定された。母音調和は行われない(以上の記述は, 庄垣内1988: 829の記述を要約したものである)。1993年に新ラテン文字正書法が制定された(Boeschoten 1998: 357-8)。本稿では, ラテン文字正書法を用いる。

以下, これまでに『語学研究所論集』14号, 16号, 17号で編まれた特集(「受動表現」, 「ヴォイスとその周辺」, 「モダリティ」)に記載のアンケートに対応するウズベク語の用例を示す。例文番号は, 各号のアンケートに記載された番号をそのまま付す。

2. アンケート結果

これらの用例は, インフォーマントが日本語を読んでその後ウズベク語で発話したものを録音し, 筆者が書き起こした。このデータの提供者は本学大学院博士後期課程所属のKhikmatullaev Jasur氏(1984年生, タシケント出身)である。なお, 本稿における誤りはすべて筆者の責任である。

以下, 2.1. で「受動表現」, 2.2. で「ヴォイスとその周辺」, 2.3. で「モダリティ」の用例を示す。

2.1. 受動表現

(1) AはBに叩かれた(直接受身)

- | | | | | |
|------|----------------|-------------------|-------------------------|--------------------|
| (1a) | <i>Alisher</i> | <i>Botir</i> | <i>tomon-i-dan</i> | <i>ur-il-di-ø.</i> |
| | NAME | NAME | direction-3.SG.POSS-ABL | hit-PASS-PAST-3.SG |
| (1b) | <i>Botir</i> | <i>Alisher-ni</i> | <i>ur-di-ø.</i> | |
| | NAME | NAME-ACC | hit-PAST-3.SG | |

(1a)における *tomon-i-dan* [direction-3.SG.POSS-ABL]は, 受動文における動作主標示に用いられている。

しかし, インフォーマントによると, (1a)は文法的には可能であるが, 日常会話で全く使わないと言う。日常会話では, (1b)が用いられる。

(2) A は B に足を踏まれた (持ち主の受身, 体の部分)

(2a) *Alisher-ning oyog'-i Botir tomon-i-dan bos-il-di-φ.*
 NAME-GEN foot-3.SG.POSS NAME direction-3.SG.POSS-ABL step-PASS-PAST-3.SG

(2b) *Botir Alisher-ning oyog'-i-ni bos-di-φ.*
 NAME NAME-GEN foot-3.SG.POSS-ACC step-PAST-3.SG

インフォーマントによると, (1a)と同様に, (2a)は文法的には可能であるが, 日常会話で全く使わないと言う. 日常会話では, (2b)が用いられる.

(3) A は B に財布を盗まれた (持ち主の受身, 持ち物)

(3a) *Alisher-ning koshelyog-i Botir tomon-i-dan*
 NAME-GEN wallet-3.SG.POSS NAME direction-3.SG.POSS-ABL
og'irla-n-di-φ.
 steal-PASS-PAST-3.SG

(3b) *Botir Alisher-ning koshelyog-i-ni og'irla-di-φ.*
 NAME NAME-GEN wallet-3.SG.POSS-ACC steal-PAST-3.SG

インフォーマントによると, (1a) (2a)と同様に, (3a)は文法的には可能であるが, 日常会話で全く使わないと言う. 日常会話では, (3b)が用いられる.

(4) 昨日の夜, 私は赤ん坊に泣かれた. それでちっとも眠れなかった (自動詞からの間接受身)

Kech kechqurun chaqaloq yig'la-di-φ. Shu-ning uchun men
 yesterday evening baby cry-PAST-3.SG that-GEN because 1.SG
ozgina ham uxla-y ol-ma-di-m.
 little also sleep-CVB take-NEG-PAST-1.SG

-a/-y ol-で可能を表す. *Kech* から始まる文の動詞語幹 *yig'la-* [cry]には受動接辞が用いられていない.

(5) 新しいビルが (A によって) 建てられた. (モノ主語受身, 一回的)

Yangi bino Alisher tomon-i-dan kur-il-di-φ.
 new building NAME direction-3.SG.POSS-ABL build-PASS-PAST-3.SG

この場合, 受動接辞が用いられる.

- (6) カナダではフランス語がはなされている。(モノ主語受身, 恒常的. 動作主が問題にならない場合)

Kanada-da frantsuz til-i-da gapila-sh-a-di.
Canada-LOC French language-3.SG.POSS-LOC speak-RECP-NPST-3.SG

この場合, 相互接辞 *-sh* が用いられており, 「カナダではフランス語で(人々がお互いに話す)」という意味を表している.

- (7) 財布が (A に) 盗まれた (モノ主語受身, モノ主語の背後に被影響者が想定される)

(7a) *Koshelyok Alisher tomon-i-dan o'g'irla-n-di-φ.*
wallet NAME direction-3.SG.POSS-ABL steal-PASS-PAST-3.SG

(7b) *Koshelyok-ni Alisher o'g'irla-di-φ.*
wallet-ACC NAME steal-PAST-3.SG

インフォーマントによると, (1a) (2a) (3a)と同様に, (7a)は文法的には可能であるが, 日常会話で全く使わないと言う.

- (8) 壁に絵が掛けられている (モノ主語受身, 結果状態の叙述)

Devor-ga rasm os-il-gan-φ.
wall-DAT picture hung-PASS-PRF-3.SG

- (9) A は B に / から愛されている。(感情述語の受身, 特に動作主のマーカに注目)

(9a) **Alisher Botir tomon-i-dan sev-il-a-di.*
NAME NAME direction-3.SG.POSS-ABL love-PASS-NPST-3.SG

(9b) *Botir Alisher-ni sev-a-di.*
NAME NAME-ACC love-NPST-3.SG

インフォーマントから, (9a)は文法的にも不可能であるとの指摘を得た. これは, *tomon-i-dan* が用いられている(1a) (2a) (3a) (7a)とは異なっている.

- (10) A は B に / から「先生！」と言われた。(伝達動詞の受身, 特に動作主のマーカに注目)

(10a) *Alisher Botir tomonidan "oqituvchi!" deb*
NAME NAME direction-3.SG.POSS-ABL teacher QUOT
{chaqir-il-di-φ/ ayt-il-di-φ}.
call-PASS-PAST-3.SG say-PASS-PAST-3.SG

(10b) *Botir Alisher-ni “o‘qituvchi!” deb ayt-di-φ.*
 NAME NAME-ACC teacher QUOT call-PASS-PAST-3.SG

インフォーマントによると、(1a)(2a)(3a)(7a)と同様に、(10a)は文法的には可能である。

(11) AさんはBさんに呼ばれて、今Bさんの部屋に行っています。

Botir Alisher-ni chaqir-di-φ. Va u hozir Botir-ning
 NAME NAME-ACC call-PAST-3.SG and 3.SG now NAME-GEN
xona-si-da.
 room-3.SG.POSS-LOC

(12) BさんがAさんを選んで、Aさんは今Bさんの部屋に行っています。

Botir Alisher-ni chaqir-di-φ Va Alisher hozir Botir-ning
 NAME NAME-ACC call-PAST-3.SG and NAME now NAME-GEN
xona-si-da.
 room-3.SG.POSS-LOC

インフォーマントによると、(11)(12)の日本語文はウズベク語では同じように表現される
 と言う。ただし、二文目の主語が、それぞれ(11)では *u*、(12)では *Alisher* になっていること
 に注意されたい。

2.2. ヴォイスとその周辺

(1a) 《風などで》ドアが開いた。

Eshik och-il-di-φ.
 door open-PASS-PAST-3.SG

(1b) (彼が) ドアを開けた。

U ehik-ni och-di-φ
 3.SG door-ACC open-PAST-3.SG

(1c) 入口のドアが開けられた。

Kiraverash-da-gi eshik och-il-di-φ
 entrance-LOC-ADJLZ door open-PASS-PAST-3.SG

ウズベク語では、受動接辞を用いることで他動詞から自動詞を派生する場合がある。(1b)
och-「開ける」から受動接辞-*il*を用いて、(1a) *och-il*-「開く」を派生している。

ただし、*och-il*-は、(1c)のように、自動詞としてではなく他動詞から派生される受動語

幹としても用いられる.

- (2) 私は（自分の）弟を立たせた.

Men uka-m-ni tur-gaz-di-m.
1.SG younger.brother-1.SG.POSS-ACC stand-CAUS-PAST-1.SG

- (3) 私は（自分の）弟に歌を歌わせた.

Men uka-m-ga qo 'shiq ayt-tir-di-m.
1.SG younger.brother-1.SG.POSS-DAT song say-CAUS-PAST-1.SG

自動詞からの使役 (2)も, 他動詞からの使役 (3)も使役接辞を用いている. 使役接辞は *tɒp-tir-* 「見つけさせる」, *yɒt-kiz-* 「寝させる」, *kor-gaz-* 「見せる」, *ɔqi-z-* 「流す」, *qayna-t-* 「煮る」のように, *-tir-/ -kiz/ -kaz/ -z/ -t* 等が用いられる. *-tir-/ -kiz/ -gaz* の接辞の頭子音は, 動詞語根末子音に順行同化する.

非使役主は, (2)では *uka-m-ni* と対格をとり, (3)では *aka-m-ga* と与格をとっている.

- (4a) 《遊びたがっている子供に無理やり》母は子供にパンを買いに行かさせた.

Ona o'g 'l-i-ni non sotib ol-ish-ga {jo 'na-t/ yubor} -di-φ.
mother son-3.SG.POSS-ACC bread buy-VN-DAT leave/ send -PAST-3.SG

- (4b) 《遊びに出たがっているのを見て》母は子供を遊びに行かさせた.

Ona bola-si-ni oyna-gani {jo 'na-t/ yubor} -di-φ.
mother child-3.SG.POSS-ACC play-CVB leave/ send -PAST-3.SG

ウズベク語では, 強制使役 (4a)と許可使役 (4b)で同じ表現をとっている. ただし, *ket-* 「行く」の使役形 *ket-kaz-* はここでは用いられない. *ket-kaz-* は「取り除く」「追い出す」の意味を持つ.

- (5a) 私は弟に服を着せた.

Men uka-m-ga kiyim-ni kiy-gaz-ib ko 'y-di-m.
1.SG younger.brother-1.SG.POSS-DAT cloth-ACC wear-CAUS-CVB put-PAST-1.SG

- (5b) 私は弟にその服を着させた.

Men uka-m-ga osha kiyim-ni majburla-b
1.SG younger.brother-1.SG.POSS-DAT that cloth-ACC force-CVB
kiyi-gaz-di-m.
wear-CAUS-PAST-1.SG

(6) 私は弟にその本をあげた.

Men uka-m-ga u kitob-ni ber-di-m.
1.SG younger.brother-1.SG.POSS-DAT that book-ACC give-PAST-1.SG

(7a) 私は弟に本を読んであげた.

Men uka-m-ga kitob o'qi-b ber-di-m.
1.SG younger.brother-1.SG.POSS-DAT book read-CVB give-PAST-1.SG

(7b) 兄は私に本を読んでくれた.

Aka-m men-ga kitob o'qi-b ber-di-ø.
older.brother-1.SG.POSS 1.SG-DAT book read-CVB give-PAST-3.SG

「物」を授受する際 (6)に用いる動詞 *ber-*「与える」が、補助動詞化 (*-b ber-*) して恩恵の授受 (7a) (7b)にも用いられている。

(7c) 私は母に髪の毛を切ってもらった.

Ona-m mening soch-im-ni kes-ib qo'y-di-ø.
mother-1.SG.POSS 1.SG.GEN hair-1.SG.POSS-ACC cut-CVB put-PAST-3.SG

ウズベク語の場合、主語が *Ona-m*「私の母」となっている。文末に *-ib qo'y-*が用いられている。*-ib qo'y-*は、completive aspect を表す (Sjoberg 1963: 133)。

(8a) 私は (自分の) 体を洗った.

Men badan-im-ni yuv-di-m.
1.SG body-1.SG.POSS-ACC wash-PAST-1.SG

(8b) 私は手を洗った.

Men qo'l-im-ni yuv-di-m.
1.SG hand-1.SG.POSS-ACC wash-PAST-1.SG

(8c) 彼は (/ その人は) 手を洗った.

{U / U odam} qo'l-i-ni yuv-di-ø
3.SG that person hand-3.SG.POSS-ACC wash-PAST-3.SG

今回、再帰代名詞 *o'z* や再帰態 *-(i)m* が現れることはなかった。

(9) 私は (自分のために) その本を買った.

Men o'z-im uchun u kitob-ni sotib ol-di-m.
1.SG REFL-1.SG.POSS because 3.SG book-ACC buy-PAST-1.SG

ここでは, 再帰代名詞 *o'z-im* が用いられている.

- (10) 彼らは (／その人たちは) (互いに) 殴り合っていた.

{Ular / U odam-lar} birbir bilan ur-ish-ayotgan edi- \emptyset .
3.PL that person-PL each.other with hit-RECP-PTCP.PRS COP.PAST-3.SG

動詞語根 *ur-* 「打つ」に相互態接辞 *-ish* が付くことで, *ur-ish-* 「(互いに) 殴る」という動詞語幹を形成している. しかし, *urish-* は「喧嘩する」「戦う」という語彙的意味も持つ.

- (11) その人たちは《みな一緒に》町へ出発した.

U odam-lar birgalikda shahar-ga yo'l-ga chiq-sh-di- \emptyset .
that person-PL together city-DAT street-DAT go.out-RECP-PAST-3.SG

(11)でも, (10)で現れた相互態接辞 *-ish* が用いられている.

- (12) その映画は泣ける (その映画を見ると泣いてしまう).

U kino odam-ni yig'la-t-a-di.
that movie person-ACC cry-CAUS-NPST-3.SG

この場合, *U kino* 「その映画」が主語となり, 使役化した動詞語幹 (*yig'la-t-* 「泣かせる」) が用いられている.

- (13a) 私は卵を割った.

Men tuxum-ni chaq-di-m.
1.SG egg-ACC crack-PAST-1.SG

- (13b) 《うっかり落として》私はコップを割った (／割ってしまった).

Men chashka-ni {sindir-di-m. / sindir-ib qo'y-di-m.}
1.SG glass-ACC break-PAST-1.SG break-CVB put-PAST-1.SG

(13a)と(13b)ともに, 動詞の過去形のみで表すことができる. (13b)では, (7c)でも現れた *-ib qo'y-* が用いられている.

- (14a) きのう私はコーヒーを飲みすぎて (飲みすぎたので) 眠れなかった.

Kecha men ko'p kofe ich-ib {qo'y-ib / qo'y-gan-i
yesterday 1.SG many coffee drink-CVB put-CVB put-PTCP.PAST-3.SG.POSS
uchun} uxla-y ol-ma-di-m.
because sleep-CVB take-NEG-PAST-1.SG

(14b)きのう私は仕事がたくさんあって (たくさんあったので) 眠れなかった.

Kecha ish-im {ko'p-lig-i-dan /ko'p
yesterday work-1.SG.POSS many-ABST-3.SG.POSS-ABL many
bo'l-gan-lig'-i uchun} uxla-y ol-ma-di-m.
become-PTCP.PAST-ABST-3.SG.POSS because sleep-CVB take-NEG-PAST-1.SG

(14a)と(14b)共に, 可能表現に-y *ol*-を用いている. 否定接辞-*ma*を用いて-*ol-ma*-とすると, 不可能を表す.

(15) 私は頭が痛い.

Bosh-im og'ri-yap-ti.
head-1.SG.POSS hurt-PROG-3.SG

(16) あの女性は髪が長い.

U qiz-ning soch-i uzun.
that girl-GEN hair-3.SG.POSS long

(15)は, ウズベク語では, *bosh*「頭」が主語となり「私の頭が痛い」のように表現している. (16)も, *soch*「髪」が主語となり「あの女性の髪が長い」のように表現している.

(17a)彼は (別の) 彼の肩を叩いた.

U boshqa bola-ning yelka-si-ga ur-di-ø.
3.SG other child-GEN shoulder-3.SG.POSS-DAT hit-PAST-3.SG

(17b)彼は (別の) 彼の手をつかんだ.

U boshqa bola-ning qo'l-i-ni ushla-di-ø.
3.SG other child-GEN hand-3.SG.POSS-ACC grab-PAST-3.SG

(17a)と(17b)から, ウズベク語は, 所有構造の名詞を項として表現するタイプ (つまり, 「一括支配型」(風間 2012: 10)) であることがわかる.

(18a)私は彼がやって来るのを見た.

Men u kel-ayotgan-i-ni ko'r-di-m.
1.SG 3.SG come-PTCP.PRS-3.SG.POSS-ACC see-PAST-1.SG

(18b)私は彼が今日来ることを知っている.

Men u bugun kel-ish-i-ni bil-a-man.
1.SG 3.SG today come-VN-3.SG.POSS-ACC know-NPST-1.SG

(18a)では形動詞 *-ayotgan*, (18b)では動名詞 *-ish* が用いられている。

これらの場合の従属節中の主語は，主格人称代名詞 *u* 「彼」と，形動詞あるいは動名詞の後ろに付く所有人称接辞 *-i* [3.SG.POSS]によって表されている。

(19) 彼は自分（のほう）が勝つと思った。

U o'z-i yut-a-man deb o'yla-di-ø.
 3.SG REFL-3.SG.POSS win-NPST-1.SG QUOT think-PAST-3.SG

主格再帰代名詞 *o'z-i* と，かつ直接話法による一人称人称接辞 *-man* によって引用文中の主語が表わされている。*o'z-i* と *-man* によって示される人物は同一人物である。

(20a) 私は（コップの）水（の一部）を飲んだ。

Men chashka-da-gi suv-ning ozgina-si-ni ich-di-m.
 1.SG cup-LOC-ADJLZ water-GEN little-3.SG.POSS-ACC drink-PAST-1.SG

(20b) 私は（コップの）水を全部飲んだ。

Men chashka-da-gi suv-ning hamma-si-ni ich-di-m.
 1.SG cup-LOC-ADJLZ water-GEN all-3.SG.POSS-ACC drink-PAST-1.SG

(20a)と(20b)を見る限り，部分的に及ぶ動作に対して，文法化された要素は観察できず，専ら分析的表現（(20a) *ozgina-si-ni* 「一部を」，(20b) *hamma-si-ni* 「全てを」）が用いられている。

(21) あの人は肉を食べない。

U odam go'sht ye-ma-y-di.
 3.SG person meat eat-NEG-NPST-3.SG

「恒常的な否定文」は，否定動詞語幹に非過去接辞を続けることで表わされる。

(22a) 今日寒い。

Bugun sovuq.
 today cold

形容詞を述語として用いている。

(22b) 私は（何だか）寒い（私には寒く感じる）。

Men sovuq {o't-yap-man. /ye-yap-man.}
 1.SG cold pass-PROG-1.SG eat-PROG-1.SG

(22c) 私は眠い／私は寝たい.

Uyqu-m kel-yap-ti.
sleep-1.SG.POSS come-PROG-3.SG

(22b)では、感情主体が主格名詞で表されているのに対し、(23b)では、1人称単数の所有人称接辞 *-m* で表されている。(23b)を逐語訳すれば、「私の眠気が来ている」となる。

(23) 私は人がとても多いのに驚いた.

Men odam-lar juda ko'plig-i-dan hayratlan-di-m.
1.SG person-PL very many-ABST-3.SG.POSS-ABL be.surprised-PAST-1.SG

感情主体は主格 *Men* で表現され、感情を引き起こす対象のほうは奪格 *odam-lar juda ko'plig-i-dan* (lit. 人がとても沢山いることから) で表現されている。

(24) 雨が降ってきた.

Yomg'ir yog'a boshla-di-ø.
rain fall-CVB start-PAST-3.SG

yomg'ir は「雨・雪が降る」という意味を持ち、他のものが「降る」時には *yog'-a* を用いない。以上より、*yog'-a* が「雨」という意味を含むと考えるのであれば、「名詞動詞両方「雨」型」(風間 2012: 14) であると言える。

(25a) その本は良く売れる.

U kitob yaxshi sot-il-a-di.
that book good sell-PASS-NPST-3.SG

ウズベク語では、中間構文は他動詞の自動詞化によって表現される。しかし、(25b)のように主語の意味役割が道具(ナイフ)である場合には、他動詞がそのまま用いられる。

(25b) このナイフはよく切れる.

Bu pichoq yaxshi kes-a-di.
this knife good cut-NPST-3.SG

2.3. モダリティ

- (1) (その仕事が終わったら) もう帰ってもいいですよ.

Shu ish-ni tugat-sa-ng, qayt-sa-ng ham bo 'l-a-di.
that work-ACC finish-COND-2.SG return-COND-2.SG also become-NPST-3.SG

Bodrogligeti(2003: 878)では, *-sa bo 'ladi* について, 「客観的な可能性」を表し, 動作が行われる見込みについて話者が確信を与える, と記述されている. しかし, (1)では「許可」の意味が表されている.

- (2) (腐っているから, あなたは) それを食べてはいけない. /それを食べるな.

(2a) *Ayni-b qol-gan-i uchun, sen bu-ni yey-ish-ing*
go.bad-CVB remain-PTCP.PAST-3.SG.POSS because 2.SG this-ACC eat-VN-2.SG.POSS
{kerak /mumkin} emas- \emptyset .
necessarypossible COP.NEG-3.SG

(2b) *Ayni-b qol-gan-i uchun, sen bu-ni ye-ma.*
go.bad-CVB remain-PTCP.PAST-3.SG.POSS because 2.SG this-ACC eat-NEG

(2a)では *yey-ish-ing {kerak /mumkin} emas* [eat-VN-2.SG.POSS {necessary/ possible} COP.NEG-3.SG]によって, (2b)では否定命令形によって, それぞれ「禁止」が表されている. ウズベク語の命令形は動詞語幹だけで形成される.

- (3) (遅くなったので) 私たちはもう帰らなければならない.

{*Kech kech tush-gan-i /Kech bo 'l-gan-i*}
evening evening fall-PTCP.PAST-3.SG.POSS evening become-PTCP.PAST-3.SG.POSS
uchun, biz qayt-ish-imiz kerak.
because 1.PL return-VN-1.PL.POSS necessary

「義務」には, 動名詞に *kerak* [necessary]が続く (「~する必要がある」) 表現を用いる.

- (4) (雨が降るそうだから) 傘を持って出かけたほうがいいよ.

(*Yomgir yog 'ay¹ deb tur-ib-di. Shu-ning uchun*)
rain fall-IMP.1.SG QUOT stand-SPST-3.SG that-GEN because
zonchik ol-ib ket-gan-ing yahshi.
umbrella take-CVB leave-PTCP.PAST-2.SG good

¹ *-ay* は一人称単数命令形である. しかし, インフォーマントによれば, (4)のように *-ay deb tur-ib-di* で「そろそろ~そうだ」と将然を表すこともあるという.

一文目の-*ib*に関して、Bodrogligeti(2003: 691)では、“subjective past”「主観的過去」と説明している。筆者は、この-*ib*にSPSTとグロスを振る。

この場合、動名詞の後に *yaxshi* [good]が続く。この場合、命令形は用いられていない。

(5) 歳を取ったら、子供の言うことを聞くべきだ／ものだ。

(5a) *Yosh katta bo'l-gan-da bola-lar-ning ayt-gan-i-ni*
 age big become-PTCP.PAST-LOC child-PL-GEN say-PTCP.PAST-3.SG.POSS-ACC
qil-ish kerak.
 do-VN necessary

(5b) *Yosh katta bo'l-gan-da katta-lar bola-lar-ning*
 age big become-PTCP.PAST-LOC big-PL child-PL-GEN
ayt-gan-i-ni qil-a-dilar.
 say-PTCP.PAST-3.SG.POSS-ACC do-NPST-3.PL

(5a)では、動名詞の後に *kerak* [necessary]が続いている。

(6) (お腹が空いたので、私は) 何か食べたい。

Qorm-im och-di-ø. Shu-ning uchun nimadir
 stomach-1.SG.POSS empty-PAST-3.SG that-GEN because something
ye-gi-m kel-yap-ti.
 eat-VN-1.SG.POSS come-PROG-3.SG

「希望」を表す場合、-*gi kel-* (「～することが来る」の意) を用いる。-*gi* の後の所有人称接辞 ((6)では-*m* [1.SG]) によって意味上の主語の数・人称が表される。

(7) 私が持ちましょう。

Men ko'tar-ay.
 1.SG lift-IMP.1.SG

一人称の「意志」を表す場合、一人称単数命令形 -(*a*)y が用いられる。

(8) じゃあ、一緒に昼ごはんを食べましょう。

(8a) *Birga ovqat ye-ylik.*
 together meal eat-IMP.1.PL

(8b) *Birga tushlik qil-aylik.*
 together lunch do-IMP.1.PL

(8a)と(8b)は「昼ごはんを食べる」という語彙がそれぞれ異なっている。(8a)は *ovqat ye-* 「食事を食べる」, (8b)は *tushlik qil-* 「昼ごはんを食べる」である。しかし, どちらも「勧誘」には一人称複数命令形 *-(a)ylik* を用いている。

(9) 一緒に昼ごはんを食べませんか?

(9a) *Birga tush-ki ovqat-ni ye-ma-y-miz=mi?*
 together day-ADJLZ meal-ACC eat-NEG-NPST-1.PL=Q

(9b) *Birga tushlik qil-ma-y-miz=mi?*
 together lunch do-NEG-NPST-1.PL=Q

ここでも, (9a)と(9b)で「昼ごはんを食べる」という語彙がそれぞれ異なっている (*tushlik qil-/tush-ki ovqat ye-*)。

どちらも, *-ma-y-miz=mi* [-NEG-NPST-1.PL=Q], つまり否定疑問文を用いている。

(10) 明日, 良い天気になるといいなあ。 / 明日は良い天気になってほしいなあ。

(10a) *Ertaga havo yaxshi bo'l-sa edi-φ.*
 tomorrow weather good become-COND COP.PAST-3.SG

(10b) *Ertaga havo yaxshi bo'l-sa-φ yaxshi edi-φ.*
 tomorrow weather good become-COND-3.SG good COP.PAST-3.SG

この場合, (10a)では *-sa edi-φ* が用いられ, (10b)では *-sa* の後に *yaxshi edi-φ* が続く。

(11) (私はここで待っているから) すぐにそれを持って来なさい。

Men bu yer-da kut-ib tur-a-man. Sen tezda bor-ib
 1.SG this place-LOC wait-CVB stand-NPST-1.SG 2.SG quickly go-CVB
u narsa-ni ol-ib kel.
 that thing-ACC take-CVB come

命令形は動詞語幹のみで形成される。

(12) そのペンをちょっと貸していただけませんか?

Shu ruchka-ni men-ga ber-ib tur-ol-ma-y-siz-mi?
 that pen-ACC 1.SG-DAT give-CVB stand-POT-NEG-NPST-2.PL-Q

丁寧な命令を表す場合, *-(i)b* 副動詞の後に続く補助動詞 *tur-*と *-ol* [POT]と *-ma* [NEG]の組み合わせが用いられる。

-ol [POT]は, *-a /-y ol-*の短縮形であると考えられる。Sjoberg(1963: 129)では, 速く話すと,

-a /-y *ol*が短縮される場合があると述べている。-a /-y *ol*については、次の(13)(14)で説明する。

(13) あの人は中国語が読めます。 /あの人は中国語を読むことができます。

{*U* /*Ana u*} *odam xitoy til-i* {-*da* /-*ni*}
 that very that person China language-3.SG.POSS -LOC -ACC
o'qi-y ol-a-di.
 read-CVB take-NPST-3.SG

-a /-y 副動詞の後に続く補助動詞 *ol*は「可能」を表す (Sjoberg 1963: 129)。

(14) 明かりが暗くて、ここに何て書いてあるのか、読めない。

Chiroq juda xira. Shu-ning uchun bu yer-ga nima deb
 light very vague that-GEN because this place-DAT what QUOT
yozi-il-gan-i-ni o'qi-y ol-ma-yap-man.
 write-PASS-PTCP.PAST-3.SG.POSS-ACC read-CVB take-NEG-PROG-1.SG

-a /-y 副動詞の後に続く補助動詞 *ol*+*-ma* [NEG]は、「不可能」を表す (Sjoberg 1963: 130)。

(15) (朝早く出発したから) 彼らはもう着いているはずだ。 /もう着いたに違いない。

(15a) *Ertarab vaqtli uch-ib ket-gan-i uchun u-lar*
 morning early fly-CVB leave-PTCP.PAST-3.SG.POSS because 3.SG-PL
allaqachon yet-ib bor-gan bo'l-ish-i kerak.
 already reach-CVB go-PTCP.PAST become-VN-3.SG.POSS necessary

(15b) *Ertarab vaqtli uch-ib ket-gan-i uchun u-lar*
 morning early fly-CVB leave-PTCP.PAST-3.SG.POSS because 3.SG-PL
allaqachon yet-ib bo'l-gan-i aniq.
 already reach-CVB become-PTCP.PAST-3.SG.POSS sure

それぞれの用例で用いられている、-(i)b 副動詞の後に続く補助動詞 *bo'l-* [become]は、完了アスペクトを示す (Sjoberg 1963: 133)。

(15a) (「確信」と、(3)と(5a) (「義務」と「評価的義務」)は、動名詞の後に *kerak* が続く構造が用いられている。

(16) (あの人は) 今日にはたぶん来ないだろう。

U odam bugun kel-ma-sa-ø kerak.
 3.SG person today come-NEG-COND-3.SG necessary

- (17) 彼らがまだ来ないなんて, きつと途中で車が壊れたんじゃないか.

U-lar hali ham kel-ma-yap-ti, balki mashina-lari yo'l-da
3.SG-PL yet also come-NEG-PROG-3.SG perhaps car-3.PL.POSS way-LOC
buz-il-gan bo'l-sa-ø kerak.
break-PASS-PTCP.PAST become-COND-3.SG necessary

(16), (17)ともに *-sa kerak* [COND necessary] (*-sa* のあとに動作主の人称と数を表す人称接辞が付く) が用いられている. Bodrogligeti(2003: 876)では, *-sa kerak* は「予期される動作」(Contemplated actions)を表すとしている.

- (18) さあ, (昼間だからあの人は家に) いるかもしれないし, いないかもしれない.

Hozir tushlik vaqt-i bo'l-gan-i uchun, u
now noon time-3.SG.POSS become-PTCP.PAST-3.SG.POSS because 3.SG
odam uy-da bo'l-ish-i ham bo'l-maslig-i
person home-LOC become-VN-3.SG.POSS also become-NEG.VN-3.SG.POSS
ham mumkin.
also possible.

mumkin が「可能性」を表している.

- (19) (額に触ってみて) どうもあなたは熱があるようだ.

Isitma-ngiz bor-ga o'xsha-y-di.
fever-2.PL.POSS exist-DAT seem.like-NPST-3.SG

ここでは, *-ga o'xsha-* 「～に似る」という表現を用いている.

- (20) (天気予報によれば) 明日は雨が降るそうだ.

Obhavo ma'lumoti-ga qara-gan-da, ertaga yomg'ir yog'a-di.
weather.forecast-DAT look-PTCP.PAST-LOC tomorrow rain rain-NPST-3.SG

非過去形が用いられている. *qara-gan-da* は後置詞に相当し (bodrogligeti 2003: 302), 「～によれば」という意味を表す. この *qara-gan-da* は, 前に来る名詞句の与格 (*-ga*) 支配を行う.

視覚情報からの予想は, 次の(20a)のように表される.

(20a) (空を見て) 明日は雨が降りそうだ。

Yomg'ir yog'-sa-ø, kerak
rain rain-COND-3.SG necessary

(16), (17)でも *-sa kerak* [COND necessary] (*-sa* のあとに動作主の人称と数を表す人称接辞が付く) が用いられている。 *-sa kerak* についての説明は、上記(16), (17)を参照されたい。

(21) もしお金があったら、あの車を買うんだけれどなあ。

Agar pul-im bo'l-gan-i-da ana u
if money-1.SG.POSS become-PTCP.PAST-3.SG.POSS-LOC very that
 mashina-ni sotib ol-gan bo'l-ar edi-m.
car-ACC buy-PTCP.PAST become-AOR COP.PAST-1.SG

主節述部に注目すると、*-gan bo'l-* の後に *-ar edi* が続いている。これは以下の(22)でも同様である。

(22) もしあなたが教えてくれていなかったら、私はそこにたどり着けなかったでしょう。

Agar siz o'rgat-ma-gan-igiz-da, men u yer-ga
if 2.PL teach-NEG-PTCP.PAST-2.SG.POSS-LOC 1.SG that place-DAT
 yet-ib bor-ma-gan bo'l-ar edi-m.
reach-CVB go-NEG-PTCP.PAST become-AOR COP.PAST-1.SG

(22)も、(21)と同じように、*-gan bo'l-* の後に *-ar edi* が続いている。

(21)の日本語文では「現在」、(22)では「過去」が表されている。しかし、(21)と(22)におけるウズベク語文では、そのような時制の区別がない。

(23) (あの人は) 街へ行きたがっている。

Ana u odam shahar-ga bor-gi-si kel-yap-ti.
very that person city-DAT go-VN-3.SG.POSS come-PROG-3.SG

(6)でも *-gi kel-* が用いられている。

(24) 僕にもそれを少し飲ませろ。

- (24a) *Men ham un-dan ozgina ich-sa-m mayli-mi?*
1.SG also that-ABL little drink-COND-1.SG okay-Q
- (24b) *Men ham ozgina ich-ay.*
1.SG also little drink-IMP.1.SG

(24a)を文字通り訳せば「私もそれから少し飲んでもいいか?」となり、聞き手に許可を求める表現となっている。(24b)は、一人称単数命令形が用いられている。インフォーマントから、(24a)よりも(24b)をよく用いるとの指摘を得た。

(25) これはあの人に持って行かせろ／持って行かせよう。

Bu narsa-ni ana u odam ol-ib bor-sin.
this thing-ACC very that person take-CVB go-IMP.3.SG

三人称単数命令形 *-sin* が用いられている。

(26) そのテーブルの上のお菓子は後で食べなさい。

U stol-ning ust-i-da-gi shirinlik-lar-ni keyin-roq ye.
that table-GEN top-3.SG.POSS-LOC-ADJLZ snack-PL-ACC after-COMP eat

(11)で述べたように、動詞語幹のみで二人称単数命令形を形成する。遠未来命令形はない。

(27) もっと早く来ればよかった。

Yanada vaqtli-roq kel-sa-m {bo'l-ar-kan
yet.more early-COMP come-COND-1.SG become-AOR-COP
/bo'l-ar ekan}.
become-AOR COP

(1)でも見られた *-sa bo'l-*が(27)でも見られる。*-sa bo'l-*の後に、*-ar ekan* [AOR COP]が続く (*-ar-kan* は *-ar ekan* の短縮形と考えられる)。

(28) あなたも一緒に行ったら (どうですか) ?

Siz ham birga bor {-ing! /-sa-ngiz=chi?}
2.PL also togethergo -IMP.2.PL -COND-2.PL=EMPH

2 人称複数命令形 *-ing* を用いる場合と、条件接辞 *-sa* を用いる場合がある。

(29) オレがそんなこと知るか。

Men bun-day narsa-lar-ni bil-ma-y-man.
1.SG this-like thing-PL-ACC know-NEG-NPST-1.SG

この場合、ウズベク語では、非過去の否定文が用いられる。

(30) これを作った (料理した) のは, お母さんだよな? いいえ, 私が作ったのよ.

Bu narsa-lar-ni sen-ing ona-ng pishir-di-ø shun-day-mi?
 this thing-PL-ACC 2.SG-GEN mother-2.SG.POSS cook-PAST-3.SG that-like-Q
Yo'q, men pishir-di-m.
 no 1.SG cook-PAST-1.SG

この場合, *shun-day-mi* が用いられている.

略号一覧

-		接辞境界	NMLA	nominalize	名詞化
1, 2, 3		各 1, 2, 3 人称	PASS	passive	受身
ABL	ablative	奪格	PAST	past	過去
ABST	abstraction	抽象化	PL	plural	複数
ACC	accusative	対格	POSS	possessive	所有
ADJLZ	adjectivalizer	形容詞化	POT	potential	可能
AOR	aorist	アオリスト	PRF	perfect	完了
CAUS	causative	使役	PROG	progressive	進行
COND	conditional	条件	PRS	present	現在
COP	copula	コピュラ	PTCP	participle	形動詞
CVB	converb	副動詞	Q	question marker	疑問標識
DAT	dative	与格	QUOT	quotation marker	引用標識
GEN	genitive	属格	RECP	reciprocal	相互
IMP	imperative	命令	REFL	reflexive	再帰
LOC	locative	位格	SG	singular	単数
NAME	proper name	固有名詞	SPST	subjunctive past	主観的過去
NEG	negative	否定	VN	verbal noun	動名詞
NPST	non-past	非過去			

参考文献

- Bodrogligeti, András J. E. 2003. *An academic grammar of Modern Literary Uzbek*. München: LINCOM EUROPA.
- Boeschoten, Hendrik 1998. Uzbek. Johanson, Lars and Éva Á. Csató (eds.) *The Turkic languages*, 357-78. London, New York: Routledge.

- 風間伸次郎 2012. 「まえがき—テーマ企画: 特集 ヴォイスとその周辺—」『語学研究所論集 (Journal of the Institute of Language Research)』 17: 1-22.
- Sjoberg, F. Andrée. 1963. *Uzbek Structural Grammar*. Uralic and Altaic Series, Vol.18 Indiana University, Bloomington.
- 庄垣内正弘 1988. 「ウズベク語」 亀井孝・河野六郎・千野栄一編『言語学大辞典（第1巻 世界言語編 上）』 829-833. 東京: 三省堂

サハ語のAspect・Modality・Voice

江畑 冬生

1. はじめに

サハ語はチュルク諸語の1つであり、主としてロシアのサハ共和国で話されている。サハ語の類型的な特徴は日本語に良く似ており、形態的特徴としては接尾辞を主たる語形成の手段とする膠着型言語である。本稿のコンサルタントはNeustroeva Nataliaさん(メギノーカンガラス郡出身, 1976年生まれ女性)とNeustroeva Viktoriaさん(同郡出身, 1977年生まれ女性)である。調査は日本語およびロシア語を媒介言語として行った。

本稿は『語学研究所論集』の3つの特集(第15号の「Aspect」, 第16号の「Modality」, 第17号の「Voiceとその周辺」)の補遺である。

2. Aspect

サハ語のAspectに関わる文法的手段には主として3つがある。(A) Aspect接辞の付加, (B) 定動詞接辞の選択, (C) 補助動詞の使用。まず表1にサハ語動詞形態法の概要を示し、続けてAspectに関わる3つの文法的手段について詳しく述べる。

[表1] 動詞形態法の概要¹

	派生接辞		屈折接辞		
	態	Aspect	極性	動詞語尾	主語の人称・数
動 詞 語 根	使役接辞 再帰接辞 相互共同接辞 受身接辞	多回接辞 強意接辞 完了接辞	否定接辞	定動詞接辞 形動詞接辞 副動詞接辞	1SG/2SG/3SG/ 1PL/2PL/3PL

動詞語幹には、定動詞接辞・形動詞接辞・副動詞接辞のいずれかが必ず付加される²。本稿ではこれら3種の接辞を動詞語尾と総称する。動詞語尾の後には、主語の人称・数を標示する接尾辞が付加される³。否定を表す場合、否定接辞が動詞語尾の前に現れる⁴。否定接辞の前には2

¹ 動詞語根の多くはそのまま動詞語幹として機能するが、一部のものは派生接辞を取り去ってしまうと自立的な動詞語幹とはならない。

² 動詞語幹が明示的屈折接辞を伴わない場合がある。その場合、2人称単数への命令を表す。筆者は、命令法の定動詞接辞(現在肯定)はゼロ形態であり、さらに命令法における2人称単数主語の標示もゼロ形態であると考え。

³ 主語の人称・数を標示する接尾辞には3つの異なるセットがあり、動詞語尾ごとにどのセッ

種類の派生接辞が現れうる。1 つは態の接辞であり、もう 1 つはアスペクトの接辞である。これらの派生接辞は義務的な要素ではない。

先に述べたアスペクトに関わる 3 つの文法的手段のうち、アスペクトの接辞は派生接辞として動詞語幹に付加する。例えば[1]では、多回接辞 *-talaa* が付加され「次々と～した」を表している（なお後に提示するアンケートの例文中には、表 1 で示したアスペクトの接辞を含むものは無い）。

- [1] arassuuuja surunaal-lar-*ui-gar* uustatuja-lar-*ui* suruj-talaa-tuu-*m*
 ロシア 雑誌-PL-POSS.3SG-DAT 記事-PL-ACC 書く-ITER-N.PAST-1SG
 「私はロシアの雑誌に次々と記事を書いた」

定動詞接辞の選択がアスペクトに関わることもある。定動詞のいくつかの法のうち、直説法では 5 つの時制（現在、近過去、遠過去、結果過去、未来）を区別する。過去を表す 3 つの形式は、アスペクトの違いにより使い分けがなされる。

近過去時制（N.PAST の略号を用いる）は、過去の出来事の結果ないし影響が現在まで残ることを含意する。

- [2] massuuuna bar-*da*
 車 行く-N.PAST.3SG
 「車が行った（行ってしまっ、もうここにはない）」

- [3] aččuk-*taa-tuu-ŋ* =duo
 空腹-VBLZ-N.PAST-2SG=Q
 「君は空腹が空いたのか？（今も空腹の状態だ）」

遠過去時制（D.PAST の略号を用いる）は、過去の出来事をひとまとまりに捉えることを含意する。過去を表す 3 つの形式のうち、遠過去時制が最も中立的な意味を持つデフォルトの形式である。

トが選択されるのかが決まっている。主語の標示は、定動詞接辞の後では義務的だが、形動詞接辞・副動詞接辞の後では必ずしも義務的ではない。

⁴ 否定接辞は、後続の動詞語尾と形態的に融合することがある。

[4] semen-i kynnej žie-ti-ger unjuur-but-a
 PSN-ACC PSN 家-POSS.3SG-DAT 呼ぶ-D.PAST-3SG
 「セメンをキュンネイは自宅に招待した」

[5] oskuola-nuu 1992 suul-laax-xa byter-bit-im
 学校-ACC 1992 年-PROP-DAT 終える-D.PAST-1SG
 「私は学校を 1992 年に卒業した」

結果過去時制 (R.PAST の略号を用いる) は、過去の出来事とその結果のみから承知した場合に用いられる。先の遠過去時制と結果過去時制には同一の動詞語尾が用いられるが、主語の人称・数を標示する接尾辞のセットが異なる⁵。結果過去時制では、過去の出来事の過程が把握されていないことが含意される。

[6] xojutaa-buuk-kuun
 遅れる-R.PAST-2SG
 「(遅れて到着した人に対し) 遅かったね」

[7] turuor-an kœr-byt-ter =yhy =da kutaanaxtuuk utuj-bup-pun
 起こす-CV.SEQ 見る-R.PAST-3PL=HS=も 固く 眠る-R.PAST-1SG
 「彼らは [私を] 起こしてみたいけれども、私はぐっすり眠ってしまっていた」

補助動詞がアスペクトに関わることもある。補助動詞が用いられる際、本動詞が副動詞形または形動詞形で先行し、後続の補助動詞が定形の動詞となる。補助動詞の種類により、本動詞がどの形式をとるのが決まっている。例文[8]の補助動詞 *er* (常に補助動詞として用いられ語彙的意味を欠く) は進行を表し、例文[9]の補助動詞 *xaal* 「残る」は完了を表す。

[8] arassuuuja sajd-an er-er
 ロシア 発展する-CV.SEQ AUX-PRES:3SG
 「ロシアは発展しつつある」

⁵ ただし 1 人称複数と 2 人称複数では主語の標示も同一となるため、遠過去と結果過去が形式上まったく同じになる。

- [9] *massutuuna alžan-an xaal-but-a*
 車 壊れる-CV.SEQ 残る-D.PAST-3SG
 「車が壊れてしまった」

以下では、アンケートにより得られたサハ語のデータを示す。

- (1) あの人はもう来た。

ol kihi kel-le
 あの 人 来る-N.PAST:3SG

- (2) あの人はもう来ている。

ol kihi kel-bit
 あの 人 来る-R.PAST:3SG

ol kihi kel-en olor-or
 あの 人 来る-CV.SEQ 座る-PRES:3SG

第2文には補助動詞 *olor* 「座る」が用いられている。この補助動詞は日本語の「いる」に対応するものの1つである。

- (3) あの人はまだ来っていない。

ol kihi kel-e ilik
 あの 人 来る-CV.SML まだ:COP.3SG

ilik 「まだ～しない」は、やや特殊な機能語である。先行する動詞は同時副動詞形になるが、*ilik* 自体は名詞的形態特徴を示し、コピュラ文と同様の人称標示が付加される（なお主語が3人称単数の場合、コピュラはゼロ形態である）。

- (4) あの人はまだ来ない。

ol kihi dæssœ=da kel-e ilik
 あの 人 すでに=も 来る-CV.SML まだ:COP.3SG

- (5) あの人はもうすぐ来る。

ol kihi sotoru kel-ie
 あの 人 間もなく 来る-FUT:3SG

(6) (あつ,) ワーニャが来た.

vanja ih-er
PSN 向かう-PRES:3SG

vanja kel-le
PSN 来る-N.PAST:3SG

vanja kel-en ih-er
PSN 来る-CV.SEQ 向かう-PRES:3SG

(7) おととい, あの人が来たよ.

illeree kyn ol kihi kel-bit-e
2つ前 日 あの 人 来る-D.PAST:3SG

(8) おととい, 彼は来なかったよ.

illeree kyn kini kel-betek-e
2つ前 日 3SG 来る-NEG:D.PAST:3SG

(9) 私はこのリンゴをもう食べた.

min bu jabloko-nuu sie-ti-m
1SG この リンゴ-ACC 食べる-N.PAST:1SG

min bu jabloko-nuu sie-n byter-di-m
1SG この リンゴ-ACC 食べる-CV.SEQ 終わる-N.PAST:1SG

第1文には近過去が用いられる. 第2文には補助動詞として *byter* 「終わる」が用いられ, それが近過去形になっている.

(10) 私はこのリンゴをまだ食べていない.

min bu jabloko-nuu sii ilik-pin
1SG この リンゴ-ACC 食べる:CV.SML まだ-COP:1SG

min bu jabloko-nuu dcessœ=da sii ilik-pin
1SG この リンゴ-ACC すでに=も 食べる-CV.SML まだ-COP:1SG

(11) あの人は今ちょうどこのリンゴを食べています。

ol	kihi	biligin	bu	jabloko-nuu	sii	olor-or
あの	人	今	この	リンゴ-ACC	食べる:CV.SML	座る-PRES:3SG

ol	kihi	biligin	bu	jabloko-nuu	sii	stulž-ar
あの	人	今	この	リンゴ-ACC	食べる:CV.SML	いる-PRES:3SG

どちらの例文にも補助動詞が用いられている。第1文では座って食べていることが含意されるが、第2文では必ずしもそのような含意は無く、例えば歩きながら食べていても良い。

(12) 窓が開いている。

tynnyk	ahaŋas
窓	開いた:COP.3SG

tynnyk	ahaŋas	tur-ar
窓	開いた	立つ-PRES:3SG

tynnyk	ahuuu-laax
窓	開放-PROP:COP.3SG

tynnyk	ahuuu-laax	tur-ar
窓	開放-PROP	立つ-PRES:3SG

第1文、第3文はコピュラ文であり、第2文、第4文は動詞文である。動詞文においては、*ahaŋas* 「開いた」および *ahuuu-laax* 「開放の」は副詞句として働く。

(13) 私は毎朝新聞を読む／読んでいます。

min	xas	sarsuarda	aajuu	xahuuat	aaŋ-a-bun
1SG	いくつ	朝	ごと	新聞	読む-PRES-1SG

min	xas	sarsuarda	aajuu	xahuuat	aaŋ-ar	ide-leex-pin
1SG	いくつ	朝	ごと	新聞	読む-VN.PRES	日課-PROP-COP.1SG

min	xas	sarsuarda	aajuu	xahuuat	aaŋ-aačču-bun
1SG	いくつ	朝	ごと	新聞	読む-ACTOR-COP.1SG

xas 「いくつ」と *aaju* 「ごと」で「朝」を挟んでいる。この *xas* 「いくつ」は無くても同様の意味を表す。第3文の述語は、動詞から派生した行為者名詞である。

(14) あなたは（あなたの）お母さんに似ている。

en ije-ker majgunnuuu-guun
2SG 母-POSS.2SG:DAT 似る:PRES-2SG

en ije-ker majgunnuuu-r =ebik-kin
2SG 母-POSS.2SG:DAT 似る-VN.PRES =MIR-2SG

(15) 私はその頃毎日学校へ通っていた。

ol kem-ŋe min xas kyn aaju oskuola-ka bar-ar
あの 時-DAT 1SG いくつ 日 ごと 学校-DAT 行く-VN.PRES
e-ti-m
AUX-N.PAST-1SG

ol kem-ŋe min xas kyn aaju oskuola-ka sulž-ar
あの 時-DAT 1SG いくつ 日 ごと 学校-DAT いる-VN.PRES
e-ti-m
AUX-N.PAST-1SG

補助動詞 *e* は単独では用いられない。ここでは先行の形動詞と共に過去進行を表している。

(16) 私はモスクワに行ったことがある。

min moskva-ka sulžuu-but-uum
1SG モスクワ-DAT いる-D.PAST-1SG

min moskva-ka bar-a sulžuu-but-uum
1SG モスクワ-DAT 行く-CV.SML いる-D.PAST-1SG

min moskva-ka sulžuu-but-taax-puun
1SG モスクワ-DAT いる-VN.PAST-PROP-COP.1SG

min moskva-ka bar-a sulžuu-but-taax-puun
1SG モスクワ-DAT 行く-CV.SML いる-VN.PAST-PROP-COP.1SG

(17) やっとバスは 走り出した／走り始めた.

avtobus že ajan-naa-ta
バス とうとう 旅-VBLZ-N.PAST:3SG

avtobus že ajan-naa-n bar-da
バス とうとう 旅-VBLZ-CV.SEQ 行く-N.PAST:3SG

(18) きのお彼女はずっと寝ていた.

bežehe kini kyn-y buha utuj-da
昨日 3SG 日-ACC じゅう 眠る-N.PAST:3SG

bežehe kini kyn-y buha utuj-an takus-ta
昨日 3SG 日-ACC じゅう 眠る-CV.SEQ 出る-N.PAST:3SG

(19) 私はそれをちょっと食べてみた.

min iti-ni kuratuk sie-ti-m
私 それ-ACC 少し 食べる-N.PAST:1SG

min iti-ni kuratuk sie-n uul-lu-m
私 それ-ACC 少し 食べる-CV.SEQ 取る-N.PAST:1SG

min iti-ni kuratuk sie-n koer-dy-m
私 それ-ACC 少し 食べる-CV.SEQ 見る-N.PAST:1SG

(20) あの人はそれらをみんなに分け与えた.

ol kihi iti-ni baru-laru-gar yller-de
あの 人 それ-ACC 皆-POSS.3PL-DAT 配る-N.PAST:3SG

ol kihi iti-ni baru-laru-gar yller-en bier-de
あの 人 それ-ACC 皆-POSS.3PL-DAT 配る-CV.SEQ 与える-N.PAST:3SG

baru 「皆」は普通, 所有接辞を付けて「～の皆」のように用いられる.

(21) さあ、私たちは行くよ！

če bihigi bar-dtu-but
さあ 1PL 行く-N.PAST-1PL

če bihigi bar-uax
さあ 1PL 行く-IMP.1DU

第1文では近過去形が用いられている。近過去形は（しばしば意志や勧誘の意味で）未来の事態に用いられることがある。第2文では、聞き手が1人であることが含意される。

(22) 地球は太陽の周りを回っている。

sir kyn-y tœgyryččy ergij-er
大地 太陽-ACC 丸く 回る-PRES:3SG

(23) あの木は今にも倒れそうだ。

ol mas sibiligin=da suul-uox kurduk
あの 木 たった今=も 倒れる-VN.FUT ようだ:COP.3SG

ol mas sibiligin=da oxt-uox kurduk
あの 木 たった今=も 落ちる-VN.FUT ようだ:COP.3SG

sibiligin 「たった今」は例文(11)の *biligin* 「今」に *si-*が付加したものと見なせる。この接頭的要素は生産性が極めて低く、他には指示詞にのみ付加する。

(24) 私はあやうく転ぶところだった。

min alxas-ka oxt-o sus-tuu-m
1SG 誤り-DAT 落ちる-CV.SML AUX-N.PAST-1SG

この例で用いられている補助動詞は語彙的意味を持たず、「～しかける」を表す際に用いられる。同音の動詞に *sus* 「砕く、つぶす」があるが、両者は活用の仕方が異なる。

(25) 明日お客が来るので、パンを買っておく。

sarsuun ualžut-tar kel-el-ler kiliep atuulah-u-a-m ete
明日 客-PL 来る-PRES-3PL パン 買う-FUT-1SG PTCL

sarsuun ualžut-tar kel-el-ler kiliep atuulah-an kebih-ie-m ete
 明日 客-PL 来る-PRES-3PL パン 買う-CV.SEQ AUX-FUT-1SG PTCL

sarsuun ualžut-tar kel-er buol-an-nar kiliep atuulah-an
 明日 客-PL 来る-VN.PRES なる-CV.SEQ-3PL パン 買う-CV.SEQ
 kebih-ie-m ete
 AUX-FUT-1SG PTCL

第2文と第3文で用いられる補助動詞 *kebis* は完了を表す（語彙的意味を持たない）。第1文と第2文は、2つの節の述語がどちらも定形の動詞であり特別な接続表現を持たないが、第3文は先行節の述語が副動詞形になっている。

(26) 私はモスクワに行った時、この袋を買った。

min moskva-ka sulž-an bu paket-ut atuulas-puut-um
 1SG モスクワ-DAT いる-CV.SEQ この 袋-ACC 買う-D.PAST-1SG

(27) 私は～に行く時／行く前に、この袋を買った。

min moskva-ka bar-aaru sulž-an bu paket-ut atuulas-puut-um
 1SG モスクワ-DAT 行く-CV.PURP いる-CV.SEQ この 袋-ACC 買う-D.PAST-1SG

min moskva-ka bar-ua-m innine bu paket-ut atuulas-puut-um
 1SG モスクワ-DAT 行く-VN.FUT-1SG 前に この 袋-ACC 買う-D.PAST-1SG

(28) 私は彼が市場でこの袋を買ったのを知っていた。

kini bu paket-ut uruunak-tan atuulas-puut-ut-n bil-e-bin
 3SG この 袋-ACC 市場-ABL 買う-VN.PAST-3SG-ACC 知る-PRES-1SG

3. モダリティ

サハ語のモダリティに関わる文法的手段には主として4つがある。(A) 動詞の法, (B) 述語に付加する接尾辞, (C) 述語として現れる機能語, (D) 述語に後続する接語. 表2に主節述語の構造を示す.

[表 2] 主節述語の構造

		肯否	時制	人称・数	文の種類
名詞述語		—	—	{ 1SG/1PL/ 2SG/2PL/ 3SG/3PL }	(WHQ/ADM)
動 詞 述 語	直説法	(NEG)	{ PAST/PRES/FUT }		—
	条件法		—		
	確信法				
	危惧法				
	命令法		{ PRES/FUT }		

{ } 内は義務的な要素, () 内は任意の要素
/ により並列された要素はどれか 1 つのみが現れる

サハ語の述語には名詞述語と動詞述語がある。名詞述語には、肯否および時制が標示されない。動詞述語は 5 つの法を形態的に区別する。いずれの法の形式も肯否を区別し、否定を表す際に否定接辞が付加される（否定はしばしば、後続の時制を標示する要素と形態的に融合している）。直説法・命令法では、時制が義務的に区別される。主節述語においては、主語の人称・数の標示が義務的である。さらに名詞述語および動詞述語の直説法では、疑問詞疑問の接尾辞または感嘆の接尾辞が付加されうる。これら 2 つの接尾辞は義務的な要素ではない。

先に述べたモダリティに関わる 4 つの文法的手段のうち、動詞の法および述語に付加する接尾辞については表 2 に示す通りである。定動詞接辞は、5 つの法を区別する。述語に付加する接尾辞には、疑問詞疑問の接尾辞と感嘆の接尾辞がある。

述語として現れる機能語には、例えば *sin* 「やや」がある。この語は単独では主として程度修飾に用いられるが、[1]に示すように形動詞に後続して述語として用いられる際、「～して良い」を表す。

- [1] atun-u kepssee-m-iex-xe sin =duo
 他-ACC 語る-NEG-VN.FUT-DAT やや =Q
 「他のことは話さなくて良いですか？」

述語に後続する接語には、伝聞を表す *yhy* や推測を表す *ini* などがある。[2]は推測を表す接語の例である。なお文末接語（主節述語に後続する接語）について詳細に論じたものに、江畑 (2013a) がある。

- [2] xajdax buol-bup-pu-n ihit-ti-ŋ =ini
 どう なる-VN.PAST-1SG-ACC 聞く -N.PAST-2SG=INFR
 「君は私がどうなったのか聞いただろう」

以下では、アンケートにより得られたサハ語のデータを示す。

- (1) (その仕事が終わったら) もう帰ってもいいですよ。

yle-ŋ byt-teŋ-i-ne žie-lie-x-xi-n sœp
 仕事-POSS.2SG 終わる-VN.NEUT-3SG-PART 家-VBLZ-VN.FUT-2SG-ACC 正しい

yle-ŋ byt-teŋ-i-ne žie-ker bar-uax-xuu-n sœp
 仕事-POSS.2SG 終わる-VN.NEUT-3SG-PART 家-POSS.2SG:DAT 行く-VN.FUT-2SG-ACC 正しい

yle-ŋ byt-teŋ-i-ne žie-ker tœnn-yœx-xy-n sœp
 仕事-POSS.2SG 終わる-VN.NEUT-3SG-PART 家-POSS.2SG:DAT 戻る-VN.FUT-2SG-ACC 正しい

形動詞中立時制形に分格接辞が付加され、時を表す節の述語として機能する。主節の述語は *sœp* 「正しい」である。「～しても良い」を表す場合、形動詞の対格形が先行する。

- (2) (腐っているから) それを食べるな。

bu suttuj-but manuu sie-me
 これ 腐る-R.PAST これ:ACC 食べる-NEG:IMP.2SG

- (3) (遅くなったので) 私たちはもう帰らなければならない。

(xojut buol-la) bihigi tœnn-yœx-pyty-n naada
 遅い なる-N.PAST:3SG 1PL 戻る-VN.FUT-1PL-ACC 必要

bihigi žie-biti-ger bar-uax-puuttu-n naada
 1PL 家-POSS.1PL-DAT 行く-VN.FUT-1PL-ACC 必要

「～しなければならぬ」を表す場合、形動詞の対格形をとる。例文(1)の「～して良い」と同様に、機能語 *naada* 「必要」が述語となる構文である。

(4) (雨が降るそうだから) 傘を持って出かけたほうがいいよ.

ardax tyh-eeri gun-na zontik ilž-e bar-ar-guut orduk
 雨 降る-CV.PURP する-N.PAST:3SG 傘 運ぶ-CV.SML 行く-VN.PRES-2PL 余り
 buol-uo
 なる-FUT:3SG

ardax tyh-eeri gun-na zontik-taax bar-ar-guut orduk
 雨 降る-CV.PURP する-N.PAST:3SG 傘-PORP 行く-VN.PRES-2PL 余り
 buol-uo
 なる-FUT:3SG

orduk「余り」は、「～の方が良い」という意味で用いられる. 動詞 *buol*「なる」の未来形 *buoluo* は定形動詞の後にも現れるため、「だろう」を表す接語として働いているという分析も可能である.

(5) 歳を取ったら, 子供の言うことを聞くべきだ/ものだ.

kihi saahuur-dax-u-na oŋo-lorun tuul-u-n ist-iev-i-n
 人 歳を取る-VN.NEUT-3SG-PART 子-POSS.3PL 言葉-POSS.3SG-ACC 聞く-VN.FUT-3SG-ACC
 naada
 必要

saahuur-but kihi oŋo-lorun tuul-u-n ist-iev-i-n naada
 歳を取る-VN.PAST 人 子-POSS.3PL 言葉-POSS.3SG-ACC 聞く-VN.FUT-3SG-ACC 必要

(6) (お腹がすいたので) 私は何か食べたい.

aččuuk-taa-tu-m tug-u =eme sie-x-pi-n baŋar-a-buun
 空腹-VBLZ-N.PAST-1SG 何-ACC =CLT 食べる-VN.FUT-1SG-ACC 望む-PRES-1SG

aččuuk-taa-tu-m ahuaa-x-pui-n baŋar-a-buun
 空腹-VBLZ-N.PAST-1SG 食べる-VN.FUT-1SG-ACC 望む-PRES-1SG

(7) 私が持ちましょう.

min tut-uum
 1SG 持つ-IMP.1SG

min tut-uo-m
1SG 持つ-FUT-1SG

min tut-a-buun =duo
1SG 持つ-PRES-1SG=Q

min tut-an kœmœlœh-yœ-m
1SG 持つ-CV.SEQ 助ける-FUT-1SG

(8) じゃあ、一緒に昼ご飯を食べましょう。

če baru biirge ebiet-tie-x-xe
じゃあ 皆 一緒に 昼食-VBLZ-VN.FUT-DAT

če baru biirge ebiet-tii-bit =duo
じゃあ 皆 一緒に 昼食-VBLZ:PRES-1PL=Q

če baru biirge ebiet-tie-kin
じゃあ 皆 一緒に 昼食-VBLZ-IMP.1PL

勧誘にはいくつかの形式がある。第1文の「形動詞未来+与格」は、聞き手の数に関係なく用いることができる。それに対し、第3文の形式は、聞き手が複数の時に用いられる（聞き手が単数の場合の形式は「アスペクト」の例文(21)を参照されたい）。

(9) 一緒に昼ごはんを食べませんか？

miigin kutta biirge ebiet-tie-ŋ =duo
1SG:ACC と 一緒に 昼食-VBLZ:FUT-2SG=Q

miigin kutta biirge ebiet-tie-x-xit =duo
1SG:ACC と 一緒に 昼食-VBLZ:FUT-2PL=Q

(10) 明日、良い天気になるといいなあ。／明日は良い天気になってほしいなあ。

sarsuun yčygej kyn buol-ar-a ebite buol-lar
明日 良い 日 なる-VN.PRES-3SG PTCL なる-COND:3SG

sarsun yčygej kyn buol-uo-n baʒar-a-bun
 明日 良い 日 なる-VN.FUT:3SG-ACC 望む-PRES-1SG

(11) (私はここで待っているから) すぐにそれを持って来なさい.

manna keteh-ie-m onu tyrgennik aʒal
 ここで 待つ-FUT-1SG あれ:ACC はやく 持ってくる:IMP.2SG

manna keteh-ie-m onu tyrgennik aʒal-an bier
 ここで 待つ-FUT-1SG あれ:ACC はやく 持ってくる-CV.SEQ 与える:IMP.2SG

(12) そのペンをちょっと貸していただけませんか?

iti uručuka-nuu kuratuk ulars-ua-ŋ=duo
 その ペン-ACC 少し 貸す-FUT-2SG=Q

iti uručuka-nuu kuratuk ulars-a stulž-uax-xuu-n scep=duo
 その ペン-ACC 少し 貸す-CV.SML いる-VN.FUT-2SG-ACC 正しい=Q

(13) あの人は中国語が読めます. /あの人は中国語を読むことができます.

kini kutajduuu kuaj-an aax-ar
 3SG 中国語で できる-CV.SEQ 読む-PRES:3SG

補助動詞の場合とは異なり, 可能を表す動詞 *kuaj* 「できる」はそれ自体が副動詞形になる.

(14) 明りが暗くて, ここに何て書いてあるのか, 読めない.

xaraŋa-ta bert buol-an manna tuox suru-llu-but-u-n
 暗い-POSS.3SG とても なる-CV.SEQ ここに 何 書く-PASS-VN.PAST-3SG-ACC
 kuaj-an aax-pap-pun
 できる-CV.SEQ 読む-NEG:PRES-1SG

xaraŋa baʒaju buol-an manna tuox suru-llu-but-u-n
 暗い とても なる-CV.SEQ ここに 何 書く-PASS-VN.PAST-3SG-ACC
 kuaj-an aax-pap-pun
 できる-CV.SEQ 読む-NEG:PRES-1SG

- (15) (朝早く出発したから) 彼らはもう着いているはずだ。 / もう着いたに違いない。

sarsuarda erde ajaŋ-ŋa tur-un-an kiniler tij-bit
 朝 早く 旅-DAT 立つ-REFL-CV.SEQ 3PL 着く-VN.PAST
 buol-uox-taax-tar
 なる-VN.FUT-PROP-COP.3PL

- (16) (あの人は) 今日はたぶん来ないだろう。

ol kihi bygyn kel-bet-e buoluo
 あの 人 今日 来る-NEG:N.PAST-3SG だろう

例文(4)と同様に文末に *buoluo* が現れるが、ここでは定形動詞の後に現れている。

- (17) 彼らがまだ来ないなんて、きっと途中で車が壊れたんじゃないか。

kiniler dæssœ=da kel-e ilik-ter araaha kel-en ih-en
 3PL すでに =も 来る-CV.SML まだ-COP.3PL たぶん 来る-CV.SEQ 向かう-CV.SEQ
 massuuuna-lara alžan-na buoluo =ee
 車-POSS.3PL 壊れる-N.PAST:3SG だろう =よ

- (18) (昼間だからあの人は家に) いるかもしれないし、いないかもしれない。

biligin ebiet buol-an ol kihi žie-ti-ger baar-a =duu
 今 昼食 なる-CV.SEQ あの 人 家-POSS.3SG-DAT ある-POSS.3SG=Q
 suoB-a =duu kim =da bil-bet
 ない-POSS.3SG=Q 誰 =も 知る-NEG:PRES:3SG

biligin ebiet buol-an ol kihi žie-ti-ger baar =ere suoX =ere
 今 昼食 なる-CV.SEQ あの 人 家-POSS.3SG-DAT ある =CLT ない =CLT
 billi-bet
 分かる-NEG:PRES:3SG

- (19) (額に触ってみて) どうもあなたは熱があるようだ。

(syyh-y-n taaruŋ-an bar-an) temperatura-laax buhuuu-laax-xuun
 額-POSS.3SG-ACC 触れる-CV.SEQ 行く-CV.SEQ 熱-PROP 様子-PROP-COP.2SG

temperatura-la-m-muuk-kuun buhuuu-laax
 熱-VBLZ-REFL-R.PAST-2SG 様子-PROP

第1文中の「行く」の副動詞形 *baran* は、しばしば単に「～してから」の意味で用いられる。第2文の *buhuuulaax* は定形動詞の後に現れており、「様子だ」を表す接語として働いているとも分析可能である。

(20) (天気予報によれば) 明日は雨が降るそうだ。

kyn-y žul-u bilgelee-hin-i ihit-tex-xe sarsuum ardax tyh-er
 日-ACC 年-ACC 予測する-NMLZ-ACC 聞く-VN.NEUT-DAT 明日 雨 降る-VN.PRES
 buhuuu-laax
 様子-PROP:COP.3SG

ardax tyh-er dii-l-ler
 雨 降る-PRES:3SG 言う-PRES-3PL

第1文の *kyn žul* 「天気」は2語で1つの概念を表すが、格接辞等は両方の要素に付加される。第2文は引用文である。動詞 *die* 「言う」は引用標識を必要としない。

(21) もしお金があったら、あの車を買うんだけれどなあ。

xarču-laax-uum ebite buol-lar ol massuuuna-nuu atuuulah-uaa-m ete
 金-PROP-POSS.1SG PTCL なる-COND:3SG あの 車-ACC 買う-FUT-1SG PTCL

(22) もしあなたが教えてくれていなかったら、私はそこにたどり着けなかったでしょう。

suol-u uuj-an bier-betek-ij ebite buol-lar onno
 道-ACC 示す-CV.SEQ 与える-NEG:VN.PAST-2SG PTCL なる-COND:3SG そこに
 bukatun kuaj-an tiij-ie suox =ebip-pin
 全く できる-CV.SEQ 着く-VN.FUT ない=MIR-COP.1SG

(23) あの人は街へ行きたがっている。

ol kiji kuorak-ka bar-ua-n baḡar-ar
 あの 人 町-DAT 行く-VN.FUT:POSS.3SG-ACC 望む-PRES:3SG

ol kiji kuorat-tua-n baḡar-ar
 あの 人 町-VBLZ:VN.FUT:POSS.3SG-ACC 望む-PRES:3SG

(24) 僕にもそれを少し飲ませろ。

miexe emie iti-ni kurratuk ihert =ere
 1SG:DAT も それ-ACC 少し 飲ませる:IMP.2SG=CLT

miexe emie itin-ten kurratuk iherd-ie-ŋ =duo
 1SG:DAT も それ-ABL 少し 飲ませる-FUT.2SG=Q

(25) これはあの人に持っていかせろ／持っていかせよう。

bu manuu ol kihu tut-an il-tin
 これ これ:ACC あの 人 持つ-CV.SEQ 運ぶ-IMP.3SG

bu manuu ol kihixe tut-tar-an uuut-uuax-xa
 これ これ:ACC あの 人:DAT 持つ-CAUS-CV.SEQ 送る-VN.FUT-DAT

(26) そのテーブルの上のお菓子は後で食べなさい。

ostuol-ga baar miññiges ah-uu kenniki sie-r
 テーブル-DAT ある 甘い 食べ物-ACC 後で 食べる-IMP:FUT:2SG

(27) もっと早く来ればよかった。

erde kel-bit-im ebite buol-lar
 早く 来る-VN.PAST-1SG PTCL なる-COND:3SG

(28) あなたも一緒に行ったらどうですか？

en emie biirge bar-uu-tax-xuu-na xajdaḡ-uuḡ
 2SG も 一緒に 行く-RECP-VN.NEUT-2SG-PART どう:COP.3SG-WHQ

(29) オレがそんなこと知るか。

onu bil-ie-m =duo
 あれ:ACC 知る-FUT.1SG=Q

onu bil-bit suox
 あれ:ACC 知る-VN.PAST ない:COP.3SG

onu xantan bil-iex-pin-ij
 あれ:ACC どこから 知る-VN.FUT-COP.1SG-WHQ

第2文を直訳すると「それを知った者はいない」である。

(30) これを作ったのは、お母さんだよ。いいえ、私が作ったのよ。

bu ah-tu ije-ŋ astaa-ta =duo
この 食べ物-ACC 母-POSS.2SG 料理する-N.PAST:3SG=Q
suox beje-m astaa-tuu-m =ee
ない 自分-POSS.1SG 料理する-N.PAST-1SG=よ

4. ヴォイスとその周辺

サハ語のヴォイスに関わる言語形式は、4種類の派生接辞（使役接辞、受身接辞、再帰接辞、相互共同接辞）である。これらはいずれも新たな動詞語幹を生む派生接辞である。使役接辞には8つの異なる形態素がある。サハ語の態のうち特に使役と受身について詳しく論じたものに江畑 (2013b) がある。

以下では、アンケートにより得られたサハ語のデータを示す。

(1a) (風で) ドアが開いた。

(tual-tan) aan ah-ultun-na
風-ABL ドア 開ける-PASS-N.PAST:3SG

aan ah-tull-an xaal-la
ドア 開ける-PASS-CV.SEQ 残る-N.PAST:3SG

(1b) 彼がドアを開けた。

kini aan-uu as-ta
3SG ドア-ACC 開ける-N.PAST:3SG

(1c) 入口のドアが開けられた。

kiir-er aan ah-ultun-na
入る-VN.PRES ドア 開ける-PASS-N.PAST:3SG

kiir-er aan-uu as-tuu-lar
入る-VN.PRES ドア-ACC 開ける-N.PAST-3PL

第2文のように3人称複数主語の形式を用いて、不定人称文が作られることがある。

(2) 私は自分の弟を立たせた。

min buraap-puu-n tur-uor-du-m
1SG 弟-POSS.1SG-ACC 立つ-CAUS-N.PAST-1SG

(3) 私は自分の弟に歌を歌わせた。

min buraap-puu-nan uuruu uulla-t-tu-m
1SG 弟-POSS.1SG-INST 歌 歌う-CAUS-N.PAST-1SG

(4a) (遊びたがっている) 子供に母親はパンを買いに行かせた。

(ooñnuo-n bakar-but) oŋo-nu ije-te kiliep atuulah-a
遊ぶ-VN.FUT:3SG-ACC 望む-VN.PAST 子-ACC 母-POSS.3SG パン 買う-CV.SML
uuut-ta
送る-N.PAST:3SG

oŋo-nu ije-te kiliep atuulah-un-nar-a uuut-ta
子-ACC 母-POSS.3SG パン 買う-REFL-CAUS-CV.SML 送る-N.PAST:3SG

動詞 *atuulas* 「買う」は、*atuulaa* 「売る」に相互共同接辞-*s* が付加したものである。相互共同接辞に使役接辞が後続する場合、間に再帰接辞を挟まなければならない。

(4b) 遊びに出たがっている子供を母親は遊びに行かせた。

ooñnuu taxs-uaa-n bakar-but oŋo-nu ije-te
遊ぶ-CV.SML 出る-VN.FUT:3SG-ACC 望む-VN.PAST 子-ACC 母-POSS.3SG
ooñno-t-o uuut-ta
遊ぶ-CAUS-CV.SML 送る-N.PAST:3SG

(5a) 私は弟に服を着せた。

min buraap-puu-n tarjun-nar-du-m
1SG 弟-POSS.1SG-ACC 着る-CAUS-N.PAST-1SG

min buraap-par tarjas kete-t-ti-m
1SG 弟-POSS.1SG-DAT 服 身につける-CAUS-N.PAST-1SG

(5b) 私は弟にその服を着させた.

min buuraap-par bu taḡah-uu kete-t-ti-m
1SG 弟-POSS.1SG:DAT この 服-ACC 身につける-CAUS-N.PAST-1SG

min buuraap-puu-n bu taḡah-unaan taḡuun-nar-duu-m
1SG 弟-POSS.1SG-ACC この 服-INST 着る-CAUS-N.PAST-1SG

(6) 私は弟にその本をあげた.

min buuraap-par bu kinige-ni bier-di-m
1SG 弟-POSS.1SG:DAT この 本-ACC 与える-N.PAST-1SG

(7a) 私は弟に本を読んであげた.

min buuraap-par kinige aax-tuu-m
1SG 弟-POSS.1SG:DAT 本 読む-N.PAST-1SG

min buuraap-par kinige aax-an bier-di-m
1SG 弟-POSS.1SG:DAT 本 読む-CV.SEQ 与える-N.PAST-1SG

min buuraap-par kinige aax-an ihit-in-ner-di-m
1SG 弟-POSS.1SG:DAT 本 読む-CV.SEQ 聞く-REFL-CAUS-N.PAST-1SG

(7b) 兄は私に本を読んでくれた.

ubaj-tum miexe kinige aax-an bier-de
兄-POSS.1SG 1SG:DAT 本 読む-CV.SEQ 与える-N.PAST:3SG

ubaj-tum miexe kinige aax-ta
兄-POSS.1SG 1SG:DAT 本 読む-N.PAST:3SG

(7c) 私は母に髪の毛を切ってもらった.

min ije-ber battax-puu-n kuruuj-tar-duu-m
1SG 母-POSS.1SG:DAT 髪-POSS.1SG-ACC 切る-CAUS-N.PAST-1SG

(8a) 私は自分の体を洗った.

min suu-n-nu-m
1SG 洗う-REFL-N.PAST-1SG

min ep-pi-n suu-n-nu-m
 1SG 肉-POSS.1SG-ACC 洗う-REFL-N.PAST-1SG

(8b) 私は手を洗った.

min ilii-bi-n suu-n-nu-m
 1SG 手-POSS.1SG-ACC 洗う-REFL-N.PAST-1SG

(8c) 彼は手を洗った.

kini ilii-ti-n suu-n-na
 3SG 手-POSS.3SG-ACC 洗う-REFL-N.PAST:3SG

(9) 私は自分のためにその本を買った.

min beje-ber bu kinige-ni atuuulas-tuu-m
 1SG 自分-POSS.1SG:DAT この 本-ACC 買う-N.PAST-1SG

(10) 彼らは互いに殴り合った.

kiniler beje beje-leri-n kuutta oxs-us-tu-lar
 3PL 自分 自分-POSS.3PL-ACC と 殴る-RECP-N.PAST-3PL

「互いに」を表すには、*beje*「自分」を重複させる。この場合、屈折接辞は第2要素にのみ付加される。

(11) その人たちはみな一緒に町へ出発した.

ol žon-nor baru biirge kuorak-ka ajan-naa-tuu-lar
 あの 人々-PL 皆 一緒に 町-DAT 旅-VBLZ-N.PAST-3PL

ol žon-nor baru biirge kuorak-ka bar-dtu-lar
 あの 人々-PL 皆 一緒に 町-DAT 行く-N.PAST-3PL

ol žon-nor baru biirge kuorat-taa-tuu-lar
 あの 人々-PL 皆 一緒に 町-VBLZ-N.PAST-3PL

(12) この映画は泣ける.

bu kiine kihi-ni utta-t-ar
 この 映画 人-ACC 泣く-CAUS-PRES:3SG

kihi bu kiine-ni koer-oen utuuu-r
 人 この 映画-ACC 見る-CV.SEQ 泣く:PRES-3SG

(13a) 私は卵を割った.

min sumuuut-uu alžat-tuu-m
 1SG 卵-ACC 壊す-N.PAST-1SG

(13b) (うっかり落として) 私はコップを割った/割ってしまった.

(alxas-ka umsa tut-an kebih-en) min čaaskuu-nuu
 誤り-DAT 逆さに 持つ-CV.SEQ AUX-CV.SEQ 1SG コップ-ACC
 alžat-an kebis-ti-m
 壊す-CV.SEQ AUX-N.PAST-1SG

min čaaskuu-nuu yltyryt-en kebis-ti-m
 1SG コップ-ACC 砕く-CV.SEQ AUX-N.PAST-1SG

(14a) きのうち私はコーヒーを飲みすぎて眠れなかった.

bešehe ahara kofe ih-en kebih-en kuaj-an
 昨日 過ぎて コーヒー 飲む-CV.SEQ AUX-CV.SEQ 出来る-CV.SEQ
 utuj-bat-uum
 眠る-NEG:N.PAST-1SG

bešehe ahara kofe ih-en kebih-en olox utuj-bat-uum
 昨日 過ぎて コーヒー 飲む-CV.SEQ AUX-CV.SEQ 全く 眠る-NEG:N.PAST-1SG

「～しすぎる」を表すには、動詞 *ahar* 「通り過ぎる」の副動詞形を起源とする副詞 *ahara* を用いる.

(14b) きのうち私は仕事がたくさんあって眠れなかった.

bešehe yle-m elbex buol-an kuaj-an utuj-bat-uum
 昨日 仕事-POSS.1SG 多い なる-CV.SEQ できる-CV.SEQ 眠る-NEG:N.PAST-1SG

bešehe yle-m elbex buol-an olox utuj-bat-uum
 昨日 仕事-POSS.1SG 多い なる-CV.SEQ 全く 眠る-NEG:N.PAST-1SG

(15) 私は頭が痛い。

tcebcce-m uualž-ar
 頭-POSS.1SG 病む-PRES:3SG

動詞 *uaruj* 「病む」は、「痛い」の意味でも用いられる。

(16) あの女性は髪が長い。

ol žaxtar battax-a uhun
 あの 女性 髪-POSS.3SG 長い:COP.3SG

ol žaxtar uhun battax-taax
 あの 女性 長い 髪-PROP:COP.3SG

(17a) 彼はあの人の肩を叩いた。

kini ol kihi-ni saruŋ-ŋa oŋus-ta
 3SG あの 人-ACC 肩-DAT 叩く-N.PAST:3SG

kini ol kihi-ni sann-uu-n taptaj-da
 3SG あの 人-ACC 肩-POSS.3SG-ACC トントンする-N.PAST:3SG

(17b) 彼はあの人の手をつかんだ。

kini ol kihi-ni ilii-ti-tten uul-la
 3SG あの 人-ACC 手-POSS.3SG-ABL 取る-N.PAST:3SG

(18a) 私は彼がやって来るのを見た。

min kini kel-en ih-er-i-n kcer-byt-ym
 1SG 3SG 来る-CV.SEQ 向かう-VN.PRES-3SG-ACC 見る-D.PAST-1SG

(18b) 私は彼が今日来ることを知っている。

min kini bygyn kel-er-i-n bil-e-bin
 1SG 3SG 今日 来る-VN.PRES-3SG-ACC 知る-PRES-1SG

min kini bygyn kel-iex-teeŋ-i-n bil-e-bin
 1SG 3SG 今日 来る-VN.FUT-PROP-POSS.3SG-ACC 知る-PRES-1SG

(19) 彼は自分のほうが勝つと思った。

kini beje-ti-n kuaj-ua-m dii sanaa-buit-a
3SG 自分-POSS.3SG-ACC 勝つ-FUT-1SG と 思う-D.PAST-3SG

kini beje-ti-n kuaj-ar-uum buoluo dii sanaa-buit-a
3SG 自分-POSS.3SG-ACC 勝つ-VN.PRES-1SG だろう と 思う-D.PAST-3SG

引用標識には、動詞 *die* 「言う」の副動詞形 *dii* または *dien* を用いる。引用標識として *dii* を用いるのは思考動詞 *sanaa* 「思う」に限られる。

(20a) 私はコップの水の一部を飲んだ。

min ustakaan-naax uu-ttan is-ti-m
1SG コップ-PROP 水-ABL 飲む-N.PAST-1SG

min ustakaan-naax uu-ttan ih-en uul-luu-m
1SG コップ-PROP 水-ABL 飲む-CV.SEQ 取る-N.PAST-1SG

(20b) 私はコップの水を全部飲んだ。

min ustakaan-naax uu-nu baru-ttu-n ih-en kebis-ti-m
1SG コップ-PROP 水-ACC 皆-POSS.3SG-ACC 飲む-CV.SEQ AUX-N.PAST-1SG

min ustakaan-ŋa baar uu-nu baru-ttu-n ih-en kebis-ti-m
1SG コップ-DAT ある 水-ACC 皆-POSS.3SG-ACC 飲む-CV.SEQ AUX-N.PAST-1SG

(21) あの人は肉を食べない。

ol kihi et-i sie-bet
あの 人 肉-ACC 食べる-NEG:PRES:3SG

(22a) 今日は寒い。

bygyn tumnuuu
今日 寒い-COP.3SG

(22b) 私はなんだか寒い。

min xajdax =ere toŋ-or kurduk-pun
1SG どう =CLT 凍える-VN.PRES ようだ-COP.1SG

(23) 私は人がとても多いのに驚いた.

min kibi elber-i-tten sohu-j-du-m
1SG 人 多い-POSS.3SG-ABL 驚く-N.PAST-1SG

min elbex kibi muññus-tu-but-u-ttan sohu-j-du-m
1SG 多い 人 集まる-REFL-VN.PAST-3SG-ABL 驚く-N.PAST-1SG

sohu-j 「驚く」のような感情動詞は、感情の生じる原因として奪格をとる.

(24) 雨が降ってきた.

ardax tyh-en bar-da
雨 降る-CV.SEQ 行く-N.PAST:3SG

ardax tyh-en er-er
雨 降る-CV.SEQ AUX-PRES:3SG

(25) その本は良く売れる.

bu kinige yčygejdik atuuula-n-ar
この 本 良く 売る-REFL-PRES:3SG

bu kinige-ni yčygejdik atuuulah-al-lar
この 本-ACC 良く 買う-PRES-3PL

第2文は不定人称文である.

略号

ABL	奪格	DU	双数	POSS	所有接辞
ACC	対格	FUT	未来	PRES	現在
ACTOR	行為者名詞	HS	伝聞	PROP	propriative
ADM	感嘆	IMP	命令法	PSN	人名
AUX	補助動詞	INFR	推測	PTCL	小辞
CAUS	使役接辞	INST	具格	Q	疑問
CLT	接語	ITER	多回接辞	RECP	相互共同接辞
COND	条件法	MIR	mirative	REFL	再帰接辞
COP	コピュラ	NEG	否定	R.PAST	結果過去
CV.PURP	目的副動詞	NMLZ	名詞化	SG	単数
CV.SEQ	継起副動詞	N.PAST	近過去	VBLZ	動詞化
CV.SML	同時副動詞	PART	分格	VN	形動詞
DAT	与格	PASS	受身接辞	VN.NEUT	形動詞中立時制
D.PAST	遠過去	PL	複数	WHQ	疑問詞疑問

参考文献

江畑冬生 (2013a) 「対事的モダリティ・対人的モダリティを表すサハ語の文末接語」 北方言語ネットワーク 編『北方言語研究』3号, 69-83.

江畑冬生 (2013b) 「サハ語の使役文と受動文 -二重対格使役文と非人称受動文を中心に-」 『北方人文研究』6号, 65-81. 北海道大学大学院文学研究科 北方研究教育センター.

<補遺>

トゥバ語のAspect・Modality・Voice

風間 伸次郎, 江畑 冬生

1. はじめに

トゥバ語はチュルク諸語の1つであり、主としてロシアのトゥバ共和国で話されている。トゥバ語の類型的な特徴は日本語に良く似ており、形態的特徴としては接尾辞を主たる語形成の手段とする膠着型言語である。本稿のコンサルタントは Arzhaana Syuryun さん（トゥバ共和国西部 Кызыл-Мажалык 出身、1982年生まれ女性）である。調査はロシア語を媒介言語として行った。本稿は『語学研究所論集』の3つの特集（第15号の「Aspect」、第16号の「Modality」、第17号の「Voiceとその周辺」）の補遺である。まず以下に、トゥバ語の動詞形態法の概要およびテンス・Aspect体系の概要を示す。

[表1] 動詞形態法の概要

	派生接辞		屈折接辞		
	態	Aspect	極性	動詞語尾	主語の人称・数
動詞語根	使役 再帰 相互共同 受身	-кыла (多回) -васта (中止) -выт (完了)	NEG	定動詞接辞 形動詞接辞 副動詞接辞	-(ы)м/-(ы)н/-(ы)выс/-(ы)нар/-(ы) =мен/=сен/=бис/=силер/ ø (1SG/2SG/1PL/2PL/3)

ここでは母音調和および子音交替による接辞の異形態を示していない

表1には、トゥバ語動詞形態法の概要を示す。動詞語幹には、定動詞接辞・形動詞接辞・副動詞接辞のいずれかが必ず付加される。本稿ではこれら3種の接辞を動詞語尾と総称する。定動詞接辞には、直説法・命令法・条件法などの法の区別がある。

動詞語尾の後には主語の人称・数を標示する接尾辞が付加されるか、あるいは主語の人称・数を標示する接語が後続する。否定を表す場合、否定接辞が動詞語尾の前に現れる¹。否定接辞の前には2種類の派生接辞が現れうる。1つは態の接辞であり、もう1つはAspectの接辞である。これらの派生接辞は義務的な要素ではない。

表2には、形態法から見たトゥバ語のテンス・Aspect体系の概要を示す²。直説法に限れば、トゥバ語において主節述語として用いられる形式には11種がある。大きく分けると、語幹

¹ 否定接辞は、後続の動詞語尾と形態的に融合することがある。

² 表2の作成には Isxakov and Pal'mbax (1961), Krueger (1977), Anderson and Harrison (1999), 高島 (2008) を参照した。英語による各名称は progressive 「進行」を除き Krueger (1977) のものである。

に直接動词语尾が付加するもの、副動詞に補助動詞 (AUX の略号を用いる) が後続するもの、副動詞に接辞が付加するものがある。補助動詞には *тур* 「立つ」、*олур* 「座る」、*чыг* 「伏す」、*чору* 「行く」があり、これらは主語の置かれている状態により使い分けられる。副動詞に付加する接辞 *-тыр* と *-дыр* は異形態の関係にある (さらにそれぞれ母音調和による異形態を有する)。この接尾辞 *-дыр* は名詞述語にも付加する。本稿では Anderson and Harrison (1999) に倣いこの接尾辞を *assertive* と呼ぶ (ASSRTV の略号を用いる)。

[表 2] テンス・アスペクト体系の概要

	形成法	名称	意味
語幹から	-ар/-ыр	アオリスト present-future	一般的・習慣的行為を表す
	-ган	不定過去 past indefinite	
	-ды	確実過去 past categorical	
	-жык	確認過去 past rhetorical	
	-вышпаан	継続 past-present	「今も～し続けている」を表す
	-галак	未来 future	
副動詞 -п または -а から	-п + AUX	確実現在 present factual	
	-п + AUX-ган	定過去 past definite	「～していた」を表す
	-п + AUX-ар	進行 progressive	「～している」を表す
	-п-тыр	推測過去 past narrative	「～だそうだ、～らしい」を表す
	-а-дыр	知覚 present reported	「～が聞こえる、～と感じる」等を表す

2. トゥバ語例文データ

以下では、アンケートにより得られたトゥバ語のデータを示す。例文はトゥバ語正書法により表記する。ただし正書法上のハイフン (-) の代わりに、イコール (=) を用いた。

2.1. アスペクトの例文

(1) あの人はもう来た。

Ол кижичед-ип кел-ди.
that person reach-CV come-PAST

(2) あの人はもう来ている。

Ол кижিশагда=ла чед-ип кел-ди.
that person already =CLT reach-CV come-PAST

(3) あの人はまだ来ていない。

Ол кижиге ам=даа кел-бе-ди.
that person now=EMPH come-NEG-PAST

(5) あの人はもうすぐ来る。

Ол кижиге удавас (чед-ип) кел-ип.
that person soon reach-CV come-AOR

(7) 昨日, サーシャが来た。

Дүүн Саша кэ-эп чор-ду.
yesterday PSN come-CV go-PAST

кэ-эп は кел-ип が縮約したものである。トゥバ語ではこのような縮約が頻繁に生じる。

(8) 昨日, サーシャは来なかった。

Дүүн Саша кел-бе-ди.
yesterday PSN come-NEG-PAST

(9) 私はあのリンゴをもう食べた。

Мен ол яблук-ту чип-ти-м.³
1SG that apple-ACC eat-PAST-1SG

(10a) 私はあのリンゴをまだ食べていない。

Мен ол яблук-ту ам=даа чи-ве-ди-м.
1SG that apple-ACC now=EMPH eat-NEG-PAST-1SG

(10b) 私は今そのリンゴを食べていない。

Мен амдыбызында ол яблук-ту чи-вес мен.
1SG at.the.moment that apple-ACC eat-NEG:AOR 1SG

(11) あの人はそのリンゴを今食べている。

Ол кижиге ол яблук-ту ам чи-п олур.
that person that apple-ACC now eat-CV AUX

(12a) 窓が開いている。

Соңга ажык.
window open

³ чип は чи- 「食べる」 の語幹の (語彙的に条件づけられた) 異形態である。

(12b) 窓が開いていた.

Соңга ажык тур-ган.
window open AUX-PAST

(13) 私は毎日新聞を読む.

Мен хүн-нүнц=не солун номчу-ур мен.
1SG day-GEN=EMPH news read-AOR 1SG

時を表す名詞の属格形に接語=ла (ここでは異形態=не) が付加すると、「～毎に」を表す.

(14) あなたはあなたのお母さんに似ている.

Сен ава-ң-га дөмей сен.
2SG mother-POSS.2SG-DAT alike 2SG

(15) その頃私は毎日学校に通っていた.

Ынчан мен хүн-нүнц(=не) школа ба-ар тур-ган мен.
that 1SG day-GEN=EMPH school go-AOR AUX-PAST 1SG

(16) 私はモスクワに行ったことがある.

Мен Москва-га чора-ан мен.
1SG Moscow-DAT go-PAST 1SG

Мен Москва-га бар-ган мен.
1SG Moscow-DAT go-PAST 1SG

第1文の чораан は чору-ган の縮約である.

(17) やっとバスは走りだした.

Ам=на автобус шимче-й бер-ди.
now=EMPH bus move-CV give-PAST

(18) 昨日彼女はずっと寝ていた.

Дүүн ол бүдүн хүн уда-ан.
yesterday 3SG whole day sleep-PAST

удаан は уду-ган の縮約である.

(19) 私はそれをちょっと食べてみた.

Мен бичии шене-п-ти-м.
1SG little try-PRF-PAST-1SG

Мен бичии амза-п-ты-м.
 1SG little taste-PRF-PAST-1SG

接辞-п は副動詞接辞-(ы)п と表面上は同形であるが、完了相の接辞-(ы)ыт の後半部分が脱落したものである。なお完了相の接辞は「副動詞-(ы)п + 動詞 ыт」を起源とする[高島 (2008: 127)].

(20) あの人はそれをみんなに分け与えた。

Ол кижии он-у шуппу-зу-н-га үле-п бер-ди.
 that person that-ACC all-POSS.3-N-DAT divide-CV give-PAST

Ол кижии он-у шуппу-вус-ка үле-п бер-ди.
 that person that-ACC all-POSS.1PL-DAT divide-CV give-PAST

第1文中の与格接辞の前の-н は pronominal ‘n’ と呼ばれるもので、3人称所有接辞と一部の格接辞の中間に挿入されるものである。

(21) さあ、私たちは行くよ！

Че, чор-уул(у). / чор-уулунар.
 then go-IMP.1DU/ go-IMP.1PL

主語が2人(聞き手が1人)ならば前者の形式が、主語が3人以上(聞き手が複数)ならば後者の形式が用いられる。

(22) 地球は太陽の周りをまわっている。

Чер хүн-нү долга-н-ып тур-ар.
 earth sun-ACC turn-REFL-CV AUX-AOR

Чер хүн долгандыр чор-уп тур-ар.
 earth sun around go-CV AUX-AOR

第2文の долгандыр はここでは後置的に用いられるが、副詞的に用いられることもある。

(23) この木は今にも倒れそうだ。

Бо ыяш аңдар-л-ыр чыгыгы.
 this wood turn.over-PASS-AOR almost

(24) 私はあやうく転ぶところだった。

Аңдар-л-ып ка-ар час-ты-м.
 turn.over-PASS-CV put-AOR nearly.to.do-PAST-1SG

каар は каг-ар の縮約である。動詞 каг 「置く、投げる」を補助動詞として用いると完成性を

表す。動詞 час「誤る」を補助動詞として用いると「あやうく～しかける」を表す。

(25) 明日お客が来るので、パンを買っておく。

Эртен	аалчы-лар	кэ-эр	хлеб	сад-ып	ал-ыр	херек.
morning	guest-PL	come-AOR	bread	sell-CV	take-AOR	need

Эртен	аалчы-лар	кэ-эр	хлеб	сад-ып	ал-ыр	бол-за	эки.
morning	guest-PL	come-AOR	bread	sell-CV	take-AOR	become-COND	good

кээр は кел-ир の縮約である

(26) 私はこのカバンを市場に行って買った。

Бо	сумка-ны	рынок	бар-ып	чор-аш	сад-ып	ал-ды-м.
this	bag-ACC	market	go-CV	go-CV	sell-CV	take-PAST-1SG

чорааш は чору-гаш の縮約である。副動詞-гаш は「～してから、～したので」を表す。

(27a) 私はこのカバンを市場に行く時に買った。

Бо	сумка-ны	рынок	бар	чыт-каш	сад-ып	ал-ды-м.
this	bag-ACC	market	go	AUX-CV	sell-CV	take-PAST-1SG

Бо	сумка-ны	рынок	ба-ар-ы-нын	мурн-у-н-да	сад-ып	ал-ды-м.
this	bag-ACC	market	go-AOR-POSS.3-GEN	front-POSS.3-N-LOC	sell-CV	take-PAST-1SG

第1文の бар は бар-ар (行く-AOR) の縮約 баар の短母音化した形式と見られる。

(28) 私は彼がカバンを市場で買ったと知っていた。

Ол	сумка-ны	рынок-тан	сад-ып	ал-ган	де-п	бил-ир
3SG	bag-ACC	market-ABL	sell-CV	take-PAST	say-CV	know-AOR

тур-ган	мен.
AUX-PAST	1SG

動詞 де「言う」の副動詞形 деп は、引用標識の役割を果たす。

2.2. モダリティの例文

(1) もう帰ってもいいですよ。

Чан-ып	бол-ур	силер.
go.home-CV	become-AOR	2PL

Чан-ып шыда-ар силер.
go.home-CV can-AOR 2PL

2人称複数を表す形式 силер は、目上の単数の人にも用いられる。

(2a) それを食べてはいけない。

Мо-ну чи-п бол-бас.
this-ACC eat-CV become-NEG:AOR

Мо-ну чи-вас.
this-ACC eat-NEG:AOR

(2b) それを食べるな。

Мо-ну чи-п шыда-вас сен.
this-ACC eat-CV can-NEG:AOR 2SG

Чи-ве.
eat-NEG:IMP:2SG

(3) 私たちはもう帰らなければならない。

Чан-ар ужур-луг бис.
go.home-AOR obligation-PROP 1PL

Чан-ар бол-зу-вус-са эки.
go.home-AOR become-COND-1PL-COND good

第2文では条件法の動詞が現れる。他のチュルク諸語とは異なり、トゥバ語の条件法の形式は1・2人称で条件法接辞が2つ現れる。

(4) 傘を持って出かけた方がいいよ。

Зонтик а-п ал-ыр бол-зу-нар-за эки.
umbrella take-CV take-AOR become-COND-2PL-COND good

Зонтик а-п ал-ыр бол-за эки.
umbrella take-CV take-AOR become-COND good

а-п は ал-ып の縮約である。第2文にあるように、条件法の3人称では人称・数の標示が無い。

(5) 歳を取ったら、子供の言うことを聞くべきだ。

Кыры-й бер-геш, уруг-лар-ы-н дынна-ар бол-за эки.
get.old-CV give-CV child-PL-POSS.3-ACC listen-AOR become-COND good

Кыры-й бер-геш, уруг-лар-ы-н дыңна-ар херек.
 get.old-CV give-CV child-PL-POSS.3-ACC listen-AOR need

Кыры-й бер-геш, уруг-лар-ынар-ны дыңна-ар ужур-луг силер.
 get.old-CV give-CV child-PL-POSS.2PL-ACC listen-AOR obligation-PROP 2PL

(6) 私は何か食べたい。

Ашта-п тур мен.
 be.hungry-CV AUX 1SG

(7) 私が持ちましょう。

Мен чедир-ж-ип бер-ейн.
 1SG deliver-COOP-CV give-IMP.1SG

Мен көдүр-ж-үп бер-ейн.
 1SG lift-COOP-CV give-IMP.1SG

(8) じゃあ、一緒に昼ごはんを食べましょう。

Че, кады чемнен-ип ал-ыылынар.
 then together dine-CV take-IMP.1PL

ここでは主語が3人以上（聞き手が2人以上）であることが含意される。主語が2人（聞き手が1人）ならば、述語の形式はал-ыылыとなる。

(9) 一緒に昼ごはんを食べませんか？

Мээн=биле чемнен-ип силер бе?
 1SG:GEN=INST dine-AOR 2PL Q

Кады чемнен-ип ал-ыр бис бе?
 together dine-CV take-AOR 1PL Q

コンサルタントによれば、第2文の方がより良いという。

(10) 明日、良い天気になるといいなあ。／明日は良い天気になってほしいなあ。

Эртен агаар эки бол-ган бол-за.
 tomorrow weather good become-PAST become-COND

Эртен агаар эки бол-ган бол-за, эки.
 tomorrow weather good become-PAST become-COND good

(11) すぐにそれを持って来なさい.

Дүргөн эккел.
fast bring:IMP.2SG

Бо дораан эккел.
this immediately bring:IMP.2SG

(12) このペンをちょっと貸していただけませんか?

Бо ручка-ны менээ бэ-эр силер бе?
this pen-ACC 1SG:DAT give-AOR 2PL Q

Бо ручка-ны менээ бер-инер-ем.
this pen-ACC 1SG:DAT give-IMP:2PL-POL

接尾辞-ам (ここでは異形態-ем) には命令を和らげる働きがある.

(13) あの人は中国語が読めます. /あの人は中国語を読むことができます.

Ол кыдат-та-п номчу-п бил-ир.
3SG Chinese-VBLZ-CV read-CV know-AOR

(14) 明りが暗くて, ここに何て書いてあるのか, 読めない.

Мен мо-ну номчу-п чада-п тур мен, караңгы-дыр.
1SG this-ACC read-CV cannot-CV AUX 1SG dark-ASSRTV

Мен мо-ну номчу-п шыда-вас мен, караңгы-дыр.
1SG this-ACC read-CV can-NEG:AOR 1SG dark-ASSRTV

Номчу-тгун-мас-тыр, мында караңгы.
read-REFL-NEG:AOR-ASSRTV here dark

第3文の接尾辞-тгун は, 本来は使役接辞と再起接辞の合成接辞である.

(15) 彼らはもう着いているはずだ. /もう着いたに違いない.

Олар ынаар чед-е бер-ген тур-ар уjur-лут.
3PL there reach-CV give-PAST AUX-CV obligation-PROP

(16) あの人は今日はたぶん来ないだろう.

Ол кел-бес хевир-лиг.
3SG come-NEG:AOR shape-PROP

(17) 彼らがまだ来ないなんて、きっと途中で車が壊れたんじゃないか。

Олар	ам=даа	кел-бэ-эн,	машина-зы	үре-л-ген	чада-вас.
3PL	now =EMPH	come-NEG-PAST	car-POSS.3	destroy-PASS-PAST	cannot-NEG:AOR

Олар	ам=даа	кел-бэ-эн,	машина-зы	үре-л-ген	хевир-лиг.
3PL	now =EMPH	come-NEG-PAST	car-POSS.3	destroy-PASS-PAST	shape-PROP

Олар	ам=даа	кел-бэ-эн.	Машина-зы	үре-л-и	бер-бэ-эн	бе?
3PL	now =EMPH	come-NEG-PAST	car-POSS.3	destroy-PASS-CV	give-NEG:PAST	Q

第1文の чадавас はここでは形態素分析を施したが、全体として「かもしれない」の意味で用いられる。

(18) あの人は家にいるかもしれないし、いないかもしれない。

Бажы-ы-н-да	ирги	бе,	(бил-бес	мен).
house-POSS.3-N-LOC	MOD	Q	know-NEG:AOR	1SG

Бажы-ы-н-да	бар	ирги	бе?
house-POSS.3-N-LOC	be	MOD	Q

「家」は бажың であり、3人称の所有接辞が付加し бажыы となる。ирги は中嶋 (2008: 35) では「(疑問の語気を和らげる) ~かな?」を表す終助詞と説明される。

(19) どうもあなたは熱があるようだ。

Эьд-инер	изиг	хевир-лиг	чүве-дир.
body-POSS.2PL	hot	shape-PROP	thing-ASSRTV

Эьд-инер	изи-п	тур-ар	хевир-лиг	чүве-дир.
body-POSS.2PL	be.hot-CV	AUX-AOR	shape-PROP	thing-ASSRTV

(20) (天気予報によれば) 明日は雨が降るそうだ。

Эрген	чаьс	ча-ар	де-п	тур.
tomorrow	rain	rain-AOR	say-CV	AUX

(21) もしお金があつたら、あの車を買うんだけどなあ。

Акша-лыг	тур-ган	бол-зу-м-за,	бо	машина-ны	сад-ып
money-PROP	AUX-PAST	become-COND-1SG-COND	this	car-ACC	sell-CV

ал-ыр	ийик	мен.
take-AOR	CLT	1SG

ийик は中嶋 (2008: 34) では「～なのになあ」を表す終助詞と説明される。

(22) もしあなたが教えてくれていなかったら、私はそこにたどり着けなかったでしょう。

Менээ айг-ып бер-бэ-эн бол-зу-нар-за, ынаар чед-ип
 1SG:DAT show-CV give-NEG-PAST become-COND-2PL-COND there reach-CV

шыда-вас тур-ган мен.
 can-NEG:AOR AUX-PAST 1SG

(23) あの人は街へ行きたがっている。

Ол хоорай бар-ыкса-п тур.
 3SG city go-VOL-CV AUX

Ол хоорай чору-кса-п тур.
 3SG city go-VOL-CV AUX

接辞-(ы)кса は、名詞派生接辞-(ы)к と動詞派生接辞-ca に分割可能である。

(24) 僕にもそれを少し飲ませろ。

Суг-дан бер-ем.
 water-ABL give:IMP.2SG-POL

Суксун-дан бер-ем.
 beverage-ABL give:IMP.2SG-POL

Сукса-п тур мен, суг-дан бер-ем.
 be.thirsty-CV AUX 1SG water-ABL give:IMP.2SG-POL

Сукса-п тур мен, шай-дан бер-ем.
 be.thirsty-CV AUX 1SG tea-ABL give:IMP.2SG-POL

(25) これはあの人に持っていかせろ／持っていかせよう。

Ол чедир-ип-син.
 3SG deliver-PRF-IMP.3SG

Ол чедир-е бер-зин.
 3SG deliver-CV give-IMP.3SG

(26) そのテーブルの上のお菓子は後で食べなさい。

Стол-да чыд-ар камбет-ти оон чи-ип сен.
 table-LOC lie-AOR candy-ACC after.that eat-AOR 2SG

оон は遠称指示詞 ол の奪格形である。

(27) もっと早く来ればよかった。

Мен эрте кел-ген бол-зу-м-за, эки тур-ган ийик.
1SG early come-PAST become-COND-1SG-COND good AUX-PAST CLT

(28) あなたも一緒に行ったらどうですか？

Силер кады чору-пт-ар силер бе?
2PL together go-PRF-AOR 2PL Q

(29) オレがそんなこと知るか。

Мен кайыын билир мен.
1SG from.where know-AOR 1SG

(30) これを作ったのは、お母さんだよ。いいえ、私が作ったのよ。

Мо-ну ава-ң кыл-ып каг-ды бе?
this-ACC mother-POSS.2SG make-CV put-PAST Q

Чок, мен кыл-ып каг-ды-м.
по 1SG make-CV put-PAST-1SG

2.3. ヴォイスの例文

(1a) ドアが開いた。

Эжик ажыт-тын-а бер-ди.
door open-REFL-CV give-PAST

(1b) サーシャがドアを開けた。

Саша эжик-ти ажыд-ып-ты.
PSN door-ACC open-PRF-PAST

(1c) 入口のドアが開けられた。

Кир-ер эжик-ти ажыд-ып-ты.
enter-AOR door-ACC open-PRF-PAST

受動文ではなく能動文（不定人称文）である。トゥバ語では受身接辞が滅多に用いられない。

(2) 私は弟を立たせた。

Мен дунма-м-ны тур-гуз-уп-ту-м.
1SG brother-POSS.1SG-ACC stand-CAUS-PRF-PAST-1SG

(3) 私は弟に歌を歌わせた。

Мен дуңма-м-ны ыр-ла-д-ып-ты-м.
 1SG brother-POSS.1SG-ACC song-VBLZ-CAUS-PRF-PAST-1SG

(4a) 母は子供にパンを買わせた。

Ава-зы огл-у-н-га хлеб сат-тыр-ып-кан.
 mother-POSS.3 son-POSS.3-N-DAT bread sell-CAUS-PRF-PAST

(4b) 母は子供を遊びに行かせた。

Ава-зы огл-у-н ойна-д-ып ка-ан.
 mother-POSS.3 son-POSS.3-ACC play-CAUS-CV put-PAST

Ава-зы огл-у-н-га ойна-ар-ы-н чөпшээр-ээн.
 mother-POSS.3 son-POSS.3-N-DAT play-AOR-3-ACC let-PAST

第1文の каан は каг-ган の縮約である。

(5a) 私は弟に服を着せた。

Мен дуңма-м-ны кед-ир-ип-ти-м.
 1SG brother-POSS.1SG-ACC put.on-CAUS-PRF-PAST-1SG

Мен дуңма-м-ны кед-ир-ип каг-ды-м.
 1SG brother-POSS.1SG-ACC put.on-CAUS-CV put-PAST-1SG

(5b) 私は弟にこの服を着させた。

Мен дуңма-м-га бо хеп-ти кед-ир-ип каг-ды-м.
 1SG brother-POSS.1SG-DAT this clothes-ACC put.on-CAUS-CV put-PAST-1SG

Мен дуңма-м-ны бо хеп =биле кед-ир-ип каг-ды-м.
 1SG brother-POSS.1SG-ACC this clothes =INST put.on-CAUS-CV put-PAST-1SG

(7a) 私は弟にこの本を読んであげた。

Мен дуңма-м-га бо ном-ну номчу-п бер-ди-м.
 1SG brother-POSS.1SG-DAT this book-ACC read-CV give-PAST-1SG

(7b) 兄は私にこの本を読んでくれた。

Дуңма-м меңээ бо ном-ну номчу-п бер-ди.
 brother-POSS.1SG 1SG-DAT this book-ACC read-CV give-PAST

(7c) 母は私の髪を切ってくれた。

Ава-м чаж-ым-ны кез-ип бер-ди.
mother-POSS.1SG hair-POSS.1SG-ACC cut-CV give-PAST

Ава-м баж-ым-ны кез-ип бер-ди.
mother-POSS.1SG head-POSS.1SG-ACC cut-CV give-PAST

Ава-м баж-ым дүг-ү-н кез-ип бер-ди.
mother-POSS.1SG head-POSS.1SG hair-POSS.3-ACC cut-CV give-PAST

コンサルタントによれば, 第1文の чак「髪」は女の長い髪について言うという。

(8a) 私は自分の体を洗った。

Мен чу-нн-уп ал-ды-м.
1SG wash-REFL-CV take-PAST-1SG

(8b) 私は自分の手を洗った。

Мен хол-ум чу-п ал-ды-м.
1SG hand-POSS.1SG wash-CV take-PAST-1SG

トゥバ語では, 1人称・2人称に限り, 所有接辞付きの名詞句が対格接辞なしで目的語として現れうる。

(8c) 彼は自分の手を洗った。

Ол хол-у-н чу-п ал-ды.
3SG hand-POSS.3-ACC wash-CV take-PAST

(9a) 私は (自分のために) この本を買った。

Мен бо ном-ну сад-ып ал-ды-м.
1SG this book-ACC sell-CV take-PAST-1SG

(9b) 私は (誰かのために) この本を買った。

Мен бо ном-ну сад-ып бер-ди-м.
1SG this book-ACC sell-CV give-PAST-1SG

(10) 彼らは殴り合った。

Олар чокш-уп ал-ды-лар.
3PL fight-CV take-PAST-3PL

(11) 彼らはみんなで町に行った。

Олар кады хоорай кир-е бер-ди-лер.
 3PL together city enter-CV give-PAST-3PL

(12) この映画を見た人は泣きたくなる。

Бо кино-ну көр-геш кижги ыгла-кса-й бэ-эр.
 this movie-ACC see-CV person cry-want-CV give-AOR

(13a) 私は卵を割った。

Мен чуурга-ны буз-уп-ту-м.
 1SG egg-ACC break-PRF-PAST-1SG

(13b) 私は (知らずに) コップを割ってしまった。

Мен (бил-бейн) аяк-ты буз-уп ал-ды-м.
 1SG know-NEG:CV cup-ACC break-CV take-PAST-1SG

(14a) 私は昨日コーヒーを飲みすぎて眠れなかった。

Мен дүүн хөй кофе иж-ип ал-гаш, уду-п чада-ды-м.
 1SG yesterday much coffee drink-CV take-CV sleep-CV cannot-PAST-1SG

Мен дүүн хөй кофе иж-ип ал-гаш, уду-п чада-п
 1SG yesterday much coffee drink-CV take-CV sleep-CV cannot-CV

ка-ан мен.
 AUX-PAST 1SG

Мен дүүн хөй кофе иж-ип ал-гаш, уду-п чада-п
 1SG yesterday much coffee drink-CV take-CV sleep-CV cannot-CV

чыт-ты-м.
 AUX-PAST-1SG

(14b) 昨日仕事がたくさんあったので私は眠れなかった。

Дүүн ажыл хөй тур-ган ынчангаш уду-п шыда-вас
 yesterday work much AUX-PAST thus sleep-CV can-NEG:AOR

тур-ду-м.
 AUX-PAST-1SG

Дүүн	ажьл	хөй	тур-ган	ынчангаш	уду-п	чада-п
yesterday	work	much	AUX-PAST	thus	sleep-CV	cannot-CV

чыт-ты-м.

AUX-PAST-1SG

(15) 私は頭が痛い.

Баж-ым	аары-п	тур.
head-POSS.1SG	be.sick-CV	AUX

(16) 彼女は髪が長い.

Ооң	чаж-ы	узун.
3SG:GEN	hair-POSS.3	long

Ол	узун	чаш-тыг.
3SG	long	hair-PROP

(17a) サーシャはペーチャの背中を叩いた.

Саша	Петя-ны	оорга-зы-н-че	шанч-ып-кан.
PSN	PSN-ACC	back-POSS.3-N-DIR	hit-PRF-PAST

Саша	Петя-ның	оорга-зы-н	часка-п-кан.
PSN	PSN-GEN	back-POSS.3-ACC	clap-PRF-PAST

Саша	Петя-ны	оорга-зы-н-дан	часка-п-кан.
PSN	PSN-ACC	back-POSS.3-N-ABL	clap-PRF-PAST

Саша	Петя-ның	оорга-зы-н-че	часка-п-кан.
PSN	PSN-GEN	back-POSS.3-N-DIR	clap-PRF-PAST

(17b) サーシャはペーチャの手をつかんだ.

Саша	Петя-ның	хол-у-н-дан	туд-уп	ал-ган.
PSN	PSN-GEN	hand-POSS.3-N-ABL	hold-CV	take-PAST

Саша	Петя-ны	хол-у-н-дан	туд-уп	ал-ган.
PSN	PSN-ACC	hand-POSS.3-N-ABL	hold-CV	take-PAST

コンサルタントによれば、「手」の場合に向格は使えないという.

(18a) 私は彼がやって来るのを見た。

Мен	оон	кел-ген-и-н	көр-дү-м.
1SG	3SG:GEN	come-PAST-3-ACC	see-PAST-1SG

(18b) 私は彼が今日来ると知っている。

Мен	он-у	бөгүн	кэ-эр	де-п	бил-ир	мен.
1SG	3SG-ACC	today	come-AOR	say-CV	know-AOR	1SG

Мен	оон	бөгүн	кэ-эр-и-н	бил-ир	мен.
1SG	3SG:GEN	today	come-AOR-3-ACC	know-AOR	1SG

(19) 彼は自分が勝つと思った。

Ол	уд-уп	ал-ыр	де-п	бода-ан.
3SG	win-CV	take-AOR	say-CV	think-PAST

(20a) 私は水を飲んだ。

Мен	суг	иж-ип	ал-ды-м.
1SG	water	drink-CV	take-PAST-1SG

(20b) 私は水を全部飲んだ。

Мен	шуппу	суг-ну	иж-ип-ти-м.
1SG	all	water-ACC	drink-PRF-PAST-1SG

(20c) 私はコップ一杯の水を（全部）飲んだ。

Мен	бир	аяк	суг-ну	иж-ип-ти-м.
1SG	one	cup	water-ACC	drink-PRF-PAST-1SG

(20d) 水を飲め！

Суг-дан	иж-ип	ал!
water-AVL	drink-CV	take:IMP.2SG

(21) 彼は肉を食べない。

Ол	эьт	чи-вес.
3SG	meat	eat-NEG:AOR

(22a) 今日は寒い。

Бөгүн	соок	(тур).
today	cold	AUX

(22b) 私にはなんだか寒い.

(Meнээ) арай соок тур.
1SG:DAT rather cold AUX

(23) 私は人がとても多いのに驚いた.

Улус хой бо-ор-га кайга-й бер-ген мен.
people much be-AOR-DAT be.surprised-CV give-PAST 1SG

боор は бол-ур の縮約である.

(24) 雨が降ってきた.

Чаьс ча-ай бер-ди.
rain rain-CV give-PAST

(25) この本は良く売れる.

Бо ном эки сат-тын-ып тур.
this book good sell-REFL-CV AUX

эки 「良い」 はここでは副詞句として用いられている.

略号

ABL	奪格	DIR	向格	PAST	過去
ACC	対格	DU	双数	PL	複数
AOR	アオリスト	EMPH	強調	POL	丁寧
ASSRTV	宣言的	GEN	属格	POSS	所有接辞
AUX	補助動詞	IMP	命令法	PRF	完了
CAUS	使役	INST	具格	PROP	propriative
CLT	接語	LOC	処格	PSN	人名
COOP	相互共同	MOD	モーダル	REFL	再帰
COND	条件法	N	pronominal 'n'	SG	単数
CV	副動詞	NEG	否定	VBLZ	動詞化
DAT	与格	PASS	受身	VOL	願望

参考文献

- Anderson, Gregory David. and Harrison, K. David. (1999) *Tyvan*. München: Lincom Europa.
- Isxakov, F. G. and Pal'mbax, A. A. (1961) *Grammatika tuvinskogo jazyka. Fonetika i morfologija*. Moskva: Vostočnoj Literaturny.
- Krueger, John R. (1977) *Tuvan manual*. Bloomington: Indiana University Press.
- 中嶋善輝 (2008) 『トゥヴァ語・日本語小辞典』 東京外国語大学 アジア・アフリカ言語文化研究所.
- 高島尚生 (2008) 『基礎トゥヴァ語文法』 東京外国語大学 アジア・アフリカ言語文化研究所.

《執筆者一覧》

佐藤大和	東京外国語大学アジア・アフリカ言語文化研究所フェロー
益子幸江	東京外国語大学大学院総合国際学研究院教授
川上茂信	東京外国語大学大学院総合国際学研究院准教授
箕浦信勝	東京外国語大学大学院総合国際学研究院准教授
伊藤英人	東京外国語大学大学院総合国際学研究院准教授
風間伸次郎	東京外国語大学大学院総合国際学研究院教授
萬宮健策	東京外国語大学大学院総合国際学研究院准教授
藤縄康弘	東京外国語大学大学院総合国際学研究院准教授
高垣敏博	東京外国語大学大学院総合国際学研究院教授
坂田晴奈	東京医薬専門学校非常勤講師
高橋健太郎	東京外国語大学大学院博士前期課程
阿出川修嘉	東京外国語大学非常勤講師
アレクサンドル・コスティルキン	ロシア科学アカデミー東洋学研究所研究員
三宅登之	東京外国語大学大学院総合国際学研究院教授
降幡正志	東京外国語大学大学院総合国際学研究院准教授
野元裕樹	東京外国語大学大学院総合国際学研究院講師
ウン・シンティ	東京外国語大学外国語学部研究生
ファリダ・モハメッド	東京外国語大学世界言語社会教育センター特任准教授
松尾 愛	東京外国語大学大学院博士前期課程
吉枝聡子	東京外国語大学大学院総合国際学研究院准教授
日高晋介	東京外国語大学大学院博士前期課程
江畑冬生	東京外国語大学アジア・アフリカ言語文化研究所, 日本学術振興会特別研究員 (PD)

(掲載順)

本論集は、刊行費用の一部に「ディア国際語学アカデミー株式会社(DILA)」の研究助成金を受け刊行しました。

《編集委員》

伊藤英人, 浦田和幸, 岡野賢二, 黒澤直俊, 箕浦信勝

特集担当

風間伸次郎

語学研究所論集 第 18 号
Journal of the Institute of Language Research

2013 年 3 月 29 日発行

発行者 高垣 敏博

発行所 東京外国語大学語学研究所

〒183-8534 東京都府中市朝日町 3-11-1

TEL 042 (330) 5407 FAX 042 (330) 5408

印刷所

Journal of the Institute of Language Research, No. 18 (March 29, 2013)

The Institute of Language Research

Tokyo University of Foreign Studies

3-11-1 Asahicho, Fuchu-shi, Tokyo 183-8534, Japan

Copyright by The Institute of Language Research,

Tokyo University of Foreign Studies

Printed in Japan

Journal of the Institute of Language Research

No. 18

2013

Articles

- An experimentation tool for perceptual researches of spoken languages
..... Hirokazu SATO, Yukie MASUKO 1
- Sobre la adscripción lingüística del gallego-asturiano
..... Shigenobu KAWAKAMI 19
- Inversion in Sayula Popoluca and Japanese Sign Language
..... Nobukatsu MINOURA 41

Research Notes

- Language Contact in the Korean Peninsula-from the viewpoint of counter sinicisation
..... Hideto ITO 55

Special Issue 1 : “Possessive and Existential Expressions”

- Foreword Shinjiro KAZAMA 95

Research Notes

- Possession and existence in Urdu
..... Kensaku MAMIYA 121
- Possessive and Existential Constructions in Malagasy
..... Nobukatsu MINOURA 141

Data

- German Yasuhiro FUJINAWA 163
- Spanish Toshihiro TAKAGAKI 181
- Finnish Haruna SAKATA, Kentaro TAKAHASHI 201
- Russian Nobuyoshi ADEGAWA, Alexander KOSTYRKIN 213
- Mongolian Shinjiro KAZAMA 237
- Nanay Shinjiro KAZAMA 259
- Chinese Takayuki MIYAKE 277
- Korean Hideto ITO 290
- Indonesian Masashi FURIHATA 308
- Malay Hiroki NOMOTO, Sin Ti WONG, Faridah MOHAMED 332
- Arabic Ai MATSUO 344
- Persian Satoko YOSHIE 362

Special Issue 2 : Supplement

Foreword Shinjiro KAZAMA	379
Data		
Finnish Haruna SAKATA, Kentaro TAKAHASHI	381
Solon Shinjiro KAZAMA	409
Nanay Shinjiro KAZAMA	426
Arabic Ai MATSUO	436
Uzbek Shinsuke HIDAHA	467
Sakha Fuyuki EBATA	486
Tuvan Shinjiro KAZAMA, Fuyuki EBATA	513
Research Activities	533

Journal
of
the Institute of Language Research

18

2013

The Institute of Language Research
Tokyo University of Foreign Studies